新潟県埋蔵文化財調査報告書　第278集

一般国道49号

阿賀野バイパス関係発掘調査報告書XIV

境 塚 遺 跡 Ⅲ

２０１８

新　潟　県　教　育　委　員　会

公益財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

一般国道49号

阿賀野バイパス関係発掘調査報告書XIV

境塚（さかいづか）遺跡 Ⅲ

２０１８

新　潟　県　教　育　委　員　会

公益財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

方形周溝状遺構（SD5260）（南東から）

一括出土銭（P5673）出土状況（南西から）

序

一般国道 49 号は、新潟市と福島県いわき市の間の 249km、日本海側と太平洋側を結ぶ主要幹線道路としての役割を担っています。また、日常生活や地域経済を支える重要な基盤施設であるため、近年、著しく交通量が増えてきました。それに伴い、交通渋滞や交通事故の増加など生活環境に悪影響を与える様々な問題が生じています。

そこで、阿賀野市下黒瀬から六野瀬を結ぶ延長 13.7km の阿賀野バイパスの建設は、これらの問題を解消し、安全で円滑な交通の確保と都市機能活性化のために重要な役割を果たすものと期待されています。

本書は、阿賀野バイパスの建設に先立ち、2015 年度（平成 27 年）に実施した境塚遺跡の発掘調査報告書です。同遺跡の調査は 2009 年度（平成 21 年）、2014 年度（平成 26 年）にも実施され、調査の結果、大規模な道に沿って有力者の居館をはじめ、多数の掘立柱建物や井戸が見つかり、東西 400m に及ぶ鎌倉時代の大きな集落であることがわかりました。今回の調査でも宗教施設と考えられる遺構や約 2,900 枚の渡来銭が曲物に納められて見つかるなど新たな発見がありました。また、下層では縄文時代晩期後葉の集落縁辺部が見つかり川の岸辺で行われた小規模な生活活動が明らかになりました。

今回の調査成果が、地域の歴史を解明するための資料として広く活用され、埋蔵文化財の理解や認識を深める契機となれば幸いです。

最後に、この発掘調査に関して多大な御支援と御協力をいただいた阿賀野市教育委員会並びに地元住民の方々、そして発掘調査から報告書刊行に至るまで格別の御高配をいただいた国土交通省北陸地方整備局新潟国道事務所に対して厚くお礼申し上げます。

2018 年 3 月

新潟県教育委員会

教育長　池　田　幸　博

例　　言

1　本報告書は新潟県阿賀野市月崎字六日野境 70 番地 1 ほかに所在する境塚遺跡の 2015 年度の発掘調査記録である。発掘調査は 2009 年度、2014 年度にも実施しており、それぞれ『境塚遺跡』、『境塚遺跡Ⅱ』として報告済みである。

2　調査は一般国道 49 号阿賀野バイパスの建設事業に伴い国土交通省北陸地方整備局新潟国道事務所から新潟県教育委員会（以下、県教委）が受託したもので、発掘調査は調査主体である県教委が公益財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団（以下、埋文事業団）に委託し、実施したものである。

3　埋文事業団は、発掘調査作業、整理作業、及び関連諸工事について株式会社ノガミの支援を受けて行った。調査面積は、13,363m^2 である。

4　出土遺物及び調査・整理作業に係る各種資料は、一括して県教委が新潟県埋蔵文化財センターで保管している。遺物の註記は調査年度の下二桁を頭に付し「15 サカイ」とし、出土地点・遺構名・層位名を続けて記入した。

5　本書の図中で示す方位は、すべて真北である。遺構番号は種別に関わりなく通し番号とし、本文及び観察表・図面図版・写真図版の番号はすべて一致している。

6　本文中の註は脚註とし、頁ごとに番号を付した。

7　引用文献は、著者及び発行年（西暦）を文中に［　］で示し、第Ⅵ章以外は巻末に一括して掲載した。

8　調査成果の一部は、現地説明会、広報誌『埋文にいがた』、『新潟県埋蔵文化財調査事業団年報』等で公表しているが本報告書をもって正式な報告とする。

9　多字一石経は前嶋　敏氏・浅井勝利氏（以上、新潟県立歴史博物館）に解読を依頼した。その結果を第Ⅳ章 2D に掲載した。

10　次に示す項目は、機関・個人に分析を委託した。

第Ⅵ章 1 木製品の樹種同定　2 放射性年代測定　3 漆塗膜片観察　4 骨同定　5 炭素・窒素安定同位体分析：パリノ・サーヴェイ株式会社（高橋　敦・田中義文・金井慎司）

第Ⅵ章 6 花粉分析：古代の森研究舎（吉川昌伸）

第Ⅵ章 7 年輪酸素同位体比分析による境塚遺跡出土井戸材及び自然木の暦年代決定：木村勝彦氏（福島大学共生システム理工学類）

11　遺構・遺物図のトレース及び各種図版作成・編集に関しては、有限会社不二出版に委託してデジタルトレースと DTP ソフトによる編集を実施し、完成データを印刷業者へ入稿して印刷した。

12　本書の執筆は、飯坂盛泰・荒川隆史（以上、埋文事業団）、金内　元・村端和樹（以上、株式会社ノガミ）があたり、編集は飯坂・金内が担当した。執筆分担は以下のとおりである。

飯坂：第Ⅰ章、第Ⅱ章、第Ⅲ章 1・3、第Ⅳ章 2B ～ F、第Ⅴ章 2B、第Ⅶ章 2

荒川：第Ⅳ章 1C、第Ⅴ章 1B1）a

金内：第Ⅲ章 2、第Ⅳ章 1A・1E・1F・1H ～ J・2A、第Ⅴ章 1A・1B1）b ～ d・1B2）～ 4）・2A・第Ⅶ章 1

村端：第Ⅳ章 1B・1D・1G

13　発掘調査から本書の作成に至るまで、下記の方々及び機関から多くの御教示・御協力を賜った。ここに記して厚くお礼申し上げる。（敬称略　五十音順）

阿賀野川土地改良区　　阿賀野市教育委員会　　阿賀野市建設課　　飯村　均　　国土交通省北陸地方整備局新潟国道事務所　　新潟県立歴史博物館　　水澤幸一

14　図書館等（著作権法第 31 条第 1 項に規定する図書館等をいう）の利用者は、その調査研究の用に供するために、本報告書の全体について、複製することができる。

目　　次

第Ⅰ章　序　　説 …… 1

1　調査に至る経緯 …… 1

2　調 査 経 過 …… 1

A　試 掘 調 査 …… 1

B　下層の確認調査 …… 3

C　本発掘調査 …… 5

D　整理作業の経過 …… 6

3　調査・整理体制 …… 6

第Ⅱ章　遺跡の位置と環境 …… 8

1　地理的環境 …… 8

2　歴史的環境 …… 12

A　略　　史 …… 12

B　白河荘の中世遺跡 …… 13

C　周辺の縄文時代遺跡 …… 17

第Ⅲ章　調査の概要 …… 19

1　グリッドの設定 …… 19

2　層　　序 …… 20

3　本書の記述方針 …… 22

第Ⅳ章　古墳時代～中世の調査 …… 23

1　遺　　構 …… 23

A　分　　類 …… 23

B　掘立柱建物・柵 …… 25

C　方形竪穴遺構 …… 27

D　井　　戸 …… 29

E　土　　坑 …… 33

F　方形周溝状遺構 …… 38

G　溝 …… 41

H　道 …… 46

I　ピ　ッ　ト …… 49

J　性格不明遺構 …… 50

2　遺　　物 …… 50

A　土器・陶磁器 …… 50

B　石　製　品 …… 55

C　金属製品・鍛治関連遺物 …… 55

D　多字一石経 …… 57

E　木　製　品 …… 57

F　一括出土銭 …… 61

第Ⅴ章　縄文時代の調査 …… 63
1　遺　　構 …… 63
A　検出状況 …… 63
B　各　　説 …… 63
2　遺　　物 …… 69
A　土　　器 …… 69
B　石　　器 …… 71
第Ⅵ章　自然科学分析 …… 72
1　木製品の樹種同定 …… 72
A　はじめに …… 72
B　試　　料 …… 72
C　分析方法 …… 72
D　結　　果 …… 72
E　考　　察 …… 74
2　放射性年代測定 …… 79
A　はじめに …… 79
B　試　　料 …… 79
C　分析方法 …… 80
D　結　　果 …… 81
E　考　　察 …… 81
3　漆塗膜片観察 …… 84
A　はじめに …… 84
B　試　　料 …… 84
C　分析方法 …… 84
D　結果及び考察 …… 84
4　骨　同　定 …… 86
A　はじめに …… 86
B　試　　料 …… 86
C　分析方法 …… 86
D　結　　果 …… 86
E　考　　察 …… 87
5　炭素・窒素安定同位体分析 …… 87
A　はじめに …… 87
B　試　　料 …… 87
C　分析方法 …… 87
D　結　　果 …… 88
E　考　　察 …… 88
6　花　粉　分　析 …… 90
A　はじめに …… 90
B　試料と分析方法 …… 90
C　結　　果 …… 92
D　考　　察 …… 97

7　年輪酸素同位体比分析による境塚遺跡出土井戸材及び自然木の暦年代決定 …… 99
A　はじめに …… 99
B　試料と方法 …… 99
C　結　　果 …… 100

第Ⅶ章　ま　と　め …… 103
1　遺構の変遷 …… 103
2　総　　括 …… 106
A　中　　世 …… 106
B　縄文時代 …… 107

《引用・参考文献》 …… 108
《観　察　表》 …… 111

挿図目次

第 1 図　境塚遺跡の位置 …… 2
第 2 図　阿賀野バイパスと遺跡の位置 …… 2
第 3 図　試掘トレンチ位置 …… 3
第 4 図　D・E 区下層トレンチ位置 …… 4
第 5 図　A・G 区下層トレンチ位置 …… 4
第 6 図　遺跡周辺における阿賀野川の旧河道と河川及び新発田領絵図における三国街道・幹線道の推定位置 …… 8
第 7 図　正保 4 年　新発田領絵図 …… 10
第 8 図　境塚遺跡周辺の土地更正図と遺跡調査範囲 …… 11
第 9 図　周辺の中世遺跡分布 …… 14
第 10 図　白河荘の区分 …… 15
第 11 図　周辺の縄文・弥生時代遺跡一覧 …… 18
第 12 図　グリッド設定と調査区 …… 19
第 13 図　土層柱状図 …… 21
第 14 図　遺構の平面・断面形態の分類 …… 23
第 15 図　遺構埋土の堆積形状の分類 …… 23
第 16 図　梁間一間型建物の類型 …… 24
第 17 図　掘立柱建物の計測位置 …… 24
第 18 図　SD5260A 土師質土器分布 …… 40
第 19 図　SD5260A 礫分布 …… 40
第 20 図　H ～ K 区土器分布 …… 51
第 21 図　多字一石経の釈文 …… 56
第 22 図　木取り及び木材一般の部分名称 …… 58
第 23 図　木取りの分類 …… 58
第 24 図　加工痕の分類と図の表現 …… 58
第 25 図　曲物の綴じ方 …… 58
第 26 図　器種別部位名称 …… 58
第 27 図　境塚遺跡出土木製品の光学顕微鏡写真（1） …… 75
第 28 図　境塚遺跡出土木製品の光学顕微鏡写真（2） …… 76
第 29 図　境塚遺跡出土炭化材の光学顕微鏡写真（1） …… 77
第 30 図　境塚遺跡出土炭化材の光学顕微鏡写真（2） …… 78
第 31 図　暦年較正結果 …… 82
第 32 図　暦年較正結果確率分布 …… 83
第 33 図　漆塗膜断面 …… 85
第 34 図　出土骨 …… 86
第 35 図　土器付着炭化物の炭素窒素同位体比 …… 88
第 36 図　土器付着炭化物の炭素 / 窒素比 …… 88
第 37 図　分析試料（試料採取前状況） …… 89
第 38 図　花粉分析試料の採取層準 …… 91
第 39 図　SD2000 溝 1 層の主要花粉分布 …… 92
第 40 図　出現した花粉化石 …… 96
第 41 図　花粉分析試料の堆積物の特徴と細粒微粒炭量 …… 98
第 42 図　境塚遺跡出土井戸材の年代 …… 100
第 43 図　No50 コナラ属の傷・巻き込み …… 101
第 44 図　No58 コナラ属の傷・巻き込み …… 101
第 45 図　暦年代の決まった縄文晩期の自然木 4 個体の成長曲線 …… 101
第 46 図　D・E・H・I 区遺構変遷（1） …… 103
第 47 図　D・E・H・I 区遺構変遷（2） …… 105
第 48 図　中世遺構全体図 …… 107

表 目 次

第 1 表　調査・整理体制 …… 7
第 2 表　周辺の中世遺跡一覧 …… 15
第 3 表　周辺の縄文・弥生時代遺跡 …… 17
第 4 表　SD5260A 土師質土器重量 …… 40
第 5 表　SD5260A 礫出土数 …… 40
第 6 表　SD5260B・C 土師質土器重量 …… 40
第 7 表　遺構別木製品出土点数 …… 57
第 8 表　一括出土銭一覧 …… 62
第 9 表　樹種同定結果一覧（木製品）…… 73
第 10 表　樹種同定結果一覧（炭化材）…… 74
第 11 表　放射性炭素年代測定及び暦年較正結果 …… 81
第 12 表　骨同定結果 …… 86
第 13 表　炭素・窒素安定同位体分析結果 …… 88
第 14 表　花粉分析試料の堆積物の特徴 …… 91
第 15 表　花粉化石の一覧（1）…… 93
第 16 表　花粉化石の一覧（2）…… 94
第 17 表　境塚遺跡出土井戸側材の年輪年代 …… 100
第 18 表　境塚遺跡出土自然木の年輪計測値と
年代 …… 101

図 版 目 次

【図面図版】

図版 1　調査範囲図
図版 2　古代・中世遺構全体図
図版 3　古代・中世遺構分割図（1）
図版 4　古代・中世遺構分割図（2）
図版 5　古代・中世遺構分割図（3）
図版 6　古代・中世遺構分割図（4）
図版 7　古代・中世遺構分割図（5）
図版 8　古代・中世遺構個別図（1）掘立柱建物
図版 9　古代・中世遺構個別図（2）掘立柱建物
図版 10　古代・中世遺構個別図（3）掘立柱建物
図版 11　古代・中世遺構個別図（4）掘立柱建物
図版 12　古代・中世遺構個別図（5）柵・
方形竪穴遺構
図版 13　古代・中世遺構個別図（6）井戸
図版 14　古代・中世遺構個別図（7）井戸
図版 15　古代・中世遺構個別図（8）井戸
図版 16　古代・中世遺構個別図（9）井戸
図版 17　古代・中世遺構個別図（10）井戸
図版 18　古代・中世遺構個別図（11）井戸
図版 19　古代・中世遺構個別図（12）井戸
図版 20　古代・中世遺構個別図（13）井戸
図版 21　古代・中世遺構個別図（14）井戸
図版 22　古代・中世遺構個別図（15）井戸
図版 23　古代・中世遺構個別図（16）土坑
図版 24　古代・中世遺構個別図（17）土坑
図版 25　古代・中世遺構個別図（18）土坑
図版 26　古代・中世遺構個別図（19）
方形周溝状遺構
図版 27　古代・中世遺構個別図（20）
方形周溝状遺構
図版 28　古代・中世遺構個別図（21）溝
図版 29　古代・中世遺構個別図（22）溝
図版 30　古代・中世遺構個別図（23）溝
図版 31　古代・中世遺構個別図（24）溝
図版 32　古代・中世遺構個別図（25）道 1
図版 33　古代・中世遺構個別図（26）道 2
図版 34　古代・中世遺構個別図（27）土坑・溝・
一括出土銭
図版 35　縄文遺構全体図
図版 36　縄文上層遺構全体図
図版 37　縄文上層遺構分割図（1）
図版 38　縄文上層遺構分割図（2）
図版 39　縄文上層遺構分割図（3）
図版 40　縄文上層遺構分割図（4）
図版 41　縄文上層遺構分割図（5）
図版 42　縄文上層遺構個別図（1）竪穴建物
図版 43　縄文上層遺構個別図（2）掘立柱建物・
ピット
図版 44　縄文上層遺構個別図（3）土坑
図版 45　縄文上層遺構個別図（4）炭化物集中範囲
図版 46　縄文上層遺構個別図（5）炭化物集中範囲
図版 47　縄文上層遺構個別図（6）炭化物集中範囲
遺物出土状況図
図版 48　縄文下層遺構全体図
図版 49　縄文下層遺構分割図
図版 50　縄文下層遺構個別図（1）炭化物集中範囲
遺物出土状況図
図版 51　縄文下層遺構個別図（2）旧河道
図版 52　縄文下層遺構個別図（3）旧河道
図版 53　古代、中世の土器・陶磁器（1）
図版 54　古代、中世の土器・陶磁器（2）

図版 55　古代、中世の土器・陶磁器（3）
図版 56　古代、中世の土器・陶磁器（4）
図版 57　古代、中世の土器・陶磁器（5）
図版 58　古代、中世の土器・陶磁器（6）
図版 59　古代、中世の土器・陶磁器（7）
図版 60　古墳時代、古代、中世の土器・陶磁器（8）
図版 61　古代、中世の土器・陶磁器（9）、石製品・
金属製品
図版 62　金属製品・鍛治関連遺物・多字一石経・
木製品（1）
図版 63　木製品（2）
図版 64　木製品（3）
図版 65　木製品（4）
図版 66　木製品（5）
図版 67　木製品（6）
図版 68　木製品（7）・一括出土銭（1）
図版 69　一括出土銭（2）
図版 70　一括出土銭（3）
図版 71　一括出土銭（4）
図版 72　縄文時代の土器（1）
図版 73　縄文時代の土器（2）・石器
【写真図版】
図版 74　遺跡全景
図版 75　H 区古代・中世面遠景
図版 76　H 区古代・中世面近景、SB57・SB58・
道 1
図版 77　古代・中世面 SK5400・SE5129
図版 78　古代・中世面 SB51 ～ 56・SK5400・
SE5401
SE5129・SE5138・SD5132・SD5260
図版 79　縄文面遠景・SR2444
図版 80　縄文面 I・J 区縄文面近景・SI5794・SB61
SK5743・SK5749・SK5771
図版 81　縄文面基本層序・炭化物集中範囲
土器出土状況（547）
図版 82　古代・中世面 SB48 ～ 50
図版 83　古代・中世面 SB51 ～ 56
図版 84　古代・中世面 SB55・SB57 ～ 59
図版 85　古代・中世面 SB57・SB58・SE5401
図版 86　古代・中世面 SK5400・SE5401
図版 87　古代・中世面 SE5401・SE5100 ～ 5102
図版 88　古代・中世面 SE5126・SE5129・SE5130
図版 89　古代・中世面 SE5131・SE5133・
SE5134・SE5138
図版 90　古代・中世面 SE5146・SE5203・
SE5204・SE5268・SE5290
図版 91　古代・中世面 SE5290・SE5353・
SE5359・SE5366・SE5422・SE5631
図版 92　古代・中世面 SE5632・SE5716・
方形周溝状遺構
図版 93　古代・中世面方形周溝状遺構（SD5260・
SD5261）
図版 94　古代・中世面 SD5261・SK5110・
SK5135・SK5253・SK5267
図版 95　古代・中世面 SK5137・SK5149・SK5161
SK5201・SK5208・SK5222・SK5225
図版 96　古代・中世面 SK5227・SK5266・SK5301
SK5325・SK5360・SK5365・SK5367
図版 97　古代・中世面 SK5368・SK5415・SK5621
SK5622・SK5627・SK5630
図版 98　古代・中世面道 1（SD2000・SD2001）
図版 99　古代・中世面道 2（SD2332・SD2334）・
SD5209
SD5214・SD5216・SD5219・SX2352
図版 100　古代・中世面 J 区 SD3071・SD3072・
SD5600・SD5602・SD5603・SD5607・
SD5618
図版 101　古代・中世面 SD5202・SD5209・SD5219
SD5618・SD5620・P5730
図版 102　古代・中世面 SD5107・SD5215・SD5216・
SD5231・SD5252・SD5259・SD2354
図版 103　古代・中世面 SD5132
図版 104　古代・中世面 SD5107・SD5286・SD5370
SD5411・K 区・SD5670・SD5671
図版 105　古代・中世面 SD5675・SD5677・SD5678
P5673（一括出土銭）
図版 106　縄文面 SI5794・SB60・SB61
図版 107　縄文面 SB61・SK5562・SK5743・
SK5751・P5526・P5570
図版 108　縄文面 SK5761・SK5762・SK5771・
SK5789
SC5504・SC5510・SC5514・SR2444
図版 109　縄文面 SC5522・SC5523・SC5531・
SC5533
SC5534・SC5541・SR2444
図版 110　縄文面 SC5535・SC5537・SC5543・
SC5555
SC5556・SC5770・SR2444
図版 111　縄文面 SC5544・SC5551・SR2444
図版 112　縄文面 SC5550・SC5552・SC5553・
SR2444
図版 113　縄文面 SR2444
図版 114　古代、中世の土器・陶磁器（1）
図版 115　古代、中世の土器・陶磁器（2）
図版 116　古代、中世の土器・陶磁器（3）
図版 117　古代、中世の土器・陶磁器（4）

図版 118　古代、中世の土器・陶磁器（5）
図版 119　古代、中世の土器・陶磁器（6）
図版 120　古墳時代、古代、中世の土器・陶磁器（7）
図版 121　石製品・金属製品・鍛冶関連遺物・
　　多字一石経
図版 122　木製品（1）
図版 123　木製品（2）
図版 124　木製品（3）
図版 125　木製品（4）
図版 126　木製品（5）
図版 127　木製品（6）・銭貨（1）
図版 128　銭貨（2）
図版 129　銭貨（3）
図版 130　銭貨（4）
図版 131　縄文時代の土器・石器

第Ⅰ章　序　　説

1　調査に至る経緯

一般国道 49 号（福島県いわき市～新潟市）は、太平洋側と日本海側を結ぶ重要な幹線道路である。新潟県内では、沿線市町村と新潟市を結ぶ地域幹線道路として重要な役割を果たしている。しかし、現道は阿賀野市街地では、幅員が狭小なため交通混雑と交通騒音、交通事故など生活環境に与える影響が問題となってきた。これらの問題を解消し安全で円滑な交通を実現するため、「安田バイパス」（阿賀野市六野瀬～同市寺社 5.6km）と「水原バイパス」（阿賀野市寺社～同市下黒瀬 8.1km）（第 2 図）が計画された。2004 年に市町村合併により阿賀野市が誕生してからは両者を合わせて「阿賀野バイパス」と呼称されている。

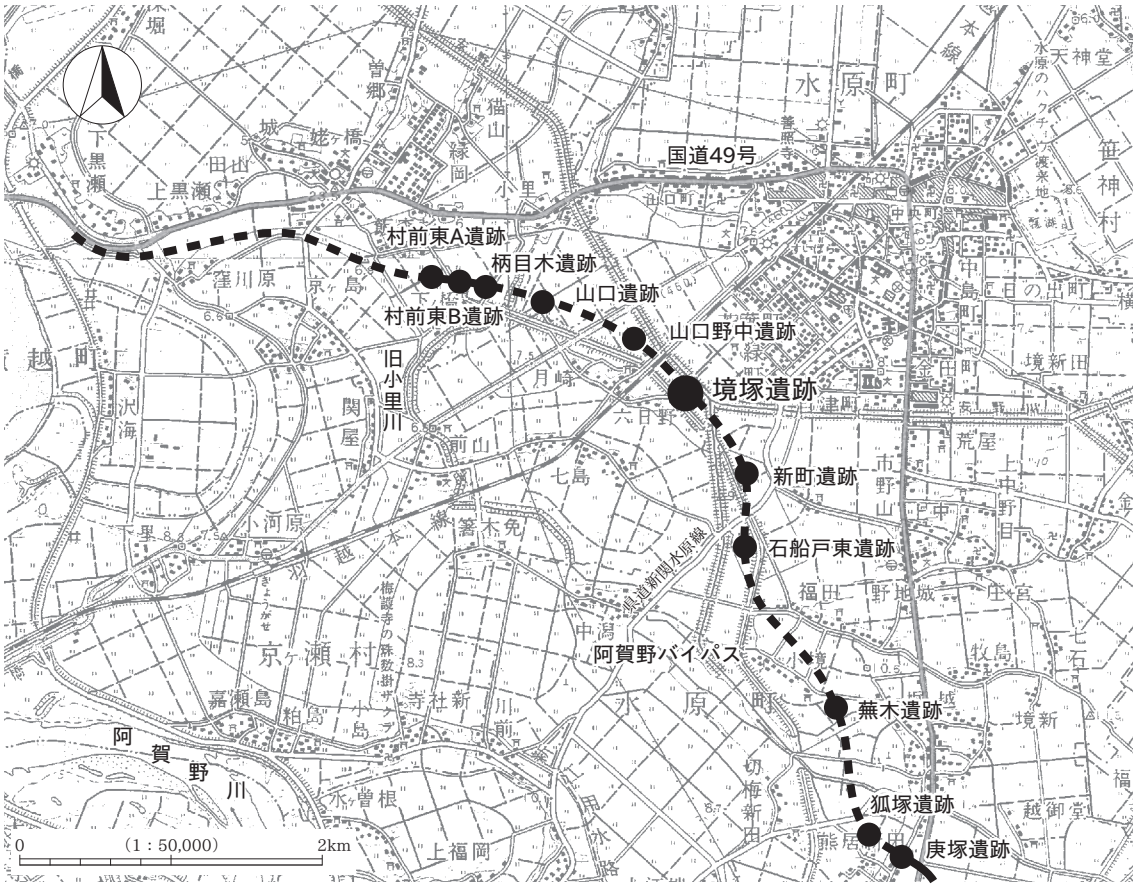
阿賀野バイパスのうち水原バイパス部分は、1999 年 3 月に都市計画が決定、翌年 4 月に事業化された。これを受けて、国土交通省北陸地方整備局新潟国道事務所（以下、国交省）と新潟県教育委員会（以下、県教委）との間で法線内の遺跡の分布調査・試掘調査に関する協議が本格化した。国交省から依頼を受けた県教委は、財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団（以下、埋文事業団）に水原バイパスの踏査を委託した。埋文事業団は 2003 年 12 月 3・11・12 日に水原バイパスの踏査を行い、阿賀野市飯森杉～寺社の区間約 470,000m² について試掘調査が必要な旨を報告した。阿賀野市百津字境塚に所在する「境塚遺跡」（第 1 図）は、2008 年に阿賀野市教育委員会の試掘調査により発見され、新遺跡登録された。2008 年に国交省から依頼を受けた県教委は、埋文事業団に境塚遺跡周辺の試掘調査を委託した。埋文事業団は 2008 年 5 月 23 日～ 7 月 2 日に境塚遺跡周辺のバイパス用地内の試掘調査を行い、長さ約 670m の範囲で遺構・遺物を検出し、本発掘調査は 38,461m² となる旨を県教委に報告した。そして、国交省から依頼を受けた県教委は、埋文事業団に境塚遺跡の本発掘調査を行うよう委託し、これまで埋文事業団が 2009 年 4 月 13 日～ 11 月 18 日に 18,176m² について、2014 年 4 月 8 日～ 7 月 17 日に 6,480m² について本発掘調査を行った。2015 年度は延べ 6,579m²（上層 3,429m²、下層 3,150m²）の本発掘調査の依頼があり、調査を実施した。

2　調　査　経　過

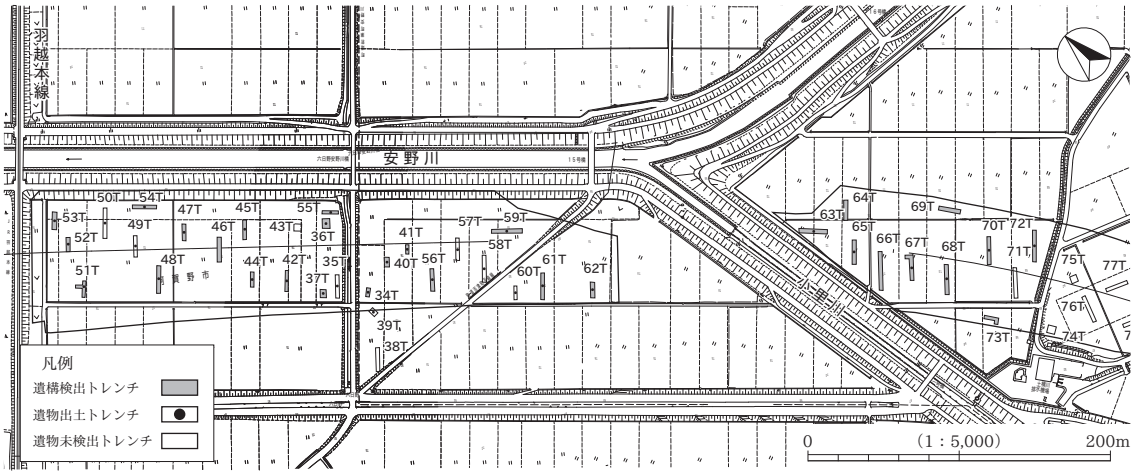
A　試　掘　調　査（第 3 図）

試掘調査は、埋文事業団が 2008 年 5 月 23 日～ 7 月 2 日に行った。調査地点は、一般国道 49 号阿賀野バイパス用地である JR 羽越本線 - 小里川間と小里川右岸堤下－県道新関水原停車場線間である（第 2 図）。調査対象面積は 79,261m²、実質調査面積は 1,325.7m²、試掘率は 1.7% である。試掘調査は、調査対象地に試掘坑（試掘トレンチ：略号 T）を任意に設定し、重機（バックホー）及び人力による掘削・精査を行い、遺構・遺物の有無を確認した。その後、土層堆積状況、トレンチ位置、遺構・遺物の検出状況等を図面・写真等に記録した。遺物はトレンチ西端及び北端から 4m ごとに区切り、層序別に取り上げた。試掘トレンチは、JR 羽越本線－小里川間（34T ～ 62T）29 か所、小里川右岸堤下－県道新関水原停車場線間（63T ～ 105T）43 か所の合計 72 か所を設定した。

第１図　境塚遺跡の位置（国土地理院発行　平成 17 年「新潟」1：200,000 原図）



第２図　阿賀野バイパスと遺跡の位置
（国土地理院発行 平成 17 年「新潟」平成 9 年「新津」1：50,000 原図）



第３図　試掘トレンチ位置（国交省新潟国道事務所阿賀野バイパス平面図に加筆）

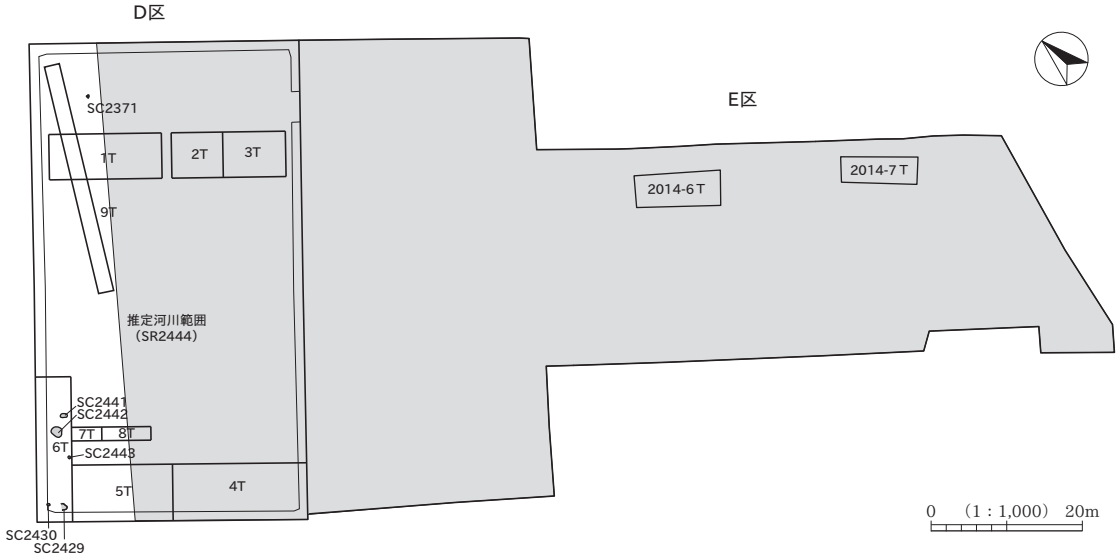
西側の 42T ～ 53T と東側の 40T ～ 60T の大きく 2 つの範囲で遺構・遺物を検出した。西側では土坑・溝が見つかり、古代・中世の遺物のほか、49T からは縄文時代晩期の土器が出土したが、これに伴う明確な遺構は検出できなかった。東側では、59T ～ 62T で土坑・溝などの遺構が濃く分布する傾向が認められ、検出状況から古代と中世の遺構が重複するものと推測した。一方、小里川右岸の 63T ～ 73T で溝を主体とする遺構を検出し、古代・中世に所属する遺物が出土した。このことから、小里川左岸から遺跡が続くものと想定した。なお、これらの区間は昭和初期の耕地整理により遺物包含層の大半が削平されており、水田耕作土直下で遺構が検出されることが分かった。以上から、境塚遺跡は 63T ～ 73T までの範囲と判断し、本発掘調査必要面積は 38,461m² と報告した。

B　下層の確認調査

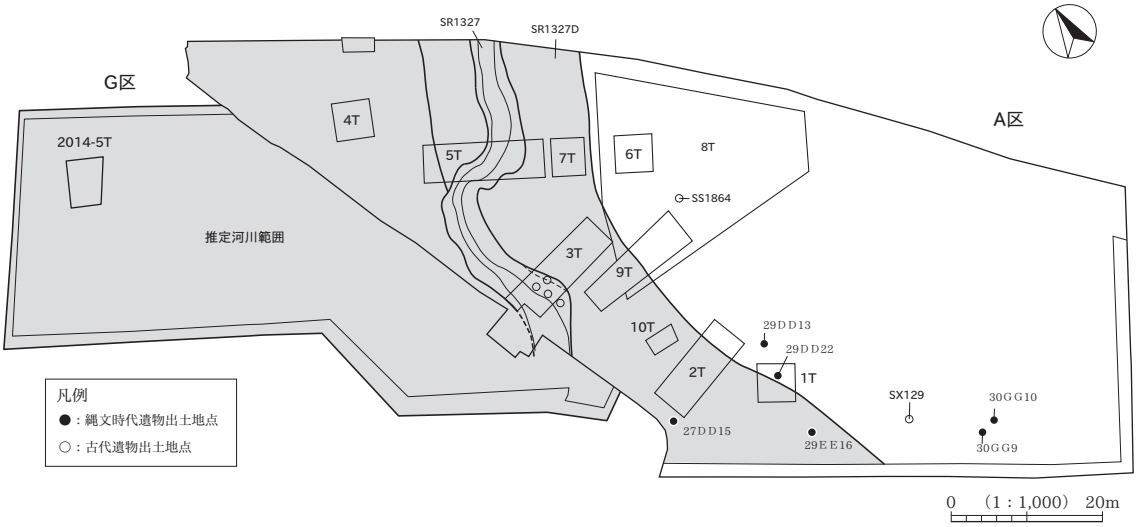
1）2009 年度 A・D 区

2009 年の本発掘調査終了後に下層の有無を確認する調査を行った［荒川・村上ほか 2012］。A 区では 2009 年 10 月 21 日～ 10 月 30 日に行った。調査対象面積は 5,000m²、実質調査面積は 817m² である。A 区北西側に位置する SR1327 の周辺にトレンチを設定した（第 5 図）。その結果、SR1327 より古い河川跡 SR1327B・1327C・1327D を確認した。最も古い河川である SR1327D は、掘削深度約 3m 下まで調査したものの底面は確認できず、西側の立ち上がりも確認できなかった。また、覆土及び川底付近では、流木を確認したが、遺構・遺物は検出しなかった。以上から、A 区下層の本発掘調査は不要であると判断した。

D 区では古代・中世の遺構検出面から縄文時代に所属する遺物が出土したため、調査終了後に下層の遺構・遺物を確認する調査を実施した。調査期間は 2009 年 9 月 28 日～ 10 月 20 日である。調査対象面積は 2,000m²、実質調査面積は 603m² である（第 4 図）。その結果、6T･9T で縄文時代晩期後葉の遺構・遺物が出土した。6T では、炭化物集中範囲 3 か所、焼土 1 か所を検出した。最も深い炭化物集中範囲は（SC2442）は地表下 2.2m である。1T では深さ 3.3m の川底から径 8 ～ 40cm の流木（ブナ属）が出土し、放射線炭素年代測定により紀元前 7 世紀中頃～ 6 世紀中頃の年代が得られた。土層堆積状況から、これらの遺構・遺物は D 区北西側の未調査範囲に続いており、範囲は更に広がるものと推定した。以上から、D 区のうち河川の岸辺と推定される北西側 700m² について本調査が必要であると報告した。



第４図　D・E 区下層トレンチ位置



第５図　A・G 区下層トレンチ位置

2）2014 年度 E・G 区

2014 年の本発掘調査中に E･G 区の下層調査を行った。E 区では 2014 年 5 月 20 日～ 21 日に実施した。トレンチは 2014-6T を 17O、2014-7T を 19P グリッドに設定した（第 4 図）。2014-6T では、Ⅳ層上面から深さ約 3m 下位に青灰色砂が堆積し、径 5 ～ 10cm の礫と木片が多量に出土した。2014-7T では、土層が西側から東側へ向かって斜位に堆積し、Ⅳ層上面から約 1.5m 下位には植物泥炭層の堆積が見られた。こうした土層断面から、この地点は D 区から続く旧河川の範囲にあると推定した。さらに、3T と 6T の間にある SE3031 の調査では地表下約 4m まで掘削したものの、遺構・遺物は検出されなかった。以上から、E 区下層の本発掘調査は不要と判断した。

G 区では 2014 年 5 月 19 日に実施した。試掘トレンチは北西側の 24・25V グリッドの 2014-5T に設定し、中層の遺構･遺物の有無を確認した後、深さ約 3m 下まで掘削した（第 5 図）。土層は、Ⅳ層が約 0.6m の厚さで堆積し、これ以下は灰白色シルトと浅黄橙色砂の互層が約 2.3ｍの厚さで堆積する。土層断面か

らＡ区から続く旧河川の範囲にあると推定した。調査の結果、遺物包含層は認められず、遺構も検出されなかったことから、Ｇ区下層の本発掘調査は不要であると判断した。

Ｃ　本 発 掘 調 査

1）2009 年度

2009 年４月 13 日～ 11 月 18 日にＡ・Ｂ・Ｃ・Ｄ区の調査を行った。調査面積は、Ａ区 5,000m²、Ｂ区 5,000m²、Ｃ区 5,876m²、Ｄ区 2,300m² の合計 18,176m² である（第 12 図）。調査の結果、Ａ区で 13 世紀後半～ 15 世紀前葉とする中世の掘立柱建物、井戸、土坑、溝等を検出した。このうち、方形の堀で囲まれた居館から深さ約 5m の県内最大級の大型井戸を２基検出した。大型井戸からは井戸側の側板や曲物が多数出土した。縦板・桟木・支柱の接合個体は 20 個体にのぼり、この分析をとおして中世の製板・製材技術を復元した。また、年輪年代学的分析によって、大型井戸 SE1007 が 1300（正安２）年に構築されたものと推定された。出土遺物は、縄文時代の土器･石器、古代の土器、中世の土器･陶磁器･木製品・金属製品・製鉄鍛治関連遺物・石器・石製品・土製品・焼骨である。県内３例目となる中国天目や青磁瓜形合子などの貴重な船載品を含み、有力者の存在がうかがわれる。

Ｄ区では縄文時代晩期、中世の遺構・遺物を検出した。縄文時代晩期は、大規模な河道を確認し、岸辺から炭化物集中範囲６か所を確認した。中世の遺構は、長さ約 61ｍにわたり幅約 6m の大規模な道を検出した。この道は、百津潟から水原市街に延びることが明らかになり、中世の幹線道路と考えられる。特徴的な遺物として五輪塔が出土した。中世は、13 世紀後半～ 14 世紀前半を主体とする。

Ｂ区では、近世以降の遺構と古代・中世の遺物を検出した。遺構は、調査区北側で検出した溝の最下部から琺瑯鍋や近代の遺物が出土したことからほぼすべてが近代以降のものであることが明らかになり、調査区南側で検出した遺構も近代のものと判断した。Ｂ区に隣接するＣ区もトレンチ調査を行った結果、Ｂ区と同様の遺構が主体を占めることが明らかになり、本発掘調査を行わないこととした。

この調査結果をまとめた報告書は、2012 年に刊行した［荒川ほか 2012］

2）2014 年度

2014 年４月８日～７月 17 日にＥ・Ｆ・Ｇ区の調査を行った。調査当初面積は、Ｅ区上層 4,230m²・下層 3,606m²、Ｆ区 45m²、Ｇ区 1,403m² の合計 9,284m² であったが、Ｅ区の下層に遺跡が存在しないことが明らかになったことや、Ｇ区の中層から古墳時代の遺物が検出されたことから、Ｅ区 4,157m²、Ｆ区 118m²、Ｇ区上層 2,005m²・中層 200m² の合計 6,480m² を調査した（第 12 図）。

Ｅ区では 13 世紀後半～ 14 世紀前半を中心とする遺構・遺物を検出した。検出した遺構に土橋と周溝を持つ掘立柱建物や方形縦板組井戸など特徴的なものが存在した。方形縦板組井戸は建物の屋根板や壁板を井戸側に多く転用していて、これらの転用材を年輪年代学的解析及び年輪酸素同位体比分析を行った結果、1279 年～ 1284 年に収まることが明らかになった。これらの屋根材や壁材などの建築材を使用した掘立柱建物は道１の形成後に建てられた可能性が高く、道１もこの頃に機能を開始していたものと推定した。

Ｆ区では、井戸、土坑などの遺構を検出し、遺物は古代の土器、中世の陶器･金属製品などが出土した。

Ｇ区では、上層から古代～近世以降の遺構・遺物、中層から古墳時代前期の遺物を検出した。出土した中世の土器・陶磁器は 13 世紀後半～ 15 世紀前半の時期で、瓷器系陶器の比率が高く、瓦器の風炉・火

鉢といった流通品を含むことが特徴である。

3）2015 年度

2015 年 4 月 27 日～ 11 月 26 日に H・I・J・K 区と D 区（下層）の調査を行った。当初、調査面積は縄文時代、中世面の延べ 6,579m² であったが、上層は下層調査のために法面切り出しの上端を拡張したこと、遺構が調査区外に広がり一部拡張したことで 5,714m² に、下層は遺構が調査区外に広がり一部拡張したこと、検出面が増えたため延べ 7,649m² となり、最終的な調査面積は延べ 13,363m² となった。

調査は H 区から開始した。周囲に排水のための暗渠を設置して、4 月 27 日から重機を用いて表土掘削を行った。上層の遺物包含層は耕地整理の際に削平されてほぼ残存してないことから、表土除去後、5 月 11 日から作業員を入れ遺構検出から作業を進めた。大型の掘立柱建物、方形周溝状遺構、方形竪穴状遺構、井戸、多量の土師器が出土した土坑、溝、道などを検出した。これらの成果を 6 月 25 日に報道公開し、6 月 27 日に隣接する山口野中遺跡と合同で現地説明会を開催して、231 名の参加者を得た。7 月 7 日にラジコンヘリによる H 区の空撮を行った。7 月 13 日から I・J 区の農道砕石除去及び表土掘削、D 区縄文時代の調査を開始した。7 月 30 日に県教委主催の青少年文化財講座が開催され、学生 13 名が参加した。8 月 6 日に D 区の縄文時代上層の完掘撮影を行い、10 日から重機で間層除去を始めた。8 月 24 日から K 区に鋼矢板工法による山留工を行い、27 日から表土掘削を行った。9 月 3 日、K 区で検出した土坑から曲物に納められた大量の銭貨が出土した。D 区では、調査区西側に縄文時代の大型土器片や炭化物集中を確認したため、調査区を拡張した。10 月 1 日に曲物に納められていた一括出土銭、新たに検出した掘立柱建物、縄文時代の調査成果について報道公開した。10 月 3 日に 2 回目の現地説明会を開催し、109 名の参加者を得た。10 月 19 日、一括出土銭を樹脂で固めて取り上げた。11 月 6 日に県教委が終了確認を行い、11 月 7 日にラジコンヘリによる最後の空撮を行った。残っていた上層で検出した井戸側を持つ井戸の調査と J 区で検出した縄文時代の遺構を調査し、11 月 27 日に調査を終了した。調査区は埋戻し、12 月 24 日にすべての作業を終了した。

D　整理作業の経過

2015 年度は、本発掘調査と並行して記録類（図面･写真）の整理、遺物の洗浄･註記を現場事務所で行った。本発掘調査終了後は、株式会社ノガミ埋蔵文化財調査室で遺構図版の作成・遺構原稿執筆、遺物の基礎整理を行った。2017 年度は、株式会社ノガミ埋蔵文化財調査室と埋文事業団で遺物の接合･復元･実測、本文原稿執筆・編集を行い、印刷・刊行した。

3　調査・整理体制

試掘調査と下層確認調査の体制は「第 I 章 3 調査･整理体制」『境塚遺跡』［荒川ほか 2012］･『境塚遺跡 II』［荒川ほか 2016］に掲載している。境塚遺跡 III の本発掘調査と整理作業は、以下のような期日と体制で行った。

本発掘調査・整理作業（2015 年度）

調査期間	2015 年 4 月 27 日～ 11 月 26 日
整理期間	2015 年 11 月 27 日～ 2016 年 3 月 31 日
調査主体	新潟県教育委員会（教育長　高井　盛雄）
調　　査	公益財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団
総　　括	土肥　　茂（事務局長）
管　　理	松田　　祐（総務課長）
庶　　務	仲川　国博（ 同 班長）
調査総括	鈴木　俊成（調査課長）
指　　導	沢田　　敦（ 同 課長代理）
調査担当	荒川　隆史（ 同 専門調査員）
支　　援	株式会社ノガミ
	現場代理人　　戸田　哲雄
	調　査　員　　金内　　元　　村端　和樹　　秋山　泰利（4 月 27 日～ 8 月 31 日） 千田　幸生（11 月 1 日～ 11 月 30 日） 大越　直樹（4 月 27 日～ 8 月 31 日・12 月 1 日～ 2016 年 3 月 31 日）
	補　助　員　　石倉　栄輝　　小野里吉一　　小島　綾香　　駒沢　麻美　　坂口　理恵 中野　亮子　　長谷川直子　　目黒　里美

整理作業（2017 年度）

整理期間	2017 年 4 月 3 日～ 2018 年 3 月 30 日
整　　理	公益財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団
総　　括	清野　一善（事務局長）
管　　理	松田　　祐（総務課長）
庶　　務	星野　美奈（ 同 班長）
整理総括	沢田　　敦（調査課長）
整理担当	飯坂　盛泰（ 同 専門調査員）
支　　援	株式会社ノガミ
	調査員　　金内　　元
	補助員　　浅井　宏子　　石倉　栄輝　　坂口　理恵　　鈴木　理恵　　目黒　里美

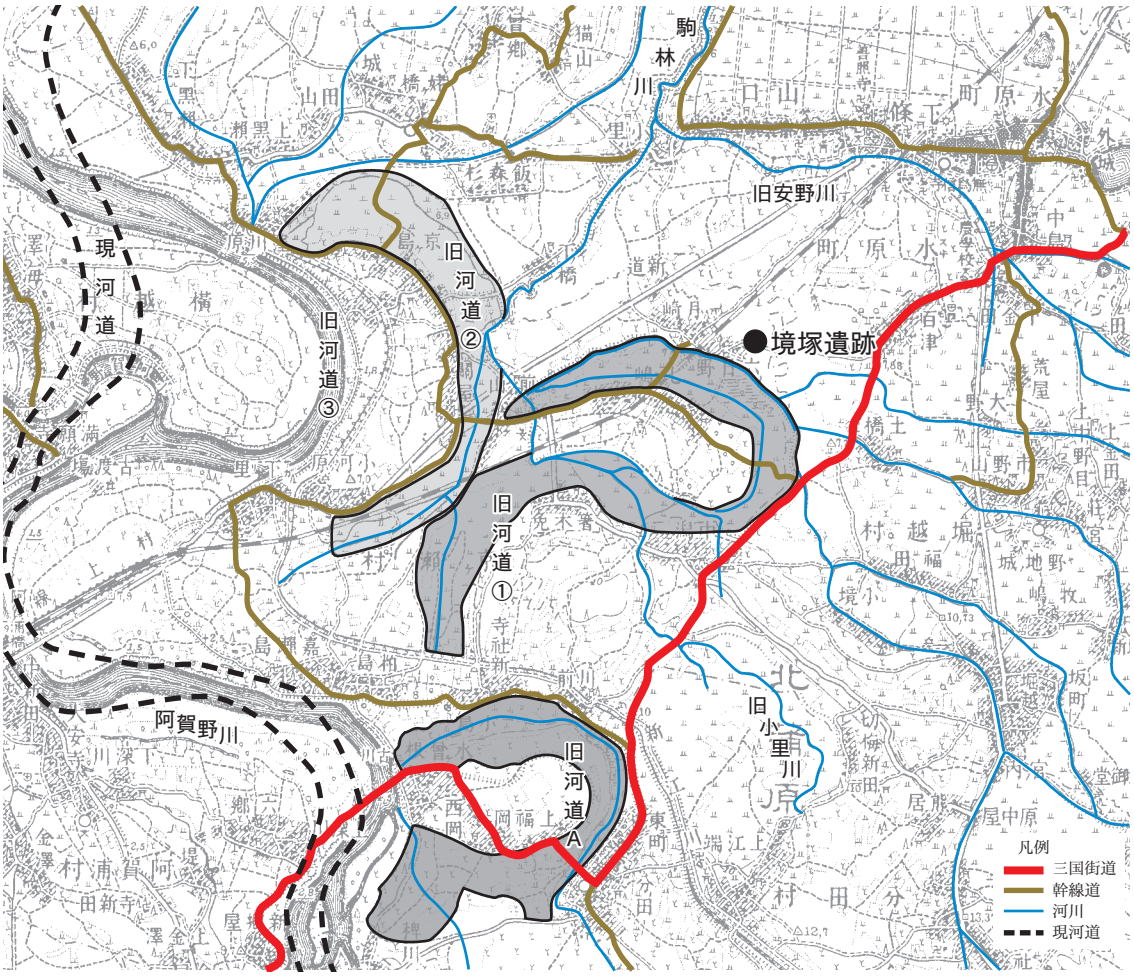
第 1 表　調査・整理体制

第Ⅱ章　遺跡の位置と環境

1　地 理 的 環 境

『第 232 集境塚遺跡』・『第 262 集境塚遺跡Ⅱ』の「第Ⅱ章 1 地理的環境」［荒川 2012a・2016a］から引用・加除した。

境塚遺跡は、阿賀野市月崎字六日野境 70 番地 1 ほかに所在する（第 1・2 図）。阿賀野市は、新潟県の北東部に位置し、2004 年 4 月に安田町・水原町・笹神村・京ヶ瀬村の 4 町村が合併して誕生した。人口は、約 43,500 人（2017 年 3 月時）である。周囲は新潟市・新発田市・五泉市・東蒲原郡阿賀町と接する。阿賀野市の地勢は、東に標高 912.5m の五頭山や標高 973.5m の菱ヶ岳を主峰とする五頭山地とこれに並行する標高約 100m の笹神丘陵、西の越後平野から成り、南は阿賀野川北岸に接する。五頭山地は南北約 20km、東西約 5km の規模で、山体の大部分は風化した花崗岩からなる。ここを源とする松岡川・荒川川・折居川・大荒川・中ノ川・安野川・大日川などの水系は、笹神丘陵を深く切り込みながら越後平



第 6 図　遺跡周辺における阿賀野川の旧河道と河川及び新発田領絵図における三国街道・幹線道の推定位置
（大日本帝國陸地測量部発行　大正 8 年「新潟」「新津」1：50,000 原図）

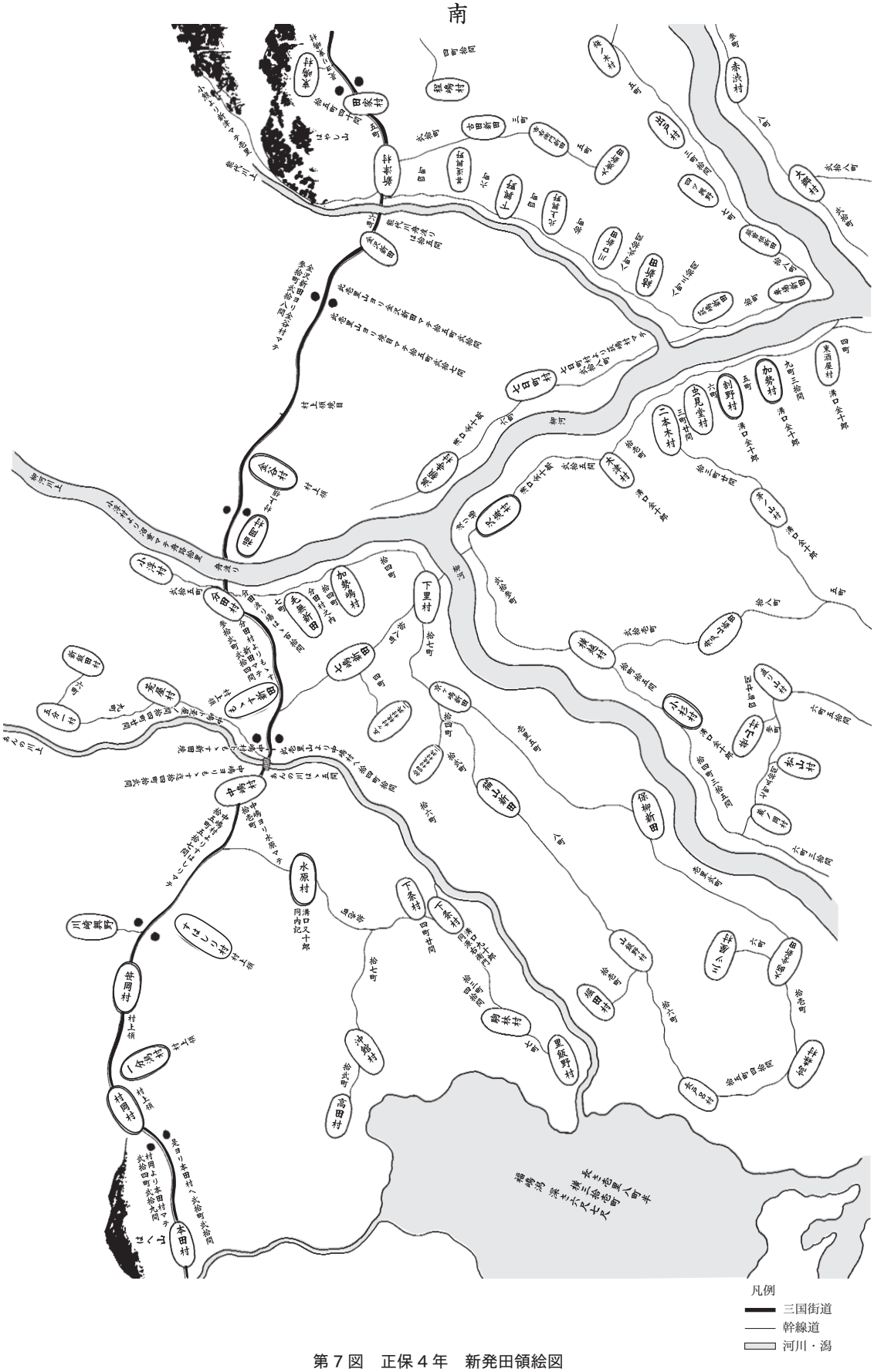
野に流れ出し、筋状の自然堤防を形成する。これらはすべて福島潟に流入し、唯一の排水路である新井郷川を経由して阿賀野川と合流する。阿賀野川は福島県会津盆地から県境の峡谷を蛇行しながら流下し、谷口の五泉市馬下及び阿賀野市草水から越後平野に入る。また、阿賀野市域で大きく蛇行した後に新潟市笹山付近から直線的な流路となり、新潟砂丘を突き抜けて日本海に流れ込む。1730（享保 15）年の新発田藩による松ヶ崎掘削以前までは、阿賀野川は新潟砂丘の手前で南に折れ、信濃川と合流して河口を形成していた。この地が現在の新潟港であり、927（延長 5）年成立の延喜式に記載された「蒲原津」とされる。

阿賀野川は 1915（大正 4）年～ 1933（昭和 8）年に始めとする 4 回の改修工事が行われ、現在は河道が直線化されている。かつては発達した新潟砂丘によって日本海への流出口を挟められ、河道の変更を伴う大規模な氾濫が起こり、数多くの旧河道や自然堤防が残された。境塚遺跡の西側には幅 300m 前後の大きな旧河道が 3 か所認められる。ここでは、六日野－七島間を旧河道①、前山－関屋間を旧河道②、下里－沢海間を旧河道③と呼ぶこととする（第 6 図）。大矢・加藤［1984］はこれらの年代について、旧河道①が 1713（正徳 3）年頃、旧河道②が 1762（宝暦 12）年頃、旧河道③が 1911（明治 44）年頃まで流れていたと推測している。しかし、1647（正保 4）年「新発田領絵図」を見ると、阿賀野川の東側に「下里村」、西側に「渡り場」・「沢海村」とある（第 7 図）。したがって、正保年間には阿賀野川の本流は既に旧河道③を流れていたことになり、旧河道①・②はこれ以前の可能性が高いものと推測される。また、1645（正保 2）年「正保越後国絵図」には六日野の近くに「百津潟」が描かれ、1816（文化 13）年「越後輿地全図」にも旧河道①に該当する部分に「古川蹟」と書かれた三日月状の範囲が記されており、旧河道①が阿賀野川の本流からそれて三日月湖になったものが百津潟と考えられる［成田 2000］

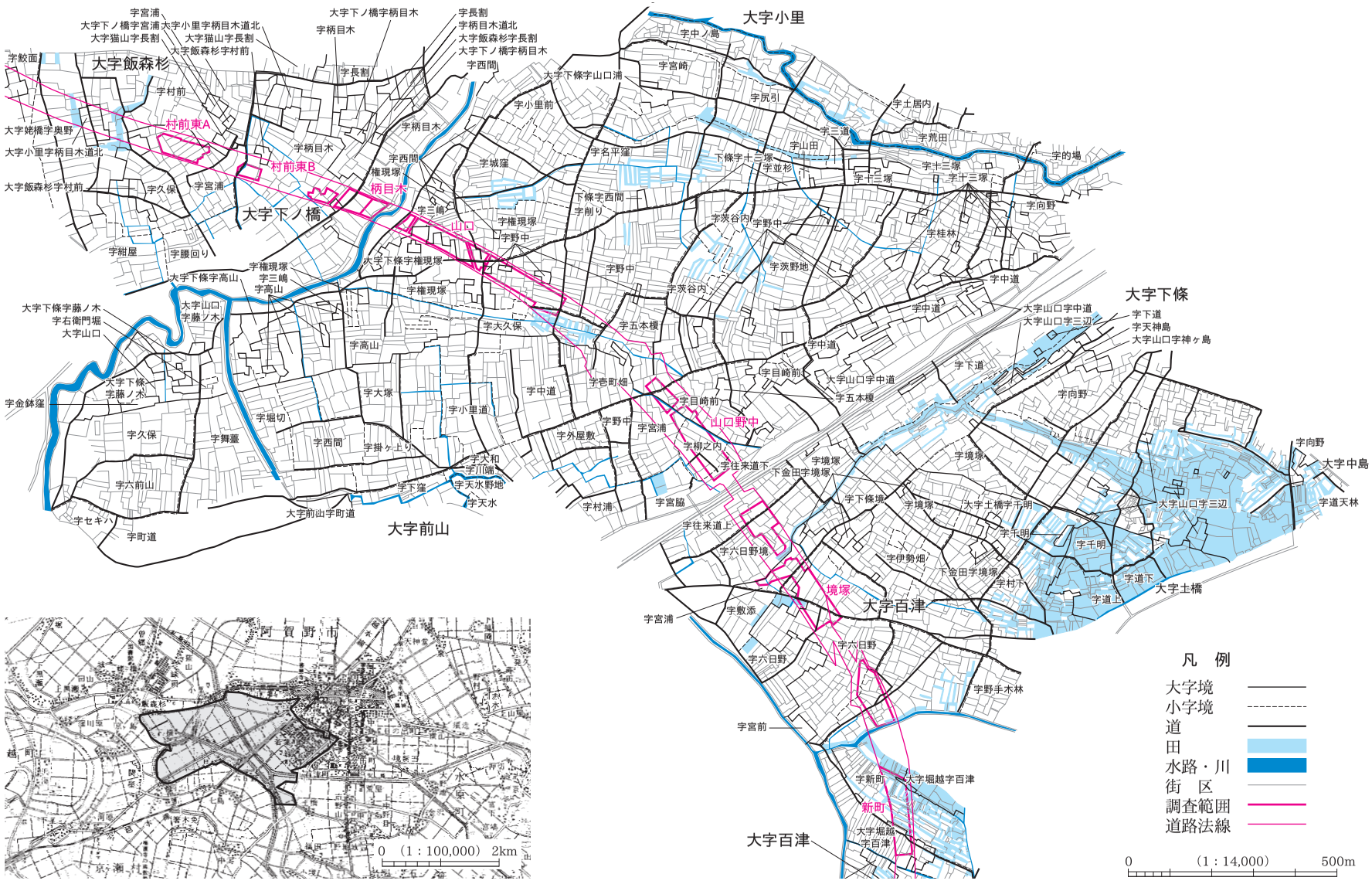
この「新発田領絵図」には三国街道中通り（以下、中通り）とこれに連なる幹線道、道上の村名とその距離が記されている（第 7 図）。阿賀野市周辺の地名と一致するものも多く、中通りと幹線道を近代の地図に推定復元することが可能である。三国街道は中山道高崎から分かれて三国峠から越後に入り、信濃川に沿って長岡・寺泊まで下る道である。また、中通りは長岡から分岐して加茂・新津を通って新発田城下に続く道である［小松ほか 1995］。絵図によると、中通りは「新津村」から能代川を越えて「金沢新田」～「金谷村」～「福岡村」と進み、阿賀野川を越えて「分田村」に入る。このことから、阿賀野川は現在の上福岡と分田の間の旧河道 A を流れていたことがわかる[1)]。そして、「分田村」から「百津村」の西寄りを通り、安野川を渡って「中嶋村」に至る。また、境塚遺跡周辺に目を向けると、「七嶋新田」から北に伸びる幹線道の 4 町先には「五ヶ村枝村共二」とあり、ここが現在の六日野や月崎の周辺と推定される。大正時代の絵図には羽越本線の西側に並行して下条方向に延びる道があり（第 6 図）、昭和の土地更正図にはこの道沿いに「字往来道上」・「字中道」・「字下道」などの道に由来する小字名が認められる（第 8 図）。したがって、この付近に「七嶋新田」と六日野等を結ぶ近世の幹線道の前進であった可能性も考えられる。

境塚遺跡のすぐ東側を流れる安野川と小里川は、1941（昭和 16）年～ 1973（昭和 48）年に行われた国営阿賀野川農業水利事業により新規に掘削された人口の河川である。大正 8 年測量図によれば、旧安野川（七浦川）は五頭山麓を源とし、村杉、上山田、大野地、中島を経由して水原市街南端を通り、駒林川に接続していた。また、旧小里川は菱ヶ岳を源とし、ツベタ、羽田屋、堀越、前山を経由し、旧安野川とともに駒林川に合流していた（第 6 図）。百津潟は小里川のほかにも保田方面や分田方面からの河川も通

1）小松ほか［1995］では、これより南側の金谷から稗河原場に向かうルートが示されており、本書と異なる。明治・大正期の絵図には上深川から西岡を結ぶ阿賀野川の河川内に小径の表示が認められることから、元々は道としてつながっていたと考えられる。



第７図　正保４年　新発田領絵図
（新発田古地図等刊行会［1976］から抜粋して作成）



第８図　境塚遺跡周辺の土地更正図と遺跡調査範囲（阿賀野川土地改良区所蔵　北蒲原郡水原町　北蒲原郡南部耕地整理組　第一区現形豫定図から作成）
（地形図は国土地理院発行 平成 17 年「新潟」 平成９年「新津」 1：50,000原図）

じており、福島潟と同様に水原以南における河川の中継地であったと考えられる。

現在の境塚遺跡周辺は、1927 ～ 1931（昭和 2 ～ 6）年頃に行われた耕地整理により水田地帯となっているが、これ以前は桑畑を中心とする畑地であり、比較的標高の高い場所であった。耕地整理前の土地更正図には、遺跡の北東約 600km に幅 20m 程度の二股に伸びる旧河道と、東側に広がる水田地帯が読み取れる（第 8 図）。この旧河道は、境塚遺跡 D 区の調査から縄文時代晩期に形成された大規模河川が埋積した最終段階の窪地を流れていたものである（第 I 章 2B）。A 区では大規模河川の対岸と見られる落ち込みも確認されているほか（第 I 章 2B）、安野川堤防断面でも深さ 4m 以上、幅約 250m にわたり河川の埋積が認められる。以上から、縄文時代晩期の大規模河川は古阿賀野川と推定される [1)]。

以上から、境塚遺跡は阿賀野川の旧河道①の自然堤防上に立地し、百津潟の北岸に位置していたものと考えられる。遺跡の北東側から古阿賀野川の埋積によってできた小規模な河道が流入し、その東側に境塚 A・G 区、西側に D・E・H・I 区が形成された。境塚遺跡は、百津潟・旧安野川・旧小里川と整備された幹線道を通じて水原・堀越・安田の各地と結ばれ、さらに阿賀野川や福島潟を経由して蒲原津に通じた河川交通の要衝に営まれていたのである。

2 歴 史 的 環 境

『第 232 集境塚遺跡』・『第 262 集境塚遺跡Ⅱ』の「第Ⅱ章 2 歴史的環境」［荒川 2012a・2016a］から引用・加筆した。

A 略　　史

境塚遺跡は、1134（長承 3）年に皇嘉門院領として立荘された白河荘に位置する。皇嘉門院は、藤原忠通の娘であったことから、白河荘は九条家が領家職を持つ九条家領として代々伝領されていった。この白河荘の立荘には、阿賀北に大きな勢力のあった城氏が関わっていたと推測されている。城助職は「白河御館」と呼ばれ、白河荘に本拠を持ち荘園の在地管理にも関わっていたとされる［樋口 2004］。阿賀野市寺社には、城氏の拠点と推定される大坪遺跡［荒川ほか 2006］や平安時代末期から鎌倉時代初頭の経塚である横峯経塚［川上 1979］がある。城氏は、治承・寿永の内乱期（1180 ～ 1185 年）に勢力を衰退させ、1201（建仁元）年の鳥坂山の戦いで滅亡する。

13 世紀になると越後の荘園には地頭職を得た関東御家人が入部する。白河荘は、伊豆の御家人である大見家秀が地頭職を得たと推測される［樋口 2004］。白河荘の地頭職は、家秀の息子である大見実景に譲られる。白河荘は、上条と下条に大きく二区分されており、大見実景は白河荘の下条に含まれる山浦四箇条・水原条・船江条の地頭職を嫡子である行定に、上条に含まれる安田条の地頭職を庶子の時実に譲り渡す。1238（弘安 6）年、大見行定は白河荘の地頭職を家政と家綱に譲り渡す。嫡子である大見家政は、山浦四箇条の地頭職、庶子の大見家綱は水原条の地頭職を得た。このように山浦四箇条の地頭職は惣領である家政の系統に伝領され、水原条の地頭職は家綱の系統、安田条の地頭職は庶子である時実とその嫡子の頼資の系統が伝領していく。その後、大見氏は、鎌倉末期に安達時顕に白河荘の地頭職を奪われる。この地頭職は、鎌倉幕府の滅亡後、建武新政権の成立と南北朝の対立、観応の擾乱といった中央政治の変動

1） 荒川・村上ほか［2012］ではこの河川を古安野川と推定したが、荒川・村上ほか［2016］で縄文時代晩期の古阿賀野川と変更した。

によって保持者が佐々木貞氏、細川頼和などに変わり、大見氏に戻った史料は確認されていない。大見氏は、白河荘の地頭職を失ったものの、白河荘に一分地頭職ともいうべき下級の地頭職を保持していた可能性があり、これを根拠として国人領主に成長していった［樋口 2004］。

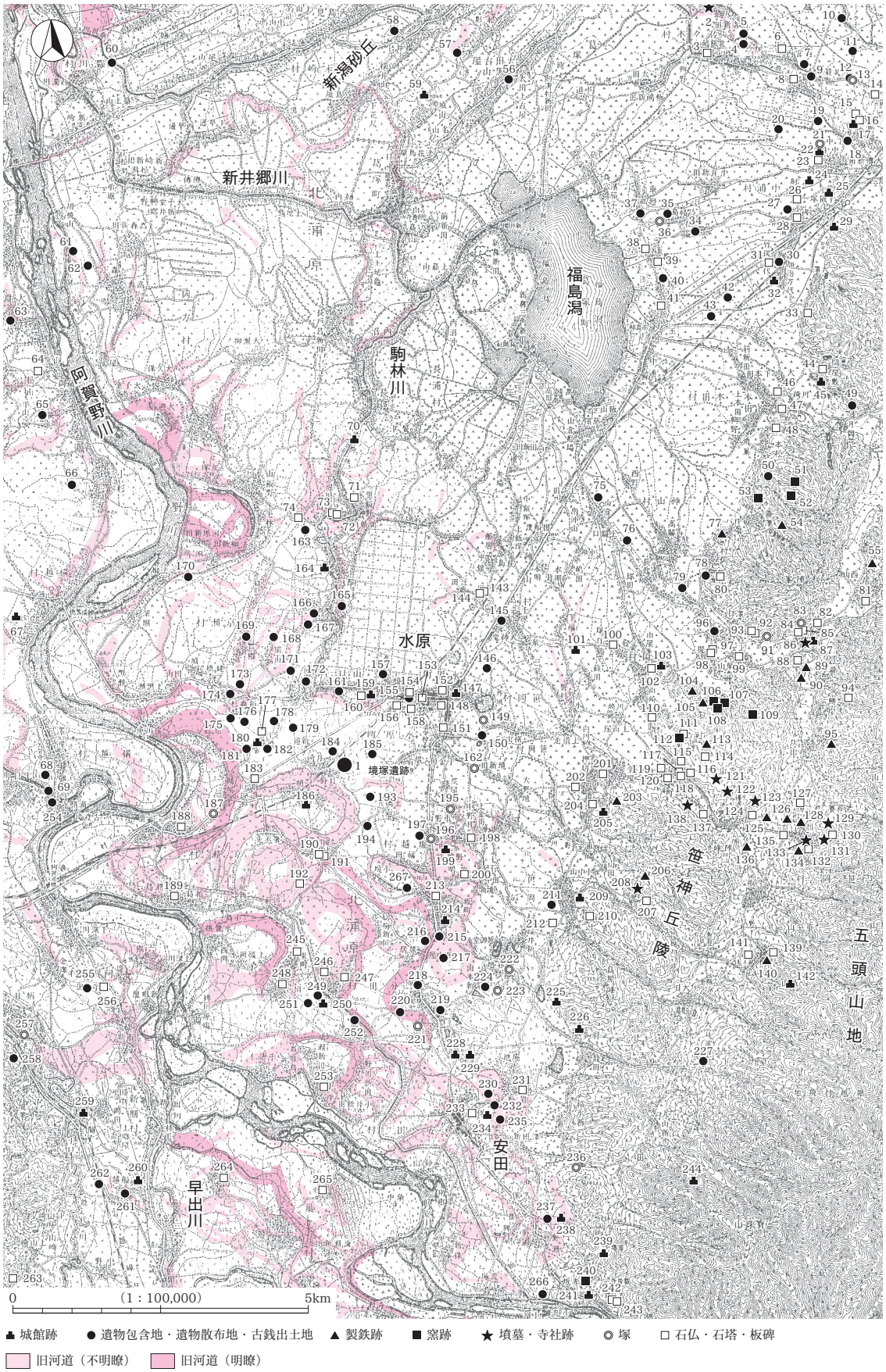
山浦四箇条及び安田条、水原条などの地頭職を得た大見氏一族は、領域支配を強め、1394 ～ 1427（応永年間）年には山浦氏、安田氏、水原氏を名乗り国人領主へと転化する。なお、大見氏嫡流は大見家経に子がなく、1398（応永 5）年に水原氏から初犬丸を養子として迎えた後に水原氏に統合されたとされている［樋口 2004］。白河荘には安田氏、水原氏以外にも 1504 ～ 1521（永正年間）年に作成された『蒲原郡段銭帳』に現れる堀越氏や下条氏が存在しており、大見氏一族を含め「白河之面々」と呼ばれる集団をなしていた。白河荘を含む阿賀北地方は府中の守護・守護代の勢力に対して強い独立性を保持していた。これに対し 14 世紀末、上杉房定が越後守護になると守護勢力の地方扶植が図られ、下条山浦には上杉憲重が入部し、山浦上杉氏となった。越後守護上杉頼方と守護代長尾邦景の争いで生じた応永の大乱は、阿賀北でも国人層を二分した争乱となった。1423（応永 30）年に、大見氏一族を含む白河荘の国人領主「白河之面々」や加地氏、新発田氏が守護代側に寝返り、山浦の守護勢力や中条氏と敵対している。このとき、堀越氏の拠点の堀越館と思われる「堀越之要害」が陥落している。応永の大乱は、守護上杉房方の敗北によって終結するが、その後も大見氏一族は、阿賀北地方に勢力を伸ばす守護・守護代勢力からの強い影響を受けつつ戦国期を迎える。

B　白河荘の中世遺跡

阿賀野川右岸における中世遺跡は、福島潟以南の平野部と笹神丘陵、福島潟以東の平野部、新潟砂丘に分布する（第 9 図）。その多くが近代の集落近くに位置し、当地域においても中世から近世にかけての集村化の動き［坂井 1997］があったものと考えられる。大坪遺跡（219）［荒川ほか 2006］では、12 世紀の水路が明治期まで維持・利用されており、当地域には中世の景観が色濃く残されている。当地域における中世遺跡の概要については、大坪遺跡［前掲］や山口遺跡［荒谷ほか 2010］などで詳細が記されていることから、ここでは白河荘の区分と遺跡分布について述べることとする。

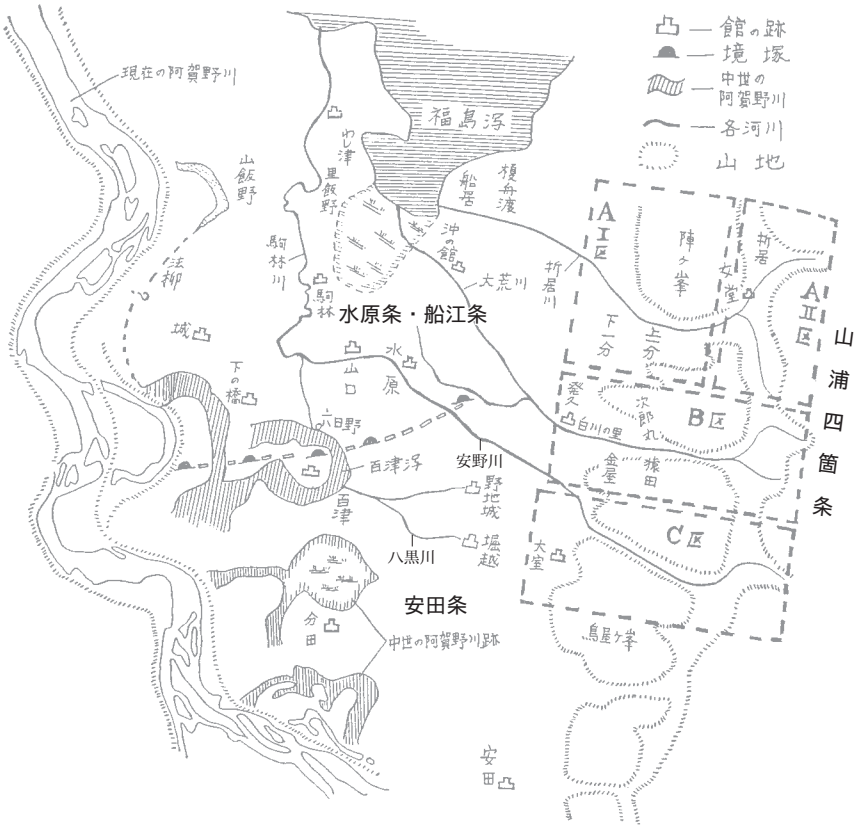
白河荘の区分を検討した中野豈任［1976］は、山浦四箇条を阿賀野市折居から大室にかけての地域とし、折居川流域を A 地域（山間部を A Ⅰ区、平野部を A Ⅱ区）、白川（大荒川）流域を B 区、安野川流域を C 区とした。また、安田条は旧安田町周辺とした。水原条・船江条は、北限を飯野－舟居－飯塚－榎舟渡を結ぶ線、東限を榎舟渡－千原－天神堂を結ぶ線、西限を阿賀野川と推定した。そして、安田条との境界に当たる南限は「境塚が一直線上に点在して南境を形成している」として、六日野の南側を通るラインを推定した（第 10 図）。同論文にその根拠として写真に示された「下条の境塚」は、境塚遺跡の北東約 300m にある三辺稲荷（さんぺんいなり）神社のことである [1)]。この神社は、明治頃に水原の豪農の旧佐藤家（本泉屋）が私邸内の祠をこの地に移したのが始まりで、それ以前は畑だけの土地であった [2)]。したがって、中野の言う塚はなかったと判断される。しかし、昭和初期の土地更正図を見ると、この周囲には 1955（昭和 30）年の町村合併以前の水原町大字下条・堀越村大字百津・京ヶ瀬村大字前山の 3 か所に「境塚」の小字があり、しかも 3 町村が接する境界に位置する（第 8 図）。「境塚」の字名はこれら町村の境界を指し示し、さらに中

1）新潟県立歴史博物館に寄贈された中野豈任の写真に同一のものがあり、この前後の写真を含めて現況と照合し、確認した。
2）阿賀野市教育委員会の遠藤慎之介による神社を管理していた宮尾氏からの聞き取りに基づく。三辺稲荷神社周辺は、かつて旧佐藤家の所有地であり、宮尾氏は祠の移設にあたりその管理を任されたという。



第 9 図　周辺の中世遺跡分布

（大日本帝國陸地測量部発行 大正 3 年「津川」大正 8 年「新潟」「新発田」「新津」 1:50,000 原図、旧河道は大矢・加藤［1984］を参照。）



第 10 図　白河荘の区分（中野［1976］から転載・加筆）

No.	遺跡名	No.	遺跡名	No.	遺跡名	No.	遺跡名	No.	遺跡名	No.	遺跡名	No.	遺跡名
1	境塚	40	曽根	79	壱本杉	118	地蔵堂石仏	157	居浦	196	七ツ塚	235	竜下
2	真昌寺	41	天王石塔	80	徳昌寺石仏	119	横山家蔵石仏	158	無為信寺の石仏	197	原	236	院殿塚
3	常福寺石造物群	42	加冶万代弁天郷	81	岩村寺石仏	120	遠藤家石仏	159	下条館跡	198	渡辺家蔵の石仏	237	北郷
4	五反畑	43	切替	82	稲荷社石仏	121	法華山墓跡群	160	浄楽寺の石造物	199	野地城跡	238	六野瀬館跡
5	本屋敷	44	岡屋敷石仏群	83	上の山塚群	122	庵入寺墓跡群	161	土居内	200	円福寺の石仏	239	ハチマキ山城跡
6	西宮内養泉寺石仏群	45	岡屋敷城跡	84	観音堂石仏	123	真光寺墓跡	162	泣塚	201	大通庵石仏	240	赤坂山中世窯跡
7	境田	46	真如庵石仏群	85	椎野家蔵石仏	124	羽黒石仏	163	山鳥屋敷	202	熊沢の石仏	241	赤坂山砦跡
8	西養口の石仏	47	仲山寺石仏群	86	上ノ山墓跡群	125	多須田製鉄関連	164	駒林要害跡	203	金屋	242	十二神社石仏
9	北養口	48	清水小屋石仏群	87	女堂館跡	126	道下	165	土居内西	204	地蔵院石仏	243	草水石仏
10	荒神裏A	49	月岡カリオンパーク	88	女堂石仏	127	賽ノ河原石仏	166	轟	205	山浦城跡	244	赤松山城跡
11	蚕取橋	50	源氏山	89	西山A	128	道上	167	善四郎谷内C	206	金クソ沢	245	村下の石仏
12	上沢田	51	北沢窯	90	西山B	129	経沢中世墓域	168	大割	207	山寺石仏	246	祥雲寺の石仏
13	北養口の塚	52	砥石沢窯跡	91	沢口塚	130	華報寺石造遺物群ほか16	169	曽郷前	208	アバヤシキ	247	上江端の石仏
14	二ツ堂神明宮石仏	53	堤上窯跡	92	沢口石仏	131	目洗沢中世墓域	170	下谷地	209	大室城跡	248	玉泉寺の石仏
15	長円寺板碑	54	オガノB	93	泉秀院石仏	132	五頭山荘前石仏群ほか1	171	大曲川端	210	洞雲寺石仏群	249	新明野
16	長円寺石仏	55	花水	94	天樹院石仏	133	蓮台野中世墓域ほか1	172	羽萱場	211	鶴渕	250	分田館跡
17	池之端館跡	56	中黒山	95	岩倉B	134	大石沢製鉄	173	本田裏	212	江上板碑	251	内山王
18	橋場	57	松影A	96	家の前	135	遠藤家石仏石塔群	174	町道上	213	中島家蔵の石仏	252	成田屋敷
19	九枚田	58	内島見C	97	光円寺石仏	136	今板	175	村前	214	堀越館跡	253	大岡家蔵石仏群
20	鶴田	59	城山館跡	98	鳳林寺石仏	137	金鉢山石造遺物群	176	村前東A	215	鴨深北	254	長崎（城跡）
21	能化山の塚	60	寺ノ山	99	上一分石仏	138	金鉢山墓跡群	177	清水家石仏	216	狐塚	255	細池寺道
22	下中ノ目館跡	61	下前川原	100	中山家石仏	139	薬師堂石仏	178	柄目木	217	鴨深甲	256	盛岩寺石仏
23	下中ノ目石仏	62	森下古銭出土地	101	滝沢屋敷跡	140	村杉製鉄	179	山口	218	寺社家浦B	257	尻池の塚
24	法正館跡	63	大淵	102	諏訪社石仏群	141	村杉石仏	180	下ノ橋館跡	219	大坪	258	愛宕澤
25	乙次館跡	64	細山石仏	103	笹岡城跡	142	村杉城跡	181	紺野	220	六九	259	大関館跡
26	則持石仏群	65	城山	104	中ノ沢	143	篭田の観音様脇石仏	182	藤の木	221	六九塚群	260	下条館跡
27	細田	66	居附A	105	狼沢	144	篭田臼井家の石仏	183	諏訪神社	222	法塔場塚	261	船越古銭その1
28	吉浦石仏	67	横越館跡	106	狼沢中世窯跡	145	唐着	184	山口野中	223	横峯経塚	262	船越古銭その2
29	志村屋敷館跡	68	居屋敷跡	107	堤上窯跡	146	十ヶ袋	185	三辺稲荷	224	山本新家浦	263	丸田石仏群
30	竹俣万代	69	寺島	108	兎沢中世窯跡	147	水原館跡	186	七島館跡	225	手代山砦跡	264	桑山石仏
31	竹俣万代墓地石塔	70	長馬館跡	109	背中炙窯跡	148	斉藤家の石仏	187	カナクラ様	226	源直屋敷跡	265	高山石造物群
32	加冶万代館跡	71	里飯野石仏	110	法華山出土石造遺物群	149	外城庚申塚	188	小河原	227	滝山	266	六野瀬
33	万代新田石仏群	72	上堀田石仏C	111	権兵衛沢石仏	150	四ツ橋長者屋敷	189	嘉瀬島諏訪神社	228	字見屋敷跡	267	蕪木
34	大坪	73	上堀田石仏B	112	権兵衛沢窯跡	151	長福寺石仏	190	中潟神明宮の石仏	229	物見山砦跡		
35	福島	74	上堀田石仏A	113	堀切沢	152	長楽寺の石仏	191	中潟の観音様石仏	230	宮ノ越		
36	屋敷付塚	75	腰廻	114	山ノ神石仏	153	吉田家蔵	192	天神林の石仏	231	庚申様石仏		
37	上曽根	76	上高関	115	高徳寺石造遺物群	154	雙善寺	193	新町	232	門前		
38	三ツ橋A石仏	77	旭塚製鉄	116	磐栄川神社石仏	155	七面堂	194	石船戸東	233	孝順寺石仏群		
39	三ツ橋B石仏	78	徳昌寺前	117	山崎家石仏	156	西福寺石仏群	195	久祢添の庚申様	234	安田城跡		

第 2 表　周辺の中世遺跡一覧

世白河荘の水原条と安田条の境界に由来する可能性はあろう。推定されたこれらの区域には、いくつかの遺跡集中域を見いだすことができる（第 9 図）。

水原条・船江条の範囲では、阿賀野川旧河道右岸、駒林川流域、そして水原市街に集中域が認められる。阿賀野川旧河道②右岸には、下ノ橋館跡（180）を中心として町道上遺跡（174）・柄目木遺跡（178）・村前東 A 遺跡（176）などの集落遺跡が集中する。町道上遺跡は 13 ～ 15 世紀の方形竪穴状遺構や井戸などがあり［古澤 2002］、村前東 A 遺跡では 13 世紀中葉～ 14 世紀前半の掘立柱建物を中心とする集落である［加藤ほか 2010］。また、町道上遺跡・柄目木遺跡・村前東 A 遺跡・山口遺跡（179）［荒谷ほか 2010］で道が見つかっていることは陸上交通を知る上で注目される。駒林川流域には、駒林要害跡（164）を中心に土居内西遺跡（165）・石仏（71 ～ 74）がある。土居内西遺跡は、14 世紀を中心とし方形縦板組井戸が検出されている［古澤 2005］。旧水原町の中心である水原市街には、水原氏の居館と推定される水原館跡（147）と下条氏の居館とされる下条館跡（159）を核とし、遺物散布地や石仏が数多く残る。水原館跡は、壕、溝、柵列、掘立柱建物、ピットが検出され、13 ～ 15 世紀の珠洲焼、瓷器系陶器、常滑系陶器、瀬戸美濃焼、茶臼などが出土している［川上 1977］。

水原条・船江条と安田条との境界に位置する境塚遺跡の周辺には、ほぼ同時期の山口野中遺跡（184）や三辺稲荷遺跡（185）、15 世紀後半を主体とする新町遺跡（193）のほか、百津潟を挟んだ西側に七島館跡（186）がある。山口野中遺跡では、境塚遺跡 D 区で見つかった道 1 の続きが確認され［古澤ほか 2011］、境塚遺跡を中心に少なくとも 500m 四方に及ぶ遺跡群が存在していた可能性が高い。

安田条の範囲では、野地城跡（199）・堀越館跡（214）・大坪遺跡（219）と南北に結ぶ範囲に遺跡が集中する。現代の国道 49 号に沿うが、その西側に蛇行する旧河道で結ばれていたことが読み取れる。大坪遺跡は 11 世紀後半～ 12 世紀を中心とし、四面廂付総柱建物や屋敷墓と見られる木棺墓など多数の遺構が検出された［荒川ほか 2006］。遺跡の時期と城氏の盛衰が一致することや同時期の横峯経塚（223）との位置関係などから城氏に関係した遺跡と推定された［荒川 2007］。遺跡の南地区では、13 世紀後半～ 14 世紀の竪穴状遺構も見つかっている。堀越館は、1423（応永 30）年に陥落した「堀越之要害」に比定され、堀跡・区画溝・廃棄土坑・土坑墓とともに白磁・青磁・中国天目茶碗などの舶載品や茶入れ・茶壺・香炉・水注・茶臼などの茶道具が出土している［小田ほか 2001］。近接する鴨深甲遺跡も堀越館跡と同時期の集落である［高橋ほか 2006］。西側の阿賀野川右岸には分田館跡（250）を中心に遺跡集中域があり、玉泉寺の石仏（248）など多くの石仏もある。江戸期には三国街道中通りが通り、新津方面から阿賀野川を渡る分田の渡しがあった場所である［小松ほか 1995］。旧安田町の中心街には、安田氏の居城とされる安田城跡（234）を中心に遺跡集中域が認められる。さらに南側には、六野瀬館跡（238）や赤坂山砦跡（241）を中心に遺跡集中域があり、笹神古窯の一つで 13 世紀中頃～後半に操業した瓷器系窯の赤坂山中世窯跡（240）［小田ほか 2002］とその製品の積み出し場と推定される六野瀬遺跡（266）［石川ほか 1992］を含む。

山浦四箇条の範囲のうち折居川流域の AI 区には、女堂館跡（87）や上の山塚群（83）を中心に石仏や製鉄跡が分布する。一方、AⅡ区には北側の北沢窯（51）に代表される一群と南側の狼沢中世窯跡（106）をはじめとする一群の窯跡があり、笹神古窯の大半が集中する。これらのうち、北沢窯・背中炙窯跡は須恵器系窯、狼沢 1 号窯・兎沢中世窯跡（108）・堤上窯跡（107）は瓷器系窯である。また、これらの周囲には製鉄跡も多数分布しており、この地区が大規模な生産域であったことがわかる。山浦四箇条の中心とされる B 区は、寺社・墓・石仏といった宗教関連遺跡が多数集中する。華報寺はその中心的な寺院であり、境内には多数の石仏や 1299（永仁 7）年銘時宗板碑、鎌倉期の大見行定の塔と推定される法篋印塔など

の石造物（130）がある。華報寺背後の急斜面には目洗沢中世墓域（131）や経沢中世墓域（129）、前面には蓮台野中世墓域（133）が営まれた。1283（弘安 6）年の大見行定譲状では、笹神丘陵での殺生禁断が記されているが、この背景にはこの地が霊場であることが考えられる。蓮台野では、戦後の開墾の際に多数の石仏が出土しており、石仏の生産地と推定されている［中川 1959］。また、阿賀野市内にある 207 基のうち 203 基が出湯華報寺周辺にある 120 基と同一型式であり、華報寺周辺で作られた石仏が白河荘や周辺に広がっていた可能性がある［水澤 2002］。本地域には製鉄跡も数多くあるが、窯跡は瓷器系窯である権兵衛沢窯跡（112）のみが確認できる。C 区では、平野部側の大室城跡（209）及び五頭山麓の村杉城跡（142）の周辺に製鉄跡や石仏が分布するが、窯跡は確認できない。

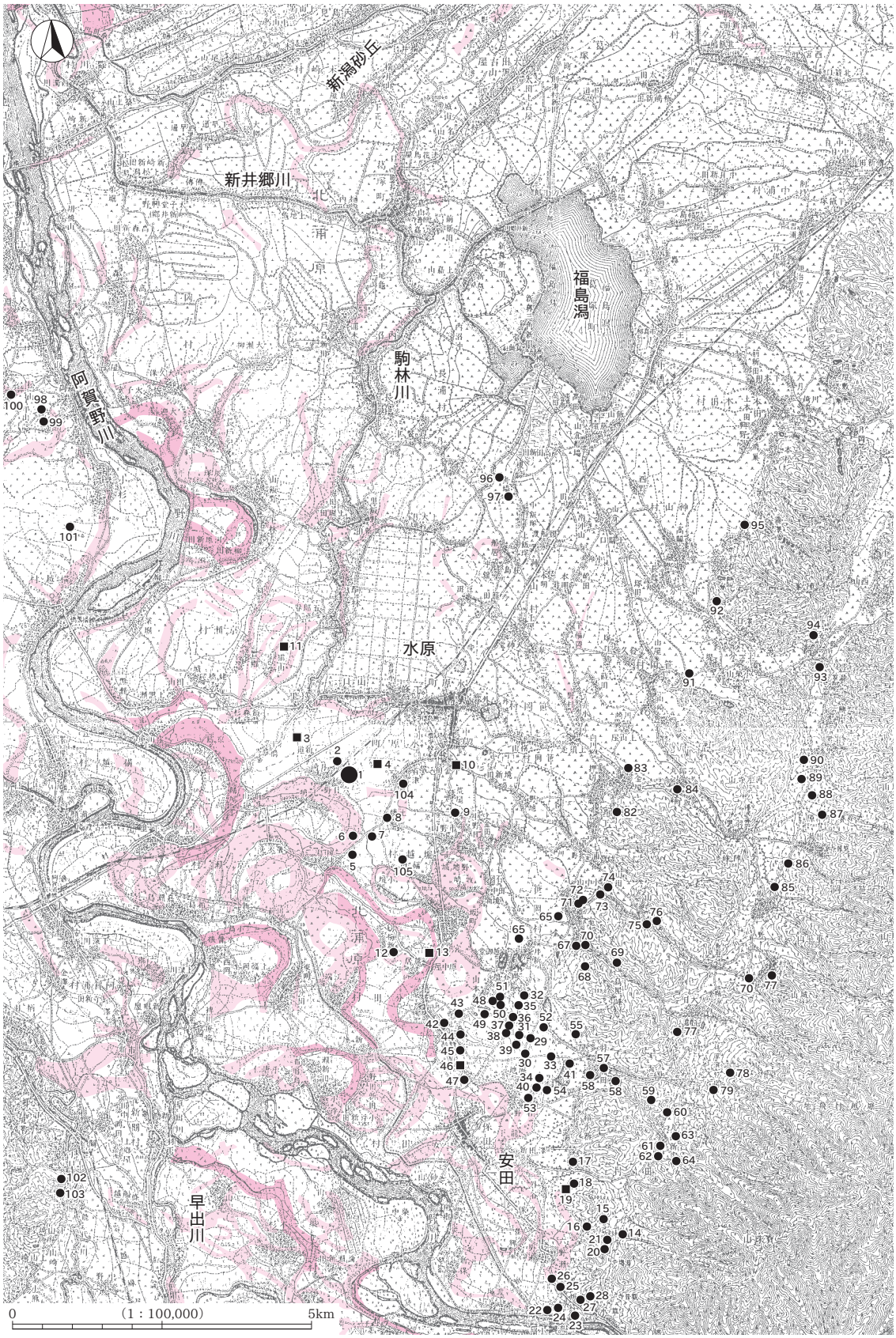
以上のように、各地域で認められた多数の遺跡集中域は、中世白河荘の代表的な村落を示しているものと考えられ、城館・集落遺跡・石仏などで構成され、地域によって窯跡・製鉄跡・石仏・塚が集中するなどの特徴がある。そして、こうした遺物集中域は、境塚遺跡と山口野中遺跡とを結ぶ幹線道路に代表される陸上交通と、河川や潟を利用した内水面交通と有機的に結びついていたものと推測される。

C　周辺の縄文時代遺跡

遺跡周辺は、一般国道 49 号阿賀野バイパス建設のほか、県営湛水防除事業（安野川改修工事）などが行われ、事業に先立つ発掘調査で山口野中遺跡（2）・石船戸東遺跡（7）・土橋北遺跡（104）・村北遺跡（105）など、阿賀野川の旧河道が形成した自然堤防上に立地する縄文時代の後・晩期の遺跡が発見されている。境塚遺跡と JR 羽越本線を隔てて北西側に位置する山口野中遺跡は、晩期後葉の竪穴建物、堅果類・魚類などの食物残滓を燃焼した炭化物の集積、埋設土器などが検出された［村上ほか 2015］。石船戸東遺跡は、明瞭な遺構は検出されなかったが、晩期前半と晩期後半の遺物が出土している［加藤 2016］。土橋北遺跡は、後期と晩期の 2 面の遺構面があり、そのうち晩期の遺構・遺物は縄文時代から平安時代まで継続して流れていた小河川の周辺に多く、土器集中・炭化物集中・炉跡・埋設土器などが見つかっている［佐藤ほか 2017］。

No	遺跡名	時　代	No	遺跡名	時　代	No	遺跡名	時　代	No	遺跡名	時　代
1	境塚	縄文（晩）	28	赤坂山B	縄文（中）	55	手城山	縄文	82	宮下	縄文
2	山口野中	縄文（晩）	29	上野林B	縄文（中）	56	家添	縄文	83	馬屋尻	縄文（中）
3	山口	弥生（前～中）	30	上野林D	縄文	57	家裏	縄文	84	浦林	縄文（中）
4	三辺稲荷	弥生（前）	31	上野林E	旧石器・縄文	58	笹田中山	縄文	85	布依徒塚	縄文
5	石船戸	縄文（晩）	32	上野林F	縄文	59	中山	縄文（中）	86	大石沢	縄文（後）
6	石船戸北	縄文	33	上野林G	縄文	60	ツベタ	縄文（中・後）	87	畑江	縄文
7	石船戸東	縄文（中・後・晩）	34	上野林H	縄文	61	丸山	縄文	88	横道下	縄文（中）
8	土橋	縄文（後）	35	上野林I	縄文	62	保田新割	縄文	89	中野	旧石器・縄文（中・晩）
9	久祢添	縄文	36	上野林J	旧石器・縄文	63	吉ヶ沢平	縄文	90	畑井	縄文（前）
10	下金田	弥生	37	上野林K	縄文	64	中峰下	縄文	91	大沢	縄文（中）
11	猫山	弥生（中）	38	上野林L	縄文	65	大室堤下	縄文（中）	92	下一部	縄文
12	熊居上の山	縄文（中）	39	上野林M	縄文	66	鶴渕	縄文	93	木倉山	旧石器・縄文
13	狐塚	弥生（中）	40	上野林N	縄文	67	貝喰	縄文	94	女堂上ノ山	縄文
14	野中	縄文（中・後）	41	上野林O	縄文	68	貝喰平	縄文（中）	95	滝沢貝喰	縄文
15	徳正寺	縄文（中）	42	大坪	縄文・弥生	69	風吹沢	縄文（中）	96	榎木大割	縄文（後・晩）
16	新割	縄文（中）	43	小山崎	縄文（後）	70	十二神	縄文	97	小曽根	縄文・弥生
17	蔵敷林	縄文	44	中道	縄文（中・後）	71	大室	縄文	98	中山	縄文（中・後）
18	用水林	縄文	45	藤堂	縄文（中・後）	72	王ケ峯	縄文	99	城山	縄文
19	山下A	弥生	46	物見山	弥生（中）	73	下里B	縄文	100	松山	縄文
20	円山	旧石器・縄文（前～後）	47	山ノ下	縄文（中・後）・弥生（中）	74	上小山中	縄文	101	小杉上田	縄文
21	獅子沢	縄文（晩）・弥生（中）	48	横峰C	縄文（中・後）	75	川端A	縄文	102	小実山	縄文（前・中・後・弥生）
22	六野瀬	縄文（前・晩）・弥生（中）	49	行塚	縄文（中・後）	76	川端B	縄文（後）	103	下野山	縄文（後）
23	渡場赤坂山A	縄文	50	横峰A	縄文（晩）・弥生	77	大日ヶ原Ⅰ	縄文	104	土橋北	縄文（後・晩）
24	渡場赤坂山B	縄文（中）	51	横峰B	縄文（中）	78	大日ヶ原Ⅱ	縄文（中）	105	村北	縄文（中・後・晩）
25	官林	縄文（前）	52	二本松	縄文	79	日陰平	縄文			
26	萩野	縄文（前・中・後）・弥生	53	岩野B	縄文（中）	80	村杉	縄文（中・後）			
27	赤坂山	縄文	54	上野林A	縄文（中）	81	薬師平B	縄文			

第 3 表　周辺の縄文・弥生時代遺跡



第 11 図　周辺の縄文・弥生時代遺跡一覧

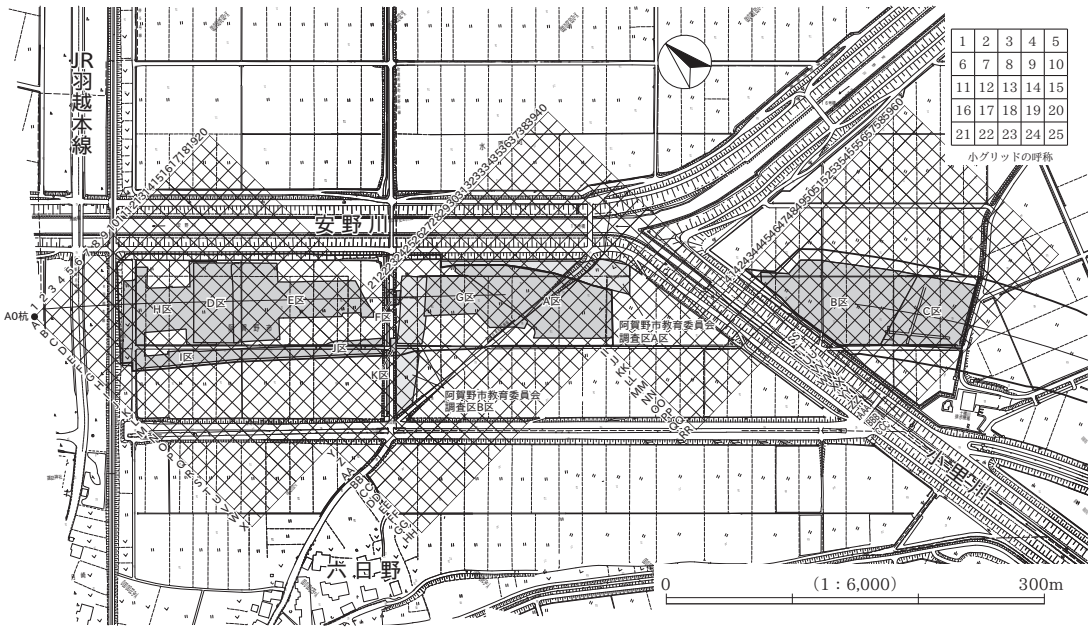
（大日本帝國陸地測量部発行 大正 3 年「津川」大正 8 年「新潟」「新発田」「新津」 1:50,000 原図、旧河道は大矢・加藤［1984］を参照。）

第Ⅲ章　調 査 の 概 要

1　グリッドの設定

境塚遺跡の阿賀野バイパス建設予定地内における総面積は約 38,461m² である。このうち 2009 年度に 18,176m²［荒川・村上ほか 2012］、2014 年度に 6,480m²［荒川・村上ほか 2016］の調査を行った。境塚遺跡における 3 度目の調査は、2015 年に 13,363m² の調査を行った。また、調査区に隣接して阿賀野市教育委員会（以下、市教委）が県営湛水防除事業（安野川拡幅工事）に伴い 2008･2009 年度に 3,412m² の調査を行っている［古澤ほか 2011］。調査区は、2009 年度の調査では便宜的に A・B・C・D 区の 4 か所に分けた。2014 年度はこれに後続する番号を付し、西から E・F・G 区とした。2015 年度もこれに後続して H・I・J・K 区とし調査区を分けた（第 12 図・図版 1）。

グリッドの設定は、2009 年度に設定したものを踏襲した（第 12 図）。国家座標の X 座標 =203340.000（北緯 37 度 49 分 49.23542 秒）[1)]、Y 座標 =62300.000（東経 139 度 12 分 27.87838 秒）[1)] を基点（A0 杭）とし、南北・東西それぞれ 10m の方眼を組み、大グリッドとした。なお、座標値は 2011 年度 3 月 11 日に発生した「平成 23 年（2011 年）東北地方太平洋沖地震（気象庁）」に伴う地殻変動の影響により、地震の前後で値に変動が生じた。地震後の A0 杭の座標値は X 座標 =203339.784（北緯 37 度 49 分 49.22816 秒）、Y 座標 =62301.0296（東経 139 度 12 分 27.92042 秒）である。大グリッドの呼称は、遺跡を覆う方眼を西から東に向けて算用数字（1、2、3…）、北から南へ向けてアルファベット（A、B、C…）を付し、これを組み合わせた。両者の組み合わせにより「16K」「25X」のように表示した。小グリッドは大グリッド



第 12 図　グリッド設定と調査区

1）『境塚遺跡』［荒川ほか 2012］・『境塚遺跡Ⅱ』［荒川ほか 2016］報告の経緯度は間違いである。本報告の数値に訂正する。

の中を 2m 四方に 25 分割した。小グリッドには 1 ～ 25 の番号を付し、北西隅を 1、南東隅を 25 となるように配列した。グリッドは、大グリッドと小グリッドを組み合わせ、「16K2」「25X25」のように表記した。なお、本調査区と市教委の調査区とはグリッド設定・呼称を統一している。

2 層　　序

遺跡は、阿賀野川右岸の自然堤防上に立地する。現況は水田で、田面の標高は約 7.5m を測る。調査区は昭和初期の耕地整理・開田により、遺物包含層の大部分が削平されている。このため、基本的には表土直下が遺構検出面となる範囲が大半を占める。基本層序は 2014 年度調査［荒川ほか 2016］に準じて、Ⅰ～Ⅶ層に分層した（第 13 図）。遺構面は、上層（Ⅳ層）、中層（Ⅵ層）、下層（Ⅶ層）の 3 面に存在することが明らかになっている［荒川ほか 2012、2016］。上層は古代・中世、中層は古墳時代、下層は縄文時代晩期後葉である。上層は 13 世紀後半～ 15 世紀前葉に属する遺構を主体として、調査区の全域で広がっている。中層は G 区北西側の一部に部分的に、下層は D 区北西側に認められる。従って、今回の調査区では上層と下層面の調査を行った。

Ⅰ層　表土・耕作土

Ⅱ層　灰黄褐色シルト（10YR5/2）。H 区南側及び I 区に堆積が認められるものの、H 区北側では確認できず I 層の形成に伴い削平されたものと考えられる。 I 区北側では、Ⅱa 層灰黄褐色シルト（10YR5/2）とⅡb 層にぶい黄褐色シルト（10YR4/2）に細分した。古代～中世の土器のほかにも近世陶磁器が出土しており、近世以降～昭和以前の耕作土と考えられる。

Ⅲ層　灰白色シルト（10YR7/1）。Ⅱ層同様 H 区北側では確認できず、H 区南側及び I 区では部分的な堆積に留まる。古代～中世の土器が少量出土した。

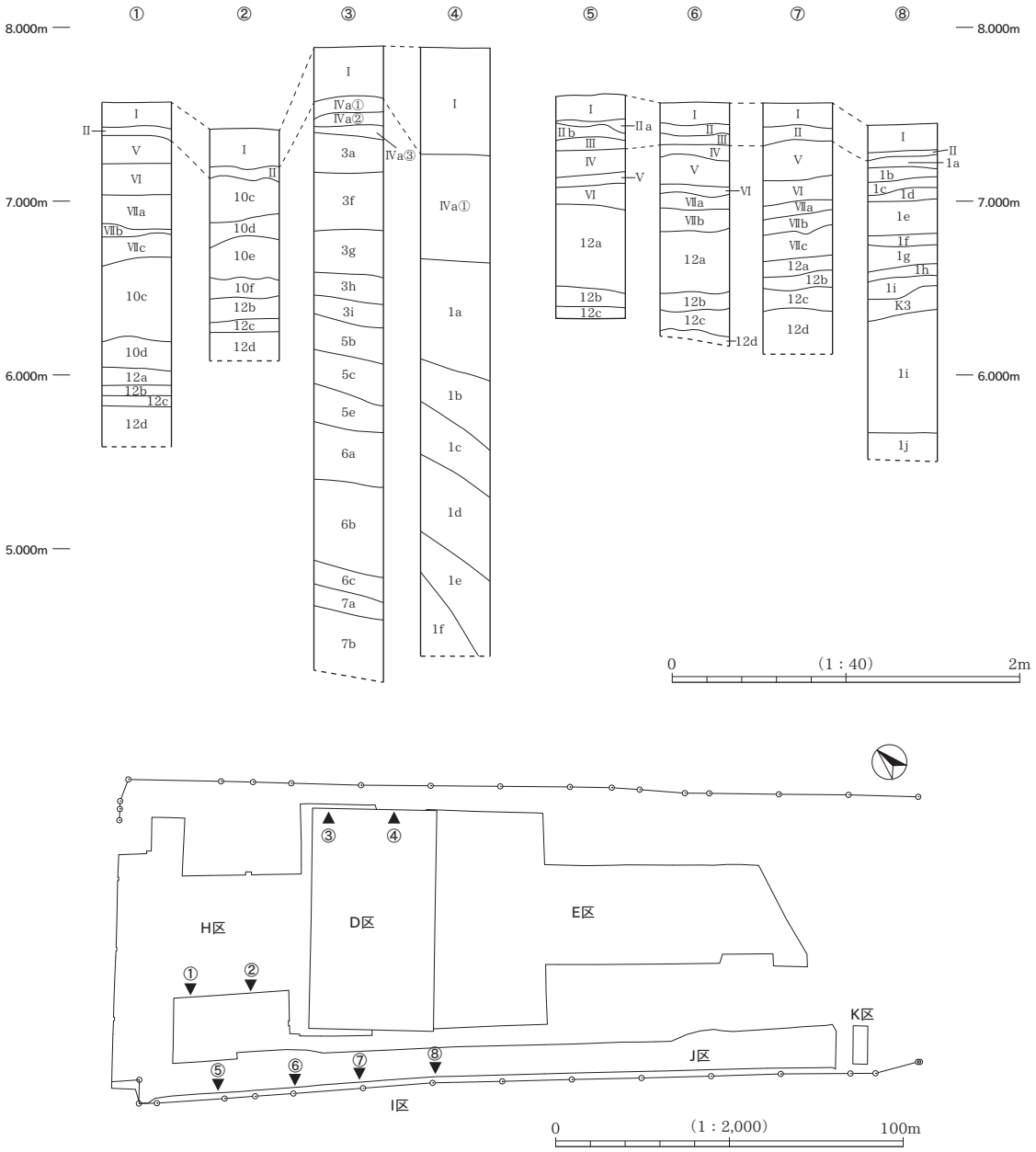
Ⅳ層　浅黄色シルト（2.5Y7/4）。色調はⅤ層よりも明るい。Ⅳ層上面は古代・中世の遺構検出面であるが、H 区及び I 区では層厚が 10cm 前後と薄く、堆積が認められない所もある。D 区東側では層厚が 50cm 前後と厚く、色調も灰白色と異なるため、前回調査の成果を踏まえてⅣa 層とした。Ⅳa 層内には色調の違いが認められるため、Ⅳa ①層灰白色シルト（10YR7/1）、Ⅳa ②層にぶい黄橙色シルト（10YR7/2）、Ⅳa ③層灰白色シルト（10YR7/1）に細分した（上層）。

Ⅴ層　浅黄色シルト（2.5Y7/3）。色調はⅣ層よりも暗い。層厚が 10cm 前後と薄く、H 区南側では堆積が認められない。前回調査では古墳時代の遺物包含層としているが、今回の調査では土器等の遺物を確認できなかった。

Ⅵ層　褐灰色シルト（10YR6/1）。H 区北側及び I 区で堆積し、H 区南側では堆積が認められない。前回調査では古墳時代の遺構検出面とされているが、今回は遺構を検出できなかった。5J2 グリッドで縄文土器が少量出土しており、縄文時代晩期の遺物包含層と捉えられる（中層）。

Ⅶ層　今回の調査では同一層内の色調に違いが認められ、Ⅶa 層灰黄色シルト（2.5Y7/2）、Ⅶb 層淡黄色シルト（2.5Y8/3）、Ⅶc 層明黄褐色シルト（2.5Y7/6）に細分した。Ⅶ層上面は縄文時代晩期の遺構検出面である（下層）。

河道堆積層　D 区で検出した SR2444 は南西から北もしくは北東方向に延びる旧河道で、3a・3h・5e・6a・8a・12b・12d の各層で縄文時代晩期後葉に所属する遺構・遺物を検出した。また基本層序Ⅶ


①
②
③
④
⑤
⑥
⑦
⑧
8.000m
7.000m
6.000m
5.000m
0
(1：40)
2m
H区
D区
E区
I区
J区
K区
0
(1：2,000)
100m

第 13 図　土層柱状図

層はSR2444-10 ～ 12 層の上面に堆積していることを確認した。Ⅶ層で検出した縄文時代晩期の遺構はその上層である 3a・3h・5e・6a・8a 層と同時期に機能していたものと考えられる。

3　本書の記述方針

本書では、古墳時代～中世（上層）、縄文時代（下層）に分けて遺構・遺物の記述を行う。遺構・遺物の説明は、本文・観察表・図版・写真図版を用いて行う。遺構は種別ごとに記述し、掲載するものとする。詳細については、観察表に委ねることとし、特徴的な点や他の遺構との関係を中心に述べることとする。遺物は、土器・陶磁器、石製品、金属製品・鍛冶関連遺物、木製品、一括出土銭の順に種別ごとに記述し、代表的なものを掲載する。

遺 構 番 号

遺構の名称は、遺構種類・番号の順に表記した遺構番号で表す。遺構種類と略称は、掘立柱建物（SB）、柵（SA）、竪穴建物（SI）、井戸（SE）、土坑（SK）、ピット（P）、溝（SD）、炭化物集中範囲（SC）、性格不明遺構（SX）、旧河道（SR）である。遺構番号は、2014 年度調査からの続きの番号とした。掘立柱建物が 48 から、柵が 1 から、これ以外の遺構は 5100 からの番号を付けた。以前の調査で検出した遺構の延長と判断できたものは、新たに番号を付さず、以前の調査で付した番号で呼称した。また、調査中に遺構でないと判断したものは欠番とした。

図　　版

図面図版は、遺構全体図、分割図、主要な遺構の個別図で構成している。土層断面図の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局・財団法人日本色彩研究所監修の 2004 年度版『新版標準土色帖』を使用した。写真図版は、調査の過程に応じた検出状況、断面、遺物出土状況、完掘状況、調査区全景写真を撮影しているが、本文で報告した遺構を中心に掲載した。

観　察　表

項目は、位置・検出層位・形態・規模・底面標高・埋土の堆積形状・出土遺物・切り合い関係などである。遺構の形状・計測値は、遺構検出面での形や数値である。遺構の切り合い関係は「>」で、新＞旧と示した。「=」の場合は、同時期である。

第Ⅳ章　古墳時代～中世の調査

1　遺　　構

A　分　　類

遺構は、平面・断面形態（第 14 図）［荒川・加藤 1999］、堆積形状（第 15 図）［荒川ほか 2004］の分類に準拠し、遺構観察表に記載した。遺構種別はこれらのデータ等を考慮し、以下の様に分類した。

掘立柱建物（SB）

柱穴が一定の間隔で方形または長方形に並ぶものを掘立柱建物とした。建物型式は［宮本 1999］に準拠し、梁間一間型建物と総柱型建物に分類し、さらに梁間一間型建物は類型によって分類した（第 16 図）。掘立柱建物の計測位置は『境塚遺跡Ⅱ』の報告書［荒川ほか 2016］に準じて記述した（第 17 図）。

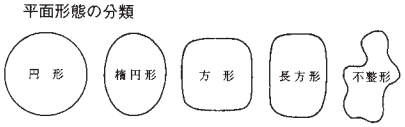
柵（SA）

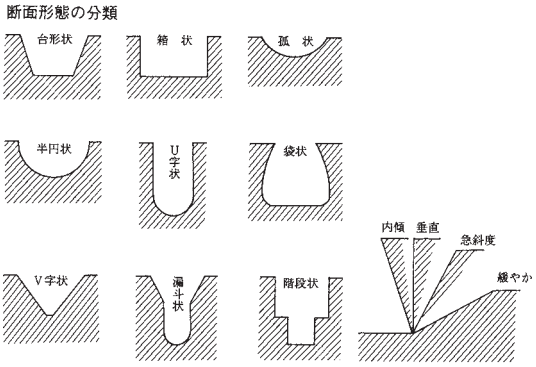
柱穴が一定の間隔で直線状に並ぶものを柵とした。1 列検出し、掘立柱建物に伴うものと考えられる。

方形竪穴遺構（SK）

平面形が方形を呈し深さが約 2.6m と深いものの、断面が階段状を呈し貼床が見られるなどの特徴から、井戸ではない竪穴を方形竪穴遺構と呼称した。

円形	長径が短径の 1.2 倍未満のもの。
楕円形	長径が短径の 1.2 倍以上のもの。
方形	長軸が短軸の 1.2 倍未満のもの。
長方形	長軸が短軸の 1.2 倍以上のもの。
不整形	凸凹で一定の平面形を持たないもの。

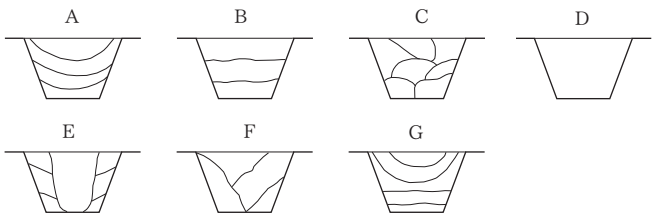




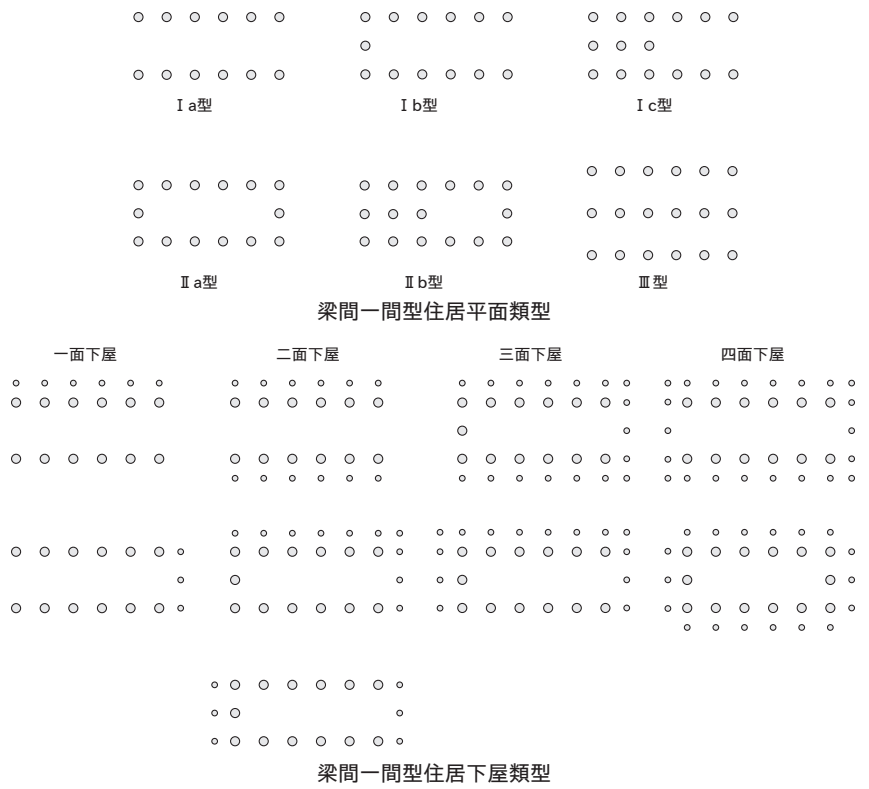
台形状	底部に平坦面を持ち、緩やか～急斜度に立ち上がるもの。
箱状	底部に平坦面を持ち、ほぼ垂直に立ち上がるもの。
弧状	底部に平坦面を持たない弧状で、緩やかに立ち上がるもの。
半円状	底部に平坦面を持たない椀状で、急斜度に立ち上がるもの。
U字状	検出面の長径よりも深さの値が大きく、ほぼ垂直に立ち上がるもの。
袋状	検出面の径よりも底部の径が大きく、内傾した後に垂直ないし外傾して立ち上がるもの。
V字状	点的な底部を持ち、急斜度に立ち上がるもの。
漏斗状	下部がU字状、上部がV字状の二段構造からなるもの。
階段状	階段状の立ち上がりを持つもの。

第 14 図　遺構の平面・断面形態の分類［荒川・加藤 1999］

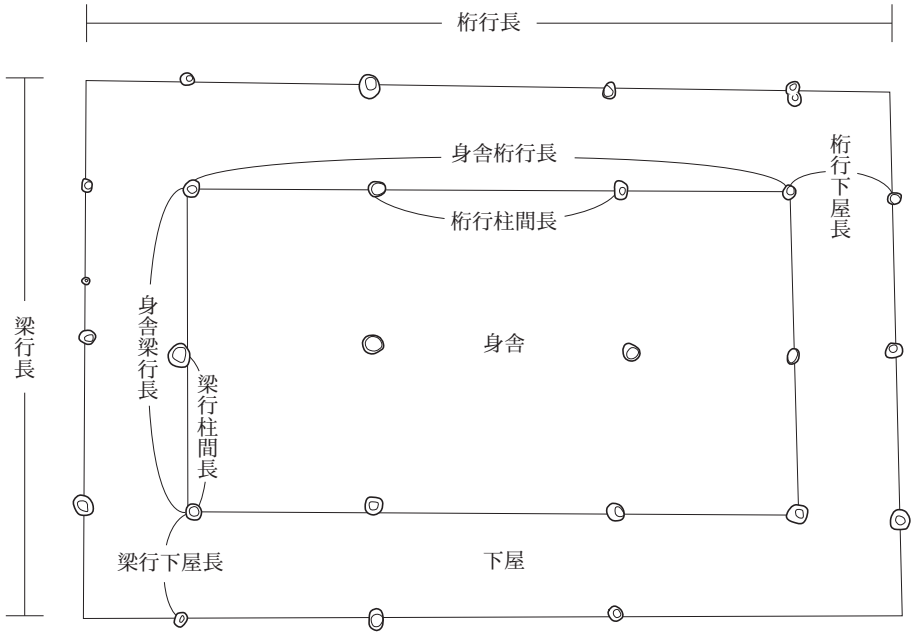
A レンズ状	複数層がレンズ状に堆積する。
B 水平	複数層が水平に堆積する。
C ブロック状	ブロック状に堆積する。
D 単層	覆土が単一層のもの。
E 柱痕	柱痕と思われる土層が堆積するもの。
F 斜位	斜めに堆積するもの。
G 水平-レンズ	覆土下位は水平に、上位はレンズ状に堆積するもの。



第 15 図　遺構埋土の堆積形状の分類［荒川ほか 2004］



第 16 図　梁間一間型建物の類型［宮本 1999］



第 17 図　掘立柱建物の計測位置［荒川ほか 2006 を改変］

井　　戸（SE）

深さがおおむね 1m 以上の竪穴で、底面が透水層に達し地下水を溜め、汲み揚げる機能を有していたと考えられるものを井戸とした。井戸側を持つものと、持たないものがあり、井戸側を持つものは宇野[1982]の分類による「縦板組隅柱横桟留」が存在する。

土　　坑（SK）

深さがおおむね 1m 以下で、井戸以外の機能を有していたと考えられる掘り込みを土坑とした。

方形周溝状遺構

溝が隅丸方形状に巡る遺構を方形周溝状遺構と呼称した。

溝（SD）

道の側溝及び方形周溝状遺構以外の溝で、大きさは大小あり、様々な機能を有している。

道

同規模の 2 条の溝が一定の間隔で平行に延びるものを道の側溝と考え、2 条の溝とこれに挟まれた平面を道とした。

ピット（P）

平面・断面形状から柱穴の可能性が高いものや、小型の穴をピットとして一括した。ピットのひとつに一括出土銭を納めた曲物が出土したものがあった。

性格不明遺構（SX）

上記の遺構の特徴にあてはまらず、性格が不明なものを性格不明遺構とした。

B　掘立柱建物・柵

Ⅳ層上面で掘立柱建物 12 棟、柵 1 列を検出した。出土遺物・柱穴埋土の特徴からいずれも中世に所属する。掘立柱建物型式の内訳は不明の 2 棟を除くと、梁間一間型建物 2 棟、一面下屋付梁間一間型建物 1 棟、二面下屋付梁間一間型建物 1 棟、総柱建物 4 棟、一面下屋付総柱建物 1 棟、二面下屋付総柱建物 1 棟を数えた。

掘立柱建物と柵の主軸方向を見ると、北北東－南南西または西北西－東南東の一群（SB48 ～ 50）と、北東－南西または北西－南東方向の一群（SB51 ～ 59、SA1）に分かれる。前者は 8・9D・E グリッドを中心に分布し、北側に近接する SD5132 と主軸方向が近似するため、これらはほぼ同時期に機能していた可能性がある。いずれも下屋を持たず、面積も小さい。後者は 8・9F・G グリッドと、6J ～ L、7K・L、8J グリッドに分布し、それらの間には方形周溝状遺構や道が位置している。これらの主軸方向はほぼ一致していることから、ほぼ同時期に機能していた可能性がある。一もしくは二面の下屋を持つものがあり、面積も大きいものが多い。また 8・9F・G グリッドに分布する一群ではピット同士の重複があり、SB52<SB53、SB54<SB51 という新旧関係が認められた。

SB48（図版 7・8・82）

8・9D グリッドに位置する。梁間 1 間、桁行 1 間の梁間一間型建物 1a 型で、桁行長 2.92 ～ 2.96m、梁行長 2.56 ～ 2.80m を測る。遺物は P5311 の掘方埋土から土師質土器片が少量出土した。

SB49（図版 7・8・82）

8・9D・E グリッドに位置する。P5171 は P5349 と重複し、これより古い。梁間 2 間、桁行 2 間の総柱型建物であるが、南側の P5153-P5159 間、東側の P5172-P5153 間では柱穴を検出できなかった。

柱穴の深度が浅く、上部が削平され残存していないものと考えられる。桁行長 4.96 ～ 5.00m、梁行長 3.60 ～ 3.84m を測る。桁行柱間長は北側 2.60m、南側 2.40m、梁行柱間長は西側で 2.00m、東側 1.84m であり、それぞれ北及び西側の間隔が広い。

SB50（図版 7・8・82）

8E グリッドに位置する。P5282 は P5283 と重複し、これより新しい。東側梁間が調査区外に及んでいるが、梁間 2 間、桁行 3 間の総柱型建物と推定される。P5157-P5419 間の柱穴は、暗渠掘削時に削平されたと考えられる。桁行長 7.20 ～ 7.36m、梁行長 3.84 ～ 4.00m を測る。桁行柱間長は 2.16 ～ 2.80m を測り、ばらつきがある。梁行柱間長は 1.84 ～ 2.08m を測る。遺物は P5282 の柱痕・P5320 の掘方埋土から土師質土器片が少量出土した。

SB51（図版 7・8・78・83）

9F・G グリッドに位置する。P5481 は SB54-P5390 と重複し、これより新しい。北東側が調査区外に及んでおり、梁間 2 間以上、桁行 4 間以上の総柱型建物と推測される。桁行柱間長は 2.16 ～ 2.64m を測り、ばらつきがある。遺物は P5106・P5108・P5481・P5483（1・2）の掘方埋土から土師質土器が出土した。

SB52（図版 7・9・78・83）

8・9F、8 ～ 10G グリッドに位置しており、本遺構は微地形の一番高いところに構築されている。P5112・P5459・P5116 は SB53-P5111・P5114・P5115 と重複し、これらより古い。梁間 4 間、桁行 5 間の二面下屋付総柱型建物で、桁行長 12.2m、梁行長 7.80 ～ 7.92m を測る。桁行柱間長は 2.40 ～ 2.48m を測り一定しているが、梁行柱間長は 2.08 ～ 2.40m を測り、ばらつきがある。南東部の柱穴を検出できなかったが、南東側に向かって柱穴の遺存状況が悪く、深度も浅くなる傾向があり、削平を受け残存していない可能性がある。柱穴の平面形は隅丸方形を呈する。中央部には柱痕と考えられる黒褐色の隅丸方形のプランが確認され、角材を柱としていた可能性が高い。P5452・P5457 の掘方断面を見ると、底面にシルト土を貼り、その上に柱を立てている。遺物は P5451・P5453 ～ 5457・P5459・P5462・P5465・P5467・P5469 の柱痕及び掘方埋土から土師質土器片が少量、P5478 の掘方埋土から漆器小皿片（311）が出土した。

SB53（図版 7・10・78・83）

9F・G グリッドに位置する。P5111・P5114・P5115 は、SB52-P5112・P5459・P5116 とそれぞれ重複し、これらより新しい。梁間 2 間、桁行 2 間の総柱型建物で、桁行長 4.80m、梁行長 3.36m を測る。確認できない柱穴は、削平を受けて残存していないためと考えられる。

SB54（図版 7・10・78・83）

8・9F グリッドに位置する。P5390 は SB51-P5481 と重複しこれより古い。梁間 1 間、桁行 3 間の梁間一間型建物Ⅰa 型であり、桁行長 6.80m、梁行長 1.76m を測る。桁行柱間長は 2.00 ～ 2.56m を測り、ばらつきがある。遺物は P5390 ～ 5393・P5398・P5399 の掘方埋土から土師質土器片が少量出土した。

SB55（図版 7・10・78・83・84）

8･9F グリッドに位置する。P5381 は SK5371 と重複し、これより古い。P5385 は SD5370 と重複し、これより新しい。梁間 3 間、桁行 3 間の一面下屋付総柱型建物で、桁行長 7.16 ～ 7.34m、梁行長 4.64 ～ 4.76m、桁行柱間長 2.32 ～ 2.48m、梁行柱間長 1.76 ～ 1.92m、梁行下屋長 1.00m を測る。北西に位置する SD5372 は主軸方向が一致しており、本建物の雨落溝の可能性もある。遺物は P5373・P 5374・

P 5376・P 5377・P 5379 ～ 5381・P 5387 の掘方埋土から土師質土器片が少量出土し、P5379 では須恵器・中世陶器が少量出土した。

SB56（図版 7・10・78・83）

8・9F グリッドに位置する。P5270 は SD5370 と重複し、これより新しい。3 本の柱穴が並び、北側が調査区外に及ぶ。柱穴の間隔は 2.08 ～ 2.16m を測る。周囲の掘立柱建物の柱穴間隔や形態が類似しており、同様の規模の掘立柱建物と推定される。遺物は P5270・P5362 の掘方埋土から土師質土器片が少量出土した。

SB57（図版 4・11・76・84・85）

6J ～ L、7K・L グリッドに位置する。P5660 は P5717 と重複し、これより新しい。梁間 4 間、桁行 5 間の二面下屋付梁間一間型建物Ⅱ b 型で、桁行長 12.28 ～ 12.36m、梁行長 6.24 ～ 6.40m、桁行柱間長 2.40 ～ 2.52m、梁行柱間長 1.80 ～ 2.00m、梁間下屋長 1.20 ～ 1.32m を測る。北西側では P5658-P5648 間、南東側では P5661-P5651 間に柱穴がなく、左右対称の構造となっている。柱痕は柱穴 28 基中、16 基で確認した。柱痕の平面プランは隅丸方形を呈するものが多く、柱には角材が用いられていたものと考えられる。SB52 とは異なり柱痕はピット底面に接するものが多い。身舎南西側 P5657 ～ P5662 の柱穴列（d-d'）には柱痕は認められず、柱は抜き取られたものと考えられる。柱痕のない柱穴はレンズ状に堆積する。

遺物は P5641・P5643 ～ 5645・P5647・P5648・P5650 ～ 5652・P5654・P5657（3）～ 5660・P5663 ～ P5668 の掘方埋土から土師質土器の細片が出土した。ほかに P5642 の掘方埋土から珠洲焼甕（4）、P5652 の掘方埋土から金属製品（284）が出土した。

SB58（図版 4・11・76・84・85）

6K・L、7K・L グリッドに位置する。P5698 は SE5716 と重複し、これより新しい。梁間 2 間、桁行 3 間の一面下屋付梁間一間型建物Ⅰa 型で、桁行長 5.52 ～ 5.76m、梁行長 4.28 ～ 4.32m、桁行柱間長 2.2m、梁行柱間長 2.08 ～ 2.20m を測る。遺物は P5690・P5692・P5698 の柱痕及び掘方埋土から土師質土器片が少量出土した。

SB59（図版 6・10・84）

8J グリッドに位置する。3 本の柱穴が並び、北西側が調査区外に及んでおり、梁間 2 間の建物と考えられる。柱穴の間隔は 2.08 ～ 2.24m を測る。周囲の掘立柱建物の柱穴間隔や形態に類似しており、同様の規模の掘立柱建物と推定される。

SA1（図版 7・12）

8F・G グリッドに位置する。5 本の柱穴が並ぶ柵で、P5388 は SD5370 と重複し、これより新しく、P5475 は SK5367 と重複し、これより古い。柱穴の間隔は 2.00 ～ 3.00m を測る。本遺構の南東側に SB51 ～ 54 が位置しており、主軸方向も近似している。本遺構は上記建物群の目隠し塀であった可能性がある。遺物は P5473 の柱痕及び掘方埋土から土師質土器が出土した。

C　方形竪穴遺構

SK5400・SE5401（図版 7・12・13・77・78・85・86・87）

SK5400　9G・H グリッドに位置する。SK5400 は方形竪穴遺構であり、SE5401 は SK5400 の廃絶と同時に構築された井戸である。SK5400 の平面形は方形で、規模は上端長径 2.92m、最大深度 2.6m

である。内部は上段平坦面と下段平坦面の２段に分かれ、階段状を呈す。北東壁及び北西壁は深度約 1.1m まで垂直に下がった後、幅 20 ～ 70cm のＬ字形の上段平坦面が作りだされる。この結果、竪穴中段の間口は長さ 2.45m、幅 2.2m 程度に縮小する。さらに、約 0.8m 垂直に下がった深度約 2.3m に長さ約 2m、幅約 1.5m の長方形の底面が形成され、北東・北西・南東壁に沿って幅約 15 ～ 20cm のコの字形の下段平坦面が作りだされる。底面の中央は下段平坦面より約 15cm くぼみ、長さ約 1.2m の正方形を呈す。上段平坦面は、水平に掘削された掘方上に 18・19 層の盛土がなされ、17 層の白色粘土が貼られている。同様に、下段平坦面も 14 ～ 16 層の盛り土がなされた後に、13 層の白色粘土が貼られている。上段・下段とも白色粘土は平坦面から壁際のやや上方まで丁寧に貼られている。なお、下段平坦面は南側角まで延びていたと推定されるが、SE5401 によって失われている。

付属施設として P1・P2 がある。P1 は上段平坦面で検出されたもので、略正方形に約 5cm くぼんだ範囲である。内部には 17 層白色粘土が貼られており、昇降施設など何らかの器具による圧迫によってできた可能性が考えられる。P2 は 19 層盛土下から検出した長さ 18cm、深さ 14cm のピットである。SK5400 の掘削時に作業用の柱を立てた可能性がある。なお、底面や平坦面、壁からはほかに付属施設は検出されていない。

廃絶後の埋土は１～ 12 層に分層される。９～ 12 層は地山シルトや黒褐色土のブロックからなる撹拌された土で、北東側から短期間に流入したと考えられる。１～８層も同様の土で、四方からの流入が認められる。埋土の土質や堆積状況から、SK5400 は廃絶時に一気に埋め戻されたものと考えられる。

出土遺物は土師質土器（5）などが埋土からわずかに出土したのみであり、底面や平坦面から遺物は出土していない。

SK5400 は約 2.5m の垂直の壁を持つ竪穴であるが、後世に削平されたため本来はさらに深かったものと考えられる。方形竪穴遺構の類例である福島県喜多方市新宮城跡の井戸状木組遺構は、四隅に隅柱を設置して横桟を組み、壁にあてた縦板を固定している［喜多方市教育委員会 2008］。SK5400 も深い垂直の壁が崩落していないことから、木材で壁が支保されていた可能性はある。しかし、底面や壁面に板材や角材のアタリなどの痕跡は認められず、特に平坦面から壁に立ち上がるように施された貼床に板材が置かれた痕跡が確認できないことは、SK5400 が木材によって支保されていなかった可能性を示唆する。

SE5401　SE5401 は、約 95cm 四方の方形の井戸側を持つ井戸である。井戸側は、薄板を縦方向に組み、方形に組んだ横桟とこれを保持する支柱からなる方形縦板組薄板支柱横桟留である。縦板は１段で、長さ 97 ～ 171cm、幅 8.5 ～ 23.4cm の薄板を前後に数枚ずつ重ね、隙間なく並べている。横桟は３段確認でき、目違い柄で組まれている。四隅の支柱は仕口を持たない角材である。水溜は底板を外した直径約 68cm の曲物１点である。井戸側底面と水溜上端はほぼ同一レベルであり、両者の間に 13 層の礫を含む粗砂が充填されている。また、水溜の底面には 12 層の細砂が敷かれている。

埋土は１～ 11 層である。11 層の中位から板材などが出土した。また、10 層にはイネ科植物と見られる茎が多数含まれる。

遺物は珠洲焼壺（6・7）・甕（8）・片口鉢（9）、瓷器系陶器鉢（10）、青磁椀（11）などが出土した。縦板には釘痕がある板材などが再利用されている。

SE5401 の北東及び北西面の側板外側には SK5400 の埋土が直に接しており、これを掘削した痕跡はない。SK5400 を廃絶する際にこの南側角の壁を利用して SE5401 を構築し、埋め戻すことによって井戸側を固定したものと考えられる。したがって、SK5400 と SE5401 は一連の遺構である。

D 井　　戸

井戸は、23 基検出した。時期は、出土遺物・埋土などからいずれも中世である。そのうち井戸側を持つものは 3 基（SE5126・5290・5401）あり、いずれも H 区南側に位置する。埋土を見ると、SE5102・5632 の埋土上・中位、SE5101・5129・5131・5133・5138・5366 の埋土中位、SE5422 の埋土下位では炭化物層を確認した。炭化物層内は土師質土器などの遺物を含む例が多く、特に SE5101・5102・5129 では完形の土師質土器皿を多量に含んでいた。また、SE5138 では多量の焼礫を含み、その中から多字一石経が出土した。出土遺物の特徴から、これらの井戸を廃絶する際に祭祀的な行為を行っていた可能性が高い。

SE5100（図版 7・14・87）

8E グリッドに位置する。平面形は円形を呈し、径 95cm、深度 60cm を測る。埋土は 9 層に分層でき、地山に由来する灰白色シルトをブロック状に含む。1 ～ 3 層はレンズ状に堆積し、3 層は炭化物を多く含み黒褐色を呈する。遺物は 1 ～ 3 層から土師質土器皿（12 ～ 14）・小皿（15）、珠洲焼片口鉢（16）が出土した。

SE5101（図版 7・14・87）

8E・F グリッドに位置する。平面形は方形を呈し、径 239cm、深度 128cm を測る。埋土は 12 層に分層でき、1 ～ 6 層は色調の暗い黒褐色～暗褐色シルトを主体とし、4・5 層では炭化物・焼土を含む。7 ～ 12 層は地山に由来するにぶい黄褐色シルトやにぶい黄橙色シルトを主体とする。遺物は 3 ～ 6 層から多量の土師質土器皿（17）・小皿（18 ～ 23）が出土した。ほかに珠洲焼、青磁椀（24）、金属製品（285）、漆器（312）が出土し、古代の須恵器無台杯（25）の混入も認められた。

SE5102（図版 7・14・87）

8 F グリッドに位置する。P5103 と SD5370 と重複し、P5103 より古く、SD5370 より新しい。平面形は円形を呈し、径 186cm、深度 130cm を測る。断面形は袋状を呈する。埋土は 23 層に分層した。1 ～ 3 層はレンズ状に堆積し、4 ～ 23 層はブロック状に堆積する。黒色系・褐色系・黄色系の土層が交互に堆積しており、人為的に埋められたものと考えられる。遺物はすべての埋土から出土し、中でも炭化物を多量に含む黒褐色層（3・6・14 層）から完形の個体を含め多くの土師質土器皿（26 ～ 44）・小皿（45 ～ 55）、金属製品（286）が出土し、古代の須恵器の混入も認められた。

SE5126（図版 6・15・88）

8I・J グリッドに位置する。SD2332 と重複し、これより古い。平面形は方形を呈し、径 209cm、深度 137cm を測る。また遺構検出時に 75cm 四方の井戸側の痕跡を確認した。断面形は遺構底面に近い南東側が袋状に張り出す。埋土は 34 層に分層でき、0 層が井戸側板の腐食土層、1 ～ 15 層が井戸側内部の土層、16 ～ 33 層が井戸側外部の土層となる。いずれも地山に由来する黄褐色系・灰白色系シルトを主体としており、人為的に埋め戻されたと考えられる。井戸側内部は、1 ～ 9 層は粘性度が強く、9 層以下は砂質土となり、井戸側外部はいずれも地山に由来する砂質土である。井戸側は標高 6.4m 以下に残存していた。構造は板材を縦方向に組み、横桟で保持した縦板組隅柱横桟留である。縦板や隅柱は遺存状態が悪く、外側の 0 層下部に位置する直径 75cm の井戸側と、内部に位置する直径 60cm の井戸側の二重構造となっていた。底部に曲物がなかったことから、内部の井戸側が水溜の役割をしていた可能性がある。遺物は 1・3・4 ～ 6・8 ～ 10・13 層から土師質土器小皿（56）、珠洲焼甕（57）、青磁椀（58）が出

土したほか、古代の土師器長甕（59）、須恵器甕（60）の混入も認められた。

SE5129（図版 7・16・77・78・88）

8F グリッドに位置する。平面形は円形を呈し、径 266cm、深度 144cm を測る。断面形は台形状で、側壁は急斜度に立ち上がる。埋土は 30 層に分層でき、レンズ状に堆積する。1 ～ 19 層までは褐色系のシルトと黒色系シルトが交互に堆積し炭化物を含む。20 層以下は地山に由来する浅黄色・にぶい黄橙色・灰白色シルトが主体で酸化鉄を多く含む。特に 14 層は土壌化した炭化物層で、30mm 以下の炭化物や灰を多量に含み、層厚は 10 ～ 30cm を測る。この層にそって約 300 点、総重量約 23.2kg もの土師質土器皿（61 ～ 109）・小皿（110 ～ 149）が完形品が多く、積み重なるように出土した。ほかに青磁椀（150・151）、青白磁瓶子（152）、白磁椀（153）、金属製品（287・288）が出土し、古代の須恵器無台杯（154）の混入も認められた。

SE5130（図版 7・15・88）

7E グリッドに位置する。平面形は円形を呈し、径 208cm、深度 104cm を測る。側壁は北側がやや緩やかな傾斜となる。埋土は 20 層に分層でき、レンズ状に堆積する。1 ～ 13 層にかけては黒褐色～灰黄褐色を呈し、色調の差は地山ブロックの多寡によるものである。14 層以下は地山ブロックを主体とした明るい色調となるが 17 層のような黒褐色シルト層を間に挟む。遺物は土師質土器皿（155）・小皿（156）、珠洲焼、鉄滓（306）が出土したほか、12 層下位から人頭大の 4 点の扁平礫が底面を水平にした状態で出土した。石材は頁岩・流紋岩・安山岩で、何らかの意図を持って置かれた可能性がある。

SE5131（図版 7・17・89）

7E グリッドに位置する。平面形は円形を呈し、径 127cm、深度 108cm を測る。埋土は 19 層に分層でき、1 ～ 3 層が褐灰色シルト層、4 ～ 15 層は炭化物を含む黒色系シルトと地山に由来する灰白色・浅黄橙色系シルトが交互に堆積する。16 ～ 19 層にかけては地山に由来する浅黄橙色シルトを多く含む層となる。遺物は土師質土器皿（157）・小皿（158）が細片の状態で出土した。特に炭化物を多く含む 4 ～ 15 層に多い。また古代の須恵器横瓶片（159）の混入も認められた。

SE5133（図版 7・17・89）

9D グリッドに位置する。平面形は楕円形を呈し、長径 220cm、深度 100cm を測る。側壁は南側が緩やかで、北側は急斜度に立ち上がる。埋土は 24 層に分層でき、ブロック状に堆積する。1 ～ 8 層は灰黄褐色、にぶい黄橙色シルトである。9 ～ 13 層は炭化物を含むことでやや色調が暗くなり、土師質土器の細片を少量含む。17 ～ 22 層は地山に由来するにぶい黄橙色シルトを主体とする。最下部の 23・24 層が色調の暗い褐灰色、黒褐色シルト層となる。遺物は 1 層から土師質土器、珠洲焼、白磁片（160）が出土した。

SE5134（図版 7・17・89）

9D グリッドに位置する。平面形は円形を呈し、径 90cm、深度 70cm を測る。側壁は下部が急斜度、上部が緩やかに立ち上がる。埋土は 7 層に分層した。1 ～ 4 層はレンズ状に薄く堆積する。5 ～ 7 層は厚く堆積し、5 層が黒褐色土と浅黄橙色シルトの混合土、6 層が黒褐色シルト、7 層は灰黄褐色シルトである。炭化物は 1 ～ 3・5・7 層に含まれる。

SE5138（図版 7・18・78・89）

7E グリッドに位置する。SK5300 と重複し、これより古い。平面形は円形を呈し、径 263cm、深度 162cm を測る。また、深さ 60cm の地点で緩やかな段を有する。埋土は 38 層に分層でき、1 ～ 15 層

までの上部はレンズ状に堆積し、16 層以下はブロック状に堆積する。24 層以下では灰黄褐色～にぶい黄橙色の明るい色調を呈し、地山由来の土質となる。レンズ状堆積の下部にあたる。10 ～ 13 層には被熱により赤化し、割れた礫を含む。特に 11 層下部には極めて多くの礫が重層的に堆積し、層厚 25cm を測る。礫は中央から西側にかけて多く出土した。西側は密で小さく破損した礫が多量に出土するのに対し、中央部は比較的まばらで、重量のある拳大の礫が多い。このことから井戸の西側から廃棄されたと想定され、11 層が井戸中央で凹状となることからより重量のあるものがより低位に落下したと考えられる。また 11 層は炭化物を多量に含んでおり、礫は有機物と共に焼成を受けた状態で廃棄され、赤化・破損の状態も著しいことから長時間の火を受けたものと考えられる。

遺物は 1・2・4 ～ 6・11 ～ 14・17 ～ 19・32 層から土師質土器皿（161）、珠洲焼片口鉢（162）、金属製品（289 ～ 292）が出土したほか、須恵器の混入も認められた。前述した礫は 6,350 点を数え、総重量 381,793g を測る。99% が破損礫で、拳大以上のものから、5mm 以下の細片まで含む。石材は点数比で砂岩 57%、凝灰岩 20%、流紋岩 11%、花崗岩 8%、その他 4% となり、砂岩や凝灰岩の比率が高い。また礫の中から多字一石経 1 点（309）を確認した。

SE5146（図版 6・19・90）

10I グリッドに位置する。平面形は円形を呈し、径 223cm、深度 105cm を測る。断面形は漏斗状を呈する。埋土は 13 層に分層でき、レンズ状に堆積する。中心部に近い 1 ～ 6 層が灰黄褐色～黒褐色を呈し、その外側の 7 ～ 9 層は地山に類似した堆積土で若干の粘性がある。下部の 10 ～ 13 層は色調が明るく、地山に由来するにぶい黄褐色～にぶい黄橙色シルトでやや砂質土である。中央部の埋土の色調が暗く、外側は地山由来であることから、井戸側の存在を想定したがその痕跡は確認できなかった。遺物は 2 ～ 4 層から土師質土器の細片が少量出土した。

SE5203（図版 5・19・90）

3H グリッドに位置する。平面形は円形を呈し、径 118cm、深度 74cm を測る。断面形は台形状を呈する。埋土は 3 層に分層でき水平に堆積することから、人為的に埋め戻されたと考えられる。1・2 層は褐灰色シルトを主体とし、3 層が地山に色調が近い浅黄橙色シルトである。遺物は 3 層から軽石(283)が出土した。

SE5204（図版 5・19・90）

5H グリッドに位置する。平面形は円形を呈し、径 92cm、深度 62cm を測る。断面形は半円状を呈する。埋土は 7 層に分層でき、ブロック状に堆積する。上部の 1･2･4 層が褐灰色シルトで薄く堆積するのに対し、下部の 3・5 ～ 7 層は地山に由来するやや砂質の灰白色・浅黄橙色シルトが厚く堆積する。遺物は 6 層から土師質土器が少量出土した。

SE5268（図版 6・19・90）

8H グリッドに位置する。平面形は円形を呈し、径 164cm、深度 71cm を測る。断面形は台形状を呈する。埋土は 7 層に分層でき、おおむねレンズ状に堆積する。いずれの層も地山ブロックを多く含むことから人為的な埋土と考えられる。1 ～ 4 層は南西側からの斜位の堆積が認められる。6・7 層は地山に類似した砂質シルトとなり、少量の褐灰色シルトを含む。遺物は 2・3 層から土師質土器、珠洲焼片口鉢（163）が少量出土したほか、古代の須恵器甕片（164）の混入が認められた。

SE5290（図版 6・20・90・91）

8K グリッドに位置する。平面形は円形を呈し、径 345cm、深度 294cm を測る。側壁東側の浅い部分にテラス状の段差が見られ、そのほかはおおむね中心部に向かって急斜度に落ちる。遺構検出時に中心部

に隅丸方形のプランが見られ、井戸側の設置を確認した。構造は板材を縦方向に組み、横桟で保持した縦板組隅柱横桟留である。腐食した側板の痕跡は深さ 70cm から明瞭に確認でき、標高 5.9m 以下で出土した。側板は上部からの土圧でハの字状に押しつぶされて検出され、最下部の桟木も破損し、菱型に歪み、水溜周囲の掘方も菱型に変形していた。これは地震による影響と考えられ、側板や桟木の破損状況から北東側からの強い圧力が想定できる。また深さ 170cm、240cm、260cm の部分にテラス状の段差があり、それぞれ井戸側板、上段の曲物、下段の曲物の出土位置と対応しており、これらの設置時の足場として利用したと考えられる。

埋土は 41 層に分層した。井戸側内部はレンズ状堆積で、地山ブロックの少ない均質な土質で下位に向かうにつれて灰色味を帯びる。掘方埋土は地山ブロックを多く含む。北東側の 5 ～ 8、11・13 層と外側の 16 ～ 18 層は本来同一の土層と考えられ、井戸側の破損時に、一部が地すべりのような状態で内側に崩落したものと考えられる。

井戸底面には水溜として曲物（348・349）が上下 2 段に設置され、掘方埋土と曲物の間には拳大の礫が充填されていた。桟木は敷き詰められた礫の上部に載せ、目違継ぎで組まれている。上下の曲物は 8cm 程度重複させながら設置し、縦板も上部の曲物を覆うように設置されていた。下段曲物下部の 40 層は非常にしまりが弱く、周囲の地山と明らかに異なっていた。40 層底面は縄文時代晩期の自然流路である SR2444 の礫層にあたり、この礫層が透水層であった可能性が高い。

遺物は 1 ～ 12・18・22・24 ～ 26・37 層から土師質土器皿（165）・小皿（166）、珠洲焼片口鉢（167）、青磁椀（168）、白磁皿（169）、石製品（277）、金属製品（293・294）が出土したほか、古代の須恵器無台杯（170）・有台杯（171）・折縁杯（172）・甕（173）の混入が認められた。曲物のまわりに敷き詰られた礫は 343 点で、被熱礫や破損礫は少なく、大半が自然礫である。礫の重さは 117,770g を量る。石材構成は点数比で砂岩 33%、流紋岩 27%、凝灰岩 9%、チャート 8%、花崗岩 7%、頁岩 6%、安山岩 2%、緑色岩 2%、その他が 6% となる。

SE5353（図版 7・21・91）

8E グリッドに位置する。平面形は円形を呈し、径 78cm、深度 72cm を測る。埋土は 15 層に分層でき、1 ～ 4 層は灰黄褐色シルトで、5・9・10・14 層は黒色系で粘性が強く地山ブロックを含む。10・11 層は炭化物を含み、特に 10 層底面には炭化物層が約 1cm にわたり堆積する。井戸壁際は地山の崩落土と考えられる浅黄橙色シルトが堆積する。遺物は 1 層から土師質土器の細片が少量出土した。

SE5359（図版 7・21・91）

6E グリッドに位置する。P5361 と重複し、これより新しい。平面形は円形を呈し、径 104cm、深度 116cm を測る。断面形は箱状を呈する。埋土は 12 層に分層でき、上部がレンズ状、下部がブロック状に堆積する。1 層はにぶい黄褐色シルト、2 層は黒褐色シルトである。中心部に位置する 3 ～ 10 層は灰黄褐色シルトを主体とする。その外側は地山の崩落土と考えられる明黄褐色シルトが堆積する。いずれも類似した埋土であり、人為的に埋め戻していると考えられる。遺物は 6 層から人頭大の亜角礫が 1 点出土した。

SE5366（図版 7・21・91）

8G グリッドに位置する。平面形は円形を呈し、径 92cm、深度 73cm を測る。断面形は U 字状を呈する。埋土はレンズ状に堆積し、9 層に分層した。1 層は褐灰色シルト、2 層以下は灰黄褐色シルトが主体となる。4 層では炭化物を多量に含む。遺物は 1・2・5・8 層から土師質土器の細片が少量出土した。

SE5422（図版 7・21・91）

9D グリッドに位置する。北東側は調査区外へ及ぶが、平面形は楕円形と推定される。側壁北西側が急斜度で南東側が緩やかな立ち上がりとなる。埋土は 22 層に分層でき、レンズ状に堆積する。全体的に地山ブロックを多く含むことから、人為的に埋め戻したものと考えられる。地山ブロックは特に 6・7 層で多量に含む。11 層以下は炭化物を含み、色調の暗い褐灰色・黒褐色シルトと、地山に由来する灰黄褐色シルトや明黄褐色シルトが交互に堆積する。遺物は 4・5 層から土師質土器、珠洲焼甕（174・175）が出土した。

SE5631（図版 4・22・91）

7K・L グリッドに位置する。平面形は円形を呈し、径 158cm、深度 54cm を測る。側壁南側は緩やかで、北側は垂直に立ち上がる。埋土は 8 層に分層でき、1・5 層は黒色シルトが主体であるが、それ以外は地山に由来する灰白色・にぶい黄橙色・浅黄橙色シルトを主体とする。全体的に地山ブロックを多く含むことから人為的に埋め戻されたと考えられる。深度が浅いため、土坑の可能性も考慮したが、堆積状況が隣接する SE5632･5716 と類似しているため井戸と認識した。遺物は 1･5 層から土師質土器皿（176）などが少量出土した。

SE5632（図版 4・22・92）

7L グリッドに位置する。SE5716 と重複し、これより新しい。平面形は楕円形を呈し、長径 254cm、深度は 119cm を測る。断面形はＶ字状を呈し、底部に向かって緩やかに傾斜し、底部中央が直径 30cm 程度の円形となる。埋土は 19 層に分層した。1 ～ 5 層は褐灰色シルトとにぶい黄橙色シルトが交互に堆積する。炭化物は 6 ～ 8・12 ～ 15・18・19 層に含む。8 ～ 11 層にかけては灰黄褐色シルト、12 ～ 19 層は若干粘性のあるにぶい黄橙色シルトが堆積する。遺物は焼土粒を含む 6a・b 層で土師質土器皿（177・178）などが出土した。また古代の須恵器の混入も認められた。

SE5716（図版 4・22・92）

7L グリッドに位置する。SE5632、SB58-P5698 と重複し、これらより古い。平面形は円形を呈し、径 305cm、深度は 129cm を測る。断面形はＶ字状を呈し、底部に向かって緩やかに傾斜し、底部中央が 60cm の円形となる。埋土は 13 層に分層でき、1a･b 層が浅黄色シルト、2a･b 層が褐灰色シルト、3 ～ 8 層が浅黄色シルト、9 層が灰黄色シルト、10 ～ 12 層はにぶい黄色シルトである。おおむね地山に由来する黄色系シルトを主体とすることから人為的に埋め戻されたと考えられる。遺物は 1・2 層から土師質土器、青磁椀（179）が少量出土したほか、古代の須恵器杯蓋（180）の混入も認められた。

E　土　　坑

土坑は 42 基検出し、出土遺物・埋土などの特徴から古代 1 基（SK5201）、近世以降 6 基（SK5253・5267・5614・5670・5671・5674）以外の 35 基は中世に所属すると考えられる。

中世の土坑の平面形態は楕円形 21 基、長方形 6 基、円形 7 基、方形 1 基となり、断面形態は弧状 20 基、半円状 6 基、箱状 4 基、Ｕ字状 2 基、台形状 2 基がある。これらを 2009 年度調査の土坑分類案［村上 2012a］を参考に 1 類：楕円形－弧状・台形状、2 類：方形・長方形－弧状・台形状、3 類：円形－弧状・台形状、4 類：円形－箱状に分類して記述する。

1・2 類の多くの土坑は主軸方向が近接する建物・溝と同じ方向である。同様の傾向はＡ区でも確認でき、同時期に機能していた可能性が指摘されている［村上前掲］。

1）古 代 の 土 坑

SK5201（図版 5・23・95）

4H3・4・9 グリッドに位置する。埋土は 3 層に分層でき、水平に堆積する。埋土は中世の遺構と異なり、地山土に類似していた。1・2 層が灰白色粘土層、3 層は褐灰色粘土層で、いずれも酸化鉄やマンガンを多く含む。底面は平らで、側壁は垂直に立ち上がる。埋土 1 層上面で須恵器甕（181）が横位につぶれた状態で、北東から南西方向に落ち込むような形で出土した。

2）中世の土坑 1 類：楕円形－弧状・台形状

21 基検出した。上端長径は最小 58cm、最大 188cm を測り、70 ～ 110cm のものが全体の 67% を占める。深度は 5 ～ 40cm といずれも浅い。位置関係を見ると、① SD5132 に近接する SK5135・5161・5301、② SB51 ～ 55 に近接する SK5110・5365・5368、③ SB51 ～ 55 の西側に位置する SK5300・5325・5360・5409・5412、④道 2 に近接する SK5120・5208・5227・5237・5266、⑤ SD5618 に近接する SK5622・5623・5624・5627、⑥ SD5600 に近接する SK5616 に大別できる。③以外の土坑は SK5368 を除いてそれぞれの近接する溝・掘立柱建物の主軸方向に平行もしくは直交している。

SK5110（図版 7・23・94）

9F18・23 グリッドに位置する。SD5107 の南東、SB52 の北東辺に位置する。周囲の遺構は密で掘立柱建物が集中する。埋土は 2 層に分層でき、暗褐色シルトがレンズ状に堆積する。底面は中央が一番深く、側壁は緩やかに立ち上がる。

SK5120（図版 5・23）

5H12 グリッドに位置する。北西－南東方向に延びる道 2 の南側に位置し、東側に SE5204、西側に SK5208 が位置する。埋土は 3 層に分層でき、レンズ状に堆積する。1 層に地山ブロックを多く含むにぶい黄橙色シルト、2 層は粘性の強い黒褐色シルト、3 層は暗褐色シルトである。底面はおおむね平らで、側壁は急斜度に立ち上がる。

SK5135（図版 7・23・94）

9D7 グリッドに位置する。埋土は 6 層に分層でき、レンズ状に堆積する。1 層は褐色シルト、2・3 層が灰褐色シルト、4 層が暗褐色シルト、5・6 層は灰白色シルトである。底面は平らで、側壁は急斜度に立ち上がる。主軸方向は SD5132 に対し、おおむね直交する。遺物は 1 層から土師質土器が出土した。

SK5161（図版 7・23・95）

8D18・19・23・24 グリッドに位置する。P5364 と重複し、これより新しい。東西に延びる SD5132 の南側、SB48・49 の西側に位置する。埋土は 4 層に分層でき、レンズ状に堆積する。1・2 層に黒褐色シルト、3・4 層は地山に由来する灰白色シルトである。断面形は弧状を呈し、側壁は緩やかに立ち上がる。底面はやや凹凸がある。SK5149・5301 が付近にあり、主軸方向はおおむね SB48・49 に対して平行、SD5132 に対して直交する。遺物は 2・4 層から土師質土器が少量出土した。

SK5208（図版 5・23・95）

5H6・7 グリッドに位置する。道 2 の南西側にある。埋土は 4 層に分層でき、レンズ状に堆積する。1・2 層が灰白色シルト、3 層が灰色シルト、4 層は浅黄橙色シルトである。底面は中央部が一番深く、側壁

は緩やかに立ち上がる。

SK5227（図版 4・23・96）

8H16 グリッドに位置する。道 2 の路面上にある。埋土は 2 層に分層でき、1 層は灰黄褐色シルト、2 層は明黄褐色シルトである。いずれも地山に由来するブロックを多く含む。側壁は急斜度に立ち上がる。

SK5237（図版 5・24）

7H22・7I2 グリッドに位置する。埋土は 4 層に分層でき、ブロック状に堆積する。埋土上部の 1・3 層は暗褐色粘土、4 層は褐灰色シルトで、炭化物を含む。側壁は急斜度に立ち上がる。主軸方向は N-55°-W を測り、北側の SD2332 とほぼ平行する。

SK5266（図版 5・24・96）

7H13 グリッドに位置する。方形周溝状遺構 SD5260 と重複し、これより新しい。埋土は 4 層に分層でき、斜位に堆積する。SD5260 の位置する北東側からの堆積が認められた。いずれも地山に由来するシルトブロックを多く含み、明るい色調を呈する。1 層がにぶい黄褐色シルトで炭化物を含み、2 ～ 4 層は明黄褐色シルトである。主軸方向は N-56°-W を測り、SD5260 南西辺にほぼ直交する。底面はやや凹凸があり、側壁は急斜度に立ち上がる。遺物は 2 層から土師質土器が出土した。

SK5300（図版 7・24）

7E16 グリッドに位置する。SE5138 と重複し、これより新しい。埋土は浅黄橙色シルトブロックを多量に含む黒褐色粘土の単層である。底面は平らで広く、側壁はやや急斜度に立ち上がる。主軸方向は N-16°-E を測る。

SK5301（図版 7・24・96）

8D16・21 グリッドに位置する。埋土は 4 層に分層でき、レンズ状に堆積する。1・4 層は褐色粘土、その間の 2・3 層は黒色粘土～シルトで、3 層は炭化物を中量含む。底面はやや凹凸があり、側壁は急斜度に立ち上がる。主軸方向は N-11°-W を測り、SD5132 に対して直交する。遺物は 3 層から土師質土器が少量出土した。

SK5325（図版 5・24・96）

6E19・20 グリッドに位置する。埋土は 2 層に分層でき、レンズ状に堆積する。1 層は黒褐色粘土、2 層は暗褐色粘土である。側壁はやや急斜度に立ち上がる。

SK5360（図版 7・24・96）

6E5 グリッドに位置する。北側は調査区外に及ぶ。埋土は 3 層に分層でき、1 層がにぶい黄褐色シルト、2・3 層はにぶい黄色シルトである。側壁は急斜度に立ち上がる。遺物は 1 層から土師質土器が少量出土した。

SK5365（図版 7・24・96）

8G 3・4 グリッドに位置する。P5287 と重複し、これより古い。SB52、SD5107 の西側、SB55 の南側に位置する。同様な規模の SK5367 や SK5368 と共に土坑群を形成している。埋土は 2 層に分層でき、レンズ状に堆積する。灰黄褐色・浅黄色シルトからなり、地山由来のブロックを多く含む。底面はやや平らで、側壁は急斜度に立ち上がる。主軸方向は隣接する SB52 とほぼ平行する。遺物は 1・2 層から土師質土器が少量出土した。

SK5368（図版 7・24・97）

8F18・19 グリッドに位置する。P5285 と重複し、これより古い。SB55 と重複し、SK5365・5367 と共に土坑群を形成している。埋土は 3 層に分層でき、レンズ状に堆積する。いずれも灰黄褐色シルト

を主体とし、にぶい黄色シルトを含む。底面は中央が一番深く、側壁は急斜度に立ち上がる。遺物は１～３層から土師質土器皿（183）、１層から珠洲焼が出土した。

SK5409（図版７・25）

7F18・23 グリッドに位置する。SK5412 と重複し、これより新しい。埋土は６層に分層でき、水平レンズ状に堆積する。１～３層は暗褐色～黒褐色粘土で色調が暗い。４層は褐色粘土、５・６層は地山由来の灰黄褐色～にぶい黄褐色粘土・粘質シルトである。土坑としたが、垂直に立ち上がる壁と堆積状況から素掘りの井戸の可能性も考えられる。

SK5412（図版７・25）

7F23 グリッドに位置する。SK5409・P5410 と重複し、これより古い。埋土は暗褐色粘土の単層で、炭化物を多量に含む。断面形は弧状を呈し、側壁は緩やかに立ち上がる。

SK5616（図版３・25）

15T2 グリッドに位置する。埋土は２層に分層でき、１層が黒褐色粘土、２層は浅黄橙色粘土である。

SK5622（図版４・25・97）

12Q1・2・7 グリッドに位置する。方形区画状の溝 SD5618 の内部に位置しており、南西側は調査区外に及ぶ。埋土は６層に分層でき、褐色シルト・灰黄褐色シルトを基調とし、レンズ状に堆積する。底面はやや凹凸が認められるが、おおむね平らで、側壁は南東側が急斜度、北西側が緩やかに立ち上がる。

SK5623（図版４・25）

12P18 グリッドに位置する。方形区画状の溝 SD5618 と重複し、南西側の大部分が欠失する。埋土はにぶい黄橙色シルトの単層である。断面形は台形状と推定される。

SK5624（図版４・25）

10O9 グリッドに位置する。方形区画状の溝 SD5618 と重複し、これより新しい。埋土は灰黄褐色シルトの単層である。側壁は急斜度に立ち上がる。

SK5627（図版４・25・97）

11P10 グリッドに位置する。SD5618 と重複し、これより古い。埋土は４層に分層でき、１・２層は灰白色～灰黄褐色シルトで地山ブロックを含み明るい色調である。３層は褐灰色シルトで色調が暗い。４層はにぶい黄褐色シルトで明るい色調となる。側壁は急斜度に立ち上がる。

3）中世の土坑２類：長方形・方形－弧状・台形状

７基検出した。上端長径は最小 71cm、最大 134cm を測り、深度は５～ 29cm といずれも浅い。位置関係を見ると、① SD5132 に近接する SK5137・5149、② SB50 に近接する SK5284 、③ SB51 ～ 55 に近接する SK5367、④ SB51 ～ 55 の西側に位置する SK5332、⑤道１に近接する SK5630、⑥ SD5618 に近接する SK5621 に大別できる。④以外の土坑は、それぞれの近接する溝・掘立柱建物の主軸方向に平行もしくは直交している。

SK5137（図版７・23・95）

9D8 グリッドに位置する。東西方向に延びる SD5132 の北側に位置し、これとほぼ主軸方向が一致する。P5136 と重複し、これより古い。周囲に SE5133・5134、SK5135 などがあり、遺構の密度が高い。埋土は６層に分層でき、レンズ状に堆積する。１・２層は褐色シルトで炭化物を含む。３層以下は地山に由来するブロックの混合土となる。側壁は、西側が急斜度に立ち上がるが、東側は緩やかに立ち上がる。

遺物は１・２層から土師質土器が出土した。

SK5149（図版７・23・95）

8E4・5・9 グリッドに位置する。P5337 と重複し、これより新しい。東西に延びる SD5132 の南側、SB49 の西側に位置し、主軸方向は前者に直交し、後者に平行する。埋土は５層に分層でき、レンズ状に堆積する。浅い溝状を呈し、壁面は焼けて硬化していた。遺物は１層から土師質土器が少量出土した。

SK5284（図版４・24）

8E24 グリッドに位置する。SB50 内にあり、ごく浅い遺構で遺存状況が悪い。埋土は２層に分層でき、1 層は黒褐色粘土、2 層は褐灰色粘土である。北側に位置する SK5149 と主軸方向や覆土が類似する。底面はやや凹凸がある。遺物は１層から土師質土器、青磁椀（182）が出土した。

SK5332（図版７・24）

6E18・23 グリッドに位置する。埋土は４層に分層でき、いずれも黒色粘土を基調とする。3・4 層には炭化物を含み、4 層では多量に含む。底面はやや凹凸があり、側壁は緩やかに立ち上がる。主軸方向は N-56˚-E を測る。

SK5367（図版７・24・96）

8F23・24 グリッドに位置する。SA1-P5475・P5425 と重複し、これらより新しい。SB55 の南西辺に位置する。SK5365・5368 と共に土坑群を形成している。埋土は８層に分層でき、レンズ状に堆積する。灰黄褐色シルトを主体とし、底面近くは粘性の強いにぶい黄橙色粘土である。底面は平らな部分が広く、側壁は南側が急斜度、北側は緩やかに立ち上がる。遺物は１～４層から土師質土器が少量出土した。

SK5621（図版４・25・97）

10O14・19 グリッドに位置する。方形区画状の溝 SD5618 の南側、SD5620 の西側に位置する。埋土は３層に分層でき、レンズ状に堆積する。1 層はにぶい黄橙色シルトが厚く堆積し、2 層は褐灰色シルト、3 層は灰白色粘質シルトである。底面は北西寄りが一番深く、側壁の立ち上がりは北西側で急斜度、南東側で緩やかである。主軸方向は N-43˚-W を測る。

SK5630（図版４・25・97）

8M13・14 グリッドに位置する。南東には、道１が位置する。北西－南東方向に主軸を持ち、おおむね道１と直交する。埋土は３層に分層できる。１層は黒色粘土で炭化物を含み、2 層が暗オリーブ色粘土、3 層は褐灰色粘土である。底面は平らで、側壁は急斜度に立ち上がる。遺物は1･2 層から土師質土器皿（184）が出土した。

4）中世の土坑３類：円形－弧状・台形状

５基検出した。上端長径は最小 55cm、最大 163cm を測り、深度は 13 ～ 39cm といずれも浅い。位置関係を見ると、① SB51 ～ 55 の西側に位置する SK5333、②道２に近接する SK5222・5225、③ SD5600・SD5603 に近接する SK5605・5615 がある。②の土坑はいずれも側溝に切られており、道２形成以前のものである。両者の関連性は低いと考えられる。

SK5222（図版５・23・95）

5G13･18 グリッドに位置する。道２の路面上に位置しており、側溝 SD2332 と重複しこれより古い。埋土は２層に分層でき、１層が浅黄橙色シルト、２層は褐灰色シルトである。底面は中央部の狭い範囲が深く、急斜度に立ち上がる。遺物は１・２層から土師質土器が出土した。

SK5225（図版 6・24・95）

9J6・7・11・12 グリッドに位置する。道 2 の側溝 SD2332 と重複し、これより古い。側壁は南西側が緩やかで浅く、北東側が深く落ち込み、急斜度に立ち上がる。埋土は 5 層に分層でき、水平に堆積する。2 層が色調の暗い褐灰色シルト以外は、地山に由来するにぶい黄橙色砂質シルトである。遺物は 4 層から古代の須恵器が少量出土したが、埋土の特徴から遺構に伴うものではなく、混入したものと考えられる。

SK5333（図版 5・24）

6E22・23 グリッドに位置する。埋土は 3 層に分層した。底面は中央が一番深く、側壁は急斜度に立ち上がる。

SK5605（図版 3・25）

16S21 グリッドに位置する。北北西－南南東方向に延びる SD5603 の東側、北西－南東方向に延びる SD5600・5601 の北東側に位置する。埋土は 2 層に分層した。

SK5615（図版 3・25）

15T8・9 グリッドに位置する。埋土は 3 層に分層でき、レンズ状に堆積する。底面は中央やや北西寄りが一番深く、側壁は緩やかに立ち上がる。

5）中世の土坑 4 類：円形－箱状

2 基検出した。上端長径は最小 78cm、最大 102cm を測り、深度は 24 ～ 35cm と浅い。位置関係を見ると、2 基とも SB51 ～ 55 に近接している。

SK5371（図版 7・24）

8F9・10 グリッドに位置する。SB55-P5381 と重複し、これより新しい。埋土は 3 層に分層でき、レンズ状に堆積する。1・2 層は黒色粘土、3 層は浅黄橙色シルトである。側壁はほぼ垂直に立ち上がる。遺物は 2 層から土師質土器が少量出土した。

SK5415（図版 7・25・97）

8G24・25、8H4 グリッドに位置する。P5416 とわずかに重複するが新旧は不明である。埋土は 3 層に分層でき、レンズ状に堆積する。1 層は暗褐色粘土で炭化物粒を多く含んでいる。2 層は灰黄褐色粘土、3 層は褐灰色粘土である。底面は平らで、側壁は垂直に立ち上がる。

F　方形周溝状遺構（図版 5・26・27・78・92・93）

SD5260

検出状況・構造　6・7G・H グリッドの 12m × 10m の範囲で隅丸方形状に巡る幅 1.2 ～ 2.8m の周溝を検出した。周溝を含めた全体の面積は約 120m² を測る。周溝の内部は 7.8 × 5.1m の範囲で隅丸長方形を呈し、面積は約 40m² を測る。周溝は検出面からの深度 40 ～ 80cm の地点で段を持ち、テラス状になる。底部は幅 50 ～ 80cm で、テラス部からの深度は 40 ～ 60cm を測る。土層堆積を見ると、中央部は 1 ～ 8 層がレンズもしくは水平状に堆積する。8 層は灰白色砂層で地山との識別が困難であるが、その下が部分的に掘り下げられている（15 層）。外周縁には 1 ～ 8 層に切られる形で 9 ～ 12 層が堆積する。また南西辺南部の内周縁には 1 ～ 8 層に切られる形で 13 ～ 14 層が堆積する。このことから SD5260 は 3 回の掘り直しが行われたものと推測し、新しいものから SD5260A（1 ～ 8・15 層）、5260B（9 ～ 12 層）、5260C（13 ～ 14 層）とした。

主軸方向を見ると、北東辺は 5260B が N-52˚-W、5260A が N-59˚-W を測る。また南西辺は 5260C が N-62˚-W、5260A・B が N-53˚-W を測る。このことと土層の残存状況を考慮すると、SD5260 は掘り直しごとに主軸方向・位置・規模が異なっていたものと考えられる。まず 5260C から 5260B に掘り直す際、主軸方向は 10˚程北側に寄り、位置も南側約 40cm 先に移動したものと考えられる。また北側に 5260C の埋土が見られないことから、周溝の幅は 5260B のほうが大きかったものと想定される。5260B から 5260A に掘り直す際には、北東辺の主軸が 7˚西側に寄ることで平面形が方形から台形に近い形状になる。また内周縁に 5260B の埋土が見られず、5260B の周溝内部の立ち上がりは 5260A のそれの外側にあったこと、5260A のテラス下に 5260B・C の埋土が残存していることから、周溝内部は前段階と比べて狭まり、周溝内のテラスの深度は浅くなったものと考えられる。

SD5260A

形態・規模　底面標高は 5.880 ～ 6.400m を測る。南西辺北部～北西辺南部は幅が狭く、深度が浅い反面、北東辺北部は幅が広く、深度が深い。7G11 グリッドでは底面に部分的な落ち込みが見られた。南西及び南東辺は中段に明瞭なテラスを持つことで断面形態が階段状となるが、北東及び北西辺は中段のテラスが崩れ、断面形態は台形状もしくは漏斗状になる。深度が深く、周溝内の水が溜まりやすい状況に起因したものと考えられる。

埋土堆積状況　埋土の堆積状況はレンズ状である。しかし土器と礫の出土範囲が異なっており、意図的な廃棄が考慮される。ゆえに人為的な埋め戻しと考えられる。最下層の 15 層（灰白色粘質シルト）は深度の深い北東及び南東辺北部に堆積する。5～8 層は深度の浅い南西辺北部以外で主に中段のテラス以下に堆積する。1～4 層はにぶい黄橙色シルトを基調とし、周溝内全体に堆積する。

出土遺物　遺物はすべての埋土で確認され、約 7 割が南東辺～南西辺南部（7H グリッド）からの出土である。土師質土器皿（188 ～ 190・192・193・195）・小皿（197・198・201 ～ 204）、珠洲焼甕（205 ～ 207）・片口鉢（208 ～ 210）、瓷器系陶器甕（211）、青磁椀（212 ～ 215）、白磁皿（217）、石製品（278・279）、金属製品（298 ～ 303）、鉄滓（308）のほか、古代の須恵器（218・220・221）が混入して出土した。遺物の大半は土師質土器で総重量は約 33.2kg を量る。完形で出土したものはほとんど見られず、大半は周辺が摩耗した径 2 ～ 5cm 程の破片である（第 4 表・第 18 図）。

礫はすべての埋土から 1,276 点出土し、被熱したものが 43 点あった。石材は点数比で砂岩（37%）、凝灰岩（25%）、流紋岩（16%）が多くを占める。大きさは拳大より小さいものが多いが、人頭大の大きさのものは北東辺を中心に見られる。グリッド･層位別の個数は第 5 表・第 19 図にまとめた。北西辺南部～南西辺北部（6G・H グリッド）では 1 ～ 4 層、北東辺（7G グリッド）では 4 ～ 6 層にかけて多く出土している。また南東辺～南西辺南部（7H グリッド）では出土数が少なく、土器とは異なる出土状況を示す。

本遺構を切る形で自然礫を大量に廃棄した近世の土坑 2 基（SK5253・5267）を検出した。その位置関係から自然礫は本来本遺構に伴っていたもので、後世に何らかの理由によって掘り返され、再廃棄されたものと想定できる。なお SK5267 出土礫の中からは多字一石経（310）1 点を確認した。

SD5260B

形態・規模　SD5260A の外周縁に残存しており、残存する底面標高は 6.620 ～ 6.900m を測る。遺構の内周を SD5260A の構築により欠失しており底面の状況は不明であるが、断面形態は階段状と推定される。外周のみ残存し内周を完全に欠失していることから、周溝の幅は SD5260A よりも若干狭く、周溝内部は広かったと推測できる。北側（6G10・7G6 グリッド）では最大幅 85cm の範囲で残存している

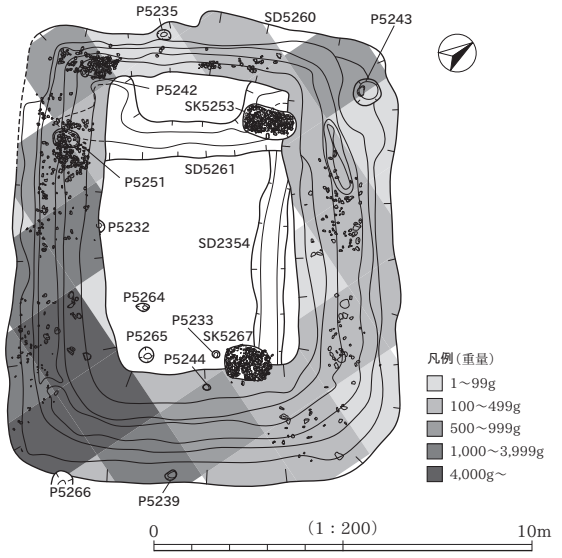
グリッド・層位	6G								6H				7G									7H									計
	10	13	14	15	18	19	23	24	25	4	5	9	10	6	7	11	12	13	17	18	19	23	24	1	2	3	4	6	7	8	11	12	13	
1層	266		118	294		17	238	1	7	17	14		145	60			1		12			50			162	164	26	198	431	205		256		2,682
2層	99		49	62	34		338	104		127	591		408			123	35	2				9	6	8	3	44	14		951	187		245		3,435
3層	471		89	57			25	66		139	107		286	0		119	36		30		36	35	42	18	6	321	37	887	2,242	1,194	185	2,188	240	8,617
4層	122			71				83		305	148		334	24		128	35	109	17			11		20	1	174	41	172	1,329	423	187	1,145	33	4,877
5層	16			2						120	1,984	81	177	5		57	54	11		12		6	26	16		58	31	1,804	1,872	229	521	683		7,764
6層		1									112		476	4	14	11	63	55		92	5		96		13	163	80	1,293	956	538	264	275	73	4,510
7層													165					5								12			45	29		298		555
8層													53						0							26	6	21	184	54				343
15層																												72						72
計	974	1	256	485	34	17	600	254	7	708	2,955	81	2,043	93	14	437	224	182	61	104	41	111	169	63	184	962	234	4,448	8,009	2,860	1,156	5,091	345	33,202

※小数点以下四捨五入、0は0.5g未満を表す

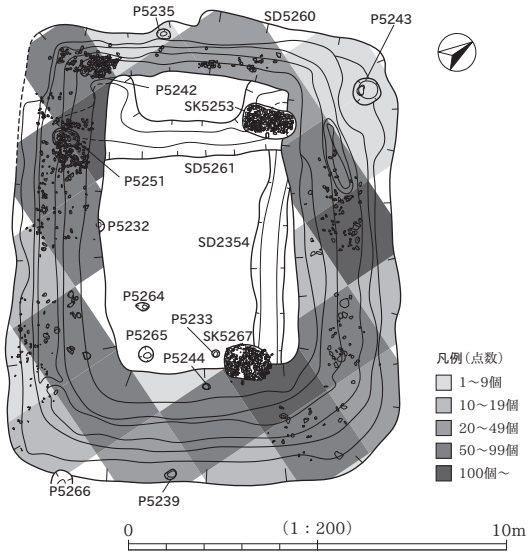
第 4 表　SD5260A 土師質土器重量（g）

グリッド・層位	6G							6H			7G										7H								計
	10	14	15	18	19	23	24	4	5	10	6	11	12	13	17	18	19	23	24	25	2	3	4	6	7	8	11	12	
1層	0	29	4	0	35	5	103	0	1	2	1	3	1	0	5	0	0	0	0	0	2	5	2	0	1	3	0	2	204
2層	0	0	10	1	0	35	16	56	48	0	0	7	0	0	3	0	0	9	7	0	0	4	6	0	1	4	0	0	207
3層	6	3	7	0	0	13	17	8	0	0	0	2	21	0	1	0	5	4	5	4	0	17	3	4	7	9	1	3	140
4層	0	0	3	0	0	0	23	7	0	1	1	16	13	5	9	0	0	2	0	0	1	4	2	0	7	4	2	5	105
5層	1	0	1	0	0	0	0	1	1	10	1	26	84	1	0	12	2	1	6	0	0	0	1	50	28	0	3	0	229
6層	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	2	2	2	8	0	41	17	184	59	0	0	14	2	9	4	6	0	1	354
7層	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	3	1	0	8	14
8層	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2	0	0	0	0	3	0	0	13	2	0	1	0	0	0	22
15層	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
計	7	32	25	1	35	53	159	72	50	17	5	57	121	16	18	53	24	200	80	4	3	59	18	63	52	27	6	19	1,276

第 5 表　SD5260A 礫出土数



第 18 図　SD5260A 土師質土器分布



第 19 図　SD5260A 礫分布

のを確認した。底面には人頭大の自然礫を上面に置いたピット 1 基（P5243）を検出した。埋土が近似していることから SD5260B に関連するものと考えられる。

埋土堆積状況　北東辺北側は水平～ブロック状、それ以外は斜位に堆積する。堆積状況が SD5260A とは異なっており、掘り直しに伴い埋め戻された可能性がある。

出土遺物　遺物は 9 ～ 11 層から土師質土器皿（191・194）・小皿（196・199・200）、9 層から青磁皿（216）が出土し、古代の須恵器壺（219）の混入も認められた。遺物の大半は土師質土器で、周辺が摩耗した径 2 ～ 5cm 程の破片である（第 6 表）。

礫は南西辺南部（7H グリッド）の 9 ～ 11 層から 18 点出土し、被熱したものはなかっ

グリッド・層位		6G	6H			7G			7H					計
		9	4	5	10	6	12	18	6	7	8	11	12	
SD5260B	9層	28	473	43	173		74	11	856		248	1,104	2,970	5,952
	10層										11		1,771	1,782
	11層								97				64	161
	12層								5				36	41
SD5260C	13層					3	55			106				164
	14層													0
計		28	473	43	173	3	129	11	957	106	259	1,104	4,841	8,127

※小数点以下四捨五入、0は0.5g未満を表す

第 6 表　SD5260B・C 土師質土器重量（g）

た。石材は花崗岩、砂岩、凝灰岩、流紋岩などである。大きさは拳大より小さいものが大部分である。

SD5260C

形態･規模　南東及び南西辺の内周縁に幅 40cm 程残存しており、底面標高は 6.560 ～ 6.650m を測る。遺構の外周を SD5260A・5260B の構築により欠失しており、底面の状況は不明であるが、断面形態は階段状と推定される。外周部分を完全に欠失していることから、全体の規模は SD5260A・5260B よりも小さかったことが想定できる。

埋土堆積状況　残存状況は良くないものの、埋土の堆積状況は斜位もしくは単層である。堆積状況が SD5260A とは異なっており、掘り直しに伴い埋め戻された可能性がある。

出土遺物　遺物は 13 層から土師質土器が、周辺が摩耗した径 2 ～ 5cm 程の破片で出土した（第 6 表）。礫は 13 層から 5 点出土し、被熱したものはなかった。石材は花崗岩、砂岩、凝灰岩、頁岩である。大きさは拳大より小さい。

SD5261（図版 5・26・27・94）

形態・規模　SD5260 の周溝内北西側で、コの字形の溝が SD5260A に切られる形で検出した。コ字状の中央は幅が狭く、深度が浅い反面、両端部は幅が広く、深度が深い。両端部は SD5260 に接しており、SD5260 に水を流すような構造になる。また断面形態は半円状を呈し、SD5260 とは形態が異なる。主軸方向は N-32°-E を測り、5260B にほぼ直交する。5260A に切られていることと、主軸方向が 5260C に直交しないことから、SD5261 は 5260B の時期に存続していたものと考えられる。

埋土堆積状況　北側は斜位、中央から南側はレンズ状に堆積する。SD5260A の構築に伴い埋め戻された可能性が考えられる。

出土遺物　遺物はすべての埋土から、摩耗した土師質土器が径 2 ～ 5cm 程の破片で出土した。礫は南端部（6G24 グリッド）から 7 点出土し、被熱したものはなかった。石材は砂岩、凝灰岩、流紋岩である。大きさは拳大より小さいものが多い。

G　溝

溝を 35 条検出した。出土遺物･埋土などの特徴から古墳時代 1 条（SD5677）、近世以降 6 条（SD3071･3072・5600・5601・5604・5675）で、これ以外の 28 条の溝は中世に所属する。

中世の溝は形態や位置関係から、①堀・区画溝、②掘立柱建物に関連する溝、③道 2 の主軸方向に近似する溝、④東西方向に延びる溝、⑤その他の溝に分類した。

1）古墳時代の溝

SD5677（図版 3・34・104）

19V、18・19W グリッドに位置する。北東－南西方向に延びる溝と推測する。北東・南西側は調査区外へ及び、溝の片部も北西側のみ検出され、南側に位置する阿賀野市調査区 B 区では本遺構は検出されなかった。SK5670・SK5671・SD5675・P5736 ～ 5739・P5673・P5676 と重複しこれらより古い。深度 10 ～ 26cm を測る。溝の肩部は凹凸があり、断面形は台形状で、立ち上がりはやや急斜度である。埋土は 2 層に分層でき、いずれもにぶい黄褐色シルトである。遺物は 2 層から古墳時代前期の土師器鉢（252）が出土した。

2）中 世 の 溝

a 堀 ・ 区 画 溝

SD5132（図版 7・30・31・78・103）

7 ～ 9D グリッドに位置する。東西方向に延びる溝で、西・東側は調査区外へ続く。新旧関係は P5341 より古く、P5336 より新しい。幅 2.2 ～ 2.96m、最大深度は 136cm を測る。断面形は階段状で急斜度に立ち上がる。また本遺構の南側には掘立柱建物群（SB48 ～ 50）があり、主軸方向はほぼ一致する。

遺物はすべての埋土で確認され、土師質土器皿（224 ～ 230）・小皿（231 ～ 233）、珠洲焼甕（234）・片口鉢（235）、瓷器系陶器甕（236・237）、青磁椀（238・239）、石製品（280）、金属製品（295・296）が出土したほか、古代の須恵器有台杯（240）の混入も認められた。また埋土上部から中部にかけて礫が 199 点出土した。総重量 35,590g を量る。完形礫が多く、被熱礫や割れた礫は少ない。石材は点数比で砂岩が 47%、凝灰岩 19%、流紋岩 10%、チャート 9%、花崗岩 6%、安山岩 3%、閃緑岩 3%、その他 3% となる。

掘立柱建物に関連する溝

SD5372（図版 7・31）

8F グリッドに位置する。SD5370 と重複し、これより新しい。長さ 7.3m 以上、幅 21cm 以下、深度 13cm を測る。南東側に SB52・SB55 が位置し、主軸方向が一致するため建物群の区画溝もしくは SB55 に伴う雨落溝の可能性がある。断面形は弧状～半円状を呈する。埋土は 2 層に分層でき、1 層が黒褐色粘質シルト、2 層が地山に由来する浅黄橙色シルトを主体とする。

道 2 の主軸方向に近似する溝

SD2354（図版 5・6・29・102）

5・6F、6・7G、7・8H、8・9I、10I・J グリッドに位置する。北西－南東方向に直線的に延びる溝で、北西側は調査区外に延びる。SD5252・SD5259・SD5260・SD5261・P5246・SK5253・SK5267 SD5231・SD5238 より古く、SD5231・SD5238 より新しい。幅 45 ～ 154cm、深度 14 ～ 100cm を測る。底面標高は北西端が 6.766m、南東端が 7.237m となり、溝の深さも北西で深く南東に向かうに従い浅くなる。断面形は北西側では台形状であるが、南東側では弧状となる。埋土は 3 ～ 4 層に分層できるが、北西側上層では灰白色～にぶい黄橙色シルトが堆積するが、南東側上層では見られない。逆に南東側下層では浅黄橙色シルトが堆積するが、北西側下層では見られない。遺物は埋土上～中層から土師質土器、青磁椀（222）が出土したほか、混入と考えられる古代の須恵器が出土した。

SD5107（図版 5・6・7・29・102）

6 ～ 9F、7 ～ 9G、8H グリッドに位置する。北西－南東方向に延び、8G グリッド南側で屈曲し、北東方向に向かい、調査区外に延びる L 字状の溝である。P5292 と重複し、これより新しい。南西－北東辺の南西には方形周溝状遺構・道 2・SD2354・SD5231 や南西－北東方向の L 字区画内には SB55・SD5372 があり、これらと主軸方向が一致する。幅は 66 ～ 108cm、深度 6 ～ 25cm を測る。断面形は北東端が一番深く、台形状を呈するのに対し、北西端に向かうにつれて徐々に浅くなり、弧状となる。埋土は 4 層に分層でき、1 層が暗褐色シルト、2 ～ 4 層は浅黄橙色シルトである。遺物は 1 層から土師質土器が少量出土した。

SD5118（図版 5）

5H グリッドに位置する。北西－南東方向に延び、両側は削平され残存していない。幅 32cm、深度 16cm を測る。断面形は箱状～台形状を呈する。埋土は暗褐色シルトの単層である。

SD5119（図版 5）

5H グリッドに位置する。北西－南東方向に延び、両側は削平され残存していない。また北西側の延長線上に SD5217 が位置しており、本来は同一の溝であった可能性がある。幅 56cm、深度 28cm を測る。断面形は箱状～台形状を呈する。埋土は暗褐色シルトの単層である。

SD5214（図版 5・33・99）

4・5G グリッドに位置する。SD2334・SD5209 と重複し、これらより新しい。北西－南東方向に延びる溝で、北西側は調査区外へ及び、南東側は 5G16 グリッド付近で急斜度に立ち上がる。幅 124 ～ 175cm、深度 58 ～ 72cm を測る。断面形は台形状～半円状を呈し、側壁は急斜度に立ち上がる。埋土は 4 層に分層でき 1・2 層がにぶい黄褐色シルト、3・4 層は灰黄褐色シルトを主体とする。遺物は 1 層から土師質土器が少量出土した。

SD5215（図版 5・29・102）

5G グリッドに位置する。SD5216 と重複し、これより新しい。北西－南東方向に延び、長さ 2.84m、幅 67cm、深度 25cm を測る。断面形は半円状で、側壁は垂直に立ち上がる。

SD5216（図版 5・29・33・99・102）

5G・H グリッドに位置する。SD2334・SD5215・SD5219 と重複し SD5215 より古く、SD2334・SD5219 より新しい。北西－南東方向に延び、南東側は調査区外へ及ぶ。幅 79 ～ 120cm、深度 20 ～ 68cm を測る。断面形は台形状である。埋土は 6 層に分層でき、にぶい黄橙色シルトを主体とする。遺物は 1 層から須恵器が出土したが、埋土の特徴から遺構に伴うものではなく、混入したものと考えられる。

SD5217（図版 5・33）

4・5G、5H グリッドに位置する。P5221 と重複し、これより新しい。北西－南東方向に延び、長さ 11.1m、幅 28 ～ 58cm、深度 5 ～ 18cm を測る。断面形は台形状もしくは U 字状で、側壁は急斜度に立ち上がる。埋土は褐灰色シルトの単層である。遺物は 1 層から土師質土器が出土した。

SD5231（図版 6・29）

7・8H、8・9I グリッドに位置する。方形周溝状遺構（SD5260）・SD2354 と重複し、これらより古い。おおむね北西－南東方向に延びる溝であるが、北西側では SD2354 と枝分かれするかのように南側へ延び、南東側に蛇行し、SD2354 と約 3.5m の間隔を開けて並走する。長さ 20.88m、幅 30 ～ 114cm、深度 29 ～ 31cm を測る。断面形は弧状～半円状を呈する。埋土は 3 層に分層でき、1・2 層は黒色粘質シルトを基調とした土質で、3 層は浅黄橙色シルトである。遺物は 1・2 層から土師質土器のほか、混入と考えられる古代須恵器壺（243）が出土した。

SD5238（図版 6・29）

7・8H グリッドに位置する。SD2354 と重複し、これより古い。北西－南東方向に延びる溝で、北東側は削平されていた。断面形は台形状と推測する。埋土は 2 層に分層でき、いずれも暗褐色粘質シルトを主体とする。遺物は 1 層から土師質土器が出土した。

SD5259（図版 5・29）

5・6G、6F グリッドに位置する。幅 84 ～ 139cm、深度 24 ～ 59cm を測る溝がコ字状に巡り、径

8m 四方のほぼ正方形を呈する。SD2354 と重複し、これより新しい。南東側約 20cm 先には方形周溝状遺構とは、両者の主軸方向は一致することから、同時期に機能していた可能性が高い。断面形は半円状・台形状を呈する。埋土は 5 層に分層でき、地山に由来するにぶい黄橙色・明黄褐色等の黄色系シルトが主体となる。

遺物は埋土上層から土師質土器皿（245）、溝の北東辺から石製品（282）と礫が出土した。礫は拳大の亜円礫が多く、合計 155 点、総重量は 35,300g を量る。石材は点数比で砂岩 40%、凝灰岩 20%、流紋岩 12%、花崗岩 8%、チャート 8%、その他 2% である。

b　東西方向に延びる溝

SD5202（図版 5・29・101）

3・4I グリッドに位置する。P5730 と重複し、これより古い。両側は調査区外に延び、幅 28cm、深さ 14 ～ 39cm を測る。断面形は半円状を呈する。埋土は 6 層に分層でき、褐灰色シルトと灰黄褐色シルトの互層となる。本遺跡で主軸方向が東西を指す溝はこの 1 条のみである。

c　そ の 他 の 溝

SD5209（図版 5・29・33・101）

5G グリッドに位置する。道 2（SD2334）・SD5214 と重複し、これらより古い。北東－南西方向に延びる短い溝で、長さ 4.21m、幅 161cm、深度 64 ～ 67cm を測る。埋土は 8 層に分層でき、1 ～ 4 層は褐灰色シルト、5 ～ 8 層は灰色系シルトである。南東側約 10m 先に主軸方向が近似する SD5219 が位置しており、同時期に機能した遺構であると推測する。遺物は 2 層から土師質土器小皿（241・242）が出土した。

SD5219（図版 5・33・101）

5・6H グリッドに位置する。道 2（SD2334）・SD5216 と重複し、これらより古い。北東－南西方向に延びる短い溝で、長さ 4.24m、幅 104cm、深度 36 ～ 55cm を測る。埋土は 3 層に分層でき、1 層が灰黄褐色シルト、2 層が黒褐色シルト、3 層はにぶい黄橙色シルトである。北西側約 10m 先に主軸方向が近似する SD5209 が位置しており、同時期に機能した遺構であると推測する。遺物は 1 層から須恵器が出土したが、埋土の特徴から遺構に伴うものではなく混入したものと考えられる。

SD5252（図版 5・29・102）

5F グリッドに位置する。SD2354 と重複し、これより新しい。南南西－北北東に延びる溝で、北側は調査区外に延びる。幅 68cm、深度 16cm を測る。断面形は台形状である。埋土はにぶい黄橙色シルトの単層である。遺物は 2・3 層から土師質土器、珠洲焼甕（244）が出土した。

SD5286（図版 7・31・104）

13G グリッドに位置する。北東－南西方向に延びる溝で、北東側は調査区外に続く。南東側の延長線上に D 区 SD2002 が位置しており、同一の溝であった可能性もある。幅 92cm、深度 33cm を測る。断面形は台形状を呈する。

SD5370（図版 7・31）

8・9F グリッドに位置する。南西－北東方向に直線的に延び、北東側は調査区外に続く。また南西側の延長線上に SD5411 が位置しており、本来は同一の溝であった可能性がある。SE5102・SD5372・

SB55-P5385・SB56-P5270・SA1-P5388・P5269 と重複し、これらより古い。深度 37 ～ 52cm を測り、周囲に主軸方向の一致する遺構は認められないが、掘り込みのしっかりした溝で、端部の立ち上がりも急斜度～垂直であることから何らかの区画溝であると考えている。断面形は台形もしくは半円状を呈する。埋土は 4 層に分層でき、1 ～ 3 層が色調の暗く粘性の強い黒色～暗褐色シルト、4 層が地山に由来する浅黄橙色シルトを主体で炭化物を含む。遺物は 1 ～ 4 層にかけて土師質土器の細片が少量出土した。

SD5411（図版 7・31）

7F グリッドに位置する。北東－南西方向に延び、南西側は削平され残存していない。また北東側の延長線上に SD5370 が位置しており、本来は同一の溝であった可能性がある。幅 65cm、深度 20cm を測る。断面形は台形状～弧状を呈する。埋土は暗褐色シルトの単層である。

SD5549（図版 6・29）

7・8J・K グリッドに位置する。南北方向の溝と推測するが、南端を検出したのみで、調査区外に延びるため詳細は不明である。断面形は弧状を呈する。深度 12cm を測る。埋土は炭化物を含む褐灰色シルトの単層である。

SD5602（図版 3・28・100）

14R･S グリッドに位置する。SD5600･SD5607 と重複し、SD5600 より古く、SD5607 より新しい。南北方向にやや蛇行し、調査区外に延びる溝で、幅 62 ～ 113cm、深度 9 ～ 16cm を測る。断面形は弧状を呈する。覆土は 4 層に分層でき、1・2 層が色調の暗い暗褐色～黒色粘質シルト、3・4 層は地山に由来する浅黄橙色粘質シルトである。隣接する SD5607 とは埋土が近似しており、重複関係にあるが近い時期のものと考えられる。

SD5603（図版 3・28・100）

15S、15・16T グリッドに位置する。SD5600・SD5601・SD5604 と重複し、これらより古い。南北方向に延び、両側は調査区外に及ぶ。位置関係から E 区 SD3061 と同一の溝である可能性がある。幅 138 ～ 224cm、深度 23 ～ 46cm を測る。断面形は弧状を呈する。埋土は 5 層に分層でき、いずれも粘性が強い。遺物は 1・2 層から土師質土器小皿（246）、瀬戸・美濃焼壺（247）が出土した。

SD5607（図版 3・28・100）

14R･S グリッドに位置する。SD5600･SD5602 と重複し、これらより古い。南西－北東方向に延び、南西側は調査区外に延びる。幅 74 ～ 150cm、深度 8cm を測る。埋土は 2 層に分層でき、1 層が黒色シルト、2 層は浅黄橙色シルトが主体である。遺物は 1 層から土師質土器、珠洲焼片口鉢（248）が出土した。

SD5618（図版 4・28・100・101）

10・11O、11・12P、12・13Q グリッドに位置する。北西－南東方向に延び、13Q グリッドで南西側に直角に折れ曲がり調査区外に延びる。SK5623・SK5624・SK5627・SD5620 と重複し、SK5624 より古く、それ以外より新しい。北西側の端部は撹乱が調査区を横切っており、その先に溝は確認できないことから、この撹乱部分で南西側に直角に曲がっていた可能性が高い。北西－南東辺は 38.9m を測り、11P グリッドで約 3m の間隔をおいて途切れる。途切れる部分は北西－南東辺の中間点にあたり、この方形区画を出入りするための陸橋であると考えている。幅はともに南東側に向かうにつれて広くなり、底面標高も南東側に向かうに従い低下しているため、南東側に向かって水を流していたものと考えられる。埋土は 6 層に分層でき、おおむねレンズ状に堆積する。1 ～ 4 層まではにぶい黄橙・黄褐色シルト、5 層が褐灰色シルト、6 層はにぶい黄橙色シルトである。

遺物は南東側の埋土上部に多く、土師質土器、・珠洲焼壺（249）・片口鉢（250・251）と礫が出土した。礫は拳大より小さい亜円礫で、合計 23 点、総重量 3,152g を量る。石材は点数比で砂岩 52%、流紋岩 22%、花崗岩 13%、凝灰岩 9%、閃緑岩 4% である。

SD5619（図版 4・28・100）

10N・O、11O グリッドに位置する。北西－南東方向に延び、長さ 8.32m、幅 38 ～ 82cm、深度 12 ～ 18cm を測る。埋土は褐灰色シルトの単層である。

SD5620（図版 4・28・100・101）

11O・P グリッドに位置する。SD5618 と重複し、これより古い。北東－南西方向に延びる溝で、調査区外に延びる。位置関係から E 区 SD3058 と同一の溝である可能性がある。幅 52 ～ 92cm、深度 14 ～ 42cm を測る。断面形は弧状を呈する。埋土は 3 層に分層でき、灰黄褐色シルトを主体とする。SD5602・SD5603・SD5607 とは埋土が近似しており、断面形も類似する。

SD5678（図版 3・34・105）

18W グリッドに位置する。SK5671・SK5674・SD5677 と重複し、SK5671・SK5674 より古く、SD5677 より新しい。南北方向の溝で、調査区外に延びる。南側には阿賀野市調査 B 区が位置し、2-2 の溝と一致する。断面形は台形状を呈し、深さは 63cm を測る。埋土は 6 層に分層でき、1 ～ 3 層がにぶい黄橙色粘質シルト、4・5 層が灰色系粘質シルト、6 層はにぶい黄褐色シルトである。6 層底面は酸化鉄の沈着が著しく、硬化していた。遺物は 3 層から珠洲焼が少量出土した。

H　道

2009 年度調査区（D 区）［荒川ほか 2012］で検出した道 1（SD2000・SD2001）・道 2（SD2332・SD2334）の続きで、それぞれの側溝を検出した。路面は後世の耕作などにより削平され、その痕跡を確認することはできなかった。

1）道　　1（図版 4・7・32・98）

a　側　　溝

SD2000

検出状況　2009 年度調査と合わせ全長約 80m が明らかになった。土層断面から SD2000 は 3 回掘り直されているものと推定し、新しいものから SD2000A・2000B・2000C とした。このうち SD2000C は 2012 年度調査では検出されておらず、今回新たに検出したものである。主軸方向は SD2000A・2000B・2000C ともに N-37°-E を測る。

SD2000A

形態・規模　底面標高は 13G13・18 グリッドで 6.480m、9M6・7 グリッドで 6.438m、8N4・5 グリッドで 6.675m をそれぞれ測る。2009 年度調査の成果と合わせると、底面は約 40cm の範囲で起伏があり、8M20・25 グリッドでは部分的な落ち込みが見られた。断面形態は台形状となるが、溝の幅が 13G グリッドでは 1.20m、8・9M グリッドでは 2.00 ～ 2.40m と後者が広く、側壁の立ち上がりも前者が垂直に近い急斜度、後者が緩やかとなる。

埋土堆積状況　埋土の堆積状況は、レンズ状であることから自然堆積と考える。

出土遺物　遺物は 13G グリッドでは 2 層から珠洲焼、8・9M グリッドでは 1 ～ 4 層から土師質土器

小皿（253）・珠洲焼甕（254）・片口鉢（255）・瓷器系陶器甕（256・257）・青磁椀（258）と混入と考えられる古代の須恵器杯蓋（259）が出土した。完形で出土したものはなく、いずれも破片での出土である。

礫は13Gグリッドでは6層から4点、8・9Mグリッドでは1～4層から300点出土した。石材は点数比で砂岩（43%）、凝灰岩（19%）、流紋岩（16%）が主体である。被熱したものが7点認められた。大きさは拳大より小さいものが多い。土器と礫の出土状況に相違点は見られず、両者は混在して出土した。

SD2000B

形態・規模　13GグリッドではSD2000Aの北側に全長2m、幅44cmの範囲で残存しており、底面標高は6.780mを測る。遺構の南側をSD2000Aの構築により欠失しており底面の状況は不明であるが、断面形態は台形状と推測する。一方8・9Mグリッドでは本遺構を確認できず、SD2000Aの構築により欠失したものと考えられる。

埋土堆積状況　底面付近は褐灰色粘質シルトが堆積し、その上に浅黄色シルトとにぶい黄橙色シルトが斜位に堆積する。側溝の掘り直しに伴い、埋め戻された可能性が考えられる。

出土遺物　13Gグリッドでは土器・陶磁器は確認できず、礫が2層から3点出土した。石材は砂岩、凝灰岩、流紋岩で、いずれも自然礫である。

SD2000C

形態・規模　13GグリッドではSD2000Aの南側に全長2m、幅52cmの範囲で残存しており、底面標高は6.730mを測る。8M・N、9MグリッドではSD2000Aの南側に全長約7m、幅35cm残存している。底面標高は6.730mを測る。遺構の北側をSD2000A・2000Bの構築により欠失しており底面の状況は不明であるが、断面形態は台形状と推測する。

埋土堆積状況　残存状況は良くないものの、埋土の堆積状況は13Gグリッドでは斜位、8・9Mグリッドでは水平と推定される。側溝の掘り直しに伴い、埋め戻された可能性が考えられる。

出土遺物　遺物は出土しなかった。

SD2001

検出状況　土層断面からSD2001は3回掘り直しされていることを再確認し、新しいものからSD2001A・2001B・2001Cとした。

SD2001A

底面標高は13H5・10グリッドでは6.380m、9M19グリッドでは6.430m、9N6・11グリッドでは6.540mをそれぞれ測る。底面は若干の起伏を持ちながら南西から北東に向かって深度を深くし、13Hグリッドで立ち上がり深度を浅くする。断面形態は北東側の13Hグリッドで階段状、南西側の9M・Nグリッドで台形状となり、2009年度調査の成果と合致する［村上2012b］。溝の幅は13H5・10グリッド1.70m、9M19グリッド1.19m、9N6･11グリッド1.69mとなり、一定ではない。埋土の堆積状況は、レンズ状であることから自然堆積と考える。

遺物は13Hグリッドでは確認できず、9M・Nグリッドでは1～4層から土師質土器、珠洲焼片口鉢（260・261）、瓷器系陶器甕（262）、石製品（281）と混入と考えられる古代の須恵器無台杯（263）・有台杯（264）が出土した。礫は13Hグリッドでは3～6・8層から26点、9M・Nグリッドでは1～4層から419点出土し、前者は埋土上～中層、後者は上～下層にかけて出土した。被熱したものが5点認められた。石材は点数比で砂岩（40%）、流紋岩（17%）、チャート（15%）、凝灰岩（14%）が主体である。大きさは拳大より小さいものが多い。

SD2001B

13H グリッドでは SD2001A の北側に全長 2.00m、幅 20cm の範囲で残存しており、底面標高は 6.820m を測る。遺構の南側を SD2001A の構築により欠失しており底面の状況･断面形態は不明である。9M・N グリッドでは SD2001A の南側に全長 8.54m、幅 1.66m ～ 1.88m の範囲で残存している。底面標高は北東端 6.570m、南西端 6.610m をそれぞれ測り、底面はほぼ平坦である。断面形態は残存状況から台形状と推定される。

埋土の堆積状況は 13H グリッドでは斜位、9M・N グリッドでは水平と推定される。側溝の掘り直しに伴い、埋め戻された可能性がある。

遺物は 13H グリッドでは確認できず、9M・N グリッドでは 1 ～ 3 層から土師質土器皿（265）、珠洲焼、青磁椀（266）が出土した。大半は土師質土器で、皿 1 点が完形で出土した以外は径 2 ～ 5cm 程の破片で出土した。礫は 13H グリッドでは確認できず、9M・N グリッドでは 2 ～ 4 層から 196 点出土した。石材は点数比で砂岩（40%）、流紋岩（15%）、凝灰岩（15%）が主体である。被熱したものが 2 点ある。大きさは拳大より小さいものが多い。

SD2001C

13・14H グリッドでは SD2001A の南側に全長 2.00m、幅 15cm の範囲で残存しており、底面標高は 6.910m を測る。9M・N グリッドでは SD2001B の南側内部に全長 8.54m、幅 40 ～ 80cm の範囲で残存している。底面標高は 6.800 ～ 6.810m を測る。遺構の北側及び上面を SD2001A・2001B の構築により欠失しており不明な部分が多いが、底面の状況はほぼ水平、断面形態は台形状と推測する。

残存状況はよくないものの、埋土の堆積状況は 13・14H グリッドではブロック状、9M・N グリッドでは灰黄褐色シルトの単層と推測する。側溝の掘り直しに伴い、埋め戻された可能性が考えられる。

遺物は出土しなかった。

b 構　　造

今回の調査で新たに SD2000C を検出したことで、側溝は SD2000・2001 ともに 3 回掘り直されていることが判明した。したがって道 1 は① SD2000A-SD2001A、② SD2000B-SD2001B、③ SD2000C-SD2001C の 3 時期変遷が考えられる。

路面幅を北東から南西方向に見ると、①が北東端（13G・H グリッド）5.9m、D 区南西端（9L・M グリッド）4.3m、J 区北東端（9M グリッド）4.2m、J 区南西端（8･9N グリッド）3.7m、②が北東端 5.1 ～ 6.8m、D 区南西端 6.2 ～ 7.8m、J 区北東端 5.0 ～ 7.2m、J 区南西端 4.4 ～ 7.0m、③が北東端 5.2 ～ 7.0m、J 区北東端 4.2 ～ 6.7m、J 区南西端 3.9 ～ 5.9m をそれぞれ測る。①～③の時期を通じて路面幅は北に進むに従い広くなる。時期別に見ると③から②にかけて南側の路面幅が広くなり、②から①にかけて全体的に路面幅が縮小する傾向が読み取れる。

側溝の底面標高は②・③の断面の一部が欠失し不明な部分があるものの、①が 6.4 ～ 6.7m、②が 6.6 ～ 6.8m、③が 6.7 ～ 6.9m の範囲内に収まるため、掘り直しをするたびに深度が深くなる傾向が読み取れる。

以上の観点から路面幅は一部が拡大するものの、最終的には縮小する。側溝の掘り直しによって路面幅が縮小する例は新潟市細池寺道上遺跡の道路状遺構［立木ほか 2014］、柏崎市馬場･天神腰遺跡の道路 1［品田 2008］がある。側溝は掘り直しごとに深度が深くなる。細池寺道上遺跡の道路状遺構の側溝の深度は掘り直しによっても大きな変化が見られず、本遺構とは異なる傾向が見られる。

2）道　　2（図版 5・6・33・99）

a 側　　溝

SD2332

2009 年度調査と合わせて全長約 70m が明らかになった。幅・底面標高は 62cm・6.850m（9J6 グリッド）、49cm･6.840m（8J11 グリッド）、73cm･6.710m（7H16 グリッド）、62cm･6.850m（6H1 グリッド）、90cm・6.500m（5G7 グリッド）、88cm・6.440m（4G5 グリッド）をそれぞれ測り、北西側（5G グリッド以北）は幅が広がり、深度が深くなる。底面は一定ではなく、部分的に 20cm ほど掘り下げられた部分が確認できる。埋土は 4 ～ 5 層に分層でき、にぶい黄橙色シルトを主体にレンズ～水平状に堆積する。

遺物は 1 ～ 3 層から土師質土器、珠洲焼壺（267）・甕（268）・片口鉢（269）と混入と考えられる古代須恵器甕（270）が出土した。礫は 1 ～ 4 層から 114 点出土し、被熱したものが 14 点ある。石材は点数比で砂岩（52%）、凝灰岩（17%）、流紋岩（11%）、花崗岩（11%）が主体である。大きさは拳大より小さいものが多い。土器と礫の出土状況に相違点は見られず、両者は混在して出土した。

SD2334

幅・底面標高は 156cm・6.690m（8J20 グリッド）、92cm・6.710m（5H10 グリッド）、100cm・6.710m（5G11 グリッド）、54cm・6.730m（4G9 グリッド）をそれぞれ測り、SD2332 とは対称的に南西側（8J グリッド以南）は幅が広がり、深度が深くなる。底面は一定ではなく、部分的に 20cm ほど掘り下げられている所がある。埋土は SD2332 に類似しており、4 層に分層でき、にぶい黄橙色シルトがレンズ～水平状に堆積する。

遺物は 1 ～ 3 層から土師質土器皿（271）・小皿（272）、珠洲焼片口鉢（273）、青磁椀（274）・盤（275）、金属製品（304・305）と混入の古代須恵器が出土した。礫は 2 ～ 4 層から 81 点出土し、被熱したものが 4 点ある。石材は点数比で凝灰岩（35%）、砂岩（28%）、流紋岩（14%）が主体である。大きさは拳大より小さいものが多い。土器と礫の出土状況に相違点は見られず、両者は混在して出土した。

b 構　　造

本遺構は 2009 年度の調査成果から道 1 の枝道と捉えられている［村上 2012b］。路面幅は H 区南東端 2.5m、北西端 2.3m をそれぞれ測る。路面部分は削平されており、その構造は不明であるが、2009 年度の調査成果と同様に側溝から拳大より小さい自然礫が出土しており、路盤材として使用された可能性が考えられている［村上前掲］。両側溝は部分的に掘り下げされている所が見られるが、断面観察の結果掘り直しの痕跡は認められず、構築当初からのものと推定できる。また SD2332 は北西側、SD2334 は南西側の深度が深い。側溝内の水を流すための構造と考えられる。

Ⅰ ピ　ッ　ト

P5673（一括出土銭）（図版 3・34・105）

19V18 グリッドに位置する。古墳時代の溝 SD5677 と重複し、これより新しい。埋土はにぶい黄橙色シルトの単層である。底面から約 10cm 浮いたところに径 24cm、残存高 8.5cm を測る曲物（387）が正位で据えられ、内部に 2.907 枚の銭貨が緡 30 本にまとめられ詰められていた。

J 性格不明遺構

SX2352

SD2334 に切られている。底面標高は SD2334 のそれと比べて 30cm 程浅く、一部凸凹が認められるものの、ほぼ水平である。埋土は 2 層に分層でき、レンズ状に堆積する。遺物は 1 層から土師質土器が少量出土した。礫は 1 層から 7 点出土した。石材は砂岩、チャート、凝灰岩、安山岩、閃緑岩である。被熱したものは確認できず、大きさは拳大より小さいものが多い。土器と礫の出土状況に相違点は見られず、両者は混在して出土した。

2 遺　　物

A 土器・陶磁器

1）出 土 状 況

土器は古墳時代から近世のものが出土した。古墳時代の土器は SD5677 から出土した土師器鉢がある。古代の土器は土師器・須恵器であるが、須恵器が大半を占める。古代の遺構に伴っているものは SK5201 から出土した須恵器甕のみで、大多数は中世の遺構から混入して出土したものである。

中世は土師質土器、珠洲焼、瓷器系陶器、瀬戸・美濃焼、輸入陶磁器（青磁・白磁・青白磁）があり、土師質土器・珠洲焼が主体を占める。方形周溝状遺構や井戸（SE5102・5129・5138・5290）から多く出土した（第 20 図）。

近世は陶磁器があり、I・J 区の溝（SD3072・5600）などから出土した。

2）出土土器各説（図版 53～61・114～120）

a 分　　類

本稿で記述するものは古墳時代・古代・中世の土器・陶磁器であり、このうち古墳時代、古代の土器は出土数が少ないため、器種で分類するにとどめた。

中世の土器の分類は『境塚遺跡Ⅱ』荒川［2016c］に準じた。土師質土器は口径 10cm 以上のものを皿、10cm 以下のものを小皿とする。水澤［2005］の分類に従い、手づくね成形のものを T 類、ロクロ成形で底部糸切りのものを R 類、ロクロ成形で底部ヘラ切りのものを RH 類とする。R 類は口径に対して底径が大きい R1 類と底径が小さい R2 類に細分する。また、RH 類は口縁が直線的に立ち上がる RH1 類と口縁が外反する RH2 類に細分する。その他の土器の分類･年代観については『境塚遺跡Ⅱ』と同様に、珠洲焼は吉岡［1994･2003］、瓷器系陶器は小田［1999］･鶴巻［2005］、瀬戸･美濃焼は藤澤［1982・1991・1995］、輸入陶磁器（青磁・白磁・青白磁）は森田［1982］・上田［1982］・山本［2000］に依った。

b 各　　説

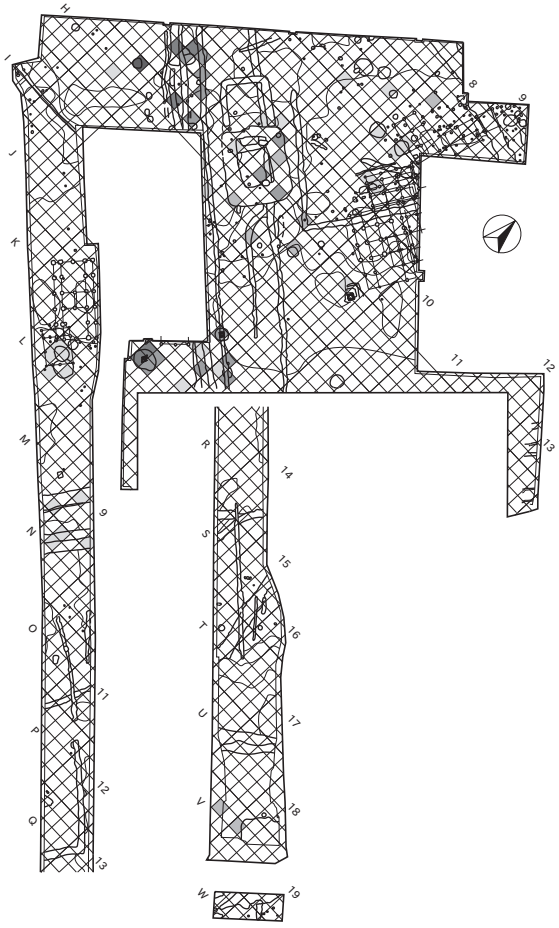
SB51（図版 53・114－1・2）

1・2 は P5483 から出土した土師質土器皿 R 類である。

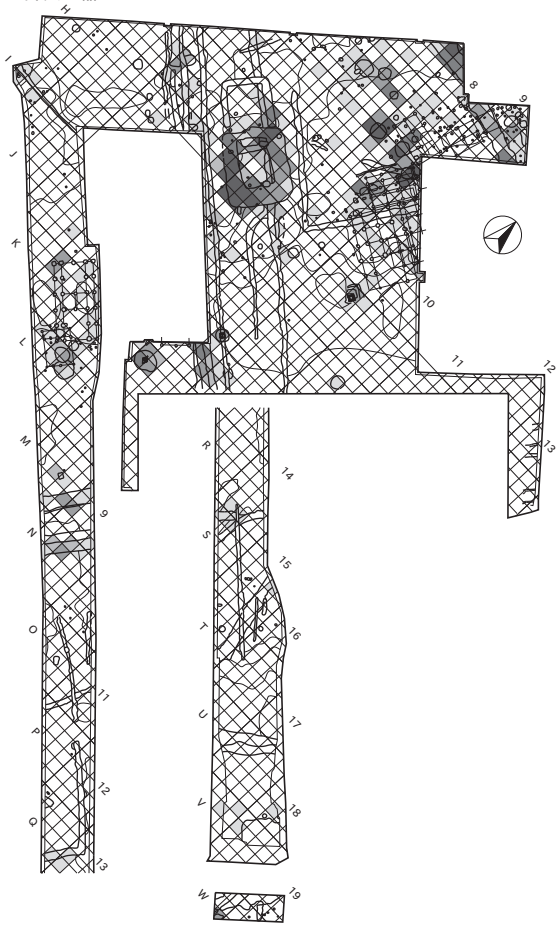
SB57（図版 53・114－3・4）

3 は P5657 から出土した土師質土器皿 R1 類で、4 は P5642 から出土した珠洲焼甕の体部片である。

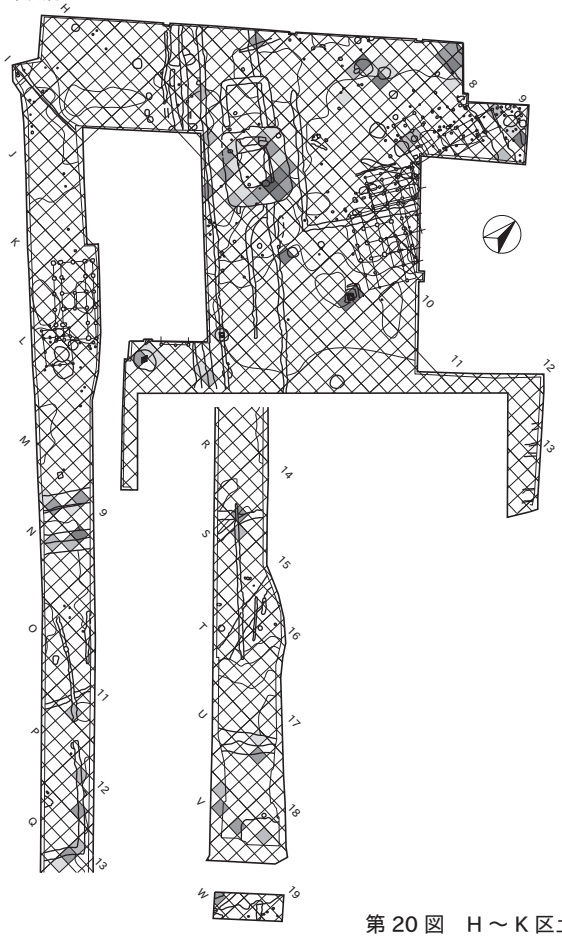
須恵器



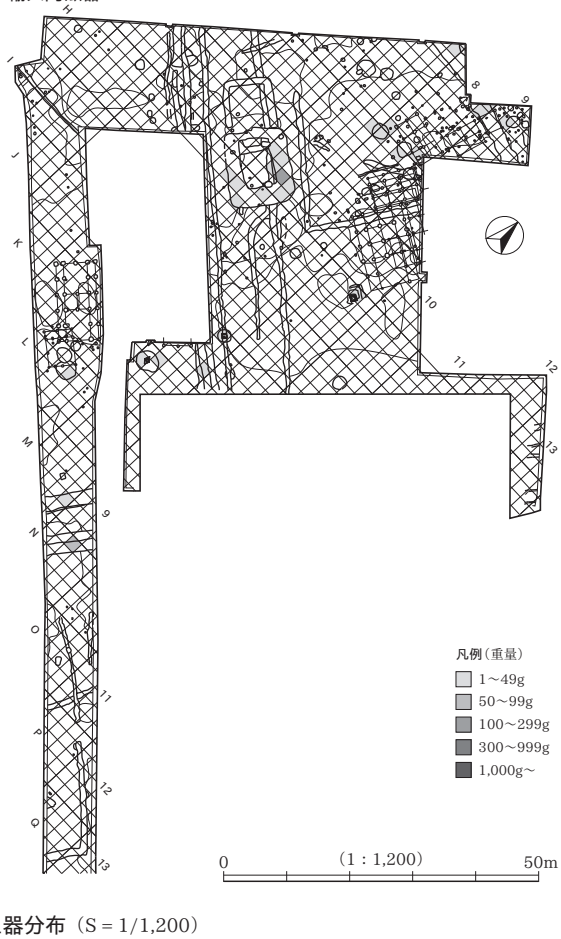
土師質土器



珠洲焼



輸入陶磁器



第 20 図　H ～ K 区土器分布（S = 1/1,200）

SK5400（図版 53・114－5）

5 は土師質土器皿 RH1 類で、口縁は直線的に立ち上がる。

SE5401（図版 53・114－6～11）

6・7 は珠洲焼壺 T 種で、口縁の形状から 6 はⅣ期である。7 は底部片で、内外面のほか割れ口まで炭化物の付着が著しい。8 は珠洲焼甕、9 は珠洲焼片口鉢でⅢ期の製品である。10 は瓷器系陶器鉢で色調が橙色を呈し、胎土の特徴などから北越窯産のものであろう。11 は龍泉窯青磁椀で幅の広い片切彫の鎬蓮弁文が配されている。

SE5100（図版 53・114－12～15）

12 は土師質土器皿 R1 類で、13・14 は皿 RH1 類である。13 は器形の一部がやや張り出し口唇を打ち欠きしている。その付近が煤で黒くなっていることから、そこに灯芯を据え灯明皿として使用されたと考えられる。15 は小皿 R1 類である。

SE5100・SE5101・SE5130・SD5132・SD5260（図版 53・114－16）

16 は珠洲焼片口鉢で、内面に 17 目の細かい卸し目が見られる。井戸（SE5100・SE5101・SE5130）、溝（SD5132）、方形周溝状遺構（SD5260）から出土したものが接合した。

SE5101（図版 53・114－17～25）

17 は土師質土器皿 RH1 類である。18 ～ 22 は土師質土器小皿 R1 類、23 は小皿 RH1 類である。19 は底面に板状圧痕が見られる。24 は龍泉窯青磁椀の小片で、鎬蓮弁文が配されている。25 は古代の須恵器無台杯である。

SE5102（図版 53・54・114・115－26～55）

26 ～ 44 は土師質土器皿で、26 ～ 32 は R1 類、36 ～ 44 は R2 類である。45 ～ 55 は土師質土器小皿で、45 ～ 52 は R1 類、53 は RH1 類である。54・55 は底部片である。26・27・36・45 ～ 48 は内外面、28 は内面に煤などが付着しており、灯明皿として使用されていたものであろう。

SE5126（図版 54・115－56～60）

56 は土師質土器小皿 R1 類である。57 は珠洲焼甕で、58 は龍泉窯青磁椀である。59・60 は古代の土器で、59 は土師器長甕、60 は須恵器甕の体部片である。

SE5129（図版 54～57・115～117－61～154）

61 ～ 109 は土師質土器皿で、61 ～ 96 は R1 類、100 ～ 109 は R2 類、99 は RH1 類である。110 ～ 149 は土師質土器小皿で、110 ～ 148 は R1 類、149 は RH1 類である。土師質土器皿・小皿の多くは内外面に煤が付着している。このうち 62 ～ 65・67 は口縁付近の付着が著しく、62・64 は口唇を打ち欠いているため灯明皿として使用された可能性がある。125 は底部内面が螺旋状となる。150 ～ 153 は輸入陶磁器である。150・151 は龍泉窯青磁椀である。152 は青白磁瓶子で体部外面のみ施釉され、底面は露胎である。153 は白磁椀である。154 は古代の須恵器無台杯である。

SE5130（図版 57・117－155・156）

155 は土師質土器皿 R1 類で、156 は土師質土器小皿 R1 類である。

SE5131（図版 57・117－157・158）

157 は土師質土器皿 R 類で、158 は土師質土器小皿 R 類である。

SE5131・SD5132・SD5260A（図版 57・118－159）

159 は須恵器横瓶で、井戸（SE5131）、溝（SD5132）、方形周溝状遺構（SD5260A）から出土した体部

片が接合した。

SE5133（図版 57・117－160）

160 は白磁椀の体部片である。

SE5138（図版 57・117・118－161・162）

161 は土師質土器皿である。162 は珠洲焼Ⅳ期の片口鉢で、内面に 5 目以上の細かい卸し目が見られる。

SE5268（図版 57・118－163・164）

163 は珠洲焼片口鉢の底部片で、割れ口を含めて内面に煤が付着している。164 は古代の須恵器甕口縁部片である。

SE5290（図版 57・118－165～173）

165 は土師質土器皿 R 類で、底面に板状の圧痕が見られる。166 は土師質土器小皿 R1 類である。167 はⅢ期の珠洲焼片口鉢である。168 は龍泉窯青磁椀である。169 は口禿白磁皿で 13 世紀後半～ 14 世紀前半に多く見られる製品である。170 ～ 173 は古代の須恵器である。172 は折縁杯で、9 世紀前葉～中葉の古代沼垂郡内の遺跡で出土する器種である［水澤 2004］。

SE5422（図版 58・118－174・175）

174・175 は珠洲焼甕である。175 は割れ口に修復の接着のため塗布した漆が付着している。

SE5631（図版 58・118－176）

176 は土師質土器皿 R 類の底部片である。

SE5632（図版 58・118－177・178）

177・178 は土師質土器皿である。177 は内外面のほか割れ口にも煤の付着が見られる。

SE5716（図版 58・118－179・180）

179 は青磁皿で、内面に花文が描かれている。180 は須恵器杯蓋である。

SK5201・SD2332・SD2354・SD5209・SD5216・SD5219・SD5260A（図版 58・118－181）

181 は口径 37.4cm、器高 63.7cm を測る須恵器大甕である。SK5201 から横位につぶれた状態で出土したが、道 2 の側溝（SD2332）、溝（SD2354・5209・5216・5219）、方形周溝状遺構（SD5260A）の中世の遺構 から出土した破片とも接合した。

SK5284（図版 58・118－182）

182 は青磁椀で、幅の広い片切彫の鎬蓮弁文を有する。

SK5368（図版 58・118－183）

183 は土師質土器皿 R 類の底部片である。

SK5630（図版 58・118－184）

184 は土師質土器皿 R1 類で、口縁が外反する。

SK5267（図版 58・118－185～187）

185・186 はⅢ～Ⅳ期の珠洲焼片口鉢である。186 は内面に丸十字の刻印が見られる。187 は珠洲焼甕の体部片で割れ口が磨れていて、研磨具として使用されていた可能性がある。SK5267 は方形周溝状遺構（SD5260）を切る近世以降の土坑であり、185 ～ 187 は本来 SD5260 に伴っていた可能性が高い。

SD5260A（図版 58・59・118・119－188～190・192・193・195・197・198・201～204・208・210～215・217・218・220・221）

188 ～ 190･192･193･195 は土師質土器皿で、188 ～ 190･192･193 は R1 類、195 は R2 類である。

189 は口縁を打ち欠きした脇が煤けていて、灯芯を据えていた痕が確認できる。197・198・201 ～ 204 は土師質土器小皿で、197・198・201 ～ 202 は R1 類、203・204 は T 類である。208・210 は珠洲焼片口鉢である。211 は瓷器系陶器甕で、外面の押印から権兵衛沢窯産と考えられる。212 ～ 215 は龍泉窯青磁椀で、212 ～ 214 は幅の広い片切彫の鎬蓮弁文を持ち、13 世紀後半から 14 世紀前半の所産と考えられる。217 は口禿白磁皿である。218・220・221 は古代の須恵器で、218 が杯蓋、220 が壺、221 が甕である。

SD5260B（図版 58・59・118・119－191・194・196・199・200・216・219）

191・194 は土師質土器皿で、いずれも R1 類である。194 は底面に板状の圧痕が見られる。196・199・200 は土師質土器小皿で、いずれも R1 類である。216 は同安窯青磁皿で、内面に劃花文が描かれている。SD5260A 出土の龍泉窯青磁椀よりは古い 12 世紀中～後半の所産と考えられる。219 は古代の須恵器で、壺である。

SD5260A・SE5401（図版 59・119－205～207）

205 は珠洲焼甕である。大甕の底部で、方形周溝状遺構（SD5260A）と井戸（SE5401）から出土したものが接合した。206・207 はこの甕の体部片である。

SD5260A・SK5267（図版 59・119－209）

209 は珠洲焼片口鉢で、口縁の形状、わずかに膨らみをもって立ち上がる器形からⅢ期と考えられる。方形周溝状遺構（SD5260A）とそれを切る近世以降の土坑（SK5267）から出土したものが接合した。

SD2354（図版 59・119－222）

222 は外面に鎬蓮弁文のある龍泉窯青磁椀の小片である。

SD3072（図版 59・119－223）

223 は古代の土師器椀である。内面の色調は黒色だが、ミガキは見られない。

SD5132（図版 59・60・119・120－224～240）

224 ～ 230 は土師質土器皿で、224 ～ 227 が R1 類、228 が R2 類である。231 ～ 233 は土師質土器小皿 R1 類である。234 は珠洲焼甕の体部片、235 は珠洲焼片口鉢である。236・237 は瓷器系陶器甕である。236 は色調がにぶい赤褐色を呈し、胎土の特徴などから北越窯産と考えられる。237 は外面に簾状文の押印が施される。238・239 は青磁椀である。240 は須恵器有台杯の底部片である。

SD5209（図版 60・120－241・242）

241 は土師質土器小皿 R1 類である。242 は土師質土器小皿 T 類で、底部は静止ヘラ切りである。

SD5231（図版 60・120－243）

243 は古代の須恵器壺で、中世の溝から出土した。

SD5252（図版 60・120－244）

244 は珠洲焼甕の体部片である。

SD5259（図版 60・120－245）

245 は土師質土器皿 R 類である。

SD5603（図版 60・120－246・247）

246 は土師質土器小皿 R 類の底部片で、247 は瀬戸・美濃焼壺の小片である。

SD5607（図版 60・120－248）

248 は珠洲焼片口鉢で、内面に 5 目の細かい卸し目が見られる。

SD5618（図版 60・120－249～251）

249 は珠洲焼壺 T 種、250・251 は珠洲焼片口鉢である。

SD5677（図版 60・120－252）

252 は古墳時代の土師器鉢である。比較的浅い丸底の体部と外反する口縁部からなる。

SD2000A（図版 60・120－253～259）

253 は土師質土器小皿 R1 類である。254 は珠洲焼甕、255 は珠洲焼片口鉢である。256・257 は瓷器系陶器甕で、256 は外面に簾状文の押印が施されている。258 は龍泉窯青磁椀である。259 は須恵器杯蓋である。

SD2001A（図版 60・120－260～264）

260・261 は珠洲焼片口鉢である。262 は瓷器系陶器甕で、外面に横「大」＋簾状文の押印から赤坂山窯産と考えられる。263 は須恵器無台杯、264 は須恵器有台杯である。

SD2001B（図版 61・120－265・266）

265 は土師質土器皿 R1 類である。266 は青磁椀の小片である。

SD2332（図版 61・120－267～270）

267 は珠洲焼壺 R 種の底部片である。268 は珠洲焼甕で、296 は珠洲焼片口鉢である。270 は須恵器甕の体部片である。

SD2334（図版 61・120－271～275）

271 は土師質土器皿 R2 類で、272 は土師質土器小皿 R1 類である。273 は珠洲焼片口鉢である。、274 は龍泉窯青磁椀、275 は青磁盤である。

包含層（図版 61・120－276）

276 はⅢ層から出土した須恵器無台杯である。

B　石　　製　　品（図版 61・121－277～283）

石製品は火打石 1 点、砥石 5 点、軽石 1 点で、井戸や方形周溝状遺構の溝などから出土した。277 はチャートの割石で、火打石と考えられる。278・279 は、方形周溝状遺構の溝から出土した。278 は扁平で滑らかな面をしていて仕上げ砥石と考えられる。石材は凝灰岩である。279 は角柱状で、面に×状の刃物傷がある。石材は凝灰岩である。280 は、SB48 ～ 50 の建物群と並行する溝から出土した砥石である。扁平で緻密な滑らかな面であることから仕上げ砥石と考えられる。石材は凝灰岩である。281 は道路跡の側溝から出土したもので、一面に無数の深めの線条痕が見られる。煤で黒ずんでいる部分がある。石材は凝灰岩である。282 は扁平な角柱状の砥石で、砥面は線状痕や方状に片減りした部分が見られる。石材は流紋岩で、煤で黒ずんでいる。そのほか製品ではないが、283 は楕円形状の軽石である。

C　金属製品・鍛冶関連遺物（図版 61・62・121－284～308）

金属製品・鍛冶関連遺物は、鉄製品 76 点、銭貨 1 点（一括出土銭を除く）、鉄滓 16 点で、建物の柱穴、井戸、方形周溝状遺構の溝、建物群エリアの区画溝、道の側溝などから出土した。鉄製品は錆膨れがひどく判別し難いものが多いが、種類は釘 37 点、金具 2 点、釣針 1 点、刀子 4 点、不明 32 点である。図化したものは、鉄製品 21 点、銭貨 1 点、鉄滓 3 点である。

284・285・287・289 ～ 291・293・297 ～ 303・305 は和釘で、頭部の形状が折れている皆折釘

第 21 図　多宇一石経の釈文

と呼ばれる木造建築用の釘である。286・295・296 は、刀子である。294 は銭貨で、元豊通寶である。304 は形状から釣針とした。288・292 は環状の金具片と考えた。306 ～ 308 は、鉄滓である。306・307 は椀形滓、308 はガラス質滓である。

D　多 字 一 石 経（図版 62・121－309・310）

礫の表面に経典の文字が記されているものである。

309 は、SE5138 埋土内の大量の礫に混じって出土した。310 は、近世以降の土坑 SK5267 から出土した。2 点とも石材は流紋岩である。文字は表面に墨書きされているが、文字が薄れていて判然としない部分が多い。釈文は、新潟県立歴史博物館　前嶋敏氏・浅井勝利氏から解読頂いた（第 21 図）。

309 で判読できたのは「如是展轉」のみである。法華経のうちで、この言葉が用いられているものは「譬喩品第三」、「化城喩品第七」、「見寶塔品第十一」、「隨喜功徳品第十八」、「法師功徳品第十九」などが知られている。ただし、本資料についてはどこから引用したのかは判然としない。310 が「譬喩品第三」からの引用であることからすると、その可能性もある。

310 は四面に文字が記されているが、右側面は薄れて文字が判然としない。釈文は「妙法蓮華經譬喩品第三」の一節から引用したものと考えられる。通常、経は右行列から順に記されるのだが、本資料は左行列から記されている。現時点ではこのような事例は確認できていない。また、同じ「妙法蓮華經譬喩品第三」から引用した句を記した経石は、新発田市小船渡遺跡［加藤ほか 2014］で出土している。

E　木　　製　　品（図版 62～68・122～127－311～387）

1）概　　要

木製品は、345 点出土した。漆器、井戸の縦板・桟木・隅柱、曲物、円形板、杭などがある（第 7 表）。SB52 の柱穴から出土した漆器（311）、P5673 の一括出土銭が収められていた曲物（387）、SR2444（385）から出土した縦板以外は、井戸から出土した。木製品の利用樹種は、多くがスギ材である（第Ⅵ章 1 参照）。

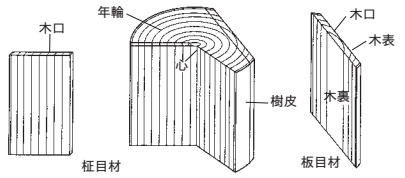
2）記 述 の 方 法

木製品の説明は、本文、観察表、図面･写真図版を用いて行う。図面図版の縮尺は、大きさに則して 1/3、1/4、1/8、1/10 とした。図面図版と写真図版は、同じ縮尺で掲載した。

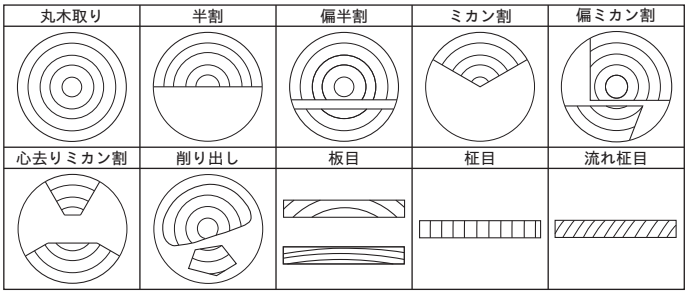
観察表は、次の観察項目を設定してその内容を記し、不明なものを空白とした。

遺構名 / 器種	SB52-P5478	P5673	SE5101	SE5126	SE5260	SE5290	SE5401	SR2444	合　計
縦板（120cm以上）							22		22
縦板（60 ～ 120cm）				1		27	17		45
縦板（30 ～ 60cm）				5		67	4	1	77
縦板（30cm以下）				29	1	69	16		115
桟木				2		5	7		14
隅柱						3	20		23
曲物（製品）		1				2	1		3
曲物（部材）						2	1		3
円形板						2			2
加工材						4	31		35
漆器（小皿）	1		1						2
杭							1		1
不明				2			1		3
合　計	1	1	1	39	1	181	121	1	345

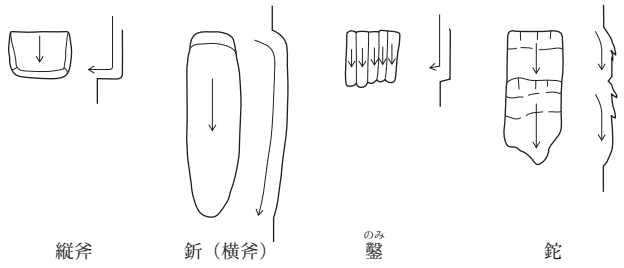
第 7 表　遺構別木製品出土点数



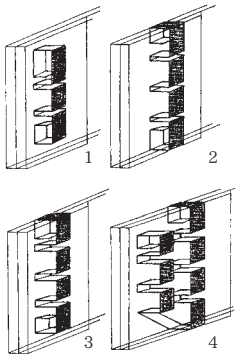
第 22 図　木取り及び木材一般の部分名称
［橋本 2003］



第 23 図　木取りの分類［荒川ほか 2004］

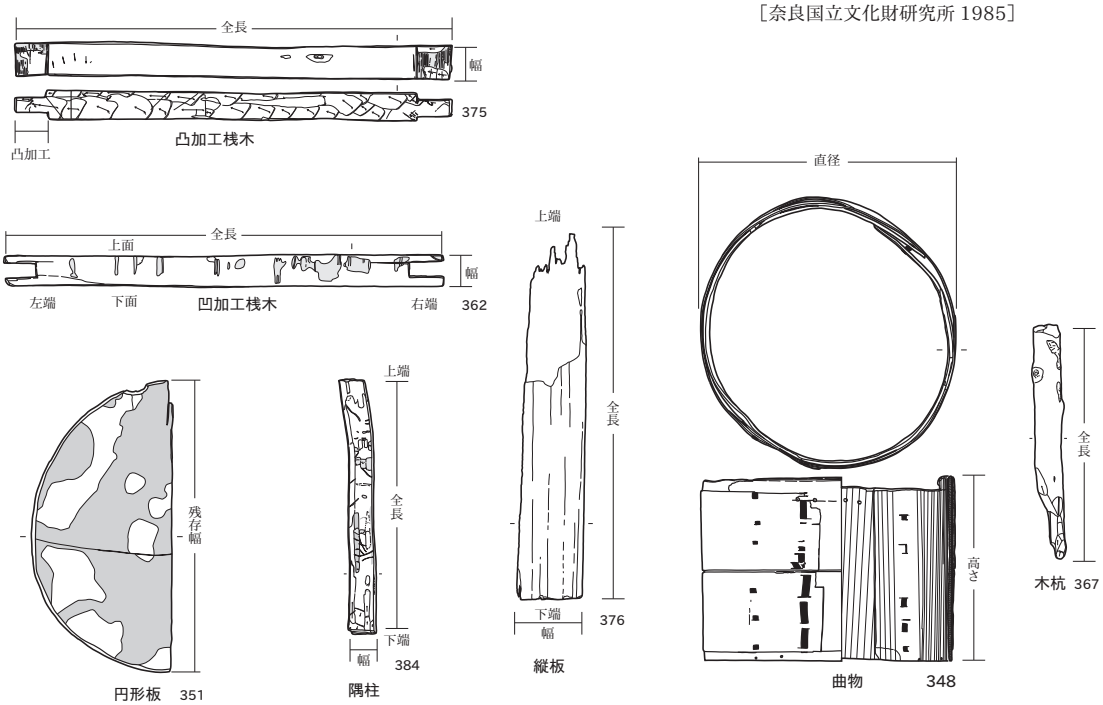


第 24 図　加工痕の分類と図の表現［荒川ほか 2012］



1：1列内3段綴じ
2：1列外4段綴じ
3：1列上外下内4段綴じ
4：2列前外4段後内3段綴じ

第 25 図　曲物の綴じ方
［奈良国立文化財研究所 1985］



第 26 図　器種別部位名称

① 報告 No　図面図版及び写真図版に付した番号を記載した。井戸側の部材で接合できた個体については、図の正面で上位にあるものから順に枝番を付し、隅柱・桟木は、アルファベットを付し記載した。

② 出土地点　出土したグリッド・遺構種別・遺構番号・遺構埋土層位を記載した。井戸側のある井戸の中で、井戸側の出土面の方位を記録したものは記載した。

③ 分類　奈良国立文化財研究所［1985］を参考に下記のとおり用途における分類及び器種分類を行った。容器－小皿、曲物、円形板がある。施設材－井戸の構造材である井戸側（縦板・桟木・隅柱）・水溜（曲物）がある。加工材－用途不明のものをまとめる。

④ 木取り　木材の部位名称は橋本［2003］（第 22 図）、木取りは荒川ほか［2004］（第 23 図）に従った。

⑤ 樹種　樹種同定の結果（第Ⅶ章 1）を記載した。

⑥ 加工・特徴　材の表面の加工痕、キズ、つぶれなどの圧痕、変色などの特徴を記載した。加工痕の特徴からの工具の推定は荒川ほか［2012］（第 24 図）を、曲物の綴じ方は奈良文化財研究所［前掲］（第 25 図）を参考にした。

⑦ 計測値　全長・幅（直径）・厚さ（高さ）について木製品の各部位の最大値を計測した（第 26 図）。

3）各　　説

SB52-P5478（図版 62・122－311）

漆　器　311 は小皿と考えられるが、漆塗膜片のみで木地は残存していない。内外面とも黒色を呈している。漆塗膜片構造の分析（第Ⅵ章 3）を行ったところ、311 は下地の可能性がある厚い層と外面に透明漆の可能性がある薄い層が確認された。

SE5101（図版 62・122－312）

漆　器　312 は小皿と考えられるが、漆塗膜片のみで木地は残存していない。外面は赤色で、内面は黒色を呈している。漆塗膜片構造の分析結果（第Ⅵ章 3）では漆層が 2 層あり、木地側に透明漆、その外側に水銀朱と考えられる赤色顔料を混和した漆層が確認された。

SE5126（図版 62・122－313～318）

縦　板（313～316）　方形に井戸側を構成する縦板が 35 点出土した。残存状態は悪く、残存長 30cm 以下のものが多い。313 ～ 315 は先端を釿加工で削り、地中に差し込むようにしている。316 は側面に抉りが等間隔に入っていて、建造物の部材の転用と考えられる。

桟　木（317・318）　2 点出土した。いずれも腐食が著しい。317 は板材状で、朽ちているが左端が凹部状を呈しているように見える。側縁に抉り加工状の凹みがある。318 は板材状で、両端に凹加工が施されている。

SE5290（図版 63・64・122・123－319～351）

縦　板（319 ～ 339）　方形に井戸側を構成する縦板が 163 点出土した。一端に方形（319 ～ 321・324 ～ 326・329 ～ 331・333・337・339）あるいは円形（334・338）の穿孔があるものが多くあり、端部を斜めに加工した板材（322・323）もある。これらは建造物の部材を転用したと考えられる。325・330・331・338 は表面に桟木の木目圧痕が認められる。328・330 は、表面にコゲが付着して黒くなっている。334 は、円形に穿孔した穴の下に貫通していない孔がある。

隅　柱（340 ～ 342）　3 本とも腐食が著しい。340 は木口に斧で切断した痕跡が認められる。

桟　木（343 ～ 347）　343 は上段に組まれていた桟木のひとつであるが、両端の形状は朽ちて不明である。344 ～ 347 は曲物上部に組まれていた最下段の桟木である。端部の形状は、344・346 が凸状、345・347 が凹状で、木口を鋸を用いて作りだしている。

曲　物（348・349）　348 は、水溜上段の曲物である。側板は内側と外側の 2 重になっている。内側の側板は 1 枚の板目材で、折り曲げて重なった所を 1 列内多段で綴じている。下端に底板を留める 9 か所の木釘穴があり、4 か所に木釘が残っている。外側側板はほぼ同じ幅の柾目材 2 枚を上下 2 段に巻いている。上段は 1 列外多段で、下段は 1 列内 3 段で綴じている。349 は水溜下段の曲物である。側板は 1 枚の柾目材を折り曲げて 1 列外多段で綴じている。中段で割れてしまった所をつなぎ留めるためと考えられる 2 対の補修穴がある。箍は上下 2 か所に施している。いずれも柾目材で 1 列外 3 段綴じで、留め終わりは内側に差し込む。綴じ合わせ部分の上端側は、上下縁を抉って両角を落とす「キメカキ」技法［西村 1994］が施されている。

円形板（350・351）　円形の板材である。2 点とも折れているが、本来円形であったと推定して円形板とした。350 は、木釘穴が 2 か所あり、1 か所に木釘が残存する。351 は表面が黒色で摩耗しており、小型曲物の底板と考えられる。

SE5401（図版 64～68・123～127－352～384・386）

縦　板（352 ～ 359・370 ～ 373・376 ～ 381）　縦板は 59 点出土した。木片（60cm 以下）を除いた縦板の現存長は 97 ～ 171cm で、幅 8.5 ～ 23.4cm、厚さ 0.6 ～ 3.0cm の薄板である。木取りはすべて板目材である。接合個体は、12 点認められた。352・353・357 ～ 359・370・371・379 ～ 381 は縦板が接合したものである。352・353 は木口に斧加工痕が残る。桟木が据えられていた部分は、正面が帯状に黒色を呈していたり、木目状の圧痕が認められる。355 は左右側面の同じ位置につぶれてへこんでいる。356 は表面に刃物キズが認められ、側面に釿加工が残る。357 ～ 359 はいずれも木口に斧加工痕が残り、側面に釿加工が認められる。372 は正面に桟木の圧痕が認められる。373 は正面に桟木の圧痕があり、周縁に釿加工が施されている。379 は縦板が 2 点接合したものであるが、379-2 側の裏面に打ち割りが上手くいかなかったのか別板の断片が残る。381 は表面に炭化物が付着し、桟木が据えられていた部分は平滑で光沢を帯びている。

桟　木（360 ～ 362・374・375）　360 ～ 362 は三段目に、374・375 は四段目に組まれていた桟木である。360・374 は接合資料である。360 は凸状加工桟木 2 点が接合したものである。正面に木目状と釘状の打ち割り時の楔痕が認められる。凸部は正面に線状痕があることから、加工にあたっては鋸が用いられたと考えられる。361・362 は凹状加工の桟木である。割面に打ち割り時の釘状の楔痕、両端に隅柱の圧痕が認められる。374 は凹状加工 2 点、凸状加工 1 点の桟木が接合したものである。374-A は凹状加工で、表面両端に隅柱の圧痕、側面に打ち割り前の釿加工が認められる。374-B は凹状加工で、接合面に釘状と木目状の打ち割り時の楔痕が残る。375 は凸状加工で、側面に打ち割り前の釿加工が残る。

隅　柱（363・364・382 ～ 384）　363・364 は横桟二段と三段の間に位置する隅柱で腐食が著しい。382 ～ 384 は横桟三段と四段に位置する隅柱である。382 は 2 本の隅柱の先端が接合し、1 本の長い角材を鋸で切断したものであることがわかった。384 は正面の一部が炭化している。

曲　物（386）　386 は水溜の曲物である。側板は内側と外側の 2 重になっている。内側の側板は 1 枚の板目材で、折り曲げて重なったところを 1 列内多段で綴じている。外側側板は柾目材 2 枚を上下 2 段に巻いている。上段外側側板は 1 列外多段でキメカキを施して綴じている。下段外側側板は 1 列上外下

内多段で、綴じ合せの上縁のみキメカキを施して綴じている。箍は1本巻かれていて、下部を補強している。

曲物内出土木製品（365 ～ 369）　曲物内から出土した木製品をまとめる。365 は幹の枝部分を切り取ったもの、366 は幹の先端を削って尖らせた木杭と考えられる。367 ～ 369 は井戸側に使われていたものが朽ちて曲物内に落下した角材、板材などである。

P5673（図版 68・127－387）

曲　物（387）　387 は 2,907 枚の銭貨が納められていた曲物で、風化が著しい。側板は 1 枚の薄板を巻いて作られている。

F　一 括 出 土 銭（図版 68～71・127～130－388～544）

P5673 で検出した曲物（387）の中から 2,907 枚の銭貨が緡 30 本にまとめられた状態で出土した（第 8 表）。1 緡の銭枚数は、97 枚のものが最も多く 23 本、96 枚のものが 4 本、94 枚・98 枚・100 枚のものがそれぞれ 1 本である。

銭種は 52 種類で、2,907 枚から 157 点を図版に掲載した。掲載にあたっては基本的に銭種・書体ごとに 2 点ずつとし、背に文字・記号、特異な形状（周縁に刻み、孔の形状が特徴的など）がある種は 2 点以上掲載した。初鋳年最古銭は五銖（後漢：24 年）で、最新銭は咸淳元寶（南宋：1265 年）である。最新銭の年代から一括出土銭は 13 世紀後葉頃に埋められたものと考えられる。鋳造された王朝ごとの構成比を見ると、北宋銭が 87.3%（2,538 枚）と最も多く、次いで唐銭 8.57%（249 枚）、南宋銭 3.0%（87 枚）、南唐銭 0.17%（5 枚）、金銭 0.17%（5 枚）、前蜀銭 0.14%（4 枚）、後漢銭 0.1%（3 枚）、後周銭 0.07%（2 枚）となる。銭種別の枚数を見ると皇宋通寶が 377 枚で最も多く、次いで元豊通寶が 345 枚、熙寧元寶が 307 枚、元祐通寶が 263 枚、開元通寶（唐）が 241 枚となり、これらで出土銭貨の半数を占める。

種別	国	初鋳年	書体	紐番号																												合計
				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	
五銖	後漢	24																						1							2			3
開元通寶	唐	621		6	8	5	11	5	10	9	2	7	10	11	6	6	9	12	4	5	6	8	8	8	12	12	8	8	8	12	7	14	4	241
乾元重寶	唐	758				1	1		1								1						1	1			1			1				8
乾德元寶	前蜀	919								1					1																		1	3
咸康元寶	前蜀	925													1																			1
周通元寶	後周	955									1																			1				2
唐国通寶	南唐	959	真																															0
			隷																															0
			篆										2																					2
	南唐	960						1			1							1																3
宋通元寶	北宋	960						2						2							1	1			1	1			1			1	10
太平通寶	北宋	976				1	1		2		1		2		1	1	1		1		3	1	1	3		1		1		1	1	1	2	26
淳化元寶	北宋	990	真	1				1		1							1	1				2		1	1	1					1	2	13
			行		2	2	1				1	1														1			1		1	1	11
			草	1				1						1						2	1		1			1			1		1		10
至道元寶	北宋	995	真	2	1		2	1			1		1						1	1	2						1			1		1	15
			行						1																	1	1			2		1	6
			草											3	1	1		1		1				1		1	2			1	2	3		17
咸平元寶	北宋	998		2	1		1	2	1	3	1	4	5	1	2	2	1	2		1	2	1	4	4	1	1	1	2	1			2	3	51
景德元寶	北宋	1004		5	3	1	2	2		1	1	5	2	1	7	3	3	1	2	2	3	1		3	3	2	2	1	1	4	3	1		65
祥符元寶	北宋	1008		1		1	1	6	2	4	2	6	3	2	3	3	5	11	3	1	1	1	3	5	3	2	4	6	1	3	3	3	5	94
祥符通寶	北宋	1008			1		1	3	2		4	1	2	1	1	3	2		1	1	3	2	2	2	2	2	1	1		1			2	41
天禧通寶	北宋	1017		1	4		3	1	1		1	3		3	2	3		1	1	4	3	3	1			1	2		5	1	4	2	2	52
天聖元寶	北宋	1023	真	3	1	1	1	3	3		5	2	1	1	2	3	2	2	1	2	2	1	2	4	3	3	2	3	5	1	3	4	2	68
			篆	3	5	1	1	5	1	6	4	4	3	1	2	3	2	3	2	1	2	2	1		1	3	3		3	1			1	64
			不明																			1											1
明道元寶	北宋	1032	真																1				1							1		1		4
			篆								1	1				1					1		1	1	1			1			1			9
景祐元寶	北宋	1034	真		2					1	1	2	1	1		1	3	2	2	3		2			3			2			2		1	29
			篆	1	3		1				1	1		1	2	1		1			1	2	1	1										17
			不明							1																								1
皇宋通寶	北宋	1038	真	6	12	12	7	4	8	11	7	9	5	9	8	6	5	6	6	6	7	4	7	9	7	5	8	4	12	4	3	8	8	213
			篆	8	5	6	4	5	9	3	7	5	5	2	6	2	4	5	5	6	4	5	8	4	6	8	8	4	3	9	2	9	5	162
			不明				1					1																						2
至和元寶	北宋	1054	真	1		1	1				1	1		1	1	1		1	1	1	1				2	1	1					1	2	19
			篆			1	1								1	1						3		1		1				1	1	1	12
至和通寶	北宋	1054	真			1			1		1													2				1					6
			篆				1		1	1	1	2							1								1			1				9
嘉祐元寶	北宋	1056	真								1				2		2	2				3	1				1	1	1	1			1	16
			篆			1		1	1		2	1									2	1	1						1			2		13
			不明							1																								1
嘉祐通寶	北宋	1056	真	1	3			1		1	1		1	2	2	2	2		1		1	2	2	2	1	3		1		1			2	32
			篆	1			2	1	1	2	3	1	1	2	1	2	2	1		3		1		1	2			1	2	1	1	1	1	34
治平元寶	北宋	1064	真	1			1	1	1	1			1	1	2	1	2	1	3		1	1	1	2	2	1	2	1	1	1	2	1	1	33
			篆					2	2	1	1	1		1	1		1		2	1	2	2			1	3		1						22
治平通寶	北宋	1064	真																	1			1											2
			篆																	1			1								1			3
			不明									1								1														2
熙寧元寶	北宋	1068	真	4	8	10	4	5	5	4	4	4	5	8	4	3	5	5	5	6	6	8	2	2	6	5	3	5	3	8	8	3	3	151
			篆	4	5	8	6	2	10	1	4	1	6	4	4	3	5	6	7	7	6	5	8	8	1	2	3	8	4	5	7	7	6	153
			不明	2													1																	3
元豊通寶	北宋	1078	真	2			1				1																							4
			行	4	9	10	12	4	8	9	7	6	7	6	3	5	2	2	8	5	3	6	7	4	8	7	3	8	4	12	7	5	5	186
			篆	5	5	6	4	9	3	3	4	5	7	1	4	5	8	5	6	6	3	1	4	6	1	3	9	8	14	4	6	4	4	153
			不明	1	1																													2
元祐通寶	北宋	1086	真								1		1																					2
			行	2	1	5	6	3	4	5	5	2	3	3	5	8	10	8	2	7	4	3	3	1	3	4	6	7	5	5	3	5	6	134
			篆	10	1	2	5	3	2	6	1	6	4	6	3	4	3	4	6	5	2	6	7	2	2	3	4	6	4	4	3	6	6	126
			不明																			1												1
紹聖元寶	北宋	1094	行		5	1	2	3	4	1	2	1	2	4	2	4		2	1	1	2	2	1	1	3	7	1	1	4	3	3	1	4	68
			篆	3	2	1	2	2	1	3	3	3	5	2			1	3	3		5	3		3	2	1	1	1					1	51
			不明	1																														1
元符通寶	北宋	1098	行			2	1	2	1	2	1			1			2	1		3							1			2			19
			篆	1		1		2		1	1	1			1	3	1	1		2							1	1	3				2	22
聖宋元寶	北宋	1101	行	2		3	1	1	3		3	2	3	2	5		1		3	2	3	1	3		2	1	2		2	1	2	2	1	51
			篆	2	1	2	2	1	1	4		1	2		2	1	1		5	1	2		4	2	3	3	2	2	3	1	3	1	2	54
大観通寶	北宋	1107			2	1	2	1	5	2	1	2	1		3	2	2		1	2	1	2		3	2	4	1	4	2		2	3		2	53
政和通寶	北宋	1111	隷	5	2	2	1	3	1	2	1	2	2	3	3	7	4	1		1	3	4	2	3	2	2	4	1	1	1	2	2	2	69
			篆	2	1	1		1	2		2	2			2		1		4	1	6	3	1		1	2	1	2			3	2	2	42
宣和通寶	北宋	1119	隷													1						1		1										3
			篆								1											1					1	1	1						5
建炎通宝	南宋	1127	真																															0
			篆																		1													1
正隆元寶	金	1157											1						1	1						2								5
淳熙元寶	南宋	1174	真			1	1	1	1	1		2			1		2		1					1				1		1	1			15
			篆																															0
紹熙元寶	南宋	1190					1	1					1	2														1	1	1				8
慶元通寶	南宋	1195				1	1							1				1		1	1			1	2		1							10
嘉泰通寶	南宋	1201											2	1						1							1							5
開禧通寶	南宋	1205						1														1												2
嘉定通寶	南宋	1208					1	1	1		1		1		1	1	1	1			1			1	1										13
大宋元寶	南宋	1225													1			1																2
紹定通寶	南宋	1228			1					1			1											1										4
嘉熙通寶	南宋	1237		1																														1
淳祐元寶	南宋	1241												1						1			1		2			1		1				7
皇宋元寶	南宋	1253					1	2									1						1	1							1		1	8
開慶通寶	南宋	1259																													1			1
景定元寶	南宋	1260													1	1						1				1								4
咸淳元寶	南宋	1265				1								1						2					1				1					6
不明								2		1		1				1		1	1					1	1			1		1		1	2	14
合　計				97	97	96	98	97	97	94	96	100	97	97	97	96	97	97	97	97	97	96	97	97	97	97	97	97	97	97	97	97	97	2907

第８表　一括出土銭一覧

第Ⅴ章　縄文時代の調査

1　遺　　構

A　検　出　状　況

縄文時代の遺構は2009年度調査で検出した旧河道(SR2444)岸辺から、竪穴建物1棟、掘立柱建物2棟、土坑9基、炭化物集中範囲61か所（2009年度調査で検出したものを含む）、ピット65基（掘立柱建物・竪穴建物の柱穴などを除く）を検出した。遺構を検出した層位は3a・3h・5e・8a・12b・12dの6層で、このうち3a～8a層を上層、12b・12d層を下層と呼称する。左岸ではⅦ層上面で遺構を検出した。断面観察の結果、Ⅶ層はSR2444下層の上面に堆積し上層に相当する。

また、11Jグリッド、8Mグリッドの土層断面で巨大な噴砂痕を確認した。11Jグリッドで確認した噴砂痕は6a層を、8Mグリッドで確認した噴砂痕（図版81）はⅡ層直下の1c層まで切っている。1層は縄文時代晩期後葉の土器が出土した3a層よりも新しいため、噴砂痕は縄文時代晩期以降に起きた地震によるものと考えられる。

B　各　　説

1）旧河道（SR2444）左岸の遺構

左岸で検出した遺構は竪穴建物1棟、掘立柱建物2棟、土坑9基、炭化物集中範囲8か所、ピット63基を数え、時期はいずれも縄文時代晩期後葉である。各遺構の形態・規模などは観察表にまとめてある。

a　竪　穴　建　物

SI5794（図版38・42・80・106）

4I・J、5Jグリッドに位置する。平面形は長方形を呈し、長径536cm、短径508cmを測る。床は深さ約20cmの平らな面を持つ。東側に長径約2mの不整形の土坑を有す。土坑の底面や壁には凹凸があり、整形されたものではない。埋土は1～10層に分層した。土坑底面は炭化物粒を含む8～10層が堆積し、これらの上を貼床状に堆積する6・7層が覆う。6・7層はⅥ層に極めて近い土質であるが、炭化物粒を含むことや、Ⅵ層に比べやや暗い色調であることから、埋土と判断した。

床面から7基のピットを検出した。P5802・P5596を除き、床面上で検出したほかのピットはすべて6・7層の上から掘り込まれたものであることから、SI5794に伴うものではないと判断される。一方、P5802･P5596は土坑内の7層掘削後に検出したものであり、SI5794に伴う可能性が高い。したがって、建物を構築する柱穴と判断できるものは確認できない。遺物は出土しなかった。

b　掘　立　柱　建　物

5～7J～Lグリッドの Ⅶ層上面では縄文時代のピットを多数検出した。掘立柱建物はそのピット群内で確認し、川岸から約20～40mの所に位置している。主軸・梁行長は2m強と小型のものである。周辺のピットの中には柱痕を確認できるもの（P5570・P5581・P5589・P5756など）があるが、建物を構築

する規則性を持つものは２棟しか認めることができなかった。

SB60（図版 37・43・106）

旧河道左岸から約 20m 離れた 6・7K グリッドに位置する。1 間× 1 間の台形の両端に突出する 2 基の柱穴を有するいわゆる亀甲型を呈するものと考えられるが、南東側に突出する柱穴は中世の遺構に切られていることもあり確認できなかった。そのため南東側の柱穴は突出せず、五角形を呈していた可能性も考えられる。五角形を呈する場合の主軸長は 2.05m、梁行長は 2.40m である。主軸方向は N-45°-W を測る。柱穴 2 基（P5559・P5576）に柱痕が認められ、径 10cm 程の柱を据えていたものと推測される。柱穴に重複関係は認められず、すべて単独のピットである。柱穴から遺物は出土しなった。

SB61（図版 37・43・80・106・107）

旧河道左岸から約 27m 離れた 6K グリッドに位置する。1 間× 2 間の不整方形の北東端に突出する 1 基の柱穴を有する不規則な五角形を呈する。主軸長は 2.60m、梁行長は 2.14m である。主軸方向は N-44°-W を測る。柱穴 4 基（P5568・P5569・P5584・P5769）に柱痕が認められ、径 10cm 程の柱を据えていたものと推測される。北東側の柱穴 3 基（P5568・P5569・P5585）の上面に SC5770 が位置する。柱穴より新しい時期に形成されたものと考えられる。柱穴から遺物は出土しなかった。

c　土　　坑

土坑は旧河道から約 10m 先に位置するもの（SK5743・SK5751）、約 20 ～ 40m 先のピット群内に位置するもの（SK5562・SK5761・SK5762・SK5771）、約 50m 先に位置するもの（SK5789・SK5791・SK5792）がある。平面形は、楕円形（SK5743・SK5751・SK5771・SK5792）と不整形（SK5562・SK5761・SK5762・SK5789・SK5791）がある。楕円形の深度は 40cm 以上と深いものが多く、断面形態は台形状・半円状となるものが多い。不整形の深度は 40cm 未満と浅く、断面形態は弧状となるものが多い。埋土の堆積は SK5743 以外がレンズ状・単層で、自然堆積と考えられる。特に SK5751・SK5761・SK5762・SK5771 は埋土が極めて近似しており、ほぼ同時期に堆積した可能性が高い。

SK5562（図版 37・44・107）

底面は凹凸があり、西側が落ち込む。埋土は褐灰色シルトの単層で、周辺の土坑 SK5761・SK5762 とは異なるため、堆積した時期は異なるものと考えられる。

SK5743（図版 37・44・80）

埋土の堆積はブロック状で、他の土坑とは異なり、人為的な堆積と考えられる。P5749 に切られており、北西側に位置するピット群より古い時期に形成されたものと考えられる。埋土 1 層から縄文時代晩期後葉の土器（564）が出土した。

SK5762（図版 37・44・108）

底面は凹凸があり、北側が落ち込む。埋土はにぶい黄橙色シルトを主体としており、SK5751・SK5761・SK5771 の埋土と近似している。周辺には灰黄褐色シルトを主体とするピット群が位置しており、その中の P5565・P5574 を切っている。そのため SK5762 を含む上記の土坑はピット群より新しい時期に形成されたものと考えられる。

d　炭化物集中範囲（図版 37・47）

炭化物集中範囲は阿賀野市山口野中遺跡の分類案［村上 2015］に準じて、「a：焼土が認められ、焼土

の周辺に炭化物が集積するもの」「b:炭化物が集中し、焼土粒を含むもの」「c:炭化物のみが集中するもの」に、「d：炭化物が濃密に分布するもの」を加えて分類した。旧河道内で確認した炭化物集中範囲も同様に分類した。

旧河道左岸で検出した炭化物集中範囲は 8 か所で、すべて c 類である。旧河道から 2 ～ 14m 先に位置するもの（SC5740・SC5741・SC5742・SC5744）、約 25m 先の微高地に位置するもの（SC5770）、50 ～ 60m 先に位置するもの（SC5778・SC5780・SC5790）がある。長径は 1 ～ 2m 程である

e　小　　結

旧河道左岸の遺構は位置関係を見ると、南側のⅠ・J 区に集中し北側の H 区では稀薄である。これらの遺構の埋土から、①灰白色シルトを主体とする SK5743、②灰黄褐色シルトを主体とする SI5794･SK5562 と SB60・SB61 を含むピット群、③にぶい黄橙色シルトを主体とする SK5751・SK5761・SK5762・SK5771・SC5570 の 3 群に分類できる。そして SK5743<P5749、P5565・P5574<SK5762 の切り合い関係から、①→②→③という 3 段階の遺構変遷が想定できる。

以上の観点から、今回の調査で検出した旧河道左岸の遺構群は縄文集落北東側の縁辺部に位置しており、集落の中心は調査区の南西側に位置するものと推測できる。さらに 3 段階の変遷が想定でき、建物を含めた遺構の大部分は第 2 段階に属すると考えられる。その前後の時期は短期の活動にとどまっていたものと想定される。

2）旧　河　道

SR2444（図版 35・36・48・51・52・79・81・111・112・113）

D 区で検出した。南西から北もしくは北東方向に延びる旧河道である。北西側の左岸から南東に向かって勾配を持ちながら幾重にも堆積している状況を土層断面で確認したものの、右岸側の立ち上がりは調査区外にあり確認できなかった。

SR2444 は 13 回の流路変遷があり、左岸は新しくなるほど南西方向に移動していることを確認した。そのため SR2444 の埋土は、流路の新しいものから 1 ～ 13 の算用数字、切り合い内は上層から a ～ i のアルファベットで表し、両者の組み合わせ 3a 層・5e 層のように示した。また同一層でも場所によってラミナ状に堆積し分層が可能な場合は、5e ①層・5e ②層のように丸数字で細分を行った。

流路の堆積は 1 ～ 5 は D 区北半で、8 ～ 13 は南半でのみ確認した。流路 3 は最上層の 3a 層はほぼ水平に堆積しているものの、下層に降るに従い北西から南東側に勾配を持ち、D 区東側に低位面を持つ。流路 4 ～ 6 は流路 3 の下部に堆積する。流路 3 と同様、下層に降るに従い北西から南東側に勾配を持ち、D 区東側に低位面を持つ。低位面の位置は流路 3 のそれとほぼ重なる。流路 5・6 は南側に進むに従い各層の堆積が厚くなり、シルト層と砂層がラミナ状に堆積する部分も見られる。流路 7 は D 区東側に低位面を持ち流木を多量に検出した。大部分は加工痕の見られない自然木である。そのため左岸からの人為的な廃棄とは考えにくく、上流から流れてきたものが集積したものと考えられる。河道 8 ～ 12 は D 区では北西から南東側に勾配を持つものの、西側の H 区ではほぼ水平に堆積する。

縄文時代の遺構・遺物出土状況を見ると、3 ～ 8 層の上層と 12 層の下層に大きく二分される。上層の左岸は南西から北東に向かってほぼ真っ直ぐに延びる。遺構・遺物は D 区北東側の左岸斜面・低位面で検出した。遺構はピット 2 基を除けばすべて炭化物集中範囲である。遺物は縄文土器・石器があり、特

に 3a 層で 3 か所、3h 層で 3 か所、6a 層で 1 か所、縄文土器がまとまって出土した。下層の左岸は D 区南西側から北に向かって蛇行する。遺構・遺物は D 区南西側の左岸緩斜面で検出した。遺構は炭化物集中範囲のみである。遺物は縄文土器甕一個体があり、12a 層中から 8J25 グリッドでは口縁～体部片、9J11 グリッドでは底部が正位に出土した。

3）旧河道（SR2444）上層の遺構

2009 年度調査分を合わせると、旧河道上層で検出した遺構は 3a 層で炭化物集中範囲 15 か所、ピット 1 基、3h 層で炭化物集中範囲 9 か所、5e 層で炭化物集中範囲 14 か所、7b 層でピット 1 基、8a 層で炭化物集中範囲 3 か所で、時期は縄文時代晩期後葉（鳥屋 2a ～緒立 1a 式期）である。各遺構の形態・規模などは観察表にまとめてある。

a　3a 層面（図版 39）

炭化物集中範囲

検出した炭化物集中範囲は 15 か所で、a 類が SC5510・SC5514 で、ほかは c 類である。a 類は調査区北東側の緩斜面上に位置しており、平面形は楕円形もしくは不整形で、長径 2m 前後である。c 類は SC5514 の北西側及び SC5510 西側の微高地上に位置している。平面形は不整形を呈するものが多く、長径 36 ～ 294cm まである。

SC5510（図版 39・45・108）

中央下部に堆積する 2 層は赤灰色の焼土である。2 層外周の 3 層、上部に位置する 1 層は炭化物層で、この場で火を焚いたものと推測できる。遺物は縄文土器（558 ～ 560）が出土した。

SC5514（図版 39・45・108）

緩斜面に位置しており、北西から南東側に向かって 15cm 程傾斜する。約 2m の範囲で灰赤色の焼土が分布し、多量の炭化物がほぼ均一に含まれる。この場で火を焚いたものと推測できる。遺物は縄文土器が出土した。

SC5504（図版 39・45・108）

調査区北東側の微高地に位置する。炭化物がまばらに分布し、焼土粒は認めらなかった。遺物は縄文土器が出土した。

ピ　ッ　ト

P5500（図版 39・43）

SR2444 3a 層上面で検出した。埋土は浅黄橙色シルトの単層で、左岸に位置するピット群の埋土とは異なる。埋土の特徴から縄文時代以降に形成された可能性がある。

b　3h 層面（図版 40）

炭化物集中範囲

検出した炭化物集中範囲は 9 か所で、a 類が SC5521・SC5522・SC5523・SC5524 で、b 類が SC5520・SC5525 で、ほかは c 類である。a・b 類は調査区東側（11・12I グリッド）の低位面、c 類は調査区北東側（12・13G グリッド）の斜面上にそれぞれ位置する。平面形は不整形を呈するものが多く、長径 17 ～ 139cm である。

SC5521（図版 40・45・109）

低位面に位置する。にぶい橙色の焼土が分布し、多量の炭化物がほぼ均一に含まれる。この場で火を焚いたものと推測できる。遺物は縄文土器が出土した。

SC5522（図版 40・46・109）

低位面に位置する。にぶい橙色の焼土が分布し、多量の炭化物に混じって白色の焼骨粒が含まれる。この場で火を焚いたものと推測できる。焼骨は他の炭化物集中範囲では確認されなかったので、焼成した対象が異なっていたものと考えられる。遺物は縄文土器が出土した。

SC5524（図版 40・46）

低位面に位置する。にぶい橙色の焼土が分布し、多量の炭化物がほぼ均一に含まれる。南西側に SC5522 が近接しているが、SC5522 とは異なり焼骨粒は確認できなかった。

c　5e 層面（図版 40）

炭化物集中範囲

検出した炭化物集中範囲は 14 か所で、a 類は SC5532・SC5533・SC5534・SC5535・SC5536、b 類は SC5537・SC5538・SC5539・SC5540、c 類は SC5530・SC5531、d 類は SC5541・SC5542・SC5543 である。a・b・d 類は調査区東側（11・12I・J グリッド）の緩斜面上、c 類は調査区北側の斜面上にそれぞれ位置する。a ～ c 類の平面形は不整形を呈するものが多く、長径 27 ～ 190cm である。d 類の平面形は円形で、径 12 ～ 18cm を測る。a 類の下部に位置することが特徴で、ほかの層からは検出されていない。

SC5530（図版 40・46・109）

斜面上に位置する。北東側で縄文土器（550）が出土した。断面観察の結果、縄文土器は遺構検出面より上層に位置することを確認したため、本遺構形成後に廃棄されたものである。また、北西側に噴砂痕を検出したが、遺構検出面の上層まで切っているため、これも本遺構形成後のものである。

SC5531（図版 40・46・109）

斜面上に位置する。炭化物の分布は北西側の標高が高い場所に集中し、南東側の標高の低い場所に向かって少なくなる。

SC5533・SC5534・SC5541（図版 40・45・109）

SR2444 5e ⑥層の緩斜面に位置する。SC5533・SC5534 は同一面で検出され、切り合い関係が認められないことから、本来同一のものと考えられる。浅黄橙色シルト中に赤灰色に変色した部分が見られ、炭化物が含まれる。この場で火を焚いたものと推測できる。遺物は縄文土器が出土した。SC5533 北側下部に SC5541 があり、径 15cm の範囲に炭化物が濃密に分布する SC5533・SC5534 の焼成に関連するものと考えられる。

SC5535・SC5543（図版 40・46・110）

SR2444 5e ④層の緩斜面に位置する。灰白色シルト中ににぶい橙色に変色した部分が見られ、炭化物を多量に含む。この場で火を焚いたものと推測できる。また北側下部に SC5543 があり、炭化物が濃密に分布する。SC5535 の焼成に関連するものと考えられる。

西側では縄文土器の深鉢（561 ～ 563）が横位につぶれた状態で出土した。縄文土器は本遺構直上で出土したもの、間層（SR2444 5e ③層）を挟んで出土したものがあるが、これらは同一個体である。遺構に

伴うものではなく、ほかから流れてきたものと考えられる。

SC5536・SC5542（図版 40・46・110）

SR2444 5e ⑤層の緩斜面に位置する。灰白色シルト中ににぶい橙色に変色した部分が見られ、炭化物を含む。この場で火を焚いたものと推測できる。南西側下部に SC5542 が位置し、径 20cm の範囲に炭化物が濃密に分布する。SC5536 の焼成に関連するものと考えられる。

SC5537（図版 40・45・110）

SR2444 5e ⑥層の緩斜面に位置する。炭化物と焼土粒が混じり合った状況で分布し、被熱の痕跡は認められない。これらは一括して集積もしくは廃棄されたものと考えられる。

d　7b 層面（図版 41）

ピ　ッ　ト

P5526（図版 41・43・107）

SR2444 7b 層上面で検出したが、上部が近世以降の攪乱で削平されていたため、より上層から掘り込まれていた可能性もある。断面で柱痕を確認し、径 12cm 程の柱が据えられていたものと考えられる。

e　8a 層面（図版 41）

炭化物集中範囲

検出した炭化物集中範囲は SC5555・SC5556・SC5557 の 3 か所で、すべて c 類である。これらは調査区西側（10H グリッド）の緩斜面上に位置している。平面形は不整形で、長径 1m 未満と他の層位で検出したものよりも小型である。覆土は炭化物がまばらに分布し、焼土粒は認められない。被熱の痕跡も認められないことから、この場で火は焚かれていないものと考えられる。

f　小　　結

旧河道上層で検出した遺構は、ピット 2 基以外はすべて炭化物集中範囲である。炭化物集中範囲の分布域と種別を見ると、左岸微高地～斜面上の 3a･3h･5e･8a 層に c 類が分布する。そして調査区東側（11･12I･J グリッド）の緩斜面～低位面上の 3a・3h・5e 層では、a・b・d 類が集中して分布する。a 類は検出・土層堆積状況から現地で火を焚いた痕跡と考えられる。b 類は炭化物と焼土が混在している状況から、火を焚いたことで派生した焼土・炭化物が別の場所から運ばれ、廃棄された痕跡と推定される。d 類も土層堆積状況から b 類に類似した性格を持つものと考えられる。そして c 類は a・b・d 類とは分布域が異なること、焼成もしくはその影響による痕跡が見られないこと、周辺に縄文土器等が廃棄された状況で検出されていることから、a･b･d 類とは性格が異なり、廃棄された有機物が自然炭化した痕跡と想定される。

このことから旧河道左岸微高地は集落の居住域、微高地～斜面部は土器・有機物等を廃棄した廃棄域、緩斜面～低位面は火を焚き、派生した焼土・炭化物を廃棄した活動域と考えられる。

4）旧河道（SR2444）下層の遺構

2009 年度調査分を合わせると、旧河道下層で検出した遺構は炭化物集中範囲 12 か所を数え、時期はいずれも縄文時代晩期後葉（鳥屋 2a 式期）である。検出層位別に分けると、12b 層で 7 か所、12d 層で 5 か所である。各遺構の形態・規模等は観察表にまとめてある。

a　12b 層面（図版 49）

炭化物集中範囲

検出した炭化物集中範囲は 7 か所で、a 類が SC5552 で、調査区南西側（9J グリッド）の緩斜面上に位置している。ほかはすべて c 類で、調査区南西側（8 ～ 10I ～ J グリッド）の緩斜面上に位置している。平面形は楕円形もしくは不整形で、長径 25 ～ 131cm 強まである。

SC5550（図版 49・50・112）

SC5552 の北側約 1m 先の緩斜面に位置する。炭化物が粗密に分布するものの焼土粒は検出されず、炭化物は SC5552 から廃棄されたものとは考えにくい。

SC5552（図版 49・50・112）

緩斜面に位置する。にぶい橙色の焼土が分布し、炭化物がほぼ均一に含まれる。この場で火を焚いたものと推測できる。

b　12d 層面（図版 49）

炭化物集中範囲

検出した炭化物集中範囲は 5 か所で、このうち SC2441 は a 類で、焼土を多量に含み火を焚いていた可能性がある［村上 2012c］。そのほかはすべて c 類である。調査区南西側（8・9J・K グリッド）の緩斜面上に位置している。平面形は楕円形もしくは不整形で、長径 15 ～ 160cm 強まである。

SC5554（図版 49・50・112）

SC2441 の東側約 2m 先の緩斜面に位置する。炭化物が粗密に分布するものの焼土粒は検出されなかったので、焼土を多量に含む SC2441 から廃棄されたものとは考えにくい。

c　小　　結

旧河道下層で検出した遺構は、すべて炭化物集中範囲である。分布域と種別を見ると、調査区南西側（8・9J・K グリッド）の緩斜面上の 12b・12d 層に a・c 類が分布しており、a 類は SC2441・SC5552 でほかはすべて c 類である。a 類を現地で火を焚いた痕跡、c 類を廃棄された有機物が自然炭化した痕跡と考えるなら、下層は上層とは異なり、遺物などを廃棄する廃棄域と火を焚いた活動域が分かれていない。また今回の調査区内では下層の段階に相当する居住域は検出できなかった。

2　遺　　物

A　土　　器

1）出　土　状　況

土器は旧河道（SR2444）及びその内部で検出した炭化物集中範囲（SC5510・5535 等）、左岸に位置する包含層（基本層序Ⅵ層）及び基本層序Ⅶ層で検出した土坑（SK5743）から出土した。旧河道内部で土器が出土した層位は 3a・3h・5e・6a・8a・12a の 6 層で、完形の土器が横位につぶれた状態で出土したものが目立つ。

土器は縄文時代晩期後葉（鳥屋 2a ～ 2b 式併行期）のものが主体となるが、旧河道上層（3a 層）及びその

内部で検出した炭化物集中範囲内からは後続すると考えられている「緒立 1a 期」［荒川ほか 2004］のものも確認した。

2）出土土器各説

土器は遺構別、旧河道出土のものは出土層位別に記述する。土器の分類・年代観については、本遺跡周辺に位置し、土器の年代もほぼ重なる『青田遺跡』［荒川ほか 2004］及び『山口野中遺跡Ⅱ』［村上ほか 2015］の報告書に依った。

SR2444　3a 層（図版 72・131－545～548）

545 は甕で、口縁部から肩部にかけて S 字形を描くような器形を呈する。口縁形態は肥厚口縁［荒川ほか前掲］となり、縄文地に平行沈線文が施される。頸部は無文で、肩部以下は斜縄文が施される。

546・547 は深鉢で、いずれも文様帯を持たず斜縄文等が施される装飾性の低いものである。547 は口縁部が内傾する器形を呈し、口縁形態は肥厚口縁となる。

548 は壺で、肩部は内傾して明確な頸部を持たずに口縁部が短く直立する器形を呈する。肩部には太い沈線による変形工字文が施される。いわゆる「緒立 1a 期」のものと考えられる。

SR2444　3h 層（図版 72・131－549～552）

549 ～ 551 は甕である。549・550 は口縁部から肩部にかけて S 字形を描くような器形を呈する。口縁形態は肥厚口縁となり、縄文地に平行沈線文が施される。頸部は無文である。549 の肩部には縄文地に 5 条の平行沈線文が施される。551 は肩部の張り出しや頸部の屈曲が弱く、口縁部が緩やかに外形する器形を呈する。口縁には 8 単位の突起を持ち、口縁形態は肥厚口縁となり、縄文地に平行沈線文が施される。頸部は無文である。肩部は菱形をモチーフとした浮線文、体部はヘラ状工具による条痕文が施される。また底部を意図的に抜いている。

552 は器種不明の体部片で、上部には平行沈線文が施される。

SR2444　5e 層（図版 72・131－553）

553 は深鉢で、口縁部は無文、体部は結節縄文が施される。

SR2444　6a 層（図版 72・131－554・555）

554 は浅鉢で、外面には交点間に水平な浮線を持たない網目状の構図を持つ浮線文が施され、赤彩がなされる。鳥屋 2a 式に比定される。

555 は甕で、口縁部から肩部にかけて S 字形を描くような器形を呈する。口縁形態は肥厚口縁となり、縄文地に平行沈線文が施される。頸部は無文、肩部には縄文地に 3 条の平行沈線文が施される。

SR2444　8a 層（図版 72・131－556）

556 は浅鉢で、外面には菱形のモチーフの中に交点間を結ぶ水平な浮線が加えられる構図を持つ浮線文が施される。口縁部内面には 1 条の平行沈線が巡る。

SR2444　12a 層（図版 73・131－557）

557 は甕である。口縁～体部は 2012 年度の調査で出土したもので（『境塚遺跡』図版 63-388）、今回の調査では底部が出土した。肩部上端で角張るように強く張り出し、口縁部は外傾する器形を呈する。口縁形態は複合口縁［荒川ほか前掲］となり、頸部には交互綾杉文が施される。

SC5510（図版 73・131－558～560）

本遺構は SR2444-3a 層で検出した。558 は深鉢で、口縁部以下に斜縄文が施される。559 は甕と考

えられる体部片で、平行沈線文下に斜縄文が施される。

560 は小型の壺で、肩部は球形状に膨らみ、口頸部がほぼ垂直に立ち上がる器形を呈する。肩部には太い沈線による変形工字文が施される。いわゆる「緒立 1a 期」のものと考えられる。

SC5535（図版 73・131－561～563）

本遺構は SR2444-5e 層で検出した。561･562 は深鉢の口縁部で、561 の口縁形態は肥厚口縁となる。563 は深鉢もしくは甕の体部片である。全面に条痕が施される装飾性の低いものである。

SK5743（図版 73・131－564）

本遺構は旧河川左岸に堆積する基本層序Ⅶ層で検出し、切り合い関係等からⅦ層検出の遺構群の中では一番古い段階に位置づけられる。564 は浅鉢で、体部から口縁部にかけて直線的に外傾し、口縁部は直立する器形を呈する。肩部には眼鏡状隆帯が巡り、その下には 3 条の平行沈線が巡る。口縁部内面には 1 条の沈線が巡る。鳥屋 2a 式に比定される。

B　石　　器（図版 73・131－565）

石器は、石鏃未成品 1 点、剥片 1 点が出土した。565 は石鏃未成品である。流紋岩製の剥片を素材とし、正裏面の側縁に剥離調整が施されている。

第Ⅵ章　自然科学分析

1　木製品の樹種同定

高橋　敦（パリノ・サーヴェイ株式会社）

A　は　じ　め　に

境塚遺跡は、現在の阿賀野川の右岸に位置し、阿賀野川の旧河道と推定される河潟湖（百津潟）の右岸に分布する自然堤防上に立地する。本遺跡は、隣接する山口野中遺跡を含むこれまでの発掘調査により、中世の集落（町場）の様相が明らかとされており、百津潟にのびると推定される道路跡を中心とした、町場エリア、流通エリアおよび居館エリアなどの存在が想定されている。

本報告では、出土木製品や炭化物集中範囲より出土した炭化材の樹種および木材利用の検討を目的として、樹種同定を実施した。

B　試　　料

試料は、井戸跡から出土した井戸部材や木製品、旧河道から出土した木製品などの資料 72 点と、旧河道内より検出された炭化物集中範囲より採取された土壌 6 点である。なお、井戸部材や木製品の詳細（出土位置、木取りなど）は、同定結果とともに第 9 表に示したので参照されたい。また、炭化物集中範囲より採取された土壌は、不攪乱の堆積物試料として採取されている。本分析では、これらの試料を観察した後、各試料より炭化材 5 点の計 30 点を抽出し、分析に供している。

C　分　析　方　法

井戸部材や木製品は、木取りを観察した後に、剃刀を用いて木口（横断面）・柾目（放射断面）・板目（接線断面）の 3 断面の徒手切片を直接採取する。切片は、ガム・クロラール（抱水クロラール、アラビアゴム粉末、グリセリン、蒸留水の混合液）で封入し、プレパラートとする。プレパラートは、生物顕微鏡で木材組織の種類や配列を観察する。

炭化材は、自然乾燥させた後、3 断面の割断面を作製して実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡で木材組織の種類や配列を観察する。各試料の観察で確認された特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類（分類群）を同定する。

なお、木材組織の名称や特徴は、島地・伊東［1982］、Wheeler 他［1998］、Richter 他［2006］を参考にする。また、日本産木材の組織配列については、林［1991］、伊東［1995-1999］を参考にする。

D　結　　果

井戸部材および木製品の同定結果を第 9 表、炭化材の同定結果を第 10 表に示す。井戸部材と木製品は、針葉樹 2 分類群（マツ属複維管束亜属、スギ）と広葉樹 2 分類群（クリ、サクラ属）に同定された。また、炭化材は広葉樹 5 分類群（ヤナギ属、クリ、エノキ属、ナツツバキ属近似種、ヌルデ）に同定された。以下に、各分類群の解剖学的特徴等を記す。

マツ属複維管束亜属（*Pinus* subgen. *Diploxylon*）　マツ科（第 27 図　1a ～ 1c 報告 No.365）

軸方向組織は仮道管と垂直樹脂道で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行は急～やや緩やかで、晩材部の幅は広い。垂直樹脂道は晩材部に認められる。放射組織は、仮道管、柔細胞、水平樹脂道、エピセリウム細胞で構成される。分野壁孔は窓状となる。放射仮道管内壁には鋸歯状の突起が認められる。放射組織は単列、1-15 細胞高。

スギ（*Cryptomeria japonica*（L. f.）D. Don）　スギ科スギ属

（第 27 図　2a ～ 2c　報告 No374）

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行はやや急で、晩材部の幅は比較的広い。樹脂細胞はほぼ晩材部に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成される。分野壁孔はスギ型で、1 分野に 2-4 個。放射組織は単列、1-10 細胞高。

ヤナギ属（*Salix*）　ヤナギ科（第 29 図　1a ～ 1c　試料 No4）

試料はいずれも年輪界を欠損した小片。散孔材で、道管は単独または 2-3 個が複合して散在する。道管は、単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は異性、単列、1-15 細胞高。

クリ（*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.）　ブナ科クリ属

（第 27 図　3a ～ 3c　報告 No385・第 27 図　2a ～ 2c　試料 No6）

環孔材で、孔圏部は 3-4 列、孔圏外で急激に径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1-15 細胞高。

エノキ属（*Celtis*）　ニレ科（第 29 図　3a ～ 3c　試料 No2）

試料は年輪界と早材部の多くを欠損した小片。道管は塊状に複合して接線・斜方向に配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性、1-6 細胞幅、1-50 細胞高で鞘細胞が認められる。

早材部の道管径や道管配列が観察できないが、観察できた特徴から環孔材と考えられ、その他の特徴も含めてエノキ属に同定した。

ナツツバキ属近似種（cf. *Stewartia*）　ツバキ科

（第 30 図　4a ～ 4c　試料 No1）

試料は保存状態が悪い。散孔材と考えられるが、収縮し、道管配列の詳細は不明。道管は階段穿孔を有し、壁孔は対列～

報告No	グリッド	遺構No	層位	器種	木取り	樹種
313	8J4	SE5126		井戸側（縦板）	柾目	スギ
314	8J4	SE5126		井戸側（縦板）	柾目	スギ
315	8J4	SE5126		井戸側（縦板）	柾目	スギ
316	8J4	SE5126		井戸側（縦板）	柾目	スギ
317	8J4	SE5126		井戸側（桟木）	柾目	スギ
318	8J4	SE5126	37	井戸側（桟木）	柾目	スギ *
319	8K6	SE5290	22	井戸側（縦板）	板目	スギ
320	8K6	SE5290	22	井戸側（縦板）	板目	スギ
321	8K6	SE5290	22	井戸側（縦板）	板目	スギ
322	8K6	SE5290	22	井戸側（縦板）	板目	スギ
323	8K6	SE5290	22	井戸側（縦板）	板目	スギ
324	8K6	SE5290	22	井戸側（縦板）	板目	スギ
325	8K6	SE5290	22	井戸側（縦板）	板目	スギ
326	8K6	SE5290	22	井戸側（縦板）	板目	スギ
327	9H4・9	SE5290	37	井戸側（縦板）	板目	スギ
328	8K6	SE5290	22	井戸側（縦板）	板目	スギ
329	9H4・9	SE5290	22	井戸側（縦板）	板目	スギ *
330	8K6	SE5290	22	井戸側（縦板）	板目	スギ
331	8K6	SE5290	22	井戸側（縦板）	板目	スギ
332	9H4・9	SE5290	22	井戸側（縦板）	板目	スギ
333	8K6	SE5290	22	井戸側（縦板）	板目	スギ
334	9H4・9	SE5290	22	井戸側（縦板）	板目	スギ
335	8K6	SE5290	22	井戸側（縦板）	板目	スギ
336	8K6	SE5290	22	井戸側（縦板）	板目	スギ
337	9H4・9	SE5290	22	井戸側（縦板）	板目	スギ
338	8K6	SE5290	22	井戸側（縦板）	板目	スギ
339	8K6	SE5290	22	井戸側（縦板）	板目	スギ
340	9H4・9	SE5290	22	井戸側（隅柱）	分割棒状	スギ
341	9H4・9	SE5290	22	井戸側（隅柱）	板目	スギ
342	9H4・9	SE5290	22	井戸側（隅柱）	分割角材	スギ
343	8K6	SE5290	22	井戸側（桟木）	分割角材	スギ
344	9H4・9	SE5290	37	井戸側（桟木）	分割角材	スギ
345	8K6	SE5290	37	井戸側（桟木）	分割角材	スギ
346	8K6	SE5290	37	井戸側（桟木）	分割角材	スギ
347	9H4・9	SE5290	37	井戸側（桟木）	分割角材	スギ
348	9H4・9	SE5290	37	曲げ物（側板）	板目	スギ
349	9H4・9	SE5290	37	曲げ物（側板）	板目	スギ
350	8K6	SE5290	37	円形版	柾目	スギ
351	9H4・9	SE5290	37	曲物底板	柾目	スギ
352	9H4・9	SE5401		井戸側（縦板）	板目	スギ
353	9H4・9	SE5401		井戸側（縦板）	板目	スギ
355	9H4・9	SE5401		井戸側（縦板）	板目	スギ
356	9H4・9	SE5401		井戸側（縦板）	板目	スギ
357	9H4・9	SE5401		井戸側（縦板）	板目	スギ
358	9H4・9	SE5401		井戸側（縦板）	板目	スギ
359	9H4・9	SE5401		井戸側（縦板）	板目	スギ
360	9H4・9	SE5401		井戸側（桟木）	分割角材	スギ
361	9H4・9	SE5401		井戸側（桟木）	分割角材	スギ
362	9H4・9	SE5401		井戸側（桟木）	分割角材	スギ
363	9H4・9	SE5401	9	井戸側（隅柱）	分割角材	スギ
364	9H4・9	SE5401	9	井戸側（隅柱）	分割角材	スギ
365	9H4・9	SE5401	11	不明	芯持丸木	マツ属複維管束亜属
366	9H4・9	SE5401	11	角材	分割角材	スギ
367	9H4・9	SE5401	11	杭	芯持丸木	サクラ属
368	9H4・9	SE5401	11	板	板目	スギ
369	9H4・9	SE5401	12	板	板目	スギ
370	9H4・9	SE5401		井戸側（縦板）	板目	スギ
371	9H4・9	SE5401		井戸側（縦板）	板目	スギ
372	9H4・9	SE5401		井戸側（縦板）	板目	スギ
373	9H4・9	SE5401		井戸側（縦板）	板目	スギ *
374	9H4・9	SE5401		井戸側（桟木）	分割角材	スギ
375	9H4・9	SE5401		井戸側（桟木）	分割角材	スギ
376	9H4・9	SE5401		井戸側（縦板）	板目	スギ
379	9H4・9	SE5401		井戸側（縦板）	板目	スギ
380	9H4・9	SE5401		井戸側（縦板）	板目	スギ
381	9H4・9	SE5401	1	井戸側（縦板）	板目	スギ
382	9H4・9	SE5401		井戸側（隅柱）	分割角材	スギ
382	9H4・9	SE5401		井戸側（隅柱）	分割角材	スギ
383	9H4・9	SE5401		井戸側（隅柱）	分割角材	スギ
384	9H4・9	SE5401		井戸側（隅柱）	分割角材	スギ
385	13H	SR2444	4	井戸側（縦板）	半裁状	クリ
386	9H4・9	SE5401		曲げ物（側板）	板目	スギ

* 放射性炭素年代測定試料

第 9 表　樹種同定結果一覧（木製品）

階段状に配列する。放射組織は異性、1-3 細胞幅、1-30 細胞高。

サクラ属（*Prunus*）　バラ科（第 28 図　4a ～ 4c　報告 No367）

散孔材で、道管は単独または 2-6 個が複合、年輪界に向かって管径を漸減させながら散在する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性、1-5 細胞幅、1-30 細胞高。

ヌルデ（*Rhus javanica* L.）　ウルシ科ウルシ属

（第 30 図　3a ～ 3c　試料 No3）

環孔材で、孔圏部は 4-5 列、孔圏外への移行は緩やかで、晩材部では 2-5 個が塊状に複合して配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性、1-3 細胞幅、1-30 細胞高。

試料 No	整理 No	遺構No	検出層位	グリッド	種類
1	43	SC5510	SR2444-3a層	11I20 12I11・16	ナツツバキ属近似種（5）*
2	13	SC5521	SR2444-3h層	11I15・20	エノキ属（5）
3	－	SC5531	SR2444-5e層	13H1	ヤナギ属（3）
					ヌルデ（2）
4	135	SC5556	SR2444-8a層	10H21・22	クリ（3）*
					ヤナギ属（2）
5	70	SC5544	SR2444-12b層	10J2	ヤナギ属（5）
6	138	SC5553	SR2444-12d層	8K5	クリ（5）*

* 放射性炭素年代測定試料

第 10 表　樹種同定結果一覧（炭化材）

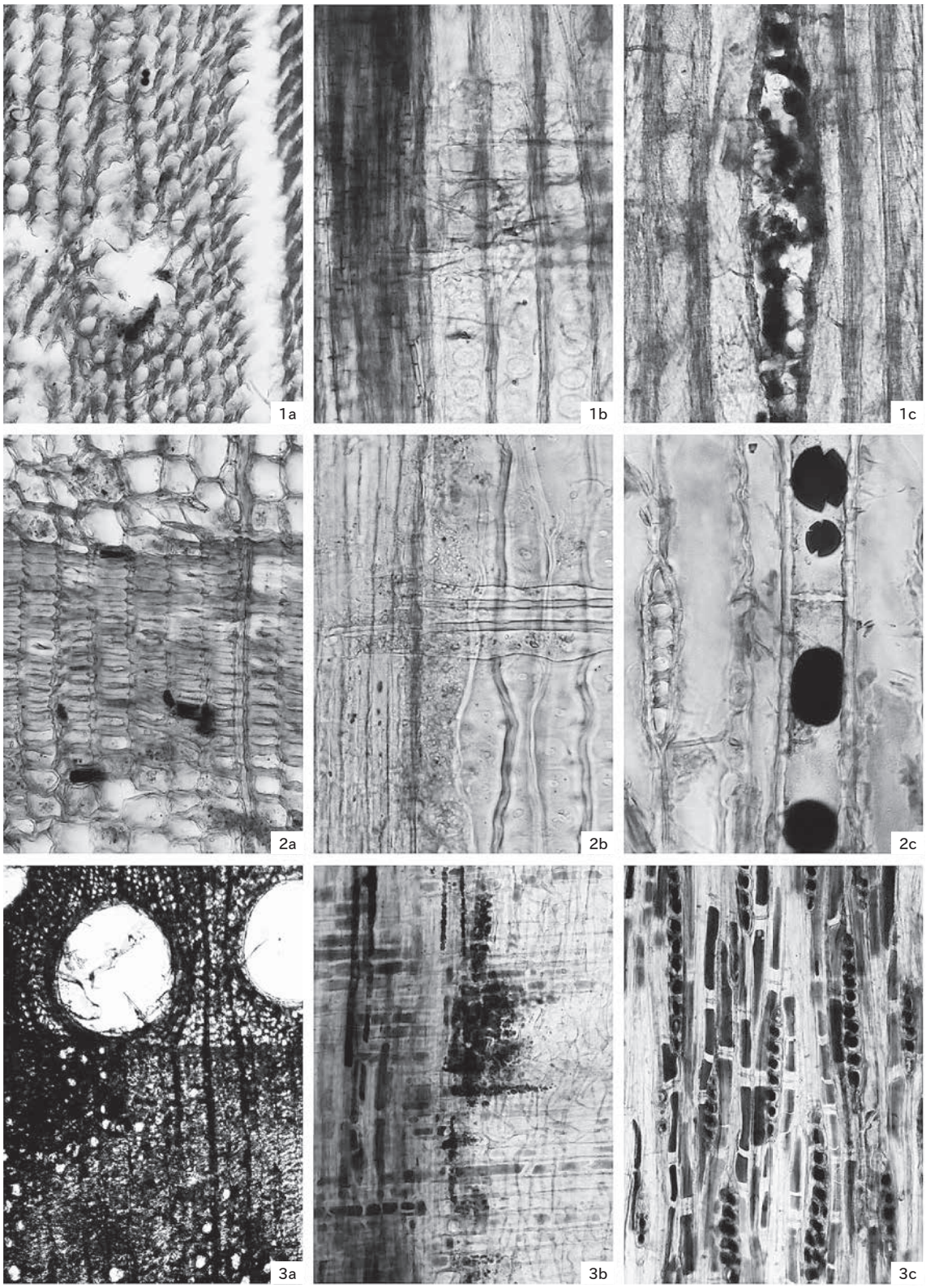
E　考　　察

1）井戸部材・木製品

井戸跡より出土した井戸部材や木製品、旧河道より出土した木製品などの樹種同定の結果、スギを主体としてマツ属複維管束亜属、クリ、サクラ属の 4 種類が確認された。このうち、針葉樹のマツ属複維管束亜属は、二次林や海岸砂丘等に生育する常緑高木であり、本州ではアカマツとクロマツの 2 種が分布する。スギは、扇状地扇端部の湧水周辺や谷沿いなどの水分の多い土地に生育する常緑高木である。広葉樹のクリは二次林等に生育する落葉高木、サクラ属は、二次林、山地･丘陵などに広く生育する落葉低木～高木である。また、各種類の材質についてみると、マツ属複維管束亜属は針葉樹としては重硬な部類に入り、強度と保存性が高く、スギは木理が通直で割裂性と耐水性が比較的高い。クリは重硬で強度と耐朽性が高く、サクラ属は重硬・緻密で強度が高いとされる。

井戸跡や旧河道から出土した資料のうち、井戸部材は縦板、隅柱、横桟、曲げ物などから構成されるが、板状あるいは分割角材状を呈する資料を主体とする。樹種同定の結果、マツ属複維管束亜属、クリ、サクラ属が各 1 点確認された他は全てスギに同定されたことから、分割加工材にはスギが多く利用されていたことが示唆される。このようなスギ材を多用する傾向は、本遺跡および一連の中世集落とされる山口野中遺跡より出土した木製品の樹種同定結果、パリノ・サーヴェイ株式会社［2016］、小林･藤根［2012］、小林［2013］、などでも明らかとされている。これらの資料のうち、報告 No350・351 の板 2 点は、一部が円弧状に加工されていることから、曲物や箍物等の容器の底板・蓋板等が転用された可能性がある。報告 No351 は、一方の面に褐色～黒色の塗布物が認められる状況から、防水のために柿渋等が塗られた可能性がある。また、井戸部材のうち、縦板の木取りについてみると、SE5290 や SE5401 では板目板が使用される一方、SE5126 は柾目板を主体として板目板が僅かに混じる組成を示し、木取りの傾向が異なるという特徴が認められた。板目板の利用に関しては、板目板は年輪が層状に配置し、柾目板に比べて割れにくく、保水性が高いという材質的特徴によると考えられる。

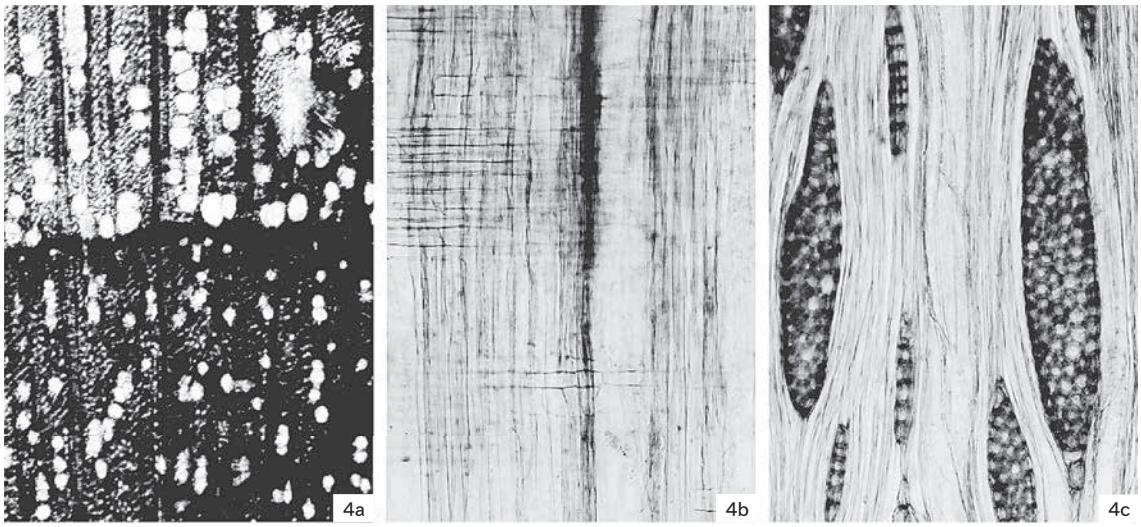
なお、前述したようなスギ材が多用される背景としては、分割加工が容易であるという材質とともに、スギ材が容易に調達できる環境にあったことなども想定される。ただし、本遺跡や周辺の遺跡における花粉分析結果では、いずれも産状が悪く、古植生からの推定には至っていないため、今後の資料の蓄積によ



1　マツ属複維管束亜属（No365）
2　スギ（No374）
3　クリ（No385）
a：木口　b：柾目　c：板目

100μm：3a
100μm：1-2a, 3b, c
100μm：1-2b, c

第 27 図　境塚遺跡出土木製品の光学顕微鏡写真（1）



4　サクラ属（No367）
a：木口　b：柾目　c：板目

100μm：a
100μm：b, c

第 28 図　境塚遺跡出土木製品の光学顕微鏡写真（2）

る検討が必要である。この他、上記したマツ属複維管束亜属やサクラ属は強度の高い木材である点で共通することから、強度を重視した木材利用の可能性が考えられる。

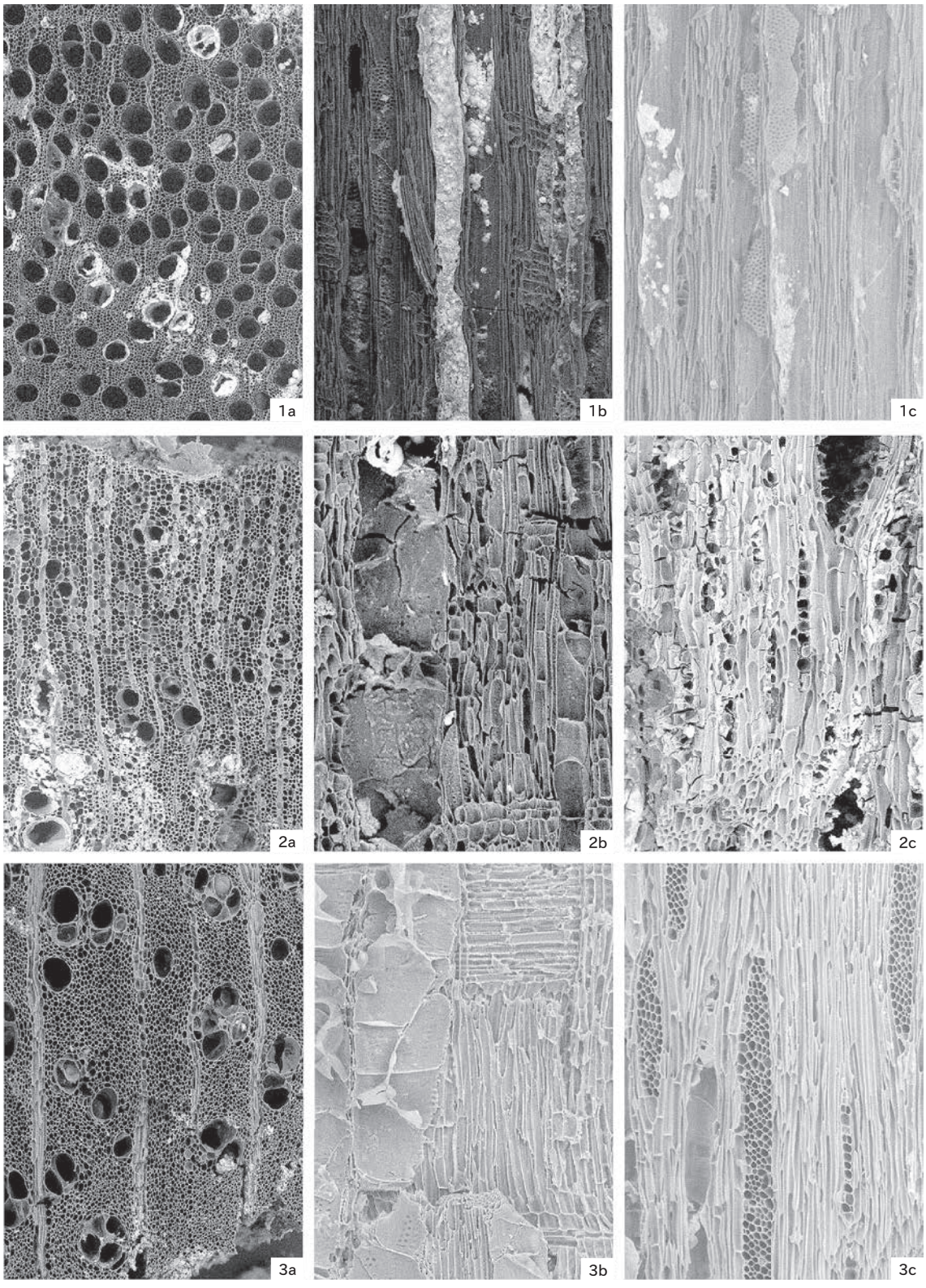
また、旧河道（SR2444）より出土した井戸側（縦板）（報告 No385）は、半裁状を呈する資料であり、クリに同定された。クリは強度や耐朽性が高いことから井戸の部材としては適材と考えられるが、上述した 3 基の井戸跡の部材の特徴（木取り、樹種など）と異なることから、用途の異なる器種の可能性も踏まえた検討が必要と考える。

2）炭　化　材

SR2444 の炭化物集中範囲より抽出した炭化材 30 点からは、広葉樹のヤナギ属、クリ、エノキ属、ナツツバキ属近似種、ヌルデの 5 種類が確認された。このうち、ヤナギ属は河畔から山地・丘陵地まで広く分布する落葉低木～高木であり、エノキ属は河畔等に生育する落葉高木、ナツツバキ属（近似種）は山地に生育する落葉高木、ヌルデは河畔や林縁部などに生育する落葉小高木である。また、これらの木材の材質についてみると、ヤナギ属は軽軟で強度と保存性は低く、エノキ属はやや重硬な部類に入る。ナツツバキ属（近似種）は比較的重硬で強度が高く、ヌルデは軽軟で強度が低いが、耐水性は高いとされる。

各炭化物集中範囲における樹種構成についてみると、SC5556（8a 層；試料 No4）はクリとヤナギ属、SC5531（5e 層；試料 No3）はヤナギ属とヌルデと、それぞれ 2 種類が確認されたが、その他では各 1 種類が確認されたのみであり、SC5553（12d 層；試料 No6）がクリ、SC5544（12b 層；試料 No5）がヤナギ属、SC5521（3h 層；試料 No2）がエノキ属、SC5510（3a 層；試料 No1）がナツツバキ属近似種となる。この結果から、各炭化物集中範囲で利用された木材は、それぞれ種類が異なる傾向を示すものの、単一の遺構においては樹種構成が極めて簡素であるという特徴が指摘できる。

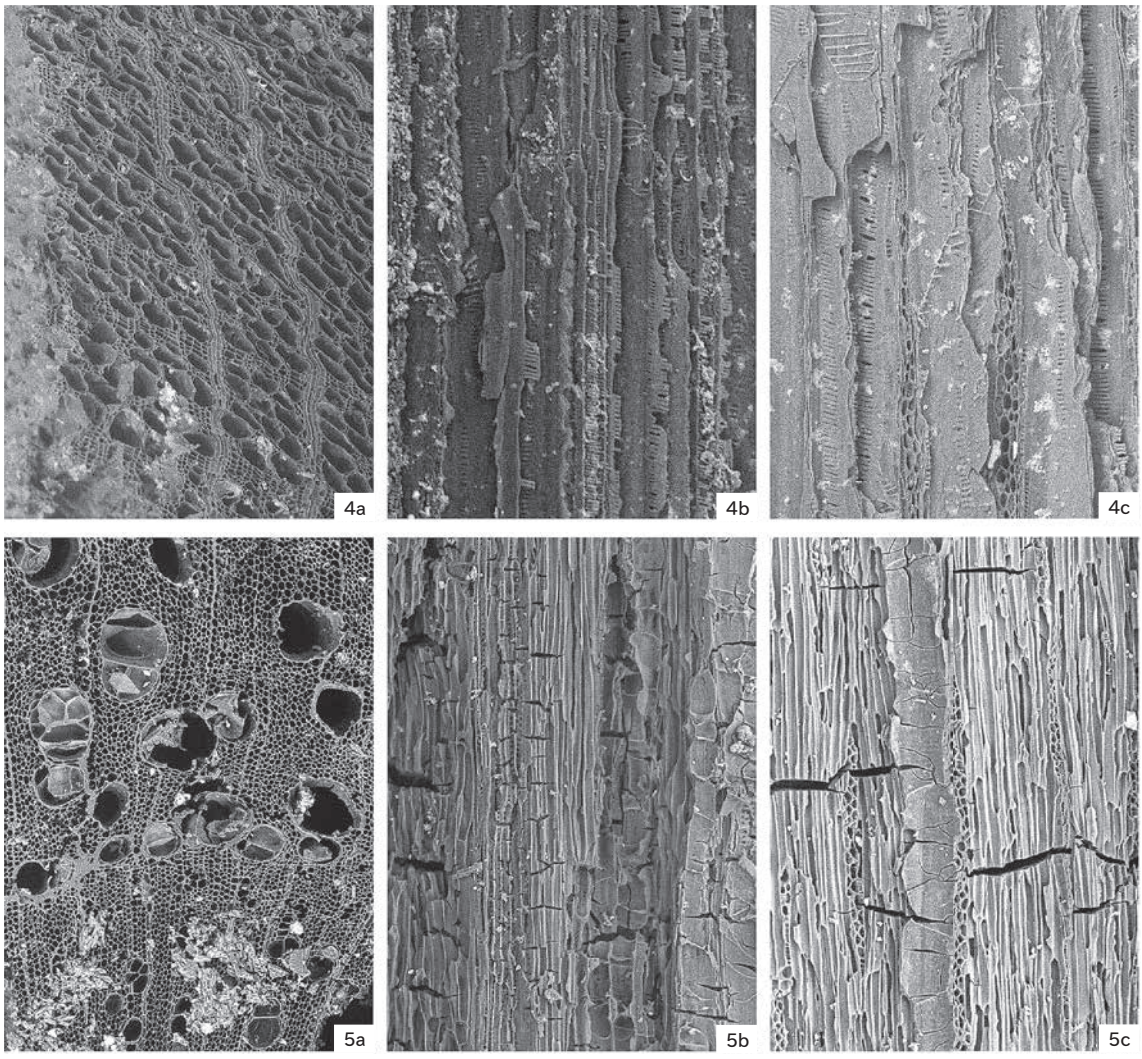
なお、SC5556 と SC5553 などで確認されたクリは、同じ SR2444 より出土した流木（7b 層；整理 No4・36）や半裁状を呈する木製品（4 層；報告 No385）などにも確認されている。また、隣接する山口野中遺跡より検出された縄文時代晩期の焼土や炭化物集中などを対象とした分析調査では、SC842 より出土した板目板状を呈する炭化材がクリに同定されているほか、多くの遺構より炭化したクリの子葉や果皮



1　ヤナギ属（試料 No4）
2　クリ（試料 No6）
3　エノキ属（試料 No2）
　a：木口　b：柾目　c：板目

100μm：a
100μm：b, c

第 29 図　境塚遺跡出土炭化材の光学顕微鏡写真（1）



4　ナツツバキ属近似種（試料 No1）
5　ヌルデ（試料 No3）
a：木口　b：柾目　c：板目

100μm：a
100μm：b, c

第 30 図　境塚遺跡出土炭化材の光学顕微鏡写真（2）

が確認されている［千葉博俊・松元美由紀・金井慎司 2015］。以上の状況から、クリは植物質食料としての利用のみならず、木材も何等かの部材や燃料材などとして利用されていたことが示唆される。

この他に確認されたヤナギ属、ヌルデ、エノキ属などは、いずれも河畔林を構成する種類である。遺跡の立地などを考慮すると、これらは当時の河川沿いなどに生育していた樹木が利用されたと推定される。また、SC5510 より出土した炭化材は、保存状態が悪く、十分な観察に至らなかったため、ナツツバキ属近似種としている。ナツツバキ属は、山地に生育する種類であり、上記した二次林要素のクリや河畔林要素を含むヤナギ属、ヌルデ、エノキ属などとは生育環境が異なることから、木材の由来が異なる可能性がある。

引用・参考文献

林　昭三　1991 『日本産木材　顕微鏡写真集』京都大学木質科学研究所
伊東隆夫　1995 「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ」『木材研究・資料』31　81-181 頁　京都大学木質科学研究所
伊東隆夫　1996 「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ」『木材研究・資料』32　66-176 頁　京都大学木質科学研究所

伊東隆夫　1997 「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ」『. 木材研究・資料』33 83-201 頁　京都大学木質科学研究所
伊東隆夫　1998 「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ」『. 木材研究・資料』34 30-166 頁　京都大学木質科学研究所
伊東隆夫　1999 「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ」『. 木材研究・資料』35 47-216 頁　京都大学木質科学研究所
小林克也・藤根　久　2012 「境塚遺跡出土木材の樹種同定」『境塚遺跡』新潟県埋蔵文化財調査報告書　第 232 集　75-81 頁　新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
小林克也　2013 「山口野中遺跡出土木材の樹種同定」『山口野中遺跡』新潟県埋蔵文化財調査報告書　第 248 集　49-52 頁　新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
千葉博俊・松元美由紀・金井慎司　2015 「炭化種実同定および動物遺存体分析」『山口野中遺跡 II』新潟県埋蔵文化財調査報告書　第 258 集　82-102 頁　新潟県教育委員会・公益財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
パリノ・サーヴェイ株式会社　2016 年 「木製品の樹種」『境塚遺跡Ⅱ』新潟県埋蔵文化財調査報告書　第 262 集　66-70 頁　新潟県教育委員会・公益財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
Richter H.G., Grosser D., Heinz I. and Gasson P.E.（編） 2006 『針葉樹材の識別　IAWA による光学顕微鏡的特徴リスト』 伊東隆夫・藤井智之・佐野雄三・安部　久・内海泰弘（日本語版監修） 70 頁　海青社 ［Richter H.G., Grosser D., Heinz I. and Gasson P.E., 2004, IAWA List of Microscopic Features for Softwood Identification］
島地　謙・伊東隆夫　1982 『図説木材組織』176 頁　地球社
Wheeler E.A., Bass P. and Gasson P.E.（編） 1998 『広葉樹材の識別　IAWA による光学顕微鏡的特徴リスト』 伊東隆夫･藤井智之･佐伯　浩（日本語版監修）122 頁　海青社［Wheeler E.A., Bass P. and Gasson P.E., 1989, IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification］.

2　放射性年代測定

高橋　敦・田中義文（パリノ・サーヴェイ株式会社）

A　は　じ　め　に

本報告では、上層や下層より検出された遺構の年代の検討を目的として、放射性年代測定を実施した。

B　試　　料

加速器質量分析法（AMS 法）による放射性炭素年代測定の対象とされた試料は、井戸跡（SE5126、SE5290、SE5401）より出土した井戸側を構成する部材 3 点（SE5401-No373・SE5126-No318・SE5290-No329）、旧河道（SR2444）より出土した流木 2 点（整理 No4･36）および同河道内より検出された炭化材集中範囲に認められた炭化材 3 点（整理 No43・135・138）の、計 8 点（試料 No1 ～ 8）である。以下に、測定に供した試料の概要を記す。

1）井　戸　部　材

木製品は、SE5401 が（板目）板状を呈する井戸側（縦板）（試料 No1；No373）、SE5126 が（柾目）板状を呈する井戸側（桟木）（試料 No2；No318）、SE5290 が（板目）板状を呈する井戸側（縦板）（試料 No3；No329）である。これらの資料はいずれも加工部材であり、樹皮が残存しなかったため、観察範囲内で残存する最外年輪部を含む数年輪分を採取し、測定に供している。

2）流　　木

流木の 2 点（試料 No4；整理 No36、試料 No5；整理 No4）は、それぞれ SR2444 の 7b 層より出土した

芯持丸木を呈する資料である。上記した井戸部材と同様に樹皮が認められなかったことから、観察範囲内で残存する最外年輪部を含む数年輪分を採取し、測定に供している。なお、測定対象とされた流木については、試料の履歴に関わる情報を得るため、樹種の確認も併せて行っている。樹種同定の結果、流木2点はいずれも落葉広葉樹のクリ（*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.）に同定された。

3）炭　化　材

放射性炭素年代測定の対象とされた炭化物集中範囲は、SC5510がSR2444の3a層、SC5556が8a層、SC5553が12d層より、それぞれ検出されている。測定には、炭化材の樹種同定結果などを踏まえ、SC5510（試料No6）はナツツバキ属近似種を、SC5556（試料No7）とSC5553（試料No8）はそれぞれクリを供している。

C　分　析　方　法

測定試料に土壌や根等の目的物と異なる年代を持つものが付着している場合、これらをピンセット、超音波洗浄等により物理的に除去する。その後、HClによる炭酸塩等酸可溶成分の除去、NaOHによる腐植酸等アルカリ可溶成分の除去、HClによりアルカリ処理時に生成した炭酸塩等酸可溶成分の除去を行う（酸･アルカリ･酸（AAA）処理）。なお、AAA処理における酸処理では、通常1mol/l（1M）の塩酸（HCl）を用いる。アルカリ処理では、水酸化ナトリウム（NaOH）水溶液を用い、0.001Mから1Mまで徐々に濃度を上げながら処理を行う。この際、アルカリ濃度が1Mに達した場合は「AAA」、1M未満の場合は「AaA」と表示する。試料をバイコール管に入れ、1gの酸化銅（Ⅱ）と銀箔（硫化物を除去するため）を加えて、管内を真空にして封じきり、500℃（30分）850℃（2時間）で加熱する。液体窒素と液体窒素＋エタノールの温度差を利用し、真空ラインにてCO_2を精製する。真空ラインにてバイコール管に精製したCO_2と鉄・水素を投入し封じ切る。鉄のあるバイコール管底部のみを650℃で10時間以上加熱し、グラファイトを生成する。化学処理後のグラファイト・鉄粉混合試料を内径1mmの孔にプレスして、タンデム加速器のイオン源に装着し、測定する。

測定機器は、小型タンデム加速器をベースとした^{14}C-AMS専用装置を使用する。AMS測定時に、標準試料である米国国立標準局（NIST）から提供されるシュウ酸（HOX-Ⅱ）とバックグラウンド試料の測定も行う。また、測定中同時に$^{13}C/^{12}C$の測定も行うため、この値を用いて$\delta^{13}C$を算出する。

放射性炭素の半減期はLIBBYの半減期5,568年を使用する。また、測定年代は1950年を基点とした年代（BP）であり、誤差は標準偏差（One Sigma；68%）に相当する年代である。また、暦年較正用に一桁目まで表した値も記す。

なお、暦年較正とは、大気中の^{14}C濃度が一定で半減期が5,568年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の^{14}C濃度の変動、及び半減期の違い（^{14}Cの半減期5,730±40年）を較正することである。暦年較正は、OxCal4.3［Bronk, 2009］を使用し、1年単位まで表された同位体効果の補正を行った年代値および北半球の大気中炭素に由来する較正曲線（Intcal13；［Reimer *et al.*, 2013］）を用いる。暦年較正結果は1σ・2σ（1σは統計的に真の値が68.2%の確率で存在する範囲、2σは真の値が95.4%の確率で存在する範囲）の値を示す。

D 結　　果

木材や炭化材の同位体効果による補正を行った測定結果（測定年代）は、SE5401 の井戸側（縦板）（試料 No1；No373）が 860 ± 20BP、SE5126 の井戸側（桟木）（試料 No2；No318）が 910 ± 20BP、SE5290 の井戸側（縦板）（試料 No3；No329）が 880 ± 20BP を示す。また、SR2444 から出土した流木（試料 No4；整理 No36）が 2,510 ± 30BP、同流木（試料 No5；整理 No4）が 2,760 ± 30BP を示し、SC5510 の炭化材（試料 No6；整理 No43）が 2,470 ± 30BP、SC5556 の炭化材（試料 No7；整理 No.135）が 2,450 ± 30BP、SC5553 の炭化材（試料 No8；整理 No138）が 2,530 ± 30BP を示す（第 11 表）。

これらの測定年代に基づく暦年較正結果（2σ）は、SE5401 の井戸側（縦板）（試料 No1；No373）が calAD 1,058－calAD 1,250、SE5126 の井戸側（桟木）（試料 No2；No318）が calAD 1,038－calAD 1,188、SE5290 の井戸側（縦板）（試料 No3；No329）が calAD 1,049－calAD 1,220、SR2444 から出土した流木（試料 No4）が calBC 790－calBC 542、同流木（試料 No5）が calBC 976－calBC 833、SC5510 の炭化材（試料 No6）が calBC 764－calBC 431、SC5556 の炭化材（試料 No7）が calBC 752－calBC 412、SC5553 の炭化材（試料 No8）が calBC 796－calBC 548 である（第 11 表、第 31 図）。

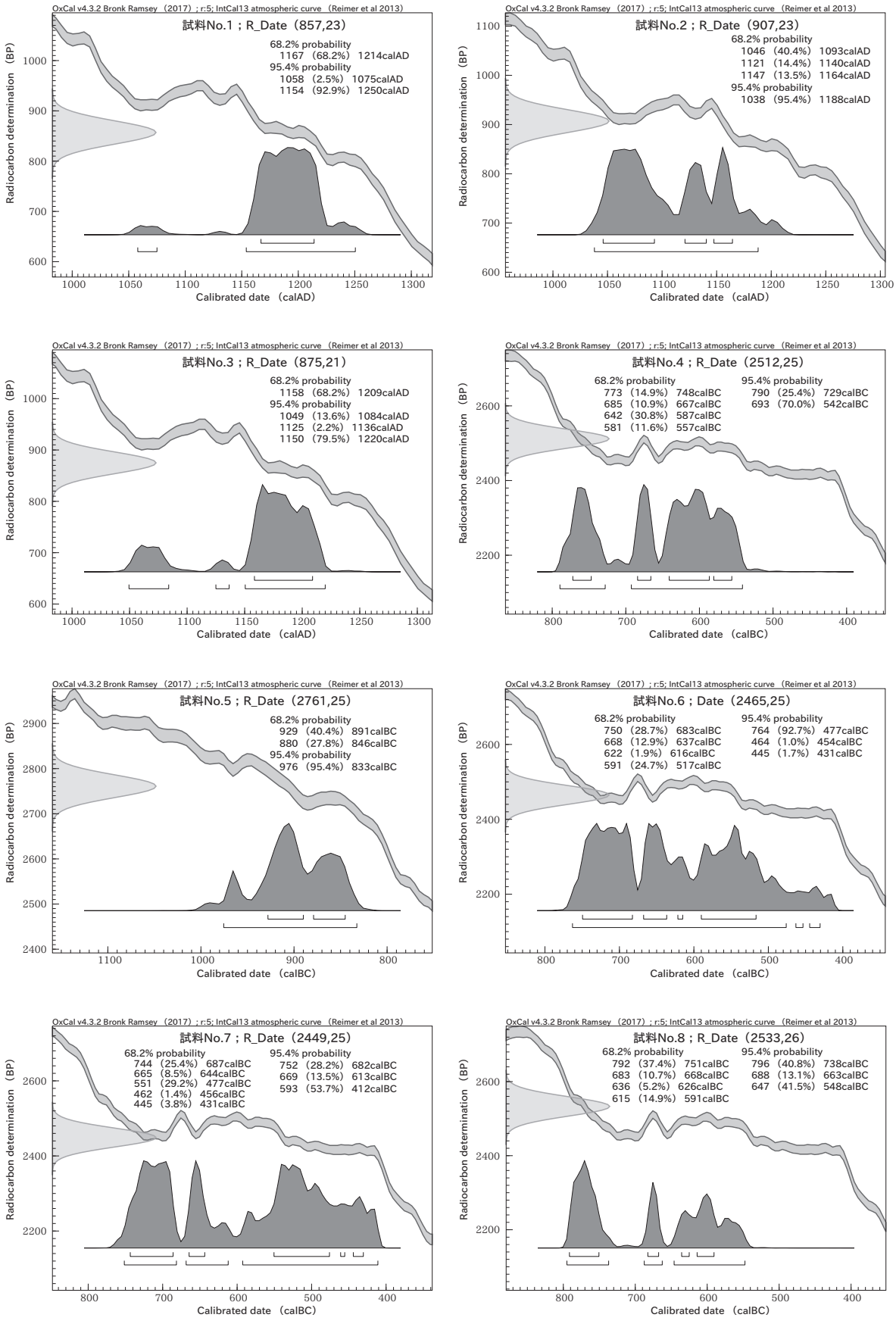
E 考　　察

1）井　戸　部　材

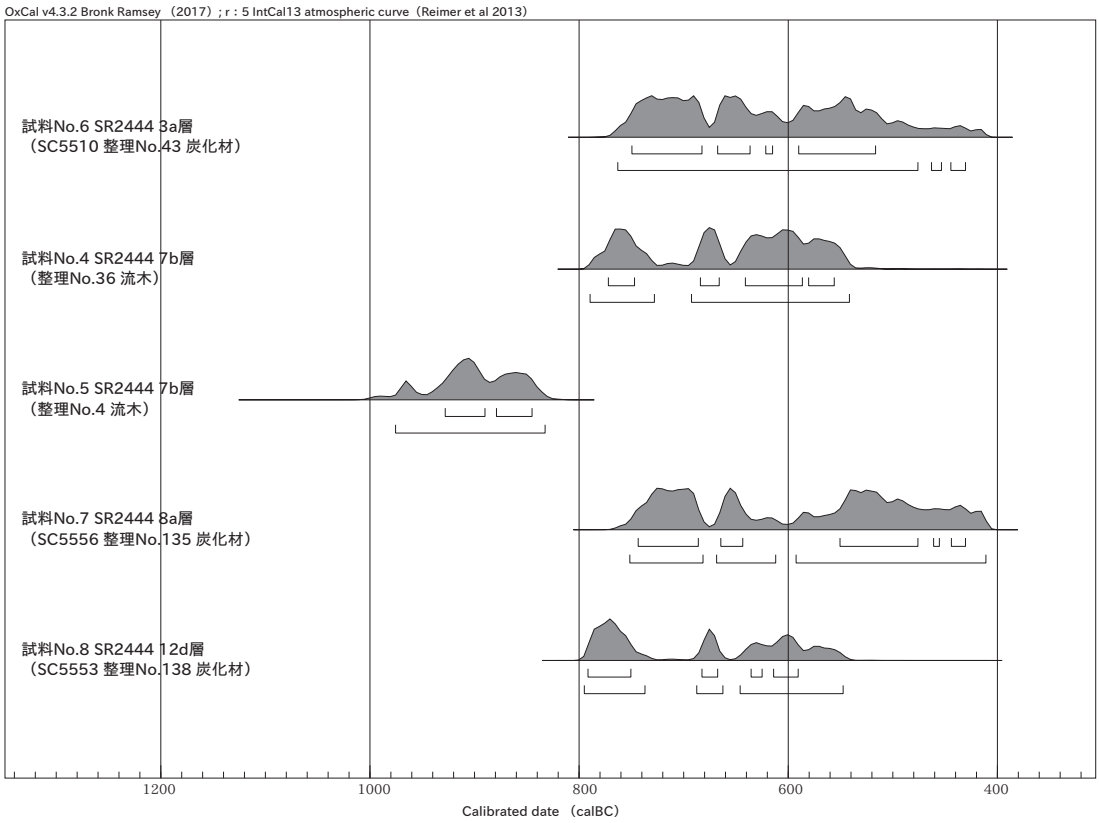
3 基の井戸跡（SE5401、SE5126、SE5290）より出土した井戸側（縦板、桟木）は、暦年較正結果（2σ）を参考とすると、SE5401（No373）が 11 世紀中頃から 13 世紀中頃、SE5126（No318）が 11 世紀前半から 12 世紀後半頃、SE5290（No329）が 11 世紀中頃から 13 世紀前半頃と推定された。調査所見によれば、井戸跡が検出された上層からは、中世（13 世紀後半～ 15 世紀）の遺構が検出されている。今回の測定に供した試料は、前述したように、樹皮が残存しない加工材であったことから、古木効果の影響により本来の使用年代（伐採年代）よりも古い年代を示していると考えられる。そのため、詳細な遺構の年代については、上記した点を踏まえた評価が望まれる。

試料名	処理方法	補正年代（yrBP）	$\delta^{13}C$（‰）	補正年代（暦年較正用）（yrBP）	暦年較正結果		測定番号
					1σ暦年代範囲	2σ暦年代範囲	
試料No1 SE5401：報告No373 井戸側（縦板）（スギ）	AAA	860±20	-26.43±0.30	857±23	1167AD（68.2%）1214AD	1058AD（ 2.5%）1075AD 1154AD（92.9%）1250AD	IAAA-153106
試料No2 SE5126：報告No318 井戸側（桟木）（スギ）	AAA	910±20	-25.38±0.30	907±23	1046AD（40.4%）1093AD 1121AD（14.4%）1140AD 1147AD（13.5%）1164AD	1038AD（95.4%）1188AD	IAAA-153107
試料No3 SE5290：報告No329 井戸側（縦板）（スギ）	AAA	880±20	-22.59±0.32	875±21	1158AD（68.2%）1209AD	1049AD（13.6%）1084AD 1125AD（ 2.2%）1136AD 1150AD（79.5%）1220AD	IAAA-153108
試料No4 SR2444 7b層 整理No36 流木（クリ）	AAA	2,510±30	-27.99±0.33	2,512±25	773BC（14.9%）748BC 685BC（10.9%）667BC 642BC（30.8%）587BC 581BC（11.6%）557BC	790BC（25.4%）729BC 693BC（70.0%）542BC	IAAA-153109
試料No5 SR2444 7b層 整理No4 流木（クリ）	AAA	2,760±30	-23.56±0.54	2,761±25	929BC（40.4%）891BC 880BC（27.8%）846BC	976BC（95.4%）833BC	IAAA-153110
試料No6 SR2444 3a層 SC5510 整理No43 炭化材（ナツツバキ属近似種）	AAA	2,470±30	-27.00±0.31	2,465±25	750BC（28.7%）683BC 668BC（12.9%）637BC 622BC（ 1.9%）616BC 591BC（24.7%）517BC	764BC（92.7%）477BC 464BC（ 1.0%）454BC 445BC（ 1.7%）431BC	IAAA-153111
試料No7 SR2444 8a層 SC5556 整理No135 炭化材（クリ）	AAA	2,450±30	-28.54±0.30	2,449±25	744BC（25.4%）687BC 665BC（ 8.5%）644BC 551BC（29.2%）477BC 462BC（ 1.4%）456BC 445BC（ 3.8%）431BC	752BC（28.2%）682BC 669BC（13.5%）613BC 593BC（53.7%）412BC	IAAA-153112
試料No8 SR2444 12d層 SC5553 整理No138 炭化材（クリ）	AAA	2,530±30	-27.41±0.30	2,533±26	792BC（37.4%）751BC 683BC（10.7%）668BC 636BC（ 5.2%）626BC 615BC（14.9%）591BC	796BC（40.8%）738BC 688BC（13.1%）663BC 647BC（41.5%）548BC	IAAA-153113

第 11 表　放射性炭素年代測定及び暦年較正結果


OxCal v4.3.2 Bronk Ramsey （2017）; r:5; IntCal13 atmospheric curve （Reimer et al 2013）
試料No.1；R_Date（857,23）
68.2% probability
1167（68.2%）1214calAD
95.4% probability
1058（2.5%）1075calAD
1154（92.9%）1250calAD
Radiocarbon determination （BP）
Calibrated date （calAD）
試料No.2；R_Date（907,23）
68.2% probability
1046（40.4%）1093calAD
1121（14.4%）1140calAD
1147（13.5%）1164calAD
95.4% probability
1038（95.4%）1188calAD
試料No.3；R_Date（875,21）
68.2% probability
1158（68.2%）1209calAD
95.4% probability
1049（13.6%）1084calAD
1125（2.2%）1136calAD
1150（79.5%）1220calAD
試料No.4；R_Date（2512,25）
68.2% probability
773（14.9%）748calBC
685（10.9%）667calBC
642（30.8%）587calBC
581（11.6%）557calBC
95.4% probability
790（25.4%）729calBC
693（70.0%）542calBC
Calibrated date （calBC）
試料No.5；R_Date（2761,25）
68.2% probability
929（40.4%）891calBC
880（27.8%）846calBC
95.4% probability
976（95.4%）833calBC
試料No.6；Date（2465,25）
68.2% probability
750（28.7%）683calBC
668（12.9%）637calBC
622（1.9%）616calBC
591（24.7%）517calBC
95.4% probability
764（92.7%）477calBC
464（1.0%）454calBC
445（1.7%）431calBC
試料No.7；R_Date（2449,25）
68.2% probability
744（25.4%）687calBC
665（8.5%）644calBC
551（29.2%）477calBC
462（1.4%）456calBC
445（3.8%）431calBC
95.4% probability
752（28.2%）682calBC
669（13.5%）613calBC
593（53.7%）412calBC
試料No.8；R_Date（2533,26）
68.2% probability
792（37.4%）751calBC
683（10.7%）668calBC
636（5.2%）626calBC
615（14.9%）591calBC
95.4% probability
796（40.8%）738calBC
688（13.1%）663calBC
647（41.5%）548calBC

第 31 図　暦年較正結果



第 32 図　暦年較正結果確率分布

2）旧　河　道（SR2444）

SR2444 より出土した流木や炭化物集中範囲より出土した炭化材の暦年較正結果(2σ)についてみると、試料 No.5 の流木が紀元前 10 世紀後半から紀元前 9 世紀前半と他の試料よりも古い暦年代範囲を示したほかは、およそ紀元前 8 世紀から紀元前 6 世紀および 5 世紀までの暦年代範囲を示した。流木が出土した層位および炭化物集中範囲の検出された層位を参考として作成した暦年較正結果の確率分布図（第 32 図）では、上記した流木（試料 No5）は、調査所見に基づく層位関係においても有意に古い。このことから、古材の混入や再堆積などの履歴の異なる資料の可能性がある。一方、この他の SR2444 の 3a、7b、8a および 12b 層から出土した流木や炭化材は較正曲線の特性により暦年代範囲が広く、互いに重複する状況にある。なお、SR2444 は、縄文時代晩期後葉頃の河川跡と推定されており、旧河道跡の下層（下部）からは鳥屋 2a 式が、同上層（上部）からは鳥屋 2b 式～大洞 A' 式などの土器が出土している。今回の結果については、上述したような状況から層位間（遺構間）の年代差などを言及することは困難であるが、[小林 2008] などを参考とすると、これらの試料より得られた暦年代範囲は縄文時代晩期後葉頃に相当し、調査所見や出土遺物から推定される年代とおおむね整合する結果と言える。

引用・参考文献

Bronk, R.C.　2009　Bayesian analysis of radiocarbon dates. Radiocarbon, 51, 337-360.

小林謙一　2008 「縄文土器の年代（東日本）」『小林達雄先生古希記念企画　総覧　縄文土器』896-903 頁 「総覧縄文土器」刊行委員会編　株式会社アム・プロモーション

Reimer, P.J., ard, E., Bayliss, A., Beck, J.W., Blackwell, P.G., BronkRamsey, C., Grootes, P.M., Guilderson, T.P., Haflidason, H., Hajdas, I., Hatté, C., Heaton, T.J., Hoffmann, D.L., Hogg, A.G., Hughen, K.A., Kaiser, K.F., Kromer, B., Manning, S.W., Niu, M., Reimer, R.W., Richards, D.A., Scott, E.M., Southon, J.R., Staff, R.A., Turney, C.S.M., and van der Plicht, J.　2013　IntCal13 and Marine13 Radiocarbon Age Calibration Curves 0-50,000 Years cal BP.Radiocarbon, 55, 1869–1887.

3　漆塗膜片観察

高橋　敦（パリノ・サーヴェイ株式会社）

A　は　じ　め　に

本報告では、出土した漆器の漆塗膜片の構造の検討を目的として、自然科学分析を実施した。

B　試　　料

試料は、SE5101 より出土した赤色を呈する漆塗膜片（試料 No1；SE5101 4 層；報告 No312）と、SB52-P5478 より出土した黒色を呈する漆塗膜片（試料 No2；SB52-P5478 1 層；報告 No311）の、計 2 点である。これらの試料は、いずれも漆器に由来する漆塗膜と想定されるが、木地は残存しておらず、漆塗膜片のみの状態で出土している。

C　分　析　方　法

漆塗膜の状態を観察した後、破損部より小片を採取する。エタノールに含浸し、水分を除去した後、合成樹脂で包埋し、樹脂を固化させる。ダイヤモンドカッターで粗く切断した後、断面が出るように研磨し、断面を出た時点で表面を細粒の研磨剤で仕上げる。研磨面をスライドグラスに接着し、反対側も研磨して、厚さが 0.03mm になるように調整してプレパラートとする。

プレパラートは、生物顕微鏡、落射蛍光顕微鏡および偏光顕微鏡等を用いて塗膜断面の構造や混和物について観察する。

D　結果及び考察

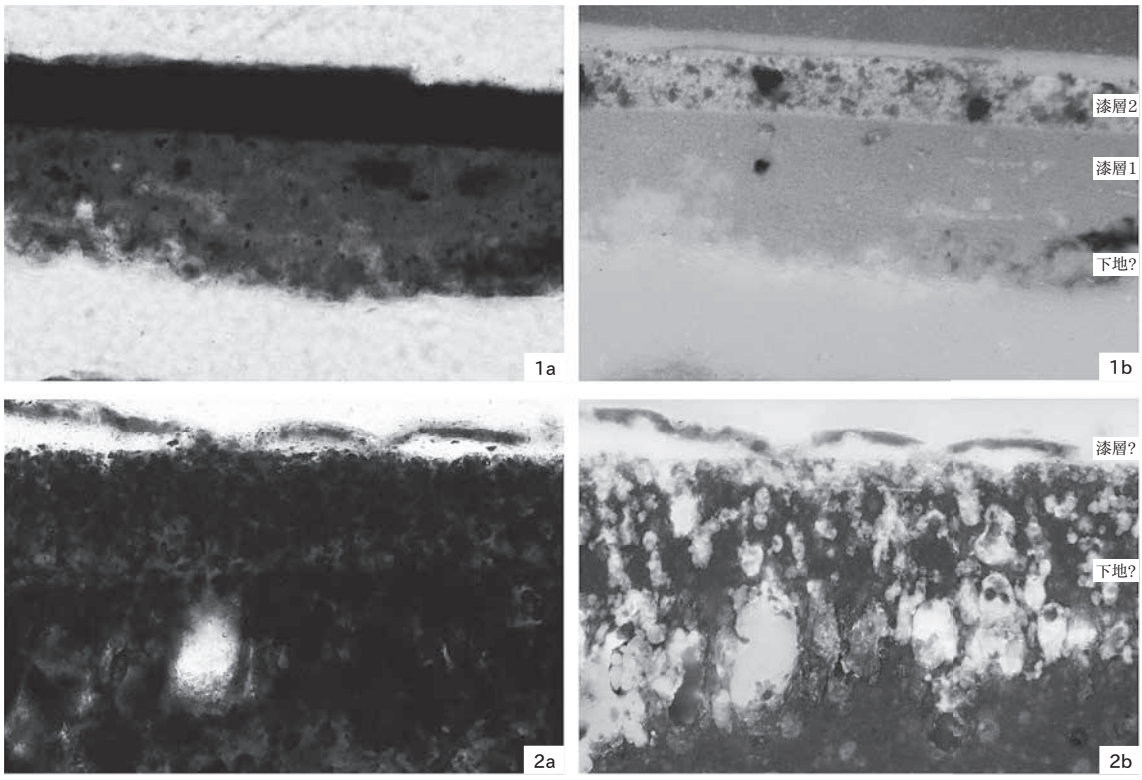
1）試料 No1（SE5101：No312）

漆器容器の外面側と考えられる塗膜であり、肉眼観察では赤色を呈する。塗膜片の断面観察（第 33 図 1a・1b）では、一部に僅かに黒色粒子が認められ、下地の一部と考えられるが、由来は不明である。漆層は 2 層確認でき、木地側に最大で約 100 μm の透明漆（漆層 1）があり、その外側に最大で約 40 μm の赤色顔料を混和した漆層（漆層 2）がある。赤色顔料は、簡易的な蛍光 X 線分析で水銀が検出されたことから、水銀朱（辰砂）と考えられる。

なお、辰砂の産地の多くは北海道・東北北部および西日本の主に外帯に分布し、鉱山として稼業されたものを含めると約 100 箇所に達するとされているが、新潟県内には水銀鉱床は知られていない［市毛 1998、南ほか 2008］。この点を踏まえると、水銀朱あるいは漆器そのものが流通によってもたらされた可能性がある。また、［四柳 2006］によれば、内面朱塗りを含む朱漆器が公家・武家・寺院を中心にハレの場だけではなく、日常食器として普及しはじめるのは 13 世紀頃からとされている。

2）試料 No2（SB52-P5478：No.311）

漆器容器の内面と考えられる塗膜であり、肉眼観察では黒色を呈する。全体的に保存状態が悪い。塗膜片の断面観察（第 33 図　2a・2b）では、下地の可能性がある厚さ約 200 μm を超える層が認められるが、混和物などは認められない。また、外面には透明漆の薄い層（漆層 ?）と考えられる塗膜層が確認される。下地の可能性がある層が厚いのに対し、漆層の可能性がある層が薄いことから、実際にはさらに外側に漆層が存在した可能性も考えられる。



1　塗膜断面（試料No1；SE5101 4層 No312）
2　塗膜断面（試料No2；SB52-P5478 1層 No311）
a：透過光，b：落射蛍光

第 33 図　漆塗膜断面

引用・参考文献

市毛　勲　1998『新版　朱の考古学』296 頁　. 雄山閣出版

南　武志・豊　遙秋・今津節夫　2008「日本における辰砂鉱山鉱石のイオウ同位体比分析」『研究報告』20　41-48 頁　近畿大学理工学総合研究所

四柳　嘉　2006「漆（うるし）Ⅰ」『ものと人間の文化史』131-I　252 頁　法政大学出版局

4 骨　同　定

金井慎司（パリノ・サーヴェイ株式会社）

A はじめに

本報告では、縄文時代晩期における動物利用および食性などの検討を目的として、自然科学分析を実施した。

B 試　　料

試料は、旧河道（SR2444）の 3h 層に検出された炭化物集中範囲（SC5522）より採取された土壌（試料 No1：整理 No64）である。

C 分析方法

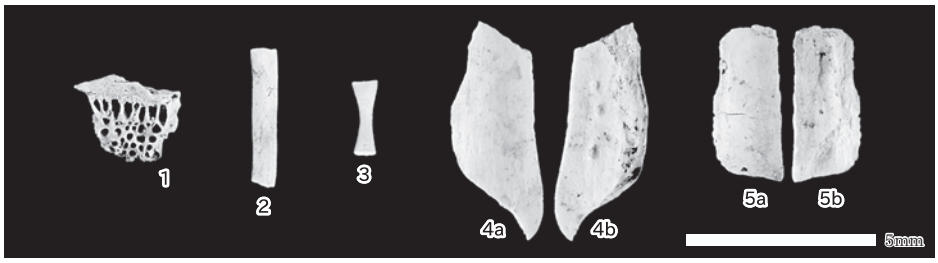
試料の重量を計測した後、1 昼夜水に漬けて泥化させる。泥化させた状態で 0.25mm の篩を用いて静かに水洗選別し、篩上に残った試料を集めて自然乾燥させる。自然乾燥させた試料を肉眼および実体顕微鏡下で観察し、骨、炭化物（4mm 以上）、土器、礫・土壌塊等および残渣に分ける。本分析では、水洗選別により回収した骨について、形態的特徴から種と部位の同定を行う。

D 結　　果

同定結果を第 12 表に示す。SC5522 より採取された土壌試料の水洗選別の結果、焼けた微細な骨が 2.23g 検出された。得られた骨は、サケ科椎骨片、魚類の椎骨片・鰭棘等、カエル類の指骨、鳥類 / 小型獣類の四肢骨、種類部位不明破片であった。検出された骨の大半は部位不明破片であったが、おそらくは

試料No	整理No	遺構No	検出層位	グリッド	重量（g）	種類	部位	部分	数量	重量（g）	被熱	備考
1	64	SC5522	SR2444-3h層	11I14・15	8,293	サケ科	椎骨	破片	111	0.12	○	
						魚類	椎骨	破片	21	0.27	○	
						魚類	鰭棘等	破片	多数	0.45	○	
						カエル類	指骨	略完	1	0.00	○	
						鳥類／小型獣類	四肢骨	破片	2	0.00	○	
						骨	不明	破片	多数	1.39	○	魚類中心
						炭化物		破片	多数	0.97	○	4mm以上
						土器		破片	9	26.21		
						礫・土壌魂等			43	19.71		流紋岩?等含む
						残渣				49.56		

第 12 表　骨同定結果



1　サケ科 椎骨 （試料 No1（整理 No64）; SC5522 SR2444-3h 層）
2　魚類 鰭棘等（試料 No1（整理 No64）; SC5522 SR2444-3h 層）
3　カエル類 指骨（試料 No1（整理 No64）; SC5522 SR2444-3h 層）
4　鳥類／小型獣類 四肢骨（試料 No1（整理 No64）; SC5522 SR2444-3h 層）
5　鳥類／小型獣類 四肢骨（試料 No1（整理 No64）; SC5522 SR2444-3h 層）

第 34 図　出土骨

魚類を中心とした破片と思われる。

E　考　　察

SC5522 より検出された焼骨は、魚類が中心と考えられ、その中でもサケ科が確認された。サケ科は海洋生活で成熟するが、産卵期になると河川を遡上することから、阿賀野川等の河川を遡上してきた際に漁獲された可能性がある。

なお、隣接する山口野中遺跡の縄文時代晩期とされる焼土や炭化物集中についても、水洗選別によって回収された出土骨の同定が行われ、魚類を主体として、コイ科（コイ属やフナ属を含む）、アユ属、サケ属などを中心とする組成が明らかとされたほか、海産種とみられる魚骨（エイ類、カタクチイワシなど）、鳥類および獣類なども僅かに確認されている［千葉博俊・松元美由紀・金井慎司 2015］。また、周辺地域においても、青田遺跡（新発田市）や野地遺跡（胎内市）などで縄文時代晩期の出土骨に関わる資料が蓄積されており［西本・小林 2004、樋泉 2009］、今回の試料に認められたサケ科が確認されている。SC5522 では、骨の検出量が少なく種類組成の把握には至らなかったが、サケ科が出土した点は山口野中遺跡とも共通しており、上記した調査成果なども踏まえると、サケ科は当該期における主要な食料資源となっていたことが推定される。なお、骨の検出量が僅かであった点については、炭化物集中の形成にかかる人的行為が短期間であったことなどが想定されるが、この点については旧河道の埋積過程や遺構の検出状況などと合わせた検討が望まれる。

引用・参考文献

千葉博俊・松元美由紀・金井慎司　2015 「炭化種実同定および動物遺存体分析」『山口野中遺跡 II』新潟県埋蔵文化財調査報告書　第 258 集　82-102 頁　新潟県教育委員会・公益財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団

西本豊弘・小林園子　2004 「青田遺跡出土の動物遺体」『青田遺跡』新潟県埋蔵文化財調査報告書　第 133 集　91-96 頁　新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団

樋泉岳二　2009 「動物遺体」『野地遺跡』新潟県埋蔵文化財調査報告書　第 196 集　169-179 頁　新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団

5　炭素・窒素安定同位体分析

田中義文（パリノ・サーヴェイ株式会社）

A　は　じ　め　に

本報告では、縄文時代晩期における食性などの検討を目的として、自然科学分析を実施した。

B　試　　料

試料は、旧河道（SR2444）より出土した縄文土器のうち、土器内面に炭化物が付着する資料 8 点（試料 No1 ～ 8）である。試料の詳細は結果とともに第 13 表に、付着炭化物の状況を第 37 図に示したので参照されたい。

C　分　析　方　法

各資料の観察・記録を行った後、メスやデザインカッターなどを用いて、縄文土器内面に付着する炭化

物を採取する。試料は、炭酸塩の除去などの前処理を行った後、スズコンテナに封入し、超高純度酸素と共に分析装置の燃焼炉に落とし、スズの酸化熱を利用して試料を燃焼・ガス化させ、酸化触媒で完全酸化させる。この後カラムを用いて不純物の除去と炭素、窒素の分離を行ない、炭素と窒素の元素比を測定する。その後質量分析計に導入し、安定同位体比を測定する。分析機器はサーモフィッシャーサイエンティフィック社製の元素分析計（Flash EA1112）と安定同位体比質量分析計（Delta V Advantage）を用いる。

試料No	遺構No	層位	グリッド	ドットNo	δ^{13}C-VPDB (‰)	δ^{15}N-Air (‰)	T-N (%)	T-C (%)	C/N
1	SR2444	3a	10I7	13	-24.2	0.86	3.28	60.5	18.4
2	SR2444	3a	9H15	44	-25.3	3.00	2.75	49.9	18.1
3	SR2444	3h	12G14	14	-25.9	7.18	4.14	54.6	13.2
4	SC5535	3h	11I25	1	-24.1	0.28	2.64	63.5	24.1
5	SR2444	8a	10H17	41	-24.9	0.90	2.78	61.7	22.2
6	SR2444	12a	9J17	38	-23.4	0.19	3.16	58.7	18.6
7	SR2444	12a	8J25	39	-24.5	1.21	3.19	68.4	21.4
8	SR2444	12a	9J11	40	-23.6	0.62	3.35	60.1	17.9

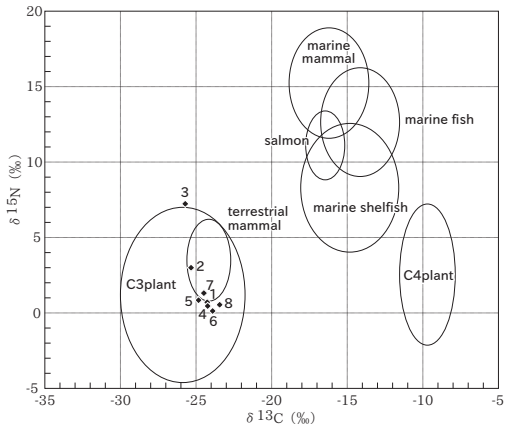
第 13 表　炭素・窒素安定同位体分析結果

D　結　　果

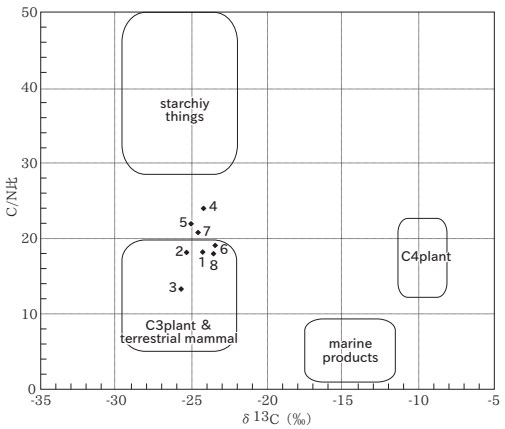
結果を第 13 表に示す。なお、結果表には、δ^{13}C-VPDB（‰）、δ^{15}N-Air（‰）、全窒素（%）、全炭素（%）を示し、全窒素と全炭素から求められる C/N 比も記した。これを近代以前の日本で食されていた食糧を実際に加熱調理し、さらに炭化させたものを分析することによって得られたδ^{13}C-VPDB（‰）、δ^{15}N-Air（‰）、C/N 比のエリアが示されたグラフ［Yoshida *et al* 2013］にプロットする（第 35 図、第 36 図）。

E　考　　察

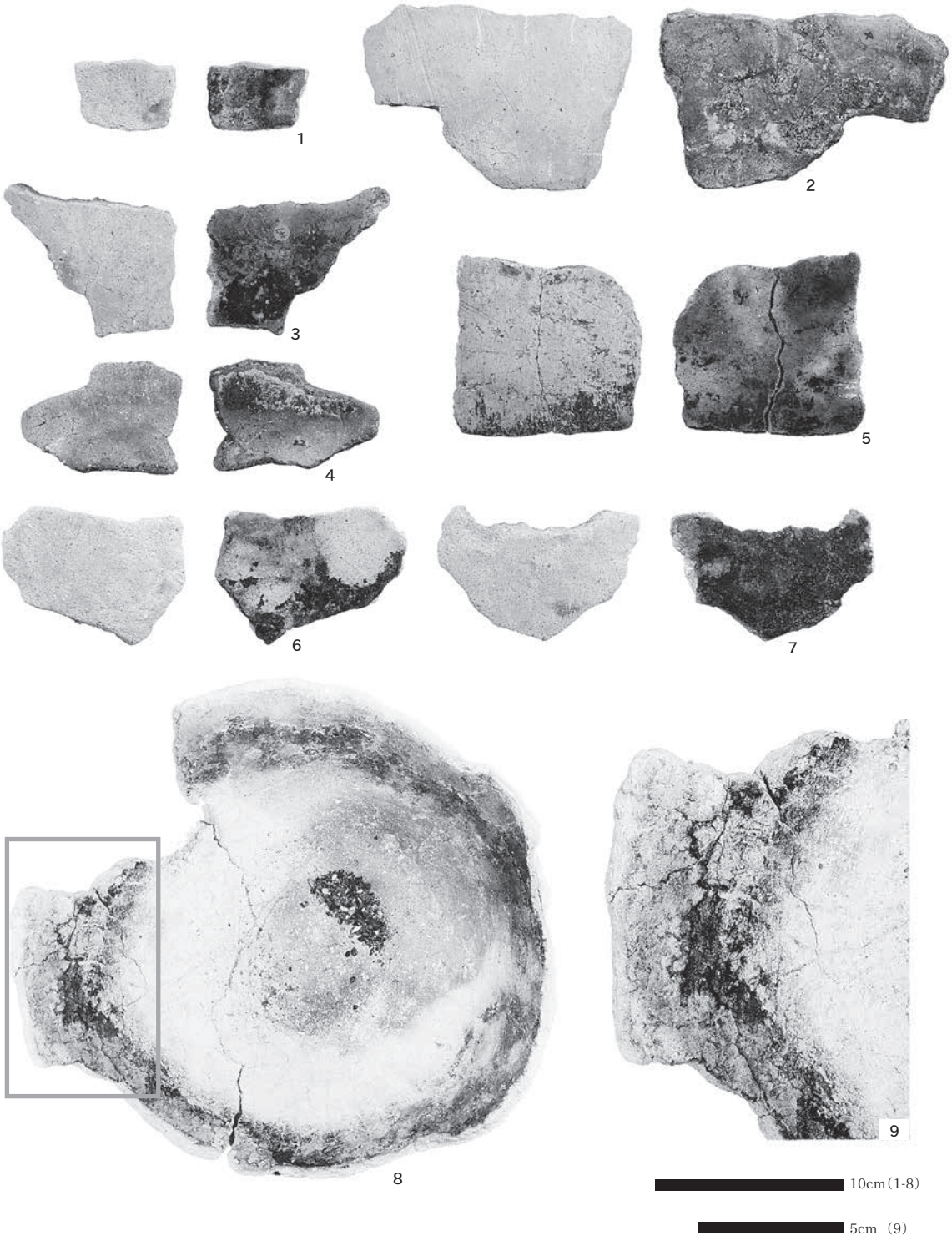
今回の分析に供された縄文土器内面に付着した炭化物のδ^{13}C-VPDB(‰)およびδ^{15}N-Air(‰)（第 35 図）をみると、試料 No1, 4 ～ 8 の 6 点は、ほぼ C3 植物のエリア内に収まる状況から、これらの炭化物は植物由来の可能性がある。また、試料 No2 は他の 6 点と比較してδ^{15}N-Air(‰)がやや多いという特徴を示す。δ^{15}N-Air（‰）は食物連鎖の上位に行くほど高くなる性質があることから［Pearsall, 2000］、試料 No2 には動物由来の炭化物も含まれる可能性がある。さらに、試料 No3 は、C3 植物のエリアよりδ^{15}N-Air(‰)が多い位置にプロットされる。δ^{15}N-Air（‰）のみで考えれば海棲生物に近い値を示す。このような C3 植物と海棲生物の中間的な組成は、海に近い青森県の亀ヶ岡遺跡で得られており、陸域の食糧のみでなく、海産物を利用した痕跡であると指摘されている［Horiuchi *et al.* 2015］。また、信濃川流域などの遺跡における出土資料の分析調査でも同様な組成がみられ、これらについては遡上したサケ・マス類の利用が推定されている［Yoshida *et al* 2013］。本遺跡は海岸部よりやや内陸に位置するが、阿賀野川流域に位置



第 35 図　土器付着炭化物の炭素窒素同位体比
（Yoshida　*et al.*［2013］を引用・加筆）



第 36 図　土器付着炭化物の炭素 / 窒素比
（Yoshida　*et al.*［2013］を引用・加筆）



1　試料 No5（SR2444-8a 層 No.41）
2　試料 No2（SR2444-3a 層 No.44）
3　試料 No1（SR2444-3a 層 No.13）
4　試料 No3（SR2444-3h 層 No.14）
5　試料 No4（SC5535 No.1；SR2444-3h 層）
6　試料 No7（SR2444-12a 層 No.39）
7　試料 No6（SR2444-12a 層 No.38）
8　試料 No8 外観（SR2444-12a 層 No.40）
9　試料 No8 接写（SR2444-12a 層 No.40）

第 37 図　分析試料（試料採取前状況）

することを踏まえると、試料 No3 の状況は、植物由来の食物の利用とともに、信濃川流域と同様に遡上したサケ･マス類を含む海産物の利用などにより、δ^{15}N-Air（‰）が多くなっている可能性も考えられる。

一方、C/N 比（炭素 / 窒素比；第 36 図）についてみると、試料 No3 は他に比べてやや低く、タンパク質などの窒素が多い物質に由来する可能性がある。これは、第 35 図の炭素・窒素安定同位体比より想定される食性とも矛盾しない特徴と言える。この他の試料は C/N 比が比較的高いという特徴を示す。第 36 図でみられるように、デンプンなどの多糖類を主とする食物は、窒素を含んでいないため、炭素の割合が大きくなり C/N 比が高い場所に位置する。このことから、C3 植物に加え、多糖類（デンプンなどの多糖類や甘味料としての二糖類、単糖類を含む）が多い食物由来の炭化物も含まれる可能性がある。

引用・参考文献

Horiuchi Akiko・Miyata Yoshiki・Kamijo Nobuhiko・Lucy Cramp・Richard P Evershed　2015　A dietary study of The Kamegaoka culture population during The Final Jomon period, Japan, using stable isotope and lipid analysis of ceramic residues.Radiocarbon, 57, 721–736.

Pearsall Deborah M.　2000　Paleoethnobotany A Handbook of Procedures second edition.Academic Press,700p.

Yoshida Kunio・Kunikida Dai・Miyazaki Yumiko・Nishida Yasutami・Miyao Toru・Matuzaki Hiroyuki　2013　Dating and stable isotope analysis of charred residues on the incipient Jomon Pottety（Japan）. Radiocarbon, 55, 1322-1333.

6 花 粉 分 析

吉川昌伸（古代の森研究舎）

A はじめに

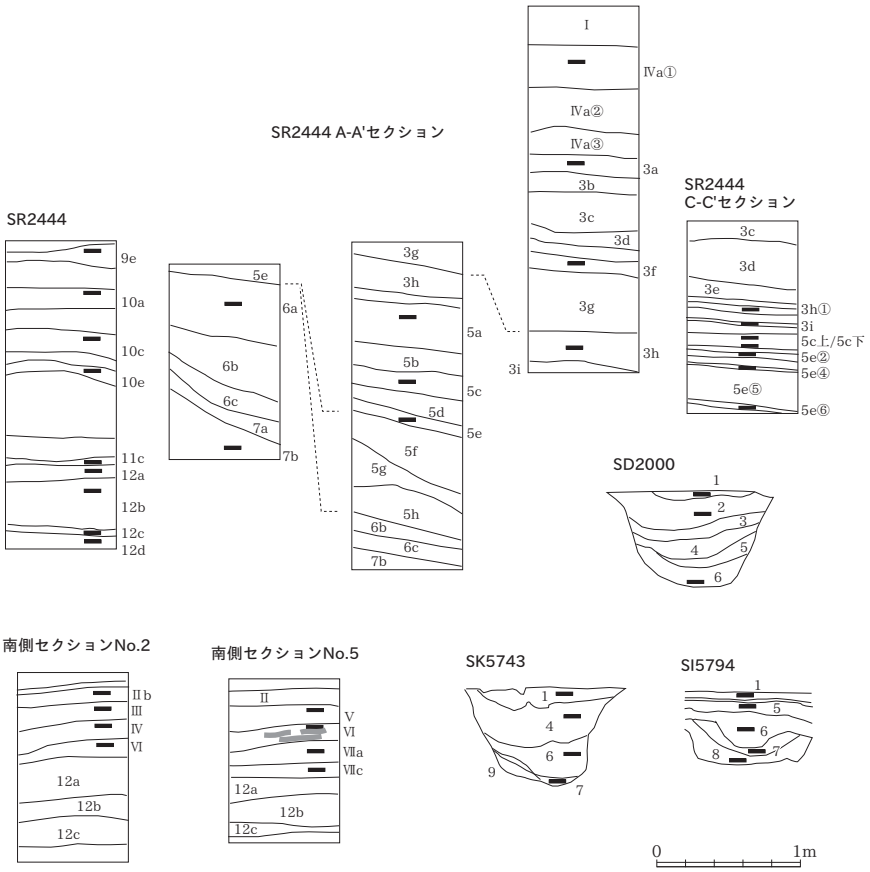
境塚遺跡Ⅲは、旧阿賀野川右岸に形成された自然堤防上に立地し、中世と縄文時代晩期の遺構・遺物を出土している。中世では掘立柱建物 12 棟、井戸 23 基、方形周溝状遺構 1 基など、縄文時代晩期では掘立柱建物 2 棟、竪穴建物 1 棟、土坑や炭化物集中範囲が検出されている。また、深さ約 5m の旧河道 SR2444 から縄文時代晩期後葉の遺構・遺物が検出された。ここでは縄文時代晩期後葉と中世の植生と生業を明らかにするための資料を得ることを目的に花粉分析を行った。

B 試料と分析方法

花粉分析試料は、旧河道の SR2444 地点、自然堤防上の南側セクションの No2 と No5 地点、SK5743 土坑と SI5794 住居跡、中世の溝の SD2000 地点から採取された 45 試料である（第 14 表、第 38 図）。

花粉化石の抽出は、試料 3 ～ 7g を秤量し体積を測定後に 10%KOH（湯煎約 15 分）、傾斜法により砂を取り除き、48%HF（約 15 分）、重液分離（比重 2.15 の臭化亜鉛）、アセトリシス処理（濃硫酸 1：無水酢酸 9 の混液で湯煎 5 分）の順に処理を行った。プレパラート作製は、残渣を適量に希釈しミキサーで十分撹拌後、マイクロピペットで取り重量を測定（感量 0.1mg）しグリセリンで封入した。同定と計数はプレパラートの全面を行った。

細粒微粒炭量は、プレパラートの顕微鏡画像をデジタルカメラで取り込み、画像解析ソフトの ImageJ



第 38 図　花粉分析試料の採取層準

地点	層	時期	堆積物の特徴	砂	シルト粘土	強熱減量（有機物量）
SD2000	1	中世	灰黄褐色極細粒砂質シルト	20.4	73.2	6.4
	2		にぶい黄褐色極細粒砂質シルト	17.7	76.0	6.3
	6		にぶい黄橙色シルト	5.9	87.3	6.8
SR2444 A-A'セクション	Ⅳa		にぶい黄褐色極細粒砂質シルト	26.4	67.3	6.3
	3a		にぶい黄褐色極細粒砂質シルト	18.9	72.8	8.3
	3f		にぶい黄褐色極細粒砂質シルト	14.1	79.7	6.2
	3h	縄文晩期	灰黄褐色極細粒砂質シルト	27.4	67.2	5.4
	5a		にぶい黄褐色極細粒砂質シルト	39.0	54.9	6.1
	5c		にぶい黄褐色シルト質細～極細粒砂	78.1	17.5	4.4
	5e		にぶい黄褐色シルト質細～極細粒砂	76.0	19.8	4.2
	6a		灰オリーブ色極細粒砂質シルト	39.4	54.7	5.9
	7b		灰オリーブ色シルト質極細粒砂	79.4	16.8	3.8
	9e		黄褐色シルト質細～極細粒砂	68.0	27.6	4.4
	10a		黄褐色シルト質細～極細粒砂	56.4	39.2	4.4
	10c		黄褐色シルト質細～極細粒砂	59.1	36.8	4.1
	10e		にぶい黄褐色シルト質細～極細粒砂	71.0	24.9	4.1
	11c		暗灰黄色シルト質細～極細粒砂	78.8	16.7	4.5
	12a		黄褐色シルト質極細粒砂	69.6	26.0	4.4
	12b		暗灰黄色シルト質細粒砂	93.0	3.9	3.1
	12C		黄褐色シルト質細～極細粒砂	72.7	23.3	4.0
	12d		暗灰黄色シルト質極細粒砂	81.5	14.5	4.0
SR2444 C-C'セクション	3h①	縄文晩期	灰オリーブ色極細粒砂質シルト	42.9	51.9	5.2
	3i		灰オリーブ色極細粒砂質シルト	31.9	62.9	5.2
	5c上部		灰オリーブ色極細粒砂質シルト	35.6	57.8	6.6
	5c下部		灰オリーブ色極細粒砂質シルト	22.6	70.4	7.0
	5e②		灰オリーブ色極細粒砂質シルト	15.1	79.1	5.8
	5e④		灰オリーブ色極細粒砂質シルト	17.9	76.2	5.9
	5e⑥		灰オリーブ色極細粒砂質シルト	33.1	62.2	4.7
南側セクションNo.2	Ⅱb		灰オリーブ色極細粒砂質シルト	28.5	65.3	6.2
	Ⅲ		灰オリーブ色極細粒砂質シルト	14.0	79.6	6.4
	Ⅳ		灰オリーブ色極細粒砂質シルト	11.9	81.0	7.1
	Ⅵ	縄文晩期	灰オリーブ色極細粒砂質シルト	16.4	76.4	7.2
南側セクションNo.5	Ⅴ		灰オリーブ色細～極細粒砂質シルト	29.1	64.6	6.3
	Ⅵ	縄文晩期	灰オリーブ色細～極細粒砂質シルト	25.8	65.7	8.5
	Ⅶa		灰オリーブ色細～極細粒砂質シルト	36.4	58.4	5.2
	Ⅶc		灰オリーブ色細～極細粒砂質シルト	47.7	47.3	5.0
SK5743	1		灰オリーブ色シルト質細～極細粒砂	74.2	21.7	4.1
	4		灰オリーブ色シルト質細～極細粒砂	67.0	28.6	4.4
	6		灰オリーブ色シルト質細～極細粒砂	67.8	28.0	4.2
	7		灰オリーブ色シルト質細～極細粒砂	59.2	36.4	4.4
SI5794	1		灰オリーブ色細～極細粒砂質シルト	30.7	63.6	5.7
	5		灰オリーブ色細～極細粒砂質シルト	14.9	78.8	6.3
	6		灰オリーブ色細～極細粒砂質シルト	18.7	74.6	6.7
	7		灰オリーブ色シルト質細～極細粒砂	60.2	35.5	4.3
	8		灰オリーブ色シルト質細～極細粒砂	53.3	42.2	4.5

第 14 表　花粉分析試料の堆積物の特徴（重量 %）

で 75 μm^2 より大きいサイズの細粒微粒炭の積算面積を計測した。また、堆積物の性質を調べるために、有機物量、シルト以下の細粒成分、砂分量、及び生業の指標となる微粒炭量について調査した。有機物量については強熱減量を測定した。強熱減量は、電気マッフル炉により 750℃で 3 時間強熱し、強熱による減量を乾燥重量百分率で算出した。

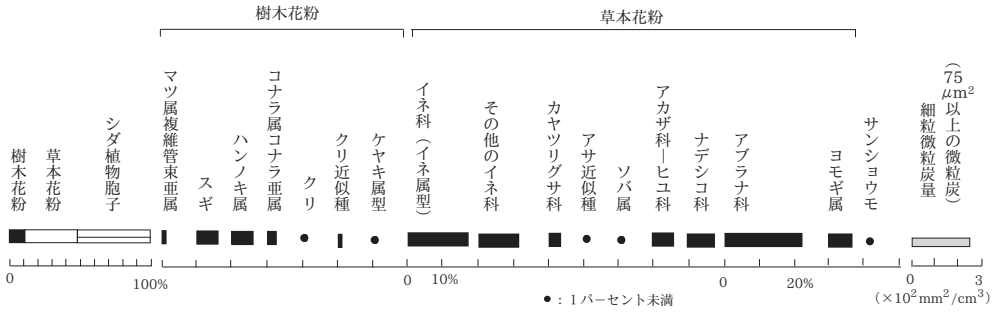
C 結　　果

1）花粉分析結果

出現した分類群のリストとその個数を第 15・16 表に、主要花粉分布を第 39 図に示す。出現率は、樹木・草本花粉数を基数として百分率で算出した。図表中で複数の分類群をハイフンで結んだのは、分類群間の区別が明確でないものである。

SD2000 溝（1、2、6 各層）

1 層からは比較的多くの花粉が出現したものの、下位の 2 層では少なくなり、6 層では稀であった。1 層は、花粉胞子の全体でシダ植物胞子が 52% と高率で出現し、草本花粉が 37%、樹木花粉は 11% であった（第 15 表、第 39 図）。樹木はスギとハンノキ属、コナラ亜属、クリ、クリ近似種、マツ属複維管束亜属、ケヤキ属型などが出現した。草本はイネ科（イネ属型）とその他のイネ科、アブラナ科が比較的多く占め、アカザ科－ヒユ科、ナデシコ科、ヨモギ属、カヤツリグサ科などが出現した。他にソバ属やアサ近似種、浮水植物のサンショウモが僅かに出現した。2 層は、樹木花粉は稀で、草本のイヌタデ属やアカザ科－ヒユ科、イネ属型、ソバ属、ベニバナ属などが僅かに出現した。6 層はシダ植物胞子を除いては、アカザ科－ヒユ科とヨモギ属のみであった。細粒微粒炭量も 1 層では 247mm^2/cm^3 と比較的多く含まれるものの、2 層で 49mm^2/cm^3、6 層は 10mm^2/cm^3 と下位層ほど少ない。



第 39 図　SD2000 溝 1 層の主要花粉分布
（出現率は樹木・草木花粉数を基数として百分率で算出した）

SR2444　A-A' セクション（Ⅳa ～ 12d）

出現した花粉はすべての試料で少なかった。樹木は 14 粒以下と少なく、その中ではハンノキ属とコナラ亜属が比較的多くの試料から出現した。他にマツ属複維管束亜属、スギ、クマシデ属－アサダ属、ブナ、ケヤキ属型、イヌツゲ属、カエデ属が出現した。草本はⅣ a 層と 3a 層ではイネ科とアカザ科－ヒユ科、ナデシコ科、アブラナ科が出現し、それより下位層ではイネ科、ヨモギ属、他のキク亜科が僅かに出現した。シダ植物胞子がⅣ a 層から 3f 層の上部層では比較的多く出現するものの、それより下位層では全般に少なくなる。細粒微粒炭量は全般に少なく、Ⅳ a 層と 3f 層、11c 層で 14 ～ 19mm^2/cm^3 占めるが、それ以外では主に 3 ～ 5mm^2/cm^3 である。

和　名	学　名	SR2444　A－A'セクション									
		7b	9e	10a	10c	10e	11c	12a	12b	12c	12d
樹　木											
ツガ属	*Tsuga*	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
マツ属複維管束亜属	*Pinus* subgen. *Diploxylon*	－	－	－	4	－	－	－	－	－	－
マツ属（不明）	*Pinus*（Unknown）	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
コウヤマキ属	*Sciadopitys*	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
スギ	*Cryptomeria japonica*（L.fil.）D.Don	－	－	－	－	2	－	－	－	－	－
クマシデ属－アサダ属	*Carpinus - Ostrya*	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－
ハンノキ属	*Alnus*	－	－	－	4	1	4	2	－	2	1
ブナ	*Fagus crenata* Blume	1	1	－	－	1	－	－	－	1	－
コナラ属コナラ亜属	*Quercus* subgen. *Lepidobalanus*	－	－	－	4	2	2	2	－	－	1
コナラ属アカガシ亜属	*Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis*	－	－	－	1	－	－	－	－	－	－
クリ	*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
クリ近似種	cf.*Castaneea crenata*	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
ニレ属	*Ulmus*	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
ケヤキ属型	*Zelkova* type	－	－	－	－	－	－	－	－	2	－
エノキ属－ムクノキ属	*Celtis - Apananthe*	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
モチノキ属	*Ilex*	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－
カエデ属	*Acer*	－	－	－	1	－	－	－	－	－	－
トチノキ	*Aesculus turbinata Blume*	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
ウコギ科	Araliaceae	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
草　本											
イネ科（イネ型）	Gramineae（*Oryza* type）	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
その他のイネ科	other Gramineae	－	－	－	－	－	－	－	－	1	1
カヤツリグサ科	Cyperaceae	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
アサ近似種	cf.*Cannabis sativa*	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
イヌタデ属	*Persicaria*	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
ソバ属	*Fagopyrum*	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
アカザ科－ヒユ科	Chenopodiaceae - Amaranthaceae	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
ナデシコ科	Caryophyllaceaa	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
カラマツソウ属	*Thalictrum*	－	－	－	－	－	－	1	－	－	－
アブラナ科	Cruciferae	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
ベニバナ属	*Carthamus*	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
ヨモギ属	*Artemisia*	－	2	－	－	2	－	2	1	1	－
他のキク亜科	other Tubuliflorae	－	－	－	－	－	1	2	1	2	－
タンポポ亜科	Liguliflorae	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
シダ植物											
ヒカゲノカズラ属	*Lycopodium*	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
ゼンマイ属	*Osmunda*	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
サンショウモ	*Salvinia natans*（L.）All.	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
他のシダ植物胞子	other Pteridophyta	7	2	22	3	2	4	11	1	3	5
樹木花粉	Arboreal pollen	2	1	0	14	6	6	4	0	6	2
草本花粉	Nonarboreal pollen	0	2	0	0	2	1	5	2	4	1
シダ植物胞子	Fern spores	7	2	22	3	2	4	11	1	3	5
花粉・胞子数	Pollen and Spores	9	5	22	17	10	11	20	3	13	8
不明花粉	Unknown pollen	0	0	1	3	0	0	2	0	2	1
細粒微粒炭量（mm^2/cm^3）		4	3	4	5	2	14	3	1	5	2

和　名	学　名	SD2000			SR2444 A－A'セクション							
		1	2	6	Ⅳa	3a	3f	3h	5a	5c	5e	6a
樹　木												
ツガ属	*Tsuga*	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
マツ属複維管束亜属	*Pinus* subgen. *Diploxylon*	2	－	－	1	－	－	－	－	－	－	－
マツ属（不明）	*Pinus*（Unknown）	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
コウヤマキ属	*Sciadopitys*	2	2	－	－	－	－	－	－	－	－	－
スギ	*Cryptomeria japonica*（L.fil.）D.Don	9	－	－	1	－	－	－	－	－	－	－
クマシデ属－アサダ属	*Carpinus - Ostrya*	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
ハンノキ属	*Alnus*	9	－	－	2	1	1	2	－	2	1	1
ブナ	*Fagus crenata* Blume	1	－	－	－	1	－	－	－	1	－	－
コナラ属コナラ亜属	*Quercus* subgen. *Lepidobalanus*	4	1	－	1	－	－	1	2	－	1	1
コナラ属アカガシ亜属	*Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis*	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
クリ	*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
クリ近似種	cf.*Castaneea crenata*	2	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
ニレ属	*Ulmus*	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
ケヤキ属型	*Zelkova* type	1	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－
エノキ属－ムクノキ属	*Celtis - Apananthe*	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
モチノキ属	*Ilex*	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－
カエデ属	*Acer*	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
トチノキ	*Aesculus turbinata Blume*	－	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－
ウコギ科	Araliaceae	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
草　本												
イネ科（イネ型）	Gramineae（*Oryza* type）	26	2	－	－	2	－	－	－	－	－	1
その他のイネ科	other Gramineae	17	－	－	5	－	2	1	－	－	1	－
カヤツリグサ科	Cyperaceae	5	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
アサ近似種	cf.*Cannabis sativa*	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
イヌタデ属	*Persicaria*	2	7	－	1	－	－	－	－	－	－	－
ソバ属	*Fagopyrum*	1	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－
アカザ科－ヒユ科	Chenopodiaceae - Amaranthaceae	9	9	3	1	2	－	－	－	－	－	－
ナデシコ科	Caryophyllaceaa	11	2	－	3	3	－	－	－	－	－	－
カラマツソウ属	*Thalictrum*	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
アブラナ科	Cruciferae	33	2	－	7	2	1	－	－	－	－	－
ベニバナ属	*Carthamus*	－	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－
ヨモギ属	*Artemisia*	10	5	2	4	－	－	－	－	－	－	－
他のキク亜科	other Tubuliflorae	1	－	－	－	－	2	－	1	－	1	－
タンポポ亜科	Liguliflorae	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
シダ植物												
ヒカゲノカズラ属	*Lycopodium*	1	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－
ゼンマイ属	*Osmunda*	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
サンショウモ	*Salvinia natans*（L.）All.	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
他のシダ植物胞子	other Pteridophyta	163	211	27	55	43	103	111	27	4	27	15
樹木花粉	Arboreal pollen	34	4	0	5	2	1	3	2	3	4	2
草本花粉	Nonarboreal pollen	117	29	5	21	9	5	1	1	0	2	1
シダ植物胞子	Fern spores	166	211	27	55	43	103	111	27	4	28	15
花粉・胞子数	Pollen and Spores	317	244	32	81	54	109	115	30	7	34	18
不明花粉	Unknown pollen	8	3	0	2	1	2	3	0	1	2	0
細粒微粒炭量（mm^2/cm^3）		247	49	10	19	8	14	4	3	3	7	3

第 15 表　花粉化石の一覧（1）

和名	学名	SK5743				南側セクションNo.2				南側セクションNo.5			
		1	4	6	7	IIb	III	IV	VI	V	VI	VIIa	VIIc
樹木													
ツガ属	*Tsuga*	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
マツ属複維管束亜属	*Pinus* subgen. *Diploxylon*	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
マツ属（不明）	*Pinus*（Unknown）	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
コウヤマキ属	*Sciadopitys*	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
スギ	*Cryptomeria japonica*（L.fil.）D.Don	−	−	−	−	−	−	−	1	−	1	−	−
クマシデ属－アサダ属	*Carpinus - Ostrya*	−	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−	−
ハンノキ属	*Alnus*	5	−	1	1	1	−	−	1	−	1	−	−
ブナ	*Fagus crenata* Blume	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
コナラ属コナラ亜属	*Quercus* subgen. *Lepidobalanus*	−	−	−	1	−	−	−	−	−	1	−	−
コナラ属アカガシ亜属	*Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis*	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
クリ	*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.	−	−	−	−	−	−	−	−	−	1	−	−
クリ近似種	cf.*Castaneea crenata*	−	−	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−
ニレ属	*Ulmus*	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−
ケヤキ属型	*Zelkova* type	−	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−	−
エノキ属－ムクノキ属	*Celtis - Apananthe*	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
モチノキ属	*Ilex*	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
カエデ属	*Acer*	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
トチノキ	*Aesculus turbinata Blume*	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
ウコギ科	Araliaceae	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
草本													
イネ科（イネ型）	Gramineae（*Oryza* type）	1	−	−	−	−	−	−	−	−	2	1	−
その他のイネ科	other Gramineae	2	−	−	−	−	−	−	−	−	3	1	−
カヤツリグサ科	Cyperaceae	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−
アサ近似種	cf.*Cannabis sativa*	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
イヌタデ属	*Persicaria*	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
ソバ属	*Fagopyrum*	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
アカザ科－ヒユ科	Chenopodiaceae - Amaranthaceae	1	−	−	−	1	−	−	2	−	1	−	−
ナデシコ科	Caryophyllaceaa	6	1	−	−	−	−	2	−	1	1	−	−
カラマツソウ属	*Thalictrum*	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
アブラナ科	Cruciferae	14	1	9	−	−	−	−	−	−	5	−	−
ベニバナ属	*Carthamus*	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
ヨモギ属	*Artemisia*	3	1	−	−	−	1	−	1	−	2	4	−
他のキク亜科	other Tubuliflorae	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
タンポポ亜科	Liguliflorae	−	−	−	−	−	−	−	−	−	1	−	−
シダ植物													
ヒカゲノカズラ属	*Lycopodium*	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
ゼンマイ属	*Osmunda*	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
サンショウモ	*Salvinia natans*（L.）All.	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
他のシダ植物胞子	other Pteridophyta	3	0	4	1	6	3	2	17	1	14	2	−
樹木花粉	Arboreal pollen	6	0	2	2	1	0	2	3	0	4	0	0
草本花粉	Nonarboreal pollen	27	3	9	0	1	2	2	3	1	15	6	0
シダ植物胞子	Fern spores	3	0	4	1	6	3	2	17	1	14	2	0
花粉・胞子数	Pollen and Spores	36	3	15	3	8	5	6	23	2	33	8	0
不明花粉	Unknown pollen	0	0	2	0	0	0	1	1	0	0	0	0
細粒微粒炭量（mm^2/cm^3）		5	1	5	4	4	6	4	40	9	29	10	1

和名	学名	SR2444C－C'セクション							SI5794				
		3h①	3i	5c上	5c下	5e②	5e④	5e⑥	1	5	6	7	8
樹木													
ツガ属	*Tsuga*	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
マツ属複維管束亜属	*Pinus* subgen. *Diploxylon*	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
マツ属（不明）	*Pinus*（Unknown）	−	−	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−
コウヤマキ属	*Sciadopitys*	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
スギ	*Cryptomeria japonica*（L.fil.）D.Don	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
クマシデ属－アサダ属	*Carpinus - Ostrya*	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
ハンノキ属	*Alnus*	−	1	−	−	−	1	−	1	−	−	−	−
ブナ	*Fagus crenata* Blume	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
コナラ属コナラ亜属	*Quercus* subgen. *Lepidobalanus*	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
コナラ属アカガシ亜属	*Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis*	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
クリ	*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
クリ近似種	cf.*Castaneea crenata*	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
ニレ属	*Ulmus*	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
ケヤキ属型	*Zelkova* type	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
エノキ属－ムクノキ属	*Celtis - Apananthe*	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
モチノキ属	*Ilex*	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
カエデ属	*Acer*	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
トチノキ	*Aesculus turbinata Blume*	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
ウコギ科	Araliaceae	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−
草本													
イネ科（イネ型）	Gramineae（*Oryza* type）	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
その他のイネ科	other Gramineae	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
カヤツリグサ科	Cyperaceae	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
アサ近似種	cf.*Cannabis sativa*	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
イヌタデ属	*Persicaria*	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
ソバ属	*Fagopyrum*	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
アカザ科－ヒユ科	Chenopodiaceae - Amaranthaceae	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
ナデシコ科	Caryophyllaceaa	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
カラマツソウ属	*Thalictrum*	−	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−	−
アブラナ科	Cruciferae	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
ベニバナ属	*Carthamus*	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
ヨモギ属	*Artemisia*	−	−	−	−	−	−	−	−	−	3	−	−
他のキク亜科	other Tubuliflorae	−	−	−	−	−	3	−	−	−	−	−	−
タンポポ亜科	Liguliflorae	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
シダ植物													
ヒカゲノカズラ属	*Lycopodium*	−	−	−	−	−	−	−	−	−	1	−	−
ゼンマイ属	*Osmunda*	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
サンショウモ	*Salvinia natans*（L.）All.	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
他のシダ植物胞子	other Pteridophyta	−	9	2	10	10	18	2	16	2	15	5	−
樹木花粉	Arboreal pollen	0	2	0	0	0	2	0	2	0	0	0	0
草本花粉	Nonarboreal pollen	0	1	0	0	0	3	1	0	0	3	0	0
シダ植物胞子	Fern spores	0	9	2	10	10	18	2	16	2	16	5	0
花粉・胞子数	Pollen and Spores	0	12	2	10	10	23	3	18	2	19	5	0
不明花粉	Unknown pollen	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
細粒微粒炭量（mm^2/cm^3）		3	2	4	7	1	11	22	17	1	38	3	0.2

第16表　花粉化石の一覧（2）

SR2444　C-C' セクション（3h ①～ 5e ⑥）

出現した花粉は少なく検出されなかった試料もあり、シダ植物胞子が少量検出された。出現した花粉は、ハンノキ属、コナラ亜属、ウコギ科、イヌタデ属、カラマツゾウ属、他のキク亜科のみである。細粒微粒炭量は、5e ⑥で 22mm²/cm³ 含まれるものの、他は 1 ～ 11mm²/cm³ であった。

南側セクション No2（Ⅱb ～Ⅵ）

花粉とシダ植物胞子が僅かに検出された。出現した花粉は、スギ、クマシデ属－アサダ属、ハンノキ属、クリ近似種、ケヤキ属型、カヤツリグサ科、アカザ科－ヒユ科、ナデシコ科、ヨモギ属であった。細粒微粒炭量は、最下部のⅥ層で 40mm²/cm³ といく分多く含まれていたが、他は 4 ～ 6mm²/cm³ であった。

南側セクション No5（Ⅴ～Ⅶc）

花粉とシダ植物胞子が僅かに検出された。Ⅵ層から出現した花粉は他層よりいく分多く、アブラナ科やイネ科などが複数粒出現した。他にスギ、ハンノキ属、コナラ亜属、クリ、アカザ科－ヒユ科、ナデシコ科、ヨモギ属、タンポポ亜科が出現した。細粒微粒炭量は 29mm²/cm³ 以下であった。

SK5743 土坑（1 ～ 7）

花粉とシダ植物胞子が僅かに検出された。1 層ではハンノキ属やナデシコ属、アブラナ科が相対的に多く出現し、マツ属複維管束亜属やイネ科、アカザ科－ヒユ科、ヨモギ属が出現した。細粒微粒炭量は 5mm²/cm³ 以下と少ない。

SI5794 住居跡（1 ～ 8）

シダ植物胞子が僅かに検出されたものの、花粉はほとんど検出されなかった。出現した花粉は、マツ属、ハンノキ属、ヨモギ属のみであった。細粒微粒炭量は 38mm²/cm³ 以下で、特に 5 層や 8 層はほとんど含まれていなかた。

2）特筆すべき分類群の形態記載

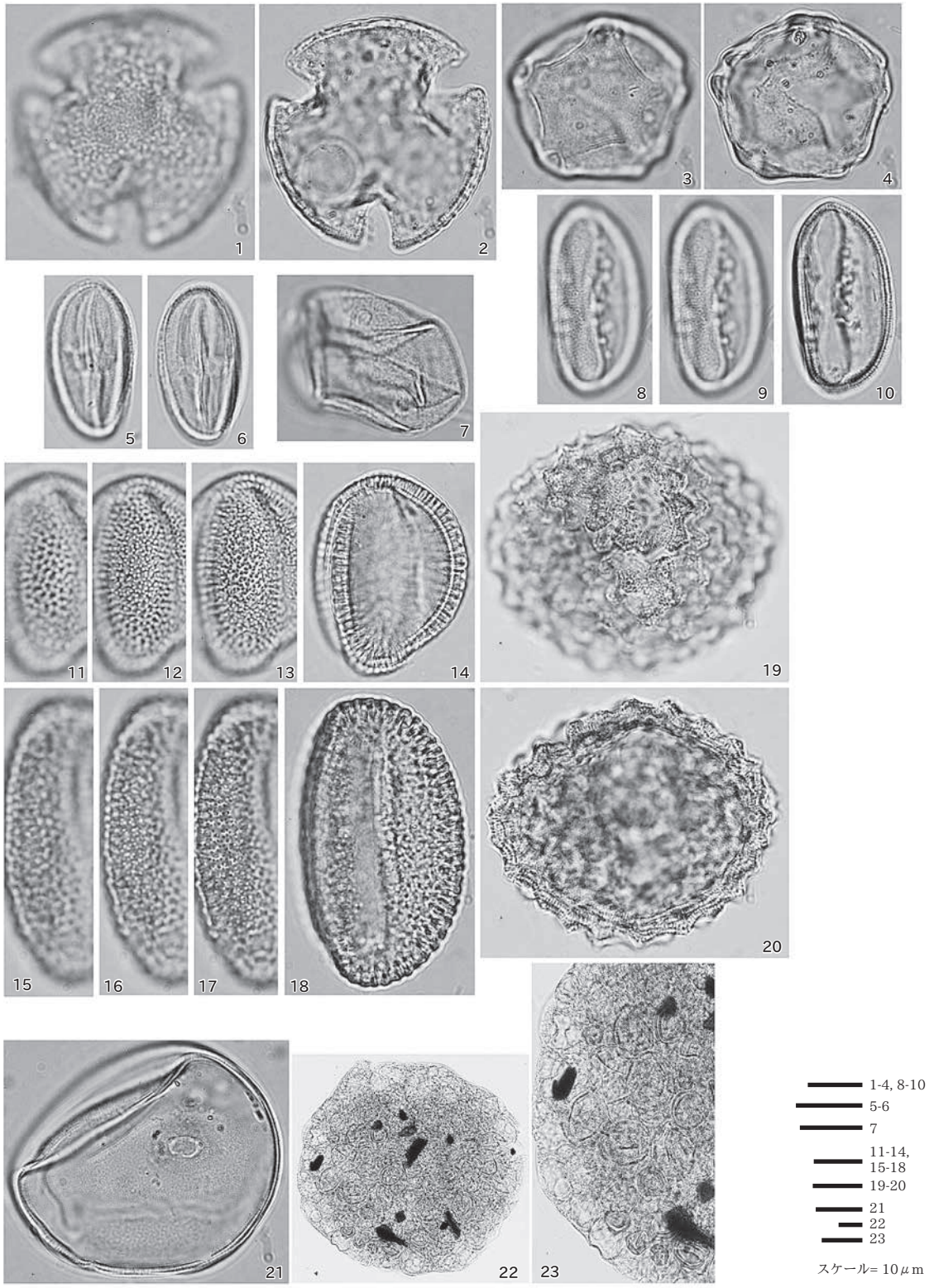
クリ（第 40 図 5・6）　花粉の形は極観は亜円形～円形、赤道観は長球形である。花粉型は 3 溝孔型からなる。発芽口は、外口は溝で両極近くまで長く延び、幅は狭い。内口は横長の孔である。外壁は外表層型で、外壁表面は光学顕微鏡では不明瞭なしわ状紋または平滑であり、シイノキ属のように鮮明な彫紋でない。

トチノキ（第 40 図 8 ～ 10）　花粉の形は極観は三角円形、赤道観は過長球形である。花粉型は 3 溝孔型からなる。発芽口は、花粉表面にある外口と内部の内口からなり、外口は溝で極方向に長く延び、溝内には微小突起がある。内口は孔で円形から楕円形である。外壁は外表層型で、外壁表面は縞模様が指紋状に配列する。

アサ近似種（第 40 図 7）　花粉型は頂口型の 3 孔型で、極観は亜円形、赤道観は楕円形である。孔は極方向にいく分延びる楕円形で周囲が肥厚して突出し口環を形成する。口環では有刻層が無刻層から分離して、空隙を形成している。外壁は外表層型であり、彫紋は微小な顆粒状紋である。図版に示した花粉は壁が薄くなり、折りたたまれた状況であるために正確な観察ができなかったが、花粉の大きさに比べ孔のサイズが小さいこと、外表層が内層の位置より下に極わずかに貫通していたことからアサ近似種とした。

アブラナ科（第 40 図 11 ～ 14）　花粉の形は極観は 3 裂円形か円形、赤道観は楕円形～円形である。花粉型は 3 溝型からなる。発芽口は、溝で両極近くまで長く延びる。外壁は半外表層型であり、外壁表面は網目状紋を呈する。網目の大きさは溝間域と溝縁であまり差がない。

ソバ属（第 40 図 15 ～ 18）　花粉の形は極観は三角円形、赤道観は長球形である。花粉型は 3 溝孔型か



1-2. コナラ亜属（SR2444-10c）
3-4. ハンノキ属（SD2000-1）
5-6. クリ（南側セクション No.5- Ⅳ）
7. アサ近似種（SD2000-1）
8-10. トチノキ（SD2000-2）
11-14. アブラナ科（SD2000-1）
15-18. ソバ属（SD2000-1）
19-20. ベニバナ属（SD2000-2）
21. イネ科（イネ型）（SD2000-1）
22-23. サンショウモ（SD2000-1）

第 40 図　出現した花粉化石

らなる。発芽口は、外口は溝で両極近くまで長く延び、幅は狭い。内口は横長の孔で、孔周辺の内層がわずかに肥厚する。外壁は外表層型であり、外壁表面は小穴状紋から網目状紋を呈する。網目は畝の上部が鋭頭になりすり鉢状に窪む。畝の真下には柱状層は分布しない。ソバは花糸より花柱が長い長花柱花の花粉は小さく、短花柱花の花粉は大きい。

イネ科（イネ属型）（第 40 図 21）　花粉の形は球状から長球状で、花粉型は単孔型である。外壁は外表層型であり、外壁表面は微粒状紋を呈する。イネ科は走査型電子顕微鏡の観察により外壁表面がⅠ型（微粒突起が点状に見える：トウモロコシ、ジュズダマなど）、Ⅱ型（3 個以上の微粒状突起が集合して島状となり溝網型に見える：ヨシ、カラスムギなど）、Ⅲ型（微粒状突起と島状突起が混在したⅠとⅡの中関型：イネ、マコモ）に区分されている［中村 1974・1980a・1980b、三好ほか 2011］。普通の光学顕微鏡による観察でも 3 つのタイプは見え方が僅かに異なることから、位相差像に比べ同定精度は落ちるがイネ科の出現傾向をみるためにⅡ型タイプ（イネ属型と呼ぶ）とその他に区分した。

D　考　　察

1）中世と縄文時代晩期の植生と生業

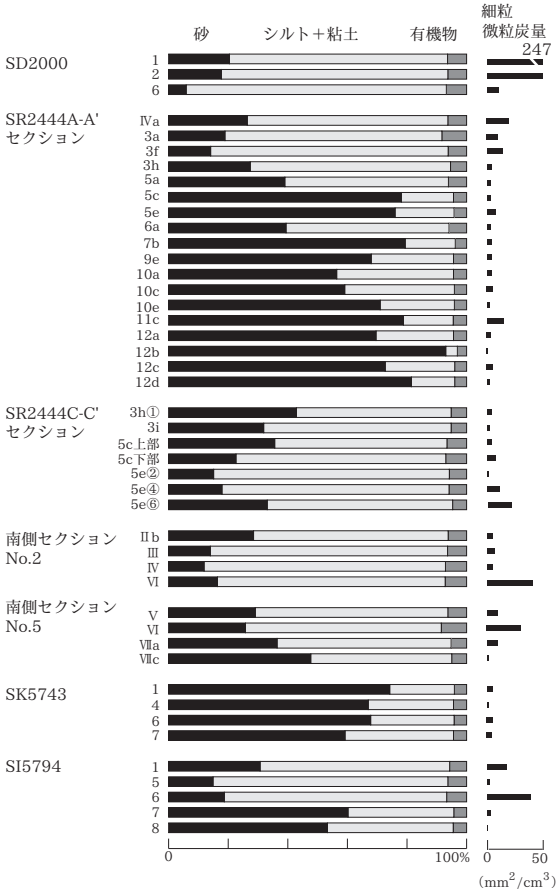
中世における周辺の植生は、自然堤防や周辺で樹木は稀で、草本を主とする植生が広がっていたと推測される。すなわち、中世の溝である SD2000 の 1 層から比較的多くの花粉が検出されたが、樹木花粉は低率であり、草本とシダ植物胞子を主とする。また、草本で多く出現したのはイネ属型やアブナラ科など栽培植物が含まれる分類群であり、僅かであるがソバ属やアサ近似種、さらに 2 層からベニバナ属などが出現している。こうしたことから、自然堤防ではアブラナ科（ダイコン、カブ、カラシナ、タカナなどが含まれる）や、ソバ、アサ、ベニバナなどが栽培され、低地では水田稲作が行われていたと推測される。また、ナデシコ科（ハコベ、ナデシコなどが含まれる）やアカザ科（アカザ、シロザなどが含まれる）－ヒユ科（イヌビユなどが含まれる）はシダ植物と伴に周辺に自生していたと推定される。一方で、樹木は低湿地にハンノキが分布し、自然堤防にはコナラ亜属が疎らに分布し、クリは散布範囲が狭いため少し離れた所に生育していた可能性があり、スギやマツは丘陵や山地からの飛来花粉と推定される。なお、ベニバナは、アラビアあるいはエチオピア付近が原産で日本では 6 世紀半ばとされる藤の木古墳の石棺内の赤色顔料から検出されており［御影 1994］、染料や食用油などとして利用される。

縄文時代晩期の植生に関する情報は少ないが、各地点から検出された花粉によると、ハンノキ属とコナラ亜属は検出された試料が多いことから、これら樹種が周辺に分布していたと考えられる。また、自然堤防の南側セクションからクリとクリ近似種が僅かに出現しており、クリ花粉の散布範囲が狭いことから［吉川 2011］周辺の自然堤防上に分布していたと考えられる。なお、青田遺跡［吉川 2004］における植生や生業の比較は、本遺跡から花粉が僅かしか検出されなかったことから検討できない。

2）出現した花粉化石が少ない要因

花粉化石が少なかった要因としては、堆積物の粒度組成に加え堆積速度も速かったと考えられる。分析試料の堆積物の粒度組成をみると、シルト質細～極粗粒砂または極細粒砂質シルトからなり、有機物量は少なく無機物を主体とする（第 41 図・第 14 表）。また、シルト以下の細粒成分は、粘土は少なく粗粒シルトを主とする。花粉は 16 μm 以下の微細粒子と挙動を共にし［松下 1988］、水中花粉の沈積は滞水域や比較的静穏な水域環境または懸濁流からの差別的沈降による［吉川・工藤 2014］。つまり、本遺跡の

堆積物は細粒シルト以下の微細粒子が乏しく、比較的淘汰の良い粗粒な粒子から構成されるため花粉量が少ないと推測される。一方で、SD2000 溝では 1 層よりも下位の 2 層や 6 層で堆積物が細粒になるものの花粉や胞子が少ない。これら試料間で花粉壁の保存状態に有意な差が認められないことから、2 層や 6 層は 1 層に比べ短期間に埋積したと考えられる。このように本遺跡の堆積物は花粉化石の挙動からみると粗粒であり、河川の運搬営力が強い環境にあったため花粉量が少なかったと考えられる。したがって、この地域では河川や自然堤防ではなく後背湿地の堆積物が分析に有効と考えられる。なお、後背湿地の場合は河川の上流域から搬入された花粉が多く含まれていることも想定されるため、複数の地点で調査して花粉化石群の組成を比較検討する必要がある。



第 41 図　花粉分析試料の堆積物の特徴と細粒微粒炭量

引用・参考文献

松下まり子　1982 「播磨灘表層堆積物の花粉分析－内海域における花粉・胞子の動態－」『第四紀研究』21　15-22 頁

御影雅幸　1994 『週間朝日百科植物の世界』1 号　23-25 頁

三好教夫・藤木利之・木村裕子　2011 『日本産花粉図鑑』824pp.　北海道大学出版会

中村　純　1974 「イネ科花粉について，特にイネ（Oryza sativa）を中心に」『第四紀研究』13　187-197 頁

中村　純　1980a 「日本産花粉の標徴Ⅱ」『大阪市立自然史博物館収蔵資料目録』第 12 集　157pp.　大阪市立自然科学博物　大阪

中村　純　1980b 「日本産花粉の標徴Ⅰ」『大阪市立自然史博物館収蔵資料目録』第 13 集　91pp.　大阪市立自然科学博物　大阪

吉川昌伸　2004 「青田遺跡における縄文時代晩期以降の花粉化石群」『青田遺跡』新潟県埋蔵文化財調査報告書　第 133 集　35-42 頁　新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団

吉川昌伸　2011 「クリ花粉の散布と三内丸山遺跡周辺における縄文時代のクリ林の分布状況」『植生史研究』18　65-76 頁

吉川昌伸・工藤雄一郎　2014 「下宅部遺跡の花粉と年代からみた縄文時代中期から晩期の植生史と植物利用」『国立歴史民俗博物館研究報告』第 187　163-188 頁

7　年輪酸素同位体比分析による境塚遺跡出土井戸材及び自然木の暦年代決定

木村勝彦・廣野友哉（福島大学）・佐野雅規（早稲田大学）・李　貞・中塚　武（総合地球環境学研究所）

A　は　じ　め　に

境塚遺跡から出土した中世の井戸材については幾つかの年輪年代学的分析が実施され［木村・荒木 2012、光谷 2012、木村 2016］、集落の変遷についての詳しい分析がなされている［荒川・村上ほか 2016］。本報告では 2015 年度発掘で出土した新たな井戸材および下層の縄文晩期層の自然木を対象に、年輪酸素同位体比分析［中塚 2012、中塚・佐野 2014］を適用した。

B　試　料　と　方　法

1）中世の井戸材

年輪分析試料は SE5126 の側板 2 点、SE5290 の側板 1 点、および SE5401 の側板 4 点で、いずれも埋文事業団で細長い棒状（厚さ 5mm、幅 5mm ～ 10mm 程度、長さ 10cm 程度）に切り出された。

2）縄文晩期の自然木

自然木試料は下層の縄文時代晩期の河川沿いから出土した 24 点で、埋文事業団で円盤状に切出された。

3）年　輪　計　測

井戸材はかなり小さく切出されたものであったため、水研ぎサンドペーパーを用いて慎重に木口面を研磨した。自然木も水研ぎサンドペーパーを用いて流水下で研磨し、大型のものについては水研ぎ電動サンダーを用いた。木口面が明瞭になった木材はフラットベッドスキャナの上に置き、ガラス面と試料の間に水を満たして 1200dpi ないしは 2400dpi の解像度でパソコンに画像を取り込んで、画像上で年輪幅を計測した。

4）安定同位体比分析

年輪酸素同位体比分析は Kagawa et al.［2015］の方法に従った。各試料について木口面を出した薄板を作成し、テフロンパンチングシートに挟んだ状態で、試験管内で亜塩素酸ナトリウム、アルカリ、有機溶媒の処理をおこなってαセルロースを抽出した。これを 1 年輪ごとに切り分けて銀箔に梱包し、TC/EA deltaV で酸素同位体比を測定した。

5）年　代　決　定

中世の井戸材の年代決定には木村［2016］の年代既知の境塚遺跡井戸材の酸素同位体比データに若干の追加試料の情報［木村ほか未発表］を加えた標準パタンを用いた。縄文晩期の自然木の年代決定には木村ほか［2012］の鳥海山、青田遺跡で作成したパタンを用いた。酸素同位体比変動の標準化と t 値による有意性の判断は Beillie and Pilcher［1973］を基準にしたが、標準化には 5 年移動平均との比ではなく

差を用いた。

C　結　　果

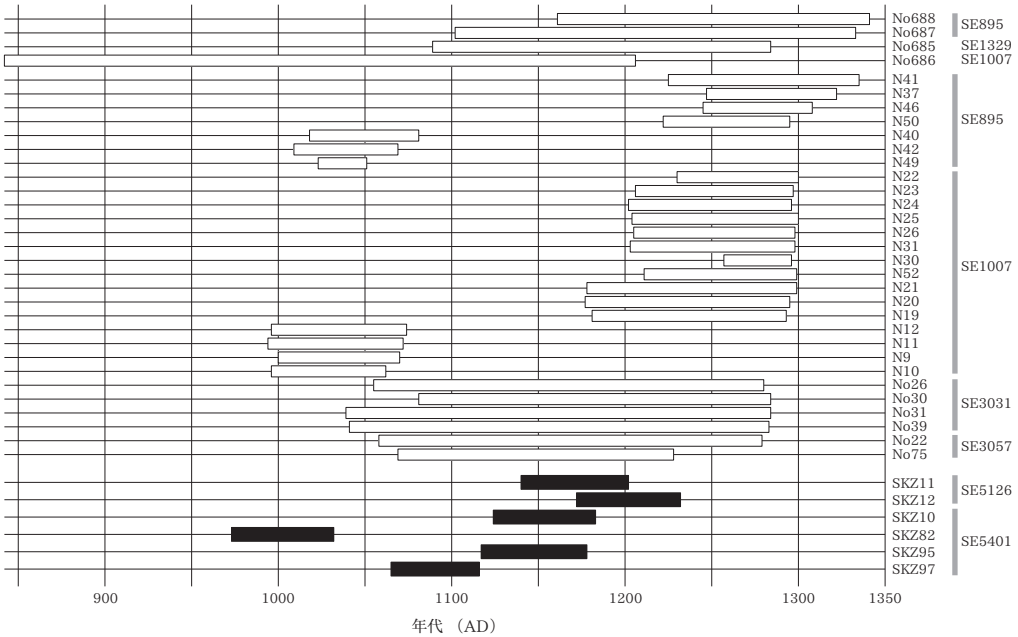
1）井戸材の年代

井戸材の年輪計測結果および年代決定の結果を第 17 表に示す。井戸材試料の平均年輪幅は 0.87 ～ 2.36mm で、今までに計測された境塚遺跡出土井戸側材［木村・荒木前掲］と違いは見られなかった。年輪数が25～64年と少ないため､年輪幅による年輪年代分析では年代決定をすることはできなかったが、酸素同位体比分析によって 7 点中 6 点の暦年代が決定できた。樹皮がないため、明確な構築年は議論できないが、SE5126 の 2 点が 13 世紀前半、SE5401 の 3 点は 12 世紀を示し、SE5401 のうち 1 点は 11 世紀始めの年代となった。

井戸材の年代をこれまでに年代の決まっていた境塚遺跡の井戸材［木村 2016］と合わせて図示した（第 42 図）。分析した 2 つの井戸 SE5126、SE5401 は今までに分析された SE895、SE1007、SE3031、SE3057 と比べてやや古い年代となった。境塚遺跡では木村・荒木［2012］により同一井戸を構成する材に古い材が含まれていることが示されているが、SE5401 の 1 点も同様の結果となり、古材の転用があることが示唆された。

報告No	出土遺構	遺物番号	樹種	試料年輪数	平均年輪幅mm	マスタとの相関		最外年輪の暦年代
						r	t	
	SE5126	SKZ11	スギ	64	1.55	0.778	9.18	1202
	SE5126	SKZ12	スギ	61	1.45	0.655	6.83	1232
345	SE5290	SKZ181	スギ	25	2.36			
	SE5401	SKZ10	スギ	60	1.12	0.737	8.23	1183
382	SE5401	SKZ82	スギ	60	0.93	0.805	10.23	1032
374-A	SE5401	SKZ95	スギ	62	0.87	0.779	9.23	1178
374-B	SE5401	SKZ97	スギ	52	1.61	0.76	8.27	1116

第 17 表　境塚遺跡出土井戸側材の年輪年代



第 42 図　境塚遺跡出土井戸材の年代

黒が新たに分析した試料、白は木村・荒木（2012）および木村（2016）での結果

2）自然木の年代

自然木は 24 点中 5 樹種 15 点について年輪幅の分析を実施した。枯死年を示す樹皮直下年輪のあるものはニレ属 1 点のみである。酸素同位体比分析はクリ 2 点、コナラ属 2 点、ニレ属 1 点の計 5 点について実施し、全ての暦年代を決定することができた（第 18 表）。5 点中 4 点は紀元前 6 世紀の縄文時代晩期

末の年代を示したが、No4 のクリだけ BC857 という古い年代となった。

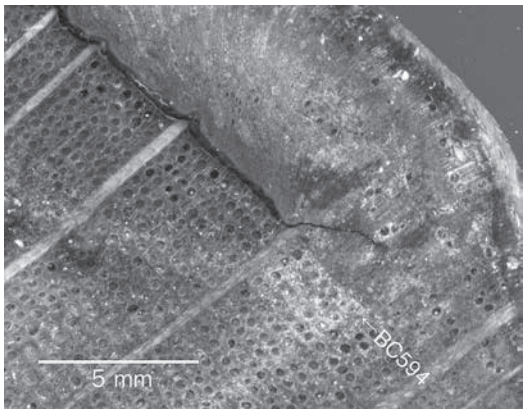
平均年輪幅でクリの成長を見ると、No4 のクリは 1.54mm という遅い成長をしているのに対して、年代の決まった No36 は 5.3mm という速い成長をしている。他のクリも 3-5mm で、青田遺跡の木柱のクリ［木村ほか 2004］と同程度の成長を示した。

No6 のニレ属は樹皮があり、枯死年を BC556 と決定できた。また、No50 および No58 のコナラ属は物理的なダメージによる傷とその後の巻き込みがみられ（第 43・44 図）、それぞれ BC594、BC531 と年代が決まった。第 45 図に年代の決まった縄文晩期の 4 個体の成長曲線を示した。この中では No36 のクリが際立って良い成長を示しているが、No36 の定着時期は No50 の傷の形成年の数年後で、洪水など何らかの撹乱後に成立したオープンな立地に定着成長した可能性がある。なお、成長速度は遅いが、No58 のコナラ属もほぼ同じ時期に定着している。No58 は顕著な傷と巻き込みを持ち、その発生年代の BC531 は青田遺跡のグループ 1 の建物群の柱材の伐採が集中する年代［木村ほか 2012］と重なった。

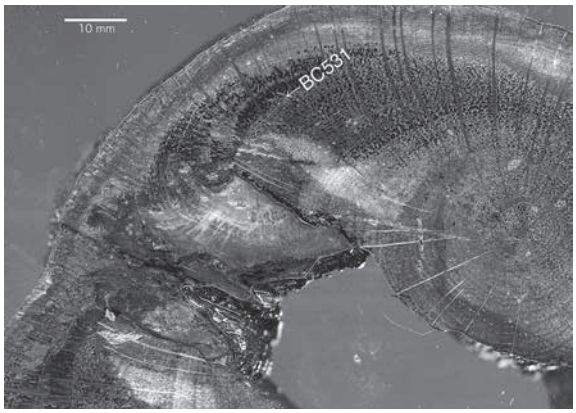
樹木の枯死や傷は何らかの災害イベントの発生を示している可能性があり、年代を確定しておくことは今後の時空間的な詳細な環境変動の解析を進めていく上で重要である。

番号	樹種	年輪数	平均年輪幅 mm	表層	中心	同位体比分析	表層の年代 BC	イベント年 BC/種類
1	モクレン属	57	3.29					
3	モクレン属	60	3.60		○			
4	クリ	73	1.54		○	○	857	
6	ニレ属	91	1.88	○	○	○	556	556/枯死
10	ニレ属	22	3.23		○			
34	コナラ属	46	1.13		○			
36	クリ	42	5.30		○	○	549	
38	クリ	20	3.26		○			
41	コナラ属	46	2.74		○			
50	コナラ属	95	0.96			○	594	594/傷
51	ブナ属	78	1.23		○			
52	ブナ属	135	1.37		○			
58	コナラ属	70	0.85		○	○	526	531/傷
63	クリ	25	4.21		○			
75	コナラ属	78	1.11		○			

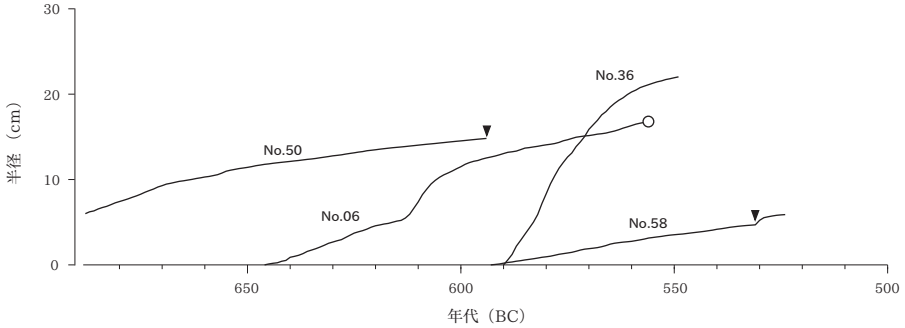
第 18 表　境塚遺跡出土自然木の年輪計測値と年代



第 43 図　No50 コナラ属の傷・巻き込み



第 44 図　No58 コナラ属の傷・巻き込み



第 45 図　暦年代の決まった縄文晩期の自然木 4 個体の成長曲線
▼は傷、○は枯死年を示す

引用・参考文献

Baillie MGL and Pilcher JR　1973　A simple cross-dating program for tree-ring research. Tree-Ring Bulletin 33: 7-14.

Kagawa, A., Sano, M., Nakatsuka, T.,　2015　An optimized method for stable isotope analysis of tree rings by extracting cellulose directly from cross-sectional laths. Chemical Geology, 393-394, 16-25.

荒川隆史・村上章久ほか　2016 『境塚遺跡Ⅱ』新潟県埋蔵文化財調査報告書第 262 集　新潟県教育委員会・公益財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団

木村勝彦・斉藤智治・中村俊夫　2004 「青田遺跡における木柱の年輪年代解析による建物群の年代関係の検討」『青田遺跡』関連諸科学・写真図版編 165-176 頁　新潟県埋蔵文化財調査報告書第 133 集　新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団

木村勝彦・荒川隆史・中塚　武　2012 「鳥海山の神代杉による縄文晩期をカバーする年輪酸素同位体比の物差しの作成と実際の適用例」『日本植生史学会大会第 27 回公演要旨集』

木村勝彦・荒木里菜　2012 「境塚遺跡出土井戸材の年輪解析」『境塚遺跡』90-96 頁　新潟県埋蔵文化財調査報告書第 232 集　新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団

木村勝彦　2016 「境塚遺跡出土木材の年輪年代」『境塚遺跡Ⅱ』80-82 頁　新潟県埋蔵文化財調査報告書第 262 集　新潟県教育委員会・公益財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団

光谷拓実　2012 「境塚遺跡出土の 6 点の曲物年輪年代」『境塚遺跡』89-90 頁　新潟県埋蔵文化財調査報告書第 232 集　新潟県教育委員会・公益財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業

中塚　武　2012 「気候変動と歴史学」『環境の日本史①　日本史と環境－人と自然』（平川　南編）38-70 頁　吉川弘文館

中塚　武・佐野雅規　2014 「酸素同位体比を用いた新しい木材年輪年代法」『月刊地球号外』63　第四紀研究における年代測定法の新展開：最近 10 年間の進展－(Ⅲ)相対年代と古環境の高精度復元（山田和芳・下岡順直・奥野充編）106-113 頁　海洋出版

第Ⅶ章　ま　と　め

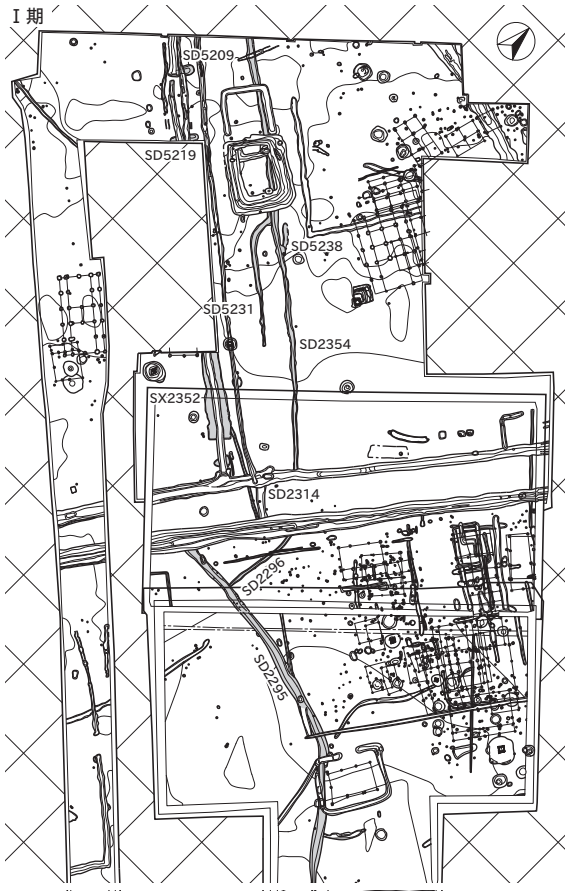
1　遺構の変遷

境塚遺跡は2009年度にD区、2014年度にE区を調査しており、調査の結果、道1及びその南東側に集落が形成されていることを確認した。その変遷については、Ⅰ期－道1構築以前の時期、Ⅱ期－道1が機能していた時期、Ⅲ期－道1が廃絶した時期の3期を設定し、Ⅱ期については道1に4段階の変遷が認められることなどからⅡ－1・Ⅱ－2・Ⅱ－3a・Ⅱ－3b期に細分されている［村上2012d、荒川・村上2016］。今回調査したH・I区はD区の北西側に隣接しており、調査の結果、道1の北西側に道2と新たな集落を確認した。以下、今回の調査成果を加味した上で上記の変遷に準じた遺構変遷を述べる。

1）Ⅰ　　期（第46図）

D・E区では調査区南西側に位置する溝（SD2295・2296・2314・2354）や性格不明遺構（SX2352）等が当該期の遺構として位置づけられる［荒川・村上前掲］。

H区ではSD2354・SX2352の続きを検出しており、ほかにはSD2354に切られるSD5231・5238や道2の側溝（SD2334）などに切られるSD5209･5219がⅠ期の遺構と考えられる。これらの遺構はD･E区に位置するSD2295・2296とは異なり、道1・2の主軸方向とほぼ一致する。そのため道1・2が構築される直前に形成された可能性があり、SD2295・2296とは時期差があると推測する。



第46図　D・E・H・I区遺構変遷（1）（S＝1/1,200）

2）Ⅱ　　期（第47図）

道1・2が構築され、それに沿った集落が形成される時期である。［荒川・村上前掲］では道1に3回の掘り直しが認められることから、古いものからⅡ－1期：SD2000C－SD2001C、Ⅱ－2期：SD2000B－SD2001B、Ⅱ－3期：SD2000A－SD2001Aに区分し、Ⅱ－3期は道2が存続するⅡ－3a期、道2が廃絶するⅡ－3b期に細分している。以下、上記の変遷案に沿った遺構変遷について述べることとする。

Ⅱ－1期

道1が構築された一番古い段階で、側溝は南東側のSD2000C－SD2001Cである。D・E区では道1の東側に位置する掘立柱建物群

（SB28・30・32・35・36・44）がこの段階と考えられている［荒川・村上前掲］。

H・I区では道2が構築されていないこともあり、建物等の本格的な集落は形成されていないと推測できる。しかし、道2に切られている井戸（SE5126）や土坑（SK5225）はこの段階に属する可能性があり、道1の北西側でも何らかの活動が行われていたと考えられる。

Ⅱ－2期

道1は2回目の掘り返しが行われ、側溝の中央～北西側にSD2000B－SD2001Bとして存続する。また道2が構築されたのはこの段階で、D・E区では道1の東側に位置する掘立柱建物群（SB27・29・33・37・39・40・41・42・46・47）がこの段階と考えられている［荒川・村上前掲］。

H・I区では道2の構築に伴い、方形周溝状遺構や掘立柱建物等からなる本格的な集落が形成されたものと推測される。

方形周溝状遺構は3回の掘り直しが行われており、古い順からSD5260C → 5260B → 5260Aの変遷が考えられる。このうちSD5260Bが道2の主軸方向（N-50 ～ 52°-W）とほぼ一致しており、この段階に位置づけられる。SD5260に近接し、主軸もしくはそれに直交する方向が一致するSD5259・5261も同様である。またSD5260Cの主軸方向はN-62°-Wを測り、道2とは異なっている。ただD・E区における掘立柱建物（SB37・39 ～ 42・46）の主軸方向はN-59 ～ 63°-Wであり、SD5260Cのそれに一致する。ゆえにSD5260Cの上限はⅡ－2期に収まるものと考えられる。

H区の掘立柱建物のうちSB51 ～ 56は、主軸もしくはそれに直交する方向が、D・E区における掘立柱建物と一致する。さらに柱穴の切り合い関係からSB52・54 → SB51・53・55の新旧関係が確認できるため、古いSB52･54がこの段階に位置づけられる。またI区の掘立柱建物SB57は主軸方向がN-49°-Wを測る。これはD区の掘立柱建物SB33とほぼ一致しており、この段階の可能性がある。

Ⅱ－3a期

道1は3回目の掘り返しが行われ、側溝の中央～北西側にSD2000A－SD2001Aとして存続する。道2は前段階に引き続き存続しており、D・E区では道1の東側に位置する掘立柱建物群（SB26・31・38）がこの段階と考えられている［荒川・村上前掲］。

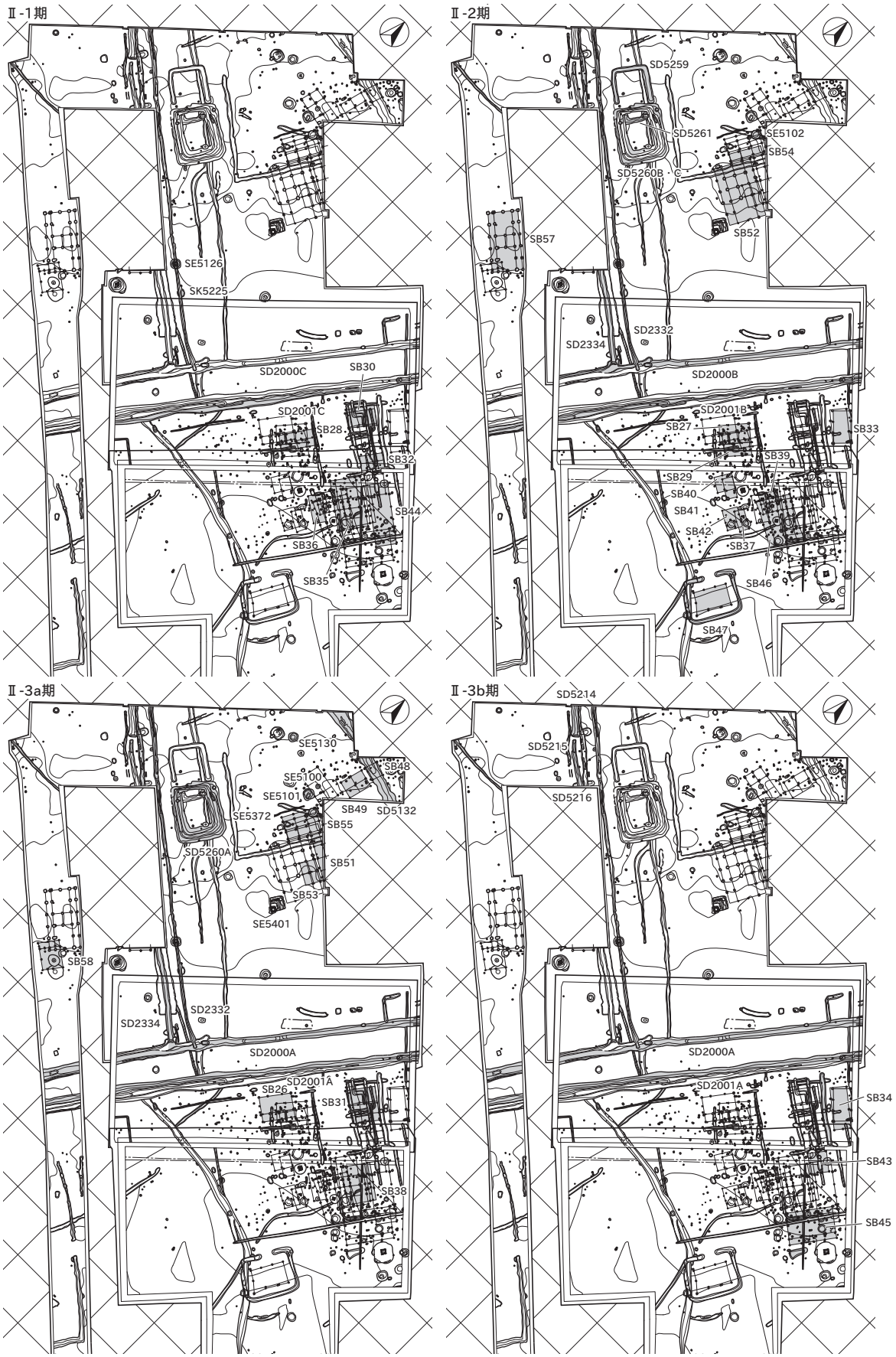
H・I区では道2が存続していることから、集落は存続していたものと推測される。方形周溝状遺構は3回目の掘り直しが行われ、SD5260Aとして存続していたものと考えられる。そのSD5260Aから出土した珠洲焼片口鉢がSE5100・5101・5130、SD5132、珠洲焼甕がSE5401から出土したものとそれぞれ接合した。これらの遺構は覆土の堆積状況等から人為的に埋め戻されたものと考えられ、出土遺物は遺構の廃絶に伴いほぼ同時期に廃棄された可能性が高い。そのため上記の遺構はほぼ同時期に存在していたものと推定される。

H区の掘立柱建物のうちSB48・49はSD5132に近接し、主軸もしくはそれに直交する方向もSD5132と一致する。またSB51・53・55は柱穴の切り合い関係からSB52・54より新しいと考えられるため、この段階に位置づけられる。またI区の掘立柱建物SB58は主軸方向がN-53°-Wを測る。これはE区の掘立柱建物SB38とほぼ一致しており、この段階に位置づけられる可能性がある。

Ⅱ－3b期

道1はSD2000A－SD2001Aとして存続しているが、道2が廃絶された段階である。D・E区では道1の東側に位置する掘立柱建物群（SB34・43・45）がこの段階と考えられている［荒川・村上前掲］。

H・I区では道2の廃絶に伴い、集落も廃絶されたものと推測できる。道2を切る溝（SD5214 ～ 5216）



第 47 図　D・E・H・I 区遺構変遷（2）（S = 1/1,200）

はこの段階に属するものと考えられる。主軸方向が道２とほぼ一致するため、道２廃絶直後に構築された可能性が高い。

3）Ⅲ　　期

道１が廃絶した以後の時期である。D 区では道１を切って構築される墓もしくは埋葬関連施設と見られる土坑や主軸方向が一致しない溝などがこの段階と考えられている［荒川・村上前掲］。

H・I 区では上記の墓もしくは埋葬関連施設と見られる土坑と平面形が類似し、焼成の痕跡が見られる SK5149 がある。しかしこれらの土坑から骨は検出されず、墓もしくは埋葬関連施設とは断定できない。また切り合い関係などから遺構の時期を特定することはできなかった。ゆえに H・I 区ではこの時期に明確に属する遺構を見つけることはできなかった。

2 総　　括

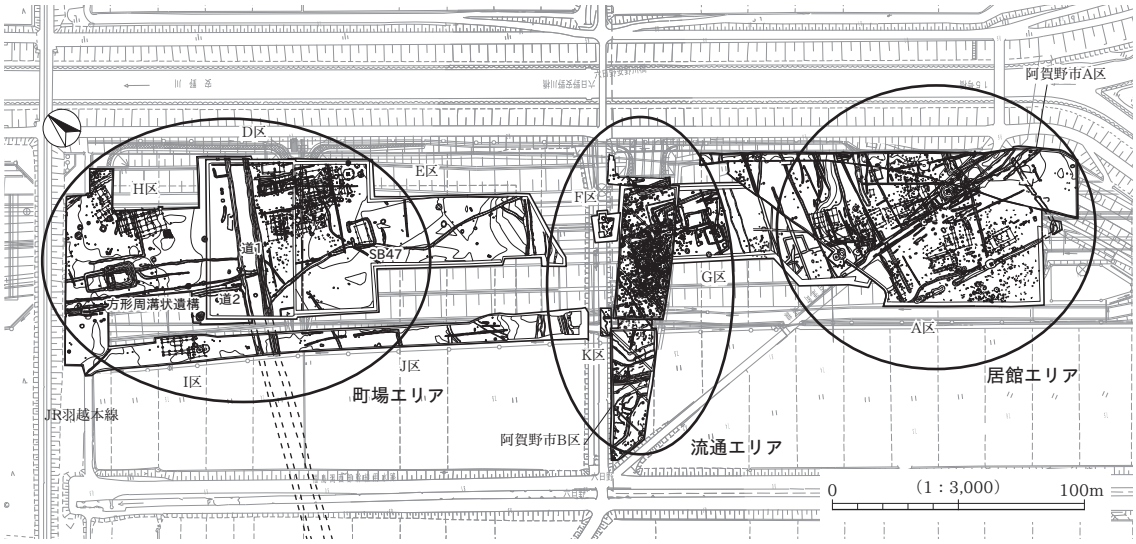
A 中　　世

遺跡は、阿賀野川の旧河道右岸に形成された標高約 7.5m の自然堤防上に立地している。遺跡内には北東－北西方向の中世～昭和初期まで流れていた河川の流路があり、この両岸の高位面に中世の遺構は分布している。

調査では、道１の北西側にも建物群が配されていることが明らかになった。大型の二面廂付梁間一間型建物 SB52 を含む建物群は、方形竪穴遺構（SK5400）、井戸などが付随し居住施設の可能性が高い。井戸のうち SE5102・SE5129 は大量の土師質土器皿・小皿が廃棄されており、宴会儀礼もしくは煤が付着し灯明皿として使われていたものも多いことから祭祀儀礼が行われていたのではないかと考える。

道１から西側に枝分かれした道２は、JR 羽越本線を挟み山口野中遺跡でもこの延長が検出されている［小野本ほか 2016］。道２はⅡ－２期に構築され、Ⅱ－3a 期まで機能していたとし、その時期は 13 世紀後半～ 14 世紀前半である［村上 2016］。道２に沿って方形周溝状遺構（SD5260）がある。周溝は道２と同時期に築かれた可能性があり、３回の掘り直しが行われている。方形周溝状遺構の性格について若干触れる。道１を挟み南東向かい側でもコの字に溝で囲まれた建物（SB47）が存在する（第 48 図）。道１と道２の交差点からお互い約 50ｍの所に位置している。二つの道が十字形に交差しているところは「辻」と呼ばれ、古来、神や霊が出現する特殊な区間とされ厄病を防ぐためにお堂や社が置かれ道祖神などを祀る信仰がある。立地から見て方形周溝状遺構や溝に囲まれた建物は、神を祀った祭場あるいはお堂などの宗教施設ではなかったかと推測する。

次に井戸側縦板の放射性年代測定及び年輪年代測定を行った SE5126・SE5290・SE5401 の年代について検討する。放射性年代測定では、樹皮が残存しない試料であったことから、古木効果により、使用年代（伐採年代）よりも古い年代を示すことから SE5126 が 11 世紀前半～ 12 世紀後半頃、SE5290 が 11 世紀中頃～ 13 世紀前半頃、SE5401 が 11 世紀中頃～ 13 世紀中頃に推定された。年輪年代の分析も樹皮がないため、明確な構築年を示すものでないが SE5126 の２点が 13 世紀前半、SE5401 の３点は 12 世紀を示し、SE5401 のうち１点は 11 世紀始めに推定された。井戸から出土した遺物は構築年代を示すものではないが、SE5126 は井戸側埋土から出土した 56 のロクロ糸切り小皿が 13 世紀後半～ 14 世紀前半、SE5290 は井戸側埋土から出土した 167 の片口鉢が珠洲焼編年Ⅲ期、井戸掘方埋土から出土した



第 48 図　中世遺構全体図

169 の口禿白磁皿が 13 世紀後半～ 14 世紀前半、SE5401 は井戸側埋土から出土した 8 の珠洲焼甕が珠洲焼編年Ⅲ期で 13 世紀後半で、出土遺物から見た時期は道 2 が構築されたⅡ－2 ～Ⅱ－3 期となる。年代測定がより古い年代を示すことは、古材の井戸側への利用を反映している可能性がある。

これまでの調査成果から中世の境塚遺跡は、道 1 に沿って建物群が立ち並ぶ範囲を町場エリア、旧河道東側の遺構が密集する範囲は瓷器系陶器、瀬戸・美濃焼の比率が高く、流通品の奈良火鉢などがあることから流通エリア、一辺約 63m 方形の堀に囲まれた建物群の範囲を居館エリアと仮称し（第 48 図）、13 世紀後半の道 1 の構築を契機に町場エリア・流通エリア・居住エリアの整備が進められ、大規模な幹線道路を利用した陸上交通と阿賀野川を利用した河川交通の結節点に成立した町と考えらている［荒川 2016d］。町場エリアは 14 世紀後半には衰退するが、流通エリア・居館エリアは 15 世紀後半まで継続する。

遺跡は 1134（長承 3）年に成立した白河荘の荘域にある。源平争乱後、伊豆国田方郡大見郷の大見一族が同地の地頭職を得て拠点とした。13 世紀後半に白河荘山浦四箇条・水原条・船江条の地頭職であった大見行定は、1283（弘安 6）年に子の大見家綱に水原条・船江条を譲っている（大見水原氏文書 7 号）［前嶋 2008、高橋 2008］。町の発展はこの時期にあたり、鎌倉期の領主層が関与した集落の姿を物語っている。

B　縄　文　時　代

古阿賀野川と推定される SR2444 の岸辺で、竪穴建物、掘立柱建物、炭化物集中範囲など小規模な遺構を検出した。標高は約 6.8ｍで SR2444 に向かって緩やかに傾斜する。時期は縄文時代晩期後葉の鳥屋 2a 式～緒立 1a 式併行期である。隣接する山口野中遺跡で同時期の埋設土器、堅果類（トチノキ・オニグルミ・クリなど）・魚類（コイ科・アユ属・サケ属など）の食物残滓を燃焼した焼土・炭化物の集積遺構が多く見つかっており［村上ほか 2015］、当遺跡は山口野中遺跡など周辺に拠点を持つ集団の断続的な生業活動の結果と考えられる。

引用・参考文献

秋山泰利ほか 2016 『新潟県文化財調査報告書 第263集 新町遺跡』 新潟県教育委員会・(公財) 新潟県埋蔵文化財調査事業団

荒川隆史 2007 「阿賀北・大坪遺跡－中世初頭の居館跡－」『御館の時代－十二世紀の越後・会津・奥羽－』 高志書院

荒川隆史 2012a 「第Ⅱ章1 地理的環境」『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第232集 境塚遺跡』 新潟県教育委員会・(財) 新潟県埋蔵文化財調査事業団

荒川隆史 2012b 「第Ⅱ章2 歴史的環境」『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第232集 境塚遺跡』 新潟県教育委員会・(財) 新潟県埋蔵文化財調査事業団

荒川隆史 2016a 「第Ⅱ章1 地理的環境」『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第262集 境塚遺跡Ⅱ』 新潟県教育委員会・(公財) 新潟県埋蔵文化財調査事業団

荒川隆史 2016b 「第Ⅱ章2 歴史的環境」『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第262集 境塚遺跡Ⅱ』 新潟県教育委員会・(公財) 新潟県埋蔵文化財調査事業団

荒川隆史 2016c 「第Ⅳ章3A 土器4) 中世 」『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第262集 境塚遺跡Ⅱ』 新潟県教育委員会・(公財) 新潟県埋蔵文化財調査事業団

荒川隆史 2016d 「阿賀野市 境塚遺跡」『新潟県考古学会 第28回大会研究発表会要旨』 新潟県考古会

荒川隆史・加藤 学 1999 『新潟県文化財調査報告書 第93集 和泉A遺跡』 新潟県教育委員会・(財) 新潟県埋蔵文化財調査事業団

荒川隆史ほか 2004 『新潟県文化財調査報告書 第133集 青田遺跡』 新潟県教育委員会・(財) 新潟県埋蔵文化財調査事業団

荒川隆史ほか 2006 『新潟県文化財調査報告書 第153集 大坪遺跡』 新潟県教育委員会・(財) 新潟県埋蔵文化財調査事業団

荒川隆史ほか 2012 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第232集 境塚遺跡』 新潟県教育委員会・(財) 新潟県埋蔵文化財調査事業団

荒川隆史ほか 2016 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第262集 境塚遺跡Ⅱ』 新潟県教育委員会・(公財) 新潟県埋蔵文化財調査事業団

荒川隆史･村上章久 2016 「第Ⅷ章1 D・E区の遺構変遷」『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第262集 境塚遺跡Ⅱ』 新潟県教育委員会・(公財) 新潟県埋蔵文化財調査事業団

荒谷伸郎ほか 2010 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第215集 山口遺跡』 新潟県教育委員会・(財) 新潟県埋蔵文化財調査事業団

石垣義則・佐藤 俊 2014 「第Ⅴ章1 C石製品」『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第247集 小船渡遺跡』 新潟県教育委員会・(財) 新潟県埋蔵文化財調査事業団

石川日出志ほか 1992 『六野瀬遺跡』 新潟県安田町教育委員会

上田秀夫 1982 「14～16世紀の青磁碗の分類について」『貿易陶磁研究』第2号 日本貿易陶磁研究会

宇野隆夫 1982 「井戸考」『史林』第65巻第55号 史学研究会

大矢雅彦・加藤康彦 1984 『阿賀野川水害地形分類図説明書』 建設省北陸地方建設局阿賀野川工事事務所

小田由美子 1999 「第5章 第3節 五頭山麓古窯跡群」『新潟県の考古学』 新潟県考古学会編

小田由美子ほか 2001 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第99集 堀越館跡』 新潟県教育委員会・(財) 新潟県埋蔵文化財調査事業団

小田由美子ほか 2002 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第117集 赤坂山中世窯跡・赤坂山B遺跡』 新潟県教育委員会・(財) 新潟県埋蔵文化財調査事業団

小野木 学 2017 「岐阜県の一括出土銭＜資料集成＞」『研究紀要』第3号 岐阜県文化財保護センター

小野本　敦ほか　2016　『新潟県文化財調査報告書　第 266 集　山口野中遺跡Ⅲ』　新潟県教育委員会・（公財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
小野本　敦ほか　2017　『新潟県文化財調査報告書　第 270 集　柄目木遺跡Ⅲ』　新潟県教育委員会・（公財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
加藤　学　　2016　「石船戸東遺跡」『新潟県埋蔵文化財調査事業団年報』（公財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
加藤　学ほか　2010　『新潟県埋蔵文化財調査報告書　第 223 集　村前東 A 遺跡・村前東 B 遺跡』　新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
加藤　学ほか　2013　『新潟県埋蔵文化財調査報告書　第 237 集　柄目木遺跡Ⅱ』　新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
金内　元　　2005　「第Ⅲ章 3C　2）埋納銭」『新潟県埋蔵文化財調査報告書　第 140 集　東原町遺跡･下沖北遺跡Ⅱ』　新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
金内　元　　2010　「第Ⅶ章 5　SE916 出土多字一石経について」『新潟県埋蔵文化財調査報告書　第 210 集　荒町南新田遺跡』　新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
川上貞雄　　1977　『水原城館址及水原代官所址発掘調査報告書』　新潟県水原町教育委員会
川上貞雄　　1979a　『上野林丘陵埋蔵文化財調査報告書Ⅰ　横峯経塚群』　新潟県安田町教育委員会
喜多方市教育委員会　2008　『会津新宮城跡発掘調査報告書』
小松　彰ほか　1995　『新潟県歴史の道調査報告書　第三国街道中通り』　新潟県教育委員会
小山正忠・竹原秀雄　2004　『新版標準土色帖』　日本色研事業株式会社
坂井秀弥　　1997　「中世集落の展開と城館の動向」『中・近世の北陸－考古学が語る社会史－』　桂書房
佐藤友子ほか　2009　『新潟県埋蔵文化財調査報告書　第 203 集　庚塚遺跡・狐塚遺跡』　新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
佐藤友子ほか　2010　『新潟県埋蔵文化財調査報告書　第 216 集　柄目木遺跡Ⅰ』　新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
佐藤友子ほか　2017　「土橋北遺跡」『現地説明会資料』（公財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
新発田古地図等刊行会　1976　『正保四年　新発田領絵図』
鈴木郁夫　　1993　「阿賀野川右岸の沖積面に残る旧流路」『続・新潟のすぐれた自然』自然　地形・地質編　新潟県環境保健部環境保全課
鈴木公雄　　1999　『出土銭貨の研究』　東京大学出版会
髙橋一樹　　2008　「大見水原氏文書七　関東下知状」『新潟大学大域プロジェクト研究資料叢刊Ⅺ　越後文書宝翰集　大見安田・水原氏文書』　矢田俊文・新潟歴史博物館編
高橋　保ほか　2006　『新潟県埋蔵文化財調査報告書　第 157 集　住吉遺跡』　新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
高橋保雄ほか　2006　『新潟県埋蔵文化財調査報告書　第 172 集　鴨深甲遺跡』　新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
田村　裕　　2004　「中世第 3 章　南北朝・室町前期の白河荘」『笹神村史』　通史編　新潟県笹神村
立木宏明ほか　2014　『細池寺道上遺跡Ⅲ　第 26 次調査』　新潟県新潟市教育委員会
鶴巻康志　　2005　「新潟県北部の中世陶器窯」『全国シンポジウム　中世窯業の諸相～生産技術の展開と編年～』資料集
永井久美男　2002　『中世出土銭の分類図版』　高志書院
中川成夫　　1959　「笹神村権兵衛沢窯址の調査」『水原郷』　新潟県教育委員会
中川成夫ほか　1970　「越後華報寺中世墓址群の調査」『史苑』20-2
中野豈任　　1976　「白河荘について」『社会科研究』第 12 集　新潟県高等学校教育研究会社会科部会
奈良国立文化財研究所　1985　『木器集成図録』　近畿古代篇
成田圀之　　2000　「百津潟を捜し求めて」『水原郷土資料』第 28 集　新潟県水原町教育委員会
西村　歩　　1994　「曲物の細部技法－綴じ方を中心として－」『文化財学論集』　文化財学論刊行会

橋本正博　2003　「第Ⅶ章　木製品」『八日市地方遺跡Ⅰ（第２分冊　遺跡報告編）』　石川県小松市教育委員会

樋口真己　2004　「中世第１章　白河荘の成立と城氏の展開」「中世第２章　鎌倉期の白河荘」『笹神村史』通史編　新潟県笹神村

藤澤良祐　1982　「古瀬戸中期様式の成立過程」『東洋陶磁』第８号　東洋陶磁学会

藤澤良祐　1991　「瀬戸古窯址群Ⅱ－古瀬戸後期様式の編年－」『瀬戸市歴史民俗資料館紀要』Ｘ　瀬戸市歴史民俗資料館

藤澤良祐　1995　「瀬戸古窯址群Ⅲ－古瀬戸前期様式の編年－」『瀬戸市埋蔵文化財センター　研究紀要』第３輯　（財）瀬戸市埋蔵文化財センター

藤田正義　1997　『安田町史』中世編　新潟県安田町教育委員会

古澤妥史　2002　『京ヶ瀬村埋蔵文化財発掘調査報告書　第１集　町道上遺跡』　新潟県京ヶ瀬村教育委員会

古澤妥史　2005　『阿賀野市埋蔵文化財発掘調査報告書　第１集　土居内西遺跡』　新潟県阿賀野市教育委員会

古澤妥史ほか　2011　『阿賀野市埋蔵文化財発掘調査報告書　第４集　境塚遺跡・山口野中遺跡・三辺稲荷遺跡』　新潟県阿賀野市教育委員会

前田　敏　2008　「大見安田・水原氏と大見安田・水原文書」『新潟大学大域プロジェクト研究資料叢刊Ⅺ　越後文書宝翰集　大見安田・水原氏文書』　矢田俊文・新潟歴史博物館編

前嶋　敏　2010　「第Ⅶ章４　SE916 出土多字一石経の釈文」『新潟県埋蔵文化財調査報告書　第 210 集　荒町南新田遺跡』　新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団

水澤幸一　2002　「阿賀北の中世石佛」『新潟考古』第 13 号　新潟県考古学会

水澤幸一　2004　「折縁杯・蓋」『越後阿賀北地域の古代土器様相』　新潟古代土器研究会

水澤幸一　2005　「越後の中世土器」『新潟考古』第 16 号　新潟県考古学会

宮本長二郎　1999　「日本中世住居の形成と発展」『建築史の空間』　中央公論美術出版

宮本長二郎　2001　「中世集落遺跡　建築遺構のまとめ方」『掘立と竪穴』　高志書院

村上章久　2012a　「第Ⅳ章２　Ｅ土坑」『新潟県埋蔵文化財調査報告書　第 232 集　境塚遺跡』　新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団

村上章久　2012b　「第Ⅳ章２　Ｆ道」『新潟県埋蔵文化財調査報告書　第 232 集　境塚遺跡』　新潟県教育委員会･（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団

村上章久　2012c　「第Ⅴ章４　Ａ遺構」『新潟県埋蔵文化財調査報告書　第 232 集　境塚遺跡』　新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団

村上章久　2012d　「第Ⅶ章２　Ａ遺構の変遷」『新潟県埋蔵文化財調査報告書　第 232 集　境塚遺跡』　新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団

村上章久　2015　「第Ⅳ章４　Ｃ焼土･炭化物の集積」『新潟県埋蔵文化財調査報告書　第 258 集　山口野中遺跡Ⅱ』　新潟県教育委員会・（公財）新潟県埋蔵文化財調査事業団

村上章久ほか　2013　『新潟県埋蔵文化財調査報告書　第 248 集　山口野中遺跡』　新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団

村上章久ほか　2015　『新潟県埋蔵文化財調査報告書　第 258 集　山口野中遺跡Ⅱ』　新潟県教育委員会・（公財）新潟県埋蔵文化財調査事業団

森田　勉　1982　「14 ～ 16 世紀の白磁の型式分類と編年」『貿易陶磁研究』第２号　日本貿易陶磁研究会

山本信夫　2000　『大宰府条坊跡ⅩⅤ －陶磁器分類編－』　太宰府市教育委員会

吉岡康暢　1994　『中世須恵器の研究』　吉川弘文館

吉岡康暢　2003　「珠洲焼概論」『平成 15 年度埋蔵文化財専門職員実務研修「講義」・「事例報告」資料集』　新潟県教育長文化行政課

中世　掘立柱建物（SB）観察表

遺構番号	形式	グリッド	梁行（間）	桁行（間）	梁行長（m）	身舎梁行長（m）	梁行柱間長（m）	梁行下屋長（m）	桁行長（m）	身舎桁行長（m）	桁行柱間長（m）	主軸方向	身舎（㎡）	面積（㎡）	変遷時期
48	梁間一間型建物	8・9D	1	1	2.80				2.96			N-75˚-W		8.52	Ⅱ-3a
49	総柱型建物	8・9D・E	2	2	3.84		2.00～1.84		5.00		2.40～2.60	N-14˚-W		19.20	Ⅱ-3a
50	総柱型建物	8E	2	3	4.00		2.08～1.84		7.36		2.80～2.16	N-79˚-W		30.03	
51	総柱型建物	9F、9・10G	(2)	(4)	(1.80)		1.80～1.76		(9.80)		2.64～2.16	N-60˚-W		(17.64)	Ⅱ-3a
52	二面下屋付総柱型建物	8・9F、8～10G	4	5	7.92	4.56	2.40～2.08	1.76～1.68	12.20	12.20～12.08	2.48～2.40	N-60˚-W	55.63	96.62	Ⅱ-2
53	総柱型建物	9F・G	2	2	3.36		(1.72)～1.68		4.80		2.44～(2.28)	N-60˚-W		16.32	Ⅱ-3a
54	梁間一間型建物	8・9F	1	3	1.76		1.76		6.80		2.56～2.00	N-31˚-E		12.04	Ⅱ-2
55	一面下屋付総柱型建物	8・9F	3	3	4.76	3.76	1.92～1.76	1.00	7.34	7.28～7.16	2.48～2.32	N-31˚-E	27.37	34.94	Ⅱ-3a
56	不明	8・9F	2	－	4.24		2.16～2.08					N-61˚-W		－	
57	二面下屋付梁間一間型建物	6J、6・7K・L	4	5	6.40	3.92	2.00～1.80	1.32～1.20	12.36	12.32～12.28	2.52～2.40	N-49˚-W	48.29	79.10	Ⅱ-2
58	一面下屋付梁間一間型建物	6・7K・L	2	3	4.32	4.32	2.20～2.08	1.36～1.20	5.76	4.40～4.32	2.20	N-53˚-W	19.00	24.88	Ⅱ-3a
59	不明	8J	2	－	4.32		2.24～2.08					N-47˚-W		－	

中世　柵（SA）観察表

遺構番号	グリッド	長さ（m）	柱間長（m）	主軸方向	変遷時期
1	8F5・10・15・19・23・24、8G3	9.20	3.00～2.00	N-26˚-E	Ⅱ－2

中世　掘立柱建物・柵列の柱穴（1）

SB48

遺構番号	グリッド	規模（cm）			底面標高(m)	出土遺物	柱痕	切り合い
		上端長径	上端短径	深度				
5199	9D11	37	36	22	7.011			
5310	9D22	36	29	(28)	6.942			
5311	8D20	36	32	(36)	6.866	土師質土器	有	
5335	9D12・17	26	25	(26)	6.984			

SB49

遺構番号	グリッド	規模（cm）			底面標高(m)	出土遺物	柱痕	切り合い
		上端長径	上端短径	深度				
5153	9E11	22	21	(12)	7.037			
5159	8E9・10	38	34	(17)	7.056		有	
5164	9E1	35	30	10	7.120			
5165	8E5	32	30	25	7.060		有	
5170	8D25	35	30	24	7.040		有	
5171	9D21	19	16	12	7.070			<P5349
5172	9D22	29	25	10	7.100			

SB50

遺構番号	グリッド	規模（cm）			底面標高(m)	出土遺物	柱痕	切り合い
		上端長径	上端短径	深度				
5157	8E13	48	46	30	7.010			<P5185
5174	8E24	29	23	29	7.000			
5181	8E18	60	46	(31)	7.049			
5184	8E12	51	43	44	6.840		有	
5187	8E19	44	41	21	7.060			
5189	8E22	32	26	47	6.860			
5191	8E16・17	47	40	26	7.020			
5282	8E25	31	27	(33)	6.957	土師質土器		>P5283
5320	8E21	30	26	34	6.960	土師質土器		=P5319
5419	8E15	36	30	29	6.956		有	

SB51

遺構番号	グリッド	規模（cm）			底面標高(m)	出土遺物	柱痕	切り合い
		上端長径	上端短径	深度				
5106	9F11	31	26	22	7.040	土師質土器		<P5105
5108	9F17	36	26	22	7.080	土師質土器		
5481	9F7・12	37	30	30	7.040	土師質土器		>SB54-P5390
5482	9F13	44	19	12	7.180			
5483	9G5、10G1	32	28	39	7.010	土師質土器	有	
5484	9F25	20	16	5	7.280			
5485	9F18・19・23・24	25	25	18	7.140			=P5280 <P5726

SB52（1）

遺構番号	グリッド	規模（cm）			底面標高(m)	出土遺物	柱痕	切り合い
		上端長径	上端短径	深度				
5109	9F17	48	38	19	7.060			
5112	9F23	52	43	14	7.160			<SB53-P5111
5116	9G10	28	31	(14)	7.170			<SB53-P5115
5451	8F25、8G5	43	41	29	7.020	土師質土器	有	
5452	9G1	58	54	29	7.030		有	
5453	9G2・7	57	56	27	7.070	土師質土器	有	
5454	9G8	70	67	14	7.180	土師質土器	有	
5455	9G15、10G11	37	30	10	7.060	土師質土器		
5456	9F16・21	50	45	24	7.060	土師質土器	有	
5457	9F22	58	50	16	7.100	土師質土器		
5458	9F23、9G3	42	38	27	7.040		有	
5459	9G4	43	40	16	7.180	土師質土器	有	<SB53-P5114
5460	10G6	46	36	7	7.080		有	
5461	8G4・5	46	40	11	7.190		有	
5462	9G6	55	52	29	7.010	土師質土器	有	
5463	9G7・12	56	56	16	7.060		有	
5464	9G13	48	45	13	7.180		有	
5465	9G19	40	33	7	7.090	土師質土器	有	
5466	9G20	25	25	8	7.080		有	
5467	8G9	40	37	36	6.930	土師質土器		
5468	8G15	40	34	14	7.170		有	

SB52（2）

遺構番号	グリッド	規模（cm）			底面標高(m)	出土遺物	柱痕	切り合い
		上端長径	上端短径	深度				
5469	9G11	46	40	36	6.970	土師質土器	有	<P5291
5470	9G17	60	58	21	7.120		有	
5471	9G18・19・23・24	49	36	14	7.020		有	
5477	9F16・21	48	35	28	7.020			
5478	9F24、9G4	54	51	36	6.960	漆器		
5479	9G5	40	35	13	7.170			

SB53

遺構番号	グリッド	規模（cm）			底面標高(m)	出土遺物	柱痕	切り合い
		上端長径	上端短径	深度				
5111	9F23	28	24	23	7.110			>SB52-P5112
5114	9G4	(27)	24	(12)	7.210			>SB52-P5459
5115	9G10	24	20	(11)	7.220			>SB52-P5116
5449	9G8・9	27	24	6	7.280			
5450	9G2・3	35	29	13	7.190			

SB54

遺構番号	グリッド	規模（cm）			底面標高(m)	出土遺物	柱痕	切り合い
		上端長径	上端短径	深度				
5390	9F7	39	31	42	6.910	土師質土器	有	<SB51-P5481
5391	9F11	37	29	14	7.140	土師質土器		
5392	8F20、9F16	28	25	8	7.220	土師質土器		
5393	8F25	29	28	15	7.180	土師質土器		
5394	8F24	43	35	26	7.060			
5398	8F15	38	33	28	6.950	土師質土器		
5399	8F20	53	37	27	7.060	土師質土器		

SB55

遺構番号	グリッド	規模（cm）			底面標高(m)	出土遺物	柱痕	切り合い
		上端長径	上端短径	深度				
5104	9F11	44	(40)	52	6.700			
5373	9F6	37	33	18	7.110	土師質土器		
5374	9F6・7	40	36	16	7.160	土師質土器		
5376	8F20、9F16	35	34	21	7.100	土師質土器		
5377	8F25	45	34	37	6.970	土師質土器		
5378	8F24	34	33	10	7.220			
5379	8F18	48	42	24	7.080	土師質土器、須恵器、陶器		
5380	8F14	45	40	22	7.110	土師質土器		
5381	8F9	40	31	16	6.920	土師質土器		<SK5371
5382	8F15	38	35	30	7.040			
5383	8F20、9F16	38	38	20	7.120			
5384	8F4・5	34	27	(21)	7.117			
5385	8F9	48	33	22	7.100			>SD5370
5386	8F13	38	36	17	7.160			
5387	8F18	32	28	22	7.100	土師質土器		

SB56

遺構番号	グリッド	規模（cm）			底面標高(m)	出土遺物	柱痕	切り合い
		上端長径	上端短径	深度				
5270	8F5	45	37	34	6.960	土師質土器		>SD5370
5289	9F1・6	45	35	(26)	7.126			
5362	8F4・5	35	35	27	7.097	土師質土器		

SB57（1）

遺構番号	グリッド	規模（cm）			底面標高(m)	出土遺物	柱痕	切り合い
		上端長径	上端短径	深度				
5641	6J18	69	56	35	7.010	土師質土器	有	
5642	6J24	61	58	16	7.180	珠洲焼		
5643	6K5	48	44	32	7.020	土師質土器	有	
5644	7K5	61	48	40	6.960	土師質土器	有	
5645	7K12	57	53	42	6.940	土師質土器	有	
5646	7K12・13	54	46	26	7.080			
5647	6J23	59	58	26	7.080	土師質土器	有	

中世　掘立柱建物・柵の柱穴（2）

SB57（2）

遺構番号	グリッド	規模（cm）			底面標高（m）	出土遺物	柱痕	切り合い
		上端長径	上端短径	深度				
5648	6K3	59	56	27	7.060	土師質土器	有	
5649	6K4・9	58	46	31	6.990		有	
5650	6K10	50	48	30	7.020	土師質土器		
5651	7K11	56	50	6	7.300	土師質土器	有	
5652	7K17	77	70	38	6.960	土師質土器 金属製品	有	
5653	6K2	59	58	33	7.030			
5654	6K9	50	47	35	6.990	土師質土器	有	
5655	6K15	50	40	17	7.150			
5656	6K16・17・20・21	60	54	43	6.890		有	
5657	6K1	73	62	32	7.020	土師質土器		
5658	6K7	58	50	28	7.060	土師質土器		
5659	6K13	56	54	19	7.140	土師質土器		
5660	6K19	65	62	18	7.120	土師質土器		>P5717
5661	6K20・25	96	59	20	7.140			
5662	7K21	54	38	16	7.140			
5663	6K6	68	63	52	6.840	土師質土器		
5664	6K7・12	63	57	38	6.960	土師質土器	有	
5665	6K13・18	58	50	39	6.950	土師質土器	有	
5666	6K19	55	48	38	6.940	土師質土器	有	
5667	6K24・25	64	62	34	7.000	土師質土器	有	
5668	6L5、7L1	55	43	27	6.990	土師質土器	有	

SB58

遺構番号	グリッド	規模（cm）			底面標高（m）	出土遺物	柱痕	切り合い
		上端長径	上端短径	深度				
5690	6L3	33	32	18	7.120	土師質土器	有	
5691	6K25	34	29	17	7.150		有	
5692	6K20	32	29	30	7.030	土師質土器	有	
5693	6L5・10	39	31	19	7.130		有	
5694	6L5	42	36	22	7.080		有	
5695	7K21	47	34	18	7.140		有	
5696	7L6	33	30	12	7.120		有	
5697	7L11	28	24	16	7.110			
5698	7L7	37	32	36	6.940	土師質土器	有	>SE5716
5699	7L3	30	28	8	7.200			

SB59

遺構番号	グリッド	規模（cm）			底面標高（m）	出土遺物	柱痕	切り合い
		上端長径	上端短径	深度				
5546	8J13	51	49	14	7.020			
5547	8J17	42	38	6	7.100			
5548	8J21	48	48	20	6.950			

SA1

遺構番号	グリッド	規模（cm）			底面標高（m）	出土遺物	柱痕	切り合い
		上端長径	上端短径	深度				
5388	8F5・10	34	26	30	6.970			>SD5370
5473	8F10・15	37	33	34	6.980	土師質土器		
5474	8F19	36	35	24	7.080			
5475	8F24	(25)	24	10	7.210			<SK5367
5476	8F23、8G3	35	27	11	7.190			

中世　井戸（SE）観察表

遺構番号	グリッド	検出層位	変遷時期	形態			規模（cm）					底面標高（m）	覆土堆積状況	主軸方向	出土遺物（礫は除く）	切り合い
				平面	断面	立ち上がり	上端長径	上端短径	下端長径	下端短径	深度					
5100	8E18	Ⅳ	Ⅱ-3a	円形	半円状	垂直	95	93	42	42	60	6.414	A	N-45°-E	土師質土器、珠洲焼	
5101	8E22～24、8F2～4	Ⅳ	Ⅱ-3a	方形	箱状	垂直	239	229	117	77	110	6.080	A	N-44°-W	土師質土器、珠洲焼、青磁、須恵器、金属製品、漆器	
5102	8F4・5・9・10	Ⅳ	Ⅱ-2	円形	袋状	垂直	186	176	205	182	130	6.110	C	N-60°-E	土師質土器、須恵器、金属製品	<P5103、>SD5370
5126	8I24、8J4・5	Ⅳ	Ⅱ-1	方形	袋状	垂直	209	195	79	77	137	5.372	B	N-40°-E	土師質土器、珠洲焼、青磁、土師器、須恵器、井戸側	<SD2332
5129	7E25、7F5、8E21、8F1	Ⅳ		円形	台形状	急斜度	266	231	127	111	144	5.900	A	N-45°-E	土師質土器、青磁、青白磁、白磁、須恵器、金属製品	
5130	7E7・8・12・13	Ⅳ	Ⅱ-3a	円形	台形状	急斜度	208	187	90	87	104	6.100	A	N-43°-E	土師質土器、珠洲焼、鍛冶関連遺物	
5131	7E14・15	Ⅳ		円形	U字状	垂直	127	120	63	53	108	6.180	A	N-20°-E	土師質土器、須恵器	
5133	9D7・8・12・13	Ⅳ		楕円形	半円状	急斜度	220	179	91	71	100	6.220	C	N-23°-E	土師質土器、珠洲焼、白磁	<P5312
5134	9D6・7	Ⅳ		円形	漏斗状	垂直	90	84	48	46	70	6.580	A	N-0°		
5138	7E11・12・16・17	Ⅳ		円形	階段状	急斜度	263	244	175	150	162	5.600	A	N-86°-W	土師質土器、珠洲焼、須恵器、金属製品、多字一石経	<SK5300
5146	10I3・4・8・9	Ⅳ		円形	漏斗状	垂直	223	209	49	39	105	6.100	A	N-45°-E	土師質土器	
5203	3H13・14	Ⅳ		円形	台形状	急斜度	118	114	67	61	74	6.420	B	N-47°-E	石製品	
5204	5H13・18	Ⅳ		円形	半円状	急斜度	92	90	46	39	62	6.580	C	N-15°-W	土師質土器	
5268	8H8・9・13・14	Ⅳ		円形	台形状	急斜度	164	155	102	98	71	6.439	A	N-35°-E	土師質土器、珠洲焼、須恵器	
5290	8K1・2・6・7・11・12	Ⅳ		円形	階段状	急斜度	345	326	126	125	294	4.260	E	N-65°-W	土師質土器、珠洲焼、青磁、白磁、須恵器、石製品、金属製品、井戸側	
5353	8E16	Ⅳ		円形	箱状	垂直	78	76	58	56	72	8.580	B	N-14°-E	土師質土器	
5359	6E9・10	Ⅳ		円形	箱状	垂直	104	97	77	77	116	6.130	A	N-68°-W		>P5361
5366	8G4・5・9・10	Ⅳ		円形	U字状	垂直	92	84	52	48	73	6.600	A	N-26°-E	土師質土器	
5401	9H3・4・8・9	Ⅳ	Ⅱ-3a	方形	階段状	垂直	163	139	95	91	320	4.000	A	N-55°-W	珠洲焼、瓷器系陶器、青磁、井戸側	>SK5400
5422	9D8・9・13・14・15	Ⅳ		楕円形	半円状	急斜度	257	(69)	(105)	(54)	108	6.350	A	N-44°-W	土師質土器、珠洲焼	
5631	7K21・22,7L2	Ⅳ		円形	台形状	急斜度	158	150	103	95	54	6.760	A	N-55°-E	土師質土器	
5632	7L1・2・6・7	Ⅳ		楕円形	V字状	急斜度	254	218	81	75	119	6.110	A	N-85°-W	土師質土器、須恵器	>SE5716
5716	7L2・3・7・8・12・13	Ⅳ		円形	V字状	急斜度	305	296	84	84	129	6.010	A	N-0°	土師質土器、青磁、須恵器	<SE5632・SB58-P5698

中世　方形竪穴遺構観察表

遺構番号	グリッド	検出層位	変遷時期	形態			規模（cm）					底面標高（m）	覆土堆積状況	主軸方向	出土遺物（礫は除く）	切り合い
				平面	断面	立ち上がり	上端長径	上端短径	下端長径	下端短径	深度					
5400	9G23～25、9H3～5・8・9	Ⅳ		方形	階段状	垂直	292	288	211	170	260	4.600	A	N-55°-W	土師質土器	<SE5401
5400-P1	9G24	Ⅳ					36	32			7	6.020				
5400-P2	9G23・24、9H3・4	Ⅳ					27	24			15	6.550				

古代～近世　土坑（SK）観察表（1）

遺構番号	グリッド	検出層位	変遷時期	形態				規模（cm）					底面標高（m）	覆土堆積状況	主軸方向	出土遺物（礫は除く）	切り合い
				平面	断面	立ち上がり	分類	上端長径	上端短径	下端長径	下端短径	深度					
5110	9F18・23	Ⅳ		楕円形	弧状	緩やか	1類	70	56	43	29	12	7.180	A	N-41°-E		
5120	5H12	Ⅳ		楕円形	台形状	急斜度	1類	101	70	73	44	23	7.130	A	N-50°-W		
5135	9D7	Ⅳ		楕円形	台形状	急斜度	1類	93	66	66	41	28	6.980	A	N-5°-E	土師質土器	
5137	9D8	Ⅳ		方形	弧状	緩やか	2類	107	103	78	73	24	6.980	A	N-29°-E	土師質土器	<P5136
5149	8E4・5・9	Ⅳ		長方形	弧状	緩やか	2類	107	41	102	25	12	7.190	A	N-13°-E	土師質土器	>P5337
5161	8D18・19・23・24	Ⅳ		楕円形	弧状	緩やか	1類	(120)	(69)	50	42	25	6.990	A	N-15°-E	土師質土器	>P5364
5201	4H3・4・9	Ⅳ	古代	長方形	箱状	垂直	－	157	141	132	109	47	6.720	B	N-50°-W	須恵器	
5208	5H6・7	Ⅳ		楕円形	弧状	緩やか	1類	106	85	81	56	17	7.000	A	N-58°-W		
5222	5G13・18	Ⅳ		円形	台形状	急斜度	3類	70	(70)	19	18	28	6.840	B	N-36°-W	土師質土器	<SD2332

古代～近世　土坑（SK）観察表（2）

遺構番号	グリッド	検出層位	変遷時期	形態				規模（cm）					底面標高（m）	覆土堆積状況	主軸方向	出土遺物（礫は除く）	切り合い
				平面	断面	立ち上がり	分類	上端長径	上端短径	下端長径	下端短径	深度					
5225	9J6・7・11・12	Ⅳ	Ⅱ-1	円形	台形状	急斜度	3類	163	145	129	118	39	6.810	B	N-0°	須恵器	<SD2332
5227	8H16	Ⅳ		楕円形	台形状	急斜度	1類	76	66	53	36	20	7.160	B	N-45° -W		
5237	7H22、7I2	Ⅳ		楕円形	台形状	急斜度	1類	62	27	51	23	16	6.955	C	N-55° -W		
5253	6G15、7G11	Ⅳ	近世	楕円形	弧状	緩やか	－	143	77	102	45	30	6.580	B	N-48° -E	鍛冶関連遺物	>SD2354・SD5260・SD5261
5266	7H13	Ⅳ		楕円形	半円状	急斜度	1類	120	54	66	22	20	7.210	F	N-56° -W	土師質土器	>SD5260
5267	7G22・23	Ⅳ	近世	長方形	弧状	急斜度	－	114	91	34	24	59	5.740	G	N-34° -E	珠洲焼、多字一石経	<SD2354・SD5261
5284	8E24	Ⅳ		長方形	弧状	緩やか	2類	71	53	55	42	6	7.260	B	N-12° -E	土師質土器、青磁	
5300	7E16	Ⅳ		楕円形	台形状	急斜度	1類	105	55	87	45	13	6.980	D	N-16° -E		>SE5138
5301	8D16・21	Ⅳ		楕円形	台形状	急斜度	1類	79	55	60	36	20	7.020	A	N-11° -W	土師質土器	
5325	6E19・20	Ⅳ		楕円形	台形状	急斜度	1類	64	51	46	33	12	7.030	A	N-35° -E		
5332	6E18・23	Ⅳ		長方形	弧状	緩やか	2類	83	37	73	21	5	7.070	A	N-56° -E		
5333	6E22・23	Ⅳ		円形	台形状	急斜度	3類	(55)	53	25	25	16	6.960	A	N-48° -E		
5360	6E5	Ⅳ		楕円形	台形状	急斜度	1類	(93)	78	(41)	30	23	7.100	A	N-16° -W	土師質土器	
5365	8G3・4	Ⅳ		楕円形	台形状	急斜度	1類	81	59	68	36	15	7.184	A	N-60° -W	土師質土器	<P5287
5367	8F23・24	Ⅳ		長方形	弧状	緩やか	2類	135	98	98	78	33	6.990	A	N-23° -E	土師質土器	>P5425・SA1-P5475
5368	8F18・19	Ⅳ		楕円形	台形状	急斜度	1類	138	100	93	78	27	7.059	A	N-38° -E	土師質土器、珠洲焼	<P5285
5371	8F9・10	Ⅳ		円形	箱状	垂直	4類	78	69	55	48	24	7.060	A	N-10° -W	土師質土器	>SB55-P5381
5409	7F18・23	Ⅳ		楕円形	台形状	急斜度	1類	58	52	41	36	37	6.890	A	N-75° -W		>SK5412
5412	7F23	Ⅳ		(楕円形)	弧状	緩やか	1類	(107)	86	(95)	76	5	7.290	D	N-15° -E		<SK5409・P5410
5415	8G24・25、8H4	Ⅳ		円形	箱状	垂直	4類	102	98	77	61	35	6.950	A	N-40° -E		=P5416
5605	16S21	Ⅳ		円形	弧状	緩やか	3類	76	65	60	44	13	7.050	A	N-61° -W		
5614	18U22	Ⅳ	近世	円形	弧状	緩やか	－	66	64	49	46	14	5.980	A	N-37° -E		<SD3072
5615	15T8・9	Ⅳ		円形	弧状	緩やか	3類	98	92	33	25	24	6.880	A	N-73° -W		
5616	15T2	Ⅳ		楕円形	弧状	緩やか	1類	70	35	55	25	9	7.070	A	N-40° -E		
5621	10O14・19	Ⅳ		長方形	弧状	緩やか	2類	134	80	102	59	29	6.900	A	N-43° -W		
5622	12Q1・2・7	Ⅳ		楕円形	弧状	緩やか	1類	(188)	(133)	(167)	(122)	18	7.050	A	N-47° -W		
5623	12P18	Ⅳ		楕円形	(台形状)	急斜度	1類	105	(43)	58	(27)	21	9.660	D	N-50° -W		<SD5618
5624	10O9	Ⅳ		楕円形	台形状	急斜度	1類	83	65	46	45	29	6.890	D	N-76° -W		>SD5618
5627	11P10	Ⅳ		楕円形	台形状	急斜度	1類	97	(72)	65	47	40	6.780	A	N-50° -W		<SD5618
5630	8M13・14	Ⅳ		長方形	台形状	急斜度	2類	93	76	88	70	8	7.140	C	N-64° -W	土師質土器	
5670	18W5	Ⅳ	近世	楕円形	弧状	緩やか	－	(136)	(80)	(74)	(65)	27	6.840	A	N-45° -E		>SD5677
5671	18W5	Ⅳ	近世	楕円形	弧状	緩やか	－	(65)	(33)	(37)	(24)	14	7.000	A	N-43° -W		>SD5678
5674	18W9	Ⅳ	近世	楕円形	弧状	緩やか	－	(145)	(99)	(114)	(88)	18	6.910	A	N-45° -E		>SD5678

中世　方形周溝状遺構観察表

遺構番号	グリッド	検出層位	変遷時期	形態			規模（cm）					底面標高（m）	覆土堆積状況	主軸方向	出土遺物（礫は除く）	切り合い
				平面	断面	立ち上がり	上端長径	上端短径	下端長径	下端短径	深度					
5260	6・7G・H	Ⅳ	Ⅱ-2～3a	方形	階段状	急斜度	南北1028 東西1186	110～286	南北928 東西1096	98～126	61～132	5.838～6.600	A	南北 N-32° -E 東西 N-52° -W	土師質土器、珠洲焼、瓷器系陶器、青磁、白磁、須恵器、石製品、金属製品、鍛冶関連遺物	<SK5253・SK5266・SK5267・P5251、>SD2354・SD5231・SD5261・P5235・P5239・P5242・P5243
5261	6・7G	Ⅳ	Ⅱ-2		半円状	垂直	(474)	85～220	(474)	28～152	65～100	6.060～6.700	A	N-32° -E	土師質土器	<SK5253・SD2354・SD5260

古墳時代・中世～近世　溝（SD）観察表（1）

遺構番号	グリッド	検出層位	変遷時期	形態			規模（cm）					底面標高（m）	覆土堆積状況	主軸方向	出土遺物（礫は除く）	切り合い
				平面	断面	立ち上がり	上端長径	上端短径	下端長径	下端短径	深度					
5107	6～9F、7～9G、8H	Ⅳ			台形状	急斜度	南北(1898) 東西(2242)	66～108	南北(1886) 東西(2219)	37～86	6～25	6.942～7.220	A	南北 N-32° -E 東西 N-51° -W	土師質土器	>P5292
5118	5H	Ⅳ			箱状・台形状	急斜度～垂直	(170)	29～32	(170)	9～17	(16)	7.190	D	N-50° -W		
5119	5H	Ⅳ			箱状・台形状	急斜度～垂直	(210)	40～56	(210)	22～38	(28)	7.170	D	N-48° -W		
5132	7～9D	Ⅳ	Ⅱ-3a		階段状	急斜度	(2238)	220～296	(2238)	52～196	32～136	5.818～6.434	A	N-76° -W	土師質土器、珠洲焼、瓷器系陶器、青磁、須恵器、石製品、金属製品	<P5341、>P5336
5202	3・4I	Ⅳ			半円状	垂直	(1420)	28	(1420)	5～34	14～39	7.019～7.106	A	N-2° -E		<P5730
5209	5G	Ⅳ	Ⅰ		台形状	急斜度	421	161	400	76	64～67	7.091	A	N-38° -E	土師質土器	<SD2334・SD5214
5214	4・5G	Ⅳ	Ⅱ-3b		台形状・半円状	急斜度	(671)	124～175	(626)	77～84	58～72	6.425～6.512	E	N-46° -W	土師質土器	>SD2334・SD5209
5215	5G	Ⅳ	Ⅱ-3b		半円状	垂直	284	67	262	26	25	6.794	B・F	N-46° -W		>SD5216
5216	5G・H	Ⅳ	Ⅱ-3b		台形状	急斜度	(774)	79～120	(762)	25～58	20～68	6.755～6.842	B・F	N-56° -W	須恵器	<SD5215、>SD2334・SD5219
5217	4・5G、5H	Ⅳ			台形状	急斜度	1110	28～58	1084	8～35	(5)～(18)	7.035～7.083	D	N-47° -W	土師質土器	>P5221
5219	5・6H	Ⅳ	Ⅰ		弧状	緩やか	424	104	398	51	36～55	6.758～6.693	A	N-35° -E	須恵器	<SD2334・SD5216
5231	7・8H、8・9I	Ⅳ	Ⅰ		弧状・半円状	緩やか～垂直	2088	30～114	2078	14～85	29～31	7.031～7.237	A	N-52° -W	土師質土器、須恵器	<SD2354・SD5260
5238	7・8H	Ⅳ	Ⅰ		台形状	急斜度	(398)	(92)	(366)	(74)	10	7.230	A	N-43° -W	土師質土器	<SD2354
5252	5F	Ⅳ			台形状	急斜度	672	68	664	40	16	6.687	D	N-40° -E	土師質土器、珠洲焼	>SD2354
5259	5・6G、6F	Ⅳ	Ⅱ-2	コの字形	半円状・台形状	急斜度～垂直	南北730 東西804	84～139	南北694 東西742	50～84	24～59	6.817～6.901	A	南北 N-38° -E 東西 N-55° -W	土師質土器、石製品	>SD2354
5286	13G	Ⅳ			台形状	急斜度	(96)	92	(96)	58	33	7.030	B・F	N-32° -E		

古墳時代・中世～近世　溝（SD）観察表（2）

遺構番号	グリッド	検出層位	変遷時期	形態			規模（cm）					底面標高（m）	覆土堆積状況	主軸方向	出土遺物（礫は除く）	切り合い
				平面	断面	立ち上がり	上端長径	上端短径	下端長径	下端短径	深度					
5370	8・9F	Ⅳ			半円状・台形状	急斜度～垂直	（950）	82	（930）	56	37～52	6.877～7.164	A	N-60° -E	土師質土器	<SE5102・SD5372・P5269・SB56-P5270・SB55-P5385・SA1-P5388
5372	8F	Ⅳ	Ⅱ-3a		弧状・半円状	緩やか～垂直	（730）	21	（724）	10	4～13	7.164～7.266	D	N-27° -W	土師質土器	>SD5370
5411	7F	Ⅳ			台形状・弧状	緩やか～急斜度	（232）	65	（226）	53	（20）	7.244～7.261	D	N-71° -E		
5549	7・8J・K	Ⅳ			弧状	緩やか	（108）	55	（85）	46	12	7.060	D	N-0°		
5602	14R・S	Ⅳ			弧状	緩やか	（832）	88～124	（832）	62～113	9～16	7.020～7.090	A	N-14° -E		<SD5600、>SD5607
5603	15S、15・16T	Ⅳ			弧状	緩やか	（1456）	138～224	（1436）	92～185	23～46	6.810～7.135	A	N-20° -W	土師質土器、瀬戸・美濃焼	<SD5600・SD5601・SD5604
5607	14R・S	Ⅳ			弧状	緩やか	（427）	74～150	（410）	70～118	（8）	6.660～7.230	A	N-43° -E	土師質土器、珠洲焼	<SD5600・SD5602
5618	10・11O、11・12P、12・13Q	Ⅳ			半円状・台形状	急斜度～垂直	南北 702 東西 1796	60～137	南北 680 東西 1763	28～76	26～85	6.973～7.134	C・D	南北 N-38° -E 東西 N-47° -W	土師質土器、珠洲焼	<SK5624、>SK5623・SK5627・SD5620
5619	10N、10・11O	Ⅳ			台形状	急斜度	832	38～82	797	18～60	12～18	7.067～7.100	D	N-47° -W		
5620	11O・P	Ⅳ			弧状	緩やか	（910）	52～92	（910）	28～61	14～42	6.700	A	N-22° -E		<SD5618
5677	19V、18・19W	Ⅳ	古墳		台形状	急斜度	（1140）	－	（1140）	－	10～26	6.399～6.428	A	N-30° -E	土師器	<SK5670・SK5671・SD5675・P5673・P5676・P5736・P5737・P5738・P5739
5678	18W	Ⅳ			台形状	急斜度	（464）	－	（464）	－	（63）		A	N-5° -E	珠洲焼	<SK5671・SK5674、>SD5677

中世　道（SD）観察表

遺構番号	グリッド	検出層位	変遷時期	形態			規模（cm）					底面標高（m）	覆土堆積状況	主軸方向	出土遺物（礫は除く）	切り合い
				平面	断面	立ち上がり	上端長径	上端短径	下端長径	下端短径	深度					
2000A	13G、8・9M、8N	Ⅳ	Ⅱ-3		台形状	緩やか～急斜度	H区（200）J区（875）	120～240	H区（200）J区（875）	69～122	60～66	6.438～6.675	A	N-37° -E	土師質土器、珠洲焼、瓷器系陶器、青磁、須恵器	>SD2000B・SD2000C
2000B	13G	Ⅳ	Ⅱ-2		（台形状）	急斜度	H区（200）J区（875）	（44）	H区（200）J区（875）	－	37	6.780	F	N-37° -E		<SD2000A、>SD2000C
2000C	13G、8M・N	Ⅳ	Ⅱ-1		（台形状）	急斜度	H区（200）J区（875）	（35）～（52）	H区（200）J区（875）	－	27～46	6.730	B・F	N-37° -E		<SD2000A・SD2000B
2001A	13・14H、9M・N	Ⅳ	Ⅱ-3		H区：階段状 J区：台形状	急斜度	H区（200）J区（875）	119～170	H区（200）J区（854）	32～74	69～85	6.380～6.540	A	N-38° -E	土師質土器、珠洲焼、瓷器系陶器、須恵器、石製品	>SD2001B・SD2001C
2001B	13H、9M・N	Ⅳ	Ⅱ-2		（台形状）	緩やか～急斜度	H区（200）J区（875）	（20）～（188）	H区（200）J区（854）	－	40～68	6.570～6.820	B・F	N-37° -E	土師質土器、珠洲焼、青磁	<SD2001A、>SD2001C
2001C	13・14H、9M・N	Ⅳ	Ⅱ-1		（台形状）	急斜度	H区（200）J区（875）	（15）～（80）	H区（200）J区（854）	－	32～48	6.800～6.910	C・D	N-37° -E		<SD2001A・SD2001B
2332	4～6G、6・7H、7・8I、8・9J、9・10K	Ⅳ	Ⅱ-2～3a		台形状	急斜度	（5640）	49～90	（5640）	21～48	31～73	6.440～6.850	A・B	N-50° -W	土師質土器、珠洲焼、須恵器	>SE5126・SK5222・SK5225・P5240
2334	4・5G、5H、8・9J、9・10K	Ⅳ	Ⅱ-2～3a		階段状・台形状	垂直～急斜度	（722）	54～156	（722）	54～73	30～52	6.690～6.730	A・B	N-52° -W	土師質土器、珠洲焼、青磁、須恵器、金属製品	<SD5214・P5220、>SX2352・SD5209・SD5219・P5223

中世　性格不明遺構（SX）観察表

遺構番号	グリッド	検出層位	変遷時期	形態			規模（cm）					底面標高（m）	覆土堆積状況	主軸方向	出土遺物	切り合い
				平面	断面	立ち上がり	上端長径	上端短径	下端長径	下端短径	深度					
2352	8J13～15・18～20・25　9J11・16・17・21～24、9K1～4・8・9	Ⅳ	I	長方形	箱状	垂直	（722）	258～352	（722）	232～298	43	6.797～7.170	A	N-52° -W	土師質土器	<SD2334

中世　ピット（P）観察表（1）

遺構番号	グリッド	検出層位	規模（cm）			底面標高（m）	出土遺物	切り合い
			上端長径	上端短径	深度			
5103	8F4・5	Ⅳ	27	26	（30）	7.100		>SE5102
5105	9F11	Ⅳ	33	30	10	7.160	土師質土器	>SB51-P5106
5113	9G4	Ⅳ	20	20	11	7.250		
5121	6H15、7H11	Ⅳ	24	23	20	7.130		
5122	7I5・10	Ⅳ	27	20	20	7.200		
5123	7I9・10	Ⅳ	52	35	29	6.900		
5124	7I9・10	Ⅳ	28	23	27	7.120		
5125	7I4・5・9・10	Ⅳ	57	47	21	7.170		
5136	9D8	Ⅳ	27	26	（15）	7.088	土師質土器	>SK5137
5139	9D20	Ⅳ	24	22	（12）	7.100		
5140	9D20	Ⅳ	24	21	（16）	7.052	土師質土器	
5141	9D14・15	Ⅳ	25	22	（14）	7.046		
5142	9D18	Ⅳ	27	27	（19）	6.978		
5143	9D13	Ⅳ	22	20	（17）	7.086		
5144	9D13	Ⅳ	28	26	（24）	6.998		
5145	9D13	Ⅳ	27	22	（14）	7.112		
5151	9E11	Ⅳ	25	23	（24）	9.963		
5152	8E15	Ⅳ	27	27	（16）	7.064		
5154	8E15・20	Ⅳ	24	23	（17）	7.066		
5155	9E1	Ⅳ	40	26	（17）	7.068		
5156	8E14	Ⅳ	33	30	（15）	7.070		

遺構番号	グリッド	検出層位	規模（cm）			底面標高（m）	出土遺物	切り合い
			上端長径	上端短径	深度			
5166	8E4	Ⅳ	29	22	14	7.190		
5169	8D25	Ⅳ	34	34	22	7.040		
5175	8E10	Ⅳ	38	30	20	7.040		
5176	8E14	Ⅳ	31	23	10	7.130		
5177	8E15	Ⅳ	28	25	（11）	7.094		
5178	9E6	Ⅳ	35	27	（19）	7.022		
5179	8E5	Ⅳ	43	35	（19）	7.124		
5180	8E9	Ⅳ	32	30	（24）	7.102		
5182	8E17	Ⅳ	40	40	（28）	6.993	土師質土器	
5183	9D12	Ⅳ	28	26	23	7.040		
5185	8E13	Ⅳ	37	34	（28）	7.030		>SB50-P5157
5192	9D7	Ⅳ	26	24	23	7.053		
5193	9D8	Ⅳ	46	35	（28）	6.979		
5194	9D2	Ⅳ	29	28	40	6.894		
5195	9D7	Ⅳ	36	31	（30）	6.938		
5196	9D11	Ⅳ	32	25	（25）	7.019		
5197	9D6	Ⅳ	31	31	22	7.050		
5198	9D11	Ⅳ	34	33	（33）	6.921		
5200	9D11	Ⅳ	32	30	（25）	7.014		
5205	3H10	Ⅳ	30	30	30	6.840		
5206	3H10	Ⅳ	24	23	21	7.010		

中世　ピット（P）観察表（2）

遺構番号	グリッド	検出層位	規模（cm）			底面標高（m）	出土遺物	切り合い
			上端長径	上端短径	深度			
5207	4H6	Ⅳ	26	26	30	6.900		
5210	5G21	Ⅳ	34	30	47	6.740		
5211	5H7・8	Ⅳ	34	29	16	6.990		
5212	9D11	Ⅳ	30	28	26	6.850		
5213	5G22	Ⅳ	30	27	12	7.040		
5218	5G24	Ⅳ	34	32	(15)	6.968		
5220	5G24	Ⅳ	34	34	41	6.690		>SD2334
5221	5H12	Ⅳ	35	30	(52)	6.670		<SD5217
5223	5G18・23	Ⅳ	17	16	(23)	6.723		<SD2334
5224	9J16	Ⅳ	34	26	14	7.065		
5226	9I2	Ⅳ	34	26	14	6.979		
5228	7H18・19	Ⅳ	21	20	(9)	7.284		
5229	7H24・25	Ⅳ	43	38	(13)	7.231		
5230	8H21、8I1	Ⅳ	32	27	(31)	7.055		
5232	6H5	Ⅳ	(35)	(34)	(35)	6.890		<SD5260
5233	7G22	Ⅳ	21	19	(17)	7.068		
5234	8H17	Ⅳ	36	27	(24)	6.756	土師質土器	
5235	6G18・19	Ⅳ	28	24	(34)	6.820		<SD5260
5236	7I12	Ⅳ	62	27	16	6.995		
5239	7H8	Ⅳ	32	23	(22)	6.955		<SD5260
5240	7H22	Ⅳ	25	20	(14)	9.767		<SD2332
5241	8I2・7	Ⅳ	31	27	(20)	7.021		
5242	6G23	Ⅳ	23	23	(22)	6.650		<SD5260
5243	6G10、7G6	Ⅳ	74	70	(38)	6.320		<SD5260
5244	7H3	Ⅳ	21	15	(10)	6.869		<SD5260
5246	8H17	Ⅳ	48	36	(25)	7.073		>SD2354
5247	8H17	Ⅳ	19	17	(17)	7.144	土師質土器	
5251	6G24、6H4	Ⅳ	71	49	20	6.970		>SD5260
5254	6F3	Ⅳ	28	23	6	7.060		
5255	6F1	Ⅳ	34	34	21	6.940		
5256	6E21	Ⅳ	32	26	39	6.970		
5257	5F25	Ⅳ	52	40	18	6.900		
5258	6G12	Ⅳ	54	43	21	6.840		
5262	6G9	Ⅳ	30	28	19	7.030		
5263	6G18・19	Ⅳ	39	37	28	6.900		
5264	7H1	Ⅳ	35	21	15	7.150	土師質土器	
5265	7H2	Ⅳ	41	39	13	7.200		
5269	9F1	Ⅳ	39	29	16	7.120	土師質土器、近世陶磁器	>SD5370
5275	9F18	Ⅳ	34	18	(7)	7.233	土師質土器	
5276	9F18・23	Ⅳ	22	20	(9)	7.235		>P5280・SB51-P5485
5277	8G6・7	Ⅳ	39	32	(25)	7.051		
5278	8G13	Ⅳ	39	34	35	6.990		
5279	8G14	Ⅳ	30	28	(22)	7.056		
5280	9F18・19・23・24	Ⅳ	31	28	11	7.210		<P5276
5281	8G8・9	Ⅳ	38	33	(20)	7.136		=P5247
5283	8E25	Ⅳ	30	24	29	7.000	土師質土器	<SB50-P5282
5285	8F18・19	Ⅳ	26	19	20	7.510		>SK5368
5287	8G4	Ⅳ	27	24	17	7.160	土師質土器	>SK5365
5288	8F5	Ⅳ	37	32	(17)	7.158		
5291	9G11	Ⅳ	20	14	(6)	7.139		>P5469
5292	8G22	Ⅳ	30	27	(10)	7.136		<SD5107
5294	8F2	Ⅳ	33	29	(26)	7.043	土師質土器	
5296	8F3・8	Ⅳ	48	47	(22)	7.087	土師質土器	
5297	8E22	Ⅳ	44	36	(21)	7.139		
5298	8F15	Ⅳ	26	23	(16)	7.159		
5302	9D8	Ⅳ	31	28	(33)	6.908		
5303	8D19・24	Ⅳ	53	43	(56)	6.737		
5304	8D19・24	Ⅳ	43	(30)	(35)	6.878		
5305	8D19・24	Ⅳ	39	(27)	(32)	6.889		>P5306
5306	8D19・24	Ⅳ	32	(27)	(30)	6.918		<P5305
5309	8D19	Ⅳ	51	40	(30)	6.962		
5312	9D7	Ⅳ	22	17	(29)	6.331		>SE5133
5314	8D24・25	Ⅳ	28	24	(14)	7.127		
5315	8D24	Ⅳ	44	32	(35)	6.973		
5316	8E3	Ⅳ	44	29	32	6.962		
5317	8E6・7	Ⅳ	21	21	(18)	7.121	土師質土器	
5318	8E11	Ⅳ	30	26	(24)	6.984		
5319	8E21	Ⅳ	27	24	(25)	7.040		=SB50-P5320
5321	8D22、8E2	Ⅳ	38	35	(31)	6.953		
5322	7E10	Ⅳ	33	28	(17)	7.137		
5323	7E17	Ⅳ	35	31	(32)	6.969		
5324	7E17・22	Ⅳ	31	29	(33)	7.081		
5327	6E20	Ⅳ	25	25	(10)	7.038	土師質土器	
5328	7E21、7F1	Ⅳ	30	23	(16)	7.092		
5329	8D23、8E3	Ⅳ	29	24	(24)	7.057		
5330	8D11・12	Ⅳ	37	31	(37)	6.818		
5331	6E18・23	Ⅳ	22	19	(13)	6.985		
5334	8E21	Ⅳ	29	27	(30)	6.999		
5336	9D16	Ⅳ	(34)	30	(30)	6.892	土師質土器	<SD5132
5337	8E4	Ⅳ	28	24	25	7.050		<SK5149
5338	8E9	Ⅳ	29	27	(23)	7.016		
5339	8E9	Ⅳ	25	21	(16)	7.016		
5340	7F18・19	Ⅳ	45	39	(34)	6.941	土師質土器	
5341	9D16	Ⅳ	29	16	(31)	6.244		>SD5132
5342	7F7	Ⅳ	40	37	(28)	6.931		

遺構番号	グリッド	検出層位	規模（cm）			底面標高（m）	出土遺物	切り合い
			上端長径	上端短径	深度			
5344	8E7・12	Ⅳ	38	35	(33)	6.965	土師質土器	
5345	8E7・8	Ⅳ	24	24	(20)	7.054		>P5346
5346	8E8	Ⅳ	30	30	(30)	6.982	土師質土器	<P5345
5347	8E8	Ⅳ	40	36	(35)	6.968	土師質土器	
5348	8E3・8	Ⅳ	22	18	(15)	7.174		
5349	9D21	Ⅳ	28	26	(22)	6.970	土師質土器	>SB49-P5171
5350	9D21・22	Ⅳ	24	24	(15)	7.082		
5351	9D21	Ⅳ	34	32	(25)	6.985		
5352	9D21・22	Ⅳ	38	38	(34)	6.897		
5354	8D19	Ⅳ	33	32	(43)	6.822		
5357	7F1・2	Ⅳ	26	25	(26)	6.999		
5358	6E5・9	Ⅳ	36	31	(23)	7.076		
5361	6E9	Ⅳ	36	(32)	16	7.076		<SE5359
5364	8D18	Ⅳ	(34)	27	17	7.098		<SK5161
5410	7F23	Ⅳ	29	(26)	20	7.160		>SK5412
5413	7G5	Ⅳ	29	28	(30)	6.985		
5416	8G24・25、8H4・5	Ⅳ	37	26	(21)	7.101		=SK5415
5417	8H5	Ⅳ	22	20	(19)	7.062		
5418	8E19・24	Ⅳ	56	35	23	7.020		
5421	8E22	Ⅳ	31	24	(13)	7.128		
5425	8F24	Ⅳ	(30)	21	(15)	7.170		<SK5367
5426	8E9	Ⅳ	29	24	(16)	7.134		
5427	8G9	Ⅳ	32	27	(18)	7.152		=P5281
5428	8F24	Ⅳ	64	20	17	7.140		
5429	9E1	Ⅳ	28	24	(13)	7.081		
5430	7I3	Ⅳ	29	25	(28)	6.954		
5480	9F25、9G5	Ⅳ	47	30	5	7.260		
5486	9G16・17	Ⅳ	46	28	10	7.210		
5487	10G21	Ⅳ	28	23	10	7.190		
5489	9F24	Ⅳ	40	37	9	7.250		
5606	16S16	Ⅳ	34	33	(41)	6.782		
5609	15S13	Ⅳ	20	15	(14)	7.035		
5611	15S12	Ⅳ	37	28	(12)	7.030		
5612	15S12	Ⅳ	44	37	(39)	6.767		
5613	15S12	Ⅳ	41	27	(17)	6.987		
5625	12Q1	Ⅳ	33	25	(14)	6.991		>P5626
5626	12Q1	Ⅳ	(22)	20	(41)	7.092		<P5625
5628	11P10	Ⅳ	23	21	(28)	6.885		
5629	18U18	Ⅳ	(37)	(28)	22	6.570		<SD3072
5633	8M8	Ⅳ	26	24	(9)	7.152		
5634	8L11	Ⅳ	33	28	(17)	7.098		
5635	5J20	Ⅳ	32	29	22	7.160	土師質土器	
5636	5J7	Ⅳ	26	24	39	6.920		
5673	19V18	Ⅳ	34	31	27	6.910	一括出土銭	>SD5677
5676	19W2	Ⅳ	29	25	34	6.860		>SD5677
5679	10N21	Ⅳ	27	19	(23)	6.945		
5680	10N21	Ⅳ	23	17	(14)	7.071		
5681	10N24	Ⅳ	26	23	(25)	6.940		
5682	10N20	Ⅳ	28	22	(25)	6.903		
5700	6L4	Ⅳ	26	23	8	7.220		
5701	7K21	Ⅳ	35	31	17	7.130		
5703	7L7	Ⅳ	32	29	23	7.090	土師質土器	
5705	7L3	Ⅳ	24	19	(10)	7.196	土師質土器	
5706	7K22	Ⅳ	30	25	10	7.200		
5707	7K18	Ⅳ	38	35	11	7.200		
5708	7L12	Ⅳ	28	26	(34)	6.944		
5709	7K18	Ⅳ	29	28	6	7.240		
5710	6K24・25	Ⅳ	28	25	17	7.140		
5711	6L5	Ⅳ	25	22	13	7.160		<P5712
5712	6L5	Ⅳ	30	25	13	7.160		>P5711
5713	6L5	Ⅳ	30	25	8	7.180		
5714	7L10	Ⅳ	25	21	(10)	7.181		
5715	7L10	Ⅳ	27	24	(9)	7.189		
5717	6K18	Ⅳ	(50)	48	10	7.210		<SB57-P5660
5718	6K7	Ⅳ	27	23	(11)	7.227		
5719	6J21、6K1	Ⅳ	33	28	33	7.040		
5720	3I15	Ⅳ	39	31	8	7.200		
5721	3I15、4I11	Ⅳ	20	17	6	7.200		
5722	3I20	Ⅳ	34	29	20	7.040	土師質土器	
5723	4J2	Ⅳ	44	33	26	7.010		
5724	4J2	Ⅳ	27	18	12	7.160		
5725	4I21	Ⅳ	21	18	9	7.190		
5726	7K18	Ⅳ	42	38	(11)	7.210		
5727	7K18	Ⅳ	28	25	(12)	7.196		
5728	3I20	Ⅳ	25	25	20	7.050	土師質土器	
5729	5J1	Ⅳ	29	27	27	6.940		
5730	3I13	Ⅳ	31	30	14	7.030		>SD5202
5731	3I18	Ⅳ	33	29	(21)	7.270		
5732	3I18	Ⅳ	49	34	(21)	7.261		
5733	3I9	Ⅳ	20	17	(7)	7.319		
5734	3I5	Ⅳ	22	19	(11)	7.280		
5736	19V22	Ⅳ	23	19	(26)	6.964		<SD5675、>SD5677
5737	19V23	Ⅳ	29	24	(53)	6.691		>SD5677
5738	19V23	Ⅳ	28	23	(27)	6.935		>SD5677
5739	19V19	Ⅳ	19	15	(13)	7.152		>SD5677

縄文時代　竪穴建物（SI）観察表

遺構番号	グリッド	検出層位	時期	形態			規模（cm）					底面標高（m）	覆土堆積状況	主軸方向	出土遺物（礫は除く）	切り合い
				平面	断面	立ち上がり	上端長径	上端短径	下端長径	下端短径	深度					
5794	4I24・25、4J4・5・9・10・15、5J1・6・11	Ⅶ	晩期	方形	箱状	垂直	536	508	434	411	63	6.620	D	南北 N-12-E 東西 N-77°-W		<P5593・P5598・P5599・P5795・P5803>P5802・P5596

柱穴（P）

遺構番号	グリッド	検出層位	時期	形態			規模（cm）					底面標高（m）	覆土堆積状況	主軸方向	出土遺物（礫は除く）	切り合い
				平面	断面	立ち上がり	上端長径	上端短径	下端長径	下端短径	深度					
5596	4J5	Ⅶ	晩期	楕円形		垂直	22	19	14	11	26	6.718	A	N-40°-W		
5597	4J5	Ⅶ	晩期	円形	半円状	急斜度	21	20	14	13	(5)	7.023	D	N-0°		
5598	4J4	Ⅶ	晩期	円形	U字状	急斜度	16	15	8	6	(14)	6.947	C	N-30°-E		
5599	4J4	Ⅶ	晩期	楕円形			25	15	15	8	(16)	6.890		N-59°-E		
5795	5J1	Ⅶ	晩期	方形	U字状	急斜度	55	36	18	18	(33)	6.740	D	N-27°-E		
5802	4J5	Ⅶ	晩期	楕円形	台形状	垂直	37	20	21	12	18	6.820	A	N-75°-W		
5803	4J5	Ⅶ	晩期	楕円形	台形状	垂直	24	16	8	7	40	6.650	A	N-30°-E		>P5593

縄文時代　掘立柱建物（SB）観察表

遺構番号	グリッド	時期	柱間長（m）	面積（㎡）	主軸方向	形式
60	6・7K	晩期後葉	1.40～1.60	4.36	N-45°-W	多角形平面型

柱穴

遺構番号	グリッド	規模（cm）			底面標高（m）	出土遺物	切り合い
		上端長径	上端短径	深度			
5559	6K20	28	28	19	6.850		
5561	7K17	18	14	14	6.900		
5566	7K11	20	17	6	6.940		
5576	7K16	24	20	12	6.900		
5583	7K21	19	18	11	6.990		

遺構番号	グリッド	時期	柱間長（m）	面積（㎡）	主軸方向	形式
61	6K	晩期後葉	0.90～1.40	5.16	N-44°-W	多角形平面型

柱穴

遺構番号	グリッド	規模（cm）			底面標高（m）	出土遺物	切り合い
		上端長径	上端短径	深度			
5568	6K13	43	35	26	6.760		<SC5770
5569	6K13	29	27	22	6.800		<SC5770
5584	6K18	27	24	16	6.800		
5585	6K13・14	21	17	27	6.810		<SC5770
5767	6K18	18	18	14	6.890		
5768	6K12・17	24	23	9	6.980		
5769	6K12・17	25	21	21	6.840		

縄文時代 土坑観察表

遺構番号	グリッド	検出層位	形態			規模（cm）					底面標高（m）	覆土堆積状況	主軸方向	出土遺物（礫は除く）	切り合い
			平面	断面	立ち上がり	上端長径	上端短径	下端長径	下端短径	深度					
5562	6K15、7K11	Ⅶ	不整形	弧状	緩やか	224	174	218	157	18	6.930	D	N-46°-W		
5743	7L20、8L16	Ⅶ	楕円形	台形状	垂直	132	118	68	52	72	7.510	C	N-42°-E	縄文土器	<P5749
5751	7L24	Ⅶ	楕円形	弧状	緩やか	150	76	114	37	13	7.010	A	N-70°-E		
5761	7K21・22、7L1・2	Ⅶ	不整形	弧状	緩やか	138	128	108	104	16	6.980	A	N-50°-W		
5762	6K19・20・24	Ⅶ	不整形	台形状	急斜度	245	146	216	63	36	6.710	A	N-11°-E		>P5565・P5574
5771	5K4	Ⅶ	楕円形	半円状	急斜度	98	80	21	19	40	6.700	A	N-48°-E		
5789	5F20・25、6F16・21	Ⅶ	不整形	弧状	緩やか	181	176	139	120	25	6.490	A	N-50°-E		
5791	5G20・25	Ⅶ	不整形	台形状	急斜度	124	64	31	73	28	6.520	A	N-0°		
5792	5G20、6G16	Ⅶ	楕円形	台形状	急斜度	62	44	24	13	26	6.650	A	N-45°-E		

縄文時代　ピット（P）観察表

遺構番号	グリッド	検出層位	規模（cm）			底面標高（m）	切り合い
			上端長径	上端短径	深度		
5526	11H16	Ⅶ	61	45	38	6.440	
5558	6L5	Ⅶ	30	21	8	7.010	
5560	6K20、7K16	Ⅶ	23	14	10	6.930	
5563	6K23	Ⅶ	17	16	23	6.900	
5564	6K24・25	Ⅶ	34	20	13	6.950	
5565	6K19	Ⅶ	21	(19)	13	6.830	<SK5762
5567	7K11	Ⅶ	32	27	12	6.920	
5570	6K7	Ⅶ	34	27	17	6.850	
5571	6K7	Ⅶ	39	30	10	6.940	
5572	6K2・7	Ⅶ	35	27	19	6.860	
5573	6L3	Ⅶ	29	25	24	6.740	
5574	6K20	Ⅶ	24	18	10	6.940	<SK5762
5575	6K20	Ⅶ	23	23	13	6.880	
5577	6K14	Ⅶ	21	19	23	6.800	
5578	6K13	Ⅶ	31	29	16	6.840	
5579	5K9	Ⅶ	27	19	12	6.940	
5580	6K6	Ⅶ	31	26	26	6.740	
5581	6J21、6K1	Ⅶ	28	22	16	6.900	
5582	6K10	Ⅶ	31	22	8	6.900	
5586	6J23	Ⅶ	31	21	15	6.860	
5587	6K8	Ⅶ	25	19	15	6.830	
5588	5K4	Ⅶ	25	18	22	6.860	
5589	5J23	Ⅶ	34	28	28	6.760	
5590	5J16	Ⅶ	36	(32)	12	6.920	
5591	6K9	Ⅶ	19	15	18	6.900	
5593	4J5	Ⅶ	27	22	17	6.960	<P5803
5594	5K4・5	Ⅶ	19	17	21	6.860	
5735	7L12	Ⅶ	24	19	16	7.030	
5745	7L12	Ⅶ	41	31	20	7.030	
5746	7K23	Ⅶ	24	20	(15)	7.042	
5747	7K23	Ⅶ	22	21	(27)	6.920	
5748	7L11	Ⅶ	21	17	20	6.960	

遺構番号	グリッド	検出層位	規模（cm）			底面標高（m）	切り合い
			上端長径	上端短径	深度		
5749	7L20	Ⅶ	41	31	20	7.030	>SK5743
5750	7L6	Ⅶ	30	24	13	7.030	
5752	7L6	Ⅶ	52	25	16	7.060	
5755	7K21	Ⅶ	22	18	16	6.980	
5756	7K16	Ⅶ	33	29	26	6.900	
5757	7L20	Ⅶ	21	14	13	7.030	
5758	7K22、7L2	Ⅶ	14	12	13	7.010	
5759	6K24	Ⅶ	38	31	23	6.910	
5760	6L4	Ⅶ	27	24	13	6.970	
5763	7L11	Ⅶ	30	27	24	6.920	
5764	7L6	Ⅶ	23	20	28	6.880	
5766	6K9	Ⅶ	24	22	17	6.850	
5772	7K16	Ⅶ	17	16	11	6.990	
5773	5H1・2	Ⅶ	27	24	13	6.630	
5774	5G21	Ⅶ	30	26	17	6.570	
5775	3I5	Ⅶ	36	30	28	6.500	
5776	5G17	Ⅶ	27	24	13	6.620	
5777	4H9	Ⅶ	30	28	22	6.520	
5782	6H5	Ⅶ	19	18	(11)	6.734	
5783	6H9	Ⅶ	26	20	(9)	6.510	
5784	6H9	Ⅶ	15	13	(12)	6.516	
5785	8H16	Ⅶ	21	18	(12)	6.796	
5786	8H11	Ⅶ	18	16	(13)	6.754	
5787	8I1	Ⅶ	34	27	(26)	6.717	
5793	6G22	Ⅶ	26	26	20	6.600	
5796	5J1・2	Ⅶ	46	42	(20)	6.920	
5797	5K3	Ⅶ	24	22	(15)	6.925	
5800	5J7	Ⅶ	28	26	12	7.038	
5805	6K22	Ⅶ	(19)	12	(6)	6.755	
5806	6K21・22	Ⅶ	(27)	24	(5)	6.761	
5807	7K22	Ⅶ	(21)	19	(5)	7.085	

縄文時代　旧河道（SR）観察表

遺構番号	グリッド	検出層位	規模					底面標高（m）	主軸方向	出土遺物（礫は除く）	切り合い
			上端長径	上端短径	下端長径	下端短径	深度				
2444（上層）	12・13G、11～14H、9～13I、8J～12J、8K～11K、8～10L・8・9M、8・9N	Ⅶ	78m以上	（30m）	78m以上	1m以上	北東端 2.2m 南西端 4.4m	北東端 3.800 南西端 4.600	N-55˚-E	縄文土器	
2444（下層）	10～13G、8～14H、9～13I、8～12J、8～11K、8～10L、8・9M、8・9N	Ⅶ	50m以上	（40m）	50m以上	（10m）	1.60m	5.400	N-34˚-E	縄文土器、石器	

焼土・炭化物の集積（SC）観察表

遺構番号	グリッド	検出層位	形態			規模（cm）					底面標高（m）	埋土堆積状況	主軸方向	出土遺物	切り合い
			平面	断面	立ち上がり	上端長径	上端短径	下端長径	下端短径	深度					
5502	12G16・17	SR2444-3a	（円形）	弧状	緩やか	78	74	−	−	6	6.520	D	N-8˚-E		
5504	12G20・25	SR2444-3a	不整形	弧状	緩やか	155	110	−	−	5	6.042	D	N-11˚-W	縄文土器	
5505	12G25、12H5、13G21、13H1	SR2444-3a	楕円形	弧状	緩やか	146	118	−	−	7	6.910	D	N-36˚-W		
5506	12H4・9・10	SR2444-3a	楕円形	弧状	緩やか	104	95	92	85	5	6.440	A	N-16˚-E		
5509	12H3・4・8	SR2444-3a	楕円形	弧状	緩やか	102	92	−	−	13	6.260	D	N-26˚-W		
5510	11I20、12I11・16	SR2444-3a	楕円形	弧状	緩やか	176	104	72	64	11	6.260	D	N-37˚-E	縄文土器	
5511	11I17	SR2444-3a	楕円形	弧状	緩やか	36	30	28	18	3	6.970	D	N-85˚-E		
5512	10H14・19	SR2444-3a	不整形	弧状	緩やか	196	91	−	−	9	7.080	A	N-10˚-W		
5514	12H15、13H6・11	SR2444-3a	不整形	弧状	緩やか	217	194	−	−	4	6.960	D	N-47˚-W	縄文土器	
5515	8I9・10	SR2444-3a	不整形	弧状	緩やか	176	168	−	−	22	6.960	D	N-45˚-E		
5516	10J19・24	SR2444-3a	不整形	弧状	緩やか	294	182	−	−	6	6.920	D	N-7˚-E		
5517	9K13・14・18・19	SR2444-3a	不整形	弧状	緩やか	96	96	−	−	5	6.840	D	N-6˚-E		
5518	9K11・16	SR2444-3a	不整形	弧状	緩やか	114	75	−	−	4	6.860	D	N-39˚-W		
5519	8K18・23	SR2444-3a	不整形	弧状	緩やか	115	102	−	−	8	6.840	D	N-44˚-W		
5520	11I14	SR2444-3h	不整形	弧状	緩やか	88	56	−	−	3	5.950	D	N-3˚-W		
5521	11I15・20	SR2444-3h	不整形	弧状	緩やか	（139）	85	−	−	4	5.800	A	N-45˚-E	縄文土器	
5522	11I14・15	SR2444-3h	不整形	弧状	緩やか	78	50	−	−	4	5.860	D	N-53˚-E	縄文土器	
5523	11I14	SR2444-3h	楕円形	弧状	緩やか	27	19	−	−	2	5.890	A	N-43˚-W		
5524	11I10・15	SR2444-3h	不整形	弧状	緩やか	57	53	−	−	2	5.850	A	N-40˚-E		
5525	11I15、12I11	SR2444-3h	楕円形	弧状	緩やか	（89）	82	−	−	2	5.730	A	N-40˚-E		
5527	12G10	SR2444-3h	楕円形	弧状	緩やか	77	50	−	−	4	6.330	D	N-39˚-W		
5528	13G16	SR2444-3h	楕円形	弧状	緩やか	40	26	−	−	2	5.950	D	N-42˚-W		
5529	13G16	SR2444-3h	（円形）	弧状	緩やか	17	16	−	−	4	5.950	D	N-42˚-E		
5530	11H19・20	SR2444-5e	楕円形	弧状	緩やか	94	48	−	−	5	6.350	D	N-45˚-E		
5531	13H1	SR2444-5e	不整形	弧状	緩やか	115	68	−	−	4	5.350	A	N-44˚-W		
5532	12I11	SR2444-5e	不整形	弧状	緩やか	59	46	−	−	1	5.270	A	N-45˚-E	縄文土器	>SC5534
5533	12I11・16	SR2444-5e	不整形	弧状	緩やか	190	151	−	−	3	5.030	D	N-44˚-E	縄文土器	=SC5534、>SC5541
5534	12I6・11	SR2444-5e	不整形	弧状	緩やか	145	108	−	−	2	5.180	D	N-45˚-E	縄文土器	=SC5533、<SC5532
5535	11I25	SR2444-5e	不整形	弧状	緩やか	98	（68）	−	−	3	5.270	D	N-42˚-E	縄文土器	>SC5543
5536	11J4	SR2444-5e	不整形	弧状	緩やか	116	（50）	−	−	3	5.490	D	N-50˚-E		>SC5542
5537	11I14・15・19・20	SR2444-5e	不整形	弧状	緩やか	163	（72）	−	−	2	5.290	D	N-42˚-E		
5538	11I19	SR2444-5e	楕円形	弧状	緩やか	27	22	−	−	3	5.470	D	N-60˚-W		
5539	11I19	SR2444-5e	不整形	弧状	緩やか	32	17	−	−	2	5.470	D	N-30˚-E		
5540	11I19	SR2444-5e	不整形	弧状	緩やか	31	23	−	−	2	5.530	D	N-30˚-E		
5541	12I11	SR2444-5e	円形	弧状	緩やか	14	13	−	−	3	5.270	D	N-50˚-W		<SC5533
5542	11J4	SR2444-5e	円形	弧状	緩やか	18	18	−	−	3	5.250	D	N-50˚-E		<SC5536
5543	11I25	SR2444-5e	円形	弧状	緩やか	12	12	−	−	2	5.250	D	N-32˚-W		<SC5535
5544	10J2	SR2444-12b	不整形	弧状	緩やか	45	29	−	−	2	5.760	D	N-10˚-W		
5545	9J20・25、10J16	SR2444-12b	不整形	弧状	緩やか	114	32	−	−	4	5.520	D	N-67˚-E		
5550	9J12	SR2444-12b	楕円形	弧状	緩やか	42	21	−	−	4	6.210	D	N-41˚-W		
5551	9I13・18	SR2444-12b	不整形	弧状	緩やか	128	52	−	−	7	6.050	D	N-4˚-W		
5552	9J17・18・22・23	SR2444-12b	不整形	弧状	緩やか	131	118	−	−	10	6.080	A	N-45˚-W		
5553	8K5	SR2444-12d	楕円形	弧状	緩やか	55	38	−	−	4	6.040	D	N-46˚-W		
5554	9J21・22	SR2444-12d	不整形	弧状	緩やか	220	129	−	−	4	5.760	D	N-0˚		
5555	10H23・24	SR2444-8a	不整形	弧状	緩やか	88	（40）	−	−	3	6.820	D	N-0˚		
5556	10H21・22	SR2444-8a	不整形	弧状	緩やか	48	（30）	−	−	4	6.820	D	N-40˚-E		
5557	10H21	SR2444-8a	不整形	弧状	緩やか	30	21	−	−	4	6.980	D	N-0˚		
5740	8L21・22、8M12	Ⅶ	楕円形	弧状	緩やか	110	57	94	41	4	7.140	D	N-72˚-W		
5741	8M7・8	Ⅶ	不整形	弧状	緩やか	84	84	76	73	7	7.180	A	N-45˚-W		
5742	7M5、8M1	Ⅶ	円形	弧状	緩やか	94	93	84	82	15	7.030	D	N-49˚-E		
5744	7L13・14・18・19	Ⅶ	楕円形	弧状	緩やか	94	75	79	65	8	7.110	D	N-48˚-W		
5770	6K13・14	Ⅶ	不整形	弧状	緩やか	228	140	−	−	4	7.080	D	N-73˚-W		
5778	5G24・25	Ⅶ	不整形	弧状	垂直	152	42	130	27	20	6.840	A	N-50˚-E		
5780	4H5、5H1	Ⅶ	不整形	弧状	緩やか	144	98	94	78	8	6.735	A	N-42˚-E		
5790	5F25、5G25	Ⅶ	方形	弧状	緩やか	142	119	116	96	10	6.810	D	N-54˚-W		

古墳時代～中世　土器・陶磁器観察表（1）

胎土の略称：雲母…雲、金雲母…金、黒雲母…黒、石英…石、長石…長、角閃石…角、海綿骨針…海骨、白色粒子…白

報告番号	種類	器種	分類	時代・時期	出土地点			法量（cm）			色調		胎土	調整			回転方向	備考
					グリッド	遺構	層位	口径	器高	底径	外面	内面		外面	内面	底面		
1	土師質土器	Ⅲ	R		10G1	SB51-P5483	1		（1.6）	7.0	浅黄橙（7.5YR8/6）	浅黄橙（7.5YR8/4）		ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸		
2	土師質土器	Ⅲ	R		10G1	SB51-P5483	3		（1.7）	7.8	橙（7.5YR7/6）	橙（7.5YR7/6）	白	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸		
3	土師質土器	Ⅲ	R1		6K1	SB57-P5657	3	10.1	2.7	7.0	浅黄橙（10YR8/4）	橙（5YR7/8）	白多・石	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸		
4	珠洲焼	甕			6J24	SB57-P5642	1				灰（N5/1）	灰（N5/1）	白多	平行タタキ	無文当て具			
5	土師質土器	Ⅲ	RH1		9H3	SK5400	1	13.0	3.2	8.0	浅黄橙（7.5YR8/3）	浅黄橙（7.5YR8/3）		ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ		
6	珠洲焼	壺	T種	Ⅳ期	9H9	SE5401	10				灰（N5/1）	灰（N6/1）	海骨・白	平行タタキ	無文当て具			
7	珠洲焼	壺	T種		9H9	SE5401	11		（4.3）	10.7	灰（N6/1）	灰（N6/1）	白	指押さえ		静止糸		内・断面煤

古墳時代～中世　土器・陶磁器観察表（2）

報告番号	種類	器種	分類	時代・時期	出土地点			法量（cm）			色調		胎土	調整			回転方向	備考
					グリッド	遺構	層位	口径	器高	底径	外面	内面		外面	内面	底面		
8	珠洲焼	甕		Ⅲ期	9H4	SE5401	11				灰（N6/1）	灰（N6/1）	白	平行タタキ	無文当て具			
9	珠洲焼	片口鉢		Ⅲ期	9H4	SE5401	13				灰（7.5Y灰6/1）	灰（7.5Y灰6/1）	海骨・白	ロクロナデ	ロクロナデ			
10	瓷器系陶器	鉢			9H4	SE5401	2				橙（7.5YR6/6）	にぶい橙（7.5YR6/4）	白	ロクロナデ	ロクロナデ			北越窯
11	青磁	椀		13C後～14C前	9H4	SE5401	11				灰白（10Y7/2）	灰白（10Y7/2）			外体鎬蓮弁文			龍泉窯
12	土師質土器	皿	R1		8E18	SE5100	1	11.7	3.9	7.8	黄橙（7.5YR8/8）	浅黄橙（7.5YR8/6）	金	ロクロナデ	ロクロナデ螺旋状	回転糸	右	
13	土師質土器	皿	RH1		8E18	SE5100	1	12.3	4.3	8.0	黄橙（10YR8/6）	黄橙（10YR8/6）	金	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ	右	内外煤
14	土師質土器	皿	RH1		8E18	SE5100	3	12.3	3.7	7.0	浅黄橙（7.5YR8/4）	浅黄橙（7.5YR8/4）		ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ		
15	土師質土器	小皿	R1		8E18	SE5100	1	7.4	1.7	6.0	黄橙（7.5YR8/8）	浅黄橙（7.5YR8/6）	金	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸		
16	珠洲焼	片口鉢			8E18	SE5100	1			11.0	灰（N6/1）	灰（N6/1）	白		卸し目17目	静止糸		
					8E23	SE5101	3											
					7E7・8・12・13	SE5130	1											
					9D11	SD5132	9											
					7G23	SD5260	3											
17	土師質土器	皿	RH1		8F3	SE5101	6	13.3	4.0	8.6	浅黄橙（7.5YR8/3）	浅黄橙（7.5YR8/4）	金	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ	左	
18	土師質土器	小皿	R1		8F3	SE5101	6	7.4	1.5	5.8	浅黄橙（10YR8/3）	浅黄橙（10YR8/3）	金	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸	右	
19	土師質土器	小皿	R1		8F3	SE5101	6	7.3	1.8	6.0	にぶい黄橙（10YR7/3）	にぶい橙（7.5YR7/4）		ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸板状圧痕	右	
20	土師質土器	小皿	R1		8F3	SE5101	6	7.4	1.8	6.0	浅黄橙（7.5YR8/4）	浅黄橙（7.5YR8/4）	金	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸	右	
21	土師質土器	小皿	R1		8F3	SE5101	3	8.0	1.1	5.8	橙（5YR7/8）	橙（5YR7/8）	白多	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸	右	
22	土師質土器	小皿	R1		8E23	SE5101	3			6.0	橙（5YR7/8）	橙（5YR7/8）	白多	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸	右	
23	土師質土器	小皿	RH1		8F3	SE5101	6	6.2	1.5	5.6	浅黄橙（7.5YR8/4）	浅黄橙（7.5YR8/4）		ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ	左	
24	青磁	椀			8F3	SE5101	2				オリーブ灰（10Y5/2）	オリーブ灰（10Y5/2）		鎬蓮弁文				龍泉窯
25	須恵器	無台杯		古代	8E23	SE5101	3		（1.5）	7.6	灰（7.5Y5/1）	灰（7.5Y5/1）	白	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ		
26	土師質土器	皿	R1		8F5.10	SE5102	1・3	12.3	3.9	7.8		浅黄橙（7.5YR8/4）	金	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸	右	内外煤
27	土師質土器	皿	R1		8F10	SE5102	3	11.6	3.5	7.2	にぶい橙（7.5YR7/4）	灰褐（7.5YR5/2）	金	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸	右	内外・断面煤
28	土師質土器	皿	R1		8F5	SE5102	3	11.0	3.8	8.0	浅黄橙（7.5YR8/3）	浅黄橙（10YR8/3）	金	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸	左	内煤
29	土師質土器	皿	R1		8F5.10	SE5102	1・3・5	11.3	3.3	8.0	浅黄橙（7.5YR8/6）	浅黄橙（7.5YR8/6）		ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸	右	
30	土師質土器	皿	R1		8F5	SE5102	4・8	11.8	3.7	8.6	浅黄橙（7.5YR8/4）	浅黄橙（7.5YR8/4）	金	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸	右	
31	土師質土器	皿	R1		8F5	SE5102	5・11	10.8	3.1	7.8	橙（7.5YR7/6）	橙（7.5YR7/6）	金	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸		
32	土師質土器	皿	R1		8F5.10	SE5102	3・4・8	10.7	3.4	6.7	浅黄橙（7.5YR8/6）	黄橙（7.5YR8/8）		ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸		
33	土師質土器	皿	R		8F9	SE5102	23			8.3	浅黄橙（7.5YR8/4）	浅黄橙（7.5YR8/4）	金	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸	右	
34	土師質土器	皿	RH1		8F5	SE5102	3	11.7	3.5	7.4	にぶい橙（7.5YR7/4）	にぶい橙（7.5YR7/4）	金	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ	左	
35	土師質土器	皿	RH		8F10	SE5102	1			7.0	にぶい橙（7.5YR7/4）	浅黄橙（7.5YR8/6）	金	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ	左	
36	土師質土器	皿	R2		8F5.10	SE5102	10・14	11.8	3.6	6.5	にぶい黄橙（10YR7/3）	にぶい黄橙（10YR7/3）	金	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸	右	内外煤
37	土師質土器	皿	R2		8F5	SE5102	3	12.5	3.5	7.0	浅黄橙（7.5YR8/6）	浅黄橙（7.5YR8/6）	金	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸	右	
38	土師質土器	皿	R2		8F5	SE5102	6	12.5	3.5	6.0	浅黄橙（7.5YR8/6）	浅黄橙（7.5YR8/6）	金	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸	右	
39	土師質土器	皿	R2		8F5	SE5102	7	12.0	3.5	7.0	浅黄橙（7.5YR8/6）	浅黄橙（7.5YR8/6）		ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸	右	
40	土師質土器	皿	R2		8F5	SE5102	3	11.4	3.2	6.0	浅黄橙（7.5YR8/6）	橙（7.5YR7/6）	金	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸		
41	土師質土器	皿	R2		8F5	SE5102	14	11.8	3.1	6.4	浅黄橙（7.5YR8/6）	浅黄橙（7.5YR8/6）	金	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸	右	
42	土師質土器	皿	R2		8F5	SE5102	1	11.7	3.0	6.2	浅黄橙（7.5YR8/6）	浅黄橙（7.5YR8/6）	金	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸	右	
43	土師質土器	皿	R2		8F5	SE5102	4	11.6	3.2	6.0	にぶい橙（7.5YR7/4）	浅黄橙（7.5YR8/6）	金	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸		
44	土師質土器	皿	R2		8F10	SE5102	6	11.2	2.7	5.3	にぶい橙（7.5YR6/4）	にぶい橙（7.5YR6/4）		ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸		
45	土師質土器	小皿	R1		8F5	SE5102	1	7.0	1.6	5.4	浅黄橙（7.5YR8/6）	浅黄橙（7.5YR8/6）	金	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸	右	内外煤
46	土師質土器	小皿	R1		8F5	SE5102	1	7.3	1.5	5.6	にぶい橙（7.5YR7/4）	にぶい橙（7.5YR7/4）		ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸	右	内外煤
47	土師質土器	小皿	R1		8F10	SE5102	1	7.2	1.6	6.0	にぶい黄橙（10YR7/3）	にぶい黄橙（10YR7/3）	金	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸	右	内外煤
48	土師質土器	小皿	R1		8F5	SE5102	3	6.9	1.6	5.8	橙（7.5YR7/6）	浅黄橙（7.5YR8/6）		ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸	右	内煤
49	土師質土器	小皿	R1		8F5	SE5102	1	7.0	1.8	5.1	橙（7.5YR7/6）	にぶい橙（7.5YR6/4）		ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸	右	歪み有
50	土師質土器	小皿	R1		8F5.10	SE5102	1	7.6	1.4	6.0	にぶい橙（7.5YR7/4）	にぶい橙（7.5YR7/4）	金	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸	右	
51	土師質土器	小皿	R1		8F10	SE5102	4	7.0	1.7	5.8	浅黄橙（7.5YR8/6）	浅黄橙（7.5YR8/6）	金	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸	右	
52	土師質土器	小皿	R1		8F5.10	SE5102	5	7.1	1.6	6.3	浅黄橙（7.5YR8/4）	浅黄橙（7.5YR8/6）	金	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸	右	
53	土師質土器	小皿	RH1		8F10	SE5102	1	6.9	1.5	5.0	浅黄橙（7.5YR8/6）	橙（7.5YR7/6）	金	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ		
54	土師質土器	小皿			8F4	SE5102	4			5.6	橙（7.5YR7/6）	橙（7.5YR7/6）	金	ロクロナデ	ロクロナデ			
55	土師質土器	小皿			8F5	SE5102	11・12			5.6	浅黄橙（7.5YR8/4）	浅黄橙（7.5YR8/4）		ロクロナデ	ロクロナデ			

古墳時代～中世　土器・陶磁器観察表（3）

報告番号	種類	器種	分類	時代・時期	出土地点			法量（cm）			色調		胎土	調整			回転方向	備考
					グリッド	遺構	層位	口径	器高	底径	外面	内面		外面	内面	底面		
56	土師質土器	小皿	R1		8J4	SE5126	4	7.2	1.9	5.8	浅黄橙（7.5YR8/6）	浅黄橙（7.5YR8/6）		ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸		
57	珠洲焼	甕			8J4	SE5126	8				灰（N5/1）	灰（N5/1）	白多	平行タタキ	無文当て具			
58	青磁	椀		13C後～14C前	8J4	SE5126	5				オリーブ灰（10Y5/2）	オリーブ灰（10Y5/2）		鎬蓮弁文				龍泉窯
59	土師器	長甕		古代	8J4	SE5126	10				にぶい橙（7.5YR6/4）	にぶい橙（7.5YR7/4）	石多	平行タタキ	同心円当て具			
60	須恵器	甕		古代	8J4	SE5126	6				黒褐（10YR3/1）	にぶい黄橙（10YR7/2）	白	平行タタキ	同心円当て具			
61	土師質土器	皿	R1		8E21	SE5129	14	11.2	3.5	7.6	浅黄橙（10YR8/4）	浅黄橙（10YR8/4）		ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸	右	内外煤
62	土師質土器	皿	R1		8E21	SE5129	14	11.4	4.0	7.8	黄橙（7.5YR8/8）	黄橙（7.5YR8/8）	金	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸	右	内外煤
63	土師質土器	皿	R1		8E21	SE5129	14	11.5	3.5	7.2	浅黄橙（7.5YR8/6）	黄橙（7.5YR8/8）	金	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸	右	内外煤
64	土師質土器	皿	R1		8E21	SE5129	14	11.6	3.7	7.4	浅黄橙（10YR8/4）	浅黄橙（10YR8/4）	金	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸	右	内外・断面煤
65	土師質土器	皿	R1		8E21	SE5129	14	11.3	3.3	7.0	浅黄橙（7.5YR8/6）	黄橙（7.5YR8/8）	金	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸	右	内煤
66	土師質土器	皿	R1		8F1	SE5129	14	12.0	3.8	8.3	浅黄橙（7.5YR8/6）	黄橙（7.5YR8/8）		ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸	右	内煤
67	土師質土器	皿	R1		8F1	SE5129	14	12.2	3.3	8.0	浅黄橙（7.5YR8/4）	浅黄橙（7.5YR8/4）	金	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸	右	内外煤
68	土師質土器	皿	R1		7F5	SE5129	14	10.6	4.1	8.1	浅黄橙（7.5YR8/6）	浅黄橙（7.5YR8/6）	金	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸	右	内煤
69	土師質土器	皿	R1		8F1	SE5129	14	11.5	3.9	8.5	橙（7.5YR7/6）	浅黄橙（7.5YR8/6）	金	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸	右	
70	土師質土器	皿	R1		8F1	SE5129	14	12.2	3.3	8.4	浅黄橙（7.5YR8/6）	浅黄橙（7.5YR8/4）	金	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸	右	
71	土師質土器	皿	R1		8F1	SE5129	14	11.9	3.9	7.8	浅黄橙（7.5YR8/6）	浅黄橙（7.5YR8/6）	金	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸	右	
72	土師質土器	皿	R1		8F1	SE5129	14	12.6	4.1	8.0	浅黄橙（7.5YR8/6）	浅黄橙（7.5YR8/6）	金	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸	右	
73	土師質土器	皿	R1		8F1	SE5129	14	12.6	3.4	8.4	浅黄橙（7.5YR8/6）	浅黄橙（7.5YR8/4）	金	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸		
74	土師質土器	皿	R1		8E21	SE5129	14	12.3	3.2	7.8	浅黄橙（7.5YR8/4）	浅黄橙（7.5YR8/6）	金	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸		
75	土師質土器	皿	R1		8F1	SE5129	14	12.2	3.9	8.7	浅黄橙（7.5YR8/4）	浅黄橙（7.5YR8/6）	金	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸		
76	土師質土器	皿	R1		7F5 8E21 8F1	SE5129	10・14	12.2	3.9	8.1	浅黄橙（7.5YR8/6）	浅黄橙（7.5YR8/6）		ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸	右	
77	土師質土器	皿	R1		7F5	SE5129	14	12.2	4.2	8.1	浅黄橙（7.5YR8/6）	浅黄橙（7.5YR8/6）		ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸		
78	土師質土器	皿	R1		7F5 8F1	SE5129	14	12.2	3.4	8.0	浅黄橙（7.5YR8/4）	浅黄橙（7.5YR8/6）	金	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸		
79	土師質土器	皿	R1		8F1	SE5129	14	12.2	3.6	7.9	浅黄橙（7.5YR8/4）	浅黄橙（7.5YR8/6）	金	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸		
80	土師質土器	皿	R1		7F5	SE5129	14	12.2	3.7	7.8	浅黄橙（7.5YR8/4）	浅黄橙（7.5YR8/4）	金	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸	右	
81	土師質土器	皿	R1		7F5	SE5129	14	12.1	3.5	7.8	浅黄橙（7.5YR8/4）	浅黄橙（7.5YR8/4）	金	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸	右	
82	土師質土器	皿	R1		8F1	SE5129	10・14	12.0	4.2	7.2	にぶい黄橙（10YR7/4）	浅黄橙（10YR8/4）	金	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸	右	
83	土師質土器	皿	R1		8E21	SE5129	14	12.0	3.5	7.4	浅黄橙（7.5YR8/6）	浅黄橙（7.5YR8/6）	金	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸	右	
84	土師質土器	皿	R1		8F1	SE5129	14	11.9	3.9	9.1	浅黄橙（7.5YR8/6）	浅黄橙（7.5YR8/6）	金	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸	右	
85	土師質土器	皿	R1		7F5・8E21	SE5129	14	11.8	3.9	8.1	浅黄橙（7.5YR8/6）	浅黄橙（7.5YR8/6）	金	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸	右	
86	土師質土器	皿	R1		8F1	SE5129	14	11.8	3.1	7.4	浅黄橙（7.5YR8/6）	浅黄橙（7.5YR8/6）	金	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸		
87	土師質土器	皿	R1		8E21・8F1	SE5129	14	11.7	3.2	8.4	浅黄橙（7.5YR8/4）	浅黄橙（7.5YR8/6）		ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸		
88	土師質土器	皿	R1		8F1	SE5129	14	11.4	3.5	8.0	黄橙（7.5YR8/8）	黄橙（7.5YR8/8）	金	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸	右	
89	土師質土器	皿	R1		8F1	SE5129	14	11.2	3.5	8.1	浅黄橙（7.5YR8/6）	浅黄橙（7.5YR8/6）	金	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸	右	
90	土師質土器	皿	R1		7F5	SE5129	14	11.2	3.6	7.0	浅黄橙（7.5YR8/6）	黄橙（7.5YR8/8）		ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸		
91	土師質土器	皿	R1		8F1	SE5129	14	11.2	3.8	7.4	浅黄橙（7.5YR8/6）	浅黄橙（7.5YR8/6）	金	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸		
92	土師質土器	皿	R1		7F5	SE5129	14	10.9	3.7	6.7	浅黄橙（10YR8/4）	浅黄橙（10YR8/4）	金	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸	右	
93	土師質土器	皿	R1		8F1	SE5129	14	10.9	3.2	6.9	浅黄橙（7.5YR8/4）	浅黄橙（7.5YR8/4）		ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸	右	
94	土師質土器	皿	R1		8F1	SE5129	14	10.9	3.8	6.8	浅黄橙（7.5YR8/6）	浅黄橙（7.5YR8/6）		ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸	右	
95	土師質土器	皿	R1		7F5	SE5129	14	10.8	4.1	7.0	浅黄橙（7.5YR8/6）	浅黄橙（7.5YR8/6）	石	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸	右	
96	土師質土器	皿	R1		8F1	SE5129	14	10.9	3.6	7.1	浅黄橙（7.5YR8/6）	浅黄橙（7.5YR8/6）		ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸	右	
97	土師質土器	皿	R		7F5	SE5129	14			8.2	橙（7.5YR7/6）	橙（7.5YR7/6）		ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸	右	
98	土師質土器	皿	R		7F5	SE5129	14			6.8	浅黄橙（7.5YR8/6）	浅黄橙（7.5YR8/6）	金	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸	右	
99	土師質土器	皿	RH1		8F1	SE5129	14	11.0	3.4	6.8	浅黄橙（7.5YR8/4）	浅黄橙（7.5YR8/4）	金	ロクロナデ	ロクロナデ	静止ヘラ		
100	土師質土器	皿	R2		8F1	SE5129	14	13.3	3.6	7.5	にぶい橙（7.5YR7/4）	浅黄橙（7.5YR8/4）	石・金	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸	右	
101	土師質土器	皿	R2		8F1	SE5129	14	13.1	3.0	6.6	浅黄橙（7.5YR8/4）	浅黄橙（7.5YR8/4）	金	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸		
102	土師質土器	皿	R2		8F1	SE5129	14	12.5	3.4	6.8	浅黄橙（7.5YR8/3）	浅黄橙（7.5YR8/3）	石・金	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸	右	
103	土師質土器	皿	R2		8E21	SE5129	14	12.4	3.8	7.4	浅黄橙（7.5YR8/4）	浅黄橙（7.5YR8/4）	金	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸	右	
104	土師質土器	皿	R2		8F1	SE5129	14	11.9	3.2	6.2	浅黄橙（7.5YR8/6）	浅黄橙（7.5YR8/6）	金	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸		
105	土師質土器	皿	R2		8F1	SE5129	14	11.9	3.3	6.3	浅黄橙（7.5YR8/4）	橙（7.5YR7/6）	金	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸		

古墳時代～中世　土器・陶磁器観察表（4）

報告番号	種類	器種	分類	時代・時期	出土地点			法量（cm）			色調		胎土	調整			回転方向	備考
					グリッド	遺構	層位	口径	器高	底径	外面	内面		外面	内面	底面		
106	土師質土器	皿	R2		8E21	SE5129	14	11.0	4.1	6.2	浅黄橙（7.5YR8/4）	浅黄橙（7.5YR8/4）	金	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸	右	内外・断面煤
107	土師質土器	皿	R2		8E21	SE5129	14	11.8	3.7	6.8	浅黄橙（7.5YR8/6）	黄橙（7.5YR8/8）	金	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸	右	内外煤
108	土師質土器	皿	R2		8E21	SE5129	14	11.6	4.1	7.2	浅黄橙（10YR8/4）	浅黄橙（10YR8/4）	金	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸	右	内外・断面煤
109	土師質土器	皿	R2		8E21・8F1	SE5129	14	12.1	3.4	7.0	浅黄橙（7.5YR8/4）	浅黄橙（7.5YR8/6）	金	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸		内煤
110	土師質土器	小皿	R1		8E21	SE5129	14	7.8	1.6	6.1	浅黄橙（10YR8/4）	浅黄橙（10YR8/4）		ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸	右	内外煤
111	土師質土器	小皿	R1		8F1	SE5129	14	7.8	1.7	6.2	浅黄橙（7.5YR8/4）	浅黄橙（7.5YR8/4）		ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸	右	内外煤
112	土師質土器	小皿	R1		8E21	SE5129	14	7.9	1.5	6.1	浅黄橙（7.5YR8/4）	浅黄橙（7.5YR8/6）		ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸	右	内外煤
113	土師質土器	小皿	R1		8F1	SE5129	14	7.3	1.7	5.6	浅黄橙（10YR8/4）	浅黄橙（10YR8/4）	金	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸	右	内外煤
114	土師質土器	小皿	R1		8F1	SE5129	14	7.3	1.5	6.1	浅黄橙（7.5YR8/6）	浅黄橙（7.5YR8/6）	金	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸	右	内外煤
115	土師質土器	小皿	R1		7F5	SE5129	14	7.3	1.4	5.6	浅黄橙（10YR8/4）	浅黄橙（10YR8/4）	金	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸	右	内外煤
116	土師質土器	小皿	R1		8F1	SE5129	14	7.1	1.5	4.6	浅黄橙（10YR8/4）	浅黄橙（10YR8/4）	金	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸	右	内外煤
117	土師質土器	小皿	R1		8F1	SE5129	14	7.0	1.8	6.1	浅黄橙（7.5YR8/4）	浅黄橙（7.5YR8/4）	金	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸	右	内外煤
118	土師質土器	小皿	R1		8F1	SE5129	14	6.9	1.8	5.6	浅黄橙（7.5YR8/4）	浅黄橙（7.5YR8/4）	金	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸	右	内外煤
119	土師質土器	小皿	R1		8E21・8F1	SE5129	14	6.8	1.7	6.0	浅黄橙（7.5YR8/4）	浅黄橙（7.5YR8/6）		ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸	右	内外煤
120	土師質土器	小皿	R1		8F1	SE5129	13	6.6	1.6	5.4	浅黄橙（7.5YR8/6）	浅黄橙（7.5YR8/6）	金	ロクロナデ	内外ロクロナデ	回転糸	右	内煤
121	土師質土器	小皿	R1		8F1	SE5129	14	8.0	1.7	6.0	浅黄橙（7.5YR8/4）	浅黄橙（7.5YR8/6）	金	ロクロナデ	内外ロクロナデ	回転糸		内煤
122	土師質土器	小皿	R1		8E21	SE5129	14	7.2	1.6	6.0	浅黄橙（7.5YR8/6）	浅黄橙（7.5YR8/6）		ロクロナデ	内外ロクロナデ	回転糸		内煤
123	土師質土器	小皿	R1		8F1	SE5129	14	7.5	1.6	6.5	浅黄橙（7.5YR8/6）	橙（7.5YR7/6）	金	ロクロナデ	内外ロクロナデ	回転糸	右	外煤
124	土師質土器	小皿	R1		8E21	SE5129	14	7.2	1.4	5.8	浅黄橙（7.5YR8/4）	浅黄橙（7.5YR8/4）	金	ロクロナデ	内外ロクロナデ	回転糸	右	内煤
125	土師質土器	小皿	R1		8F1	SE5129	14	7.5	1.4	5.7	浅黄橙（7.5YR8/4）	浅黄橙（7.5YR8/4）		ロクロナデ	ロクロナデ 螺旋状	回転糸	右	
126	土師質土器	小皿	R1		8F1	SE5129	14	7.1	1.5	5.7	にぶい橙（7.5YR7/4）	にぶい橙（7.5YR7/4）	金	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸	右	外煤
127	土師質土器	小皿	R1		8F1	SE5129	14	7.2	1.4	6.0	浅黄橙（7.5YR8/6）	浅黄橙（7.5YR8/6）	金	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸	右	
128	土師質土器	小皿	R1		8F1	SE5129	14	7.3	1.8	6.0	浅黄橙（7.5YR8/4）	浅黄橙（7.5YR8/4）	金	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸	右	
129	土師質土器	小皿	R1		7F5	SE5129	14	7.4	1.7	5.2	浅黄橙（7.5YR8/6）	浅黄橙（7.5YR8/6）	金	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸	右	
130	土師質土器	小皿	R1		8F1	SE5129	14	8.3	1.3	7.9	にぶい橙（7.5YR7/4）	にぶい橙（7.5YR7/4）	金	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸	右	
131	土師質土器	小皿	R1		8F1	SE5129	14	7.7	1.2	6.6	浅黄橙（7.5YR8/6）	橙（7.5YR7/6）	金	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸		
132	土師質土器	小皿	R1		8F1	SE5129	14	7.7	1.4	6.2	浅黄橙（7.5YR8/4）	浅黄橙（7.5YR8/6）	金	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸		
133	土師質土器	小皿	R1		8F1	SE5129	14	7.5	1.4	6.0	浅黄橙（7.5YR8/6）	浅黄橙（7.5YR8/6）	金	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸	右	
134	土師質土器	小皿	R1		8E21	SE5129	14	7.5	1.4	6.1	浅黄橙（7.5YR8/6）	橙（7.5YR7/6）	金	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸		
135	土師質土器	小皿	R1		8F1	SE5129	14	7.5	1.6	6.0	浅黄橙（7.5YR8/4）	浅黄橙（7.5YR8/6）	金	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸		
136	土師質土器	小皿	R1		8F1	SE5129	14	7.4	1.6	6.0	浅黄橙（7.5YR8/4）	浅黄橙（7.5YR8/6）	金	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸		
137	土師質土器	小皿	R1		7F5	SE5129	14	7.4	1.6	6.2	浅黄橙（7.5YR8/4）	浅黄橙（7.5YR8/4）	金	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸	右	
138	土師質土器	小皿	R1		8F1	SE5129	14	7.4	1.5	6.0	浅黄橙（7.5YR8/6）	浅黄橙（7.5YR8/6）	金	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸	右	外煤
139	土師質土器	小皿	R1		8F1	SE5129	14	7.4	1.3	5.2	橙（7.5YR7/6）	橙（7.5YR7/6）	金	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸	右	
140	土師質土器	小皿	R1		8F1	SE5129	14	7.2	1.2	5.8	橙（7.5YR7/6）	橙（7.5YR7/6）	金	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸		
141	土師質土器	小皿	R1		8F1	SE5129	14	7.2	1.5	6.2	浅黄橙（7.5YR8/6）	浅黄橙（7.5YR8/6）	金	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸	右	
142	土師質土器	小皿	R1		8F1	SE5129	14	7.2	1.2	5.4	浅黄橙（7.5YR8/4）	浅黄橙（7.5YR8/6）	金	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸		
143	土師質土器	小皿	R1		8F1	SE5129	14	7.0	1.5	5.7	黄橙（10YR8/6）	黄橙（10YR8/6）		ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸		
144	土師質土器	小皿	R1		8F1	SE5129	14	7.0	1.5	6.0	黄橙（10YR8/6）	黄橙（10YR8/6）	金	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸		
145	土師質土器	小皿	R1		8F1	SE5129	14	7.0	1.9	6.2	浅黄橙（10YR8/4）	浅黄橙（7.5YR8/4）		ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸	右	
146	土師質土器	小皿	R1		8F1	SE5129	14	7.0	1.3	5.4	浅黄橙（10YR8/4）	浅黄橙（10YR8/4）	金	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸		
147	土師質土器	小皿	R1		8F1	SE5129	14	6.8	1.4	5.6	浅黄橙（7.5YR8/4）	浅黄橙（7.5YR8/4）		ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸		
148	土師質土器	小皿	R1		8F1	SE5129	14	6.8	1.5	6.0	浅黄橙（7.5YR8/4）	浅黄橙（7.5YR8/6）	金	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸		
149	土師質土器	小皿	RH1		8F1	SE5129	14	7.0	1.4	6.1	にぶい橙（7.5YR7/4）	にぶい橙（7.5YR7/4）	金	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ	左	
150	青磁	椀		13C後～14C前	7F5	SE5129	14				オリーブ灰（10Y5/2）	オリーブ灰（10Y5/2）		鎬蓮弁文				龍泉窯
151	青磁	椀		13C後～14C前	8E21	SE5129	10				オリーブ灰（10Y5/2）	オリーブ灰（10Y5/2）		鎬蓮弁文				龍泉窯
152	青白磁	瓶子			8F1	SE5129	14			5.4	灰白（2.5GY8/1）	灰白（2.5Y8/2）						
153	白磁	椀			8F1	SE5129	14				灰白（2.5GY8/1）	灰白（10Y8/1）						
154	須恵器	無台杯		古代	8F1	SE5129	17			9.0	灰白（2.5Y7/1）	灰白（2.5Y7/1）	白	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ		

古墳時代～中世　土器・陶磁器観察表（5）

報告番号	種類	器種	分類	時代・時期	出土地点			法量（cm）			色調		胎土	調整			回転方向	備考
					グリッド	遺構	層位	口径	器高	底径	外面	内面		外面	内面	底面		
155	土師質土器	皿	R1		7E8	SE5130	18	10.9	3.1	7.8	黄橙（7.5YR7/8）	黄橙（7.5YR7/8）		ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸		
156	土師質土器	小皿	R1		7E13	SE5130	13	7.2	1.3	6.0	浅黄橙（10YR8/4）	浅黄橙（10YR8/4）		ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸		
157	土師質土器	皿	R		7E14	SE5131	11			7.2	浅黄橙（10YR8/4）	浅黄橙（10YR8/4）						
158	土師質土器	小皿	R		7E14	SE5131	4			5.6	浅黄橙（7.5YR8/6）	浅黄橙（7.5YR8/6）	石多	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸	右	
159	須恵器	横瓶		古代	7E14	SE5131	18				灰（5Y5/1）	灰白（5Y7/1）	白	平行タタキ	同心円当て具			
					7D9・9D25	SD5132	1・4											
					6G24	SD5260	1											
160	白磁	椀			9D12	SE5133	1				灰白（7.5Y8/1）	灰白（7.5Y7/2）						
161	土師質土器	皿			7E16	SE5138	12	12.0			にぶい橙（7.5YR7/4）	にぶい橙（7.5YR7/4）		ロクロナデ	ロクロナデ			
162	珠洲焼	片口鉢		Ⅲ期	7E11.16	SE5138	11・12	28.2			灰（5Y5/1）	灰（5Y5/1）		ロクロナデ	ロクロナデ			
163	珠洲焼	片口鉢			8H13	SE5268	2			10.9	灰（N6/1）	灰（N6/1）	白	ロクロナデ	ロクロナデ	静止ヘラ		内煤
164	須恵器	甕		古代	8H8	SE5268	4				暗灰（N3/1）	灰（7.5Y6/1）	白多	ロクロナデ	ロクロナデ			
165	土師質土器	皿	R		8K7	SE5290	2			7.0	橙（7.5YR7/6）	橙（7.5YR7/6）		ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸板状圧痕		
166	土師質土器	小皿	R1		8K6.7	SE5290	3	8.0	2.0	6.1	橙（7.5YR7/6）	橙（7.5YR7/6）	金・白・石多	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸	右	
167	珠洲焼	片口鉢		Ⅲ期	8K6	SE5290	37	30.0			灰（N4/1）	灰（N4/1）	海骨・白		卸し目8目?			
168	青磁	椀			8K2	SE5290	6				オリーブ灰（10Y5/2）	オリーブ灰（10Y5/2）		鎬蓮弁文	外体鎬蓮弁文			龍泉窯
169	白磁	皿			8K6	SE5290	9	10.5	2.2	7.0	灰白（7.5Y7/1）	灰白（7.5Y7/1）			口禿げ			
170	須恵器	無台杯		古代	8K6	SE5290	6			8.1	灰（5Y6/1）	灰（5Y6/1）	白多	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ		
171	須恵器	有台杯		古代	8K1・2・6	SE5290	5・6・25			6.2	にぶい褐（7.5YR5/3）	灰（5Y6/1）	白	ロクロナデ	ロクロナデ			
172	須恵器	折縁杯		古代	8K1・2	SE5290	12	14.3	4.5	8.9	灰（N5/1）	灰（N5/1）	白多	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ		
173	須恵器	甕		古代	8K1	SE5290	11				灰（N4/1）	灰（7.5Y6/1）	白	平行タタキ	同心円当て具			221・270同一個体
					8J20	SD2334	2											
174	珠洲焼	甕			9D14	SE5422	5				灰（N5/1）	N灰6/1	白	平行タタキ	無文当て具			
175	珠洲焼	甕			9D14	SE5422	5				灰（N6/1）	灰（N6/1）	海骨・白	平行タタキ	無文当て具			断面漆付着
176	土師質土器	皿	R		7K22	SE5631	1			7.5	にぶい橙（7.5YR7/4）	橙（7.5YR7/6）	金	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸		
177	土師質土器	皿	R		7L2	SE5632	6b			7.8	にぶい橙（7.5YR7/4）	浅黄橙（7.5YR8/4）		ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸		内外・断面煤
178	土師質土器	皿			7L2	SE5632	8	11.2			にぶい橙（7.5YR7/4）	橙（7.5YR7/6）	金	ロクロナデ	ロクロナデ			
179	青磁	皿		12C中～12C後	7L8	SE5716	1				明オリーブ灰（5GY7/1）	明オリーブ灰（5GY7/1）	黒		花文			
180	須恵器	杯蓋		古代	7L12	SE5716	2	14.6			灰（5Y6/1）	灰（5Y6/1）	白多	ロクロナデ	内外ロクロナデ			
181	須恵器	甕		古代	4H4	SK5201	1・3	37.4	63.7		灰（N6/1）	灰（N6/1）	白	口唇：波状集合沈線平行タタキ	同心円当て具			
					5G6・7・13・19	SD2332	2～4											
					5G11	SD5209	6											
					5H3	SD5216	1・2											
					5H5	SD5219	1											
					7G6	SD5260	1											
					7G17・22	SD2354	1											
182	青磁	椀		13C後～14C前	8E24	SK5284	1	16.0			オリーブ灰（10Y6/2）	オリーブ灰（10Y6/2）		鎬蓮弁文				
183	土師質土器	皿	R		8F19	SK5368	2			7.8	浅黄橙（7.5YR8/6）	浅黄橙（7.5YR8/6）		ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸		
184	土師質土器	皿	R1		8M13	SK5630	1	11.0	3.6	8.4	浅黄橙（10YR8/4）	浅黄橙（10YR8/4）		ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸		
185	珠洲焼	片口鉢		Ⅲ～Ⅳ期	7G23	SK5267	2	25.6			灰（N4/1）	灰（N4/1）	白多	ロクロナデ	卸し目			
186	珠洲焼	片口鉢		Ⅲ～Ⅳ期	7G23	SK5267	1				灰（N5/1）	灰（N5/1）	海骨・白	ロクロナデ	刻印			
187	珠洲焼	甕			7G23	SK5267	2				灰（N6/1）	灰（N6/1）	海骨・白	平行タタキ	無文当て具			土器転用研磨具
188	土師質土器	皿	R1		7G24 7H3・4・6・8	SD5260A	2・4～6	11.4	3.5	7.0	浅黄橙（7.5YR8/6）	浅黄橙（7.5YR8/6）	白・石多	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸	右	内外煤
189	土師質土器	皿	R1		6G23 6H10 7H6.7	SD5260A	2・3・5～7	11.9	3.8	7.5	橙（7.5YR7/6）	橙（7.5YR7/6）	金	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸		内外煤
190	土師質土器	皿	R1		7G13 7H3.7	SD5260A・C	1・3・7・13	10.8	3.9	6.9	橙（7.5YR7/6）	橙（7.5YR7/6）		ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸	右	
191	土師質土器	皿	R1		7H11	SD5260B	9	12.6	3.6	8.0	灰黄褐（10YR6/2）	にぶい橙（7.5YR7/3）	金	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸		
192	土師質土器	皿	R1		7H12	SD5260A・B	7・9	11.8	3.5	7.7	浅黄橙（7.5YR8/4）	浅黄橙（7.5YR8/4）		ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸		
193	土師質土器	皿	R		7H6 7H11	SD5260A・B	4・5・8・9			7.5	橙(5YR7/8)	橙(5YR7/8)	白・石多	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸	右	
194	土師質土器	皿	R		7H6	SD5260B	9			8.4	浅黄橙（7.5YR8/4）	浅黄橙（7.5YR8/4）	金	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸板状圧痕		
195	土師質土器	皿	R2		6H10	SD5260A	6	11.3	3.2	6.6	浅黄橙（7.5YR8/6）	浅黄橙（7.5YR8/6）	金・白・石多	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸	右	
196	土師質土器	小皿	R1		7H11	SD5260B	9	7.1	1.6	6.1	浅黄橙（7.5YR8/4）	灰褐（7.5YR6/2）	金	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸		内外煤
197	土師質土器	小皿	R1		6H5	SD5260A	5	7.4	1.2	5.9	浅黄橙（7.5YR8/6）	浅黄橙（7.5YR8/6）		ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸		外煤
198	土師質土器	小皿	R1		6H10	SD5260A	6	8.2	1.8	6.2	橙（7.5YR7/6）	橙（7.5YR7/6）	金・白・石多	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸	右	
199	土師質土器	小皿	R1		7G12	SD5260B	9	7.6	1.3	6.0	黄橙（7.5YR7/8）	黄橙（7.5YR7/8）	白・石多	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸	右	
200	土師質土器	小皿	R1		7H11	SD5260B	9	7.4	1.6	5.7	浅黄橙（7.5YR8/6）	浅黄橙（7.5YR8/6）	金	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸	右	
201	土師質土器	小皿	R1		7H6.7	SD5260A	5	7.0	1.4	4.9	橙（7.5YR7/6）	橙（7.5YR7/6）	白・石多	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸	右	歪み有

古墳時代～中世　土器・陶磁器観察表（6）

報告番号	種類	器種	分類	時代・時期	出土地点			法量（cm）			色調		胎土	調整			回転方向	備考
					グリッド	遺構	層位	口径	器高	底径	外面	内面		外面	内面	底面		
202	土師質土器	小皿	R1		6G10	SD5260A	3	7.6	1.3	4.8	浅黄橙（7.5YR8/6）	浅黄橙（7.5YR8/6）		ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸		
203	土師質土器	小皿	T		6H5	SD5260A	5	7.2	1.7	6.1	浅黄橙（10YR8/4）	浅黄橙（10YR8/4）				静止ヘラ板状圧痕		
204	土師質土器	小皿	T		6H10	SD5260A	6	6.8	1.9	5.2	浅黄橙（7.5YR8/4）	浅黄橙（7.5YR8/4）				静止ヘラ		
205	珠洲焼	甕			7G19・23・24	SD5260A	2・5			19.0	灰（N5/1）	灰（N5/1）	海骨・白	平行タタキ	無文当て具			206・207と同一個体
					9H4	SE5401	11											
206	珠洲焼	甕			7G18	SD5260A	6				灰（N5/1）	N灰5/1	海骨・白	平行タタキ	無文当て具			205・207と同一個体
207	珠洲焼	甕			7G19	SD5260A	6				灰白（5Y7/1）	灰（5Y6/1）	海骨・白	平行タタキ	無文当て具			205・206と同一個体
208	珠洲焼	片口鉢			7G24	SD5260A	6				褐灰（7.5YR6/1）	灰（5Y6/1）	石・白	ロクロナデ	ロクロナデ			
209	珠洲焼	片口鉢		Ⅲ～Ⅳ期	6G10、6H4・10、7H3　7G12・13・18・24	SD5260A	1～3・5・6	33.1	13.3	12.0	灰（5Y6/1）	灰（5Y6/1）	海骨・白		卸し目14目	静止糸		
					7G23	SK5267	1・2											
210	珠洲焼	片口鉢			7G11	SD5260A	5			13.3	褐灰（7.5YR6/1）	褐灰（7.5YR5/1）	白		卸し目9目	静止糸		
211	瓷器系陶器	甕			6G15	SD5260A	1				灰褐（7.5YR6/2）	灰褐（7.5YR5/2）	白・石多	タテヘラナデ	押印			権兵衛沢窯
212	青磁	椀		13C後～14C前	7G19	SD5260A	3	16.0			オリーブ灰（10Y5/2）	オリーブ灰（10Y5/2）		鎬蓮弁文				龍泉窯
213	青磁	椀		13C後～14C前	7G19	SD5260A	5	15.9			オリーブ灰（5GY6/1）	オリーブ灰（5GY6/1）		鎬蓮弁文				龍泉窯
214	青磁	椀		13C後～14C前	7G12	SD5260A	5	16.0			オリーブ灰（5GY6/1）	明オリーブ灰（5GY7/1）		鎬蓮弁文				龍泉窯
215	青磁	椀		13C後～14C前	7G18	SD5260A	5			6.2	明オリーブ灰（5GY7/1）	明オリーブ灰（5GY7/1）				回転ヘラ		龍泉窯
216	青磁	皿		12C中～12C後	7H6	SD5260B	9	9.9	2.4	5.3	灰白（7.5Y7/2）	灰白（7.5Y7/2）			劃花文	回転糸		同安窯
217	白磁	皿		13C中～13C後	6H10	SD5260A	5	11.8			灰白（2.5GY8/1）	灰白（2.5GY8/1）			口禿げ			
218	須恵器	杯蓋		古代	6G5	SD5260A	5				灰白（2.5Y7/1）	灰白（2.5Y7/1）		ロクロナデ	ロクロナデ			
219	須恵器	壺		古代	7H12	SD5260B	9				灰白（2.5Y7/1）	灰白（2.5Y7/1）		ロクロナデ	ロクロナデ			
220	須恵器	壺		古代	7G24	SD5260A	6			5.2	灰（N6/1）	灰（N6/1）		ロクロナデ	ロクロナデ			
221	須恵器	甕		古代	7G12	SD5260A	4				黄灰（2.5Y4/1）	灰白（2.5Y7/1）	白	平行タタキ	無文当て具			17・270と同一個体
222	青磁	椀			7G11	SD2354	1				オリーブ灰（10Y6/2）	オリーブ灰（10Y6/2）		鎬蓮弁文	外体鎬蓮弁文			龍泉窯
223	土師器	椀		古代	18U17	SD3072	4	11.5	4.2	4.4	浅黄橙（10YR8/4）	黒（10YR2/1）	白	ロクロナデ	ロクロナデ			
224	土師質土器	皿	R1		7D10	SD5132	13 14	11.6	2.7	8.4	灰褐（7.5YR5/2）	にぶい橙（7.5YR7/3）	金	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸		内外煤
225	土師質土器	皿	R1		9D24	SD5132	7	14.7	3.9	9.0	浅黄橙（7.5YR8/6）	にぶい橙（7.5YR7/4）		ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸	右	
226	土師質土器	皿	R1		7D10	SD5132	14	12.0	3.5	8.3	浅黄橙（7.5YR8/6）	浅黄橙（7.5YR8/6）		ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸		
227	土師質土器	皿	R1		7D10	SD5132	14	10.9	3.4	8.0	浅黄橙（7.5YR8/6）	浅黄橙（7.5YR8/6）	白	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸		
228	土師質土器	皿	R2		8D11	SD5132	21	13.0	4.2	6.1	浅黄橙（7.5YR8/4）	浅黄橙（7.5YR8/4）	金	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸		
229	土師質土器	皿	R		7D15	SD5132	26			6.9	浅黄橙（7.5YR8/6）	浅黄橙（7.5YR8/6）		ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸	右	
230	土師質土器	皿	R		9D24	SD5132	17			7.6	浅黄橙（7.5YR8/6）	黄橙（7.5YR8/8）		ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸	右	
231	土師質土器	小皿	R1		7D10	SD5132	14	7.1	1.6	6.0	浅黄橙（7.5YR8/3）	浅黄橙（7.5YR8/3）		ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸	右	内煤
232	土師質土器	小皿	R1		7D10 8D11	SD5132	14 23	7.0	1.6	5.7	浅黄橙（7.5YR8/4）	浅黄橙（7.5YR8/4）		ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸	右	
233	土師質土器	小皿	R1		7D10	SD5132	14	7.2	1.8	4.9	浅黄橙（7.5YR8/4）	浅黄橙（7.5YR8/4）		ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸	右	
234	珠洲焼	甕			7D15	SD5132	3				灰（N5/1）	灰（N5/1）	海骨・白	平行タタキ	無文当て具			
235	珠洲焼	片口鉢		Ⅲ期	8D11	SD5132	4	29.8	12.9	13.7	灰（N6/1）	灰（N6/1）	海骨・白		卸し目12目	静止糸		
236	瓷器系陶器	甕			7D15	SD5132	3				にぶい赤褐（5YR5/3）	灰褐（5YR6/2）	石・白多					北越窯
237	瓷器系陶器	甕			8D11	SD5132	3				灰（5Y5/1）	灰（5Y5/1）	石・白多	押印簾状文				
238	青磁	椀			8D15	SD5132	18				オリーブ灰（10Y6/2）	オリーブ灰（10Y6/2）						
239	青磁	椀		13C後～14C前	8D20	SD5132	13			5.9	オリーブ灰（10Y4/2）	オリーブ灰（10Y4/2）		鎬蓮弁文				龍泉窯
240	須恵器	有台杯		古代	9D18	SD5132	7			6.9	灰（N5/1）	灰（N4/1）	白	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ		
241	土師質土器	小皿	R1		5G16	SD5209	2	6.8	1.1	6.0	黄橙（7.5YR8/8）	黄橙（7.5YR8/8）	石・白多		内外ロクロナデ	回転糸	右	
242	土師質土器	小皿	T		5G16	SD5209	2			5.5	橙（7.5YR7/6）	橙（7.5YR7/6）				静止ヘラ		
243	須恵器	壺		古代	7H20	SD5231	2				灰（N6/1）	灰（N6/1）	白多	ロクロナデ	ロクロナデ			
244	珠洲焼	甕			5F14	SD5252	3				灰（N5/1）	灰（N5/1）	海骨・白	平行タタキ	無文当て具			
245	土師質土器	皿	R		6G4	SD5259	1			7.0	黄橙（7.5YR7/8）	黄橙（7.5YR7/8）	白	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸	右	
246	土師質土器	小皿	R		15S9	SD5603	1			6.0	浅黄橙（10YR8/3）	褐灰（10YR6/1）	白	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸		
247	瀬戸・美濃焼	壺			15S9	SD5603	2				灰オリーブ（7.5Y6/2）	浅黄橙（10YR8/3）	白	ロクロナデ施釉	ロクロナデ			
248	珠洲焼	片口鉢			14R23	SD5607	1				灰（N5/1）	灰（N4/1）	白		卸し目5目			
249	珠洲焼	壺T種			12P12	SD5618	1				暗灰（N3/1）	灰（N5/1）	白	平行タタキ				
250	珠洲焼	片口鉢		Ⅲ～Ⅳ期	13Q11	SD5618	4				灰（N6/1）	灰（N6/1）	海骨・白		卸し目12目			

古墳時代～中世　土器・陶磁器観察表（7）

報告番号	種類	器種	分類	時代・時期	出土地点			法量（cm）			色調		胎土	調整			回転方向	備考
					グリッド	遺構	層位	口径	器高	底径	外面	内面		外面	内面	底面		
251	珠洲焼	片口鉢		Ⅲ～Ⅳ期	12P24	SD5618	1				灰（N5/1）	灰（N5/1）	海骨・白		卸し目8目			
252	土師器	鉢		古墳時代	18W15	SD5677	2	15.8			灰白（7.5YR8/2）	黒（7.5YR2/1）	白	ハケ目	ミガキ			
253	土師質土器	小皿	R1		9M16	SD2000A	3	7.8	1.2	6.4	橙（7.5YR7/6）	橙（7.5YR7/6）	石・白多	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸		
254	珠洲焼	甕			9M11	SD2000A	3				灰（N5/1）	灰（N5/1）	海骨・白	平行タタキ	無文当て具			
255	珠洲焼	片口鉢		Ⅲ～Ⅳ期	8M24	SD2000A	4	32.8			灰（N6/1）	灰（N6/1）	白	ロクロナデ	ロクロナデ			
256	瓷器系陶器	甕			8M20	SD2000A	1				灰（5Y5/1）	灰（5Y6/1）	石・白多	押印簾状文	ヨコナデ			
257	瓷器系陶器	甕			8M25	SD2000A	2				灰（N4/1）	灰（N6/1）	白	平行タタキ	ヘラナデ			
258	青磁	椀		13C後～14C前	8M20	SD2000A	1	15.0			明緑灰（7.5GY7/1）	明緑灰（7.5GY7/1）		鎬蓮弁文				龍泉窯
259	須恵器	杯蓋		古代	9M11	SD2000A	3	13.2			灰（N6/1）	灰（N6/1）	白	ロクロナデ	ロクロナデ			
260	珠洲焼	片口鉢			9M23	SD2001A	3			12.0	灰（N5/1）	灰（N5/1）	海骨・白		卸し目9目	静止糸		
261	珠洲焼	片口鉢			9M23	SD2001A		(19.0)	(5.3)	10.4	灰（N6/1）	灰（N6/1）	海骨・白	ロクロナデ	ロクロナデ	静止糸		
262	瓷器系陶器	甕			9M23	SD2001A	3				灰（N6/1）	灰（N6/1）	石・白	押印簾状文	ヨコナデ			赤坂山窯
263	須恵器	無台杯		古代	9N2	SD2001A	1			7.0	灰（N6/1）	灰（N6/1）	白	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ		
264	須恵器	有台杯		古代	9N7	SD2001A	3			8.0	灰（N6/1）	灰（N6/1）	白	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ		
265	土師質土器	皿	R1		9N8	SD2001B	2	11.7	3.0	7.4	浅黄橙（7.5YR8/4）	浅黄橙（7.5YR8/4）	金	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸		
266	青磁	椀			9N3	SD2001B	3	14.0			灰白（10Y7/1）	灰白（10Y7/1）	白					
267	珠洲焼	壺R種			6H2	SD2332	3			13.5	灰（N6/1）	灰（N6/1）	石・白	ロクロナデ	ロクロナデ			
268	珠洲焼	甕			6H20	SD2332	1				灰白（5Y7/1）	灰（5Y6/1）	海骨・白	平行タタキ	無文当て具			
269	珠洲焼	片口鉢		Ⅲ～Ⅳ期	5G19	SD2332	2	30.0			灰（N5/1）	灰（N5/1）	海骨・白		卸し目14目			
270	須恵器	甕		古代	9J6	SD2332	2				灰（5Y4/1）	灰（5Y6/1）	白	平行タタキ	同心円当て具			173.221と同一個体
271	土師質土器	皿	R2		8J14	SD2334	1	11.4	3.2	5.0	浅黄橙（7.5YR8/6）	浅黄橙（7.5YR8/6）		ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸		内煤
272	土師質土器	小皿	R1		8J13	SD2334	2	7.3	1.1	6.4	橙(5YR7/8)	浅黄橙（7.5YR8/6）	石・白多	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸	右	
273	珠洲焼	片口鉢			9J16	SD2334	2				灰（N6/1）	灰（N6/1）	白		卸し目8目			
274	青磁	椀		13C後～14C前	8J20	SD2334	1	12.0			オリーブ灰（10Y6/2）	オリーブ灰（10Y6/2）		鎬蓮弁文				龍泉窯
275	青磁	盤			8J20	SD2334	2	24.0			明緑灰（10GY7/1）	緑灰（10GY6/1）						
276	須恵器	無台杯		古代	8G22		Ⅲ			8.0	灰（N6/1）	灰（N6/1）	白	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ	左	

中世　石製品観察表

報告番号	出土地点			器種	石材	法量（cm）			重さ（g）	使用痕	備考
	グリッド	遺構	層位			長さ	幅	厚さ			
277	8K1	SE5290	8	火打石	チャート	3.60	2.82	2.43	26.70		
278	6G10	SD5260	5	砥石	凝灰岩	3.77	2.48	0.47	6.35	正裏、右側面が砥面、上端折断、左側面から下端に剥離が認められる	仕上げ砥石　鳴滝産か
279	7H8	SD5260	3	砥石	凝灰岩	5.40	2.58	1.85	34.37	正、側、上面が砥面、正面に刃物痕	
280	8D11	SD5132	20	砥石	凝灰岩	5.39	3.99	0.88	24.46	正裏、側面が砥面、上端折断、下端剥離	仕上げ砥石
281	9N2	SD2001A	2	砥石	凝灰岩	11.83	5.04	3.83	214.08	無数の刃物痕、	煤付着
282	6G4	SD5259	1	砥石	流紋岩	10.46	5.99	2.38	149.95	正裏、側面が砥面、線条痕	煤付着
283	3H13	SE5203	3	軽石	軽石	5.43	4.67	2.45	24.20		

中世　金属製品観察表

報告番号	出土地点			器種	法量（cm）			重さ（g）	備考
	グリッド	遺構	層位		長さ	幅	厚さ		
284	7K17	SB52-P5652	3	釘?	3.73	1.08	9.70	3.85	
285	8F4	SE5101	1	釘	4.26	1.37	1.19	6.91	
286	8F5	SE5102	1	刀子	3.53	1.98	1.22	9.80	
287	8F1	SE5129	1	釘?	4.63	1.53	1.22	12.91	
288		SE5129		金具	4.06	3.18	1.07	7.74	リング状
289	7E11	SE5138	6	釘	7.11	1.26	1.16	8.58	
290	7E11	SE5138	12	釘	7.17	10.70	7.50	7.06	
291	7E11	SE5138		釘	4.03	0.92	6.80	3.29	
292	7E11	SE5138	17	金具	2.88	2.34	6.20	2.80	
293	8K2	SE5290	5	釘	6.21	1.30	1.08	16.88	
295	8D12	SD5132	12	刀子	1.84	2.21	7.20	3.62	

報告番号	出土地点			器種	法量（cm）			重さ（g）	備考
	グリッド	遺構	層位		長さ	幅	厚さ		
296	9D18	SD5132	7	刀子	7.86	1.60	9.00	12.48	
297	7H7	SD5290	6	釘	3.70	9.00	7.00	2.67	
298	7H4	SD5260A	1	釘	8.32	1.52	1.36	17.01	
299	7H7	SD5260A	4	釘	6.48	2.11	1.09	16.25	釘2本癒着
300	7G24	SD5260A	3	釘	5.61	1.12	1.25	8.88	
301	7H6	SD5260A	5	釘	5.78	1.21	1.10	12.11	
302	6G15	SD5132	5	釘	10.28	2.20	1.66	35.57	
303	7H7	SD5260A	5	釘	11.06	1.41	1.22	35.81	
304	8J14	SD2334	3	釣針	2.16	1.14	6.10	1.56	
305	8J20	SD2334	1	釘	7.61	1.10	8.20	11.82	

中世　銭貨観察表

報告番号	出土地点			銭貨名	書体	王朝	初鋳年（西暦）	外径縦（mm）	外径横（mm）	内径縦（mm）	内径横（mm）	内郭縦（mm）	内郭横（mm）	銭厚（mm）	重さ（g）	備考
	グリッド	遺構	層位													
294	8K6	SE5290	4	元豊通寶	行	北宋	1078	24.4	24.4	18.9	18.7	6.7	6.9	1.30	1.24	

中世　鍛冶関連遺物観察表

報告番号	出土地点			器種	法量（cm）			重さ（g）	備考
	グリッド	遺構	層		長さ	幅	厚さ		
306	7E8	SE5130	12	鉄滓	7.99	7.58	2.18	124.62	椀型滓
307	6G15	SK5253	2	鉄滓	6.30	4.30	3.00	107.24	椀型滓
308	7H12	SD5260	5	鉄滓	2.77	2.74	1.84	6.60	ガラス質滓

中世　多字一石経観察表

報告番号	出土地点			器種	石材	法量（cm）			重さ（g）	備考
	グリッド	遺構	層			長さ	幅	厚さ		
309	7E11	SE5138		経石	流紋岩	12.38	7.75	4.47	398.77	一面に墨書
310	7G23	SK5267		経石	流紋岩	15.00	7.59	6.13	1064.47	四面に墨書

中世　木製品観察表（1）

報告番号	接合枝番	出土地点			出土位置	分類	器種	細分名	木取り	法量（cm）			樹種	正裏面の加工・特徴	側面の加工・特徴	端部の加工・特徴	その他の特徴等
		グリッド	遺構	層位						現存長	直径（幅）	厚さ					
311			SB52-P5478	1		容器	小皿	漆器			7.6	(1.0)					黒色塗膜
312		8F3	SE5101	4		容器	小皿	漆器			7.5	(0.8)					赤色塗膜
313		8J4	SE5126			施設材	井戸側	縦板	柾目	29.0	9.2	0.8	スギ	釿		鋸	
314		8J4	SE5126			施設材	井戸側	縦板	柾目	16.5	5.0	1.5	スギ	釿			
315		8J4	SE5126			施設材	井戸側	縦板	柾目	39.5	7.0	1.5	スギ	釿			
316		8J4	SE5126			施設材	井戸側	縦板	板目	48.0	5.2	2.1	スギ				側面に抉りが入る。部材の転用
317		8J4	SE5126		北側桟木	施設材	井戸側	桟木	柾目	55.5	6.5	2.5	スギ	腐食著しい	左側縁に抉りあり。	端部凹部状	腐食著しい　凹部
318		8J4	SE5126			施設材	井戸側	桟木	柾目	58.0	7.3	3.5	スギ				腐食著しい　凹部
319		8K6	SE5290	22		施設材	井戸側	縦板	板目	56.0	11.7	1.0	スギ		釿	斧	打ち割り　穿孔（方）
320		8K6	SE5290	22	左側2枚目	施設材	井戸側	縦板	板目	57.0	14.0	0.7	スギ			斧	打ち割り　穿孔（方）
321		8K6	SE5290	22		施設材	井戸側	縦板	板目	54.0	12.7	1.1	スギ			斧	打ち割り　穿孔（方）
322		8K6	SE5290	22		施設材	井戸側	縦板	板目	51.6	6.0	0.6	スギ				打ち割り
323		8K6	SE5290	22		施設材	井戸側	縦板	板目	56.0	8.0	1.5	スギ			斧	打ち割り
324		8K6	SE5290	22		施設材	井戸側	縦板	板目	64.0	8.0	1.0	スギ			鋸か	打ち割り　穿孔（方）
325		8K6	SE5290	22		施設材	井戸側	縦板	板目	70.7	12.4	1.7	スギ	桟木圧痕		斧	打ち割り　穿孔（方）
326		8K6	SE5290	22		施設材	井戸側	縦板	板目	56.0	13.0	1.0	スギ				打ち割り　穿孔（方）
327		8K6	SE5290	37		施設材	井戸側	縦板	板目	14.0	5.0	0.5	スギ				
328		8K6	SE5290	22		施設材	井戸側	縦板	板目	40.5	4.8	1.1	スギ	コゲ付着			打ち割り
329		8K6	SE5290	22		施設材	井戸側	縦板	板目	90.0	16.0	0.9	スギ	黒色付着	腐食著しい	斧	穿孔（方）
330		8K6	SE5290	22		施設材	井戸側	縦板	板目	39.5	13.5	0.6	スギ	桟木圧痕　炭化物付着		斧	打ち割り　穿孔（方）
331		8K6	SE5290	22		施設材	井戸側	縦板	板目	44.0	12.4	0.8	スギ	桟木圧痕		斧	腐食著しい　穿孔（方）
332		8K6	SE5290	22		施設材	井戸側	縦板	板目	63.0	12.4	0.6	スギ				打ち割り
333		8K6	SE5290	22		施設材	井戸側	縦板	板目	63.0	13.5	0.8	スギ			斧	打ち割り　穿孔（方）
334		8K6	SE5290	22		施設材	井戸側	縦板	板目	71.7	17.0	1.8	スギ	未穿孔1穿孔1あり		斧	打ち割り　穿孔（円）
335		8K6	SE5290	22		施設材	井戸側	縦板	板目	69.0	9.8	1.3	スギ				打ち割り
336		8K6	SE5290	22		施設材	井戸側	縦板	板目	56.0	10.8	0.4	スギ				打ち割り
337		8K6	SE5290	22		施設材	井戸側	縦板	板目	65.5	8.7	1.2	スギ			斧	打ち割り　穿孔（方）
338		8K6	SE5290	22		施設材	井戸側	縦板	板目	78.0	16.2	1.2	スギ	桟木圧痕		斧	打ち割り　穿孔（円）
339		8K6	SE5290	22		施設材	井戸側	縦板	板目	74.5	15.8	1.2	スギ			斧	打ち割り　穿孔（方）
340		8K6	SE5290	22		施設材	井戸側	隅柱	流れ柾目	50.0	5.5	3.3	スギ			斧	
341		8K6	SE5290	22		施設材	井戸側	隅柱	板目	49.0	4.0	1.5	スギ				
342		8K6	SE5290	22	北東隅柱	施設材	井戸側	隅柱	柾目	47.5	4.0	4.5	スギ				
343		8K6	SE5290	22		施設材	井戸側	桟木	柾目	68.5	6.3	4.8	スギ	釿?			
344		8K6	SE5290	37		施設材	井戸側	桟木	柾目	92.0	8.0	6.0	スギ			鋸	打ち割り　端部凸状
345		8K6	SE5290	37		施設材	井戸側	桟木	柾目	90.0	6.3	7.0	スギ			鋸	打ち割り　端部凹状
346		8K6	SE5290	37		施設材	井戸側	桟木	柾目	85.0	7.5	6.5	スギ			鋸	打ち割り　端部凸状
347		8K6	SE5290	37		施設材	井戸側	桟木	柾目	91.0	5.5	7.2	スギ			鋸	打ち割り　端部凹状
348		8K6	SE5290	39		施設材	井戸側	曲物	板目	39.2	54.0	1.0	スギ	ケビキ			内側側板板目1列内多段綴じ下端に9木釘穴があり、4釘残存。外側上段側板柾目1列外多段綴じ。外側下段側板1列内3段綴じ。
349		8K6	SE5290	39		施設材	井戸側	曲物	板目	27.2	42.1	0.8	スギ	ケビキ			側板柾目1列外多段綴じ、中段で割れてしまったのを繋ぐ補修穴あり。上タガ柾目1列外3段綴じ、下タガ柾目1列外3段綴じ。キメカキ
350		8K6	SE5290	22		加工材		円形板	柾目	22.0	7.4	0.5	スギ	釘穴2のうち木釘1残存			
351		8K6	SE5290	39		加工材		円形板	柾目	15.5	7.2	0.5	スギ	黒色に変色摩耗			穿孔（半円）塗布物
352	1	9H4・9	SE5401		側板東	施設材	井戸側	縦板	板目	119.5	21.0	1.7	スギ	下位：帯状黒色 中位：圧痕 擦れた傷跡	刃物痕	斧	打ち割り
	2	9H4・9	SE5401		北西南	施設材	井戸側	縦板	板目	127.0	21.6	0.7	スギ			斧	打ち割り
353	1	9H4・9	SE5401		側板北	施設材	井戸側	縦板	板目	101.5	21.0	0.7	スギ	下位：帯状黒色　中位圧痕		斧	打ち割り
	2	9H4・9	SE5401		北西面	施設材	井戸側	縦板	板目	126.0	20.5	0.7	スギ			斧	打ち割り
354		9H4・9	SE5401		側板北	施設材	井戸側	縦板	板目	148.2	23.4	0.6	スギ			斧	打ち割り
355		9H4・9	SE5401		側板北	施設材	井戸側	縦板	板目	140.5	19.8	0.9	スギ		左右側面：ツブレ	斧	打ち割り
356		9H4・9	SE5401		北西面2枚目	施設材	井戸側	縦板	板目	126.0	17.0	1.5	スギ	刃物痕	釿	斧	打ち割り
357	1	9H4・9	SE5401		側板東	施設材	井戸側	縦板	板目	112.3	19.5	1.0	スギ		釿	斧	打ち割り
	2	9H4・9	SE5401		側板北	施設材	井戸側	縦板	板目	137.5	18.8	0.8	スギ	圧痕	釿	斧	打ち割り
358	1	9H4・9	SE5401		側板南	施設材	井戸側	縦板	板目	136.5	18.5	1.0	スギ			斧	打ち割り
	2	9H4・9	SE5401		側板東	施設材	井戸側	縦板	板目	116.5	18.5	1.3	スギ			斧	打ち割り
359	1	9H4・9	SE5401		側板南	施設材	井戸側	縦板	板目	125.0	20.6	0.9	スギ		釿	斧	打ち割り
	2	9H4・9	SE5401		側板北	施設材	井戸側	縦板	板目	141.0	20.4	1.5	スギ		釿	斧	打ち割り
360	A	9H4・9	SE5401			施設材	井戸側	桟木	分割角材	92.0	6.7	5.0	スギ	楔痕		線条痕：鋸　圧痕	打ち割り　凸状
	B	9H4・9	SE5401			施設材	井戸側	桟木	分割角材	92.0	7.0	0.6	スギ	楔痕		線条痕：鋸　圧痕	打ち割り　凸状
361		9H4・9	SE5401			施設材	井戸側	桟木	分割角材	93.5	6.5	6.0	スギ	木目楔痕	隅柱圧痕 刃物痕	鋸	打ち割り　凹状
362		9H4・9	SE5401			施設材	井戸側	桟木	分割角材	92.8	6.5	6.5	スギ	楔痕	隅柱圧痕	鋸　鑿	打ち割り　凹状
363		9H4・9	SE5401	9		施設材	井戸側	隅柱	分割角材	44.5	4.0	4.0	スギ	腐食著しい			
364		9H4・9	SE5401	9		施設材	井戸側	隅柱	分割角材	50.7	4.0	3.6	スギ	腐食著しい			
365		9H4・9	SE5401	11		加工材		不明	芯持丸木	48.5	6.0	6.0	マツ属複維管束亜属				丸・木　切断加工あり
366		9H4・9	SE5401	11		加工材		杭	芯持丸木	25.0	3.0	0.3	サクラ属				丸・木　片側のみ削って先端を作出
367		9H4・9	SE5401	11		加工材		角材	柾目	55.3	2.5	4.0	スギ		スジ状の圧痕	斧	
368		9H4・9	SE5401	11		加工材		板	板目	28.5	5.5	0.7	スギ				打ち割り

中世　木製品観察表（2）

報告番号	接合枝番	出土地点			出土位置	分類	器種	細分名	木取り	法量（cm）			樹種	正裏面の加工・特徴	側面の加工・特徴	端部の加工・特徴	その他の特徴等
		グリッド	遺構	層位						現存長	直径（幅）	厚さ					
369		9H4・9	SE5401	12		加工材		板	板目	15.6	6.3	0.3	スギ	右側縁に圧痕			打ち割り
370	1	9H4・9	SE5401		側板東	施設材	井戸側	縦板	板目	128.0	20.0	0.8	スギ	打ち割り		斧	打ち割り
	2	9H4・9	SE5401		側板東	施設材	井戸側	縦板	板目	117.5	18.5	1.5	スギ			斧	打ち割り
371	1	9H4・9	SE5401		側板南	施設材	井戸側	縦板	板目	133.7	19.2	1.5	スギ	打ち割り		斧	打ち割り
	2	9H4・9	SE5401		側板南	施設材	井戸側	縦板	板目	129.5	19.5	1.2	スギ				
372		9H4・9	SE5401		側板南	施設材	井戸側	縦板	板目	102.0	20.7	1.0	スギ	桟木圧痕		斧	打ち割り
373		9H4・9	SE5401		側板北	施設材	井戸側	縦板	板目	118.0	23.0	1.5	スギ	桟木圧痕 周縁に釿		斧	打ち割り
374	A	9H4・9	SE5401		北	施設材	井戸側	桟木	分割角材	93.0	7.0	6.7	スギ	両端に隅柱痕	釿	鋸　鑿	打ち割り　端部凹状
	B	9H4・9	SE5401			施設材	井戸側	桟木	分割角材	93.5	8.5	4.8			楔痕	鋸　鑿	打ち割り　端部凹状
	C	9H4・9	SE5401			施設材	井戸側	桟木	分割角材	92.0	7.3	5.5				鋸　鑿	打ち割り　端部凸状
375		9H4・9	SE5401		横桟下部	施設材	井戸側	桟木	柾目	92.3	6.5	6.0	スギ		釿	鋸　鑿	打ち割り　端部凸状
376		9H4・9	SE5401		側板北	施設材	井戸側	縦板	板目	97.0	16.8	0.6	スギ				打ち割り
377		9H4・9	SE5401		側板南	施設材	井戸側	縦板	板目	104.5	20.4	1.0	スギ	桟木圧痕 刃物痕	釿	斧	打ち割り
378		9H4・9	SE5401		側板南	施設材	井戸側	縦板	板目	111.8	17.7	1.2	スギ	刃物痕		斧	打ち割り
379	1	9H4・9	SE5401		側板東	施設材	井戸側	縦板	板目	129.5	21.3	1.6	スギ			斧	
	2	9H4・9	SE5401		側板南	施設材	井戸側	縦板	板目	137.5	20.8	1.5	スギ	中位から下位にかけて打ち割りを失敗している。		斧	打ち割り
380	1	9H4・9	SE5401		側板東	施設材	井戸側	縦板	板目	113.0	18.7	1.3	スギ			斧	打ち割り
	2	9H4・9	SE5401		側板南	施設材	井戸側	縦板	板目	123.7	18.0	1.5	スギ			斧	打ち割り
381	1	9H4・9	SE5401	1	北北西	施設材	井戸側	縦板	板目	118.7	12.5	0.7	スギ	桟木圧痕で光沢・平滑 炭化物付着		斧	打ち割り
	2	9H4・9	SE5401			施設材	井戸側	縦板	板目	140.5	22.5	1.5	スギ			斧	打ち割り
382	A	9H4・9	SE5401			施設材	井戸側	隅柱	柾目	52.5	5.2	4.0	スギ			鋸後折取り	打ち割り
	B	9H4・9	SE5401			施設材	井戸側	隅柱	柾目	53.4	5.7	5.0	スギ			鋸後折取り	打ち割り
383		9H4・9	SE5401			施設材	井戸側	隅柱	柾目	56.0	5.8	3.8	スギ	刃物痕、圧痕		上：鋸 下：斧	打ち割り
384		9H4・9	SE5401			施設材	井戸側	隅柱	柾目	54.5	5.0	4.5	スギ	釿　圧痕 刃物痕	木目状圧痕	鋸	打ち割り　炭化
385			SR2444	4		施設材	井戸側	縦板	半裁状	95.5	13.5	5.0	クリ			先端側縁に加工痕	
386		9H4・9	SE5401	37		施設材	井戸側	曲物	板目	56.0	63.0	0.9	スギ	ケビキ			内側側板板目1列内多段綴じ 外側上段側板柾目1列外多段綴じ 外側下段側板柾目1列上外下内多段綴じ　タガ柾目1列外2段綴じ
387			P5673			容器		曲物	柾目	8.5	24.0	0.4	スギ	ケビキ			側板柾目　底板柾目 一括出土銭収納

中世　P5673 一括出土銭観察表（1）

報告番号	緡番号	銭貨名	書体	王朝	初鋳年（西暦）	背	外径縦（mm）	外径横（mm）	内径縦（mm）	内径横（mm）	内郭縦（mm）	内郭横（mm）	銭厚（mm）	重さ（g）	備考
388	28-2	五銖		後漢	24		25.2	24.7	22.1	25.5	9.7	9.3	1.0	2.51	
389	28-19	五銖		後漢	24		25.3	25.1	22.0	22.6	9.2	9.2	0.8	2.01	
390	1-30	開元通寶		唐	621	月	24.3	24.0	19.5	19.9	5.7	5.9	1.3	3.59	
391	25-45	開元通寶		唐	621	月	24.9	24.8	21.0	21.3	6.9	6.9	1.1	3.13	
392	27-56	開元通寶		唐	621		24.0	23.9	20.8	21.4	6.5	6.7	1.1	2.98	裏面の縁に刻み
393	3-43	乾元重寶		唐	758		23.2	23.2	21.3	21.3	6.8	6.9	1.1	2.90	
394	27-1	乾元重寶		唐	758		24.6	24.6	20.3	20.1	6.5	6.7	1.4	3.46	
395	7-60	乾德元寶		前蜀	919		23.2	23.1	19.7	19.1	7.2	7.2	1.3	3.62	
396	12-29	乾德元寶		前蜀	919		24.1	24.1	19.8	19.6	6.1	6.2	1.1	2.99	
397	12-67	咸康元寶		前蜀	925		22.9	22.8	19.6	19.4	6.1	6.2	1.3	3.81	
398	8-95	周通元寶		後周	955	?	25.3	25.3	19.4	20.3	6.7	6.5	0.7	2.81	
399	27-3	周通元寶		後周	955		23.9	24.5	18.5	18.8	5.7	5.8	1.5	3.92	
400	10-95	唐国通寶	篆	南唐	959		24.7	24.7	19.1	18.9	5.4	5.2	1.1	3.71	
401	10-58	唐国通寶	篆	南唐	959		24.6	24.6	19.9	19.8	5.4	5.6	1.1	3.04	
402	5-64	開元通寶		南唐	960		24.4	24.4	17.3	17.3	5.6	5.9	1.0	2.69	
403	8-88	開元通寶		南唐	960		24.6	24.6	18.1	17.5	5.6	5.8	1.2	3.65	
404	5-45	宋通元寶		北宋	960	右甲文	25.2	25.2	20.0	20.4	6.0	6.0	1.0	3.07	
405	11-97	宋通元寶		北宋	960		25.0	24.9	19.1	19.1	6.1	6.0	1.0	2.69	
406	25-16	太平通寶		北宋	976		24.3	24.2	18.9	18.9	5.8	5.9	1.0	3.12	
407	2-97	太平通寶		北宋	976		24.2	24.1	19.0	19.2	6.0	6.0	1.0	2.67	
408	1-11	淳化元寶	真	北宋	990		24.9	24.8	17.9	18.0	5.7	5.6	1.2	3.57	
409	5-56	淳化元寶	真	北宋	990		24.3	24.3	18.2	17.9	5.6	5.6	1.1	3.51	
410	4-37	淳化元寶	行	北宋	990		24.6	24.5	18.0	18.6	5.4	5.3	1.0	3.18	
411	26-40	淳化元寶	行	北宋	990		23.8	23.9	18.0	18.1	5.7	5.8	1.2	3.21	
412	6-89	淳化元寶	草	北宋	990		24.3	24.1	17.9	18.0	5.1	5.1	1.2	3.57	
413	11-69	淳化元寶	草	北宋	990		24.7	24.7	18.5	18.6	5.7	5.7	1.2	3.72	
414	1-84	至道元寶	真	北宋	995		24.3	24.4	17.9	17.9	5.7	5.7	1.1	3.15	
415	25-43	至道元寶	真	北宋	995		24.6	24.6	18.7	18.9	6.2	6.1	1.2	3.28	
416	6-94	至道元寶	行	北宋	995		24.2	24.0	17.6	17.8	5.8	6.0	1.2	2.66	
417	28-15	至道元寶	行	北宋	995		24.6	24.6	17.0	17.6	5.7	5.7	1.4	3.54	
418	11-46	至道元寶	草	北宋	995		24.3	24.5	17.5	17.7	6.1	6.2	1.0	3.37	
419	28-26	至道元寶	草	北宋	995		24.4	24.4	18.4	18.1	5.9	5.7	1.2	3.54	
420	1-51	咸平元寶	真	北宋	998		24.4	25.0	18.8	18.8	6.1	6.0	1.1	3.02	
421	25-12	咸平元寶		北宋	998		24.8	24.8	18.5	18.1	5.7	5.6	1.1	3.88	
422	25-71	景德元寶		北宋	1004		23.8	23.3	18.4	19.1	5.5	5.5	1.3	4.06	
423	28-28	景德元寶		北宋	1004		24.6	24.6	18.6	18.5	5.5	5.6	1.2	3.69	
424	3-15	祥符元寶		北宋	1008		24.8	24.9	18.9	18.5	6.5	6.2	1.1	3.54	
425	25-84	祥符元寶		北宋	1008		25.0	24.8	18.2	18.2	5.5	5.5	1.2	3.65	
426	2-20	祥符通寶		北宋	1008		23.9	23.8	19.0	19.6	5.8	6.1	1.4	3.98	文字大

中世　P5673 一括出土銭観察表（2）

報告番号	綱番号	銭貨名	書体	王朝	初鋳年（西暦）	背	外径縦（mm）	外径横（mm）	内径縦（mm）	内径横（mm）	内郭縦（mm）	内郭横（mm）	銭厚（mm）	重さ（g）	備考
427	25-87	祥符通寶		北宋	1008		25.0	24.8	19.4	19.4	6.1	6.1	1.0	3.18	
428	1-13	天禧通寶		北宋	1017		25.2	25.3	19.8	20.1	6.2	6.3	1.1	3.46	
429	2-8	天禧通寶		北宋	1017		25.1	25.0	20.7	20.6	5.9	6.2	1.1	3.26	
430	2-21	天聖元寶	真	北宋	1023		22.4	22.7	20.5	20.5	6.5	6.5	1.2	3.41	
431	25-4	天聖元寶	真	北宋	1023		24.0	23.8	20.9	20.3	6.9	6.8	1.2	3.71	
432	1-27	天聖元寶	篆	北宋	1023		24.7	24.8	20.8	20.8	7.6	7.6	1.1	3.47	
433	1-44	天聖元寶	篆	北宋	1023		22.4	22.7	20.3	20.5	6.3	6.7	1.0	3.17	
434	20-34	明道元寶	真	北宋	1032		25.1	25.1	19.2	20.0	5.9	6.2	1.3	4.48	
435	27-57	明道元寶	真	北宋	1032		25.4	25.3	21.3	21.5	5.9	5.7	1.3	4.08	
436	8-28	明道元寶	篆	北宋	1032		25.2	25.1	20.1	20.3	6.7	7.0	1.0	3.38	
437	25-24	明道元寶	篆	北宋	1032		25.2	25.1	21.1	21.0	6.7	6.7	1.2	3.89	
438	25-32	景祐元寶	真	北宋	1034		24.8	24.8	21.0	21.3	6.6	6.9	1.3	4.01	
439	28-38	景祐元寶	真	北宋	1034		22.3	22.4	19.9	19.5	6.5	6.5	1.0	2.59	
440	20-70	景祐元寶	篆	北宋	1034		25.0	24.8	19.7	19.5	5.6	5.6	0.8	3.08	
441	21-57	景祐元寶	篆	北宋	1034		25.0	25.3	20.5	20.5	6.5	6.9	1.1	3.27	
442	2-53	皇宋通寶	真	北宋	1038		23.6	23.9	18.4	19.4	6.6	6.7	1.2	3.71	文字小
443	2-54	皇宋通寶	真	北宋	1038		24.2	24.5	20.0	19.5	6.0	6.2	1.0	3.03	文字大
444	25-76	皇宋通寶	篆	北宋	1038		24.0	24.1	20.3	20.8	6.4	6.6	1.2	3.33	
445	27-52	皇宋通寶	篆	北宋	1038		24.3	24.6	17.5	16.9	5.9	6.0	1.0	3.53	
446	1-36	至和元寶	真	北宋	1054		23.3	23.6	18.2	17.6	6.1	6.0	1.2	3.38	
447	4-74	至和元寶	真	北宋	1054		24.1	24.3	18.5	19.0	7.3	7.4	1.1	3.07	
448	3-94	至和元寶	篆	北宋	1054		23.9	23.7	18.6	19.1	6.8	7.3	1.1	3.34	
449	29-64	至和元寶	篆	北宋	1054		24.0	24.0	19.2	19.0	5.8	5.8	1.3	3.92	
450	3-53	至和通寶	真	北宋	1054		23.8	24.5	18.8	18.6	6.9	6.1	0.9	3.03	
451	26-13	至和通寶	真	北宋	1054		24.3	24.1	18.8	18.4	6.9	6.8	1.0	3.30	
452	4-19	至和通寶	篆	北宋	1054		24.6	24.5	18.6	18.3	6.6	6.9	1.1.	3.46	
453	6-27	至和通寶	篆	北宋	1054		23.4	23.7	18.6	19.0	6.6	6.6	1.1	2.94	
454	25-56	嘉祐元寶	真	北宋	1056		23.5	23.5	18.3	19.1	6.7	6.8	1.1	3.14	
455	27-50	嘉祐元寶	真	北宋	1056		23.7	23.5	18.1	18.1	6.4	6.8	1.3	3.79	
456	8-46	嘉祐元寶	篆	北宋	1056		23.3	23.4	18.0	17.7	6.3	6.1	1.0	2.80	
457	20-67	嘉祐元寶	篆	北宋	1056		23.4	23.2	17.6	18.3	6.1	6.1	1.2	3.06	
458	1-74	嘉祐通寶	真	北宋	1056		24.4	24.4	19.3	19.1	7.0	6.9	1.2	3.54	
459	2-33	嘉祐通寶	真	北宋	1056		25.2	25.2	20.1	19.5	7.0	7.2	1.0	3.02	
460	1-18	嘉祐通寶	篆	北宋	1056		25.1	25.3	18.7	18.9	7.1	7.2	0.9	3.01	
461	4-44	嘉祐通寶	篆	北宋	1056		25.0	25.0	19.3	19.3	7.4	7.1	1.0	3.25	
462	4-92	治平元寶	真	北宋	1064		24.1	24.0	19.5	19.3	6.5	6.7	1.3	3.58	
463	18-51	治平元寶	真	北宋	1064		23.7	23.8	17.9	17.8	5.7	5.8	1.1	3.67	
464	5-21	治平元寶	篆	北宋	1064		24.0	24.0	18.3	18.4	5.6	5.8	1.2	3.83	
465	22-12	治平元寶	篆	北宋	1064		24.1	24.0	19.4	19.4	6.3	6.3	1.2	3.27	
466	25-3	治平通寶	真	北宋	1064		24.3	24.3	19.3	19.6	7.1	7.1	1.0	2.82	
467	20-58	治平通寶	真	北宋	1064		23.7	23.8	18.8	18.9	6.8	6.7	1.3	3.48	
468	8-75	治平通寶	篆	北宋	1064		24.4	24.3	19.6	19.4	7.3	7.2	1.2	3.27	
469	20-92	治平通寶	篆	北宋	1064		24.1	24.3	19.6	19.2	7.1	7.4	1.1	2.83	
470	1-40	熙寧元寶	真	北宋	1068		24.9	25.0	20.6	20.2	6.8	6.6	1.0	3.07	
471	25-62	熙寧元寶	真	北宋	1068		24.2	24.2	20.9	20.2	6.8	7.0	1.3	3.70	
472	2-34	熙寧元寶	篆	北宋	1068		24.2	24.1	19.9	20.5	7.0	7.1	1.2	3.30	
473	12-69	熙寧元寶	篆	北宋	1068		23.6	23.5	18.8	19.1	6.8	7.0	1.4	4.26	
474	8-1	元豊通寶	行	北宋	1078		23.8	23.6	18.1	18.6	5.9	5.8	1.2	3.24	
475	25-57	元豊通寶	行	北宋	1078		25.2	25.2	17.8	18.8	6.7	6.9	1.1	3.52	
476	3-61	元豊通寶	篆	北宋	1078		24.3	24.5	18.6	18.6	5.8	6.0	1.2	3.38	
477	28-13	元豊通寶	篆	北宋	1078		24.5	24.7	18.1	18.3	6.2	6.3	1.1	3.65	
478	1-25	元祐通寶	行	北宋	1086		24.5	24.6	20.8	20.4	6.9	7.1	1.3	3.48	
479	28-45	元祐通寶	行	北宋	1086		23.9	23.8	18.2	18.6	6.3	6.1	1.0	2.52	
480	25-1	元祐通寶	篆	北宋	1086		24.0	23.8	19.1	19.6	6.6	6.5	1.2	3.56	
481	10-16	元祐通寶	篆	北宋	1086		24.2	24.2	18.0	17.9	6.5	6.9	1.0	3.28	
482	2-94	紹聖元寶	行	北宋	1094		24.4	24.3	17.7	17.3	6.7	6.4	1.2	3.36	
483	25-86	紹聖元寶	行	北宋	1094		23.8	23.7	19.3	18.5	7.1	6.8	1.4	3.15	
484	1-9	紹聖元寶	篆	北宋	1094		24.7	24.8	17.4	18.0	5.5	5.6	1.2	3.42	
485	2-24	紹聖元寶	篆	北宋	1094	月	25.3	25.1	20.0	20.1	7.1	7.2	1.2	3.55	
486	3-20	元符通寶	行	北宋	1098		23.7	23.6	17.7	17.5	6.1	6.2	1.2	3.49	
487	3-55	元符通寶	行	北宋	1098		23.9	23.6	18.9	18.9	6.4	6.5	1.4	3.68	
488	1-50	元符通寶	篆	北宋	1098		23.0	23.3	18.4	17.8	6.2	6.4	1.3	3.42	
489	25-15	元符通寶	篆	北宋	1098		23.4	23.0	18.1	18.4	6.6	6.6	1.3	3.27	
490	3-59	聖宋元寶	行	北宋	1101		25.2	25.2	20.7	20.5	6.8	6.8	1.1	3.09	
491	4-40	聖宋元寶	行	北宋	1101		24.6	24.3	20.0	19.6	6.2	6.2	1.3	4.05	
492	1-45	聖宋元寶	篆	北宋	1101		24.9	25.1	18.9	18.9	6.2	6.0	1.4	3.50	
493	4-91	聖宋元寶	篆	北宋	1101		24.4	24.5	19.4	19.2	5.8	5.6	1.1	3.64	
494	1-68	大観通寶		北宋	1107		25.0	25.1	22.2	21.9	6.2	6.3	1.5	3.48	
495	25-94	大観通寶		北宋	1107		24.4	24.5	21.4	21.7	6.1	6.1	1.5	3.49	
496	28-44	政和通寶	隷	北宋	1111		24.6	24.7	21.6	21.3	7.4	7.4	1.4	3.95	
497	28-86	政和通寶	隷	北宋	1111		24.6	24.4	20.5	20.9	6.3	6.2	0.9	2.80	
498	1-64	政和通寶	篆	北宋	1111		24.3	24.4	20.3	20.6	6.5	6.4	1.4	3.47	
499	25-95	政和通寶	篆	北宋	1111		24.4	24.6	21.3	20.8	6.1	5.9	1.5	4.10	
500	13-91	宣和通寶	隷	北宋	1119		25.8	26.2	21.1	20.6	6.5	6.5	1.2	3.36	
501	19-4	宣和通寶	隷	北宋	1119		24.9	24.9	21.3	21.1	6.9	6.7	1.3	3.49	
502	8-56	宣和通寶	篆	北宋	1119		24.9	24.2	19.4	19.9	5.2	5.6	1.3	3.46	
503	25-78	宣和通寶	篆	北宋	1119		24.8	25.1	20.4	20.2	5.6	5.8	1.4	4.27	
504	18-80	建炎通寶	篆	南宋	1127		23.8	23.5	21.8	21.6	7.4	7.7	0.9	2.16	
505	10-94	正隆元寶		金	1157		24.9	24.8	21.3	21.1	5.4	5.4	1.4	3.48	
506	16-8	正隆元寶		金	1157		25.1	25.1	21.4	21.2	5.8	5.6	1.4	3.69	
507	3-13	淳熙元寶	真	南宋	1174	十	23.5	23.9	18.8	18.3	5.9	6.1	1.2	3.51	

中世　P5673 一括出土銭観察表（3）

報告番号	網番号	銭貨名	書体	王朝	初鋳年（西暦）	背	外径縦（mm）	外径横（mm）	内径縦（mm）	内径横（mm）	内郭縦（mm）	内郭横（mm）	銭厚（mm）	重さ（g）	備考
508	6-7	淳熙元寶	真	南宋	1174	月星	23.8	23.6	17.6	17.5	6.5	6.5	1.3	2.93	
509	7-19	淳熙元寶	真	南宋	1174	月星	23.8	23.9	18.1	17.9	6.2	6.2	1.4	3.36	
510	12-22	淳熙元寶	真	南宋	1174	柒	24.0	23.9	18.2	18.2	6.1	6.3	1.3	3.83	
511	28-78	淳熙元寶	真	南宋	1174	十三	24.0	23.9	18.2	18.8	7.2	7.3	1.2	3.01	
512	25-93	紹熙元寶		南宋	1190	元	22.7	23.0	20.1	19.2	5.6	5.6	1.1	2.81	
513	26-19	紹熙元寶		南宋	1190	四	23.3	23.6	18.4	18.6	6.3	6.2	1.3	3.68	
514	3-88	紹熙元寶		南宋	1190	元	24.2	24.1	21.0	20.8	6.0	6.1	1.3	2.90	
515	3-2	慶元通寶		南宋	1195	元	24.0	23.2	20.1	20.2	6.4	6.5	1.3	3.16	
516	11-10	慶元通寶		南宋	1195	二	24.2	24.3	20.3	19.3	6.7	6.4	1.3	3.60	
517	2-50	慶元通寶		南宋	1195	三	24.0	24.1	20.2	19.8	6.6	6.7	1.2	3.23	
518	17-37	慶元通寶		南宋	1195	四	24.3	24.2	20.2	19.3	6.7	6.6	1.3	3.62	
519	21-24	慶元通寶		南宋	1195	元	24.0	23.5	20.1	19.9	6.4	6.5	1.4	3.74	
520	22-87	慶元通寶		南宋	1195	二	23.8	23.8	19.2	19.4	6.4	6.3	1.3	3.01	
521	10-78	嘉泰通寶		南宋	1201	二	24.2	24.9	20.2	20.2	6.7	6.9	1.1	2.91	
522	11-64	嘉泰通寶		南宋	1201	元	24.2	24.6	21.2	20.9	6.3	6.6	1.3	3.71	
523	4-96	開禧通寶		南宋	1205	元	23.4	23.2	20.1	20.8	6.7	6.4	1.1	2.71	
524	19-47	開禧通寶		南宋	1205	元	23.8	24.3	20.6	21.1	6.6	6.5	1.1	3.08	
525	3-41	嘉定通寶		南宋	1208	三	24.2	23.6	21.1	21.1	6.3	6.4	1.2	3.62	
526	5-39	嘉定通寶		南宋	1208	十二	24.0	23.4	20.9	20.6	6.7	6.9	1.2	2.79	
527	9-77	嘉定通寶		南宋	1208	元	24.2	24.1	20.5	20.5	6.2	6.2	1.2	3.24	
528	11-13	嘉定通寶		南宋	1208	九	24.4	24.1	21.0	20.6	6.4	5.8	1.2	3.55	
529	14-5	嘉定通寶		南宋	1208	十一	23.8	23.8	20.0	19.3	6.4	6.4	1.6	3.89	
530	13-2	大宋元寶		南宋	1225	二	22.6	22.3	19.5	19.3	6.9	7.1	1.4	3.14	
531	16-47	大宋元寶		南宋	1225	?	23.2	23.0	19.4	19.4	7.0	6.6	1.1	2.68	
532	2-10	紹定通寶		南宋	1228	四	24.2	24.2	20.0	20.5	6.3	6.2	1.4	3.53	
533	10-53	紹定通寶		南宋	1228	六	23.7	23.5	19.8	20.0	6.0	6.2	1.3	3.23	
534	1-67	嘉熙通寶		南宋	1237	三	23.8	23.2	20.1	19.6	6.0	6.1	1.3	3.15	
535	11-44	淳祐元寶		南宋	1241	六	24.3	24.4	20.2	20.8	6.4	6.3	1.1	3.12	
536	25-14	淳祐元寶		南宋	1241	四	23.6	23.4	20.2	20.5	7.2	7.3	1.3	2.94	
537	4-57	皇宋元寶		南宋	1253	二	24.6	25.3	19.9	20.1	6.4	6.5	1.5	4.22	
538	14-34	皇宋元寶		南宋	1253	六	24.0	24.3	20.9	20.0	6.8	6.5	1.1	2.83	
539	28-57	開慶通寶		南宋	1259	元	25.0	25.2	20.5	20.7	6.4	6.5	1.3	3.87	
540	12-60	景定元寶		南宋	1260	三	24.0	23.8	19.8	20.3	7.0	6.7	1.0	2.76	
541	13-14	景定元寶		南宋	1260	元	24.0	24.1	20.9	20.8	6.7	6.6	1.1	2.94	
542	20-22	景定元寶		南宋	1260	二	24.5	24.1	20.4	21.4	6.4	6.0	1.5	2.97	
543	6-67	咸淳元寶		南宋	1265	二	23.8	23.5	19.4	19.9	6.6	6.6	1.1	3.41	
544	16-68	咸淳元寶		南宋	1265	二	23.6	23.7	19.3	20.1	7.1	7.0	1.2	3.43	

縄文時代　土器観察表

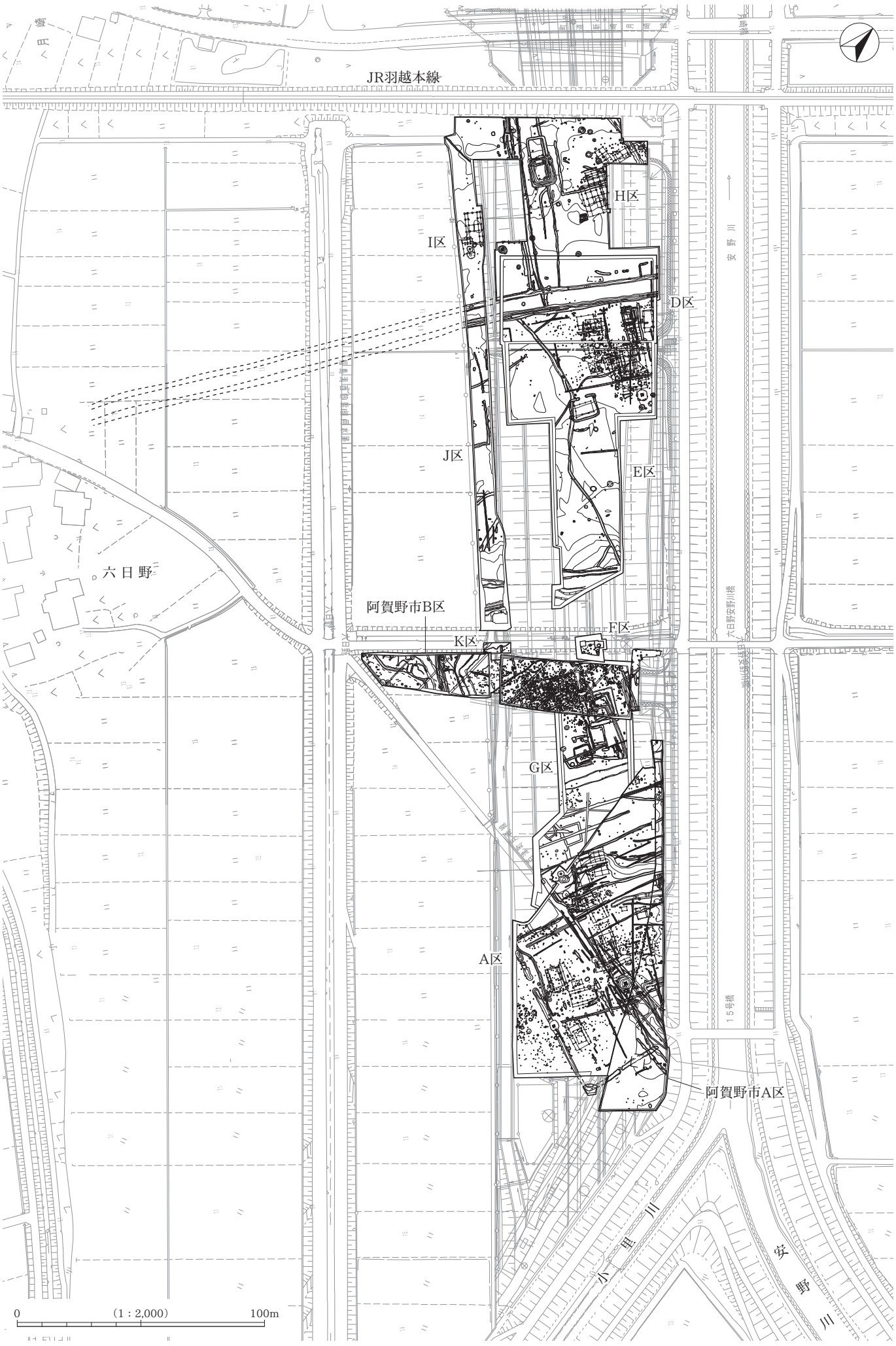
胎土の略称：金雲母…金、石英…石、長石…長、角閃石…角、海綿骨針…海骨

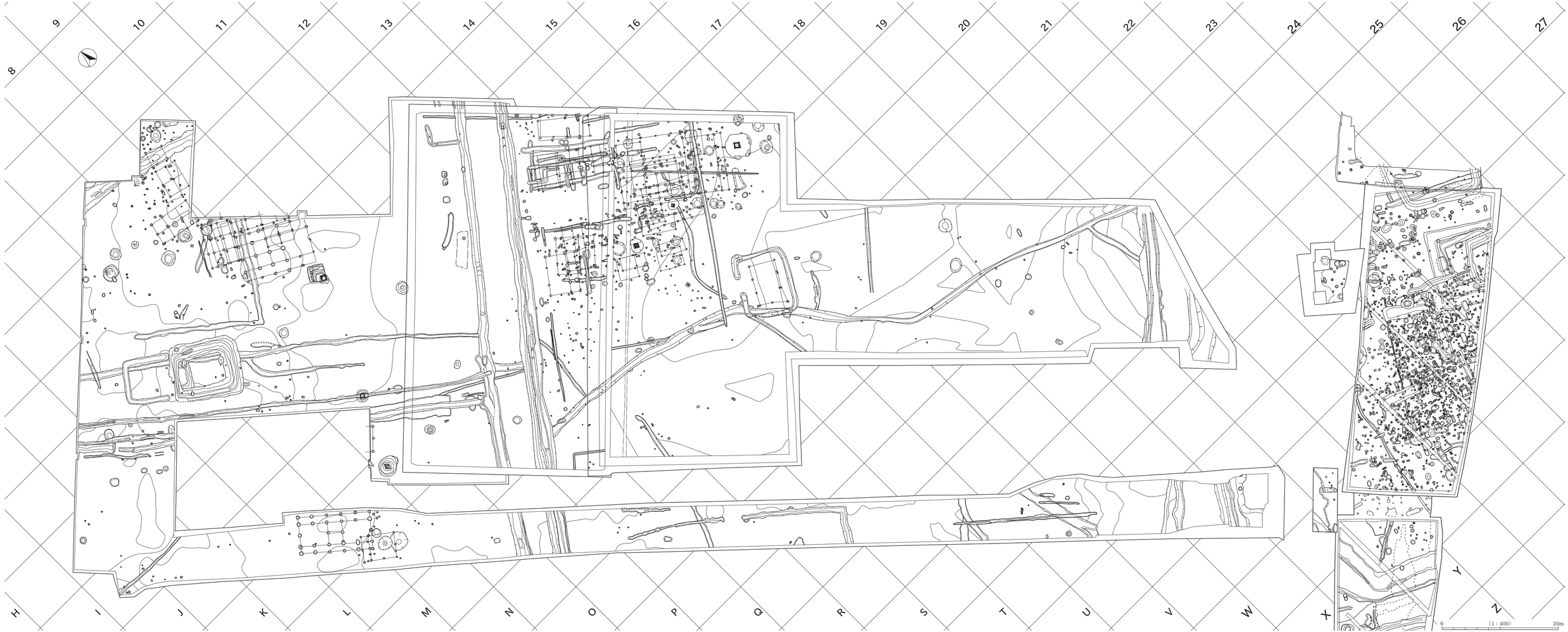
報告番号	器種	出土位置			法量(cm)			胎土	色調		調整/施文		炭化物付着		備考
		グリッド	遺構	層位	口径	器高	底径		外面	内面	外面	内面	外面	内面	
545	甕	12G7	SR2444	3a	38.0			長	にぶい黄橙（10YR6/3）	にぶい黄橙（10YR7/3）	口：縄文R+平行沈線文 肩：縄文R	ナデ		口～肩	
546	深鉢	10I7	SR2444	3a			11.0	長	にぶい黄橙（10YR7/4）	橙（7.5YR7/6）	体：縄文LR	ナデ	体		
547	深鉢	9H15	SR2444	3a	34.5	42.4	11.4	長・角	浅黄橙（10YR8/3）	浅黄橙（10YR8/3）	口体：条痕文	ナデ	体	口～体	
548	壺	12G4	SR2444	3a	13.8	19.4	7.8	長・金	にぶい黄橙（10YR7/3）	にぶい黄橙（10YR7/3）	口：平行沈線文、肩：変形工字文、体：縄文RL	ナデ	肩～体上	肩～底	
549	甕	11I15	SR2444	3h	24.0			長・石	浅黄橙（10YR8/3）	にぶい黄橙（10YR7/3）	口肩：縄文LR+平行沈線文 体：条痕文	ナデ		口、肩～体	
550	甕	11H19	SR2444	3h	33.5			長・金	褐灰（10YR5/1）	褐灰（10YR6/1）	口：平行沈線文 体：縄文LR	ナデ			
551	甕	12G15	SR2444	3h	25.5	27.7	9.3	長・角	褐灰（10YR5/1）	浅黄橙（10YR8/3）	口：縄文L+平行沈線文 肩：浮線文、体：条痕文	ナデ	口～体	口～肩	
552	－	12I13	SR2444	3h				金・海骨	灰黄褐（10YR6/2）	にぶい黄橙（10YR7/3）	体：縄文LR+平行沈線文	ナデ	体		
553	深鉢	8M9	SR2444	5e				長・金	にぶい黄橙（10YR7/3）	にぶい黄橙（10YR7/4）	口：ミガキ、結節縄文LR 体：縄文LR	ナデ		口～体	
554	浅鉢	11H20	SR2444	6a				長・海骨	にぶい赤褐（5YR4/3）	にぶい赤褐（5YR4/4）	口：浮線文	口：平行沈線文			外面赤彩
555	甕	12G4	SR2444	6a	27.6	37.9	11.2	長	橙（5YR7/6）	橙（5YR6/6）	口：縄文LR+平行沈線文 肩：平行沈線文 体：縄文LR	ナデ	体	口～体	底部網代痕
556	浅鉢	10H17	SR2444	8a				長	黄橙（10YR8/6）	浅黄橙（10YR8/4）	口：浮線文	口：平行沈線文			外面赤彩
557	甕	8J25 9J11・12	SR2444	12a	37.4	54.5	14.0	長・金	にぶい橙（7.5YR7/3）	灰褐（7.5YR6/2）	口：擬縄文、頸：綾杉文 肩体：条痕文+擬縄文	ナデ	口～体	口～体	底部網代痕
558	深鉢	11I20	SC5510	1				長	灰黄褐（10YR6/2）	灰黄褐（10YR6/2）	体：縄文LR?	ナデ			
559	甕?	12I16	SC5510	1				長・角	灰黄褐（10YR6/2）	黄橙（10YR8/6）	体：沈線文、縄文LR	ナデ			
560	壺	12I16	SC5510	3	6.5			長	にぶい黄橙（10YR7/3）	にぶい黄橙（10YR6/3）	肩：変形工字文	ナデ		口～肩	
561	深鉢	11I25	SC5535	1				長	橙（7.5YR7/6）	にぶい橙（7.5YR7/3）	口：縄文LR	ナデ		口	
562	深鉢	11I25	SC5535	1				長・金	灰白（10YR8/2）	橙（7.5YR7/6）	口：縄文LR?	ナデ			
563	－	11I25	SC5535	1				長・金	黄橙（10YR8/6）	浅黄橙（10YR8/4）	体：条痕文	ナデ	体	体	
564	浅鉢	7L20	SK5743	1	26.0			長・石	浅黄橙（7.5YR8/6）	浅黄橙（10YR浅黄橙8/4）	口：楕円文+平行沈線文	口：平行沈線文			

縄文時代　石器観察表

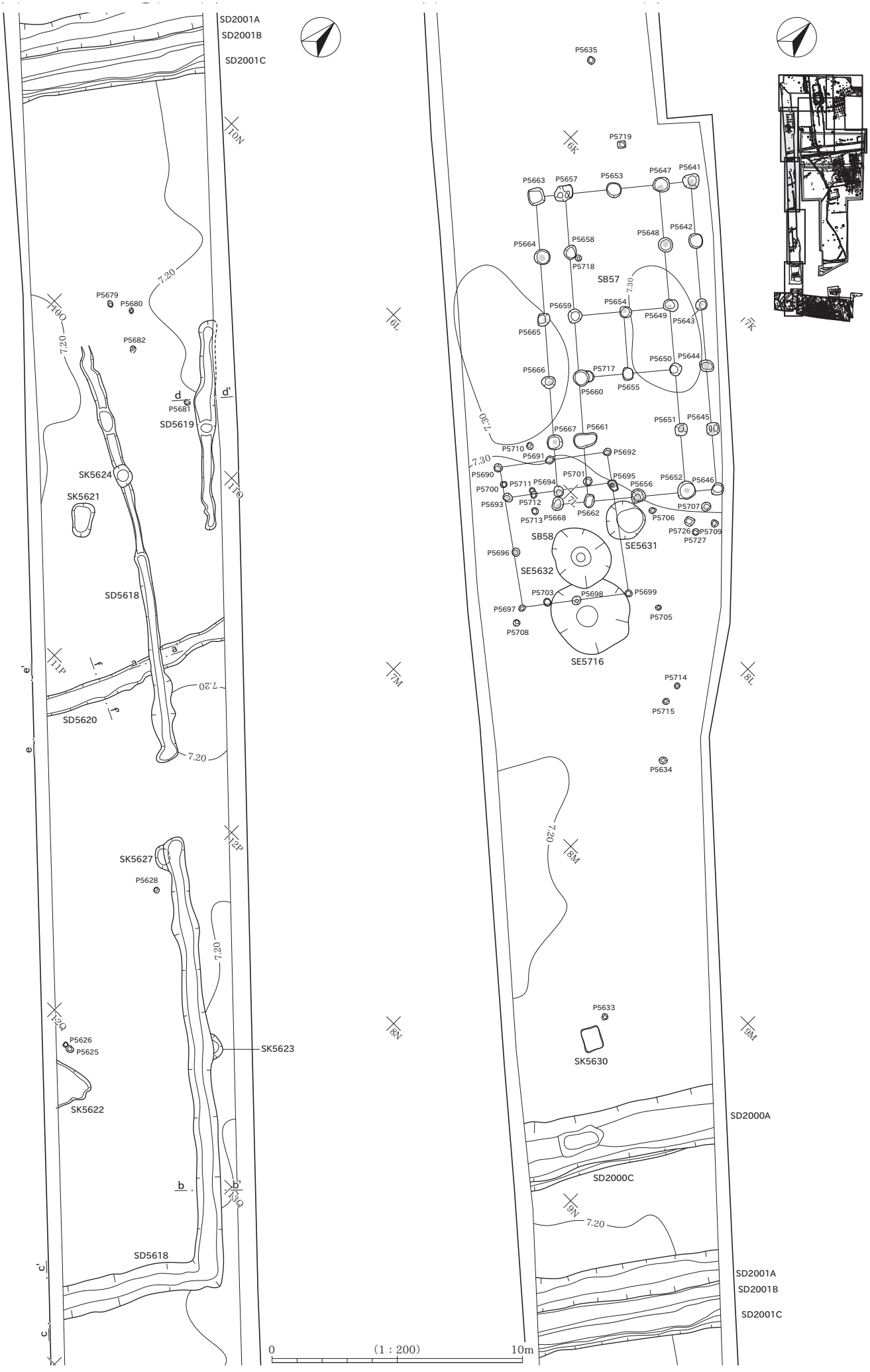
報告番号	出土地点			器種	石材	法量（cm）			重さ（g）	加工	備考
	グリッド	遺構	層			長さ	幅	厚さ			
565	8I9	SC5515	2	石鏃	流紋岩	2.51	1.87	0.45	1.75	周縁に連続剥離	未成品

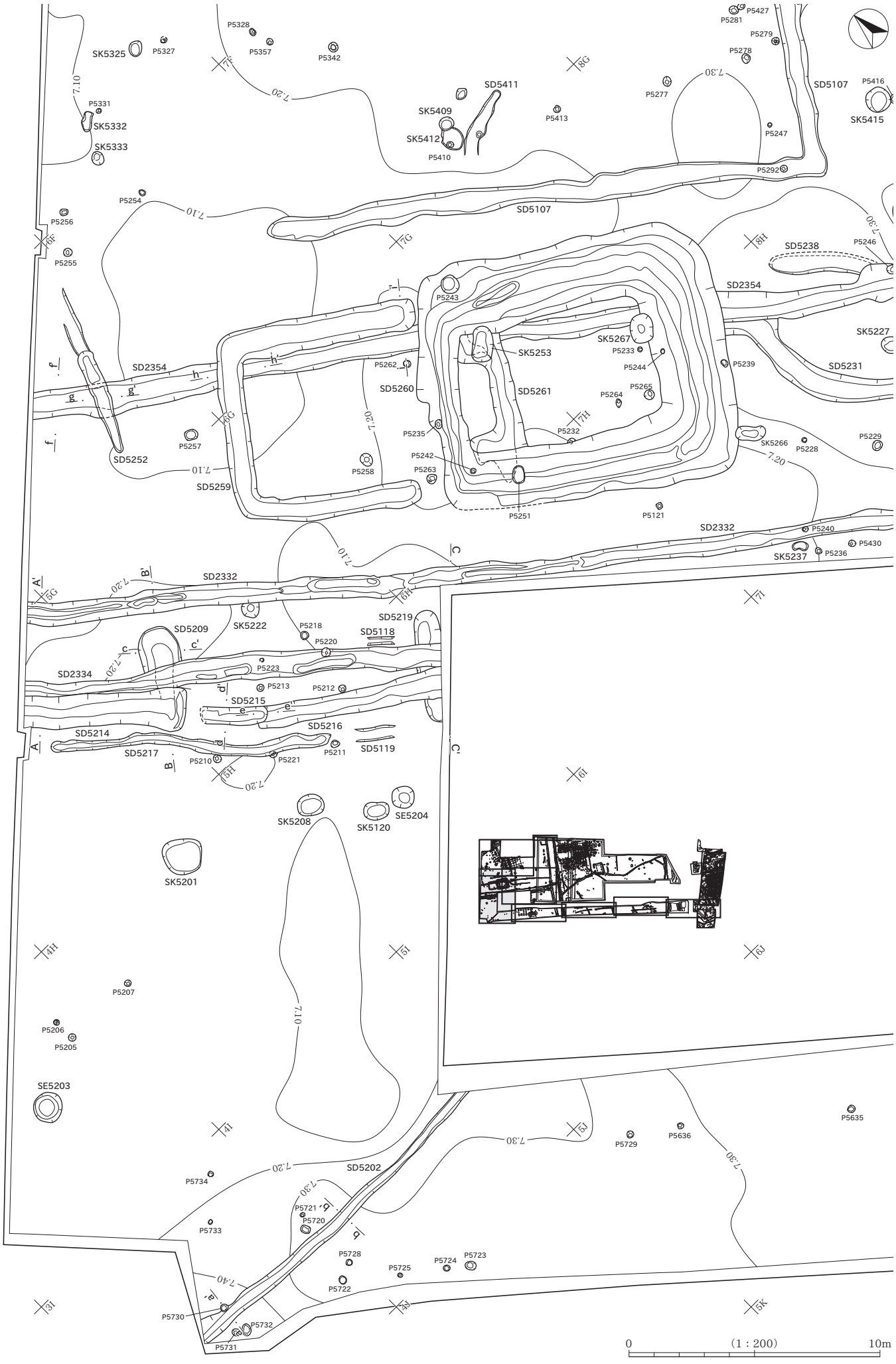
図　　版


JR羽越本線
H区
I区
D区
J区
E区
六日野
阿賀野市B区
F区
K区
G区
A区
阿賀野市A区
安野川
六日野安野川橋
15号橋
小里川
安野川
0
（1：2,000）
100m

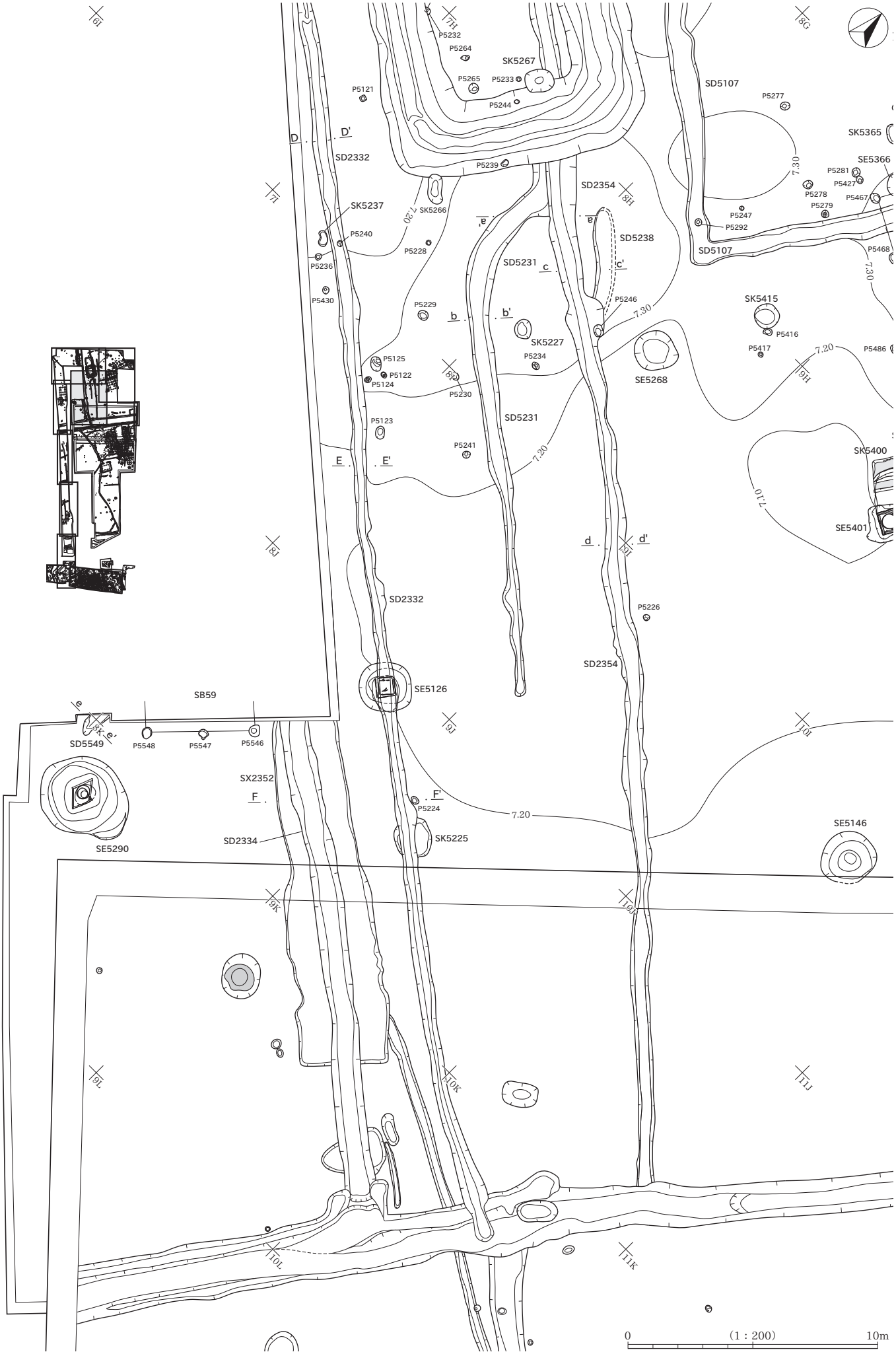

8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
H
I
J
K
L
M
N
O
P
Q
R
S
T
U
V
W
X
Y
Z
0
(1：400)
20m

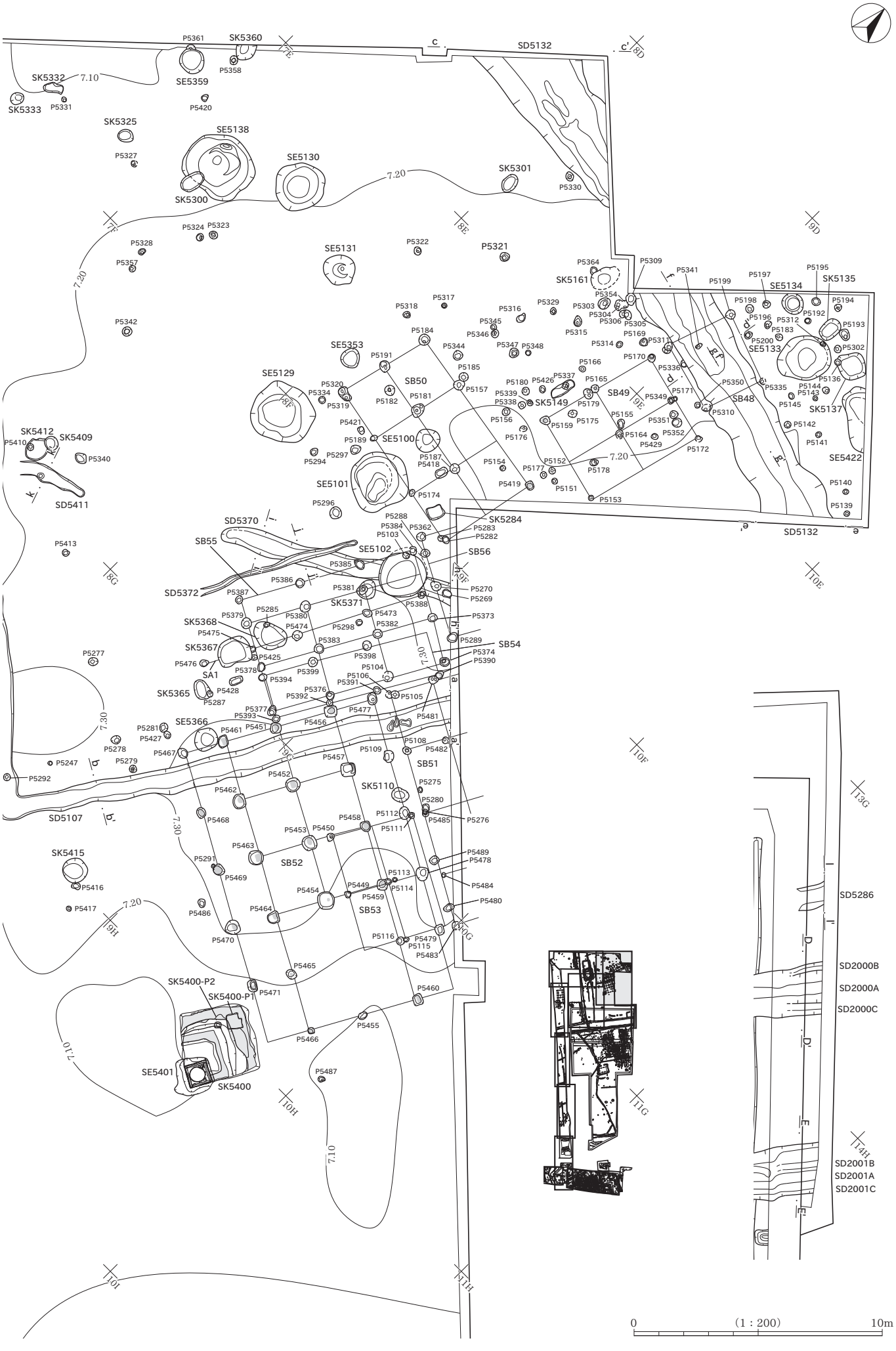
SD3072
SD3071
SD3072
P5629
SK5614
SK5674
SD5678
SD5677
SK5671
SK5670
SD5675
P5673
P5738
P5737
P5736
P5676
P5739
SD5607
SD5602
SD5600
P5611
P5613
P5612
P5609
SK5616
SD5604
SD5601
SK5615
P5606
SK5605
SD5603
7.20
7.00
7.10
6.90
6.80
0
(1 : 200)
10m


SD2001A
SD2001B
SD2001C
10N
10O
11O
11P
12P
12Q
13Q
6K
6L
7K
7M
8L
8M
8N
9M
9N
P5635
P5719
P5663
P5657
P5653
P5647
P5641
P5664
P5658
P5718
P5648
P5642
SB57
P5659
P5654
P5649
P5643
P5665
P5666
P5717
P5660
P5655
P5650
P5644
P5651
P5645
P5667
P5661
P5710
P5691
P5692
P5690
P5700
P5711
P5694
P5701
P5695
P5656
P5652
P5646
P5693
P5712
P5713
P5668
P5662
P5707
P5706
P5726
P5709
P5727
SB58
SE5631
P5696
SE5632
P5703
P5698
P5699
P5697
P5705
P5708
SE5716
P5714
P5715
P5634
P5633
SK5630
SD2000A
SD2000C
SD2001A
SD2001B
SD2001C
P5679
P5680
P5682
P5681
SD5619
SK5624
SK5621
SD5618
SD5620
SK5627
P5628
SK5623
P5626
P5625
SK5622
SD5618
7.20
7.30
0
(1 : 200)
10m

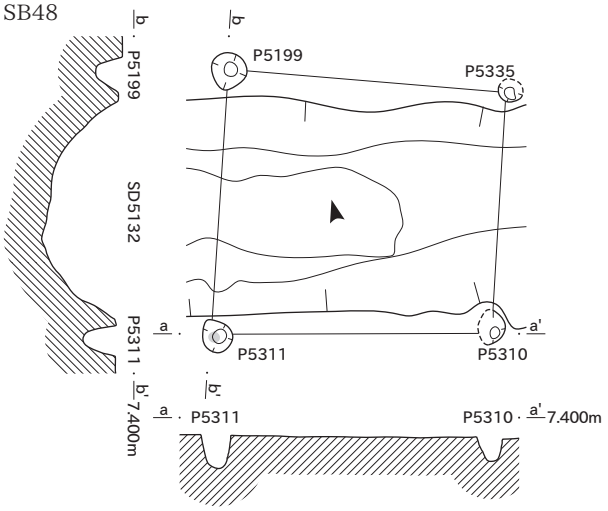

SK5325
P5327
P5328
P5357
P5342
SD5411
SK5409
SK5412
P5410
P5413
P5277
P5427
P5281
P5279
P5278
SD5107
P5416
SK5415
P5247
P5292
P5331
SK5332
SK5333
P5254
P5256
P5255
SD5107
SD5238
P5246
SD2354
P5243
SK5267
SK5253
P5233
P5244
P5239
SK5227
SD5231
SD2354
SD5260
SD5261
P5262
P5264
P5265
P5235
P5232
SK5266
P5228
P5229
P5257
SD5252
P5258
P5242
P5263
SD5259
P5251
P5121
SD2332
P5240
P5430
SK5237
P5236
SD2332
SK5222
P5218
P5220
SD5219
SD5118
SD5209
SD2334
P5223
P5213
P5212
SD5215
SD5216
SD5214
SD5217
P5210
P5221
P5211
SD5119
SK5208
SK5120
SE5204
SK5201
P5207
P5206
P5205
SE5203
P5635
P5729
P5636
SD5202
P5734
P5721
P5720
P5733
P5728
P5725
P5724
P5723
P5722
P5730
P5732
P5731
0
(1 : 200)
10m

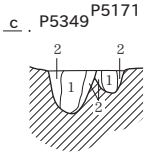
古代・中世遺構分割図（4）


SK5267
SD5107
SK5365
SE5366
SD2332
SD2354
SD5238
SD5231
SK5237
SK5266
SK5415
SK5227
SE5268
SK5400
SE5401
SD2332
SD2354
SE5126
SB59
SD5549
SX2352
SE5290
SD2334
SK5225
SE5146
0
(1 : 200)
10m


SK5360
SD5132
SK5332
SE5359
SK5333
SK5325
SE5138
SE5130
SK5301
SK5300
SE5131
SK5161
SE5134
SK5135
SE5133
SE5353
SE5129
SB50
SB49
SB48
SK5149
SK5137
SK5412
SK5409
SD5411
SE5100
SE5101
SE5422
SD5370
SK5284
SD5132
SB55
SE5102
SB56
SD5372
SK5371
SK5368
SK5367
SA1
SK5365
SB54
SE5366
SB51
SK5110
SD5107
SK5415
SB52
SB53
SK5400-P2
SK5400-P1
SE5401
SK5400
SD5286
SD2000B
SD2000A
SD2000C
SD2001B
SD2001A
SD2001C
0
(1 : 200)
10m

SB48

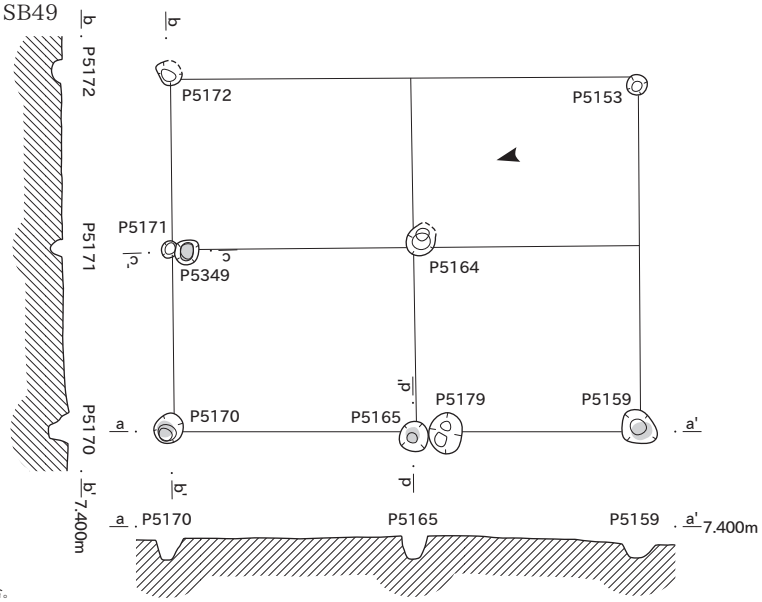


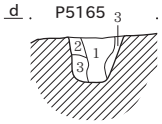


P5171
1　7.5YR2/1黒色粘土　粘性・しまり強。灰褐色シルト10mm以下少量含。
2　7.5YR3/4暗褐色粘土　粘性・しまり強。浅黄橙色シルト少量含。

P5349
1　7.5YR2/1黒色粘土　粘性・しまり強。灰褐色シルト10mm以下中量含。
2　7.5YR8/3浅黄色粘土　粘性・しまり強。黒褐色シルト10mm以下中量含。

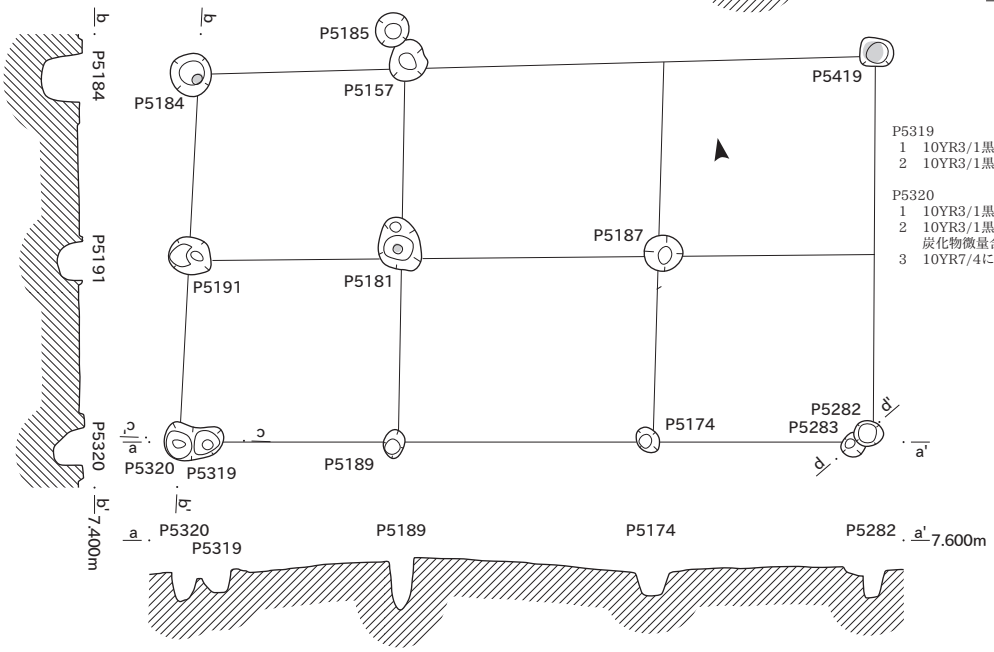
SB49

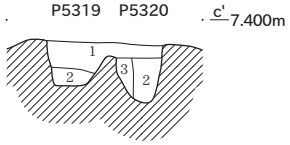




P5165
1　10YR2/1黒色粘土　粘性強・しまり中。
2　10YR3/4暗褐色粘土　粘性・しまり強。
3　10YR8/3浅黄橙色粘土　粘性・しまり強。

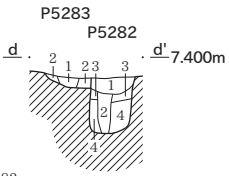
SB50





P5319
1　10YR3/1黒褐色シルト　粘性・しまり中。浅黄橙色シルト3mm以下少量含。
2　10YR3/1黒褐色シルト　粘性・しまり中。浅黄橙色シルト5mm以下微量含。

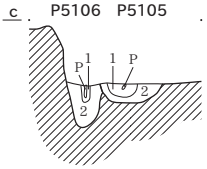
P5320
1　10YR3/1黒褐色シルト　粘性・しまり中。浅黄橙色シルト3mm以下少量含。
2　10YR3/1黒褐色粘質シルト　粘性・しまり強。にぶい黄橙色シルト粒子中量、炭化物微量含。
3　10YR7/4にぶい黄橙色シルト　粘性・しまり強。黒褐色粘質シルト中量含。



P5282
1　10YR5/1褐灰色粘質シルト　粘性・しまり強。にぶい黄橙色シルト中量含。
2　10YR4/1褐灰色粘質シルト　粘性・しまり強。
3　10YR5/1褐灰色粘質シルト　粘性・しまり強。にぶい黄橙色シルト少量含。
4　10YR4/1褐灰色粘質シルト　粘性・しまり強。にぶい黄橙色シルト中量含。

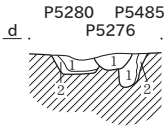
P5283
1　10YR6/1褐灰色粘質シルト　粘性・しまり強。にぶい黄橙色シルト少量含。
2　10YR6/1褐灰色粘質シルト+10YR7/4にぶい黄橙色シルト　粘性・しまり強。

SB51



P5105
1　10YR4/2灰黄褐色シルト　粘性強・しまり弱。明黄褐色シルトブロック微量、炭化物少量含。
2　10YR6/2灰黄褐色砂質シルト　粘性弱・しまり強。黒褐色シルトブロック微量含。

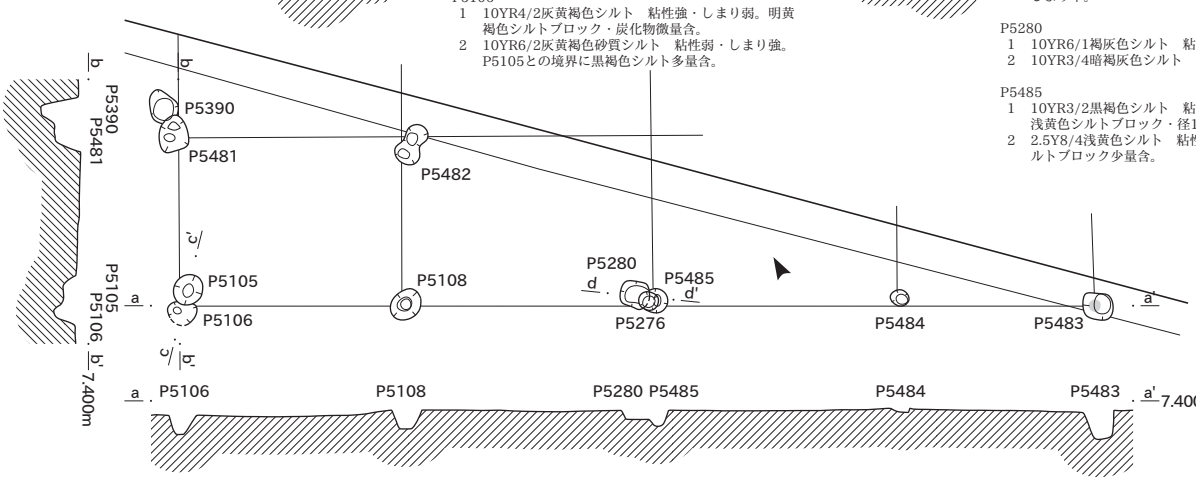
P5106
1　10YR4/2灰黄褐色シルト　粘性強・しまり弱。明黄褐色シルトブロック・炭化物微量含。
2　10YR6/2灰黄褐色砂質シルト　粘性弱・しまり強。P5105との境界に黒褐色シルト多量含。



P5276
1　10YR5/1褐灰色シルト+2.5Y8/4浅黄色シルト　粘性・しまり中。

P5280
1　10YR6/1褐灰色シルト　粘性・しまり中。
2　10YR3/4暗褐灰色シルト　粘性・しまり中。

P5485
1　10YR3/2黒褐色シルト　粘性やや強・しまりやや弱。浅黄色シルトブロック・径10mm以下の炭化物少量含。
2　2.5Y8/4浅黄色シルト　粘性・しまりやや強。黄灰色シルトブロック少量含。

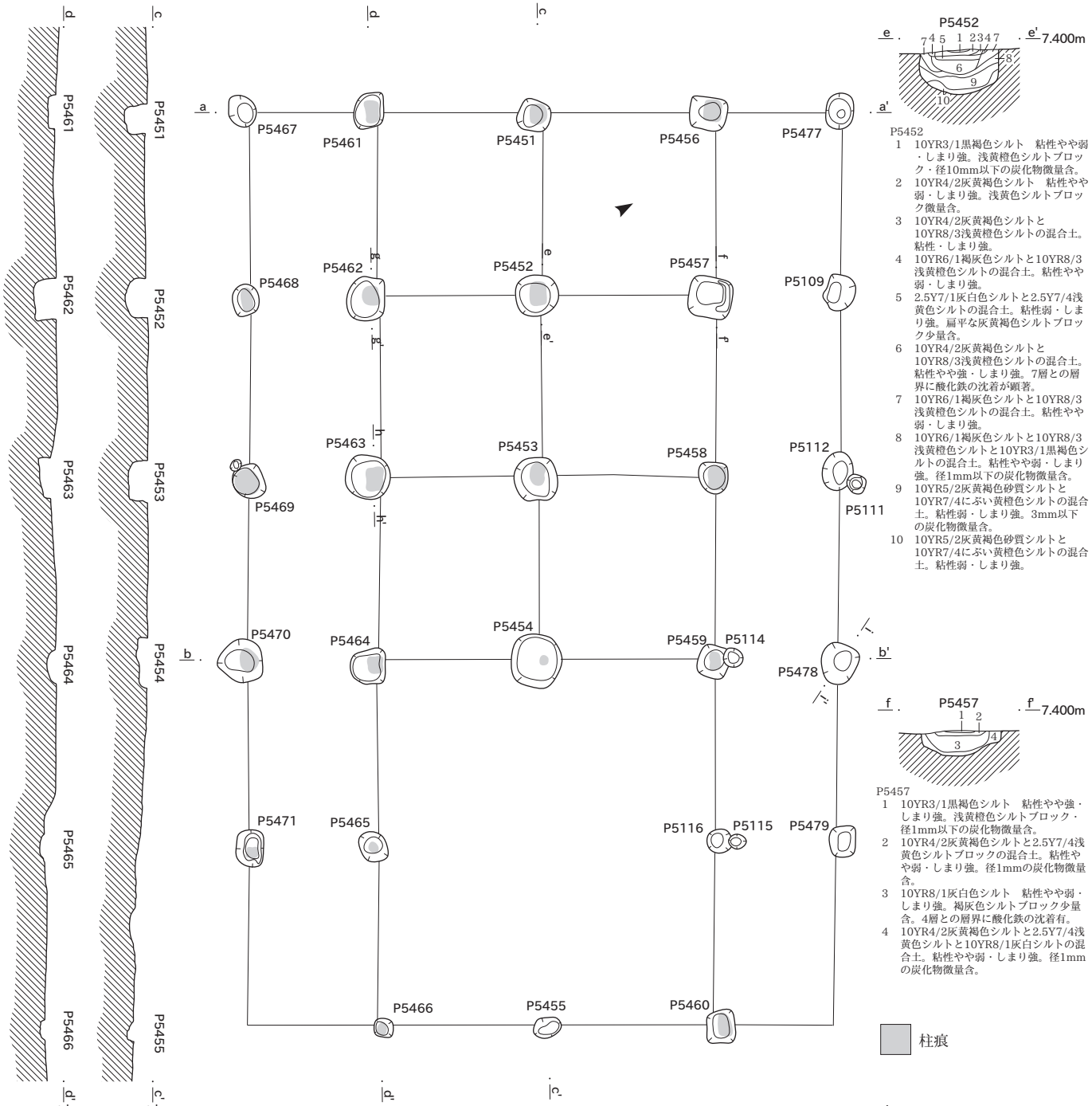


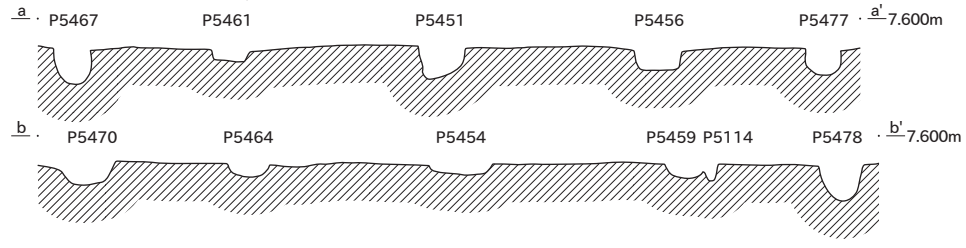
柱痕

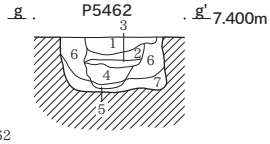
0　断面図（1：40）　2m

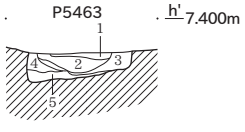
0　平面図・エレベーション図（1：80）　4m

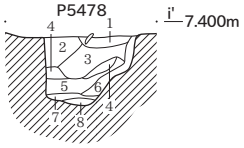
SB52











P5452
1 10YR3/1黒褐色シルト　粘性やや弱・しまり強。浅黄橙色シルトブロック・径10mm以下の炭化物微量含。
2 10YR4/2灰黄褐色シルト　粘性やや弱・しまり強。浅黄色シルトブロック微量含。
3 10YR4/2灰黄褐色シルトと10YR8/3浅黄橙色シルトの混合土。粘性・しまり強。
4 10YR6/1褐灰色シルトと10YR8/3浅黄橙色シルトの混合土。粘性やや弱・しまり強。
5 2.5Y7/1灰白色シルトと2.5Y7/4浅黄色シルトの混合土。粘性弱・しまり強。扁平な灰黄褐色シルトブロック少量含。
6 10YR4/2灰黄褐色シルトと10YR8/3浅黄橙色シルトの混合土。粘性やや強・しまり強。7層との層界に酸化鉄の沈着が顕著。
7 10YR6/1褐灰色シルトと10YR8/3浅黄橙色シルトの混合土。粘性やや弱・しまり強。
8 10YR6/1褐灰色シルトと10YR8/3浅黄橙色シルトと10YR3/1黒褐色シルトの混合土。粘性やや弱・しまり強。径1mm以下の炭化物微量含。
9 10YR5/2灰黄褐色砂質シルトと10YR7/4にぶい黄橙色シルトの混合土。粘性弱・しまり強。3mm以下の炭化物微量含。
10 10YR5/2灰黄褐色砂質シルトと10YR7/4にぶい黄橙色シルトの混合土。粘性弱・しまり強。

P5457
1 10YR3/1黒褐色シルト　粘性やや強・しまり強。浅黄橙色シルトブロック・径1mm以下の炭化物微量含。
2 10YR4/2灰黄褐色シルトと2.5Y7/4浅黄色シルトブロックの混合土。粘性やや弱・しまり強。径1mmの炭化物微量含。
3 10YR8/1灰白色シルト　粘性やや弱・しまり強。褐灰色シルトブロック少量含。4層との層界に酸化鉄の沈着有。
4 10YR4/2灰黄褐色シルトと2.5Y7/4浅黄色シルトと10YR8/1灰白シルトの混合土。粘性やや弱・しまり強。径1mmの炭化物微量含。

P5462
1 10YR4/2灰黄褐色シルト　粘性やや弱・しまり強。浅黄橙色シルト・1～2cm角の炭化物微量含。
2 10YR4/2灰黄褐色シルトと10YR8/4浅黄橙色シルトの混合土。粘性やや弱・しまり強。
3 10YR4/2灰黄褐色シルトと10YR8/3浅黄橙色シルトの混合土。粘性やや強・しまり強。
4 10YR4/2灰黄褐色シルトと10YR8/4浅黄橙色シルトの混合土。粘性やや弱・しまり強。
5 10YR8/4浅黄橙色シルト　粘性弱・しまり強。7層との層界に酸化鉄の沈着が見られる。
6 10YR4/2灰黄褐色シルトと10YR8/4浅黄橙色シルトの混合土。粘性やや弱・しまり強。柱の掘り形充填土。
7 10YR4/2灰黄褐色シルトと10YR8/浅黄橙色シルトの混合土。粘性やや弱・しまり強。炭化物微量含。

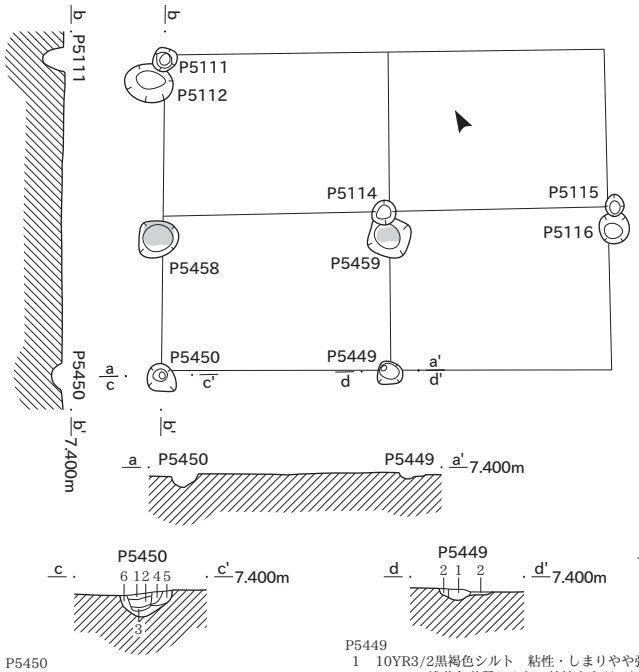
P5463
1 10YR3/1黒褐色シルト　粘性やや強・しまり強。浅黄橙色シルト・炭化物微量。
2 10YR3/1黒褐色シルトと10YR8/3浅黄色シルトの混合土。4層との層界に酸化鉄の沈着が見られる。粘性弱・しまり強。
3 10YR3/1黒褐色シルトと10YR8/3浅黄色シルトの混合土。粘性やや強・しまり強。
4 10YR3/2黒褐色シルトと10YR6/1褐灰色シルトと10YR8/3浅黄橙色シルトの混合土。粘性やや弱・しまり強。径1mm以下の炭化物微量含。
5 10YR5/2灰黄褐色砂質シルトと10YR7/4にぶい黄橙色シルトの混合土。粘性弱・しまり強。径3mm以下の炭化物微量含。

P5478
1 10YR3/1黒褐色シルト+10YR4/2灰黄褐色シルト　+2.5Y7/3浅黄色シルト　粘性やや強・しまり強。炭化粒微量含。
2 10YR4/2灰黄褐色シルト+2.5Y7/3淡黄色シルト　粘性やや強・しまり強。
3 10YR3/1黒褐色シルト+10YR4/2灰黄褐色シルト　+2.5Y7/3浅黄色シルト　粘性やや強・しまりやや弱。炭化粒微量含。
4 2.5Y5/2暗灰黄色シルト+2.5Y7/4淡黄色シルト　粘性やや弱・しまり弱。
5 2.5Y5/2暗灰黄色シルト+2.5Y7/4淡黄色シルト　粘性やや弱・しまり弱。炭化物少量含。
6 2.5Y5/2暗灰黄色シルト+2.5Y7/4淡黄色シルト　粘性やや弱・しまり弱。細砂微量含。
7 2.5Y5/2暗灰黄色シルト+2.5Y7/4淡黄色シルト　粘性やや弱・しまり弱。炭化物・細砂微量含。
8 2.5Y6/2灰黄色砂質シルト　粘性弱・しまり強。淡黄色シルトブロック・炭化物少量含。

0　断面図（1：40）　2m

0　平面図・エレベーション図（1：80）　4m

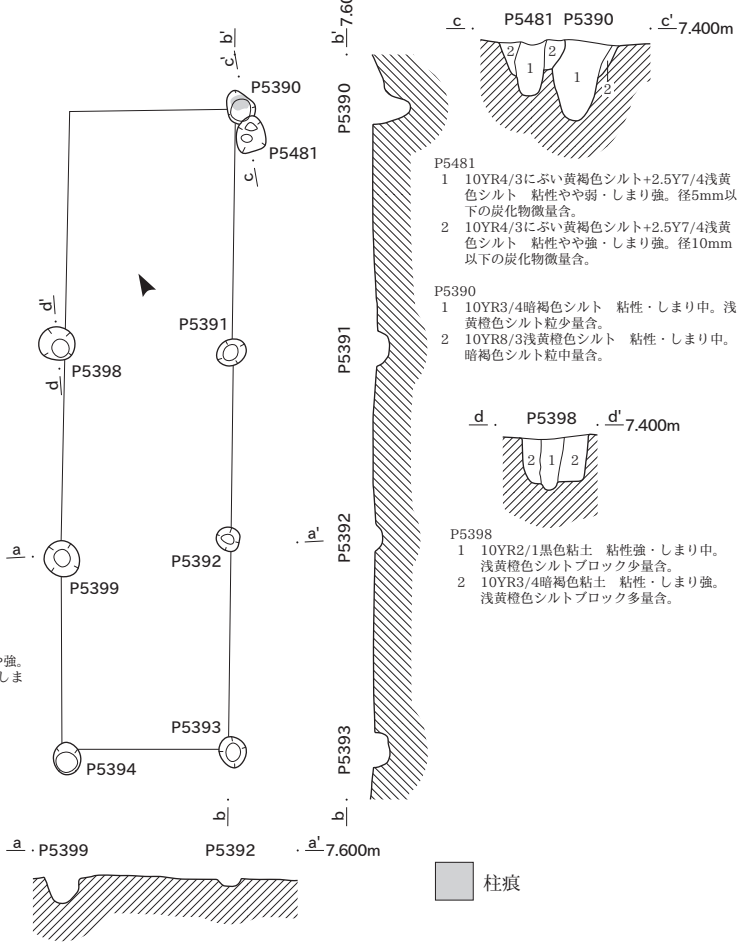
SB53



P5450
1 10YR3/2黒褐色シルト　粘性・しまりやや強。淡黄色シルトブロック微量含。
2 10YR3/2黒褐色シルト　粘性やや強・しまりやや弱。
3 10YR3/2黒褐色シルト　粘性・しまりやや強。
4 2.5Y7/6明黄褐色シルト+2.5Y7/2灰黄色シルト　粘性やや強・しまりやや弱。
5 2.5Y7/2灰黄色シルト　粘性やや弱・しまりやや強。黒褐色シルトブロック微量含。
6 2.5Y7/4浅黄色シルト+2.5Y7/6明黄褐色シルト　粘性やや弱・しまりやや強。

P5449
1 10YR3/2黒褐色シルト　粘性・しまりやや強。
2 2.5Y7/4浅黄色砂質シルト　粘性やや弱・しまり強。黄灰色シルトブロック多量含。

SB54



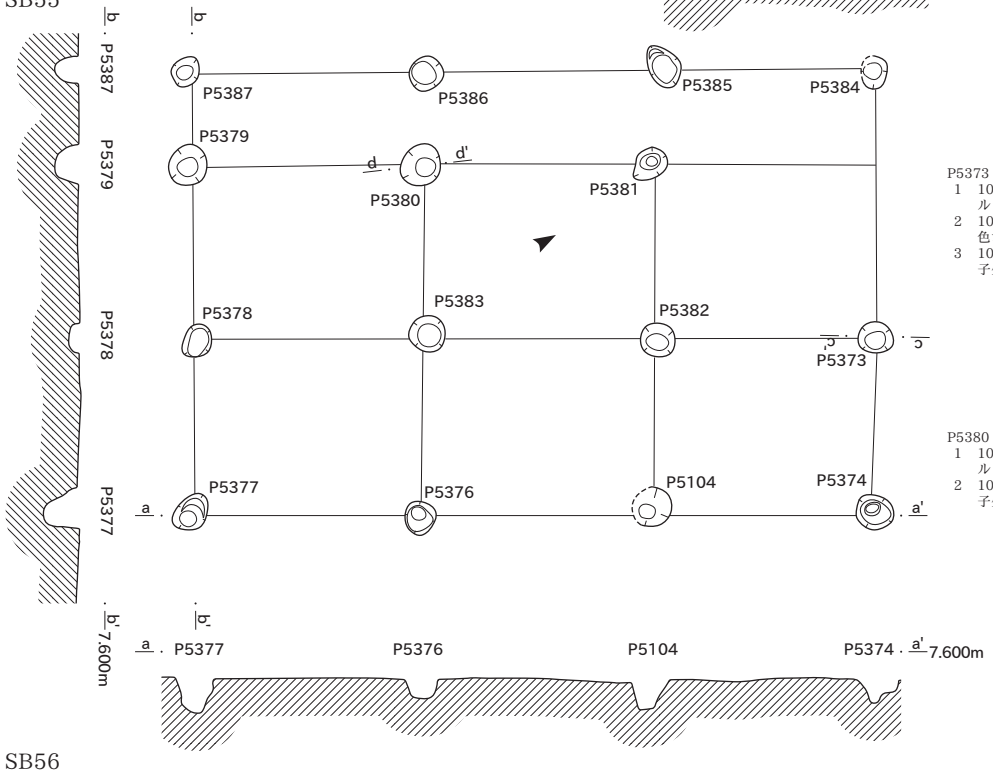
P5481
1 10YR4/3にぶい黄褐色シルト+2.5Y7/4浅黄色シルト　粘性やや弱・しまり強。径5mm以下の炭化物微量含。
2 10YR4/3にぶい黄褐色シルト+2.5Y7/4浅黄色シルト　粘性やや強・しまり強。径10mm以下の炭化物微量含。

P5390
1 10YR3/4暗褐色シルト　粘性・しまり中。浅黄橙色シルト粒少量含。
2 10YR8/3浅黄橙色シルト　粘性・しまり中。暗褐色シルト粒中量含。

P5398
1 10YR2/1黒色粘土　粘性強・しまり中。浅黄橙色シルトブロック少量含。
2 10YR3/4暗褐色粘土　粘性・しまり強。浅黄橙色シルトブロック多量含。

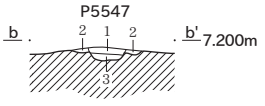
柱痕

SB55



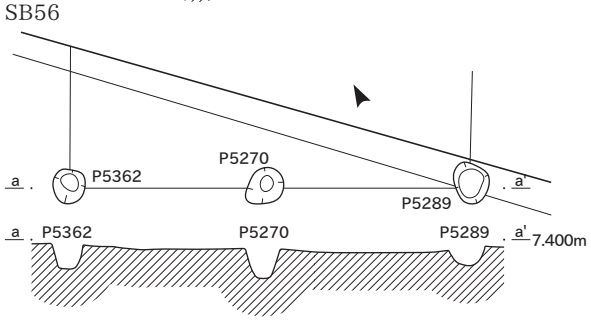
P5373
1 10YR2/1黒色粘質シルト　粘性強・しまり中。にぶい黄橙色シルト粒子少量、炭化物微量含。
2 10YR3/1黒褐色粘質シルト　粘性・しまりやや強。にぶい黄橙色シルト粒子中量、炭化物微量含。
3 10YR7/4にぶい黄橙色シルト　粘性・しまりやや強。黒褐色粒子少量含。

P5380
1 10YR2/1黒色粘質シルト　粘性強・しまり中。にぶい黄橙色シルト粒子少量、炭化物微量含。
2 10YR7/4にぶい黄橙色シルト　粘性・しまりやや強。黒褐色粒子少量含。

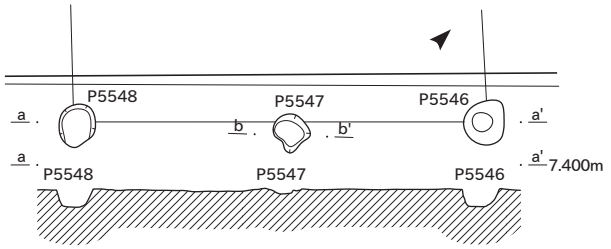


P5547
1 10YR5/1褐灰色シルト　粘性・しまり中。
2 10YR6/1褐灰色砂質シルト　粘性やや弱・しまり中。黄橙色砂含。
3 10YR7/1灰白色シルト　粘性・しまり中。

SB56



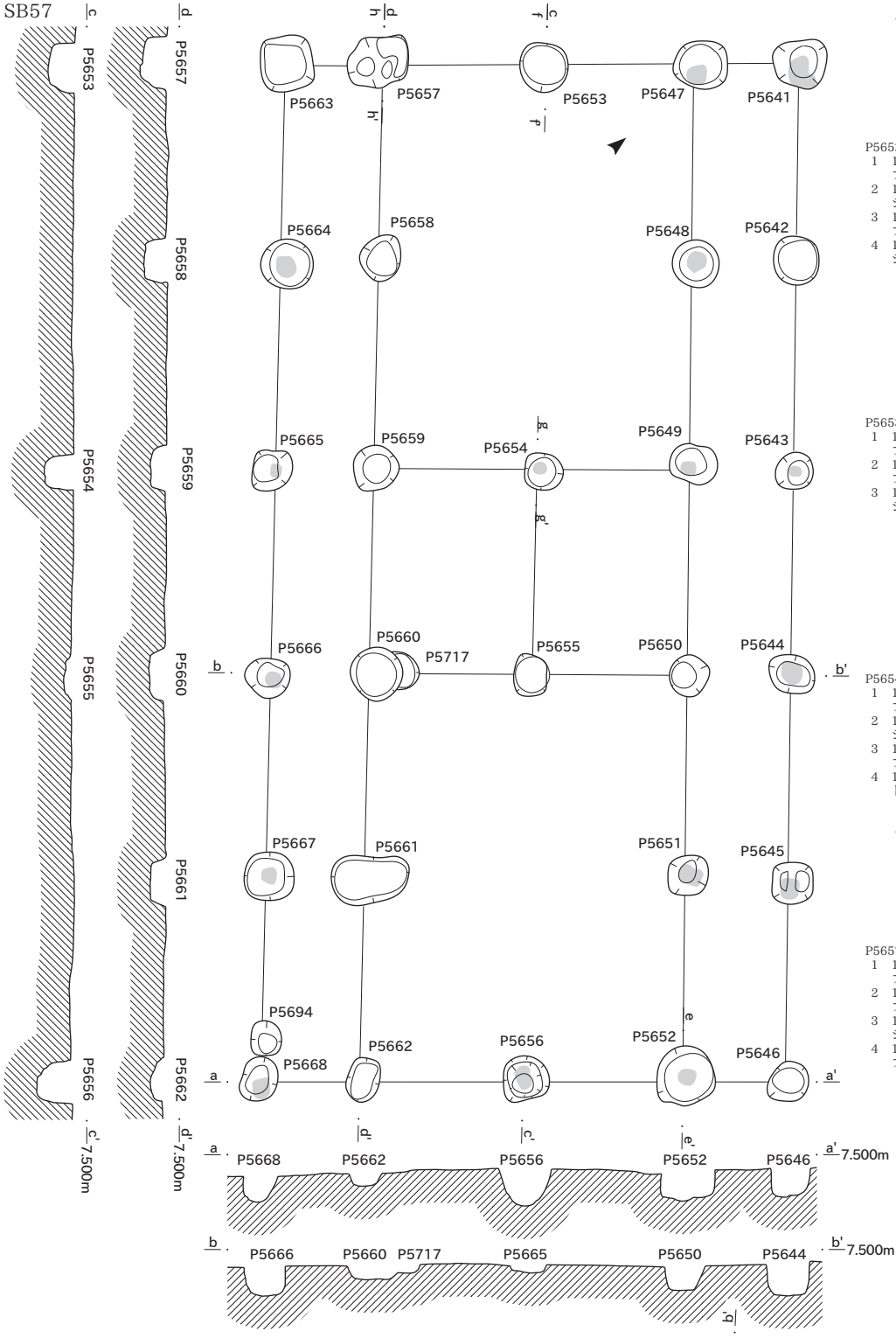
SB59

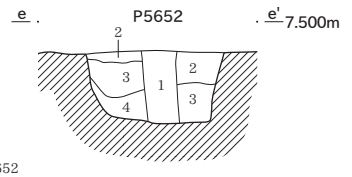


0　平面図・エレベーション図（1：80）　4m

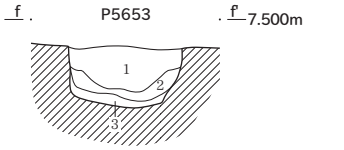
0　断面図（1：40）　2m

SB57

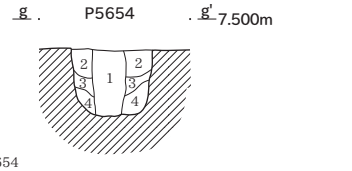




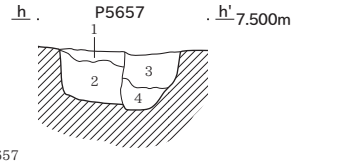
P5652
1 10YR4/1褐灰色シルト　粘性・しまり中。浅黄色シルトブロック微量。炭化物少量含。
2 10YR6/3にぶい黄橙色シルト　粘性・しまり中。褐灰色シルトブロック中量、炭化物微量含。
3 10YR5/1褐灰色シルト　粘性・しまり中。浅黄色シルトブロック少量。炭化物微量含。
4 10YR6/3にぶい黄橙色シルト　粘性・しまり中。褐灰色シルトブロック少量。炭化物微量含。



P5653
1 10YR5/1褐灰色シルト　粘性・しまり中。浅黄色シルトブロック少量、炭化物微量含。
2 10YR5/1褐灰色シルト　粘性・しまり中。浅黄色シルトブロック少量。炭化物微量含。
3 10YR6/3にぶい黄橙色シルト　粘性・しまり中。褐灰色シルトブロック少量。炭化物微量含。

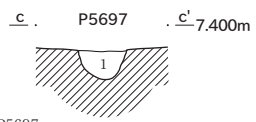


P5654
1 10YR4/1褐灰色シルト　粘性・しまり中。浅黄色シルトブロック微量。炭化物少量含。
2 10YR6/3にぶい黄橙色シルト　粘性・しまり中。褐灰色シルトブロック中量、炭化物微量含。
3 10YR5/1褐灰色シルト　粘性・しまり中。浅黄色シルトブロック少量。炭化物微量含。
4 10YR5/8灰黄褐色シルト　粘性・しまり中。褐灰色シルトブロック少量。炭化物微量含。

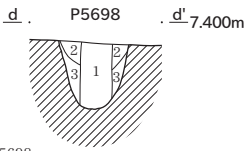


P5657
1 10YR5/1褐灰色シルト　粘性・しまり中。浅黄色シルトブロック少量、炭化物微量含。
2 10YR4/1褐灰色シルト　粘性・しまり中。浅黄色シルトブロック微量。炭化物少量含。
3 10YR6/3にぶい黄橙色シルト　粘性・しまり中。褐灰色シルトブロック中量、炭化物微量含。
4 10YR5/1褐灰色シルト　粘性・しまり中。浅黄色シルトブロック少量。炭化物微量含。

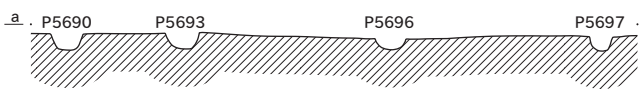
SB58

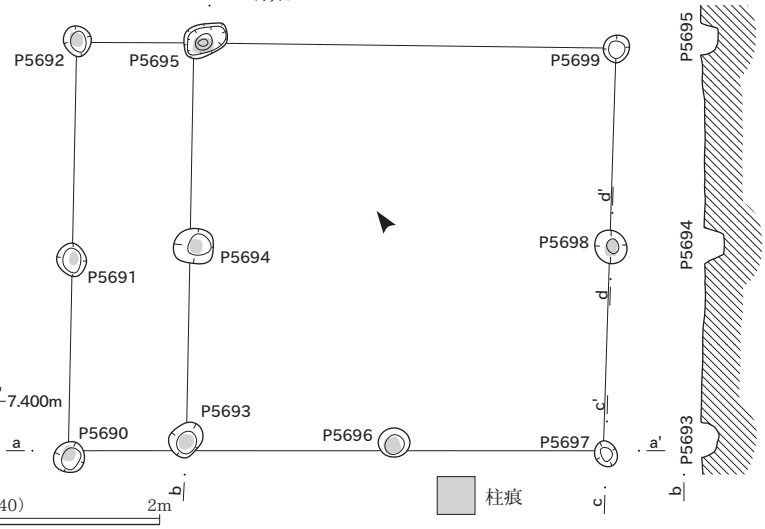


P5697
1 10YR5/2灰黄褐色シルト　粘性・しまり中。にぶい黄橙色シルト粒・炭化物少量含。



P5698
1 10YR5/1褐灰色シルト　粘性・しまり中。浅黄色シルト粒・炭化物少量含。
2 10YR6/3にぶい黄橙色シルト　粘性・しまり中。褐灰色シルト粒少量・炭化物微量含。
3 10YR6/3にぶい黄橙色シルト　粘性・しまり中。褐灰色シルト粒・炭化物微量含。

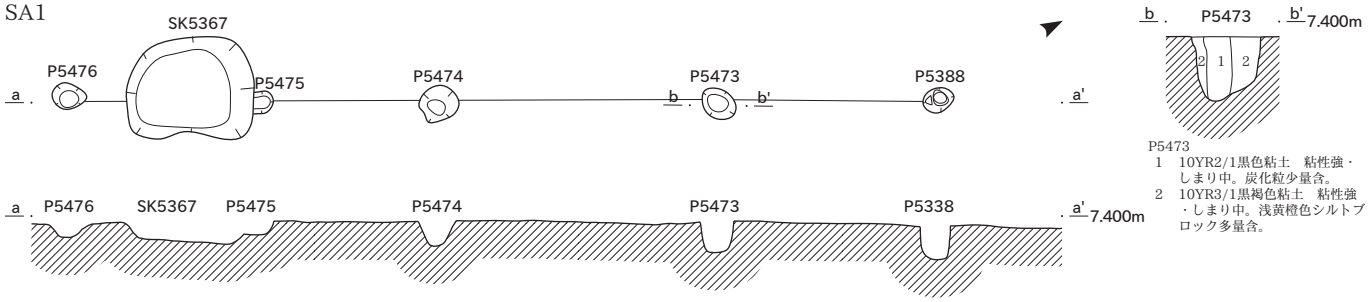




0　平面図・エレベーション図（1：80）　4m　0　断面図（1：40）　2m

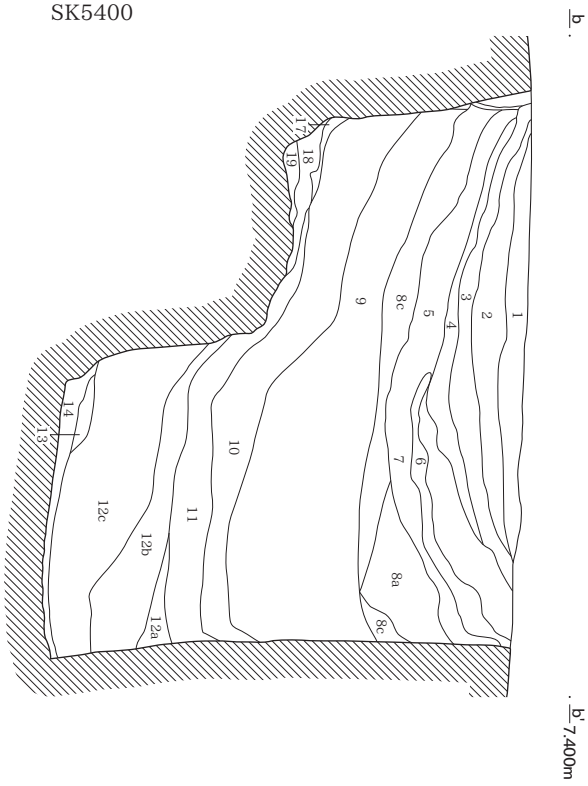
柱痕

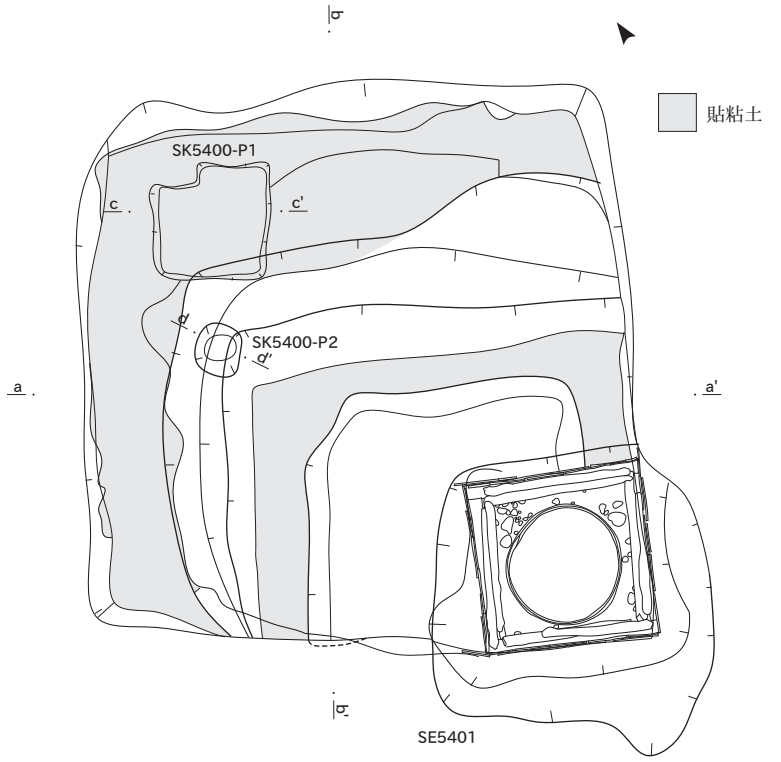
SA1

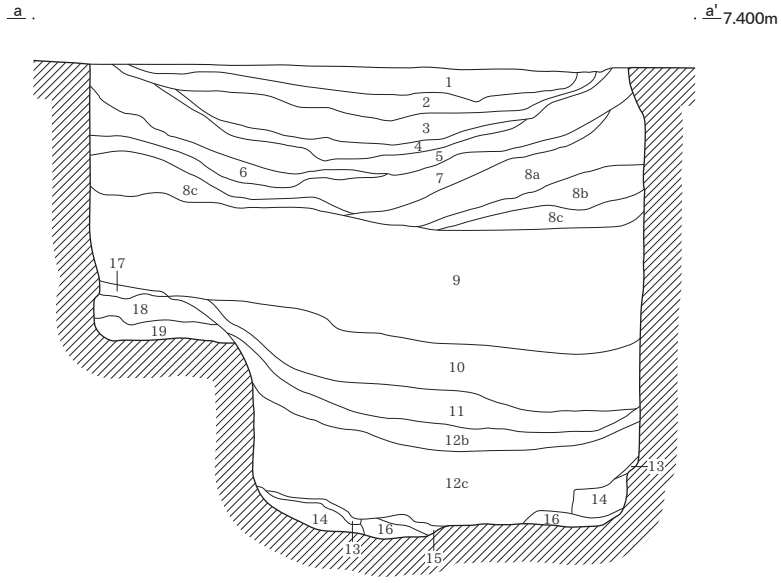


P5473
1　10YR2/1黒色粘土　粘性強・しまり中。炭化粒少量含。
2　10YR3/1黒褐色粘土　粘性強・しまり中。浅黄橙色シルトブロック多量含。

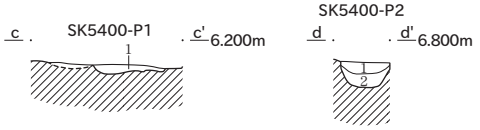
SK5400







SK5400
1　10YR5/4にぶい黄褐色シルト　粘性中・しまり強。径5～8cmの灰白色粘土ブロック及び黒褐色土を多量含。いずれも細片化してマーブル状となる部分が多い。径1mmの炭化物粒少量含。
2　10YR5/4にぶい黄褐色シルト　粘性中・しまり強。径2～4cmの灰白色粘土ブロック多量含。灰白色粘土と黒褐色土は細片化してマーブル状に混入する。
3　10YR5/4にぶい黄褐色シルト　粘性中・しまり強。黒褐色土ブロックを中量含。2層に比べて灰白色粘土ブロックは少ないが、マーブル状に混入する。
4　10YR6/4にぶい黄橙色シルト　粘性・しまり中。径4～6cmの灰白色粘土ブロックを中量含むが、黒褐色土ブロックは少ない。
5　10YR5/4にぶい黄褐色シルトと10YR3/1黒褐色度の混在層。灰白色粘土ブロックを中量含み、3者がマーブル状に混在する。
6　10YR6/4にぶい黄橙色シルト　粘性・しまり中。径4～6cmの灰白色粘土ブロックを中量含むが、黒褐色土ブロックは少ない。
7　10YR5/4にぶい黄褐色シルトと10YR3/1黒褐色度の混在層。灰白色粘土ブロックを中量含み、3者がマーブル状に混在する。
8　10YR5/4にぶい黄褐色シルト　粘性中・しまり強。径2～5cmの灰白色粘土ブロックを中量含。黒色土ブロックを少量含。8bは黒褐色土が局所的に含まれる層、8cは8a層と同一である。
9　10YR5/4にぶい黄褐色シルト、10YR3/2黒褐色土、10YR8/2灰白色粘土が径1～2㎝でブロック状に混在する。粘性・しまり中。
9b　10YR5/6黄褐色シルト　粘性・しまり中。10YR3/2黒褐色土、10YR8/2灰白色粘土が径1～2cmでブロック状に多量に混在する。
10　10YR6/8明黄褐色シルト　粘性・しまり中。北側では黒褐色土と灰白色粘土ブロックが混在するが、南側では少ない。
11　10YR3/1黒褐色シルト　粘性・しまり中。灰白色粘土ブロックを多量含。
12　10YR6/1褐灰色シルト　粘性・しまり中。黒褐色シルトを含む。a～cのように斜位に堆積する。
13　2.5Y8/2灰白色粘土　粘性中・しまり強。10YR8/4浅黄橙色シルトブロックを中量含。
14　10YR7/6明黄褐色シルト粘性中・しまり強。明黄褐色砂を中量含。
15　2.5Y8/2灰白色粘土　粘性中・しまり強。10YR8/4浅黄橙色シルトブロックを中量含。貼床か。
16　10YR7/3にぶい黄橙色中粒砂　粘性・しまり弱。貼床下に盛ったものと考えられる。
17　2.5Y8/1灰白色粘土　粘性中・しまり強。10YR7/6明黄褐色シルトブロックを中量含。
18　10YR7/6明黄褐色シルト　粘性中・しまり強。灰白色シルトブロックを多量含。
19　10YR7/6明黄褐色シルト　粘性中・しまり強。灰白色シルトブロックを中量含。



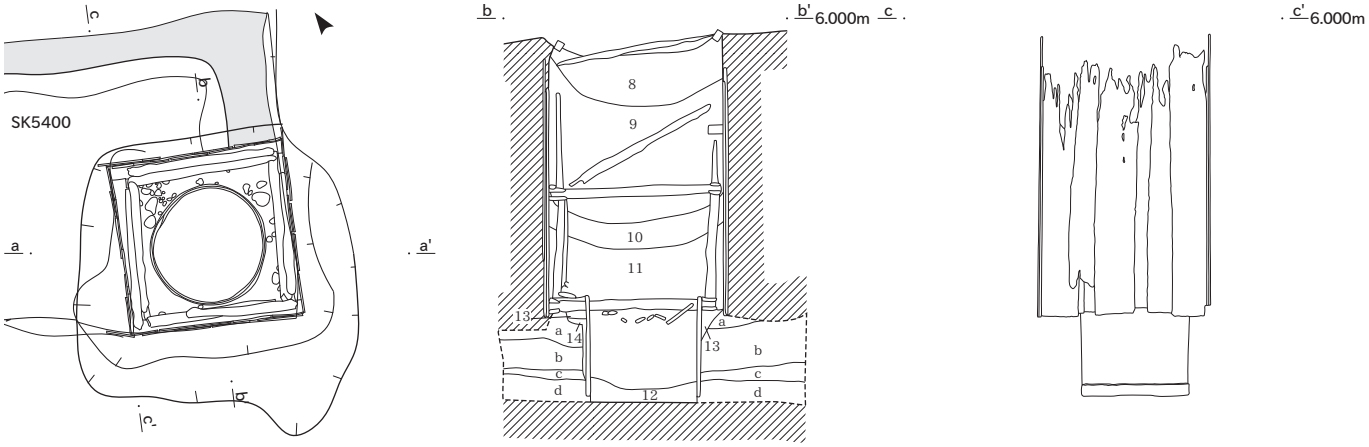
SK5400-P1
1　10YR5/3にぶい黄褐色シルト　粘性中・しまり弱。

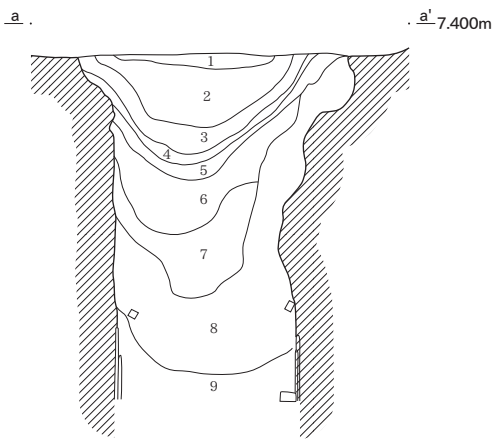
SK5400-P2
1　10YR5/4にぶい黄褐色細砂　粘性・しまり弱。
2　10YR5/3にぶい黄褐色シルト　粘性中・しまり弱。

0　SA1平面図・エレベーション図（1：80）　4m

0　その他（1：40）　2m

SE5401

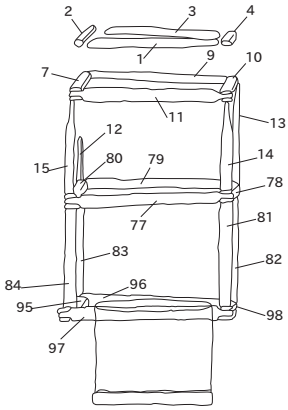




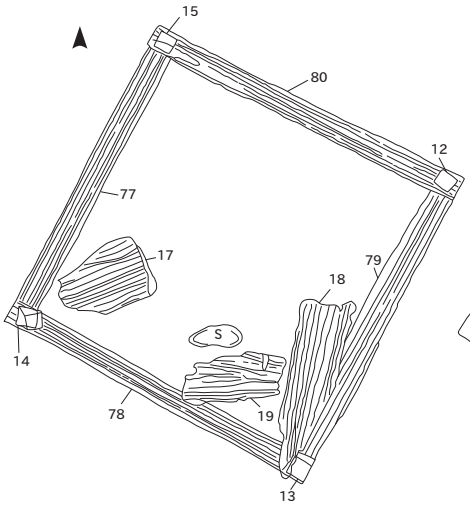
SE5401

1　10YR3/2黒褐色土　粘性・しまり中。浅黄橙色シルトブロック少量含。土師質土器出土。
2　10YR3/2黒褐色土　粘性・しまり中。
3　10YR3/2黒褐色土　粘性・しまり中。浅黄橙色シルトブロック多量含。
4　10YR4/2灰黄褐色土　粘性・しまり中。
5　10YR4/2灰黄褐色土　粘性・しまり中。浅黄橙色シルトブロック多量含。
6　10YR3/3暗褐色土　粘性・しまり中。浅黄橙色シルトブロック中量含。
7　10YR3/4暗褐色土　粘性・しまり中。浅黄橙色シルトブロック多量含。
8　10YR7/4にぶい黄橙色シルト　粘性強・しまり中。褐灰色シルトブロック多量含。
9　10YR4/1褐灰色シルト　粘性強・しまり中。
10　7.5YR2/3極暗褐色シルト　粘性強・しまり中。イネ科植物とみられる茎を多量含。
11　10YR3/3暗褐色シルト　粘性強・しまり中。にぶい黄橙色砂を中量含。
12　7.5GY7/1明緑灰色シルト　粘性弱・しまり中。細砂多量含。
13　10BG7/1明青灰色粗砂　粘性・しまり弱。径5～10cmの礫多量含。
14　5G7/1明緑色シルト　粘性強・しまり弱。黒褐色シルト多量含。自然の土層
a　2.5GY7/1明オリーブ灰色シルト　粘性・しまり中。
b　10GY7/1明緑灰色シルト　粘性・しまり中。
c　2.5Y3/2黒褐色シルト　粘性・しまり中。
d　2.5Y6/3にぶい黄色粗砂　粘性なし・しまり強。径5～15cmの礫多量含。

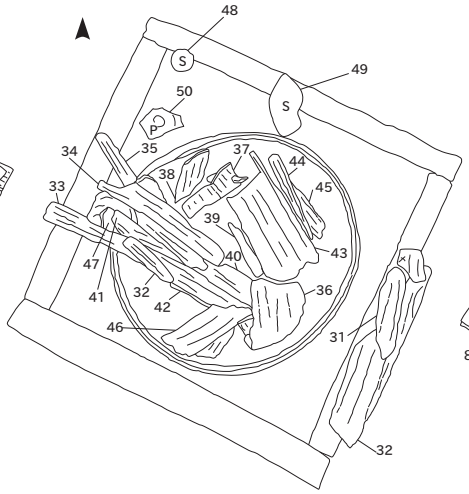
桟木模式図



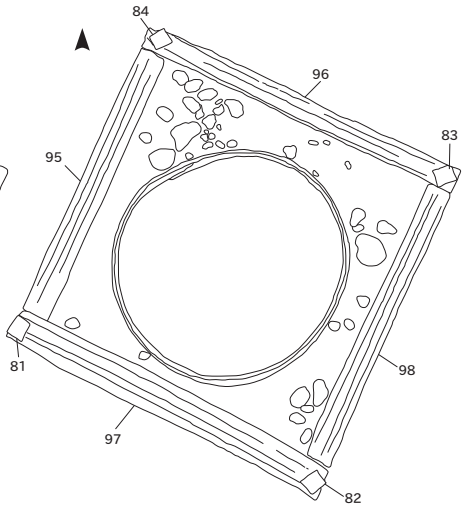
横桟三段目



曲物上部遺物



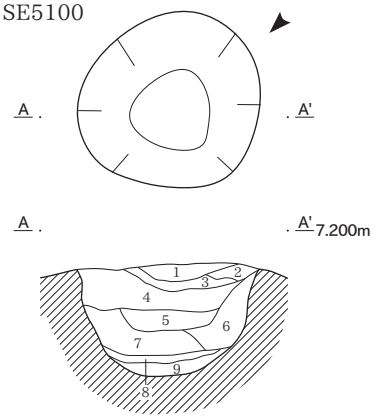
横桟四段目・曲物・礫敷き



0　横桟・曲物平面図（1：20）　1m

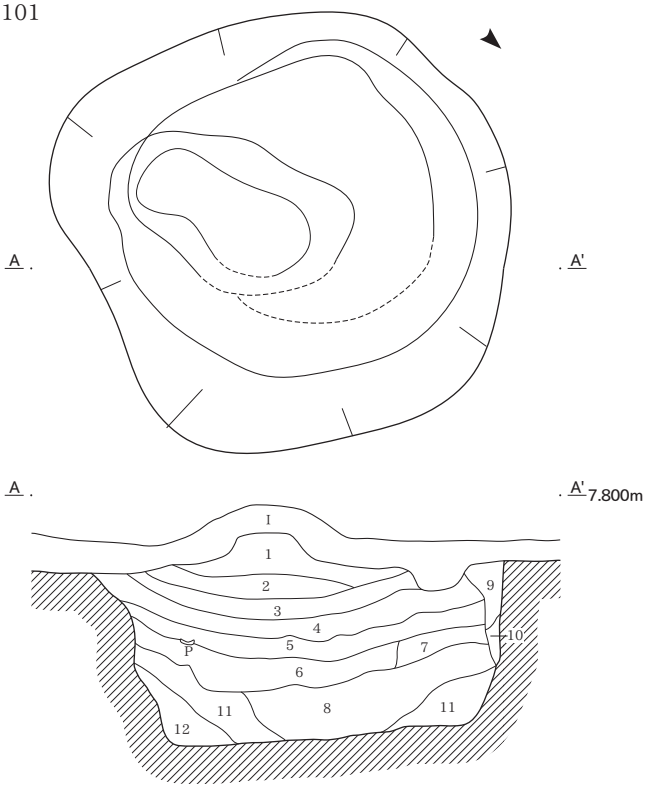
0　その他（1：40）　2m

SE5100



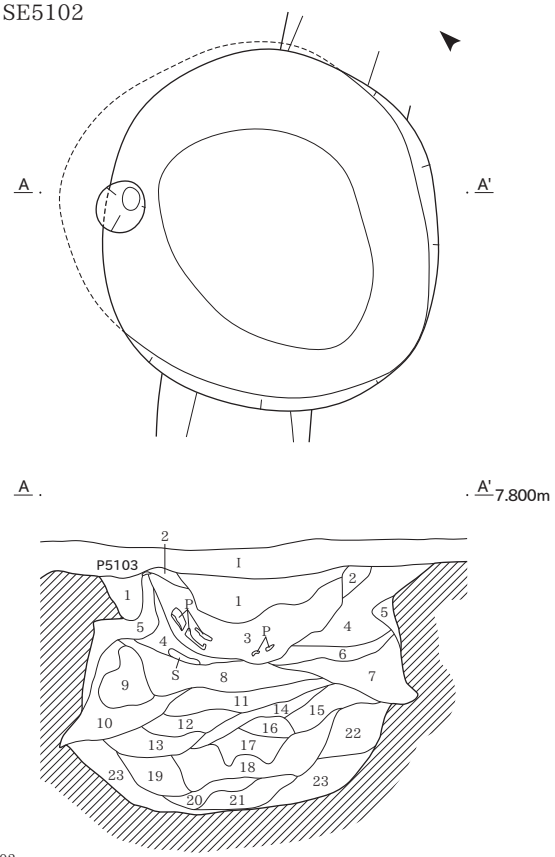
SE5100
1　10YR6/1褐灰色シルト　粘性中・しまりやや弱。灰白色シルトブロック微量含。
2　10YR4/1褐灰色シルト　粘性中・しまりやや弱。灰白色シルトブロック少量含。
3　10YR3/1黒褐色シルト　粘性中・しまりやや弱。褐灰色シルト微量含。
4　10YR4/1褐灰色シルト　粘性中・しまりやや弱。灰白色シルトブロック少量含。
5　10YR5/1褐灰色シルト　粘性中・しまりやや弱。灰白色シルトブロック中量含。
6　10YR6/1褐灰色シルト　粘性中・しまりやや弱。灰白色シルトブロック少量含。
7　10YR7/1灰白色シルト　粘性・しまりやや弱。褐灰色シルトブロック微量含。
8　10YR4/1褐灰色シルト　粘性・しまりやや弱。灰白色シルトブロック微量含。
9　10YR6/1褐灰色シルト　粘性・しまりやや弱。灰白色シルトブロック少量含。

SE5101



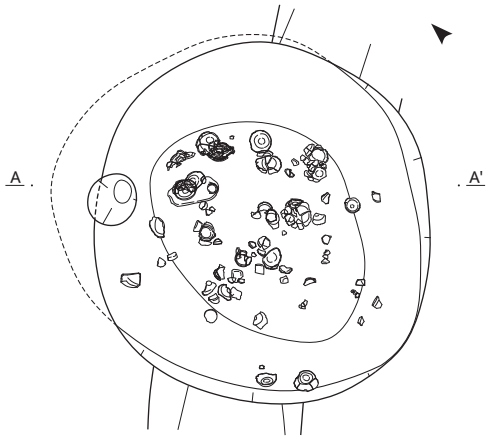
SE5101
1　10YR2/3黒褐色シルト　粘性・しまり中。にぶい黄褐色シルト径30mm以下少量含。
2　10YR2/3黒褐色シルト　粘性・しまり中。にぶい黄褐色シルト径30mm以下少量含。
3　10YR2/3黒褐色シルト　粘性・しまり中。にぶい黄褐色シルト径5mm以下多量含。
4　10YR3/3暗褐色シルト　粘性中・しまりやや強。炭化物径50mm以下多量、焼土少量含。
5　10YR3/3暗褐色シルト　粘性中・しまりやや強。炭化物径30mm以下多量、焼土少量含。
6　10YR3/1黒褐色シルト　粘性中・しまりやや強。炭化物・酸化鉄径2mm以下少量含。
7　10YR5/3にぶい黄褐色シルト　粘性中・しまりやや強。暗褐色シルト・炭化物径2mm以下少量含。
8　10YR5/3にぶい黄褐色シルト　粘性中・しまり強。暗褐色シルト・炭化物径2mm以下少量含。
9　10YR5/3にぶい黄褐色シルト　粘性中・しまり強。にぶい黄橙色シルト径2～5mm・黒褐色シルト径5mm多量含。
10　10YR5/3にぶい黄褐色シルト　粘性中・しまり強。にぶい黄橙色シルト径2～5mm・黒褐色シルト径5mm・酸化鉄径2mm以下少量含。
11　10YR6/4にぶい黄橙色シルト　粘性中・しまり強。暗褐色シルト径2～5mm中量含。
12　10YR6/4にぶい黄橙色シルト　暗褐色シルト径2～5mm微量。粘性中・しまりやや弱。

SE5102



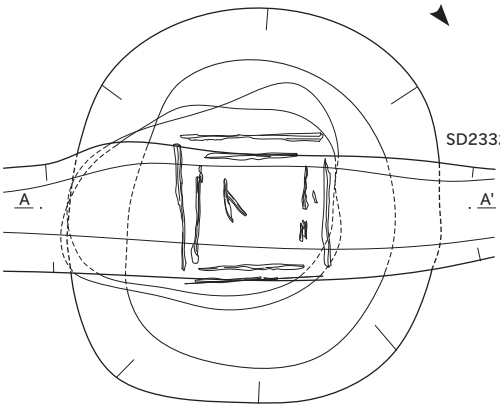
SE5102
1　10YR4/2灰黄褐色シルト　粘性・しまり強。にぶい黄色シルトブロック少量。土器片少量含。
2　10YR5/2灰黄褐色シルト　粘性・しまり強。にぶい黄色シルトブロック少量含。
3　10YR3/1黒褐色シルト　粘性・しまり中。にぶい黄色シルトブロック・炭化物多量、土器片多量含。
4　10YR5/2灰黄褐色シルト　粘性・しまり中。にぶい黄色シルトブロック・炭化物少量、土器片中量含。
5　10YR6/4にぶい黄色シルト　粘性・しまり中。地山のブロック主体層。
6　10YR3/1黒褐色シルト　粘性中・しまり弱。にぶい黄色シルト粒少量、炭化物多量、土器片中量含。
7　10YR4/4褐色シルト　粘性・しまり中。にぶい黄色シルト少量含。
8　10YR4/4褐色シルト　粘性・しまり中。にぶい黄色シルト中量含。
9　10YR6/4にぶい黄色シルト　粘性・しまり強。ブロック状に堆積する。
10　10YR4/4褐色シルト　粘性・しまり中。にぶい黄色シルト粒子・土器片少量含。
11　10YR5/2灰黄褐色シルト　粘性・しまり中。にぶい黄色シルト粒子少量含。
12　10YR6/4にぶい黄色シルト　粘性・しまり強。ブロック状に堆積する。
13　10YR6/4にぶい黄色シルト　粘性・しまり中。地山のブロック主体層。
14　10YR3/1黒褐色シルト　粘性・しまり中。にぶい黄色シルト粒少量、炭化物多量、土器片中量含。
15　10YR4/4褐色シルト　粘性・しまり中。にぶい黄色シルト多量含。
16　10YR6/4にぶい黄色砂質シルト　粘性・しまり強。ブロック状に堆積含。
17　10YR4/4褐色シルト　粘性・しまり中。にぶい黄色シルト多量含。
18　10YR6/4にぶい黄色シルト　粘性・しまり中。地山のブロック主体層。
19　10YR6/4にぶい黄色砂質シルト　粘性弱・しまり中。砂粒主体層。
20　10YR4/4褐色シルト　粘性・しまり中。にぶい黄色シルト少量含。
21　10YR6/4にぶい黄色シルト粘性・しまり中。褐色シルト少量含。
22　10YR6/4にぶい黄色砂質シルト　粘性中・しまり弱。砂粒中量含。
23　10YR5/1褐灰色シルト　粘性やや弱・しまり中。にぶい黄橙色シルト粒・黒褐色シルト粒少量含。

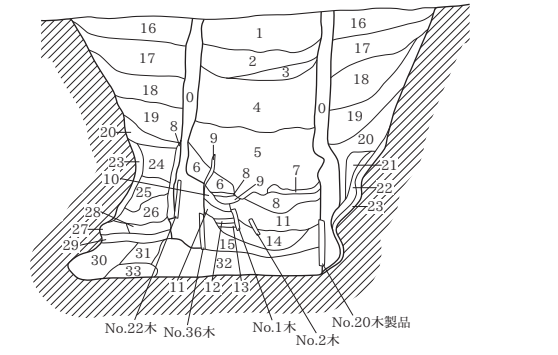
SE5102 3層遺物出土状況



0　（1：40）　2m

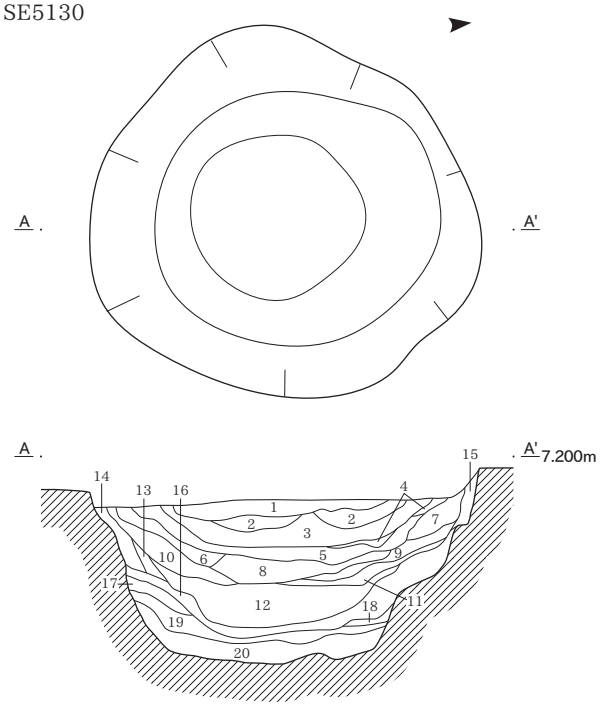
SE5126





SE5126
0　10YR5/1褐灰色粘質シルト　粘性強・しまりやや弱。腐植土。側板の痕跡。
1　10YR6/2灰黄褐色シルト　粘性・しまり中。
2　10YR7/2にぶい黄橙色シルト　粘性・しまり中。
3　10YR7/2にぶい黄橙色シルト　粘性・しまり中。褐灰色シルトブロック含。
4　10YR7/3にぶい黄橙色シルト　粘性・しまり中。
5　10YR6/3にぶい黄褐色粘質シルト　粘性やや強・しまり中。褐灰色シルトブロック多量含。
6　10YR4/2灰黄褐色シルト　粘性・しまり中。にぶい黄褐色粘質シルトと褐灰色粘質シルトの混合土。
7　10YR8/2灰白色粘質シルト　粘性中・しまり弱。にぶい黄褐色シルトブロックを少量含。
8　10YR5/2灰黄褐色粘質シルト　粘性中・しまり弱。有機質（腐食土）多量含。
9　10YR5/2灰黄褐色シルト　粘性・しまり中。6層土に類似。
10　10YR7/6黄褐色砂質シルト　粘性中・しまりやや弱。鉄分の沈着が見られる。
11　10YR5/1褐灰色砂質シルト　粘性やや強・しまり弱。
12　10YR7/1灰白色砂質シルト　粘性中・しまりやや弱。
13　10YR6/1褐灰色シルト　粘性中・しまりやや弱。
14　10YR8/2灰白色砂質シルト　粘性・しまり中。
15　10YR8/1灰白色砂質シルト　粘性やや強・しまりやや弱。
16　10YR6/2灰黄褐色シルト　粘性・しまり中。褐灰色シルトブロック少量含。
17　10YR8/3浅黄橙色砂質シルト　粘性やや弱・しまり中。褐灰色シルトブロック少量含。
18　10YR8/1灰白色砂質シルト　粘性やや弱・しまり中。酸化鉄の沈着有り。褐灰色シルトブロック少量含。
19　10YR8/1灰白色砂質シルト　粘性やや弱・しまり中。褐灰色シルトブロック多量含。
20　10YR8/1灰白色砂質シルト　粘性やや弱・しまり中。酸化鉄多量含。鉄分の沈着わずか有り。
21　10YR8/3浅黄橙色砂質シルト　粘性やや弱・しまり中。鉄分の沈着やや多量含。
22　10YR8/2灰白色砂質シルト　粘性やや弱・しまり中。鉄分の沈着やや少量含。
23　10YR7/6黄橙色砂質シルト　粘性やや弱・しまり中。鉄分沈着層。
24　10YR7/4にぶい黄橙色シルト　粘性やや強・しまり弱。
25　10YR7/3にぶい黄橙色砂質シルト　粘性やや弱・しまり中。
26　10YR7/3にぶい黄橙色シルト　粘性やや弱・しまり中。鉄分沈着層。
27　10YR8/6黄橙色砂質シルト　粘性やや弱・しまり中。鉄分沈着層。
28　10YR5/3にぶい黄褐色シルト　粘性やや弱・しまり中。鉄分の沈着少量含。
29　10YR8/6黄橙色砂質シルト　粘性やや弱・しまり中。鉄分の沈着やや多量含。
30　10YR8/4浅黄橙色砂質シルト　粘性やや弱・しまり強。鉄分の沈着わずか有り。
31　10YR8/2灰白色砂質シルト　粘性やや弱・しまり強。鉄分の沈着少量含。
32　10YR8/1灰白色砂質シルト　粘性やや弱・しまり強。鉄分の沈着部分的に有り。
33　10YR7/2にぶい黄橙色粘質シルト　粘性中・しまりやや強。鉄分の沈着微量含。

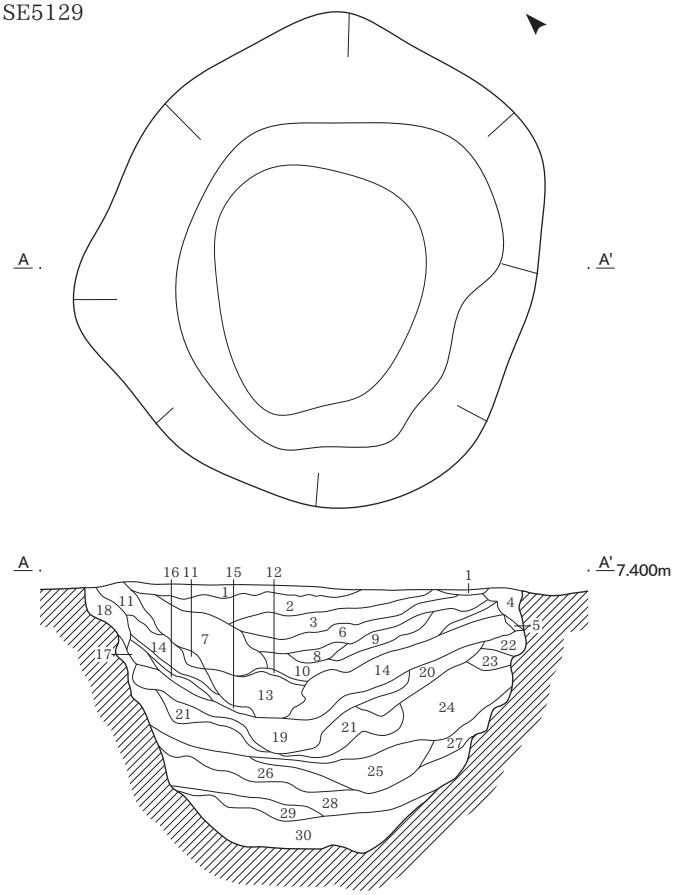
SE5130



SE5130
1　10YR6/1褐灰色シルト　粘性弱・しまり強。灰白色シルトブロック少量含。
2　10YR3/2黒褐色シルト　粘性弱・しまり強。浅黄橙色・灰白色シルトブロック微量含。
3　10YR3/2黒褐色シルト　粘性弱・しまり強。浅黄橙色シルトブロック多量・灰白色シルトブロック少量。径5mm以下炭化物微量含。
4　10YR6/1褐灰色砂質シルト　粘性弱・しまり強。細砂少量含。
5　10YR4/1褐灰色シルト　粘性やや弱・しまり強。褐灰色シルトブロック多量含。
6　10YR3/3暗褐色シルト　粘性やや強・しまり強。灰白色シルトブロック微量含。
7　10YR4/2灰黄褐色シルト　粘性やや強・しまり弱。灰白色シルトブロック多量含。
8　10YR4/1褐灰色シルトと10YR7/1灰白色シルトと10YR7/4にぶい黄橙色シルトブロックの混合土。粘性やや弱・しまり強。
9　10YR7/2にぶい黄橙色砂質シルト　粘性やや強・しまりやや弱。灰白色シルトブロック多量含。
10　10YR4/1褐灰色シルトと10YR7/1灰白色シルトブロックの混合土。粘性やや弱・しまり強。
11　10YR4/2灰黄褐色シルト　粘性やや強・しまりやや弱。斑状の褐灰色シルトブロック少量含。
12　10YR4/1褐灰色シルト　粘性やや弱・しまり強。にぶい黄橙色シルトブロック少量含。
13　10YR5/2灰黄褐色シルト　粘性弱・しまりやや弱。灰黄褐色シルトブロック少量含。
14　10YR7/2にぶい黄橙色シルト　粘性やや強・しまりやや弱。斑状の灰白色シルト微量含。
15　10YR7/2にぶい黄橙色砂質シルト　粘性やや強・しまりやや弱。斑状の灰白色シルト・灰黄褐色シルト微量含。
16　10YR5/2灰黄褐色シルトと10YR4/2灰黄褐色シルトブロックの混合土。粘性やや強・しまりやや弱。
17　10YR3/1黒褐色シルト　粘性やや弱・しまり強。灰白色シルトブロック微量含。
18　10YR7/2にぶい黄橙色砂質シルト　粘性やや強・しまりやや弱。灰白色シルトブロック少量、径3mm以下の炭化物微量含。
19　10YR5/2灰黄褐色砂質シルト　粘性やや強・しまりやや弱。斑状の褐灰色シルト多量含。
20　2.5Y7/4浅黄色砂質シルト　粘性やや弱・しまり強。砂質度が高い。

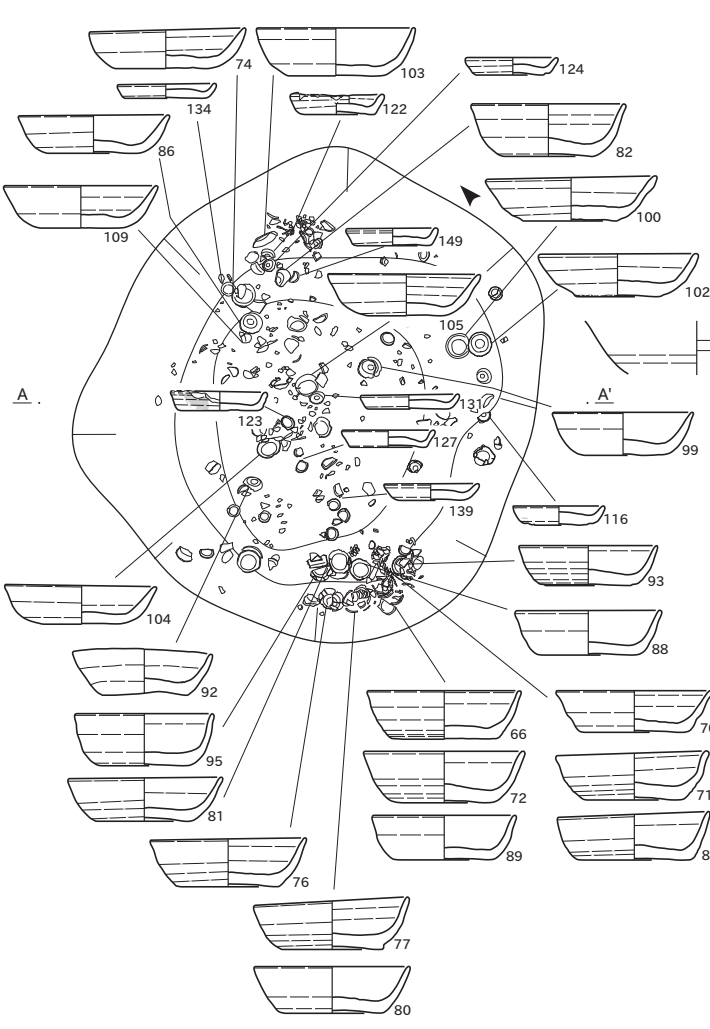
0　(1：40)　2m

SE5129

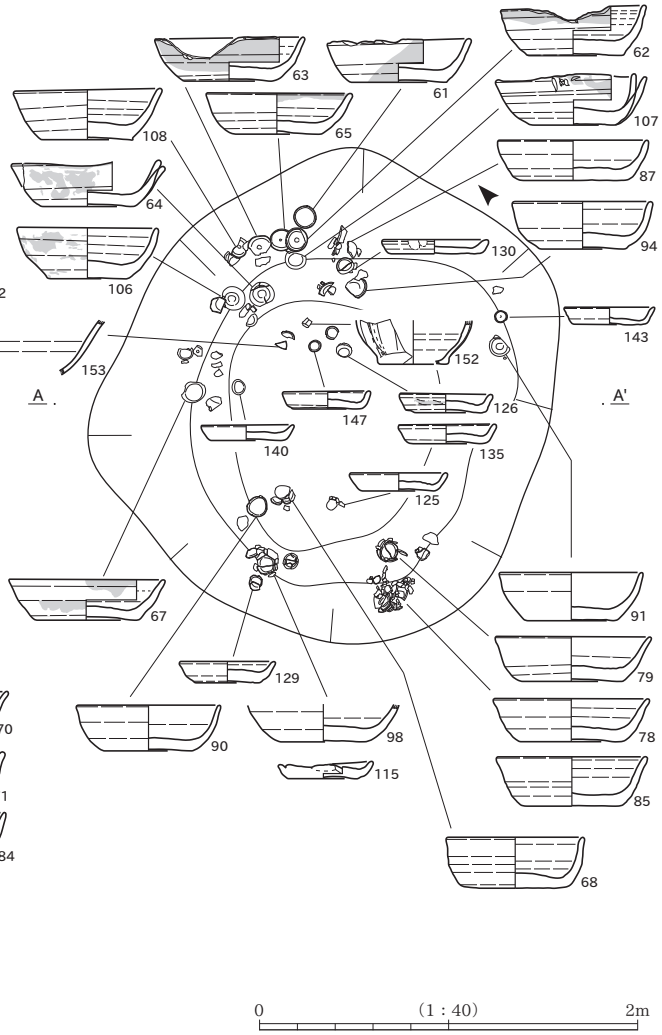


SE5129
1　2.5Y4/1黄灰色シルト　粘性弱・しまり強。径20mm以下の炭化物少量含。
2　10YR3/3暗褐色シルト　粘性弱・しまり強。黄灰色シルトブロック少量、径10mm以下の炭化物微量含。
3　10YR3/3暗褐色シルト　粘性弱・しまりやや強。黄灰色シルトブロック微量。径10mm以下の炭化物微量含。
4　10YR3/2黒褐色シルト　粘性弱・しまり強。径3mm以下の炭化物微量含。
5　10YR3/3暗褐色シルト　粘性やや弱・しまり強。
6　10YR3/2黒褐色シルトとにぶい黄褐色シルトの混合土。3cm角の炭化物微量、径5mm以下の炭化物微量含。粘性やや弱・しまり強。
7　10YR3/3暗褐色シルト　粘性やや弱・しまり強。浅黄橙色シルトブロック少量。径5mm以下の炭化物少量含。
8　10YR3/3暗褐色シルト　粘性やや弱・しまり強。浅黄橙色シルトブロック微量含。
9　10YR3/3暗褐色シルトと10YR8/4浅黄橙色シルトブロックの混合土。粘性やや強・しまりやや弱。斑状に土壌化した炭化物微量含。径20mm以下の炭化物微量含。
10　10YR3/3暗褐色シルト　粘性やや強・しまりやや弱。浅黄橙色シルトブロック少量含。斑状に土壌化した炭化物多量含。径10mm以下の炭化物微量含。
11　10YR3/3暗褐色シルトと10YR8/4浅黄橙色シルトブロックの混合土。粘性やや弱・しまりやや強。斑状に土壌化した炭化物・径3mm以下の炭化物微量含。
12　10YR3/4暗褐色シルト　粘性やや弱・しまりやや弱。斑状に土壌化した炭化物少量。4cm角の炭化物微量、径20mm以下の炭化物少量含。
13　10YR3/4暗褐色シルトと10YR8/4浅黄橙色シルトブロックの混合土。粘性強・しまりやや弱。斑状に土壌化した炭化物少量、径20mm以下の炭化物少量含。
14　10YR2/1黒色シルト　粘性やや強・しまり弱。土壌化した炭化物主体層。径30mm以下の炭化物・灰を多量に含。
15　10YR2/1黒色シルト　粘性やや強・しまり弱。14層に比べてわずかに暗い色調。
16　10YR3/2黒褐色シルト　粘性やや強・しまりやや弱。灰黄褐色シルトブロック少量、径5mm以下の炭化物を微量含。
17　10YR3/2黒褐色シルト　粘性やや強・しまりやや弱。灰黄褐色シルトブロック微量含。
18　10YR4/3にぶい黄褐色シルト　粘性やや弱・しまりやや強。にぶい黄橙色シルトブロック少量。径5mm以下の炭化物を微量含。
19　10YR2/1黒色シルト　粘性やや弱・しまりやや強。土壌化した炭化物主体層。径30mm以下の炭化物・灰を多量に含。
20　10YR8/4浅黄橙色シルト　粘性やや弱・しまりやや強。斑状に褐灰色シルト少量含。
21　10YR8/4浅黄橙色シルト　粘性やや弱・しまりやや強。褐灰色シルトブロック多量含。
22　10YR3/2黒褐色シルトと10YR8/4浅黄橙色シルトブロックの混合土。粘性やや弱・しまりやや強。
23　10YR8/4浅黄橙色シルト　粘性やや弱・しまりやや強。黒褐色シルトブロック少量含。
24　10YR7/6明黄褐色砂質シルトと10YR7/2黄橙色シルトブロックの混合土。粘性やや弱・しまり強。
25　10YR7/2にぶい黄橙色砂質シルト　粘性やや強・しまり強。粗砂微量、酸化鉄多量含。
26　2.5Y7/2にぶい黄橙色砂質シルト　粘性やや強・しまり強。酸化鉄少量含。
27　2.5Y7/3浅黄色砂質シルト　粘性弱・しまりやや強。灰白色シルトブロック少量、酸化鉄微量含。
28　10YR8/1灰白色砂質シルト　粘性弱・しまりやや弱。酸化鉄多量含。
29　10YR8/1灰白色砂質シルト　粘性やや強・しまりやや弱。褐灰色粘質シルトブロック少量含。
30　10YR8/1灰白色砂質シルト　粘性弱・しまりやや弱。斑状に灰白色粘質シルト微量、酸化鉄多量含。

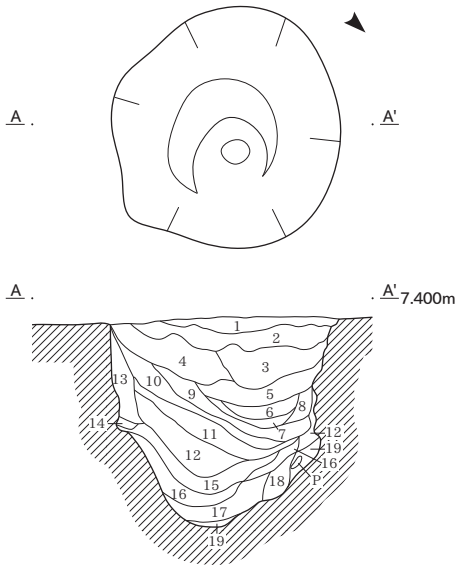
SE5129　14層上面遺物出土状況



SE5129　14層下面遺物出土状況

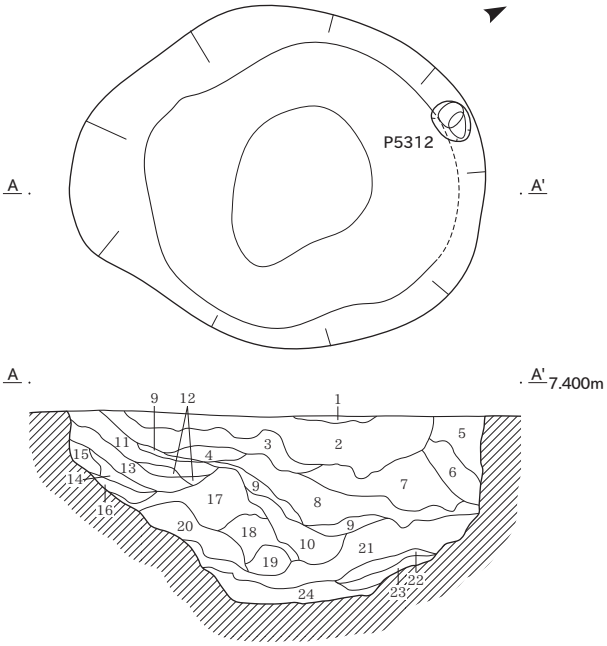


SE5131



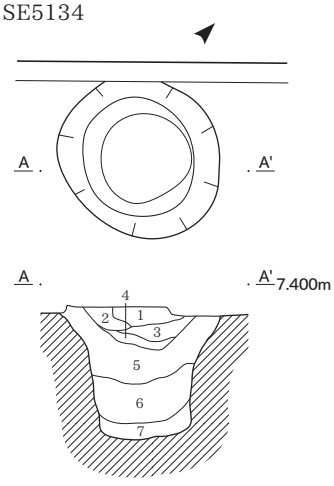
SE5131
1　10YR5/1褐灰色シルト　粘性弱・しまり強。灰白色シルトブロック微量含。
2　10YR5/1褐灰色シルト　粘性弱・しまり強。斑状の灰黄褐色シルト多量、灰白色シルトブロック微量含。
3　10YR6/1褐灰色シルトと10YR5/3にぶい黄褐色シルトと10YR6/4にぶい黄橙色シルトブロックの混合土。粘性やや弱・しまり強。径20mm角の炭化物片、径10mm以下の炭化物微量含。
4　10YR2/1黒色シルト　粘性やや弱・しまり強。浅黄橙色シルトブロック微量、径10mm以下の炭化物少量含。
5　10YR2/1黒色シルト　粘性やや強・しまり弱。暗褐色シルトブロック多量含。
6　10YR2/1黒色シルト　粘性やや強・しまり弱。浅黄橙色シルトブロック微量含。土壌化した炭化物層。
7　10YR6/1褐灰色シルトとにぶい黄褐色シルトブロックの混合土。粘性やや強・しまり弱。
8　10YR2/1黒色シルト　粘性やや強・しまり弱。浅黄橙色シルトブロック微量含。土壌化した炭化物層。
9　10YR2/1黒色シルト　粘性やや強・しまり弱。褐灰色シルトブロック少量含。
10　7.5YR4/4褐色シルト　粘性やや強・しまり強。にぶい黄橙色シルトブロック多量含。
11　10YR2/1黒色シルト　粘性やや強・しまりやや弱。灰褐色シルトブロック・土壌化した炭化物少量含。
12　7.5YR4/4灰褐色シルト　粘性やや強・しまりやや弱。灰白色シルトブロック微量含。
13　10YR8/1灰白色砂質シルトと10YR8/3浅黄橙色シルトブロックの混合土。粘性やや強・しまり強。
14　10YR2/1黒色シルトと灰白色砂質シルトブロックの混合土。粘性やや強・しまり強。
15　10YR2/1黒色シルト　粘性やや強・しまり弱。浅黄橙色シルトブロック微量含。
16　10YR8/3浅黄橙色シルトと10YR6/3にぶい黄浅黄橙色シルトブロックの混合土。粘性やや強・しまり強。
17　10YR8/3浅黄橙色シルトと10YR6/3にぶい黄橙色と10YR4/1褐灰色シルトブロックの混合土。粘性やや強・しまり強。
18　10YR8/3浅黄橙色シルトと10YR4/1褐灰色シルトブロックの混合土。粘性やや強・しまり弱。
19　10YR8/3浅黄橙色シルト10YR6/3とにぶい黄橙色シルトブロックの混合土。粘性やや強・しまり強。

SE5133



SE5133
1　10YR8/3浅黄橙色粘質シルト　粘性やや強・しまり中。灰黄褐色シルトブロック少量含。
2　10YR5/2灰黄褐色シルト　粘性中・しまり中。浅黄橙色シルトブロック少量含。
3　10YR6/2灰黄褐色シルト　粘性中・しまり中。浅黄橙色シルトブロック多量含。
4　10YR6/2灰黄褐色シルト　粘性中・しまり中。浅黄橙色シルトブロック多量含。浅黄橙色シルト粒微量含。
5　10YR7/3にぶい黄橙色シルト　粘性中・しまり中。灰黄褐色シルトブロック少量含。
6　10YR7/3にぶい黄橙色シルト　粘性・しまり中。均質で混入物なし。地山崩落土。
7　10YR6/3にぶい黄橙色シルト　粘性やや強。・しまり中。・灰黄褐色シルトブロック多量含。
8　10YR5/2灰黄褐色シルト　粘性中・しまりやや強。にぶい黄橙色シルトブロック微量含。
9　10YR5/1褐灰色シルト　粘性やや強・しまり中。灰白色シルト粒少量。炭化物中量含。
10　10YR6/3にぶい黄橙色シルト　粘性・しまり中。灰黄褐色シルト粒子・炭化物微量含。
11　10YR4/1褐灰色シルト　粘性・しまり中。にぶい黄橙色シルトブロック少量・灰白色シルト微量含。
12　10YR4/1褐灰色シルト　粘性・しまり中。にぶい黄橙色シルト粒子微量・炭化物少量含。
13　10YR7/2にぶい黄橙色シルト　粘性中・しまり中。黒褐色シルト粒・ブロック少量。炭化物微量含。
14　10YR3/1黒褐色シルト　粘性やや強・しまり中。にぶい黄橙色シルト粒・ブロック少量含。
15　10YR7/3にぶい黄橙色シルト　粘性やや強・しまり中。黒褐色シルト粒・ブロック微量含。
16　10YR6/2灰黄褐色シルト　粘性・しまり中。黄橙色シルト粒微量含。
17　10YR7/3にぶい黄橙色シルト　粘性中。しまりやや強。黒褐色シルト粒微量含。
18　10YR7/3にぶい黄橙色シルト　粘性・しまりやや強。黒褐色シルト粒微量含。
19　10YR7/3にぶい黄橙色シルト　粘性・しまり中。黒褐色シルトブロック微量含。
20　10YR6/3にぶい黄橙色シルト　粘性・しまり中。黒褐色シルト粒微量含。
21　10YR5/3にぶい黄褐色シルト　粘性・しまり中。黒褐色シルト粒微量。酸化鉄少量含。
22　10YR5/3にぶい黄褐色シルト　粘性やや弱・しまり中。にぶい黄橙色シルト粒・黒褐色シルト粒少量含。
23　10YR5/1褐灰色シルト　粘性やや弱・しまり中。にぶい黄橙色シルト粒・黒褐色シルト粒少量含。
24　10YR3/1黒褐色シルト　粘性・しまり中。にぶい黄橙色シルト粒・灰白色シルトブロック少量含。

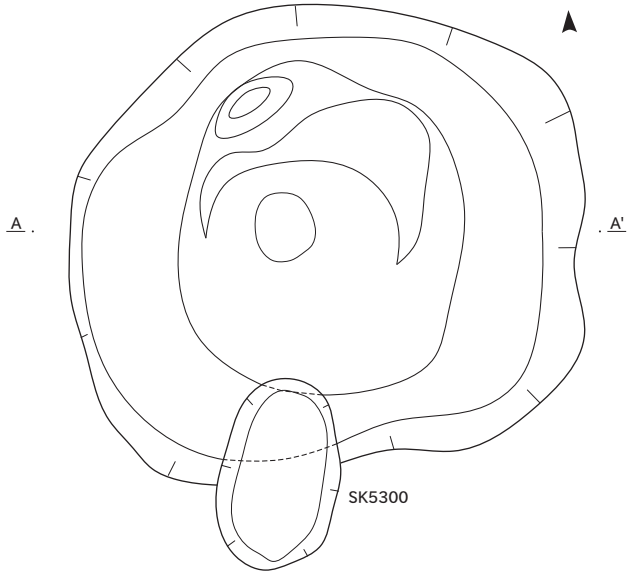
SE5134



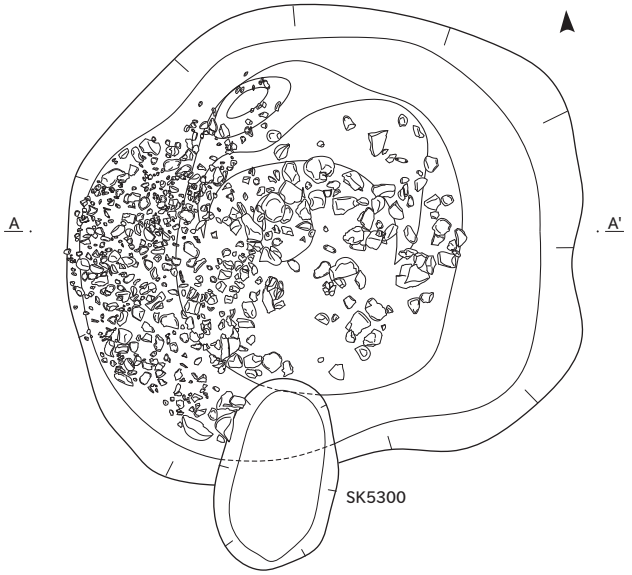
SE5134
1　10YR6/3にぶい黄橙色シルト　粘性・しまり中。浅黄橙色シルト少量。径3mm以下炭化物微量含。
2　10YR3/3暗褐色シルト　粘性弱・しまり強。径10mm以下炭化物微量含。
3　10YR3/1黒褐色シルト　粘性弱・しまり強。灰黄褐色シルト少量。径20mm以下炭化物少量含。
4　10YR6/3にぶい黄橙色シルト　粘性やや弱・しまり強。浅黄橙色シルト少量含。
5　10YR3/1黒褐色シルトと浅黄橙色シルトの混合土。粘性弱・しまり強。径3mm以下炭化物微量含。
6　10YR3/1黒褐色シルト　粘性やや強・しまりやや強。浅黄橙色シルトと黄褐色シルト少量含。
7　10YR6/2灰黄褐色シルト　粘性やや強・しまりやや強。灰白色粘質シルトブロック充填。径3mm以下炭化物微量含。

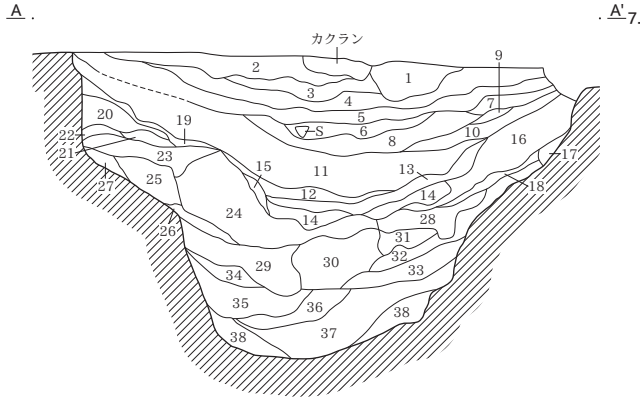
0　（1：40）　2m

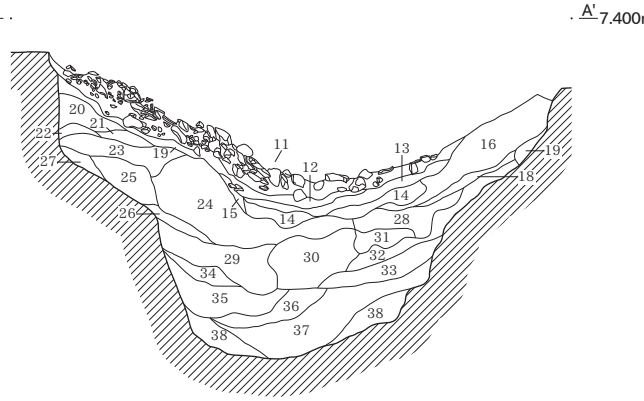
SE5138



SE5138石出土状況



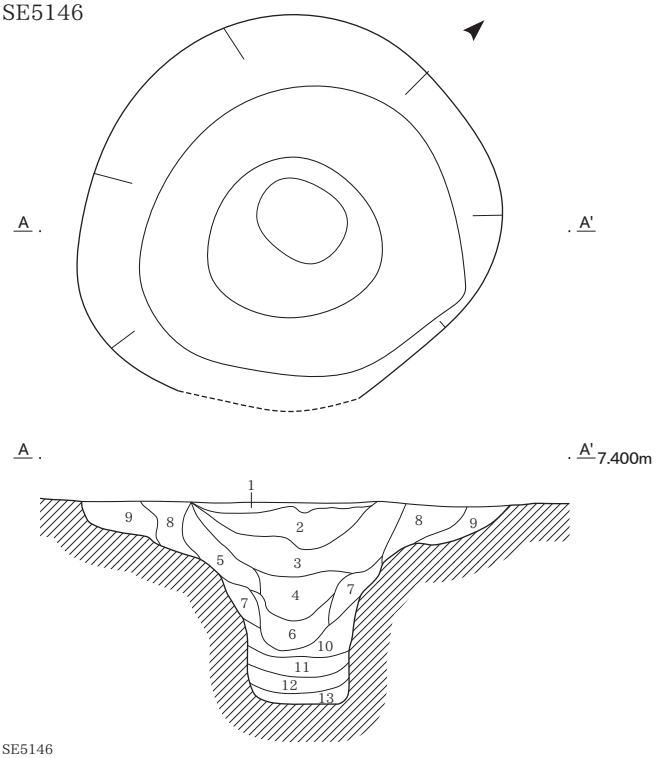




SE5138
1　10YR5/2灰黄褐色シルト　粘性・しまり中。にぶい黄橙色シルト微量含。
2　10YR4/2灰黄褐色シルト　粘性・しまり中。にぶい黄橙色シルト少量含。
3　10YR3/1黒褐色シルト　粘性・しまり中。褐灰色シルト少量、にぶい黄橙色シルト微量含。
4　10YR4/2灰黄褐色シルト　粘性・しまり中。にぶい黄橙色シルト少量、褐灰色シルト微量含。
5　10YR5/2灰黄褐色シルト　粘性・しまり中。にぶい黄橙色シルト微量含。
6　10YR4/1褐灰色シルト　粘性・しまり中。にぶい黄橙色シルトブロック・炭化物微量。被熱により赤化し割れた礫少量含。
7　10YR4/1褐灰色シルト　粘性・しまり中。にぶい黄橙色シルトブロック・炭化物微量含。
8　10YR4/1褐灰色シルト　粘性・しまり中。にぶい黄橙色シルト・炭化物微量含。
9　10YR6/4にぶい黄橙色シルト　粘性やや強・しまり中。褐灰色シルトブロック少量含。
10　10YR4/2灰黄褐色シルト　粘性やや強・しまり中。にぶい黄橙色シルト粒・炭化物微量、被熱により赤化し割れた礫少量含。
11　10YR4/2灰黄褐色シルト　粘性やや強・しまり中。にぶい黄橙色シルト少量。炭化物多量。下部に被熱により赤化し割れた礫極多量含。
12　10YR3/1黒褐色シルト　粘性・しまり中。被熱により赤化し割れた礫少量、炭化物多量含。
13　10YR4/2灰黄褐色シルト　粘性・しまり中。被熱により赤化し割れた礫微量、炭化物少量含。
14　10YR4/2灰黄褐色シルト　粘性・しまり中。炭化物少量含。
15　10YR5/2灰黄褐色シルト　粘性・しまり中。にぶい黄橙色シルト粒少量含。
16　10YR7/3にぶい黄橙色シルト　粘性・しまり中。褐灰色シルトブロック微量含。
17　10YR7/2にぶい黄橙色シルト　粘性・しまり中。褐灰色シルトブロック少量含。
18　10YR7/2灰黄褐色シルト　粘性やや強・しまり中。褐灰色シルトブロック少量含。
19　10YR6/2灰黄褐色シルト　粘性・しまり中。炭化物少量。被熱により赤化し割れた礫微量含。
20　10YR7/2にぶい黄橙色シルト　粘性・しまり中。斑状の褐灰色シルトブロック少量含。
21　10YR6/1褐灰色シルト　粘性・しまり中。にぶい黄橙色シルト微量。斑状の褐灰色シルトブロック少量含。
22　10YR7/2にぶい黄橙色シルト　粘性・しまり中。褐灰色シルトブロック微量含。
23　10YR7/2にぶい黄橙色シルト　粘性・しまり中。斑状の褐灰色シルトブロック少量含。
24　10YR6/2灰黄褐色シルト　粘性中・しまりやや強。褐灰色シルトブロック微量含。
25　10YR6/2灰黄褐色砂質シルト　粘性・しまりやや弱。褐灰色シルトブロック微量含。
26　10YR6/2灰黄褐色シルト　粘性・しまりやや弱。炭化物微量含。
27　10YR6/4にぶい黄橙色砂質シルト　粘性・しまりやや弱。酸化鉄微量含。
28　10YR5/1褐灰色シルト　粘性やや強・しまり中。斑状の褐灰色シルトブロック少量含。
29　10YR6/3にぶい黄橙色砂質シルト　粘性・しまりやや弱。褐灰色シルトブロック微量含。
30　10YR6/3にぶい黄橙色砂質シルト　粘性中・しまりやや弱。褐灰色シルトブロック微量含。
31　10YR7/2にぶい黄橙色砂質シルト　粘性・しまり中。褐灰色シルトブロック微量含。
32　10YR6/3にぶい黄橙色砂質シルト　粘性・しまり中。褐灰色シルトブロック少量含。
33　10YR6/3にぶい黄橙色砂質シルト　粘性やや弱・しまり中。褐灰色シルトブロック少量含。
34　10YR5/2灰黄褐色シルト　粘性やや弱・しまり中。褐灰色シルトブロック少量含。
35　10YR7/2にぶい黄橙色砂質シルト　粘性・しまりやや弱。褐灰色シルト微量含。
36　10YR7/2にぶい黄橙色砂質シルト　粘性・しまりやや弱。褐灰色シルト少量含。
37　10YR7/3にぶい黄橙色砂質シルト　粘性・しまりやや弱。褐灰色シルト微量含。
38　10YR7/3にぶい黄橙色砂質シルト　粘性・しまり弱。褐灰色シルト微量含。

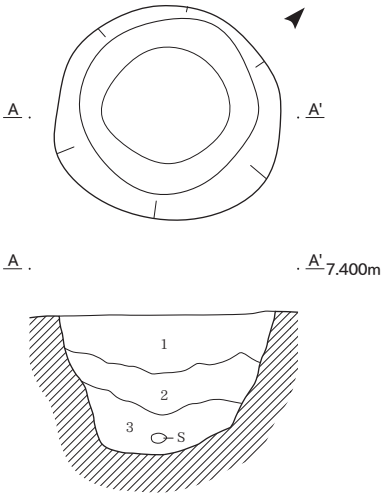
0　（1：40）　2m

SE5146



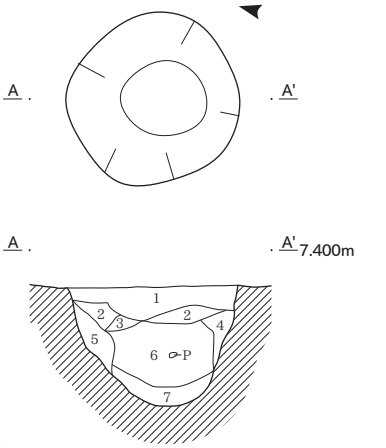
SE5146
1　10YR4/3灰黄褐色シルト　粘性・しまり中。浅黄色シルトブロック微量含。
2　10YR4/3灰黄褐色シルト　粘性・しまり中。浅黄色シルトブロック少量含。
3　10YR4/3灰黄褐色シルト　粘性・しまり中。浅黄色シルトブロック中量含。
4　10YR3/2黒褐色シルト　粘性・しまり中。浅黄色シルトブロック中量含。
5　2.5Y6/3にぶい黄色シルト　粘性・しまり中。灰黄褐色シルト粒少量含。
6　10YR5/2灰黄褐色シルト　粘性・しまり中。浅黄色シルト少量含。
7　10YR6/4にぶい黄橙色砂質シルト　粘性弱・しまり中。灰黄色シルト粒少量含。
8　10YR6/4にぶい黄橙色シルト　粘性・しまり中。灰黄色シルトブロック微量含。
9　2.5Y6/4にぶい黄色砂質シルト　粘性弱・しまり中。酸化鉄微量含。
10　10YR5/3にぶい黄褐色シルト　粘性・しまり中。浅黄色シルト粒・褐灰色シルトブロック微量含。
11　10YR5/3にぶい黄褐色シルト　粘性・しまり中。浅黄色シルト粒微量含。
12　10YR6/3にぶい黄橙色砂質シルト　粘性やや弱・しまり中。褐灰色シルトブロック少量含。
13　10YR6/3にぶい黄橙色砂質シルト　粘性・しまり弱。褐灰色シルトブロック微量含。

SE5203



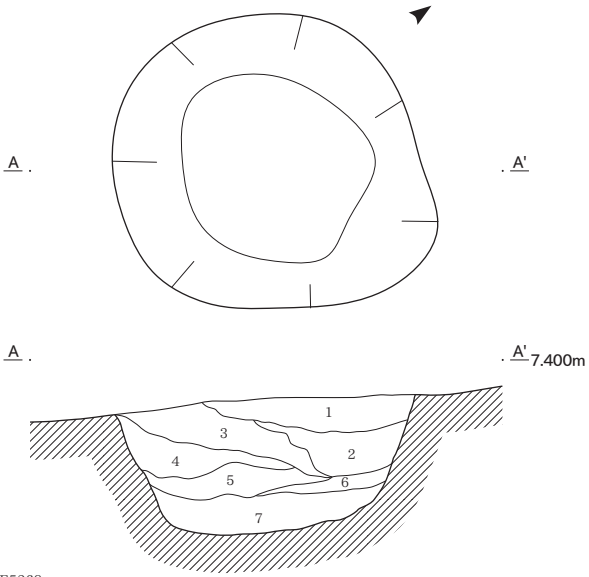
SE5203
1　10YR6/1褐灰色シルト　粘性・しまり中。酸化鉄の沈着あり。
2　10YR6/1褐灰色シルト　粘性・しまり中。浅黄橙色シルトブロック少量含。酸化鉄の沈着あり。
3　10YR8/4浅黄橙色シルト　粘性・しまり中。褐灰色シルトブロック含。

SE5204



SE5204
1　10YR6/1褐灰色シルト　粘性・しまり中。灰白色シルトブロック少量含。
2　10YR5/1褐灰色シルト　粘性・しまり中。灰白色シルトブロック少量含。
3　10YR8/2灰白色シルト　粘性・しまり中。灰白色シルトブロック少量含。
4　10YR4/1褐灰色シルト　粘性・しまり中。灰白色シルトブロック少量含。
5　10YR8/2灰白色砂質シルト　粘性やや弱・しまり弱。
6　10YR8/4浅黄橙色シルト　粘性・しまり中。
7　10YR8/3浅黄橙色砂質シルト　粘性やや弱・しまり弱。

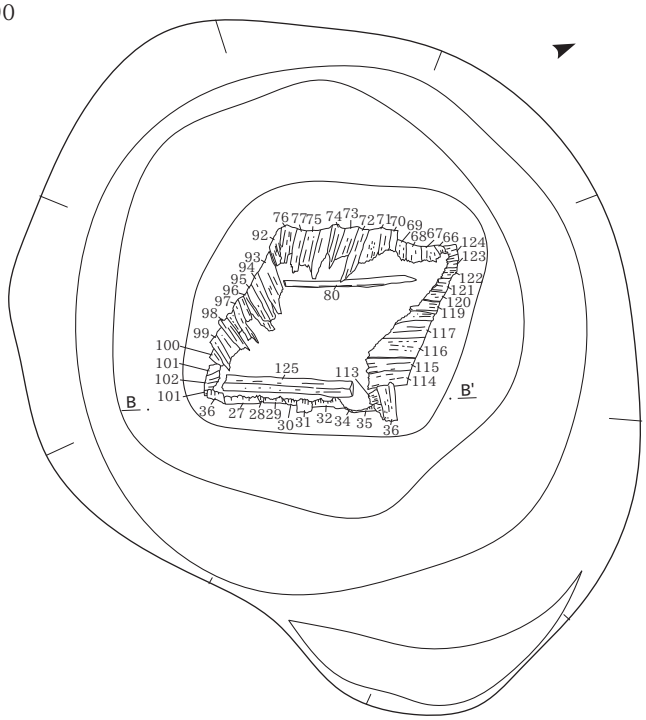
SE5268



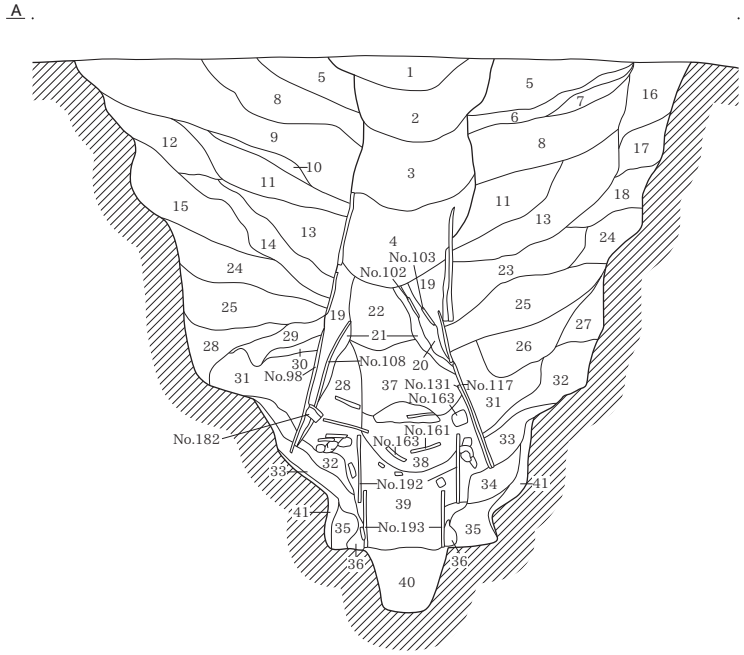
SE5268
1　10YR6/1褐灰色シルト　粘性・しまり中。浅黄橙色シルトブロック少量含。
2　10YR6/1褐灰色シルトと10YR8/4浅黄橙色シルトの混合土　粘性・しまり中。
3　10YR8/4浅黄橙色シルト　粘性・しまり中。褐灰色シルトブロック少量含。
4　3層より褐灰色シルトブロック多量含。
5　10YR6/1褐灰色シルトと10YR8/4浅黄橙色シルトの混合土　粘性・しまり中。酸化鉄の沈着あり。
6　10YR8/4浅黄橙色砂質シルト　粘性やや弱・しまり中。褐灰色シルトブロック少量含。
7　10YR7/6明黄褐色砂質シルト　粘性やや弱・しまり中。褐灰色シルトブロック少量含。

0　（1：40）　2m

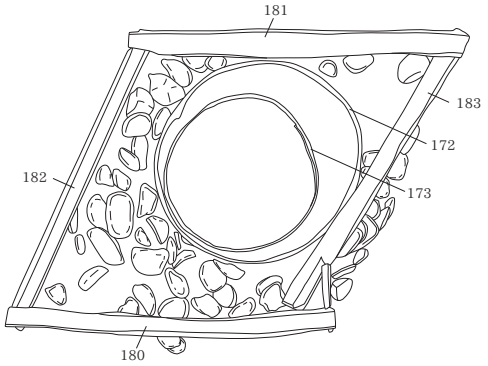
SE5290

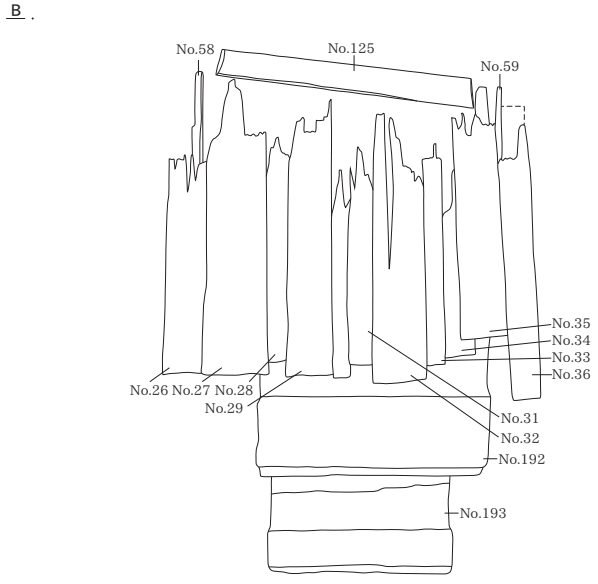


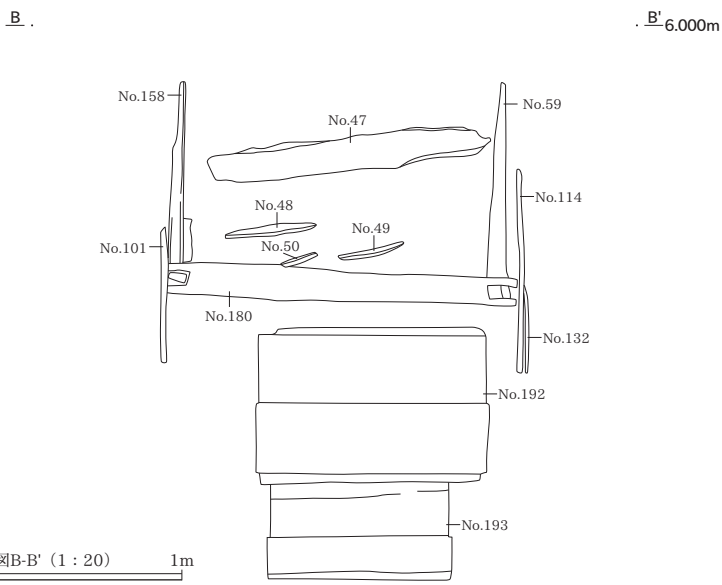
SE5290
1　10YR4/2灰黄褐色シルト　粘性・しまり中。浅黄色シルト粒子微量含。
2　10YR4/2灰黄褐色シルト　粘性やや弱・しまり中。浅黄色シルトブロック微量含。
3　10YR4/2灰黄褐色シルト　粘性・しまり中。浅黄色シルトブロック微量含。
4　10YR3/2黒褐色シルト　粘性やや強・しまり中。浅黄色シルトブロック微含量。
5　10YR5/2灰黄褐色シルト　粘性・しまり中。浅黄色シルトブロック少量含。
6　10YR5/2灰黄褐色シルト　粘性・しまり中。浅黄色シルトブロック中量含。
7　10YR5/2灰黄褐色シルト　粘性・しまり中。浅黄色シルトブロック微量。炭化物を含。
8　10YR4/2灰黄褐色シルト　粘性・しまり中。浅黄色シルトブロック少量。5層と同様含。
9　10YR4/2灰黄褐色シルト　粘性・しまり中。灰黄色シルトブロック中量含。
10　10YR5/3にぶい黄褐色シルト　粘性・しまり中。灰黄褐色シルトブロック多量含。
11　10YR4/3にぶい黄褐色シルト　粘性・しまり中。浅黄色シルトブロックやや多量含。
12　10YR4/2灰黄褐色シルト　粘性・しまり中。浅黄色シルトブロック少含量含。
13　10YR4/2灰黄褐色シルト　粘性・しまり中。浅黄色シルトブロック少含量含。
14　10YR6/4にぶい黄橙色シルト　粘性・しまり中。褐灰色シルトブロック少量含。
15　10YR4/1褐灰色シルト　粘性・しまり中。斑状の浅黄色シルトブロック少量含。
16　10YR5/3にぶい黄褐色シルト　粘性・しまり中。浅黄色シルトブロック中量含。
17　10YR5/3にぶい黄褐色シルト　粘性・しまり中。浅黄色シルトブロックやや多量含。
18　10YR5/3にぶい黄褐色シルト　粘性弱・しまり中。浅黄色・褐灰色シルトブロック少量含。
19　10YR4/1褐灰色シルト　粘性強・しまり中。炭化物を含。
20　2.5Y8/3淡黄色シルト　粘性・しまり中。褐灰色シルト・炭化物少量含。井戸側板の痕跡。
21　10YR6/1褐灰色シルト　粘性・しまり中。淡黄色シルト・炭化物少量含。井戸側板の痕跡。
22　10YR3/2黒褐色シルト　粘性強・しまり中。浅黄色シルト粒子微量含。
23　2.5Y5/6黄褐色砂質シルト　粘性弱・しまり中。斑状の褐灰色シルト少量含。
24　2.5Y5/6黄褐色砂質シルト　粘性弱・しまり中。褐灰色シルトブロック少量含。
25　2.5Y5/6黄褐色砂質シルト　粘性弱・しまり中。褐灰色シルトブロック微量含。
26　10YR6/1褐灰色シルト　粘性・しまり中。炭化物多量。酸化鉄少量含。
27　2.5Y7/4浅黄色砂質シルト　粘性・しまり中。酸化鉄微量含。
28　2.5Y5/3にぶい黄褐色シルト　粘性・しまり中。酸化鉄中量含。
29　2.5YR5/6明赤褐色シルト　粘性・しまり中。酸化鉄多量含。
30　2.5YR5/2灰赤褐色シルト　粘性・しまり中。酸化鉄少量含。
31　N6/灰色粘質シルト　粘性・しまり中。炭化物粒・ブロックやや多量含。
32　7.5YR7/6橙色砂質シルト　粘性・しまり中。酸化鉄多量含。
33　7.5YR5/1褐灰色シルト　粘性・しまり中。灰色粘質シルトブロック中量含。
34　7.5YR5/1褐灰色シルト　粘性・しまり中。灰色粘質シルトブロック少量含。
35　2.5Y7/4浅黄色粘質シルト　粘性やや強・しまりやや弱。酸化鉄を少量含。
36　N6/灰色粘質シルト　粘性やや強・しまりやや弱。細砂を少量含。
37　N5/灰色砂質シルト　粘性強・しまり強。炭化物含。
38　N4/灰色粘質シルト　粘性やや強・しまり中。炭化物含。
39　N4/灰色粘質シルト　粘性やや弱・しまり弱。炭化物含。
40　N5/灰色砂質シルト　粘性やや弱・しまり弱。灰色粘質土に細砂を多量、炭化物含。
41　5YR5/6明赤褐色砂質シルト　粘性弱・しまり弱。酸化鉄沈着層。炭化物含。



横桟・曲物・礫敷き



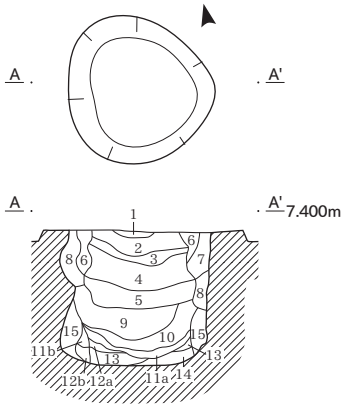




0　平面図・断面図A-A'（1：40）　2m

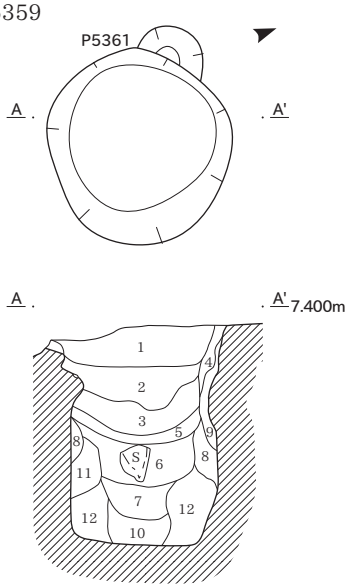
0　横桟・曲物、断面図B-B'（1：20）　1m

SE5353



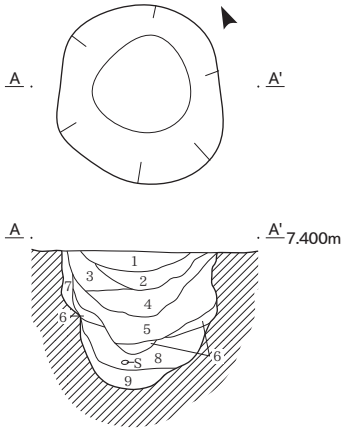
SE5353
1　10YR5/2灰黄褐色シルト　粘性弱・しまり強。灰白色シルト多量含。
2　10YR5/2灰黄褐色シルト　粘性弱・しまり弱。灰白色シルト多量含。
3　10YR5/2灰黄褐色シルト　粘性やや弱・しまり強。灰色シルト少量含。
4　10YR4/2灰黄褐色シルト　粘性やや強・しまり強。斑状の褐灰色粘質シルト多量含。
5　10YR3/1黒褐色シルト　粘性やや強・しまりやや弱。にぶい黄橙色シルト少量、黒色シルト微量含。
6　10YR5/2灰黄褐色シルト　粘性弱・しまり強。灰白色シルト多量、径30mm以下の炭化物多量含。
7　10YR8/3浅黄橙色シルト　粘性弱・しまり強。斑状の灰黄褐色シルト少量含。
8　10YR8/3浅黄橙色シルト　粘性やや弱・しまりやや強。斑状の灰黄褐色シルト多量含。
9　2.5Y3/1黒褐色シルト　粘性強・しまりやや強。明黄褐色シルト多量含。
10　2.5Y2/1黒色シルト　粘性やや強・しまりやや強。黒褐色シルト多量、明黄褐色シルト微量含。10層低面に土壌化した炭化物層約1cmが堆積。
11a　10YR5/1褐灰色粘質シルト　粘性やや強・しまりやや強。浅黄橙色シルトブロック少量含。径30mmの炭化物片、径3mm以下の炭化物微量含。
11b　11a層に類似するが細砂を微量含。
12a　2.5Y7/4浅黄色シルト　粘性やや強・しまりやや弱。褐灰色粘質シルト・暗灰黄色シルト多量含。
12b　12a層に類似するが細砂微量含。
13　10YR2/1黒色粘質シルト　粘性やや強・しまり弱。褐灰色粘質シルト・明黄褐色シルト多量含。
14　10YR2/1黒色粘質シルト　粘性やや強・しまり弱。褐灰色粘質シルト・明黄褐色シルト多量、細砂少量含。
15　10YR8/2灰白色砂質シルト　粘性やや弱・しまりやや強。黒色シルト少量含。

SE5359



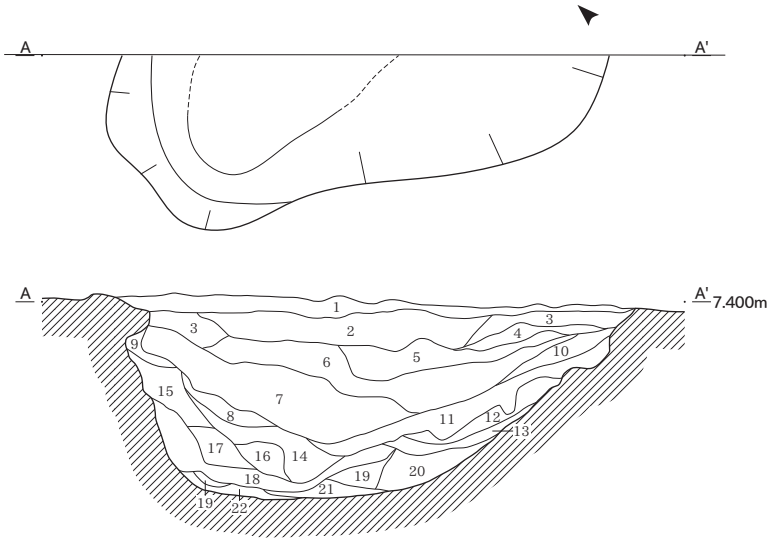
SE5359
1　10YR4/3にぶい黄褐色シルト　粘性・しまり中。にぶい黄色シルト微量含。
2　10YR3/2黒褐色シルト　粘性・しまり中。にぶい黄色シルト少量含。
3　10YR4/2灰黄褐色シルト　粘性・しまり中。にぶい黄色シルト中量含。
4　10YR3/2灰黄褐色シルト　粘性・しまり中。にぶい黄色シルト多量含。
5　10YR3/2灰黄褐色シルト　粘性・しまり中。にぶい黄色シルト中量含。
6　10YR4/2灰黄褐色シルト　粘性・しまり中。明黄褐色シルトブロック中量含。
7　10YR4/2灰黄褐色シルト　粘性・しまり中。明黄褐色シルトブロック多量含。
8　10YR7/6明黄褐色シルト　粘性・しまり弱。灰黄褐色シルト粒子少量含。やや砂質。
9　10YR6/2灰黄褐色シルト　粘性・しまり弱。灰黄褐色シルト粒子微量含。やや砂質。
10　10YR6/2灰黄褐色シルト　粘性・しまり弱。灰黄褐色シルト粒子多量含。
11　10YR7/6明黄褐色シルト　粘性・しまり弱。灰黄褐色シルト粒子少量含。
12　10YR6/3明黄橙色シルト　粘性・しまり弱。灰黄褐色シルト粒子微量含。やや砂質。

SE5366



SE5366
1　10YR6/1褐灰色シルト　粘性・しまり中。浅黄色シルト粒・炭化物微量含。
2　10YR6/2灰黄褐色シルト　粘性・しまり中。浅黄色シルトブロック少量含。
3　10YR6/2灰黄褐色シルト　粘性・しまり中。浅黄色シルトブロック中量、炭化物少量含。
4　10YR5/2灰黄褐色シルト　粘性・しまり中。浅黄色シルトブロック少量、炭化物多量含。
5　10YR5/2灰黄褐色シルト　粘性・しまり中。浅黄色シルトブロック・炭化物少量含。
6　2.5Y6/3にぶい黄色シルト　粘性・しまり中。浅黄色シルトブロック少量含。
7　10YR7/4浅黄色シルト　粘性・しまり中。褐灰色シルトブロック含。
8　10YR4/2灰黄褐色シルト　粘性・しまり中。浅黄色シルトブロック・炭化物少量含。
9　10YR4/2灰黄褐色シルト　粘性・しまり中。浅黄色シルトブロック・炭化物微量含。

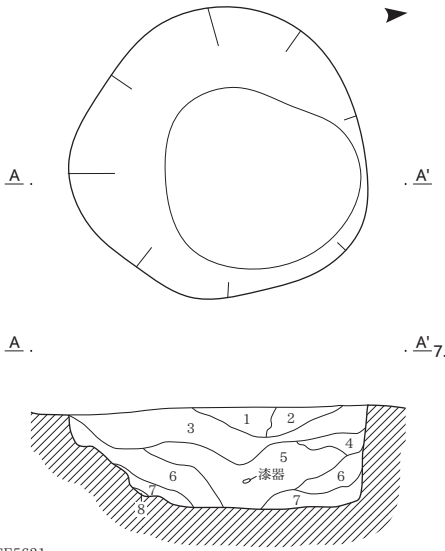
SE5422



SE5422
1　10YR7/1灰白色シルト　粘性・しまり中。酸化鉄少量含。
2　10YR6/1褐灰色シルト　粘性・しまり中。酸化鉄少量含。
3　10YR6/1褐灰色シルト　粘性・しまり中。明黄褐色シルトブロック少量含。
4　10YR6/2灰黄褐色シルト　粘性・しまり中。明黄褐色シルトブロック少量含。
5　10YR5/2灰黄褐色シルト　粘性・しまり中。明黄褐色シルトブロック少量含。
6　10YR5/2灰黄褐色シルト　粘性・しまり中。明黄褐色シルトブロック中量含。
7　10YR5/2灰黄褐色シルト　粘性・しまり中。明黄褐色シルトブロック多量含。
8　10YR6/4にぶい黄橙色シルト粘性・しまり中。灰黄褐色シルト微量含。
9　2.5Y7/4浅黄色シルト　粘性・しまり中。灰黄褐色シルト微量含。
10　10YR5/2灰黄褐色シルト　粘性・しまり中。灰黄褐色シルト少量含。
11　10YR4/1褐灰色シルト　粘性・しまり中。明黄褐色シルト少量、炭化物中量含。
12　10YR5/2灰黄褐色シルト　粘性・しまり中。明黄褐色シルト少量、炭化物微量含。
13　10YR3/1黒褐色シルト　粘性・しまり中。明黄褐色シルト少量、炭化物多量含。
14　10YR4/1褐灰色シルト　粘性・しまり中。明黄褐色シルト中量、炭化物少量含。
15　10YR5/1褐灰色シルト　粘性・しまり中。明黄褐色シルト少量、炭化物多量含。
16　10YR5/2灰黄褐色シルト　粘性・しまり中。明黄褐色シルトブロック多量含。
17　10YR4/1褐灰色シルト　粘性・しまり中。明黄褐色シルト中量、炭化物少量含。
18　10YR5/1褐灰色シルト　粘性・しまり中。明黄褐色シルト少量、炭化物微量含。
19　10YR7/6明黄褐色シルト　粘性・しまり中。褐灰色シルトブロック微量含。
20　10YR5/2灰黄褐色シルト　粘性・しまり中。褐灰色シルトブロック少量含。
21　10YR7/2にぶい黄橙色砂質シルト　粘性弱・しまり中。炭化物少量含。
22　10YR7/3にぶい黄橙色砂質シルト　粘性弱・しまり中。炭化物微量含。

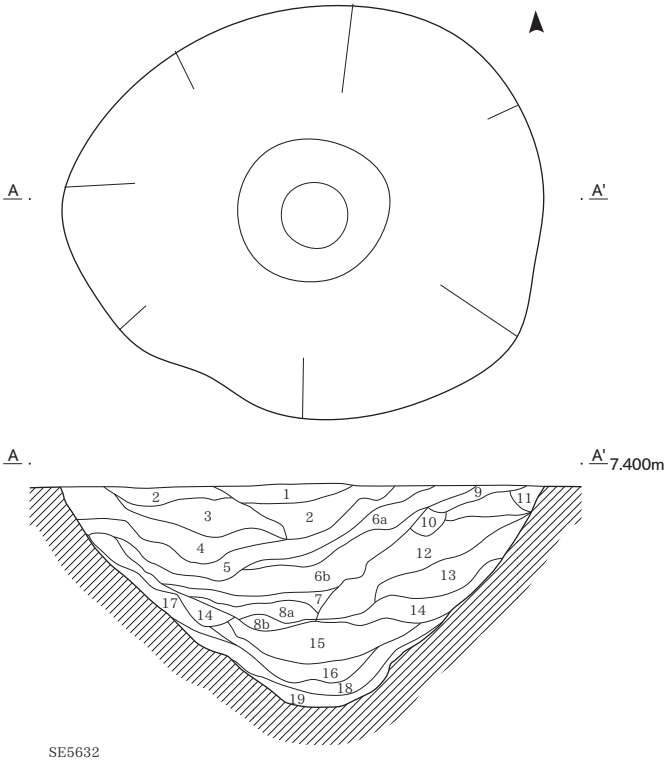
0　（1：40）　2m

SE5631



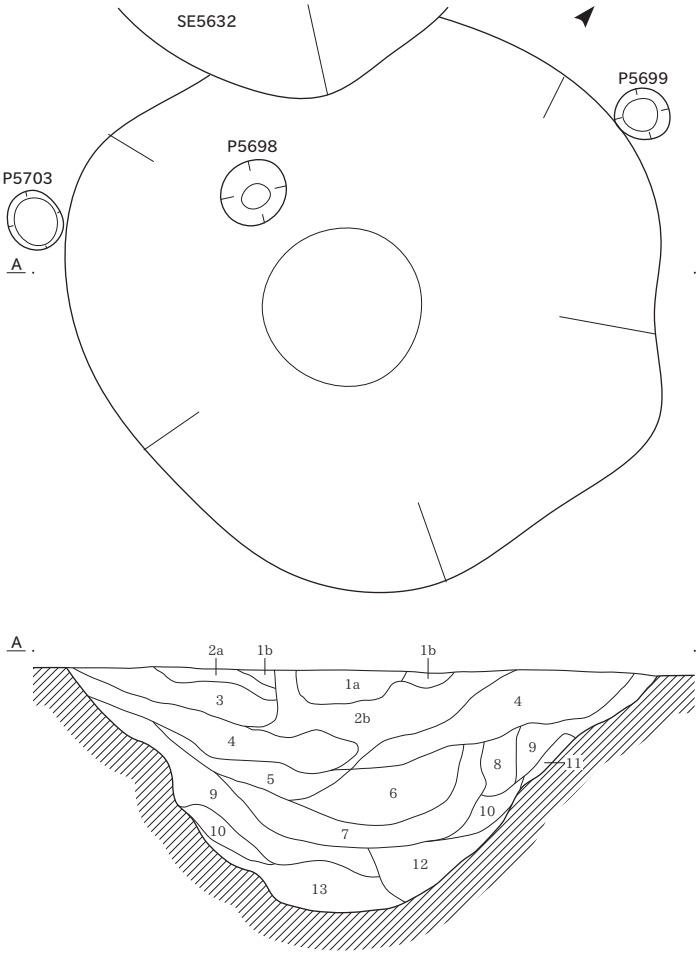
SE5631
1　10YR2/1黒色シルト　粘性・しまり強。灰白色・浅黄橙色シルト径10mm以下少量、炭化物微量含。
2　10YR7/1灰白色シルト　粘性・しまり強。浅黄橙色シルト径10mm以下多量、酸化鉄径2mm以下少量含。
3　10YR7/3にぶい黄橙色シルト　粘性・しまり強。浅黄橙色シルト径10mm以下中量、灰白色シルト径10mm以下多量、炭化物径2mm以下少量含。
4　10YR7/1灰白色シルト　粘性・しまり強。浅黄橙色シルト径10mm以下少量含。
5　10YR2/1黒色シルト　粘性・しまり強。灰白色シルト径20mm以下少量、土師質土器を含。
6　10YR7/1灰白色シルト　粘性・しまり強。灰白色シルト径20mm以下少量含。厚さ20mmの浅黄橙色シルトを互層状に混入。
7　10YR8/3浅黄橙色シルト　粘性・しまり強。炭化物径2mm以下微量含。
8　10YR7/1灰白色シルト　粘性・しまり強。炭化物径2mm以下微量含。

SE5632



SE5632
1　10YR5/1褐灰色シルト　粘性・しまり中。黄褐色シルトブロック少量含。
2　10YR7/2にぶい黄橙色シルト　粘性・しまり中。灰黄褐色シルトブロック多量含。
3　10YR5/1褐灰色シルト　粘性・しまり中。斑状の黄橙色シルトブロック少量含。
4　10YR6/3にぶい黄橙色シルト　粘性・しまり中。斑状の灰黄褐色シルトブロック少量含。
5　10YR6/1褐灰色シルト　粘性・しまり中。斑状のにぶい黄橙色シルトブロック少量含。
6a　10YR3/1黒褐色シルト　粘性・しまり中。炭化物主体層。焼土粒少量含。
6b　10YR4/2灰黄褐色シルト　粘性・しまり中。炭化物主体層。焼土粒多量含。
7　10YR7/2にぶい黄橙色シルト　粘性やや強・しまり中。炭化物少量含。
8a　10YR5/2灰黄褐色シルト　粘性・しまり中。炭化物多量、焼土ブロック微量含。
8b　10YR5/2灰黄褐色シルト　粘性・しまり中。炭化物少量含。
9　10YR5/2灰黄褐色シルト　粘性・しまり中。斑状のにぶい黄橙色シルトブロック少量含。
10　10YR5/2灰黄褐色シルト　粘性・しまり中。にぶい黄橙色シルトブロック微量含。
11　10YR6/2灰黄褐色シル　粘性・しまり中。斑状のにぶい黄橙色シルトブロック少量含。
12　10YR7/2にぶい黄橙色シルト　粘性強・しまり中。炭化物少量含。
13　10YR7/2にぶい黄橙色シルト　粘性やや強・しまり中。炭化物微量含。
14　10YR7/4にぶい黄橙色砂質シルト　粘性・しまり弱。炭化物少量含。
15　10YR7/4にぶい黄橙色砂質シルト　粘性・しまり弱。炭化物微量含。
16　10YR7/4にぶい黄橙色シルト　粘性・しまり中。にぶい黄橙色シルトブロック少量含。
17　10YR7/4にぶい黄橙色シルト　粘性・しまり弱。にぶい黄橙色シルトブロック微量含。
18　10YR7/4にぶい黄橙色シルト　粘性・しまり弱。炭化物微量含。
19　10YR7/4にぶい黄橙色砂質シルト　粘性・しまり弱。炭化物微量、酸化鉄少量含。

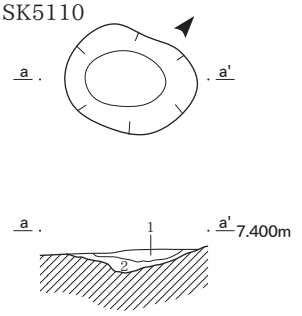
SE5716



SE5716
1a　2.5Y7/4浅黄色シルト　粘性やや強・しまり中。黄灰粘質シルトブロック多量含。
1b　2.5Y7/4浅黄色シルト　粘性やや強・しまり中。黄灰粘質シルトブロック少量含。
2a　10YR5/1褐灰色シルト　粘性やや強・しまり中。浅黄色粘質シルトブロック中量含。
2b　10YR5/1褐灰色シルト　粘性やや強・しまり中。浅黄色粘質シルトブロック少量含。
3　2.5Y7/4浅黄色シルト　粘性・しまり中。褐灰色粘質シルト粒微量含。
4　2.5Y7/4浅黄色シルト　粘性強・しまり中。褐灰色粘質シルト粒微量含。
5　2.5Y7/4浅黄色シルト　粘性弱・しまり中。褐灰色粘質シルト粒微量含。
6　2.5Y7/4浅黄色シルト　粘性強・しまり中。褐灰色粘質シルト粒微量含。
7　2.5Y7/3浅黄色シルト　粘性やや弱・しまり中。
8　2.5Y7/3浅黄色シルト　粘性やや強・しまり中。
9　2.5Y6/2灰黄色シルト　粘性弱・しまり中。やや砂質。
10　2.5Y6/4にぶい黄色シルト　粘性弱・しまり中。砂質土。
11　2.5Y6/3にぶい黄色シルト　粘性弱・しまり中。砂質土。
12　2.5Y6/3にぶい黄色シルト　粘性やや弱・しまり中。灰黄色粘質シルトブロック多量含。
13　2.5Y6/3にぶい黄色シルト　粘性弱・しまり中。砂質土。底面に酸化鉄の沈着あり。

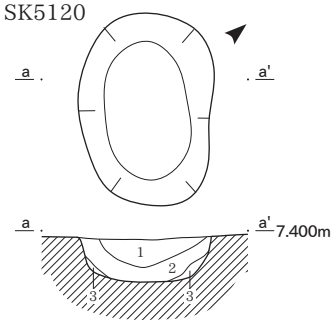
0　(1：40)　2m

SK5110



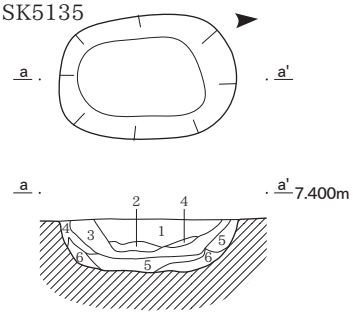
SK5110
1　10YR3/3暗褐色シルト　粘性・しまり中。にぶい黄橙色シルトをブロック状に中量含。径10mm以下の炭化物微量含。
2　10YR3/3暗褐色シルト　粘性・しまり中　にぶい黄橙色シルトをブロック状に多量含。

SK5120



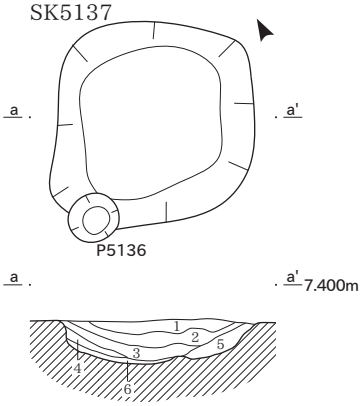
SK5120
1　10YR6/3にぶい黄橙色シルト　粘性・しまり中。黒褐色粘土をブロック状に多量含。
2　10YR3/1黒褐色粘土　粘性強・しまり中。にぶい黄橙色シルトをブロック状に少量含。
3　10YR3/2暗褐色シルト　粘性・しまり中。にぶい黄橙色シルト・黒褐色粘土をブロック状に少量含。

SK5135



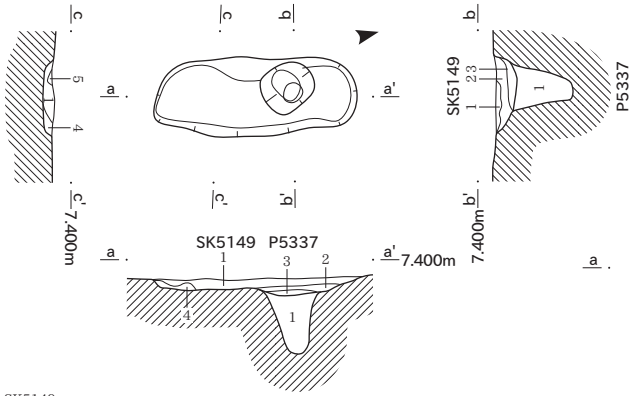
SK5135
1　7.5YR4/3褐色シルト　粘性・しまりやや強。にぶい黄橙色シルトをブロック状に微量含。
2　7.5YR4/2灰褐色シルト　粘性やや弱・しまり強。にぶい黄橙色シルト・褐灰色シルトをブロック状に微量含。
3　7.5YR4/2灰褐色シルト+7.5YR4/1褐灰色シルト　粘性やや強・しまり弱。
4　7.5YR3/3暗褐色シルト　粘性やや強・しまり強。
5　10YR8/2灰白色シルト　粘性・しまりやや弱。暗褐色シルトをブロック状に微量含。
6　10YR8/2灰白色シルト　粘性・しまりやや弱。暗褐色シルトをブロック状に多量含。

SK5137



SK5137
1　10YR4/4褐色シルト　粘性やや弱・しまり強。にぶい黄橙色シルトをブロック状に多量含。径3mm以下の炭化物微量含。
2　10YR4/4褐色シルト　粘性やや弱・しまり強。にぶい黄橙色シルトをブロック状に、径3mm以下の炭化物微量含。
3　10YR7/1灰白色シルト　粘性やや弱・しまり強。褐色シルトをブロック状に微量含。
4　10YR4/2灰黄褐色シルト+10YR6/3にぶい黄橙色シルト+10YR8/1灰白色シルト　粘性やや弱・しまり強。
5　10YR7/1灰白色シルト+10YR4/4褐色シルト+10YR8/2灰白色シルト　粘性やや弱・しまり強。径15mm以下の炭化物微量含。
6　10YR5/3にぶい黄褐色シルト+10YR5/1褐灰色シルト+10YR8/2灰白色シルト　粘性やや弱・しまり強。

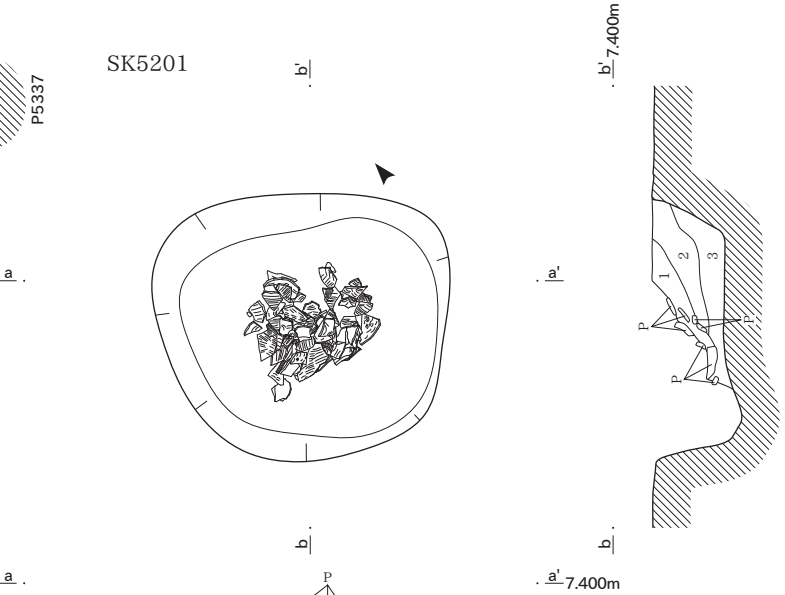
SK5149



SK5149
1　10YR3/4暗褐色粘土　粘性・しまり強。浅黄橙色シルト・黒褐色シルトをブロック状に少量含。
2　10YR3/4暗褐色粘土　粘性・しまり強。浅黄橙色シルト・黒褐色シルトをブロック状に微量含。径5mm以下の炭化物多量含。
3　10YR2/1黒色粘土　粘性・しまり強。浅黄橙色シルトをブロック状に少量含。径2mm以下の炭化物多量含。
4　10YR3/4暗褐色粘土　粘性・しまり強。浅黄橙色シルトをブロック状に微量含。
5　10YR3/2黒褐色粘土　粘性・しまり強。焼土層。

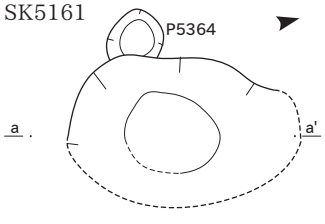
P5337
1　10YR3/1黒褐色粘土　粘性・しまり強。浅黄橙色シルトをブロック状に微量含。

SK5201

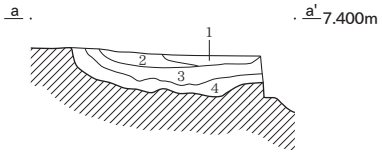


SK5201
1　10YR8/1灰白色粘土　粘性・しまり強。赤褐色の鉄分中量含。
2　10YR8/1灰白色粘土　粘性・しまり強。赤褐色の鉄分多量含。
3　10YR6/1褐灰色粘土　粘性・しまり強。マンガン多量含。

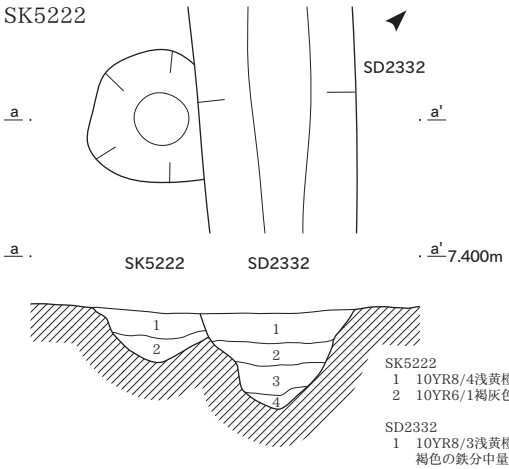
SK5161



SK5161
1　10YR3/1黒褐色シルト　粘性やや弱・しまり強。褐灰色シルトをブロック状に多量含。浅黄橙色シルトをブロック状に微量含。
2　10YR3/1黒褐色シルト　粘性やや強・しまり強。浅黄橙色シルトをブロック状に少量含。
3　10YR8/1灰白色シルト　粘性やや強・しまり強。灰黄褐色シルトをブロック状に少量含。黒褐色シルトをブロック状に微量含む。
4　10YR8/1灰白色シルト　粘性やや強・しまり強。灰黄褐色シルト・黒褐色シルトをブロック状に微量含む。



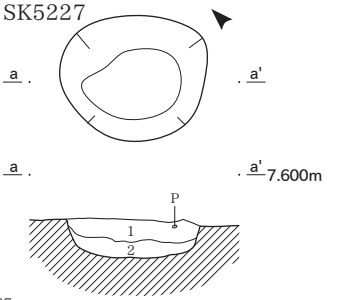
SK5222



SK5222
1　10YR8/4浅黄橙色シルト　粘性・しまり中。褐灰色シルトをブロック状に中量含。
2　10YR6/1褐灰色シルト　粘性・しまり中。浅黄橙色シルトをブロック状に中量含。

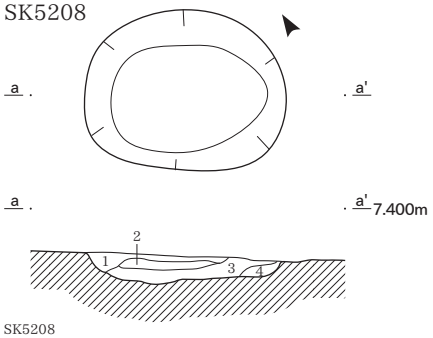
SD2332
1　10YR8/3浅黄橙色シルト　粘性・しまり中。灰色シルトをブロック状に中量含。赤褐色の鉄分中量含。
2　N6/灰色シルト　粘性・しまり中。浅黄橙色シルトをブロック状に中量含。
3　10YR7/4にぶい黄橙色シルト　粘性・しまり中。マンガン多量含。赤褐色の鉄分中量含。
4　10YR6/2灰黄褐色粘質シルト　粘性やや強・しまり中。マンガン・赤褐色の鉄分中量含。

SK5227



SK5227
1　10YR5/2灰黄褐色シルト　粘性・しまり中。
2　10YR7/6明黄褐色シルト　粘性・しまり中。灰黄褐色シルトをブロック状に中量含。

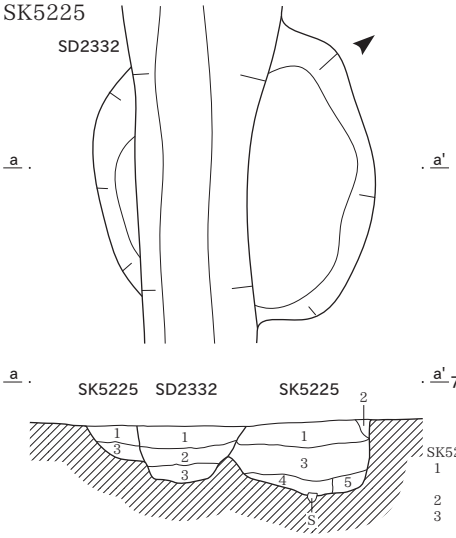
SK5208



SK5208
1　10YR8/1灰白色シルト　粘性・しまり中。赤褐色の鉄分中量含。
2　10YR8/2灰白色シルト　粘性・しまり中。赤褐色の鉄分中量含。
3　N6/灰色シルト　粘性・しまり中。
4　10YR8/4浅黄橙色シルト　粘性・しまり中。赤褐色の鉄分中量含。

0　(1：40)　2m

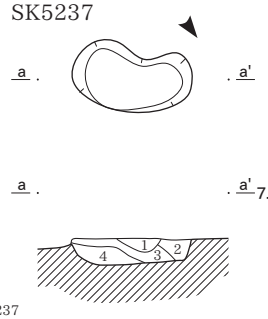
SK5225



SK5225
1　10YR7/3にぶい黄橙色砂質シルト　粘性やや弱・しまり中。褐灰色シルトをブロック状に中量含。
2　10YR6/1褐灰色シルト　粘性・しまり中。
3　10YR7/4にぶい黄橙色砂質シルト　粘性やや弱・しまり中。褐灰色シルトをブロック状に中量含。
4　10YR7/4にぶい黄橙色砂質シルト　粘性やや弱・しまり中。
5　10YR7/4にぶい黄橙色砂質シルト　粘性やや弱・しまり中。褐灰色シルトをブロック状に少量含。

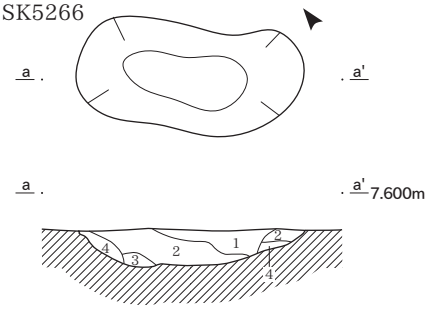
SD2332
1　10YR3/4暗褐色シルト　粘性弱・しまり強。灰白色シルトをブロック状に多量含。
2　10YR4/2灰黄褐色シルト　粘性弱・しまり強。灰白色シルトをブロック状に多量含。
3　10YR4/2灰黄褐色シルト　粘性弱・しまり強。黄褐色シルトをブロック状に微量含。

SK5237



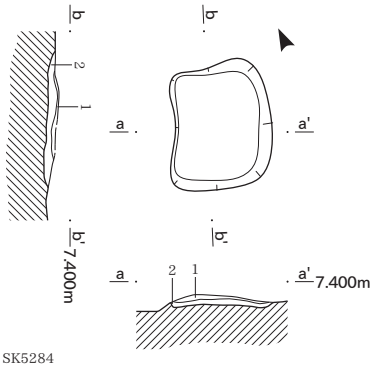
SK5237
1　10YR3/4暗褐色粘土　粘性強・しまり中。浅黄橙色シルトをブロック状に少量含。
2　10YR8/3浅黄橙色シルト　粘性・しまり中。
3　10YR3/4暗褐色粘土　粘性強・しまり中。浅黄橙色シルトをブロック状に少量含。径2mm以下の炭化物微量含。
4　10YR6/1褐灰色シルト　粘性・しまり中。暗褐色粘土をブロック状に少量含。径2mm以下の炭化物微量含。

SK5266



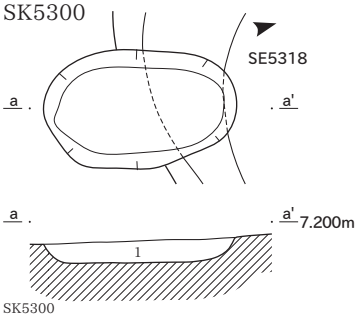
SK5266
1　10YR5/3にぶい黄褐色シルト　粘性・しまり中。径1mm以下の炭化物少量含。
2　2.5Y6/6明黄褐色シルト　粘性・しまり中。にぶい黄褐色シルトをブロック状に多量含。
3　2.5Y6/6明黄褐色シルト　粘性・しまり中。にぶい黄褐色シルトをブロック状に少量含。
4　2.5Y6/6明黄褐色シルト　粘性・しまり中。にぶい黄褐色シルトをブロック状に微量含。

SK5284



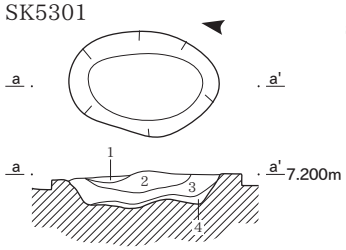
SK5284
1　10YR3/1黒褐色粘土　粘性・しまり強。浅黄橙色シルトをブロック状に少量含。
2　10YR6/1褐灰色粘土　粘性・しまり強。黒褐色粘土をブロック状に少量含。

SK5300



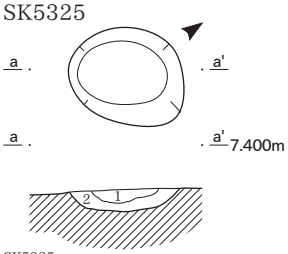
SK5300
1　7.5YR3/1黒褐色粘土　粘性強・しまり中。浅黄橙色シルトをブロック状に多量含。

SK5301



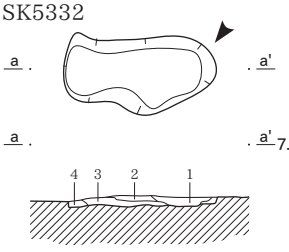
SK5301
1　10YR4/4褐色粘土　粘性・しまり強。黒色シルトをラメラ状に多量含。
2　10YR2/1黒色粘土　粘性強・しまり中。褐色粘土をブロック状に少量含。
3　10YR2/1黒色シルト　粘性・しまり中。褐色粘土をブロック状に少量含。径2mm以下の炭化物中量含。
4　10YR4/4褐色粘土　粘性強・しまり中。黒色シルトをブロック状に少量含。

SK5325



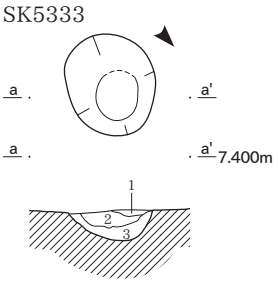
SK5325
1　10YR3/1黒褐色粘土　粘性・しまり強。暗褐色粘土をブロック状に中量含。
2　10YR3/4暗褐色粘土　粘性・しまり強。黒褐色粘土・褐灰色粘土をブロック状に少量含。

SK5332



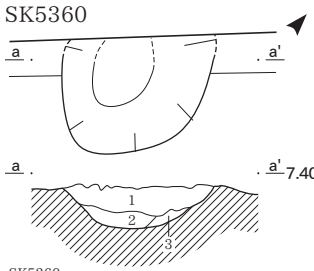
SK5332
1　10YR2/1黒色粘土　粘性強・しまり中。浅黄橙色シルトをブロック状に微量含。
2　10YR2/1黒色粘土　粘性強・しまり中。浅黄橙色シルトをブロック状に少量含。
3　10YR2/1黒色粘土　粘性強・しまり中。浅黄橙色シルトをブロック状、径2mm以下の炭化物微量含。
4　10YR2/1黒色粘土　粘性強・しまり中。径2mm以下の炭化物多量含。

SK5333



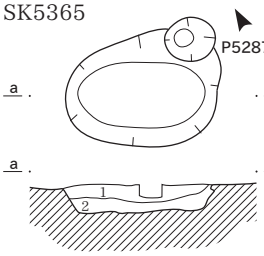
SK5333
1　10YR8/3浅黄橙色粘土　粘性強・しまり中。黒褐色粘土をブロック状に少量含。
2　10YR3/1黒褐色粘土　粘性・しまり強。浅黄橙色粘土をブロック状に少量含。
3　10YR3/1黒褐色シルト　粘性中・しまり強。浅黄橙色粘土をブロック状に多量含。

SK5360



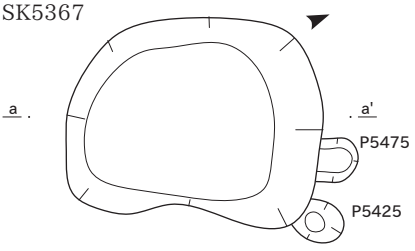
SK5360
1　10YR5/3にぶい黄褐色シルト　粘性・しまり中。浅黄色シルトをブロック状に微量含。
2　2.5Y6/4にぶい黄色シルト　粘性・しまり中。にぶい黄褐色シルトをブロック状に少量含。
3　2.5Y6/4にぶい黄色シルト　粘性・しまり中。にぶい黄褐色シルトをブロック状に微量含。

SK5365



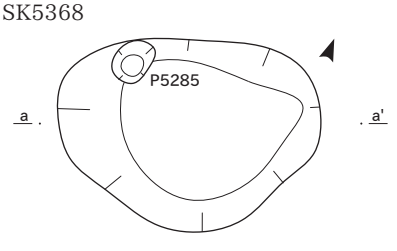
SK5365
1　10YR5/2灰黄褐色シルト　粘性・しまり中。浅黄色シルトをブロック状に少量含。径1mm以下の炭化物微量含。
2　2.5Y7/3浅黄色シルト　粘性・しまり中。灰黄褐色シルトをブロック状に少量含。

SK5367



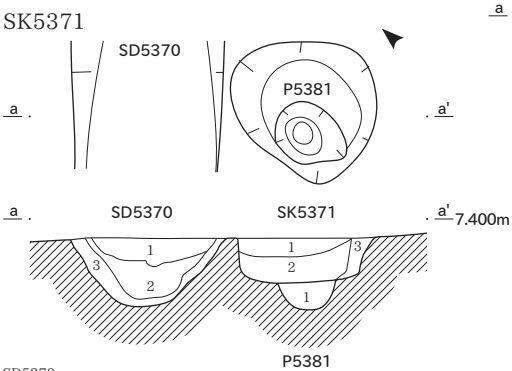
SK5367
1　10YR5/2灰黄褐色シルト　粘性・しまり中。にぶい黄橙色シルトをブロック状に、径1mm以下の炭化物多量含。
2　10YR4/2灰黄褐色シルト　粘性・しまり中。にぶい黄橙色シルトをブロック状に中量含。径1mm以下の炭化物多量含。
3　10YR4/2灰黄褐色シルト　粘性・しまり中。にぶい黄橙色シルトをブロック状に、径1mm以下の炭化物少量含。
4　10YR4/2灰黄褐色シルト　粘性・しまり中。にぶい黄橙色シルトをブロック状に中量含。径1mm以下の炭化物少量含。
5　10YR7/3にぶい黄橙色シルト　粘性・しまり中。灰黄褐色シルトをブロック状に中量含。
6　10YR5/2灰黄褐色シルト　粘性・しまり中。にぶい黄橙色シルトをブロック状に少量含。径1mm以下の炭化物多量含。
7　10YR6/3にぶい黄橙色砂質シルト　粘性やや弱・しまり中。灰黄褐色シルトをブロック状に、径1mm以下の炭化物少量含。
8　10YR6/3にぶい黄橙色粘土　粘性強・しまり中。にぶい黄橙色シルトをブロック状に少量含。

SK5368



SK5368
1　10YR5/2灰黄褐色シルト　粘性・しまり中。にぶい黄色シルトをブロック状に多量含。
2　10YR4/2灰黄褐色シルト　粘性・しまり中。にぶい黄色シルトをブロック状に微量含。
3　10YR6/2灰黄褐色砂質シルト　粘性やや弱・しまり中。にぶい黄色シルトをブロック状に多量含。

SK5371



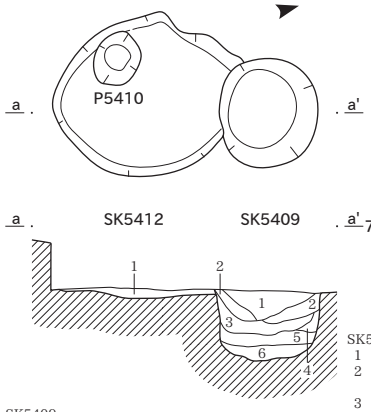
SD5370
1　10YR3/4暗褐色粘土　粘性強・しまり中。浅黄橙色シルトをブロック状に少量含。
2　10YR2/1黒色粘土　粘性強・しまり中。浅黄橙色シルトをブロック状に少量含。径5mm以下の炭化物微量含。
3　10YR3/4暗褐色シルト　粘性中・しまり強。浅黄橙色シルトをブロック状に少量含。

SK5371
1　10YR2/1黒色粘土　粘性強・しまり中。浅黄橙色シルトをブロック状に少量含。
2　10YR2/1黒色粘土　粘性強・しまり中。浅黄橙色シルトをブロック状に多量含。
3　10YR8/3浅黄橙色シルト　粘性・しまり中。黒色粘土をブロック状に少量含。

P5381
1　10YR3/1黒褐色粘土　粘性・しまり強。浅黄橙色シルトをブロック状に微量含。

0　（1：40）　2m

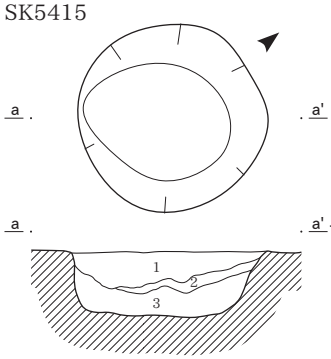
SK5409・SK5412



SK5409
1　10YR3/4暗褐色粘土　粘性・しまり強。浅黄橙色シルトをブロック状に多量含。
2　10YR3/2黒褐色粘土　粘性・しまり強。浅黄橙色シルトをブロック状に少量含。
3　10YR3/4暗褐色粘土　粘性・しまり強。浅黄橙色シルトをブロック状に微量含。
4　10YR4/4褐色粘土　粘性・しまり強。浅黄橙色シルトをブロック状に中量含。
5　10YR4/2灰黄褐色粘土　粘性・しまり強。浅黄橙色シルトをブロック状に少量含。
6　10YR5/4にぶい黄褐色粘質シルト　粘性中・しまり強。赤褐色の鉄分多量含。

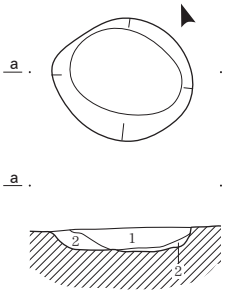
SK5412
1　10YR4/4暗褐色粘土　粘性・しまり強。浅黄橙色シルトをブロック状に少量含。径10mm以下の炭化物多量含。

SK5415



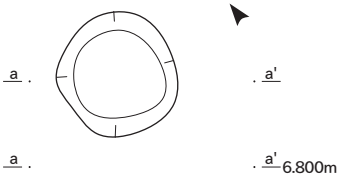
SK5415
1　10YR3/4暗褐色粘土　粘性・しまり強。浅黄橙色シルトをブロック状に、径10mm以下の炭化物多量含。
2　10YR6/2灰黄褐色粘土　粘性・しまり強。浅黄橙色シルトをブロック状に少量含。径10mm以下の炭化物微量含。
3　10YR6/1褐灰色粘土　粘性・しまり強。浅黄橙色シルトをブロック状に、径10mm以下の炭化物微量含。

SK5605



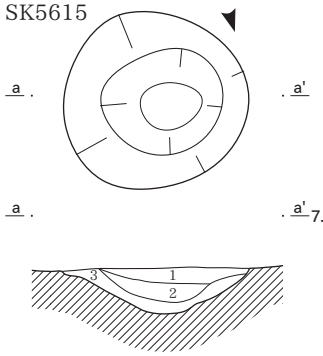
SK5605
1　10YR2/1黒色粘土　粘性・しまり強。暗オリーブ色粘土をブロック状に少量含。
2　5Y4/3暗オリーブ色粘土　粘性・しまり強。黒色粘土をブロック状に少量含。

SK5614



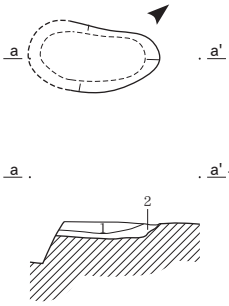
SK5614
1　5Y7/1灰白色粘質シルト　粘性やや強・しまり中。浅黄色粘質シルトをブロック状に中量含。
2　2.5Y6/1黄灰色粘質シルト　粘性やや強・しまり中。径1mm以下の炭化物微量含。

SK5615



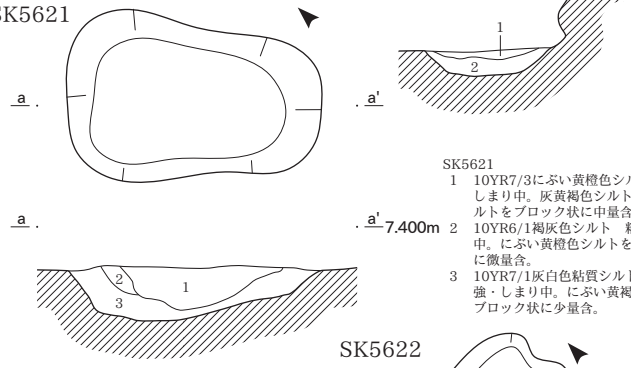
SK5615
1　10YR3/1黒褐色シルト　粘性・しまり中。浅黄橙色シルトをブロック状に、赤褐色の鉄分少量含。
2　10YR3/1黒褐色シルト　粘性・しまり中。浅黄橙色シルトをブロック状に、赤褐色の鉄分微量含。
3　10YR8/3浅黄橙色シルト　粘性・しまり中。黒褐色シルトをブロック状に微量含。

SK5616



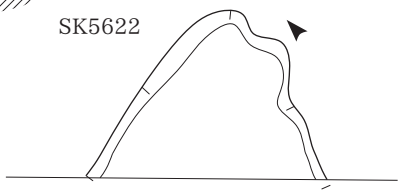
SK5616
1　10YR3/1黒褐色粘土　粘性強・しまり中。浅黄橙色粘土をブロック状に、赤褐色の鉄分少量含。
2　10YR8/2浅黄橙色粘土　粘性強・しまり中。黒褐色粘土をブロック状に微量含。

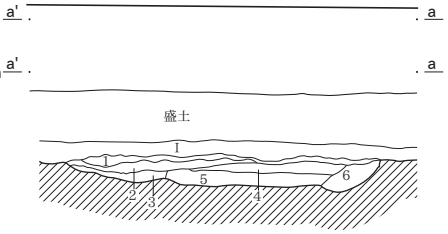
SK5621



SK5621
1　10YR7/3にぶい黄橙色シルト　粘性・しまり中。灰黄褐色シルト・褐灰色シルトをブロック状に中量含。
2　10YR6/1褐灰色シルト　粘性・しまり中。にぶい黄橙色シルトをブロック状に微量含。
3　10YR7/1灰白色粘質シルト　粘性やや強・しまり中。にぶい黄褐色シルトをブロック状に少量含。

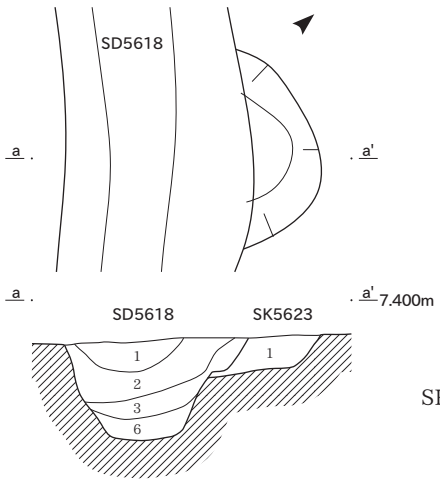
SK5622





SK5622
1　10YR6/2灰黄褐色シルト　粘性・しまり中。浅黄色シルトをブロック状に中量含。
2　10YR2/1黒色シルト　粘性・しまり中。浅黄色シルトをブロック状に中量含。
3　10YR7/2にぶい黄橙色シルト　粘性・しまり中。径1mm以下の炭化物少量含。
4　10YR6/2灰黄褐色シルト　粘性・しまり中。浅黄色シルトをブロック状に少量含。径1mm以下の炭化物微量含。
5　10YR6/1褐灰色シルト　粘性・しまり中。浅黄色シルトをブロック状に、径1mm以下の炭化物微量含。
6　10YR6/2灰黄褐色シルト　粘性・しまり中。浅黄色シルトをブロック状に多量含。

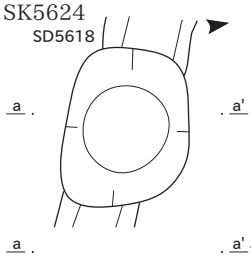
SK5623



SK5623
1　10YR7/2にぶい黄橙色シルト　粘性中・しまりやや強。にぶい黄褐色シルトをブロック状に少量含。

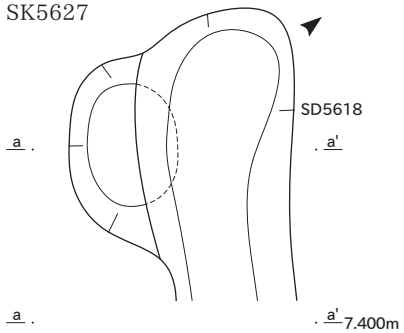
SD5618
1　10YR6/3にぶい黄橙色シルト　粘性・しまり中。浅黄色シルトをブロック状に多量含。
2　10YR5/3にぶい黄褐色シルト　粘性・しまり中。浅黄色シルト粒子を少量含。
3　10YR6/3にぶい黄橙色シルト　粘性・しまり中。浅黄色シルト粒子を多量含。
6　10YR7/4にぶい黄橙色シルト　粘性・しまり中。にぶい黄褐色シルトをブロック状に微量含。

SK5624



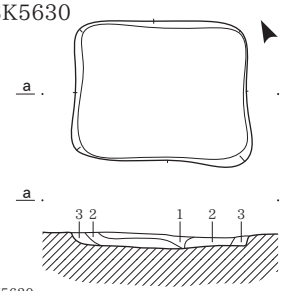
SK5624
1　10YR5/2灰黄褐色シルト　粘性・しまり中。にぶい黄橙色シルトをブロック状に中量含む。

SK5627



SK5627
1　2.5Y8/3灰白色粘質シルト　粘性やや強・しまり中。灰黄褐色シルトをブロック状に少量含。
2　10YR5/2灰黄褐色シルト　粘性・しまり中。浅黄色シルトをブロック状に少量含。
3　10YR5/1褐灰色シルト　粘性・しまり中。浅黄色シルトをブロック状に微量含。
4　10YR4/3にぶい黄褐色シルト　粘性・しまり中。にぶい黄橙色シルトをブロック状に少量含。

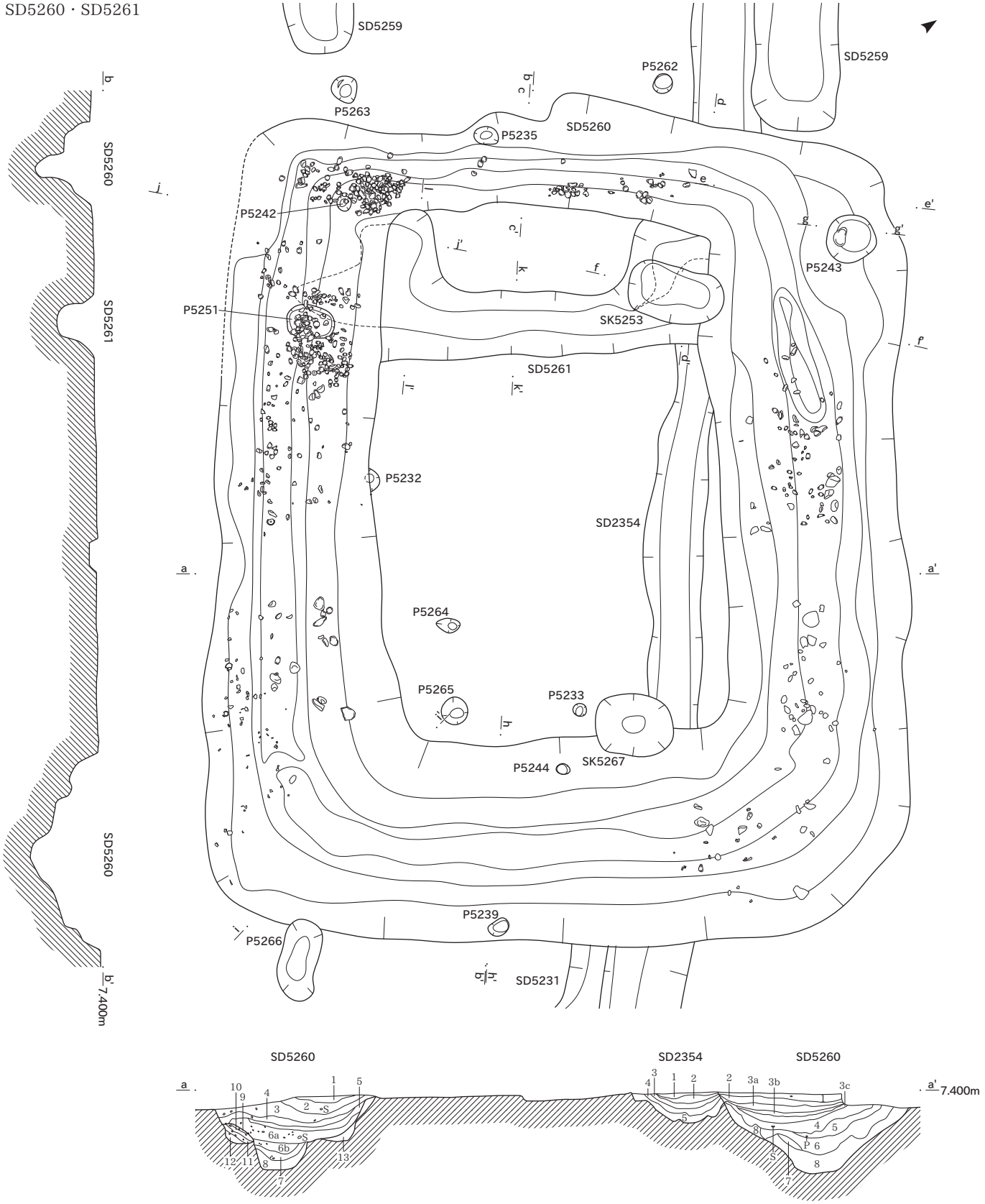
SK5630



SK5630
1　10YR2/1黒色粘土　粘性・しまり強。浅黄橙色シルトをブロック状に、径2mm以下の炭化物微量含。
2　5Y4/3暗オリーブ色粘土　粘性・しまり強。黒色粘土をブロック状に多量含。褐灰色粘土をブロック状に少量含。
3　10YR3/4褐灰色粘土　粘性・しまり強。黒色粘土をブロック状に微量含。

0　SK5622（1：60）　3m
0　その他（1：40）　2m

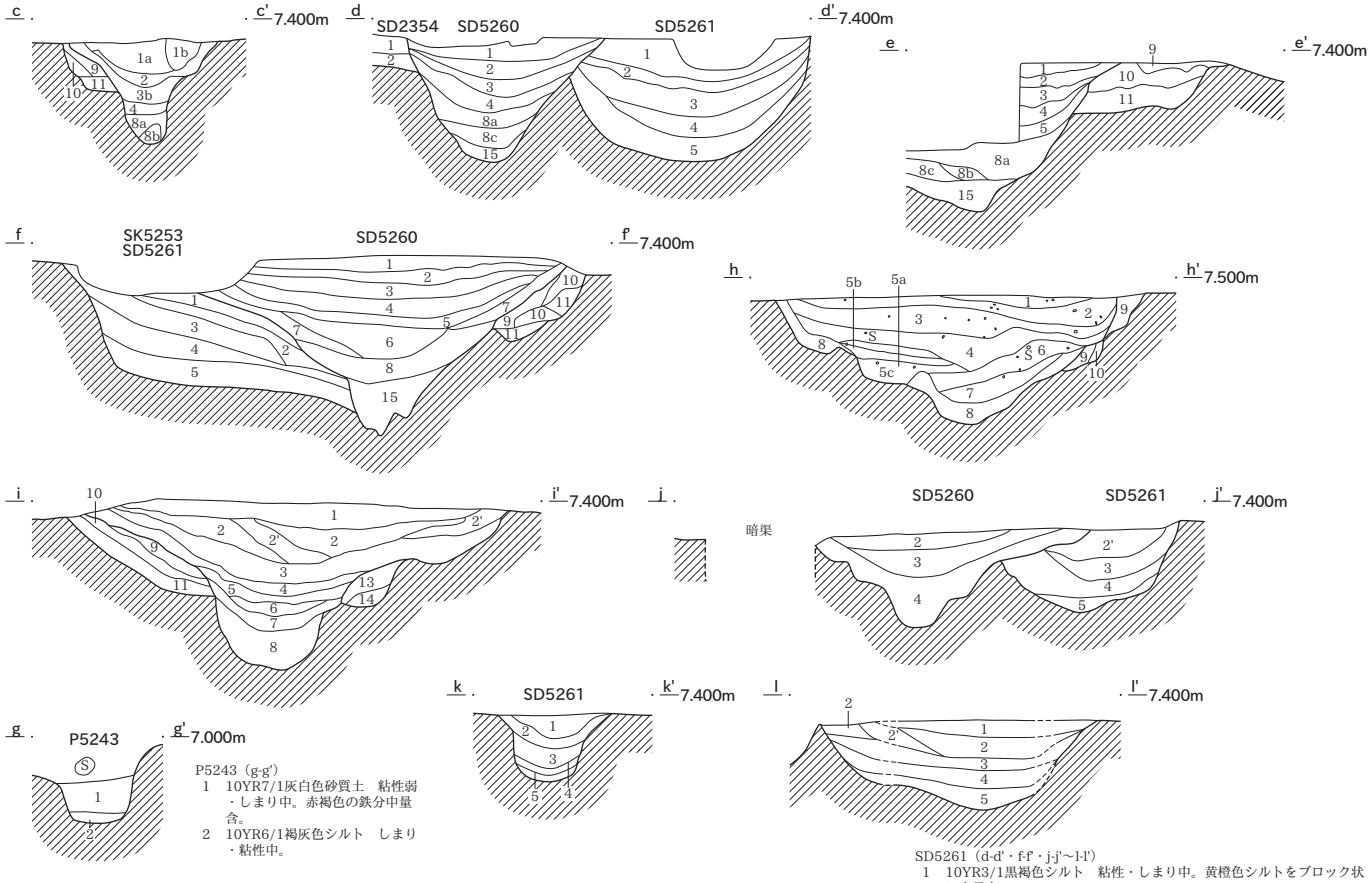
SD5260・SD5261



SD5260（a-a'～f-f'・h-h'～j-j'）

1a　10YR8/4浅黄橙色砂質シルト　粘性やや弱・しまり中。
1b　10YR6/3にぶい黄橙色シルト　粘性・しまり中。
1　10YR8/6黄橙色シルト　粘性・しまり中。灰黄褐色シルトをブロック状に中量含。
2'　2層に浅黄橙色シルトをブロック状に多量含。
3a　10YR7/3にぶい黄橙色シルト　粘性・しまり中。
3b　10YR7/3にぶい黄橙色シルト　粘性・しまり中。褐灰色シルトをブロック状に中量含。
3c　10YR7/4にぶい黄橙色シルト　粘性・しまり中。
4　10YR6/3にぶい黄橙色シルト+10YR8/6黄橙色シルト　粘性・しまり中。灰白色砂質シルトをブロック状に中量含。
5a　10YR5/2灰黄褐色シルト　粘性・しまり中。灰白色シルトをブロック状に中量含。
5b　10YR5/2灰黄褐色シルト　粘性・しまり中。灰白色砂質土をブロック状に中量含。
5c　10YR5/2灰黄褐色シルト　粘性・しまり中。灰白色砂質土をブロック状に多量含。
6a　10YR6/3にぶい黄橙色シルト　粘性・しまり中。灰白色シルトをブロック状に、径10mm以下の炭化物中量含。
6b　10YR6/3にぶい黄橙色シルト　粘性・しまり中。灰白色シルトをブロック状に多量含。径10mm以下の炭化物中量含。
7　10YR8/1灰白色砂質土　粘性弱・しまり中。褐灰色シルトをブロック状に中量含。
8a　10YR7/1灰白色砂質土+10YR7/2にぶい黄橙色シルト　粘性やや弱・しまり中。
8b　10YR5/1褐灰色シルト　粘性・しまり中。
8c　10YR7/1灰白色砂質土+10YR7/2にぶい黄橙色シルト　粘性やや弱・しまり中。褐灰色シルトをブロック状に中量含。
9　10YR8/4浅黄橙色シルト+10YR5/1褐灰色シルト　粘性・しまり中。
10　10YR4/1褐灰色シルト　粘性・しまり中。
11　10YR7/2にぶい黄橙色シルト　粘性・しまり中・
12　10YR5/1褐灰色シルト+10YR7/6明黄褐色シルト　粘性・しまり中。
13　10YR6/1褐灰色シルト　粘性・しまり中。
14　10YR6/1褐灰色シルト+10YR8/3浅黄橙色シルト　粘性・しまり中。
15　10YR7/1灰白色粘質シルト　粘性やや強・しまり中。

0　（1：80）　4m

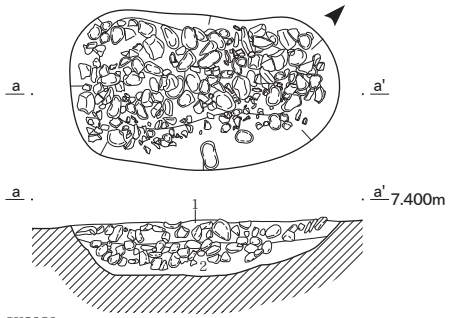


P5243（g-g'）
1　10YR7/1灰白色砂質土　粘性弱・しまり中。赤褐色の鉄分中量含。
2　10YR6/1褐灰色シルト　しまり・粘性中。

SD5261（d-d'・f-f'・j-j'～l-l'）
1　10YR3/1黒褐色シルト　粘性・しまり中。黄橙色シルトをブロック状に中量含。
1'　10YR3/1黒褐色シルト　粘性・しまり中。黄橙色シルトをブロック状に多量含。
2　10YR8/6黄橙色シルト　粘性・しまり中。黒褐色シルトをブロック状に多量含。
2'　10YR8/6黄橙色シルト　粘性・しまり中。
3　10YR6/1褐灰色シルト　粘性・しまり中。黄橙色シルトをブロック状に中量含。
4　10YR5/1褐灰色シルト　粘性・しまり中。黄橙色シルトをブロック状に中量含。
5　N7/灰白色粘質シルト　粘性やや強・しまり中。

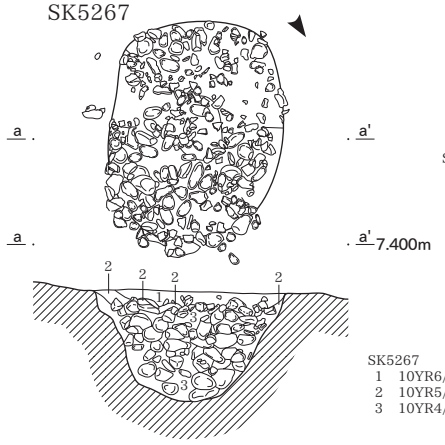
SD2354（a-a'・d-d'）
1　10YR8/3浅黄橙色砂質シルト　粘性やや弱・しまり中。
2　10YR6/3にぶい黄橙色シルト　粘性・しまり中。
3　10YR7/3にぶい黄橙色シルト　粘性・しまり中。
4　10YR6/1褐灰色粘質シルト　粘性やや強・しまり中。黄橙色シルトをブロック状に中量含。
5　10YR8/6黄橙色砂質シルト　粘性やや弱・しまり中。褐灰色シルトをブロック状に中量含。

SK5253



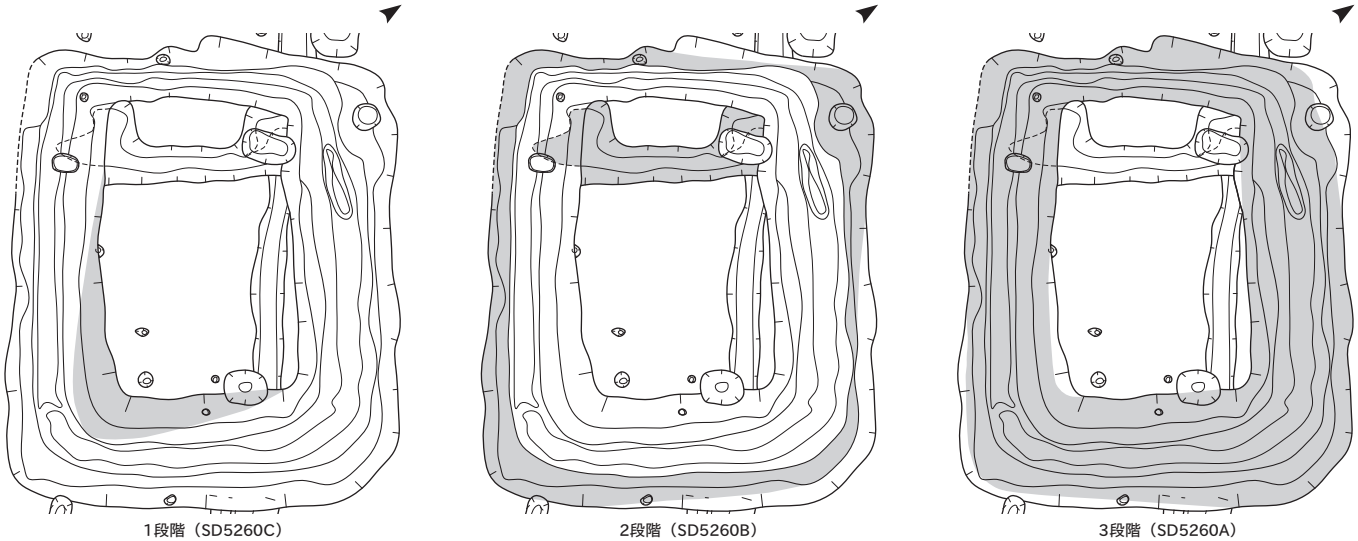
SK5253
1　10YR6/1褐灰色シルト　粘性・しまり中。赤褐色の鉄分少量含。
2　10YR4/1褐灰色シルト　粘性・しまり中。

SK5267



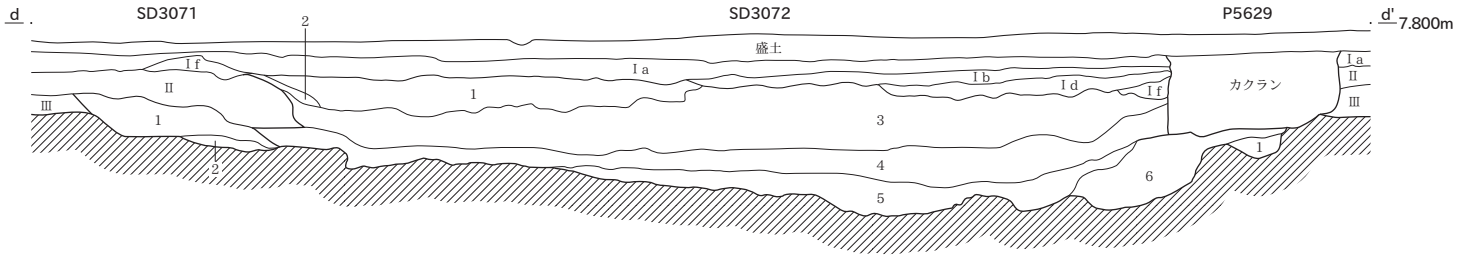
SK5267
1　10YR6/1褐灰色シルト　粘性・しまり中。赤褐色の鉄分少量含。
2　10YR5/2灰黄褐色シルト　粘性・しまり中。赤褐色の鉄分微量含。
3　10YR4/3にぶい黄褐色シルト　粘性・しまり中。赤褐色の鉄分微量含。

SD5260変遷模式図（S=1/200）



1段階（SD5260C）　2段階（SD5260B）　3段階（SD5260A）

0　SK5253・5267（1：40）　2m
0　その他（1：60）　3m

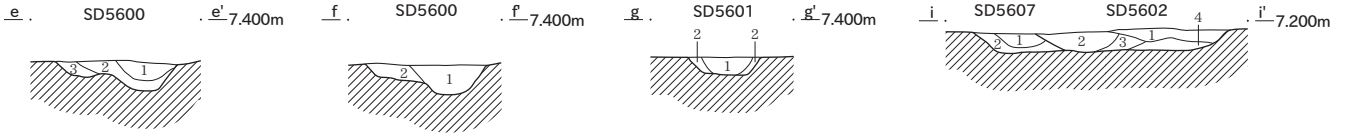


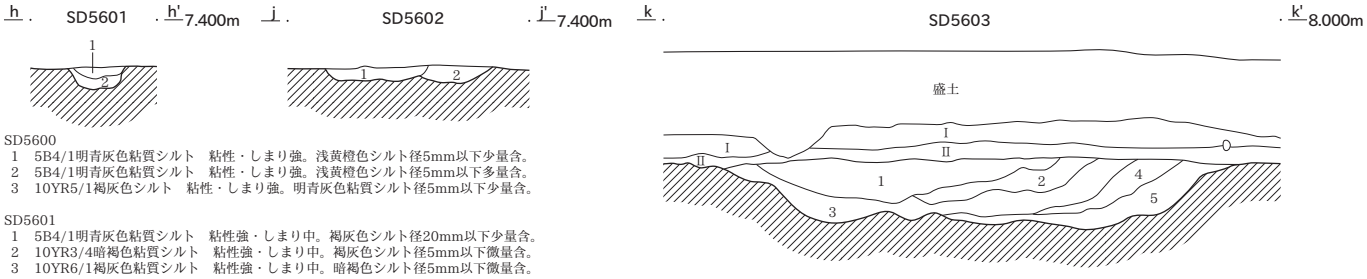
SD3071
1　10YR6/1褐灰色シルト　粘性・しまり中。灰白色シルトブロック少量、酸化鉄微量含。
2　10YR7/2にぶい黄橙色シルト　粘性・しまり中。灰白色シルトブロック多量、酸化鉄少量含。

基本層序
Ⅰa　10YR5/1褐灰色シルト　粘性・しまり中。
Ⅰd　10YR4/1褐灰色シルト　粘性・しまり強。
Ⅰf　10YR7/4にぶい黄橙色シルト　浅黄色シルトブロック少量含。
Ⅱ　10YR6/1褐灰色シルト　粘性・しまり中。
Ⅲ　10YR6/3褐灰色シルト　粘性・しまり中。
Ⅳ　2.5Y7/4浅黄色シルト　粘性・しまりやや強。

SD3072
1　10YR7/3にぶい黄橙色シルト　粘性・しまり中。浅黄色シルトブロック多量含。
2　2.5Y7/4浅黄色シルト　粘性・しまり中。褐灰色シルトブロック少量含。
3　10YR6/4にぶい黄橙色シルト　粘性・しまり中。浅黄色シルトブロック多量含。
4　10YR6/1褐灰色シルト　粘性強・しまり中。浅黄色シルトブロック少量含。
5　10YR5/1褐灰色シルト　粘性強・しまり中。浅黄色シルトブロック微量。砂粒多量含。
6　10YR6/2褐灰色シルト　粘性強・しまり中。浅黄色シルトブロック中量。

P5629
1　N6/灰色粘質シルト　粘性強・しまり中。浅黄色シルト粒子微量含。

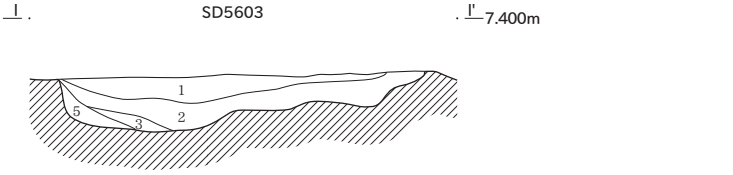




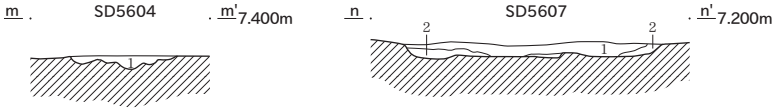
SD5600
1　5B4/1明青灰色粘質シルト　粘性・しまり強。浅黄橙色シルト径5mm以下少量含。
2　5B4/1明青灰色粘質シルト　粘性・しまり強。浅黄橙色シルト径5mm以下多量含。
3　10YR5/1褐灰色シルト　粘性・しまり強。明青灰色粘質シルト径5mm以下少量含。

SD5601
1　5B4/1明青灰色粘質シルト　粘性強・しまり中。褐灰色シルト径20mm以下少量含。
2　10YR3/4暗褐色粘質シルト　粘性強・しまり中。褐灰色シルト径5mm以下微量含。
3　10YR6/1褐灰色粘質シルト　粘性強・しまり中。暗褐色シルト径5mm以下微量含。

SD5602
1　10YR3/4暗褐色粘質シルト　粘性・しまり強。浅黄橙色シルト径5mm以下少量含。
2　10YR2/1黒色粘質シルト　粘性・しまり強。浅黄橙色シルト径5mm以下少量含。
3　10YR8/3浅黄橙色粘質シルト　粘性・しまり強。黒色シルト少量含。
4　10YR8/3浅黄橙色粘質シルト　粘性・しまり強。黒色シルト微量含。



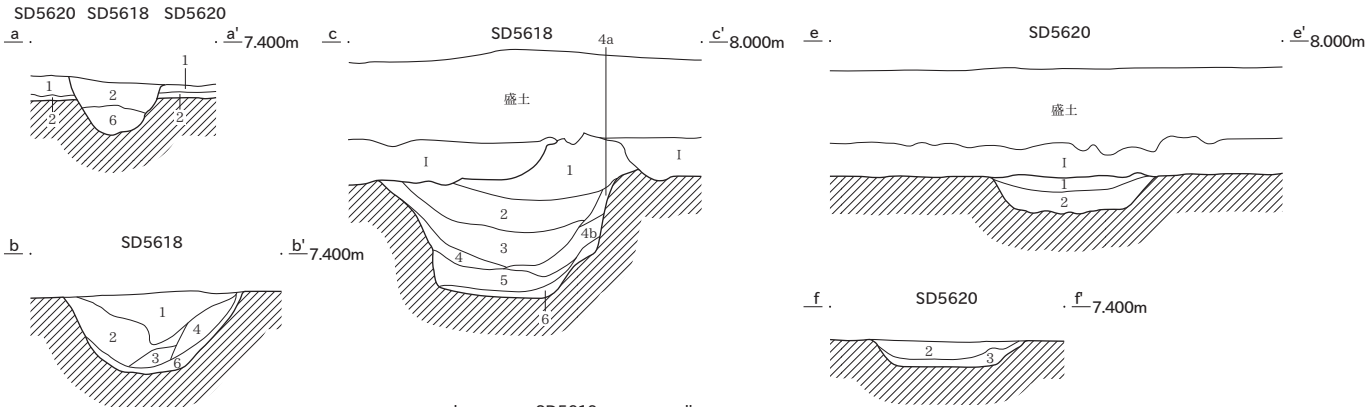
SD5603
1　10YR3/1黒褐色粘質シルト　粘性・しまり強。浅黄橙色シルト径10mm以下少量含。
2　10YR5/4にぶい黄褐色粘質シルト　粘性・しまり強。ラミナ状の黒褐色シルト多量含。炭化物径2mm以下微量含。
3　10YR4/1褐灰色粘質シルト　粘性・しまり強。浅黄橙色シルト径10mm以下微量含。
4　10YR2/1黒色粘質シルト　粘性・しまり強。浅黄橙色シルト径10mm以下少量含。
5　10YR8/4浅黄橙色粘質シルト　粘性・しまり強。黒色シルト径10mm以下多量含。



SD5604
1　5B4/1明青灰色シルト　粘性強・しまり強。褐灰色シルト径10mm以下少量含。
2　10YR6/1褐灰色シルト　粘性強・しまり強。明青灰色土径10mm以下少量含。

SD5607
1　10YR2/1黒色シルト　粘性強・しまり強。浅黄橙色シルト径5mm以下少量含。
2　10YR8/3浅黄橙色シルト　粘性強・しまり強。黒色シルト径5mm以下少量含。

図版3に対応



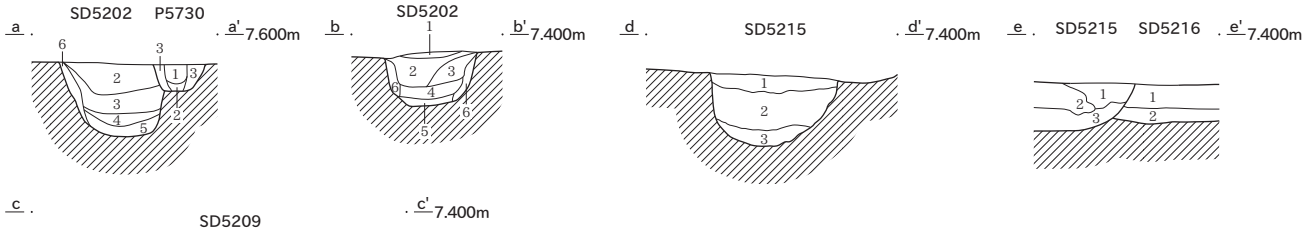
SD5618
1　10YR6/3にぶい黄橙色シルト　粘性・しまり中。浅黄色シルトブロック少量含。
2　10YR5/3にぶい黄褐色シルト　粘性・しまり中。浅黄色シルト粒子少量含。
3　10YR6/3にぶい黄橙色シルト　粘性・しまり中。浅黄色シルト粒子多量含。
4a　10YR7/3にぶい黄橙色シルト　粘性・しまり中。にぶい黄褐色土ブロックを斑状に含。
4b　10YR7/3にぶい黄橙色シルト　粘性・しまり中。にぶい黄褐色土ブロックを斑状に含。
5　10YR4/1褐灰色シルト　粘性・しまり中。浅黄色シルトブロック少量含。
6　10Y7/4にぶい黄橙色シルト　粘性・しまり中。にぶい黄褐色土ブロック微量含。

SD5619
1　10YR6/1褐灰色シルト　粘性・しまり中。にぶい黄橙色シルトブロック少量含。

SD5620
1　10YR5/2灰黄褐色シルト　粘性・しまり中。現代水田耕作土を少量含。
2　10YR5/2灰黄褐色シルト　粘性・しまり中。にぶい黄橙色シルト粒子微量含。
3　10YR5/2灰黄褐色シルト　粘性・しまり中。灰白色シルトブロックを斑状に含。

図版4に対応

0　SD3071・3072（1：80）　4m
0　その他（1：40）　2m



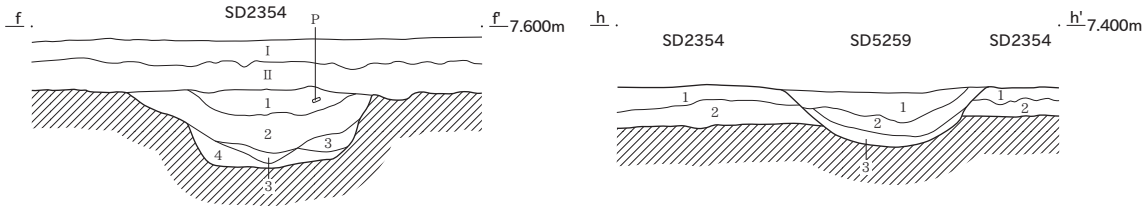
SD5202
1　10YR5/1褐灰色シルト　粘性・しまり中。にぶい黄橙色シルトブロック微量含。
2　10YR5/1褐灰色シルト　粘性・しまり中。にぶい黄橙色シルトブロック少量含。
3　10YR6/2灰黄褐色シルト　粘性・しまり中。にぶい黄橙色シルトブロック多量含。
4　10YR4/1褐灰色粘質シルト　粘性強・しまり中。にぶい黄橙色シルトブロック多量含。
5　10YR6/2灰黄褐色シルト　粘性・しまり中。にぶい黄橙色シルトブロック少量含。
6　10YR6/4にぶい黄橙色砂質シルト　粘性弱・しまり中。褐灰色シルトブロック少量含。

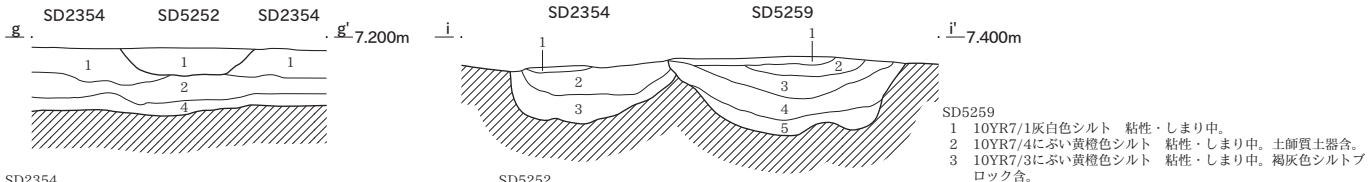
P5730
1　10YR4/1褐灰色シルト　粘性・しまり中。にぶい黄橙色シルトブロック少量含。
2　10YR4/2灰黄褐色シルト　粘性・しまり中。にぶい黄橙色シルトブロック多量含。
3　10YR6/4にぶい黄橙色シルト　粘性・しまり中。褐灰色シルトブロック少量含。

SD5209
1　10YR6/1褐灰色シルト　粘性・しまり中。灰白色シルトブロック少量含。
2　10YR5/1褐灰色シルト　粘性・しまり中。灰白色シルトブロック少量含。
3　10YR5/1褐灰色シルト　粘性・しまり中。灰白色シルトブロック少量含。酸化鉄の沈着あり。
4　10YR6/1褐灰色シルト　粘性・しまり中。
5　10YR6/2灰黄褐色シルト　粘性・しまり中。
6　N6/灰色粘質シルト　粘性やや強・しまり中。
7　10YR8/1灰白色砂質シルト　粘性やや弱・しまり中。酸化鉄の沈着あり。
8　N6/灰色粘質シルト　粘性やや強・しまり中。

SD5215
1　10YR7/2にぶい黄橙色シルト　粘性・しまり中。
2　10YR6/2灰黄褐色シルト　粘性・しまり中。炭化物含。
3　10YR5/3灰黄褐色シルト　粘性・しまり中。炭化物少量含。

SD5216
1　10YR7/2にぶい黄橙色シルト　粘性・しまり中。
2　10YR6/4にぶい黄橙色シルト　粘性・しまり中。



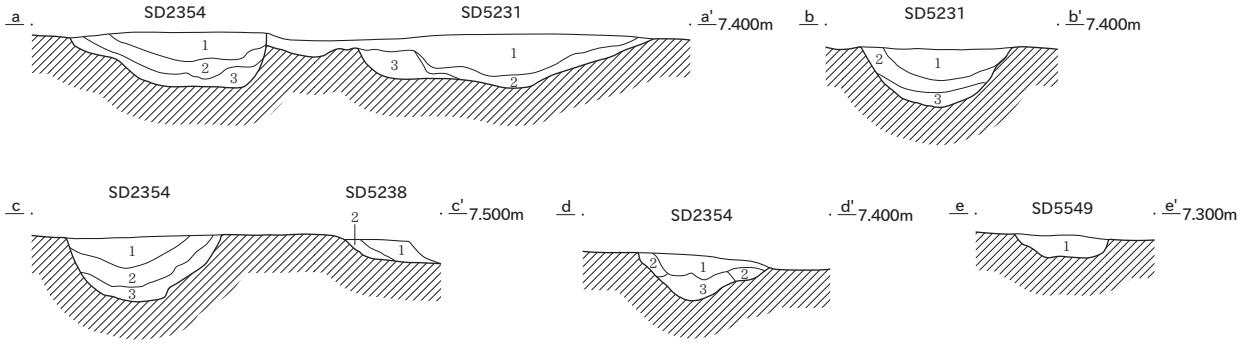


SD2354
1　10YR8/2灰白色シルト　粘性・しまり中。
2　10YR7/2にぶい黄橙色シルト　粘性・しまり中。酸化鉄含。
3　10YR6/1褐灰色シルト　粘性・しまり中。浅黄橙色砂質シルトブロック含。
4　10YR6/1褐灰色シルト　粘性・しまり中。黄橙色シルトブロック含。

SD5252
1　10YR6/3にぶい黄橙色シルト　粘性やや弱・しまり中。やや砂質。

SD5259
1　10YR7/1灰白色シルト　粘性・しまり中。
2　10YR7/4にぶい黄橙色シルト　粘性・しまり中。土師質土器含。
3　10YR7/3にぶい黄橙色シルト　粘性・しまり中。褐灰色シルトブロック含。
4　10YR7/6明黄褐色シルト　粘性・しまり中。褐灰色シルトブロック含。
5　10YR8/6黄橙色シルト　粘性・しまり中。褐灰色シルトブロック含。

図版5に対応



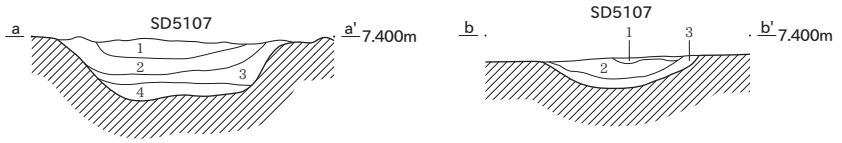
SD2354
1　10YR3/1黒褐色粘質シルト　粘性・しまり中。径10mm以下の浅黄橙色シルト・炭化物径2mm以下微量含。
2　10YR3/1黒褐色粘質シルト　粘性・しまり中。径10mm以下の浅黄橙色シルト少量、炭化物径2mm以下微量含。
3　10YR8/3浅黄橙色シルト　粘性・しまり中。黒褐色土径30mm以下少量、炭化物径2mm以下微量含。

SD5231
1　7.5YR2/1黒色粘質シルト　粘性強・しまり中。浅黄橙色シルト径20mm以下少量、炭化物径2mm以下微量含。
2　7.5YR2/1黒色粘質シルト　粘性強・しまり中。黒褐色シルト径20mm以下少量、炭化物径2mm以下微量含。
3　7.5YR8/3浅黄橙色シルト　粘性・しまり中。黒褐色シルト径20mm以下少量含。

SD5238
1　10YR3/4暗褐色粘質シルト　粘性強・しまり中。浅黄橙色シルト・炭化物径2mm以下微量含。
2　10YR3/4暗褐色粘質シルト　粘性強・しまり中。浅黄橙色シルト径2mm以下中量。炭化物2mm以下微量含。
3　10YR3/4暗褐色粘質シルト　粘性強・しまり中。黒色シルト径30mm以下多量。炭化物2mm以下微量含。

SD5549
1　10YR5/1褐灰色シルト　粘性・しまり中。径5mm以下の炭化物中量含。

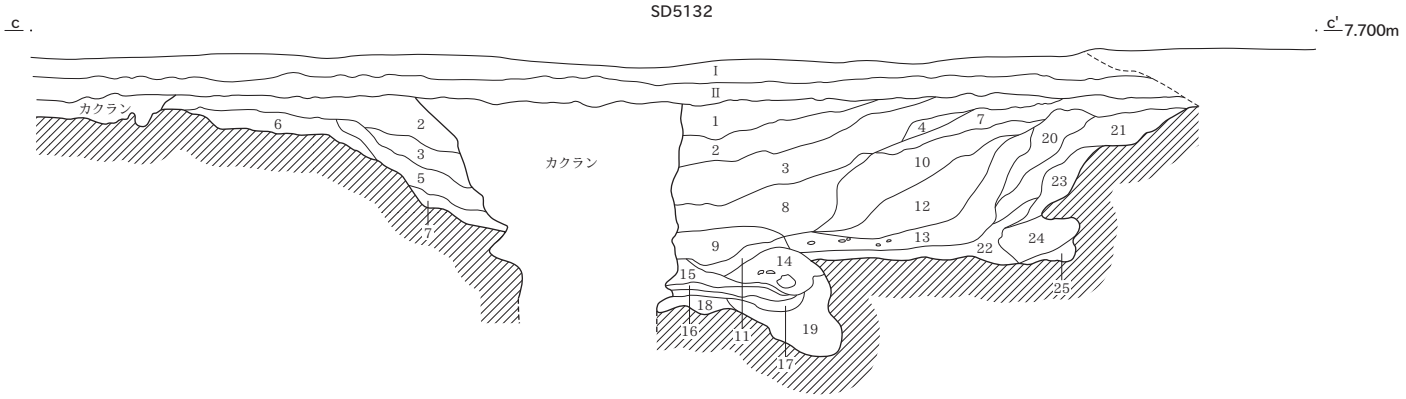
図版6に対応



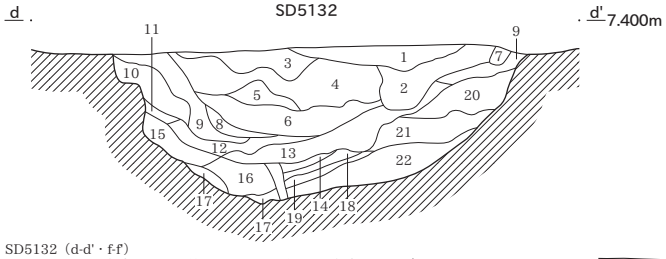
SD5107
1　10YR3/4暗褐色シルト　粘性・しまり中。浅黄橙色シルト・炭化物微量含。
2　10YR8/3浅黄橙色粘質シルト　粘性強・しまり中。酸化鉄少量、暗褐色シルト微量含。
3　10YR8/3浅黄橙色シルト　粘性中・しまり強。酸化鉄微量含。
4　10YR8/3浅黄橙色シルト　粘性中・しまり強。褐灰色シルト中量含。

図版7に対応

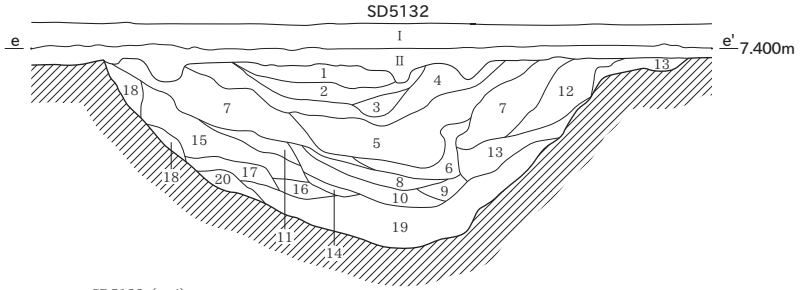
0　(1：40)　2m



SD5132（c-c'）
1　10YR3/1黒褐色シルト　粘性弱・しまり強。土師器細片含。
2　10YR3/1黒褐色シルト　粘性弱・しまり強。径1mm以下炭化物少量、土師器細片含。
3　10YR3/1黒褐色シルト　粘性弱・しまり強。灰色シルトブロック微量、径3mm以下炭化物微量含。土器細片含む。
4　10YR3/1黒褐色シルト　粘性弱・しまり強。
5　10YR3/1黒褐色シルト　粘性弱・しまり強。にぶい黄橙色シルトブロック・径3mm以下炭化物微量含。
6　10YR3/1黒褐色シルトと10YR7/2にぶい黄橙色シルトのブロック混合土。粘性弱・しまり強。
7　10YR4/2にぶい黄褐色シルトと2.5YR5/3黄褐色シルトのブロック混合土。粘性弱・しまり強。
8　7.5Y4/1褐灰色シルト　粘性やや強・しまり中。斑に灰色シルト多量、径3mm以下炭化物微量、土師器細片含。
9　7.5Y4/1褐灰色シルトと7.5YR3/2黒褐色シルトとN7/灰色シルトのブロック混合土。粘性やや強、しまり強。
10　10YR3/2黒褐色シルト10YR6/4にぶい黄橙色シルトのブロック混合土。粘性やや強、しまり強。・径3mm以下炭化物微量含。土師器出土。
11　7.5Y4/1褐灰色シルトとN7/灰色シルトのブロック混合土。粘性やや強、しまり弱。
12　10YR4/1褐灰色シルト　粘性やや強、しまり弱。土壌化した炭多量。土師質土器出土。
13　10YR4/1褐灰色シルトと10YR6/1褐色シルトのブロック混合土。粘性やや強、しまり弱。土壌化した炭・灰多量、腐食土少量含。土師質土器が層の堆積に沿ってほぼ水平に出土。
14　10YR4/1褐灰色シルトと10YR6/1褐色シルトのブロック混合土。粘性やや強、しまり弱。土壌化した炭多量、灰少量含。土師質土器出土。
15　7.5Y4/1褐灰色シルトと7.5YR3/2黒褐色シルトとN7/灰色シルトのブロック混合土。粘性やや弱、しまり強。灰色シルトの割合が高い。
16　10YR4/1褐灰色シルトと10YR3/1黒褐色シルトと10YR4/3にぶい黄褐色シルトのブロック混合土。粘性やや弱・しまり強。酸化鉄含。
17　N4/灰色粘質シルトと5BP7/1明青灰色粘質シルトのブロック混合土。粘性強・しまりやや弱。径5mm以下炭化物微量。
18　10YR5/1褐灰色シルトと2.5Y7/3浅黄色シルトのブロック混合土。粘性やや弱・しまり強。
19　N4/灰色粘質シルトと2.5Y7/3浅黄色シルトのブロック混合土。灰色シルトは粘性やや強・しまり弱。浅黄色シルトは粘性弱・しまり強。細砂多量含。
20　10YR5/2灰黄褐色シルトと10YR7/3にぶい黄橙色シルトブロックの混合土。粘性やや弱・しまり強。
21　2.5Y5/3黄褐色シルトと10YR4/2にぶい黄褐色シルトブロックの混合土。粘性弱・しまり強。黄褐色シルトの割合が高い。
22　10YR5/2灰黄褐色シルトと10YR7/3にぶい黄橙色砂質シルトのブロック混合土。粘性やや弱・しまり強。
23　10YR5/2灰黄褐色シルトと10YR7/3にぶい黄橙色シルトのブロック混合土。粘性やや弱・しまり強。
24　N7/灰色粘質シルトと2.5Y8/1灰白色粘質シルトのブロック混合土。粘性・しまり強。
25　N8/灰白色粘質シルト　粘性強、しまりやや強。黄灰色粘質シルトブロック微量含。



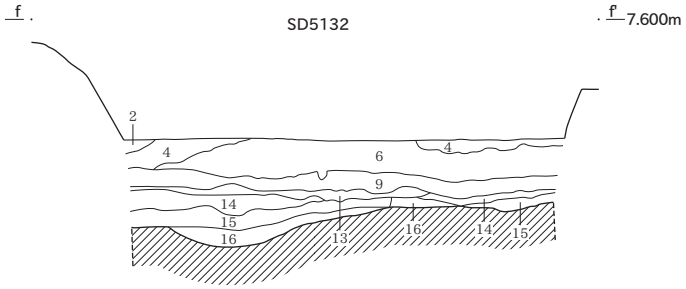
SD5132（d-d'・f-f'）
1　10YR3/2黒褐色シルト　粘性弱・しまり強。灰黄褐色シルトブロック少量、にぶい黄橙色シルトブロック微量含。
2　10YR3/2黒褐色シルト　粘性弱・しまり強。灰黄褐色シルトブロック少量含。
3　10YR5/2灰黄褐色シルトと10YR7/4にぶい黄橙色シルトのブロック混合土。粘性弱・しまり強。
4　10YR5/2灰黄褐色シルトと10YR7/6明黄褐色シルトのブロックの混合土。粘性弱・しまり強。径5mm以下炭化物微量含。
5　10YR7/4にぶい黄橙色シルト　粘性弱・しまり強。灰黄褐色シルトブロック・細砂微量含。
6　10YR7/4にぶい黄橙色シルト　粘性弱・しまり強。灰黄褐色シルトブロック・径5mm以下炭化物・細砂・土師器細片微量含。
7　10YR3/2黒褐色シルト　粘性弱・しまり強。灰白色シルトブロック微量含。
1　10YR4/2灰黄褐色シルト　粘性弱・しまり強。
2　10YR4/2灰黄褐色シルト　粘性弱・しまり強。径10mm以下炭化物微量含。
3　10YR5/2灰黄褐色シルトと10YR7/6明黄褐色シルトブロックの混合土。径5mm以下の炭化物、土師器細片微量含。粘性弱・しまり中。
4　10YR7/4にぶい黄橙色シルト　粘性弱・しまり強。細砂微量含。
5　10YR3/2黒褐色シルト　粘性やや強・しまり中。にぶい黄橙色シルトのブロック斑に含。径5mm以下炭化物・土師器細片微量含。
6　10YR3/2黒褐色シルト　粘性やや強・しまり強。斑に暗褐色シルト多量、径3mm以下炭化物・土師器細微量含。自然礫含。
7　10YR3/2黒褐色シルト　粘性強・しまり弱。灰白色シルトブロック微量含。
8　10YR4/2灰黄褐色シルト　粘性・しまりやや強。にぶい黄褐色シルトとにぶい黄橙色シルトを斑に少量、径3mm以下炭化物微量含。
9　10YR6/4にぶい黄橙色砂質シルト　粘性弱・しまり強。
10　10YR6/4にぶい黄橙色砂質シルト　粘性弱・しまり強。16層に類似。地山よりも色調がやや暗い。
11　10YR4/2灰黄褐色シルト　粘性・しまりやや強。
12　10YR3/2黒褐色シルト　粘性強・しまり弱。径5mm以下の炭化物少量含。
13　10YR7/6明黄褐色シルト　粘性弱・しまり強。黒褐色シルト少量、径5mm以下の炭化物・細砂微量含。
14　10YR7/6明黄褐色シルト　粘性弱・しまり強。斑に黒褐色シルト・径10mm以下の炭化物・細砂微量含。
15　10YR8/1灰白色シルト　粘性弱・しまり強。酸化により明黄褐色に変色しつつある。地山に比して灰白色が多い。
16　10YR4/1褐灰色シルトと10YR3/1黒褐色シルトと10YR4/3にぶい黄褐色シルトのブロック混合土。粘性やや弱・しまり強。酸化鉄含。
17　N4/灰色粘質シルトと5BP7/1明青灰色粘質シルトのブロック混合土。粘性強・しまりやや弱。径5mm以下炭化物微量。
18　10YR5/1褐灰色シルトと2.5Y7/3浅黄色シルトのブロック混合土。粘性やや弱・しまり強。
19　N4/灰色粘質シルトと2.5Y7/3浅黄色シルトのブロック混合土。灰色シルトは粘性やや強・しまり弱。浅黄色シルトは粘性弱・しまり強。細砂多量含。
20　10YR5/2灰黄褐色シルトと10YR7/3にぶい黄橙色シルトブロックの混合土。粘性やや弱・しまり強。
21　2.5Y5/3黄褐色シルトと10YR4/2にぶい黄褐色シルトブロックの混合土。粘性弱・しまり強。黄褐色シルトの割合が高い。
22　10YR5/2灰黄褐色シルトと10YR7/3にぶい黄橙色砂質シルトのブロック混合土。粘性やや弱・しまり強。

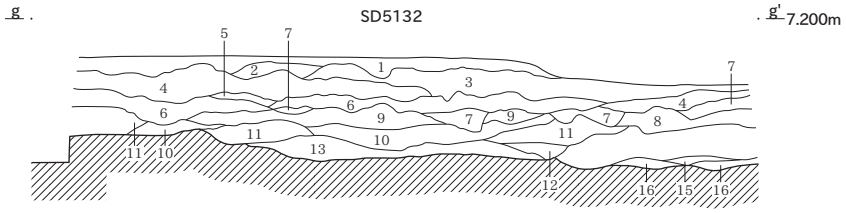


SD5132（e-e'）
1　7.5YR3/1黒褐色シルト　粘性弱・しまり強。径5mm以下炭化物少量含。
2　7.5YR2/1黒色シルトと7.5YR3/1黒褐色シルトブロックの混合土。粘性弱・しまり強。径3mm以下の炭化物少量含。
3　7.5YR3/1シルトと7.5YR5/2灰褐色シルトブロックの混合土。粘性弱・しまり強。径1mm以下の炭化物微量含。
4　7.5YR5/2灰褐色シルト　粘性弱・しまり強。径1mm以下の炭化物微量、土師質土器細片含。
5　7.5YR5/2灰褐色シルト　粘性弱・しまり強。径1mm以下の炭化物微量、土師質土器細片含。
6　7.5YR4/1灰褐色シルトと10YR4/1灰褐色シルトをブロック状に含む。粘性やや弱・しまり強。径3mm以下の炭化物微量含。
7　7.5YR5/2灰褐色シルト　粘性弱・しまり強。径3mm以下の炭化物、炭化した植物遺体微量、土師質土器細片含。
8　10YR4/1褐灰色シルトと7.5YR4/1褐灰色シルトをブロック状に含む。粘性やや弱・しまり強。褐灰色シルトの割合が高く、6層に比してわずかに明るい色調。
9　10YR4/1褐灰色シルトと7.5YR4/1褐灰色シルトと10YR6/3にぶい黄橙色シルトをブロック状に含む。粘性やや強・しまり強。
10　9層に類似するが、しまりは弱く、細砂を微量　含。
11　10YR4/1褐灰色シルトと7.5YR4/1褐灰色シルトと10YR8/3浅黄橙色シルトをブロック状に含む。粘性やや弱、しまり中。径1mm以下の炭化物微量含。
12　10YR5/1褐灰色シルトと10YR7/4にぶい黄橙色シルトをブロック状に含む。径3mm以下の炭化物微量含。
13　12層に類似するが炭化物を含まない。
14　2.5Y7/2灰黄色シルトと2.5Y8/2灰白色シルトのブロック混合土。粘性やや強、しまり強。
15　10YR5/1褐灰色シルトと10YR7/4にぶい黄橙色シルトのブロック混合土。粘性弱・しまり中。
16　2.5Y7/2灰黄色シルトと2.5Y8/2灰白色シルトのブロック混合土。粘性やや強・しまり弱。
17　10YR7/4にぶい黄橙色シルト　粘性やや強・しまり中。
18　7.5YR3/1黒褐色シルトと10YR7/4にぶい黄橙色シルトのブロック混合土。粘性やや強、しまり強。
19　10YR6/4にぶい黄橙色砂質シルト　粘性弱・しまり中。
20　2.5Y7/2灰黄色シルトと2.5Y8/2灰白色シルトのブロック混合土。粘性やや強・しまり強。

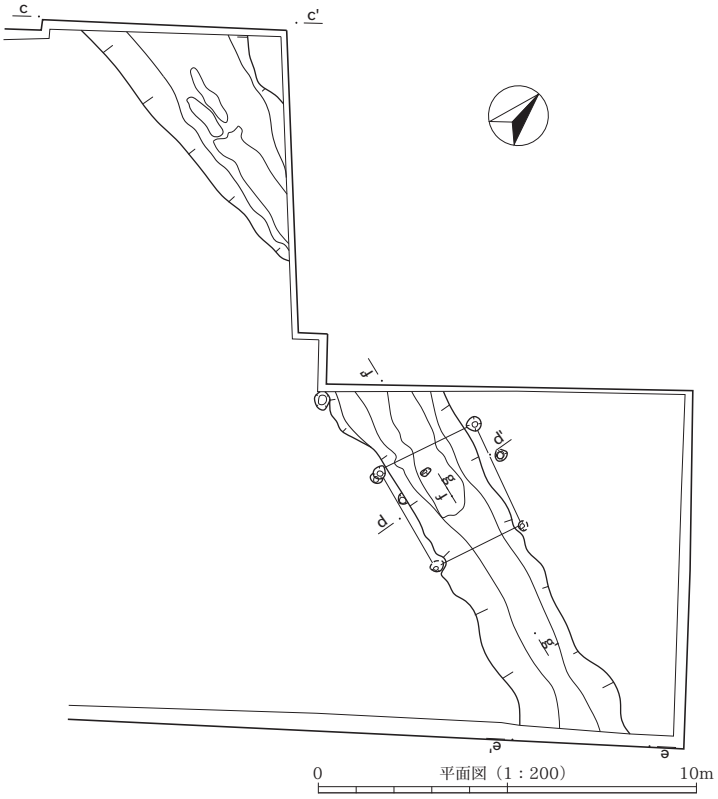
図版7に対応

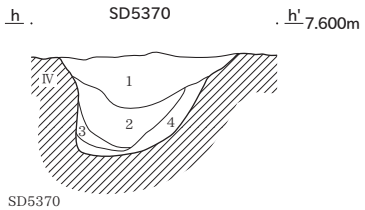
0　（1：40）　2m

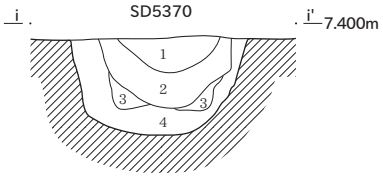


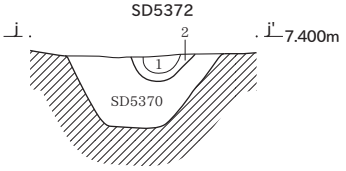


SD5132（g-g'）
1　10YR3/1黒褐色シルト　粘性弱・しまり強。
2　10YR3/2黒褐色シルト　粘性弱・しまり強。
3　7.5YR3/1黒褐色シルト　粘性弱・しまり強。
4　10YR3/2黒褐色シルト　粘性弱・しまり強。斑状の褐灰色シルト少量含。
5　7.5YR4/1褐灰色シルト　粘性弱・しまり強。扁平な褐灰色シルトブロック少量、径3mm以下の炭化物微量含。
6　7.5YR4/1褐灰色シルト　粘性弱・しまり強。径10mm以下の炭化物微量含。
7　7.5YR4/1褐灰色シルト　粘性やや弱・しまり中。浅黄橙色シルトブロック少量、径10mm以下の炭化物微量含。
8　10YR3/3暗褐色シルト　粘性やや弱・しまり中。径1mm以下の炭化物微量、土師器細片含。
9　10YR7/4にぶい黄橙色シルトと10YR5/2灰黄褐色シルトのブロック混合土。にぶい黄橙色シルトの割合が高い。粘性やや強・しまり中。
10　10YR5/2灰黄褐色シルトと10YR7/4にぶい黄橙色シルトのブロック混合土。灰黄褐色シルトの割合が高い。粘性やや強・しまり中。
11　10YR7/4にぶい黄橙色シルト　粘性弱・しまり中。斑状の褐灰色シルト含。
12　7.5YR4/1褐灰色シルトと7.5YR8/1灰白色シルトのブロック混合土。粘性やや強・しまり中。
13　10YR6/4にぶい黄橙色砂質シルト　粘性弱・しまり中。
14　10YR2/1黒色シルトと7.5YR4/1褐灰色シルトと7.5YR8/1灰白色シルトのブロック混合土。粘性やや弱・しまり強。径10mm以下の炭化物微量、細砂少量含。
15　7.5YR5/1褐灰色シルトと10YR8/2灰白色シルトのブロック混合土。粘性やや弱・しまり中。細砂多量含。
16　7.5YR2/1黒褐色シルトと10YR8/2灰白色シルトのブロック混合土。粘性・しまりやや強。細砂少量含。



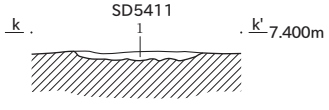


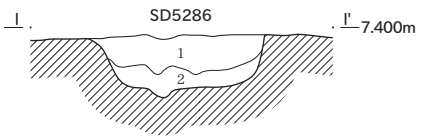




SD5370
1　10YR3/4暗褐色粘質シルト　粘性強・しまり中。浅黄橙色シルト径2mm以下少量含。
2　10YR2/1黒色粘質シルト　粘性強・しまり中。浅黄橙色シルト径5mm以下少量、炭化物径5mm以下微量含。
3　10YR3/4暗褐色シルト　粘性中・しまり強。浅黄橙色シルト径5mm以下少量、炭化物径5mm以下微量含。
4　10YR8/3浅黄橙色シルト　粘性中・しまり強。炭化物径5mm以下微量含。

SD5372
1　10YR2/1黒褐色粘質シルト　粘性・しまり強。浅黄橙色シルト・炭化物微量含。
2　10YR8/3浅黄橙色シルト　粘性中・しまり強。炭化物微量含。





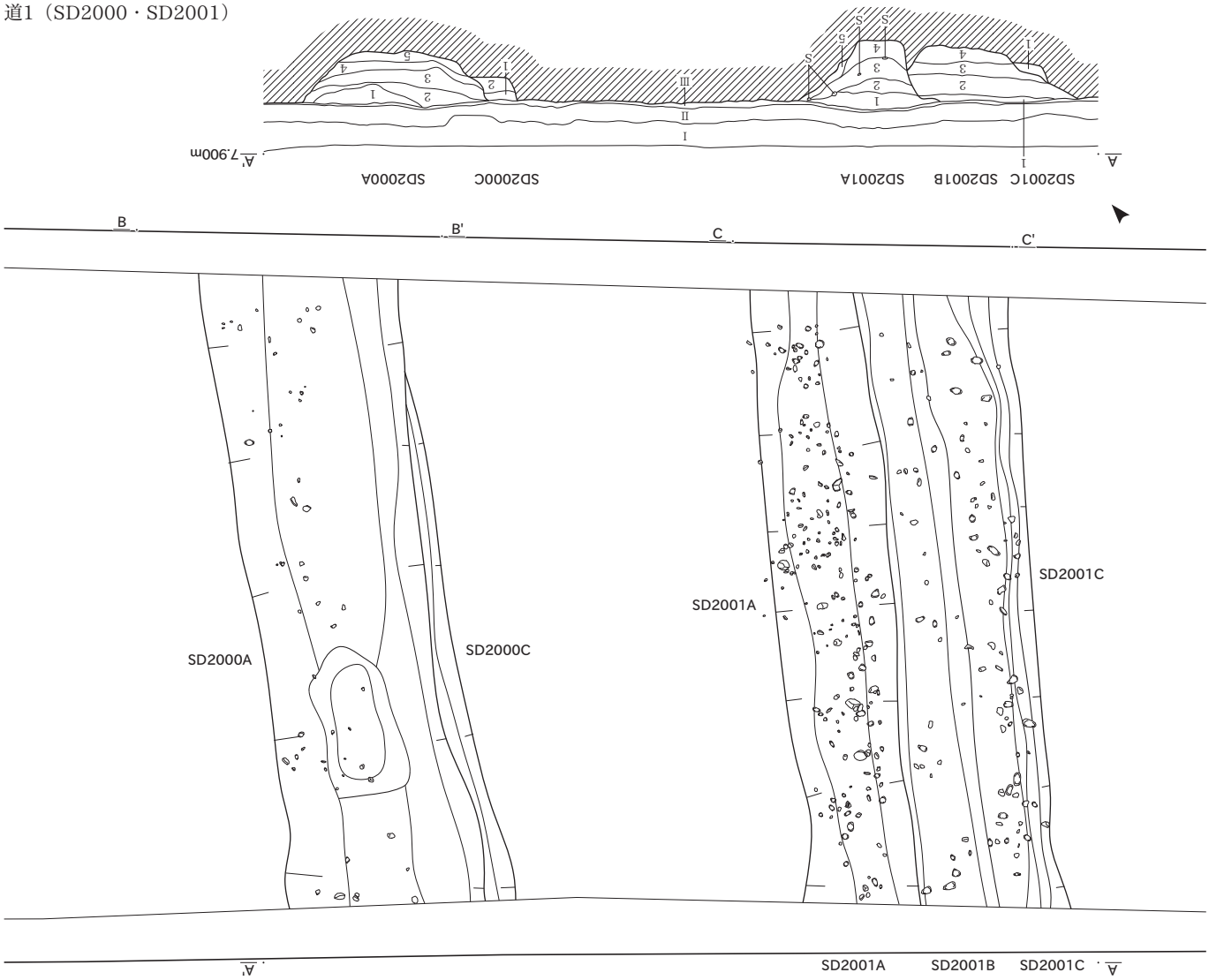
SD5411
1　10YR4/4暗褐色シルト　粘性・しまり強。浅黄橙色シルト・炭化物径2mm以下微量含。

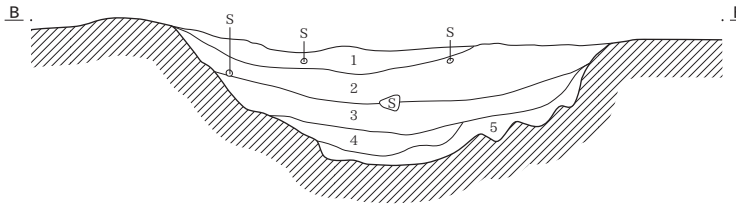
SD5286
1　10YR5/1褐灰色シルト　粘性・しまり中。にぶい黄褐色シルト微量含。
2　10YR7/4にぶい黄橙色シルト　粘性・しまり中。褐灰色シルトブロック少量含。

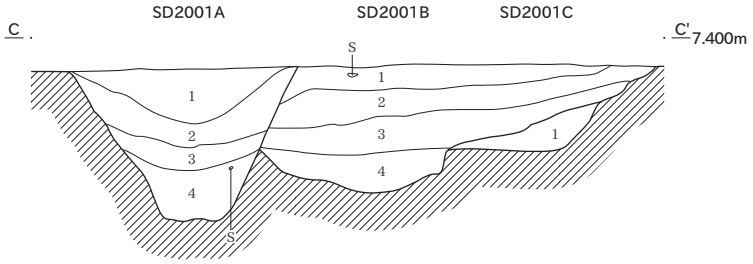
図版7に対応

0　断面図（1：40）　2m

道1（SD2000・SD2001）







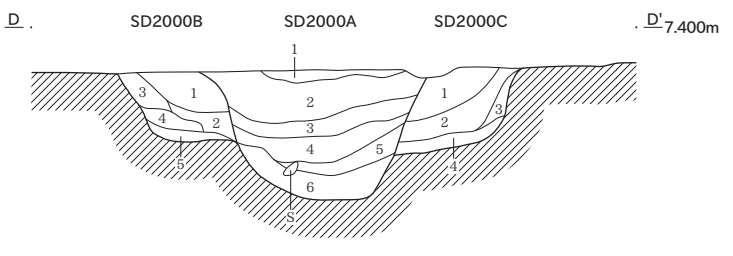
SD2000A（A-A'・B-B'）
1　10YR4/1褐灰色シルト　粘性・しまり中。
2　10YR5/1褐灰色シルト　粘性・しまり中。赤褐色の鉄分少量含。
3　10YR6/1褐灰色シルト　粘性・しまり中。
4　10YR7/1灰白色シルト　粘性・しまり中。
5　10YR6/1褐灰色シルト　粘性・しまり中。浅黄橙色シルトをブロック状に中量含。赤褐色の鉄分多量含。

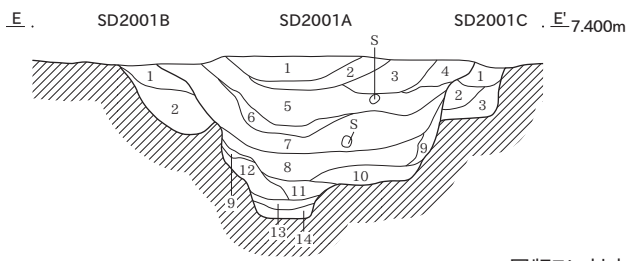
SD2000C（A-A'）
1　10YR8/1灰白色シルト　粘性・しまり中。
2　10YR4/2灰黄褐色シルト　粘性・しまり中。浅黄橙色シルトをブロック状に中量含。

SD2001A（A-A'・C-C'）
1　10YR4/1褐灰色シルト　粘性・しまり中。
2　10YR5/1褐灰色シルト　粘性・しまり中。赤褐色の鉄分少量含。
3　10YR6/1褐灰色シルト　粘性・しまり中。
4　10YR7/1灰白色シルト　粘性・しまり中。
5　10YR8/4浅黄橙色シルト　粘性・しまり中。褐灰色シルトをブロック状に、赤褐色の鉄分多量含。

SD2001B（A-A'・C-C'）
1　10YR5/1褐灰色シルト　粘性・しまり中。赤褐色の鉄分中量含。
2　10YR6/1褐灰色シルト　粘性・しまり中。
3　10YR5/1褐灰色シルト　粘性・しまり中。径10mm以下の炭化物、赤褐色の鉄分中量含。
4　10YR4/1褐灰色シルト　粘性・しまり中。

SD2001C（A-A'・C-C'）
1　10YR4/2灰黄褐色シルト　粘性・しまり中。浅黄橙色シルトをブロック状に中量含。





図版7に対応

0　平面図・断面図A-A'（1：80）　4m
0　その他（1：40）　2m

SD2000A（D-D'）
1　10YR6/3にぶい黄橙色シルト　粘性・しまり中。浅黄色シルト粒微量含。
2　10YR5/3にぶい黄褐色シルト　粘性・しまり中。浅黄色シルト粒少量含。
3　10YR5/2灰黄褐色シルト　粘性・しまり中。浅黄色シルトをブロック状に少量含。
4　10YR6/1褐灰色粘質シルト　粘性やや強・しまり中。浅黄色シルトをブロック状に少量含。
5　10YR6/2灰黄褐色粘質シルト　粘性やや強・しまり中。浅黄色シルトをブロック状に少量含。
6　10YR6/3にぶい黄橙色粘質シルト　粘性やや強・しまり中。浅黄色シルト・褐灰色シルトをブロック状に多量含。

SD2000B（D-D'）
1　10YR6/3にぶい黄橙色シルト　粘性・しまり中。浅黄色シルトをブロック状に中量含。
2　10YR5/2灰黄褐色シルト　粘性・しまり中。浅黄色シルト粒微量含。
3　2.5Y7/4浅黄色シルト　粘性・しまり中。灰黄褐色シルト粒少量含。
4　2.5Y7/4浅黄色シルト　粘性・しまり中。褐灰色シルトをブロック状に微量含。
5　10YR5/2褐灰色粘質シルト　粘性やや強・しまり中。浅黄色シルト粒少量含。

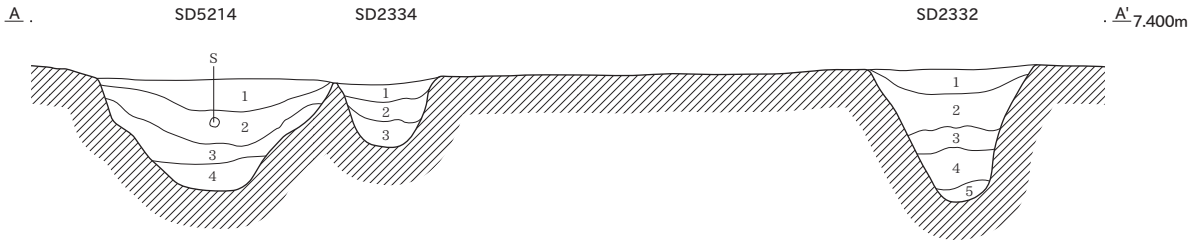
SD2000C（D-D'）
1　10YR6/3にぶい黄橙色シルト　粘性・しまり中。浅黄色シルト粒微量含。
2　10YR6/3にぶい黄橙色シルト　粘性・しまり中。浅黄色シルトをブロック状に少量含。
3　10YR6/4にぶい黄橙色シルト　粘性・しまり中。浅黄色シルトをブロック状に多量含。
4　10YR6/3にぶい黄橙色シルト　粘性・しまり中。浅黄色シルト粒中量含。

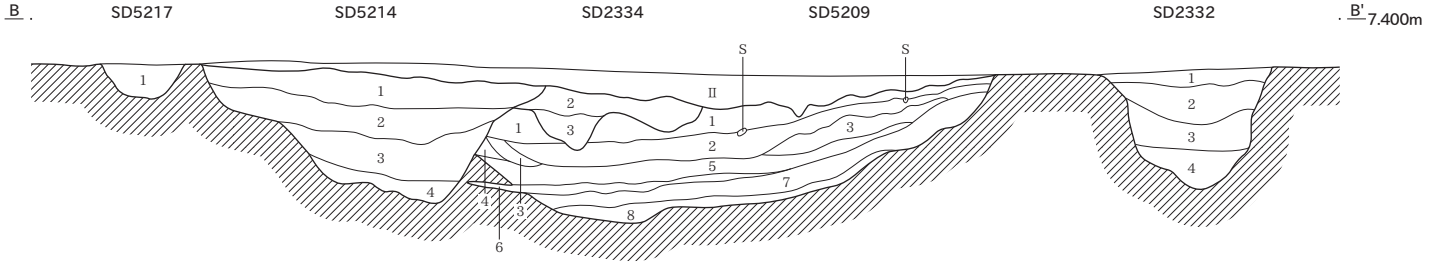
SD2001A（E-E'）
1　10YR3/2黒褐色シルト　粘性・しまり中。灰黄褐色シルト粒微量含。
2　10YR5/2灰黄褐色シルト　粘性・しまり中。黒褐色シルト粒少量含。
3　2.5Y6/2灰黄色シルト　粘性・しまり中。浅黄色シルトをブロック状に多量含。
4　10YR5/2灰黄褐色シルト　粘性・しまり中。浅黄色シルトをブロック状に少量含。
5　10YR6/2灰黄褐色シルト　粘性・しまり中。径1mm以下の炭化物少量含。
6　10YR7/2にぶい黄橙色シルト　粘性・しまり中。灰黄褐色シルト粒少量含。
7　10YR5/2灰黄褐色シルト　粘性・しまり中。浅黄色シルト粒微量含。
8　10YR4/2灰黄褐色シルト　粘性・しまり中。浅黄色シルトをブロック状に少量含。
9　2.5Y7/4浅黄色シルト　粘性・しまり中。灰黄褐色シルト粒微量含。
10　2.5Y6/4浅黄色シルト　粘性・しまり中。灰黄褐色シルト粒少量含。
11　10YR6/3にぶい黄色シルト　粘性・しまり中。灰黄褐色シルト粒微量含。
12　10YR6/3にぶい黄色シルト　粘性・しまり中。灰黄褐色シルト粒少量含。
13　2.5Y6/2灰黄色シルト　粘性・しまり中。灰黄褐色シルト粒少量含。
14　10YR6/4にぶい黄色シルト　粘性・しまり中。灰黄褐色シルト粒少量含。

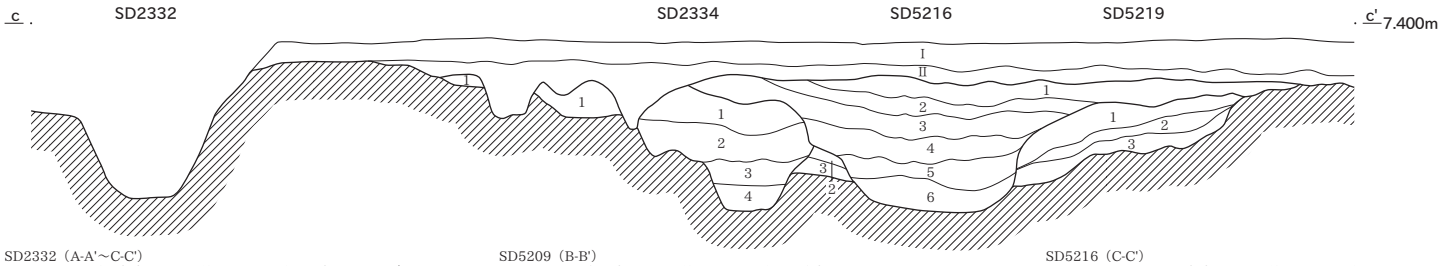
SD2001B（E-E'）
1　2.5Y6/4浅黄色シルト　粘性・しまり中。灰黄褐色シルト粒微量含。
2　2.5Y6/4浅黄色砂質シルト　粘性やや弱・しまり中。灰黄褐色シルト粒微量含。

SD2001C（E-E'）
1　10YR3/2黒褐色シルト　粘性・しまり中。浅黄色シルトをブロック状に少量含。
2　2.5Y7/4浅黄色シルト　粘性・しまり中。黒褐色シルト粒少量含。
3　2.5Y7/4浅黄色シルト　粘性・しまり中。黒褐色シルト粒微量含。

道2（SD2332・SD2334）







SD2332（A-A'～C-C'）
1　10YR8/3浅黄橙色シルト　粘性・しまり中。灰色シルトをブロック状に、赤褐色の鉄分中量含。
2　N6/灰色シルト　粘性・しまり中。浅黄橙色シルトをブロック状に中量含。
3　10YR7/4にぶい黄橙色シルト　粘性・しまり中。マンガン粒多量含。
4　10YR6/2灰黄褐色粘質シルト　粘性やや強・しまり中。マンガン粒・赤褐色の鉄分中量含。
5　N6/灰色粘質シルト　粘性やや強・しまり中。

SD2334（A-A'～C-C'）
1　10YR7/2にぶい黄橙色シルト　粘性・しまり中。灰白色シルトをブロック状に中量含。
2　10YR7/3にぶい黄橙色シルト　粘性・しまり中。灰白色シルトをブロック状に少量含。
3　10YR6/3にぶい黄橙色シルト　粘性・しまり中。灰白色シルトをブロック状に少量含。
4　10YR5/3にぶい黄褐色シルト　粘性・しまり中。灰白色シルトをブロック状に少量含。

SD5209（B-B'）
1　10YR6/1褐灰色シルト　粘性・しまり中。灰白色シルト粒少量含。
2　10YR5/1褐灰色シルト　粘性・しまり中。灰白色シルト粒少量含。
3　10YR5/1褐灰色シルト　粘性・しまり中。灰白色シルト粒、赤褐色の鉄分少量含。
4　10YR6/1褐灰色シルト　粘性・しまり中。
5　10YR6/2灰黄褐色シルト　粘性・しまり中。
6　N6/灰色粘質シルト　粘性やや強・しまり中。
7　10YR8/1灰白色砂質シルト　粘性やや弱・しまり中。赤褐色の鉄分中量含。
8　N6/灰色粘質シルト　粘性やや強・しまり中。

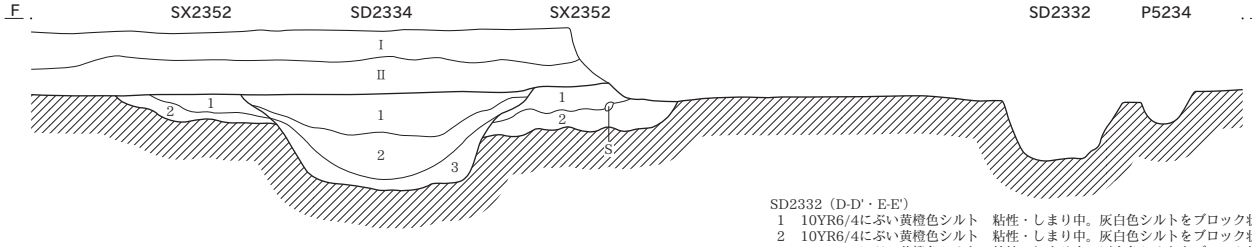
SD5214（A-A'・B-B'）
1　10YR7/2にぶい黄褐色シルト　粘性・しまり中。灰色シルトをブロック状に中量含。
2　10YR7/3にぶい黄褐色シルト　粘性・しまり中。灰色シルトをブロック状に中量含。
3　10YR5/2灰黄褐色シルト　粘性・しまり中。径5mm以下の炭化物多量含。
4　10YR6/2灰黄褐色シルト　粘性・しまり中。径5mm以下の炭化物中量含。

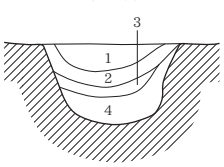
SD5216（C-C'）
1　10YR6/3にぶい黄橙色シルト　粘性・しまり中。
2　10YR6/4にぶい黄橙色シルト　粘性・しまり中。
3　10YR6/6明黄褐色シルト　粘性・しまり中。
4　10YR7/2にぶい黄橙色シルト　粘性・しまり中。
5　10YR7/3にぶい黄橙色シルト　粘性・しまり中。
6　10YR6/2灰黄褐色シルト　粘性・しまり中。

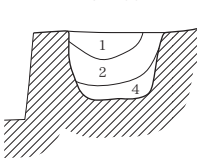
SD5217（B-B'）
1　10YR6/1褐灰色シルト　粘性・しまり中。

SD5219（C-C'）
1　10YR4/2灰黄褐色シルト　粘性・しまり中。
2　10YR3/1黒褐色シルト　粘性・しまり中。灰黄褐色シルトをブロック状に少量含。
3　10YR7/3にぶい黄橙色シルト　粘性・しまり中。

図版5に対応







SD2332（D-D'・E-E'）
1　10YR6/4にぶい黄橙色シルト　粘性・しまり中。灰白色シルトをブロック状に多量含。
2　10YR6/4にぶい黄橙色シルト　粘性・しまり中。灰白色シルトをブロック状に少量含。
3　10YR6/4にぶい黄橙色シルト　粘性・しまり中。灰白色シルトをブロック状に中量含。
4　10YR6/3にぶい黄橙色シルト　粘性・しまり中。灰黄褐色シルトをブロック状に少量含。

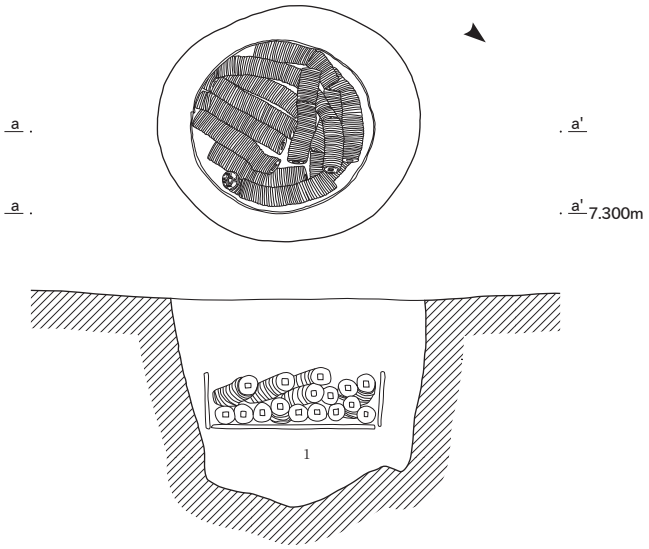
SD2334（F-F'）
1　10YR5/4にぶい黄褐色シルト　粘性・しまり中。
2　10YR4/4褐色シルト　粘性・しまり中。にぶい黄橙色シルトをブロック状に少量含。
3　10YR5/6黄褐色シルト　粘性・しまり中。褐色シルトをブロック状に多量含。

SX2352（F-F'）
1　10YR5/3にぶい黄褐色シルト　粘性中・しまり強。灰白色シルトをブロック状に中量含。
2　10YR5/2灰黄褐色シルト　粘性中・しまり強。にぶい黄橙色シルトをブロック状に中量含。計3mm以下の炭化物少量含。

図版6に対応

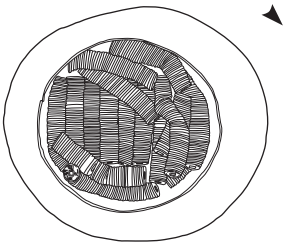
0　（1：40）　2m

一括出土銭P5673

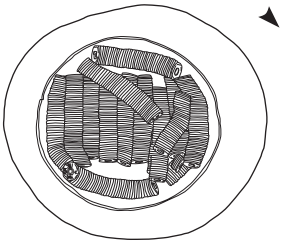


P5673
1　10YR6/3にぶい黄橙色シルト　粘性・しまり中。浅黄色シルトブロック微量含む。

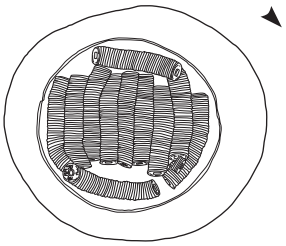
2段目



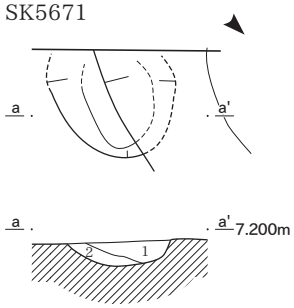
3段目



4段目

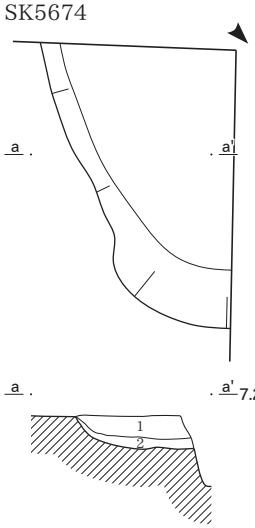


SK5671



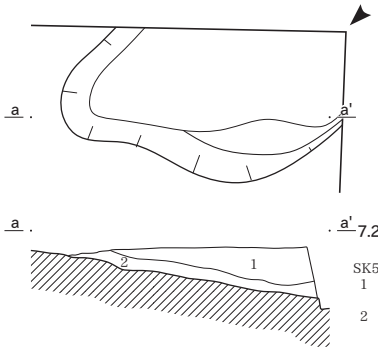
SK5671
1　10YR7/2にぶい黄橙色粘質シルト　粘性やや強・しまり中。赤褐色の鉄分多量含。
2　5YR6/6橙色粘質シルト　粘性やや強・しまり中。赤褐色の鉄分多量含。

SK5674



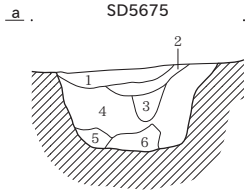
SK5674
1　7.5Y5/1灰色粘質シルト　粘性やや強・しまり中。灰白色粘質シルトをブロック状に少量含。
2　7.5Y5/1灰色粘質シルト　粘性やや強・しまり中。灰白色粘質シルトをブロック状に、赤褐色の鉄分多量含。

SK5670



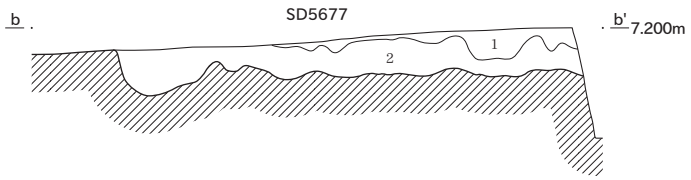
SK5670
1　10YR7/2にぶい黄橙色粘質シルト　粘性やや強・しまり中。赤褐色の鉄分多量含。
2　10YR6/2灰黄褐色砂質シルト　粘性やや弱・しまり中。赤褐色の鉄分多量含。

SD5675



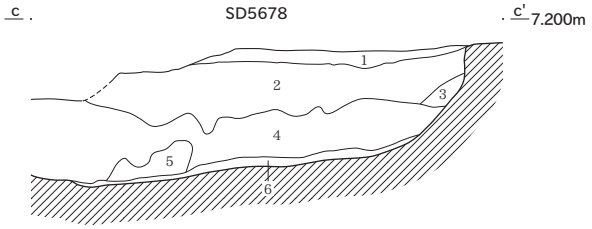
SD5675
1　10YR6/3にぶい黄橙色シルト　粘性・しまり中。暗褐色シルト多量含。
2　10YR4/3にぶい黄褐色シルト　粘性・しまり中。浅黄色シルト粒子多量含。
3　10YR5/3にぶい黄褐色シルト　粘性・しまり中。浅黄色シルトブロック少量含。
4　10YR6/1褐灰色シルト　粘性・しまり中。浅黄色シルトブロック少量含。
5　2.5Y7/3浅黄色シルト　粘性・しまり中。褐灰色シルト粒少量含。
6　2.5Y7/3浅黄色シルト　粘性・しまり中。褐灰色シルト粒微量含。

SD5677



SD5677
1　10YR5/4にぶい黄褐色シルト　粘性弱・しまり中。浅黄色シルト粒子微量含。
2　10YR5/4にぶい黄褐色シルト　粘性弱・しまり中　浅黄色砂質シルト粒・ブロック少量。2層下面に酸化鉄の沈着あり。

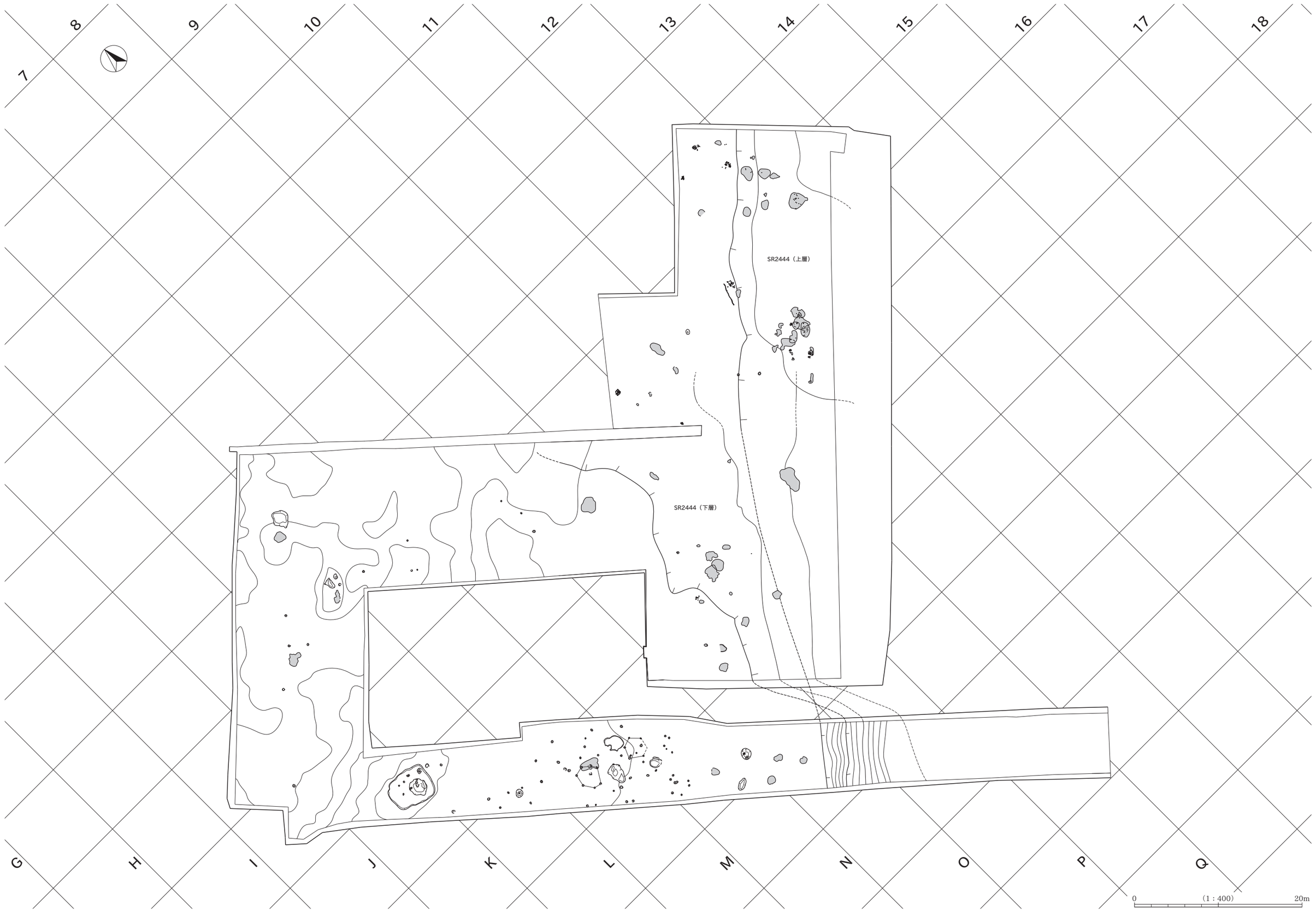
SD5678

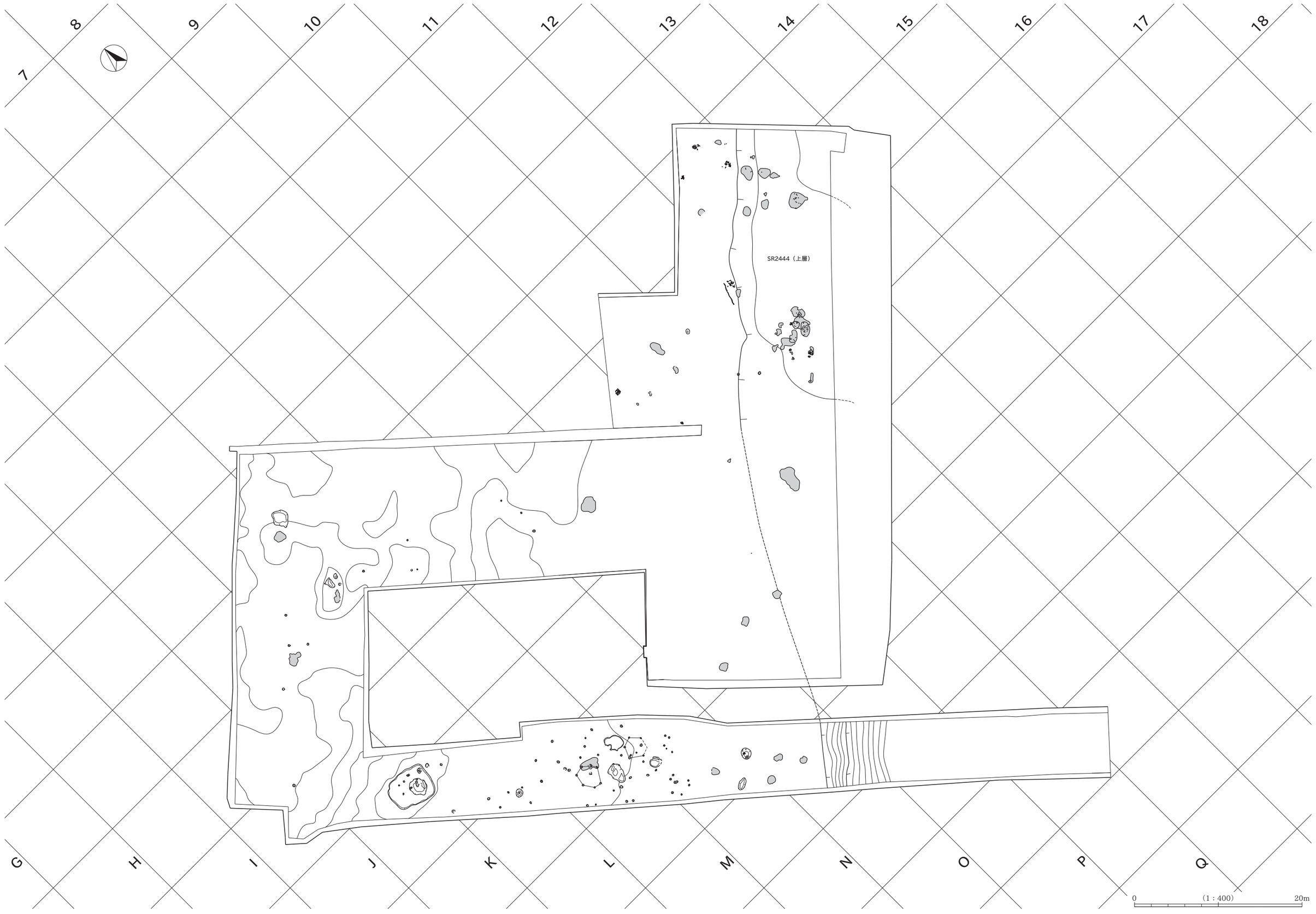


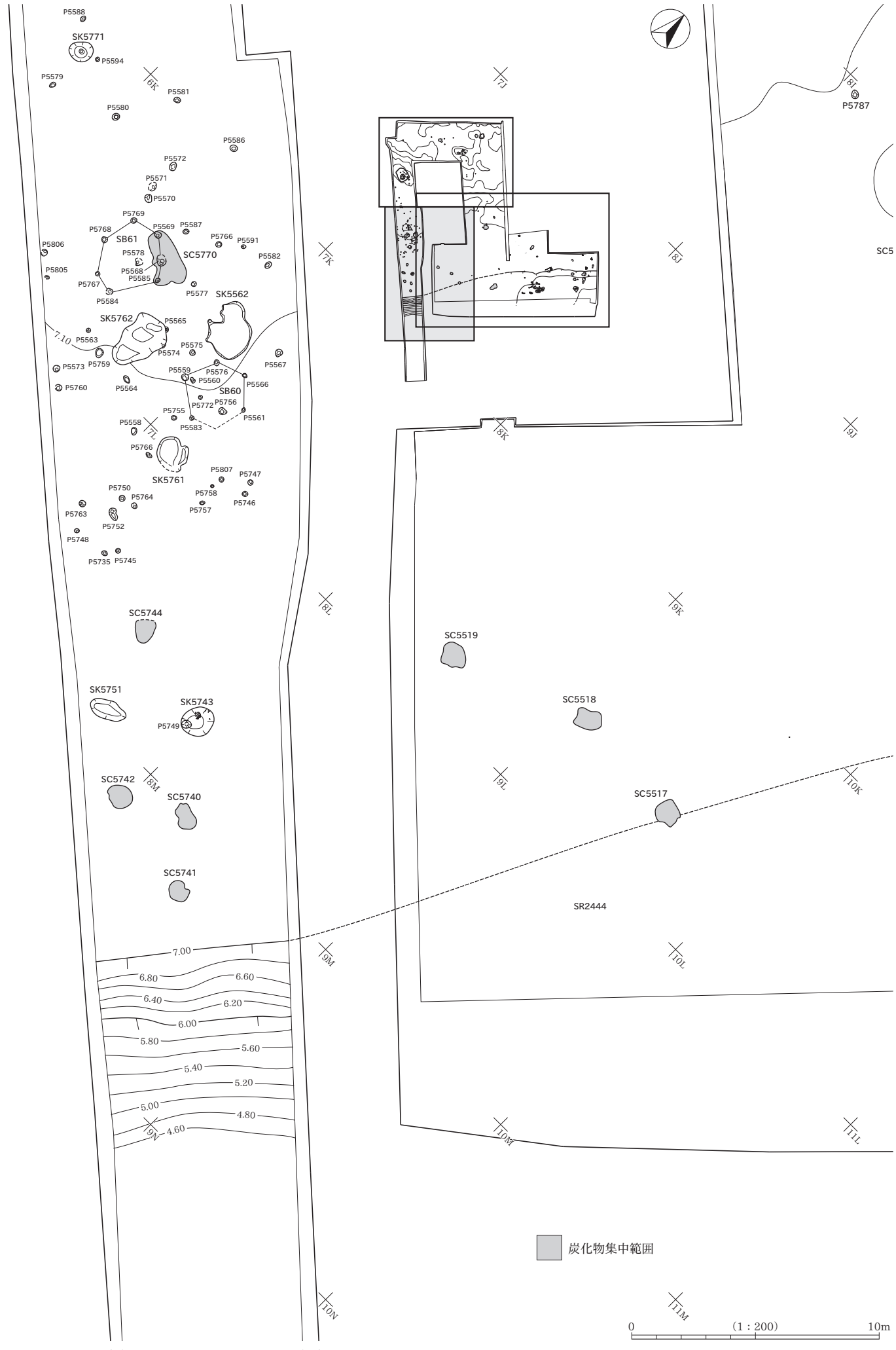
SD5678
1　10YR7/2にぶい黄橙色粘質シルト　粘性強・しまり中。酸化鉄を均質に含。
2　10YR6/3にぶい黄橙色粘質シルト　粘性強・しまり中。酸化鉄を均質に含。
3　10YR6/3にぶい黄橙色砂質シルト　粘性弱・しまり中。酸化鉄を均質に含。
4　5Y5/1灰色粘質シルト　粘性強・しまり中。酸化鉄をブロック状に含。
5　5Y5/2灰オリーブシルト　粘性・しまり中。酸化鉄をブロック状に含。
6　10YR5/4にぶい黄褐色シルト　粘性弱・しまり強。顕著に酸化鉄が沈着する。

図版3に対応

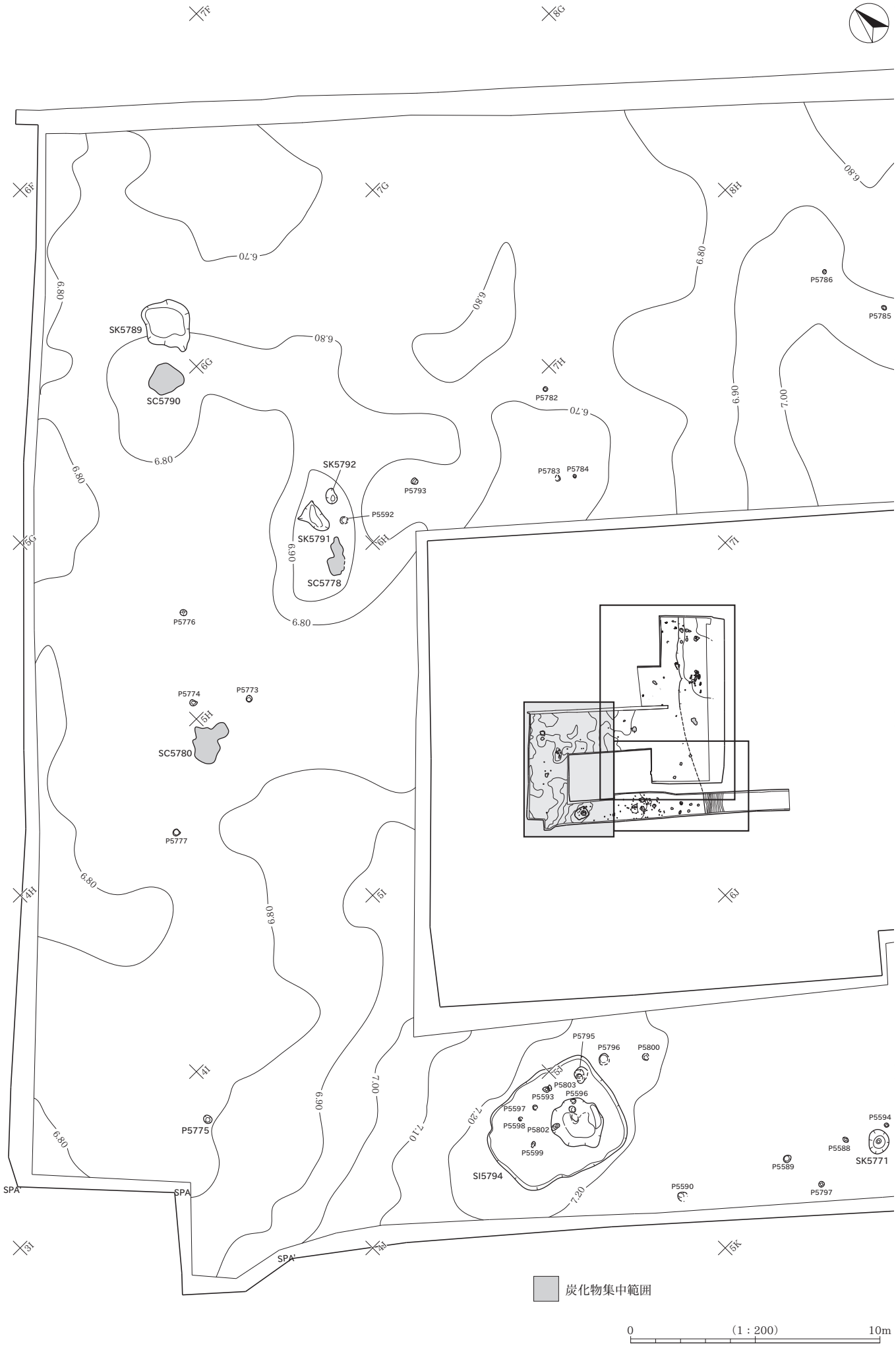
0　埋納銭（1：10）　50cm　　0　その他（1：40）　2m


7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
SR2444（上層）
SR2444（下層）
G
H
I
J
K
L
M
N
O
P
Q
0
（1：400）
20m


7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
SR2444（上層）
G
H
I
J
K
L
M
N
O
P
Q
0
(1 : 400)
20m

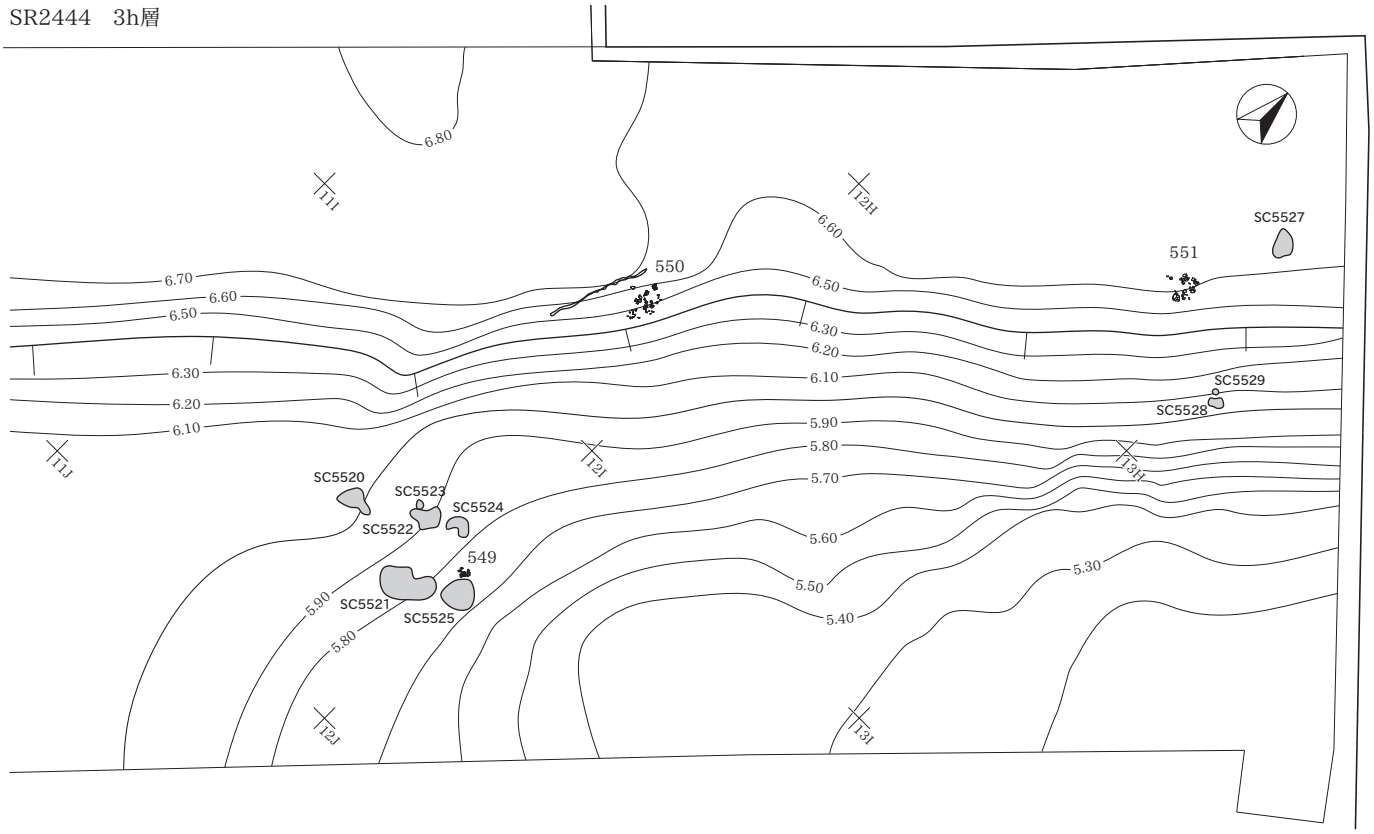

P5588
SK5771
P5594
P5579
P5581
P5580
P5586
P5572
P5571
P5570
P5769
P5768
P5569
P5587
SB61
P5766
P5591
P5806
P5578
SC5770
P5582
P5805
P5568
P5585
P5767
P5577
SK5562
P5584
SK5762
P5565
7.10
P5563
P5575
P5574
P5567
P5573
P5759
P5559
P5576
P5560
P5566
P5760
P5564
SB60
P5772
P5756
P5755
P5561
P5558
P5583
P5766
SK5761
P5807
P5747
P5750
P5764
P5758
P5746
P5763
P5757
P5752
P5748
P5735
P5745
SC5744
SK5751
SK5743
P5749
SC5742
SC5740
SC5741
7.00
6.80
6.60
6.40
6.20
6.00
5.80
5.60
5.40
5.20
5.00
4.80
4.60
P5787
SC5
SC5519
SC5518
SC5517
SR2444
炭化物集中範囲
0
（1：200）
10m

縄文上層遺構分割図（2）

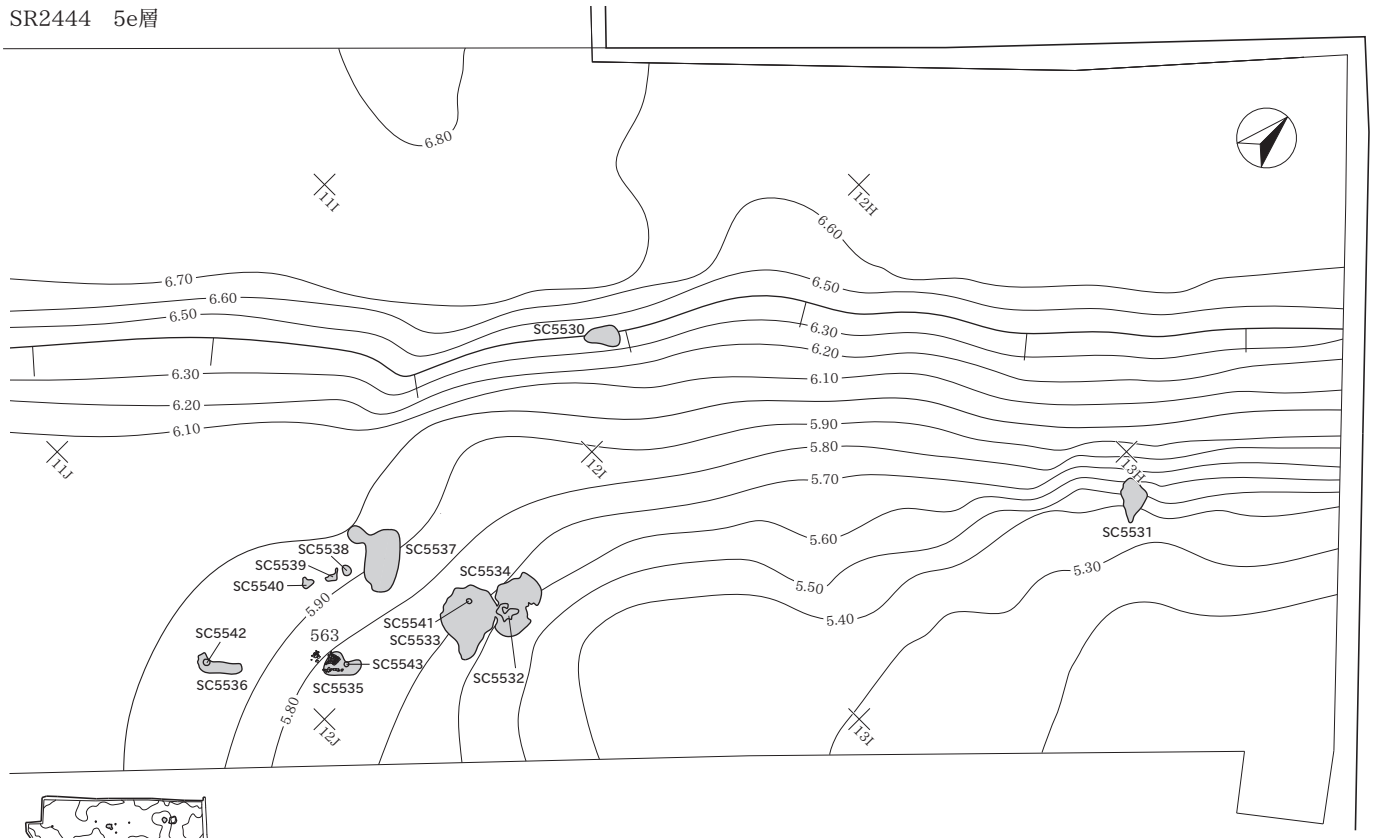

SK5789
SC5790
SK5792
SK5791
SC5778
SC5780
SI5794
SK5771
SPA
SPA'
P5773
P5774
P5775
P5776
P5777
P5778
P5782
P5783
P5784
P5785
P5786
P5788
P5789
P5790
P5791
P5792
P5793
P5794
P5795
P5796
P5797
P5798
P5799
P5800
P5802
P5803
6.70
6.80
6.90
7.00
7.10
7.20
炭化物集中範囲
0
（1：200）
10m

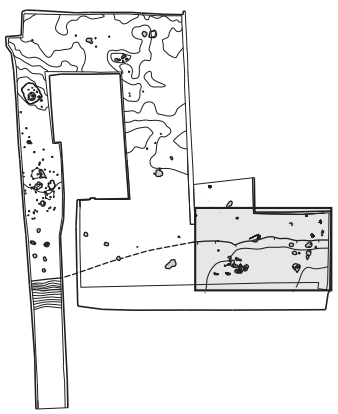
SR2444　3a層
SC5515
547
SC5512
546
545
SC5502
SC5519
SC5518
SC5517
SC5516
P5500
SC5511
SC5510
SC5509
SC5504
SC2371
SC5506
SC5505
SC5514
炭化物集中範囲
7.00
6.90
6.80
6.70
7.10
0
(1 : 200)
10m

SR2444　3h層



SR2444　5e層





炭化物集中範囲

0　（1：200）　10m

SR2444　7b層

SR2444　8a層

SC5557

SC5556

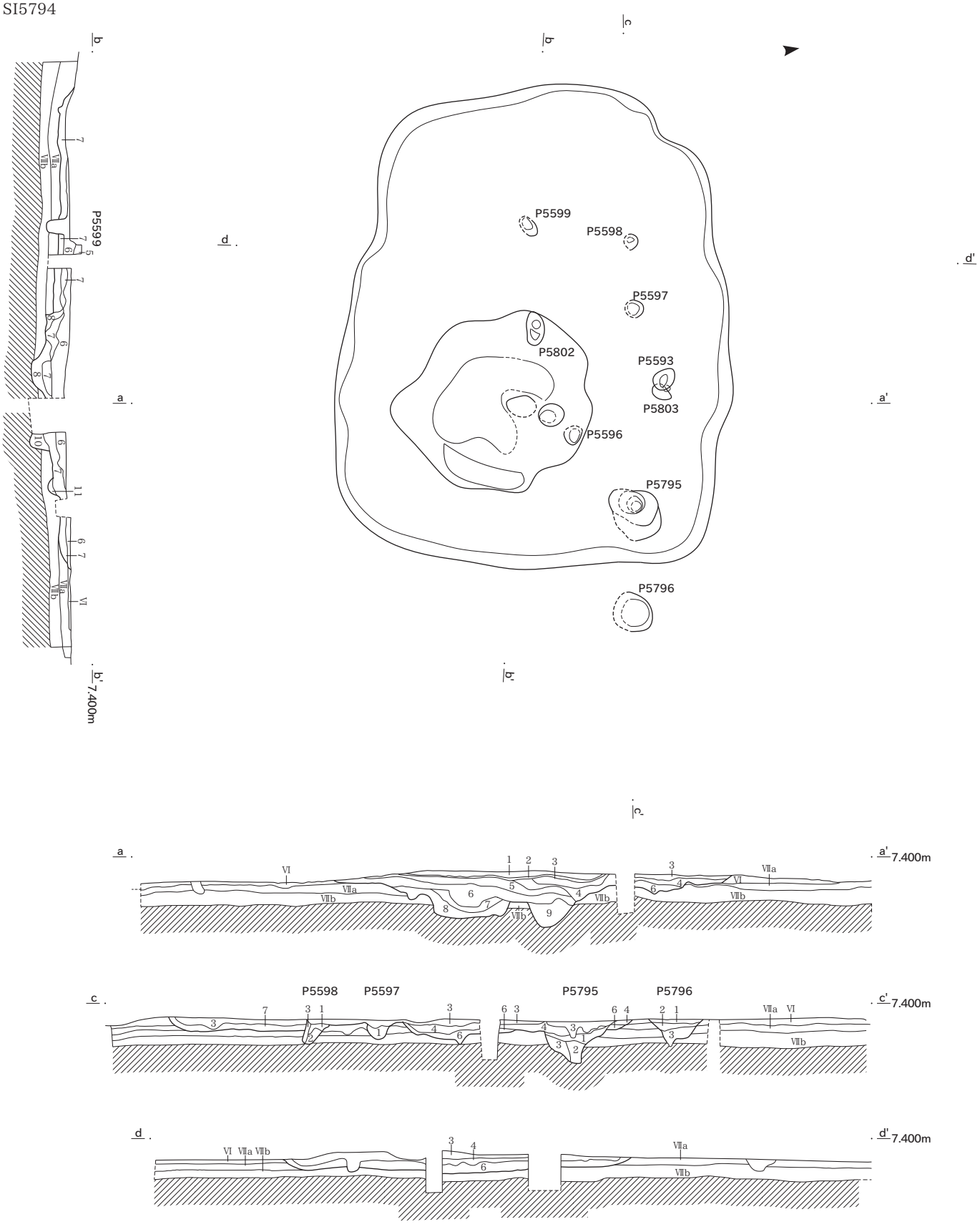
SC5555

P5526

炭化物集中範囲

0　（1：200）　10m

SI5794



SI5794
1　2.5Y7/4浅黄色シルト　粘性・しまり中。
2　2.5Y8/3淡黄色シルト　粘性・しまり中。筋状に堆積。
3　2.5Y7/3浅黄色シルト　粘性・しまり中。径3～5mmの炭化粒多量含。
4　2.5Y7/4浅黄色シルト　粘性・しまり中。径3mmの炭化粒少量含。
5　2.5Y6/3にぶい黄色シルト　粘性・しまり中。径3～5mmの炭化粒中量含。
6　10YR5/3にぶい黄褐色シルト　粘性・しまり中。径3～10mmの炭化物多量含。
7　10YR7/4浅黄色シルト　粘性・しまり中。径1～2mmの炭化粒少量含。
8　10YR6/4にぶい黄色シルト　粘性・しまり中。径1～2mmの炭化粒少量含。
9　10YR6/4にぶい黄色シルト　粘性・しまり中。径1～2mmの炭化粒少量含。8層に類似。
10　10YR6/4にぶい黄色シルト　粘性・しまり中。径1～2mmの炭化粒少量含。8層に類似。

P5597
1　2.5Y7/4浅黄色シルト　粘性・しまり中。径2～3mmの炭化粒少量含。

P5598
1　2.5Y7/3浅黄色シルト　粘性・しまり中。径2～3mmの炭化粒少量含。
2　2.5Y7/4浅黄色シルト　粘性・しまり中。径2～3mmの炭化粒少量含。
3　2.5Y7/2灰黄色シルト　粘性・しまり中。

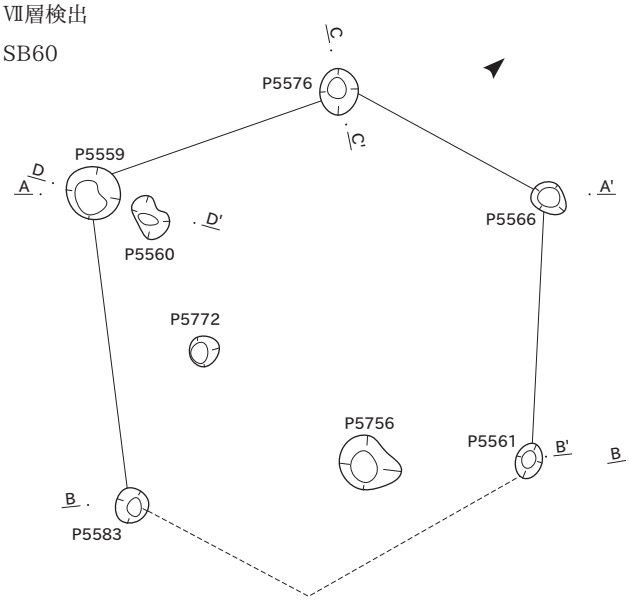
P5795
1　2.5Y6/3にぶい黄色シルト　粘性・しまり中。径3～5mmの炭化粒中量含。
2　2.5Y6/4にぶい黄色シルト　粘性・しまり中。径5mmの炭化粒少量含。
3　2.5Y7/3浅黄色シルト　粘性・しまり中。

P5796
1　2.5Y7/3浅黄色シルト　粘性・しまり中。径3～10mmの炭化粒中量含。
2　2.5Y7/4浅黄色シルト　粘性・しまり中。
3　2.5Y6/4にぶい黄色シルト　粘性・しまり中。径10～20mmの炭化物少量含。

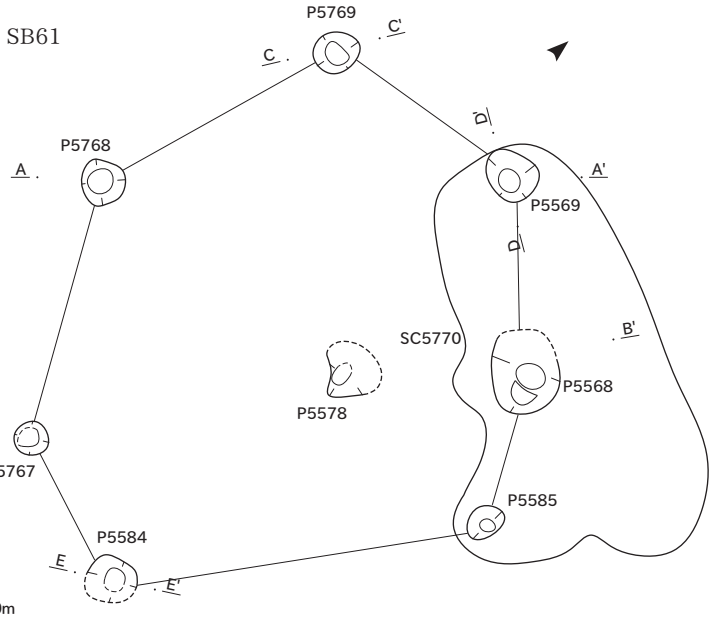
0　（1：60）　3m

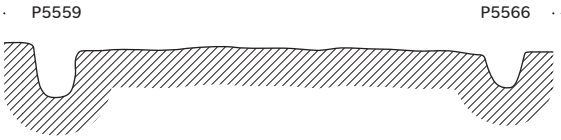
Ⅶ層検出

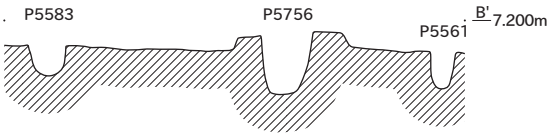
SB60

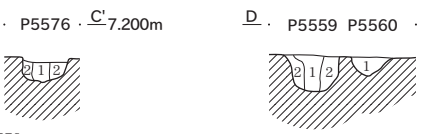


SB61





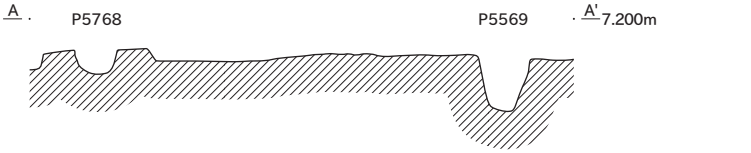


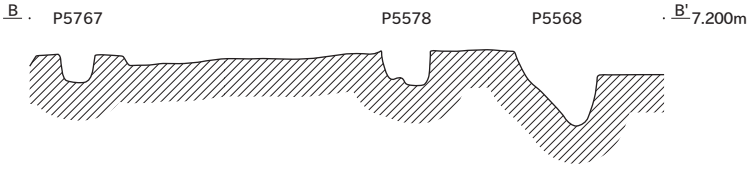


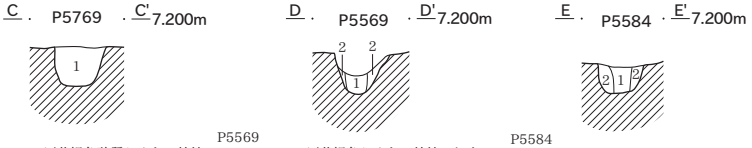
P5576
1　10YR6/2灰黄褐色シルト　粘性・しまり中。赤褐色の鉄分中量含。
2　10YR8/3浅黄橙色シルト　粘性・しまり中。灰黄褐色シルトをブロック状に中量含。

P5559
1　10YR6/2灰黄褐色シルト　粘性・しまり中。黄橙色シルトをブロック状に、計5mm以下の炭化物中量含。
2　10YR8/4浅黄橙色砂質シルト　粘性やや弱・しまり中。赤褐色の鉄分中量含。

P5560
1　10YR6/2灰黄褐色シルト　粘性・しまり中。黄橙色シルトをブロック状に中量含。





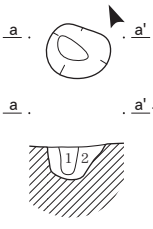


P5769
1　10YR6/2灰黄褐色砂質シルト　粘性やや弱・しまり中。炭化粒少量含。

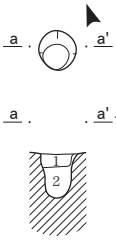
P5569
1　10YR6/2灰黄褐色シルト　粘性・しまり中。径3mm以下の炭化物多量含。
2　10YR8/3浅黄橙色砂質シルト　粘性やや弱・しまり中。径1mm以下の炭化物少量含。

P5584
1　10YR6/2灰黄褐色シルト　粘性・しまり中。赤褐色の鉄分中量含。
2　10YR8/3浅黄橙色シルト　粘性・しまり中。灰黄褐色シルトをブロック状に中量含。

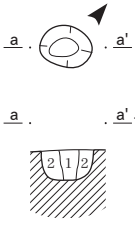
P5570



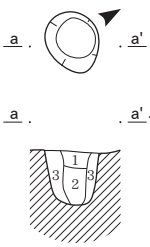
P5577



P5581



P5589



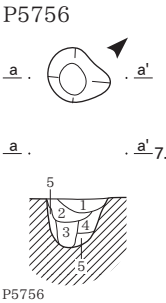
P5570
1　10YR7/2にぶい黄橙色シルト　粘性・しまり中。
2　10YR8/3浅黄橙色砂質シルト　粘性やや弱・しまり中。赤褐色の鉄分中量含。

P5577
1　10YR7/2にぶい黄橙色シルト　粘性・しまり中。浅黄橙色シルトをブロック状に中量含。
2　10YR8/3浅黄橙色シルト　粘性・しまり中。灰黄褐色シルトをブロック状に中量含。

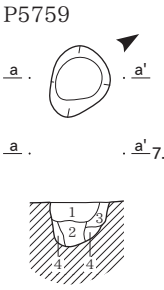
P5581
1　10YR7/2にぶい黄橙色シルト　粘性・しまり中。赤褐色の鉄分中量含。
2　10YR8/4浅黄橙色砂質シルト　粘性やや弱・しまり中。赤褐色の鉄分中量含。

P5589
1　10YR8/4浅黄橙色シルト　粘性・しまり中。
2　10YR6/2灰黄褐色シルト　粘性・しまり中。
3　10YR8/3浅黄橙色砂質シルト　粘性やや弱・しまり中。

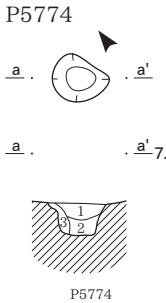
P5756



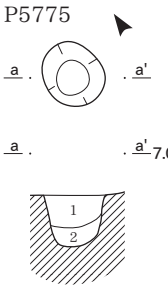
P5759



P5774



P5775



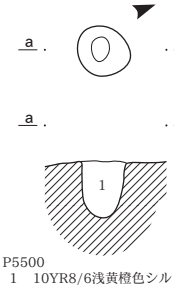
P5756
1　10YR6/2灰黄褐色砂質シルト　粘性やや弱・しまり中。炭化粒微量含。
2　10YR7/4にぶい黄橙色シルト　粘性・しまり中。炭化粒微量含。
3　10YR6/2灰黄褐色砂質シルト　粘性やや弱・しまり中。炭化粒少量含。
4　10YR6/3にぶい黄橙色砂質シルト　粘性やや弱・しまり中。炭化粒微量含。
5　10YR7/4にぶい黄橙色シルト　粘性・しまり中。炭化粒微量含。

P5759
1　10YR6/2灰黄褐色砂質シルト　粘性やや弱・しまり中。炭化粒少量含。
2　10YR6/4にぶい黄橙色砂質シルト　粘性やや弱・しまり中。炭化粒微量含。
3　10YR7/4にぶい黄橙色砂質シルト　粘性やや弱・しまり中。炭化粒少量含。
4　10YR6/2灰黄褐色砂質シルト　粘性やや弱・しまり中。炭化粒少量含。

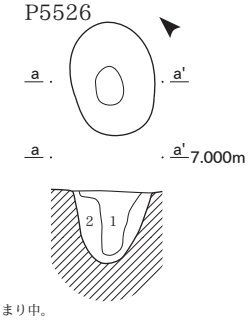
P5774
1　10YR6/4にぶい黄橙色シルト　粘性・しまり中。炭化粒少量含。
2　10YR5/1褐灰色シルト　粘性・しまり中。炭化粒少量含。
3　10YR5/1褐灰色シルト　粘性・しまり中。にぶい黄橙色シルトをブロック状に、炭化粒少量含。

P5775
1　10YR5/4にぶい黄褐色シルト　粘性・しまり中。炭化粒少量含。
2　10YR5/2灰黄褐色シルト　粘性・しまり中。炭化粒微量含。

SR2444 3a層検出
P5500



SR2444 7b層検出
P5526



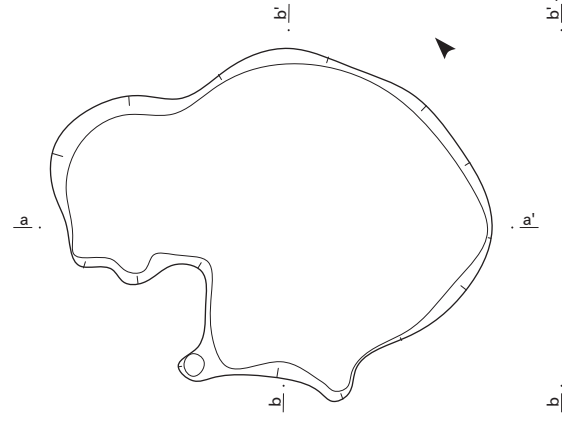
P5500
1　10YR8/6浅黄橙色シルト　粘性・しまり中。

P5526
1　10YR6/2灰黄褐色砂質シルト　粘性やや弱・しまり中。径5mm以下の炭化物多量含。
2　10YR7/4にぶい黄橙色砂質シルト　粘性やや弱・しまり中。径3mm以下の炭化物中量含。

0　（1：40）　2m

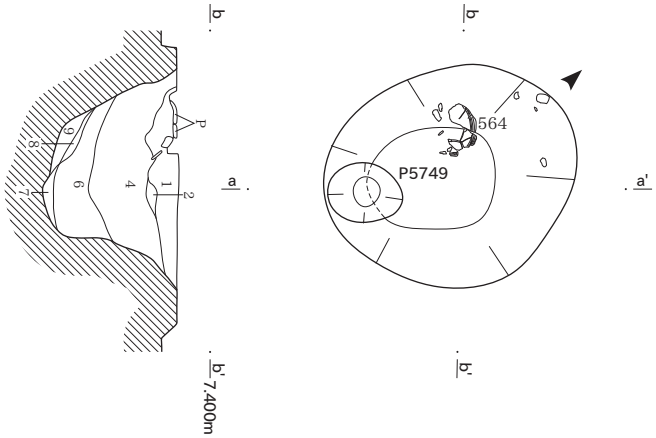
Ⅶ層検出

SK5562



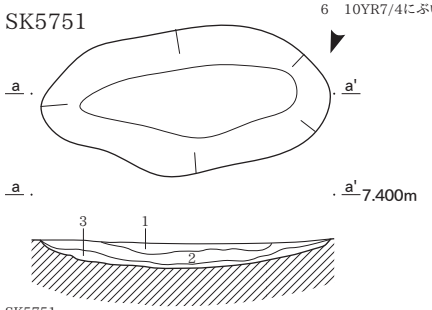
SK5562
1　10YR6/1褐灰色シルト　粘性・しまり中。径5mm以下の炭化物・赤褐色の鉄分中量含。

SK5743



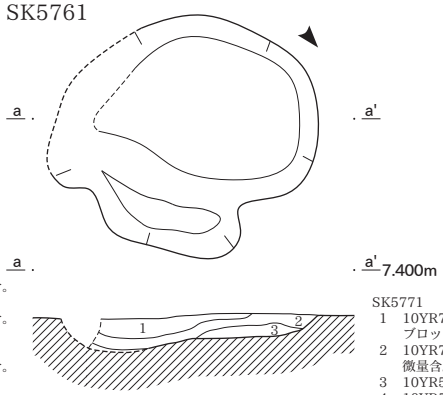
SK5743
1　10YR7/1灰白色シルト　粘性・しまり中。径1mm以下の炭化物少量含。
2　10YR7/2にぶい黄橙色シルト　粘性・しまり中。径1mm以下の炭化物微量含。赤褐色の鉄分少量含。
3　10YR7/2にぶい黄橙色シルト　粘性・しまり中。径1mm以下の炭化物・赤褐色の鉄分微量含。
4　10YR6/4にぶい黄橙色砂質シルト　粘性やや弱・しまり中。径1mm以下の炭化物微量含。赤褐色の鉄分多量含。
5　10YR6/4にぶい黄橙色砂質土　粘性弱・しまり中。径1mm以下の炭化物微量含。赤褐色の鉄分多量含。
6　10YR7/4にぶい黄橙色砂質シルト　粘性やや弱・しまり中。赤褐色の鉄分少量含。

SK5751



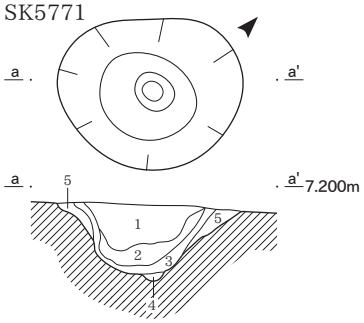
SK5751
1　10YR7/4にぶい黄橙色粘質シルト　粘性やや強・しまり中。マンガン微量含。
2　10YR6/2灰黄褐色シルト　粘性・しまり中。径1mm以下の炭化物少量含。
3　10YR7/4にぶい黄橙色砂質シルト　粘性やや弱・しまり中。マンガン多量含。

SK5761



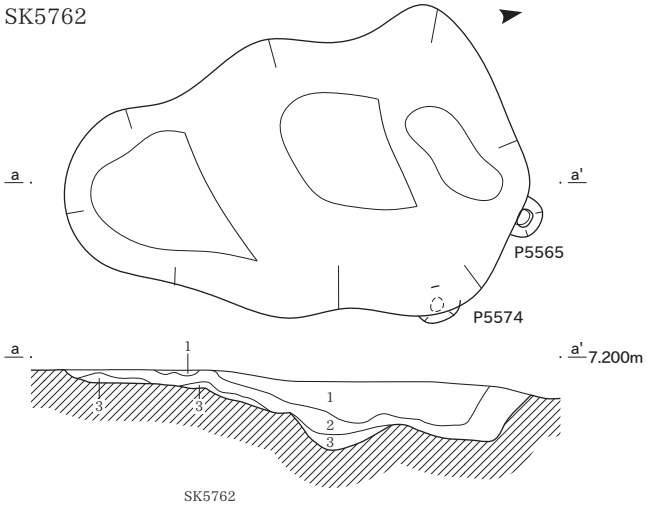
SK5761
1　10YR7/4にぶい黄橙色粘質シルト　粘性やや強・しまり中。マンガン微量含。
2　10YR6/2灰黄褐色シルト　粘性・しまり中。径1mm以下の炭化物少量含。
3　10YR7/4にぶい黄橙色砂質シルト　粘性やや弱・しまり中。マンガン多量含。

SK5771



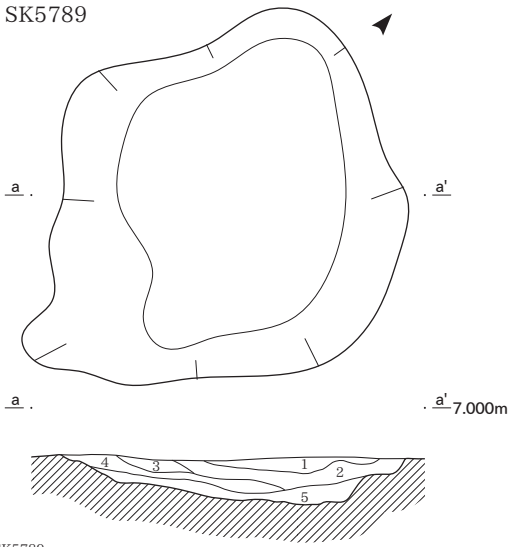
SK5771
1　10YR7/4にぶい黄橙色粘質シルト　粘性やや強・しまり中。灰黄褐色シルトをブロック状に少量含。
2　10YR7/2にぶい黄橙色粘質シルト　粘性やや強・しまり中。灰黄褐色シルト粒微量含。
3　10YR5/2灰黄褐色シルト　粘性・しまり中。にぶい黄橙色シルト粒微量含。
4　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルト　粘性やや弱・しまり中。
5　10YR6/3にぶい黄橙色砂質シルト　粘性やや弱・しまり中。灰黄褐色シルト粒微量含。

SK5762



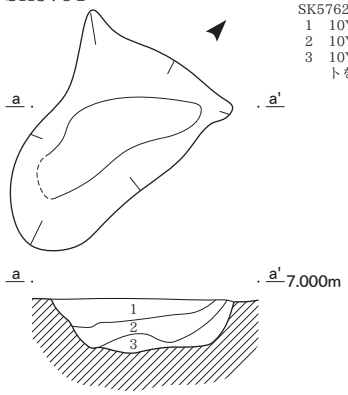
SK5762
1　10YR7/4にぶい黄橙色粘質シルト　粘性やや強・しまり中。
2　10YR5/2灰黄褐色シルト　粘性・しまり中。径1mm以下の炭化物微量含。
3　10YR7/4にぶい黄橙色砂質シルト　粘性やや弱・しまり中。灰黄褐色シルトをブロック状に微量含。

SK5789

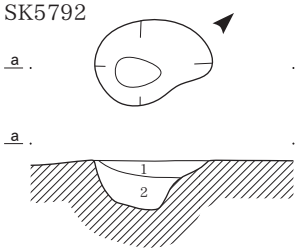


SK5789
1　2.5Y7/3浅黄色粘質シルト　粘性やや強・しまり中。赤褐色の鉄分少量含。
2　2.5Y7/3浅黄色粘質シルト　粘性やや強・しまり中。赤褐色の鉄分微量含。
3　2.5Y6/2灰黄色シルト　粘性・しまり中。赤褐色の鉄分少量含。
4　2.5Y7/4浅黄色シルト　粘性・しまり中。赤褐色の鉄分中量含。
5　2.5Y7/4浅黄色砂質シルト　粘性やや弱・しまり中。赤褐色の鉄分多量含。

SK5791



SK5792

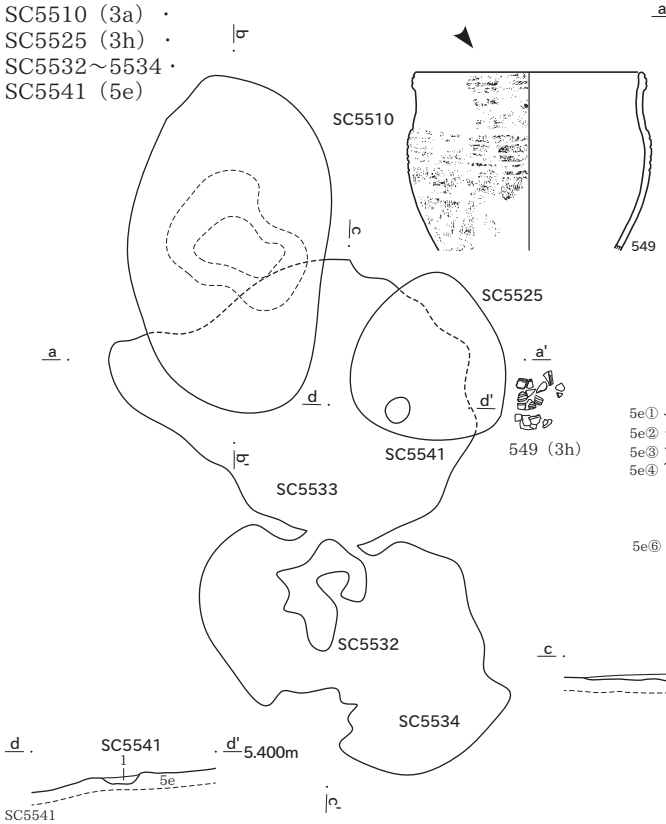


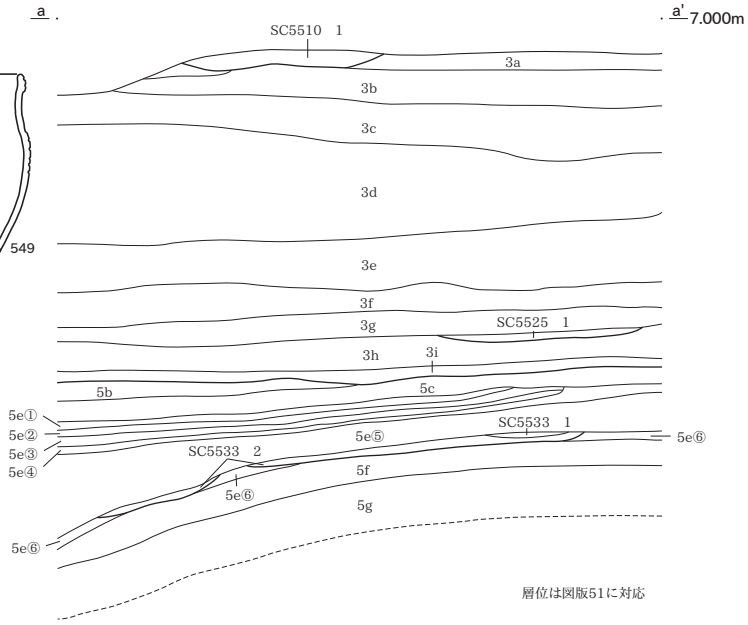
SK5791
1　2.5Y6/2灰黄色砂質シルト　粘性やや弱・しまり中。径1mm以下の炭化物少量含。
2　2.5Y6/3にぶい黄色砂質シルト　粘性やや弱・しまり中。径1mm以下の炭化物少量含。
3　2.5Y6/3にぶい黄色砂質シルト　粘性やや弱・しまり中。径1mm以下の炭化物微量含。

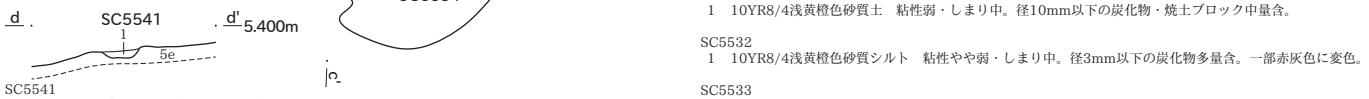
SK5792
1　2.5Y6/3にぶい黄色砂質シルト　粘性やや弱・しまり中。径1mm以下の炭化物少量含。
2　2.5Y5/3黄褐色砂質シルト　粘性やや弱・しまり中。径1mm以下の炭化物少量含。

0　(1：40)　2m

SC5510（3a）・
SC5525（3h）・
SC5532～5534・
SC5541（5e）





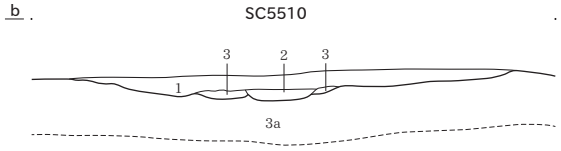


SC5525
1　10YR8/4浅黄橙色砂質土　粘性弱・しまり中。径10mm以下の炭化物・焼土ブロック中量含。

SC5532
1　10YR8/4浅黄橙色砂質シルト　粘性やや弱・しまり中。径3mm以下の炭化物多量含。一部赤灰色に変色。

SC5533
1　7.5YR8/3浅黄橙色シルト　粘性・しまり中。径3mm以下の炭化物多量含。一部赤灰色に変色。
2　7.5YR8/3浅黄橙色シルト　粘性・しまり中。径3mm以下の炭化物少量含。一部赤灰色に変色。

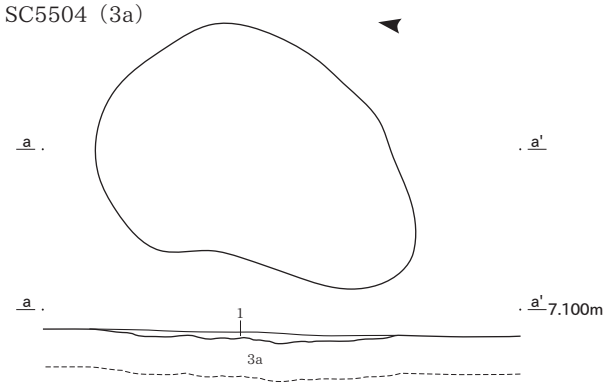
SC5534
1　7.5YR8/4浅黄橙色シルト　粘性・しまり中。径3mm以下の炭化物多量含。一部赤灰色に変色。



SC5541
1　10YR2/1黒色シルト　粘性・しまり中。
　炭層。焼土粒含む。

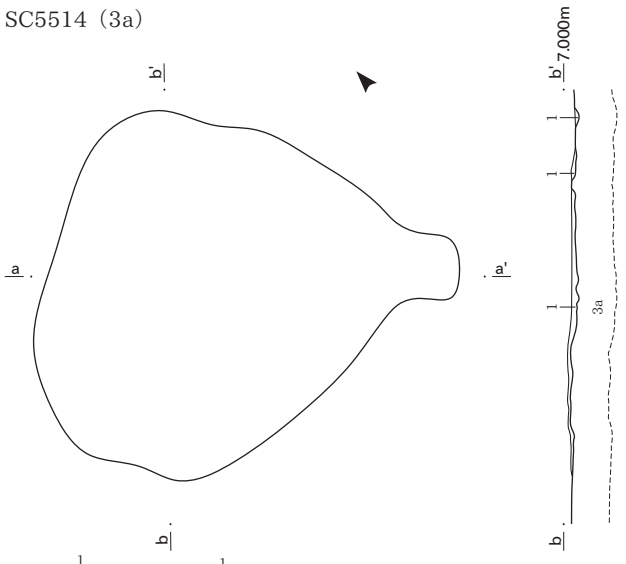
SC5510
1　10YR8/4浅黄橙色砂質シルト　粘性やや弱・しまり中。径3mm以下の炭化物中量含。
2　2.5YR4/1赤灰色シルト　粘性・しまり中。径3mm以下の炭化物多量含。焼土層。
3　10YR8/3浅黄橙色シルト　粘性・しまり中。径3mm以下の炭化物中量含。

SC5504（3a）



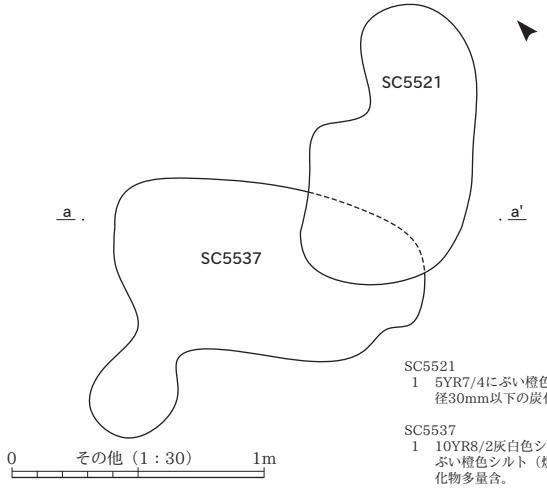
SC5504
1　10YR8/4浅黄橙色シルト　粘性・しまり中。径5mm以下の炭化物中量含。

SC5514（3a）



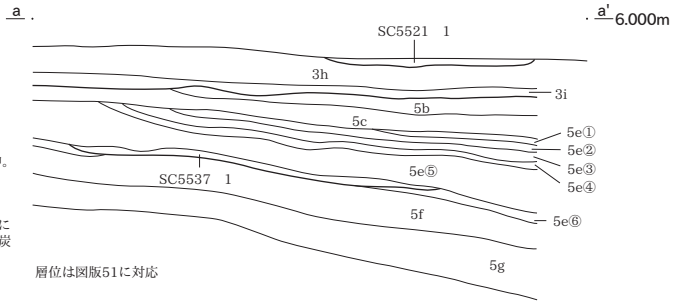
SC5514
1　2.5YR6/2灰赤色シルト　粘性・しまり中。径10mm以下の炭化物多量含。焼土層。

SC5521（3h）・5537（5e）



SC5521
1　5YR7/4にぶい橙色シルト　粘性・しまり中。径30mm以下の炭化物多量含。焼土層。

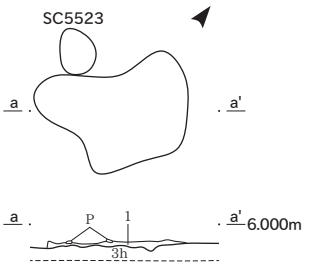
SC5537
1　10YR8/2灰白色シルト　粘性・しまり中。にぶい橙色シルト（焼土）粒、径3mm以下の炭化物多量含。



0　その他（1：30）　1m

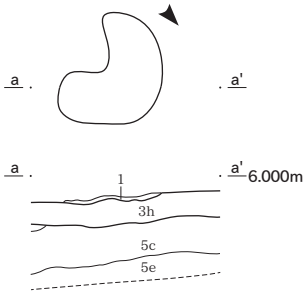
0　平面図、SC5504・5514断面図（1：40）　2m

SC5522（3h）



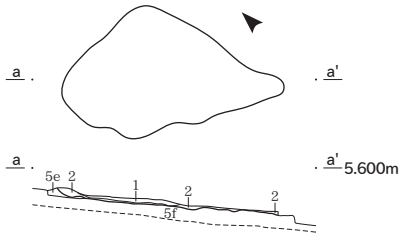
SC5522
1　5YR6/4にぶい橙色シルト　粘性・しまり中。径10mm以下の炭化物多量含。径3mm以下の焼骨中量含。焼土層。

SC5524（3h）



SC5524
1　2.5YR6/4にぶい橙色砂質シルト　粘性やや弱・しまり中。径10mm以下の炭化物多量含。焼土層。

SC5531（5e）

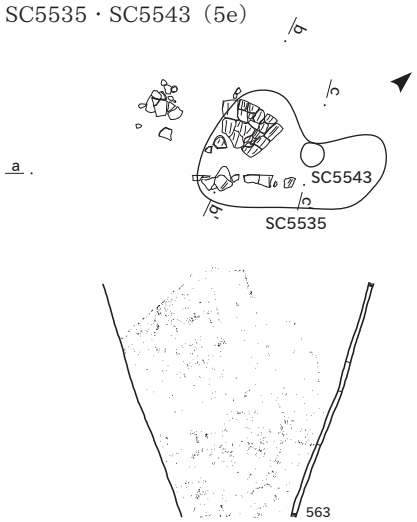


SC5531
1　7.5YR7/4にぶい橙色シルト　粘性・しまり中。径5mm以下の炭化物多量含。
2　7.5YR7/4にぶい橙色シルト　粘性・しまり中。径5mm以下の炭化物少量含。

SC5530（5e）

SC5530
1　5YR5/2灰褐色シルト　粘性・しまり中。径5mm以下の炭化物多量含。

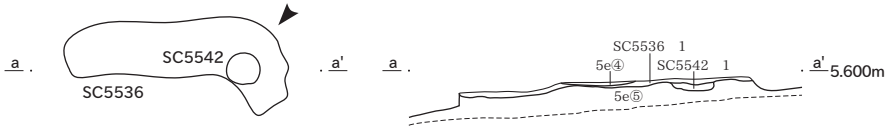
SC5535・SC5543（5e）



SC5535
1　10YR8/2灰白色シルト　粘性・しまり中。径3mm以下の炭化物少量含。一部にぶい橙色に変色。

SC5543
1　10YR2/1黒色シルト　粘性・しまり中。炭層。焼土粒含む。

SC5536・SC5542（5e）



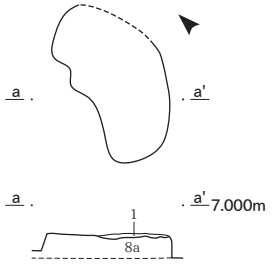
SC5542
1　10YR2/1黒色シルト　粘性・しまり中。炭層。焼土粒含む。

SC5536
1　10YR8/2灰白色シルト　粘性・しまり中。径3mm以下の炭化物少量含。一部にぶい橙色に変色。

0 平面図、SC5522・5524・5531断面図（1：40）2m　0　その他（1：30）　1m

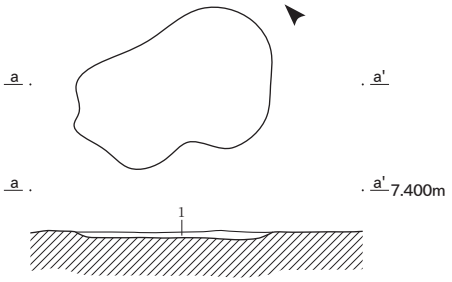
縄文上層遺構個別図（6）炭化物集中範囲　遺物出土状況図

SC5555（8a）



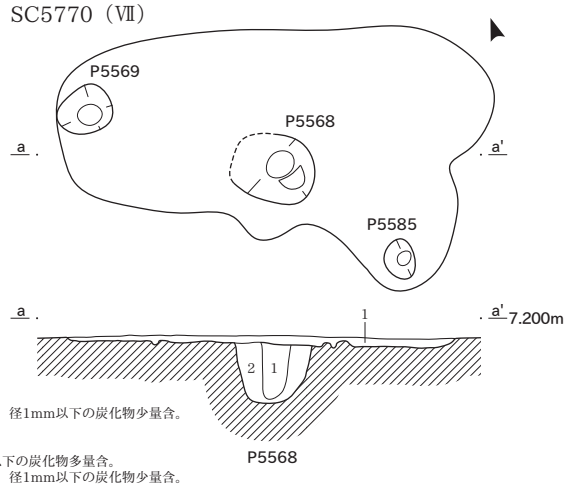
SC5555
1　10YR8/6黄橙色シルト　粘性・しまり中。径10mm以下の炭化物中量含。

SC5740（Ⅶ）



SC5740
1　10YR7/4にぶい黄橙色砂質シルト　粘性やや弱・しまり中。径1mm以下の炭化物多量含。

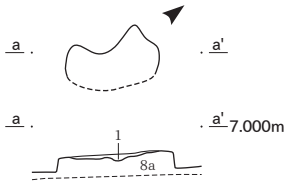
SC5770（Ⅶ）



SC5770
1　10YR6/2灰黄褐色砂質シルト　粘性やや弱・しまり中。径1mm以下の炭化物少量含。

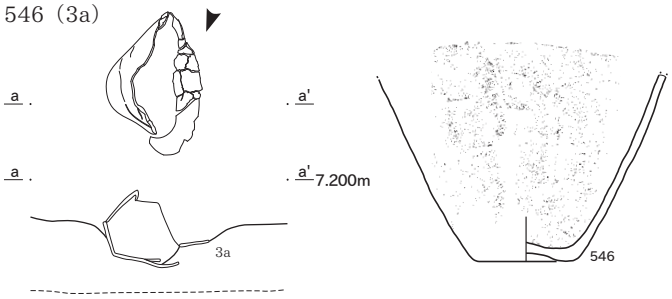
P5568
1　10YR6/2灰黄褐色シルト　粘性・しまり中。径3mm以下の炭化物多量含。
2　10YR8/3浅黄橙色砂質シルト　粘性やや弱・しまり中。径1mm以下の炭化物少量含。

SC5556（8a）

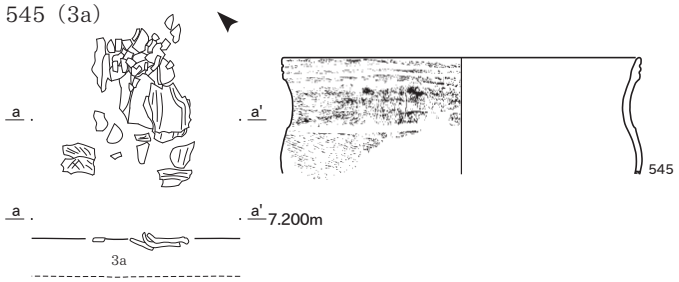


SC5556
1　10YR8/6黄橙色シルト　粘性・しまり中。径10mm以下の炭化物中量含。

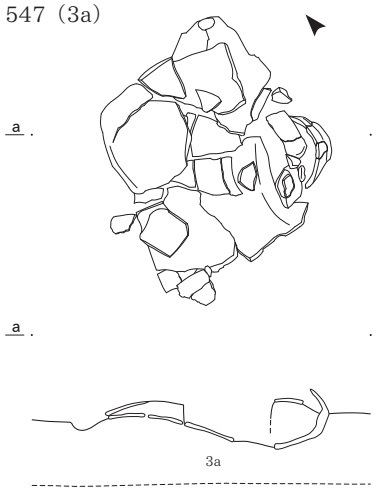
546（3a）



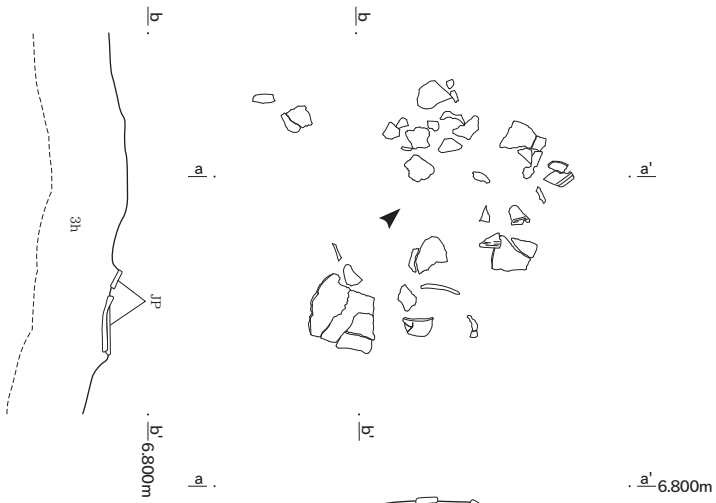
545（3a）



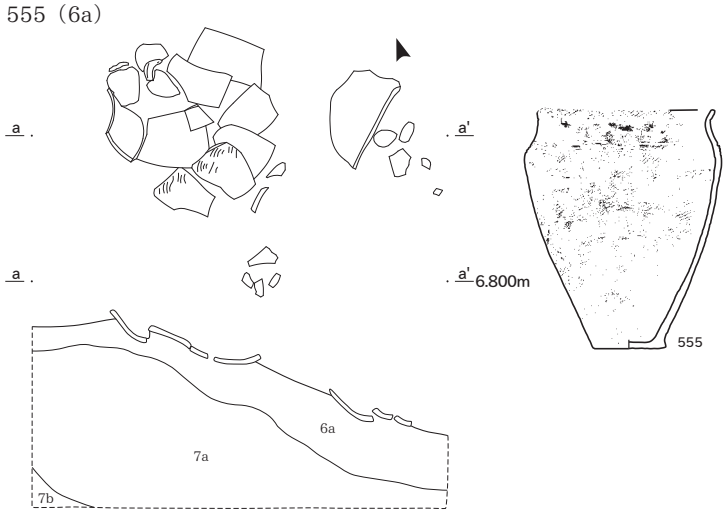
547（3a）

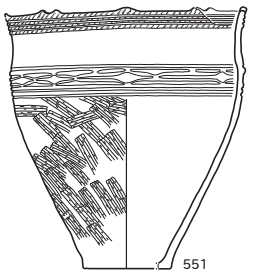


551（3h）



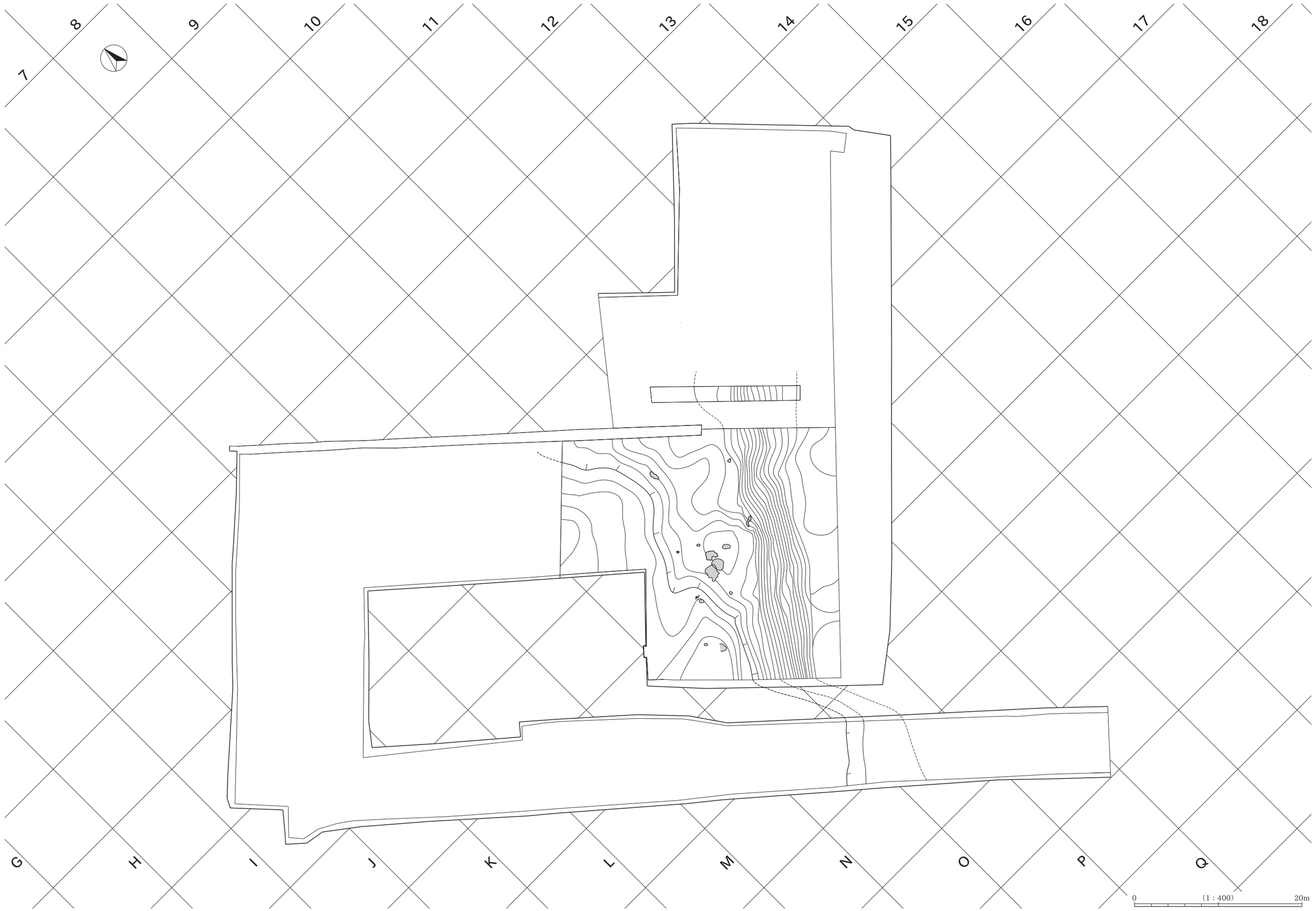
555（6a）

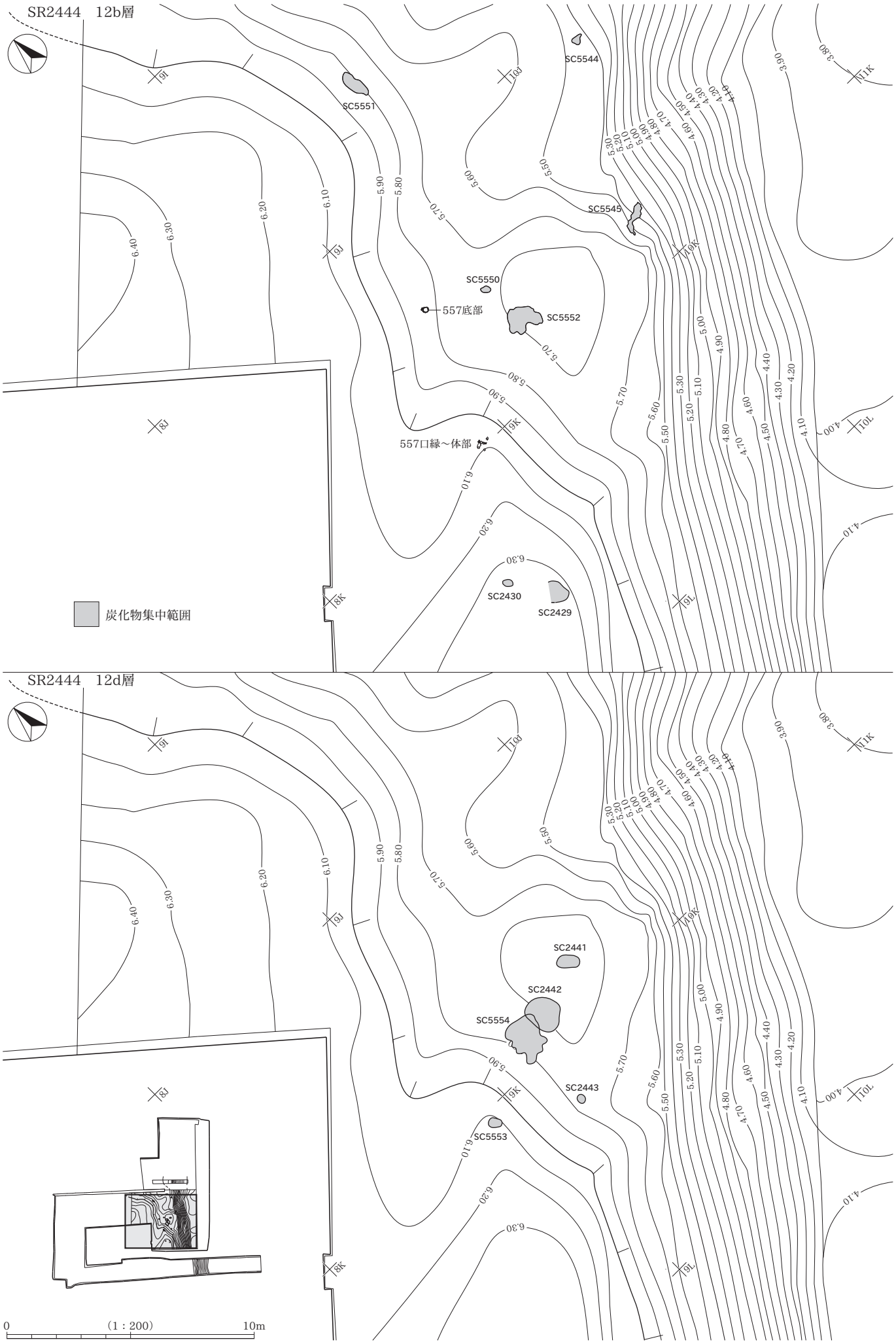




0　土器（1：20）　1m

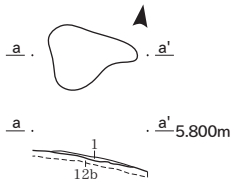
0　SC（1：40）　2m


7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
G
H
I
J
K
L
M
N
O
P
Q
0
(1 : 400)
20m


SR2444　12b層
SC5544
SC5551
SC5545
SC5550
557底部
SC5552
557口縁～体部
SC2430
SC2429
炭化物集中範囲
SR2444　12d層
SC2441
SC2442
SC5554
SC2443
SC5553
0
(1 : 200)
10m

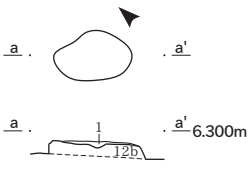
縄文下層遺構個別図（1）炭化物集中範囲　遺物出土状況図

SC5544（12b）



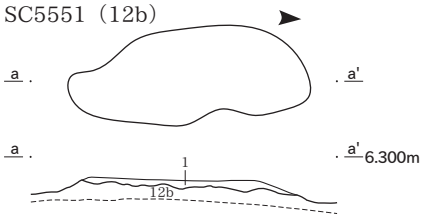
SC5544
1　10YR8/4浅黄橙色砂質土　粘性弱・しまり中。径10mm以下の炭化物中量含。

SC5550（12b）



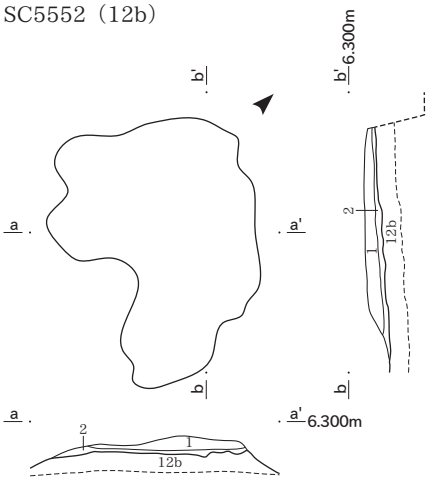
SC5550
1　10YR8/4浅黄橙色シルト　粘性・しまり中。径10mm以下の炭化物中量含。

SC5551（12b）



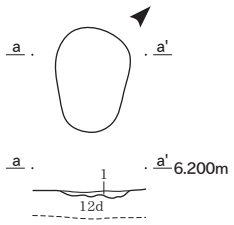
SC5551
1　10YR8/4浅黄橙色シルト　粘性・しまり中。径10mm以下の炭化物中量含。

SC5552（12b）



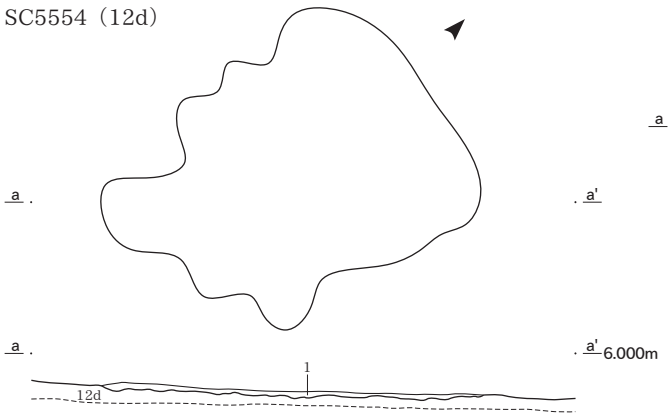
SC5552
1　10YR8/3浅黄橙色砂質土　粘性弱・しまり中。径10mm以下の炭化物少量含。
2　5YR7/4にぶい橙色砂質シルト　粘性やや弱・しまり中。径10mm以下の炭化物中量含。焼土層。

SC5553（12d）



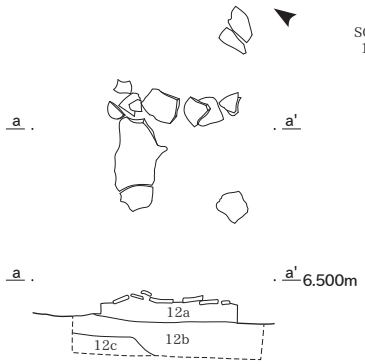
SC5553
1　10YR3/1黒褐色砂質シルト　粘性やや弱・しまり中。炭層。

SC5554（12d）

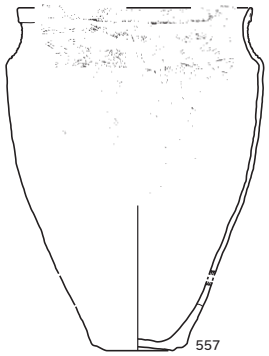


SC5554
1　10YR8/6黄橙色シルト　粘性・しまり中。径10mm以下の炭化物中量含。

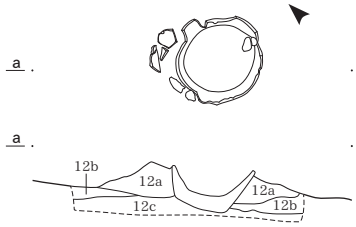
557口縁～体部（12a）



SR2444



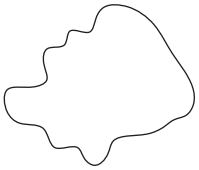
557底部（12a）



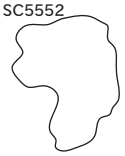
SC5553

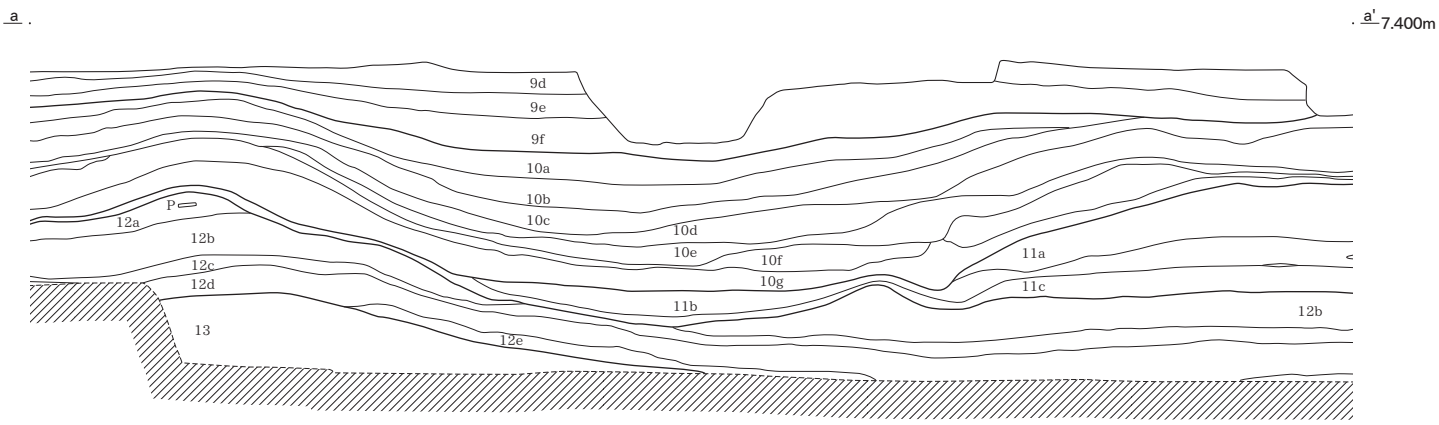
SC5550

SC5554



SC5552





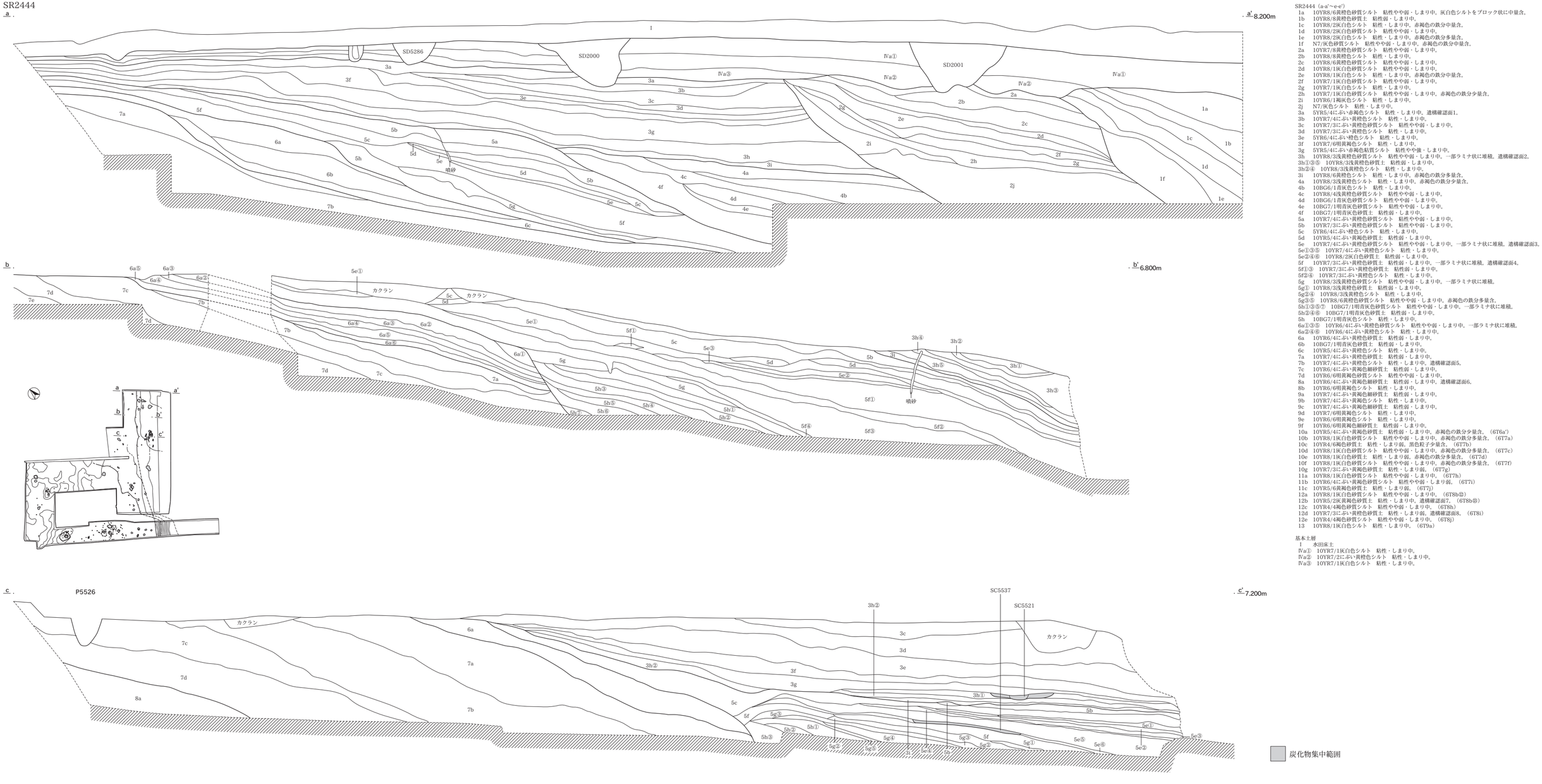
SR2444
9d　10YR7/6明黄褐色シルト　粘性・しまり中。
9e　10YR6/6明黄褐色シルト　粘性・しまり中。
9f　10YR6/6明黄褐色細砂質土　粘性弱・しまり中。
10a　10YR5/4にぶい黄褐色砂質土　粘性弱・しまり中。赤褐色の鉄分少量含。（6T6a'）
10b　10YR8/1灰白色砂質シルト　粘性やや弱・しまり中。赤褐色の鉄分多量含。（6T7a）
10c　10YR4/6褐色砂質土　粘性・しまり弱。黒色粒子少量含。（6T7b）
10d　10YR8/1灰白色砂質シルト　粘性やや弱・しまり中。赤褐色の鉄分多量含。（6T7c）
10e　10YR8/1灰白色砂質土　粘性・しまり弱。赤褐色の鉄分多量含。（6T7d）
10f　10YR8/1灰白色砂質シルト　粘性やや弱・しまり中。赤褐色の鉄分多量含。（6T7f）
10g　10YR7/3にぶい黄褐色砂質土　粘性・しまり弱。（6T7g）
11a　10YR8/1灰白色砂質シルト　粘性やや弱・しまり中。（6T7h）
11b　10YR6/4にぶい黄褐色砂質シルト　粘性やや弱・しまり弱。（6T7i）
11c　10YR5/6黄褐色砂質土　粘性・しまり弱。（6T7j）
12a　10YR8/1灰白色砂質シルト　粘性やや弱・しまり中。（6T8b⑫）
12b　10YR5/2灰黄褐色砂質土　粘性・しまり中。遺構確認面7。（6T8b⑬）
12c　10YR4/4褐色砂質シルト　粘性やや弱・しまり中。（6T8h）
12d　10YR7/3にぶい黄橙色砂質土　粘性・しまり弱。遺構確認面8。（6T8i）
12e　10YR4/4褐色砂質シルト　粘性やや弱・しまり中。（6T8j）
13　10YR8/1灰白色シルト　粘性・しまり中。（6T9a）

0　土器（1：20）　1m

0　SC・SR2444断面図（1：40）　2m

縄文下層遺構個別図（2）旧河道

SR2444

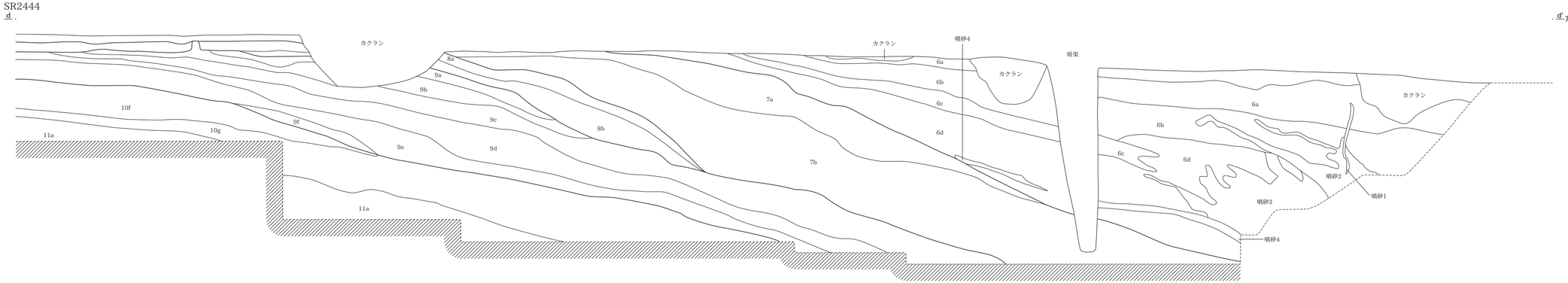


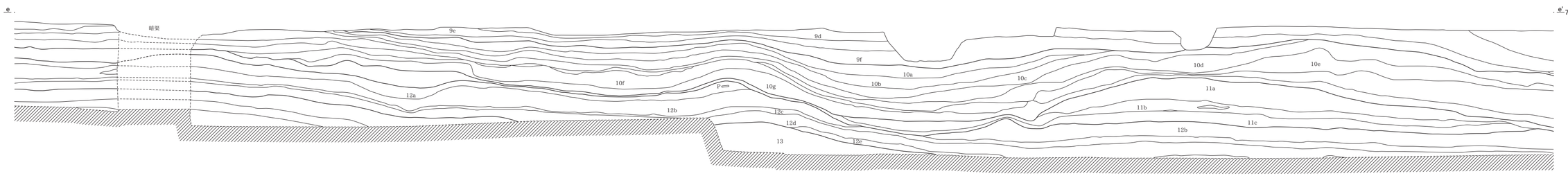
SR2444（a-a'～e-e'）

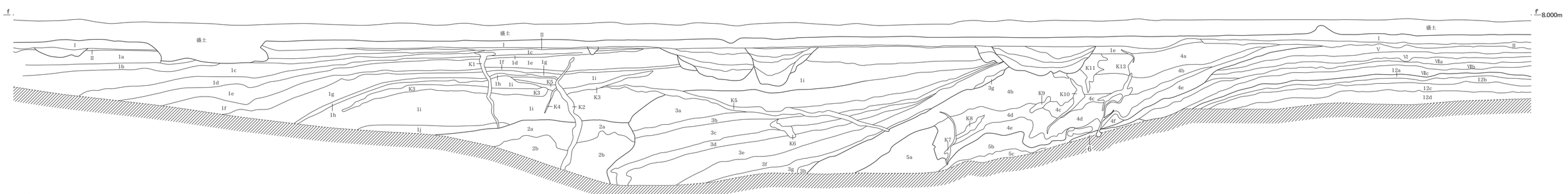
1a　10YR8/6黄橙色砂質シルト　粘性やや弱・しまり中。灰白色シルトをブロック状に中量含。
1b　10YR8/8黄橙色砂質土　粘性弱・しまり中。
1c　10YR8/2灰白色シルト　粘性・しまり中。赤褐色の鉄分中量含。
1d　10YR8/2灰白色砂質シルト　粘性やや弱・しまり中。
1e　10YR8/2灰白色シルト　粘性・しまり中。赤褐色の鉄分多量含。
1f　N7/灰色砂質シルト　粘性やや弱・しまり中。赤褐色の鉄分中量含。
2a　10YR7/8黄橙色砂質シルト　粘性やや弱・しまり中。
2b　10YR8/8黄橙色シルト　粘性・しまり中。
2c　10YR8/6黄橙色砂質シルト　粘性やや弱・しまり中。
2d　10YR8/1灰白色砂質シルト　粘性やや弱・しまり中。
2e　10YR8/1灰白色シルト　粘性・しまり中。赤褐色の鉄分中量含。
2f　10YR7/1灰白色砂質シルト　粘性やや弱・しまり中。
2g　10YR7/1灰白色シルト　粘性・しまり中。
2h　10YR7/1灰白色砂質シルト　粘性やや弱・しまり中。赤褐色の鉄分少量含。
2i　10YR6/1褐灰色シルト　粘性・しまり中。
2j　N7/灰色シルト　粘性・しまり中。
3a　5YR5/4にぶい赤褐色シルト　粘性・しまり中。遺構確認面1。
3b　10YR7/4にぶい黄橙色シルト　粘性・しまり中。
3c　10YR7/3にぶい黄橙色砂質シルト　粘性やや弱・しまり中。
3d　10YR7/3にぶい黄橙色シルト　粘性・しまり中。
3e　5YR6/4にぶい橙色シルト　粘性・しまり中。
3f　10YR7/6明黄褐色シルト　粘性・しまり中。
3g　5YR5/4にぶい赤褐色粘質シルト　粘性やや強・しまり中。
3h　10YR8/3浅黄橙色砂質シルト　粘性やや弱・しまり中。一部ラミナ状に堆積。遺構確認面2。
3h①③⑤　10YR8/3浅黄橙色砂質土　粘性弱・しまり中。
3h②④　10YR8/3浅黄橙色シルト　粘性・しまり中。
3i　10YR8/6黄橙色シルト　粘性・しまり中。赤褐色の鉄分多量含。
4a　10YR8/3浅黄橙色シルト　粘性・しまり中。赤褐色の鉄分少量含。
4b　10BG6/1青灰色シルト　粘性・しまり中。
4c　10YR8/4浅黄橙色砂質シルト　粘性やや弱・しまり中。
4d　10BG6/1青灰色砂質シルト　粘性やや弱・しまり中。
4e　10BG7/1明青灰色砂質シルト　粘性やや弱・しまり中。
4f　10BG7/1明青灰色砂質土　粘性弱・しまり中。
5a　10YR7/4にぶい黄橙色砂質シルト　粘性やや弱・しまり中。
5b　10YR7/3にぶい黄橙色砂質シルト　粘性やや弱・しまり中。
5c　5YR6/4にぶい橙色シルト　粘性・しまり中。
5d　10YR5/4にぶい黄褐色砂質土　粘性弱・しまり中。
5e　10YR7/4にぶい黄橙色砂質シルト　粘性やや弱・しまり中。一部ラミナ状に堆積。遺構確認面3。
5e①③⑤　10YR7/4にぶい黄橙色シルト　粘性・しまり中。
5e②④⑥　10YR8/2灰白色砂質土　粘性弱・しまり中。
5f　10YR7/3にぶい黄橙色砂質土　粘性弱・しまり中。一部ラミナ状に堆積。遺構確認面4。
5f①③　10YR7/3にぶい黄橙色砂質土　粘性弱・しまり中。
5f②④　10YR7/3にぶい黄橙色シルト　粘性・しまり中。
5g　10YR8/3浅黄橙色砂質シルト　粘性やや弱・しまり中。一部ラミナ状に堆積。
5g①　10YR8/3浅黄橙色砂質土　粘性弱・しまり中。
5g②④　10YR8/3浅黄橙色シルト　粘性・しまり中。
5g③⑤　10YR8/6黄橙色砂質シルト　粘性やや弱・しまり中。赤褐色の鉄分多量含。
5h①③⑤⑦　10BG7/1明青灰色砂質シルト　粘性やや弱・しまり中。一部ラミナ状に堆積。
5h②④⑥　10BG7/1明青灰色砂質土　粘性弱・しまり中。
5h　10BG7/1明青灰色シルト　粘性・しまり中。
6a①③⑤　10YR6/4にぶい黄橙色砂質シルト　粘性やや弱・しまり中。一部ラミナ状に堆積。
6a②④⑥　10YR6/4にぶい黄橙色シルト　粘性・しまり中。
6a　10YR6/4にぶい黄橙色砂質土　粘性弱・しまり中。
6b　10BG7/1明青灰色砂質土　粘性弱・しまり中。
6c　10YR5/4にぶい黄橙色シルト　粘性・しまり中。
7a　10YR7/4にぶい黄橙色砂質土　粘性弱・しまり中。
7b　10YR7/4にぶい黄橙色シルト　粘性・しまり中。遺構確認面5。
7c　10YR6/4にぶい黄褐色細砂質土　粘性弱・しまり中。
7d　10YR6/6明黄褐色砂質シルト　粘性やや弱・しまり中。
8a　10YR6/4にぶい黄褐色細砂質土　粘性弱・しまり中。遺構確認面6。
8b　10YR6/6明黄褐色シルト　粘性・しまり中。
9a　10YR7/4にぶい黄褐色細砂質土　粘性弱・しまり中。
9b　10YR7/4にぶい黄褐色シルト　粘性・しまり中。
9c　10YR7/4にぶい黄褐色細砂質土　粘性弱・しまり中。
9d　10YR7/6明黄褐色シルト　粘性・しまり中。
9e　10YR6/6明黄褐色シルト　粘性・しまり中。
9f　10YR6/6明黄褐色細砂質土　粘性弱・しまり中。
10a　10YR5/4にぶい黄褐色砂質土　粘性弱・しまり中。赤褐色の鉄分少量含。（6T6a'）
10b　10YR8/1灰白色砂質シルト　粘性やや弱・しまり中。赤褐色の鉄分多量含。（6T7a）
10c　10YR4/6褐色砂質土　粘性・しまり弱。黒色粒子少量含。（6T7b）
10d　10YR8/1灰白色砂質シルト　粘性やや弱・しまり中。赤褐色の鉄分多量含。（6T7c）
10e　10YR8/1灰白色砂質土　粘性・しまり弱。赤褐色の鉄分多量含。（6T7d）
10f　10YR8/1灰白色砂質シルト　粘性やや弱・しまり中。赤褐色の鉄分多量含。（6T7f）
10g　10YR7/3にぶい黄褐色砂質土　粘性・しまり弱。（6T7g）
11a　10YR8/1灰白色砂質シルト　粘性やや弱・しまり中。（6T7h）
11b　10YR6/4にぶい黄褐色砂質シルト　粘性やや弱・しまり弱。（6T7i）
11c　10YR5/6黄褐色砂質土　粘性・しまり弱。（6T7j）
12a　10YR8/1灰白色砂質シルト　粘性やや弱・しまり中。（6T8b②）
12b　10YR5/2灰黄褐色砂質土　粘性・しまり中。遺構確認面7。（6T8b③）
12c　10YR4/4褐色砂質シルト　粘性やや弱・しまり中。（6T8h）
12d　10YR7/3にぶい黄橙色砂質土　粘性・しまり弱。遺構確認面8。（6T8i）
12e　10YR4/4褐色砂質シルト　粘性やや弱・しまり中。（6T8j）
13　10YR8/1灰白色シルト　粘性・しまり中。（6T9a）

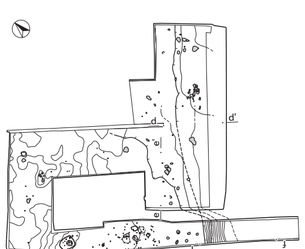
基本土層
1　水田床土
Ⅳa①　10YR7/1灰白色シルト　粘性・しまり中。
Ⅳa②　10YR7/2にぶい黄橙色シルト　粘性・しまり中。
Ⅳa③　10YR7/1灰白色シルト　粘性・しまり中。

SR2444









SR2444（d-d'）
- 噴砂1　10YR7/6明黄褐色粘土　粘性強・しまり中。
- 噴砂2　2.5Y8/2灰白色細砂　粘性弱・しまり中。
- 噴砂3　10YR7/1灰白色細砂　粘性やや弱・しまり中。灰白色シルトブロック含。
- 噴砂4　N6/灰色細砂　粘性・しまり中。灰色シルト筋状に含。

基本土層
- I　水田床土
- II　10YR5/2灰黄褐色シルト　粘性弱・しまり強。
- V　2.5Y7/4浅黄色シルト　粘性・しまり中。
- VI　7.5YR4/1褐灰色シルト　粘性弱・しまり中。明褐灰色シルトブロック多量含。
- VIIa　2.5Y7/2灰黄色シルト　粘性・しまり中。微細な炭化粒を少量含。
- VIIb　2.5Y8/4淡黄色シルト　粘性弱・しまり中。
- VIIc　2.5Y7/6明黄褐色シルト　粘性弱・しまり中。砂質分多い。

SR2444（f-f'）
- 1a　2.5Y8/4浅黄色シルト　粘性・しまり中。
- 1b　2.5Y8/2灰白色細砂　粘性弱・しまり中。
- 1c　2.5Y7/2灰黄色シルト　粘性・しまり中。
- 1d　10YR8/4浅黄橙色細砂　粘性弱・しまり中。
- 1e　2.5Y8/2灰白色粘土　粘性強・しまり中。
- 1f　10YR7/6明黄褐色細砂　粘性弱・しまり中。粘土を筋状に含。
- 1g　2.5Y7/3浅黄色シルト　粘性・しまり中。砂を筋状に含。
- 1h　2.5Y7/6明黄褐色細砂　粘性・しまり弱。
- 1i　2.5Y7/3浅黄色シルト　粘性・しまり中。砂を筋状に多量含。
- 1j　10YR6/4にぶい黄橙色細砂　粘性弱・しまり中。
- 2a　5Y7/1灰白色シルト　粘性・しまり中。砂を筋状に多量含。
- 2b　5B6/1青灰色シルト　粘性中・しまり強。
- 3a　10YR7/6明黄褐色シルト　粘性・しまり中。砂質分多い。
- 3b　2.5Y7/3浅黄色粘土　粘性強・しまり中。
- 3c　10YR7/4にぶい黄橙色細砂　粘性・しまり中。シルトを筋状に中量含。
- 3d　10YR7/4にぶい黄橙色細砂　粘性弱・しまり中。シルトを筋状に少量含。
- 3e　10YR7/4にぶい黄橙色シルト　粘性・しまり中。砂を筋状に中量含。
- 3f　5Y7/1灰白色シルト　粘性・しまり中。砂を筋状に多量含。
- 3g　2.5Y3/1黒褐色シルト　粘性強・しまり中。
- 3h　10BG7/1明青灰色細砂　粘性中・しまり強。
- 4a　2.5Y8/3淡黄色シルト　粘性・しまり中。
- 4b　10YR7/6明黄褐色粘土　粘性強・しまり中。波紋状の筋を多数含。
- 4c　10YR6/4にぶい黄橙色シルト　粘性・しまり中。波紋状の筋を多数含。
- 4d　2.5Y7/4浅黄色シルト　粘性・しまり中。砂質分多い。波紋状の筋を多数含。
- 4e　10YR8/3淡黄色シルト　粘性・しまり中。波紋状の筋を多数含。
- 4f　2.5Y7/6明黄褐色シルト　粘性強・しまり中。波紋状の筋を多数含。
- 5a　2.5Y7/2灰黄色シルト　粘性中・しまり強。波紋状の筋を多数含。
- 5b　2.5Y7/4浅黄色シルト　粘性・しまり中。波紋状の筋を多数含。
- 5c　5B6/1青灰色シルト　粘性中・しまり強。波紋状の筋を多数含。
- 6　10YR6/4にぶい黄橙色細砂　粘性・しまり中。
- K1　10YR7/4にぶい黄橙色細砂　粘性弱・しまり中。
- K2　10YR7/4にぶい黄橙色細砂　粘性弱・しまり中。
- K3　10YR7/6明黄褐色細砂　粘性・しまり弱。
- K4　10YR7/4にぶい黄橙色細砂　粘性・しまり中。
- K5　2.5Y8/4浅黄色細砂　粘性弱・しまり中。
- K6　2.5Y8/2灰白色細砂　粘性弱・しまり中。
- K7　10YR7/6明黄褐色細砂　粘性弱・しまり中。
- K8　10YR7/6明黄褐色細砂　粘性弱・しまり中。
- K9　10YR6/6明黄褐色細砂　粘性弱・しまり中。
- K10　10YR6/6明黄褐色細砂　粘性弱・しまり中。
- K11　10YR6/6明黄褐色細砂　粘性弱・しまり中。
- K12　10YR6/6明黄褐色細砂　粘性弱・しまり中。
- K13　10YR6/6明黄褐色細砂　粘性弱・しまり中。
- 12a　10YR8/1灰白色砂質シルト　粘性やや弱・しまり中。（6T8b登）
- 12b　10YR5/2灰黄褐色砂質土　粘性・しまり中。遺構確認面7。（6T8b登）
- 12c　10YR4/4褐色砂質シルト　粘性やや弱・しまり中。（6T8h）
- 12d　10YR7/3にぶい黄橙色砂質土　粘性・しまり弱。遺構確認面8。（6T8i）

0　d-d'・f-f'（1：60）　3m

0　e-e'（1：40）　2m

SB51（1・2）

SB57（3・4）

SE5401（6～11）

SK5400（5）

SE5100・SE5101・SE5130・SD5132・SD5260（16）

SE5100（12～15）

SE5101（17～25）

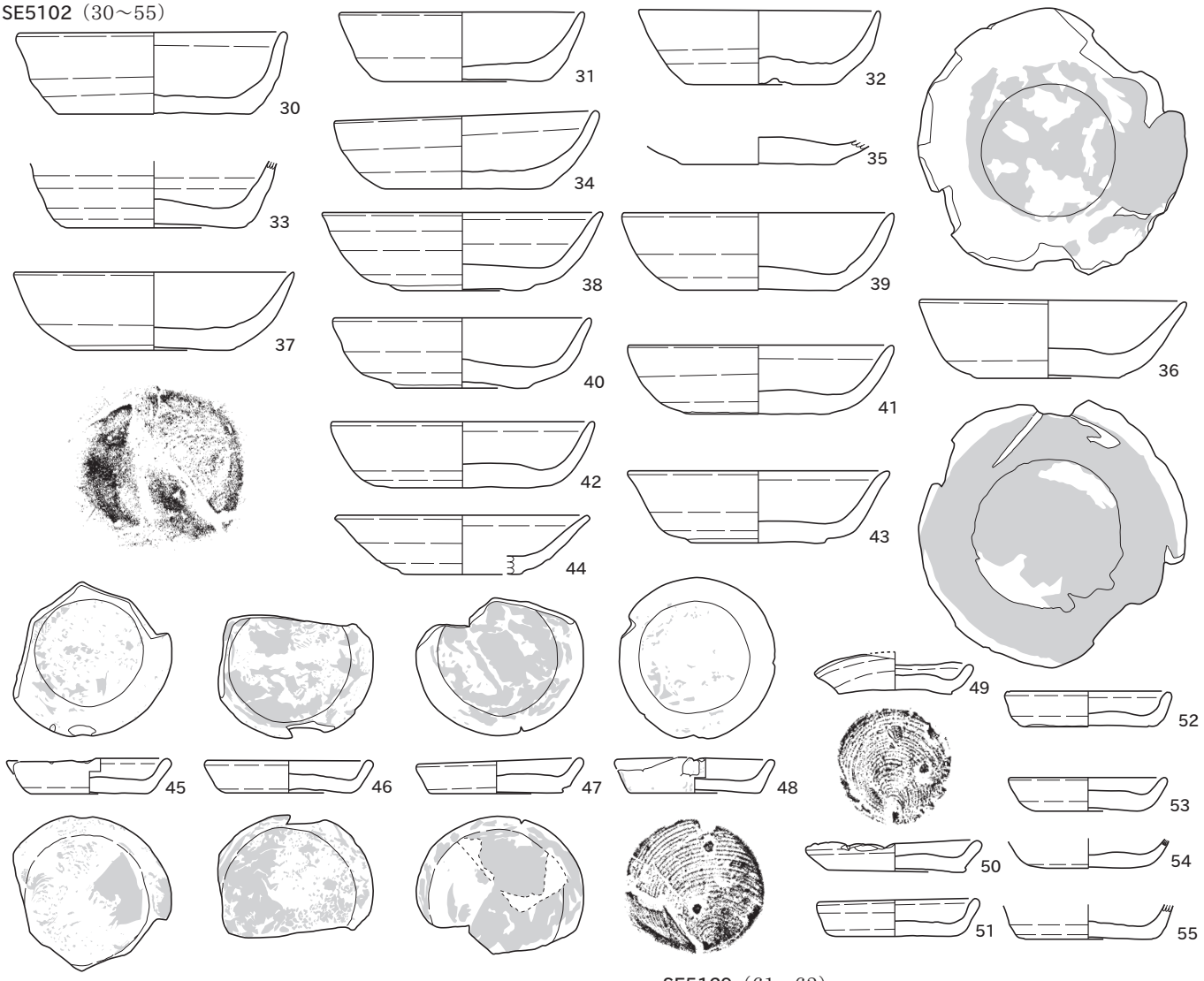
SE5102（26～29）

打ち欠き

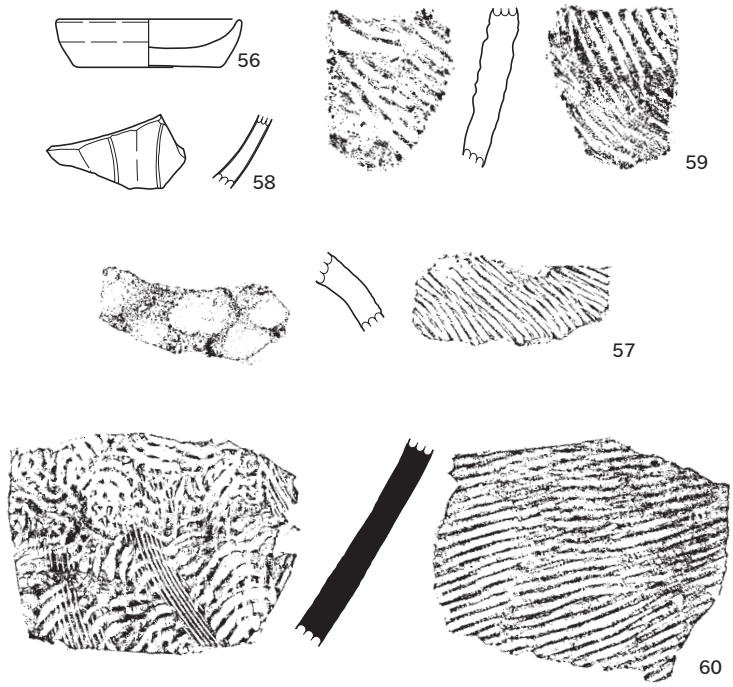
煤

0　15cm（1:3）

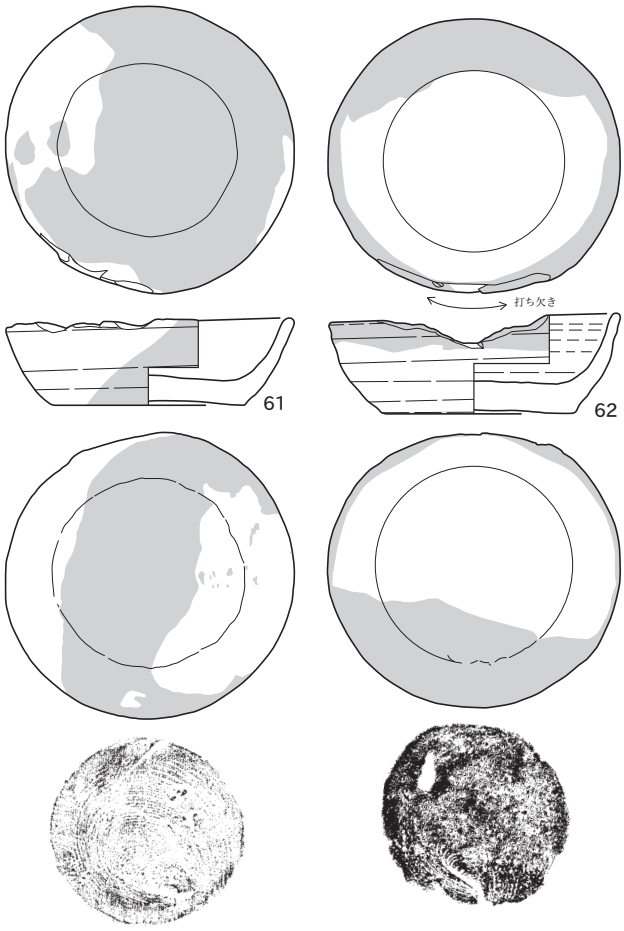
SE5102（30～55）



SE5126（56～60）

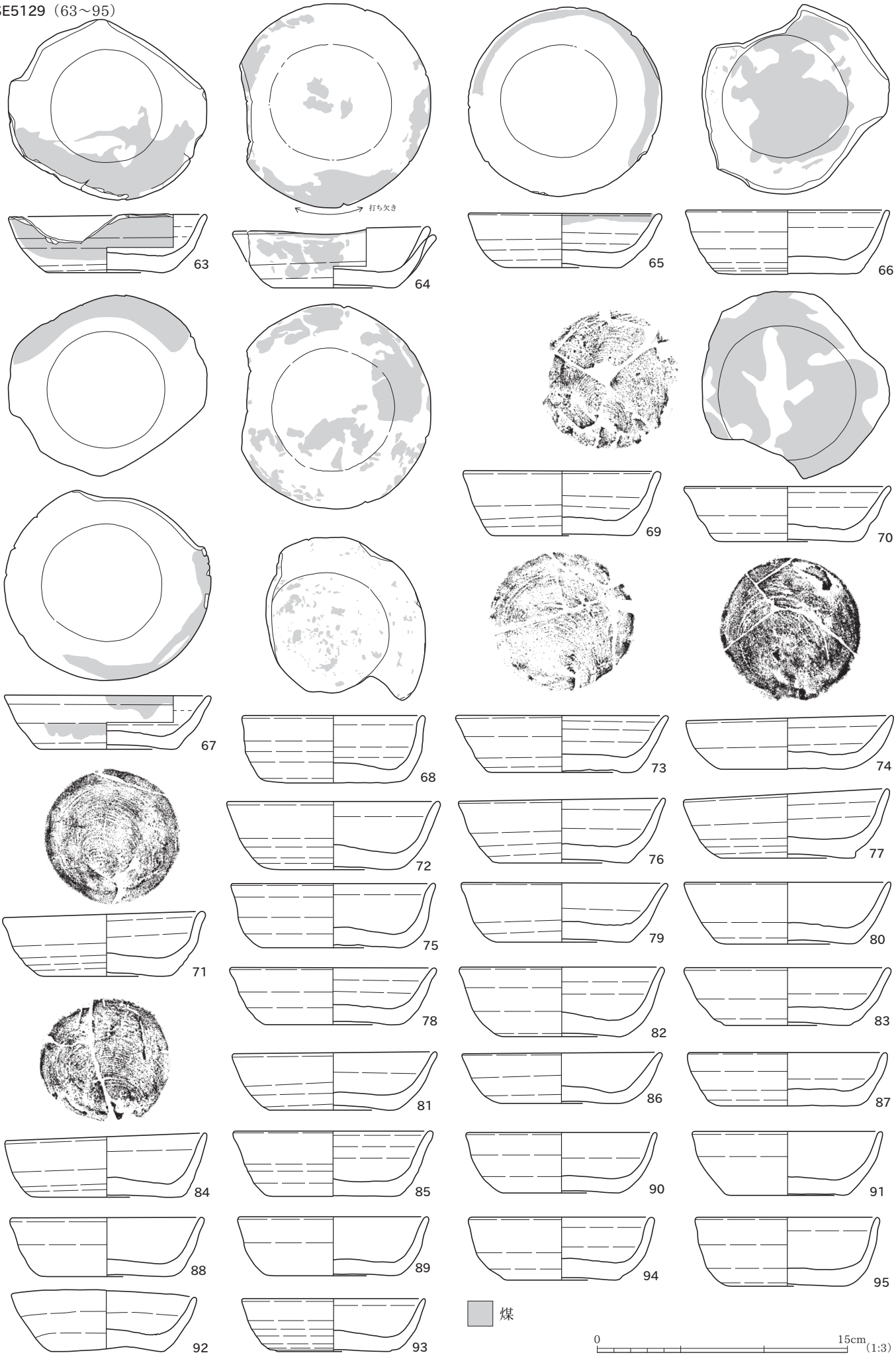


SE5129（61・62）

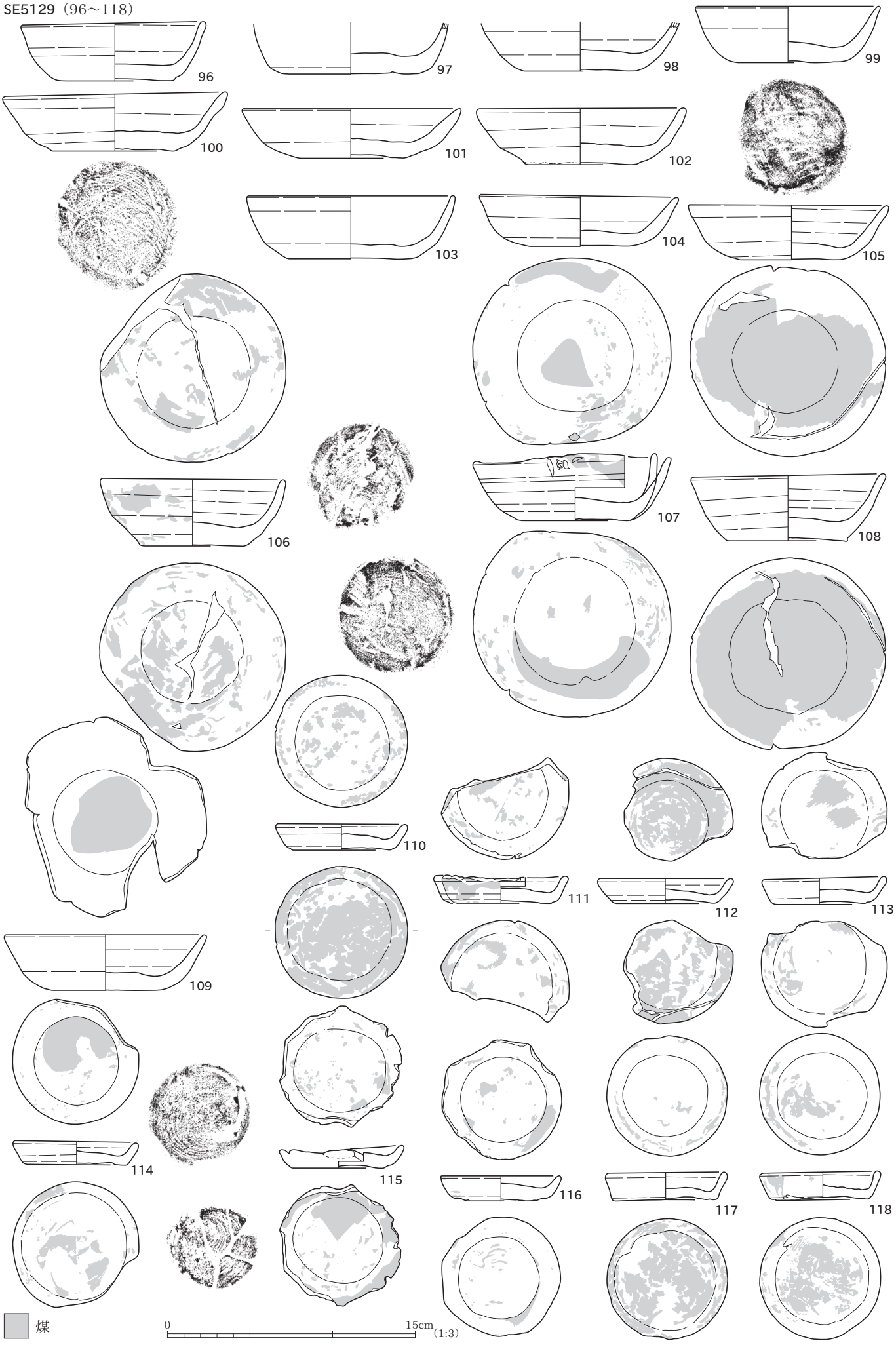


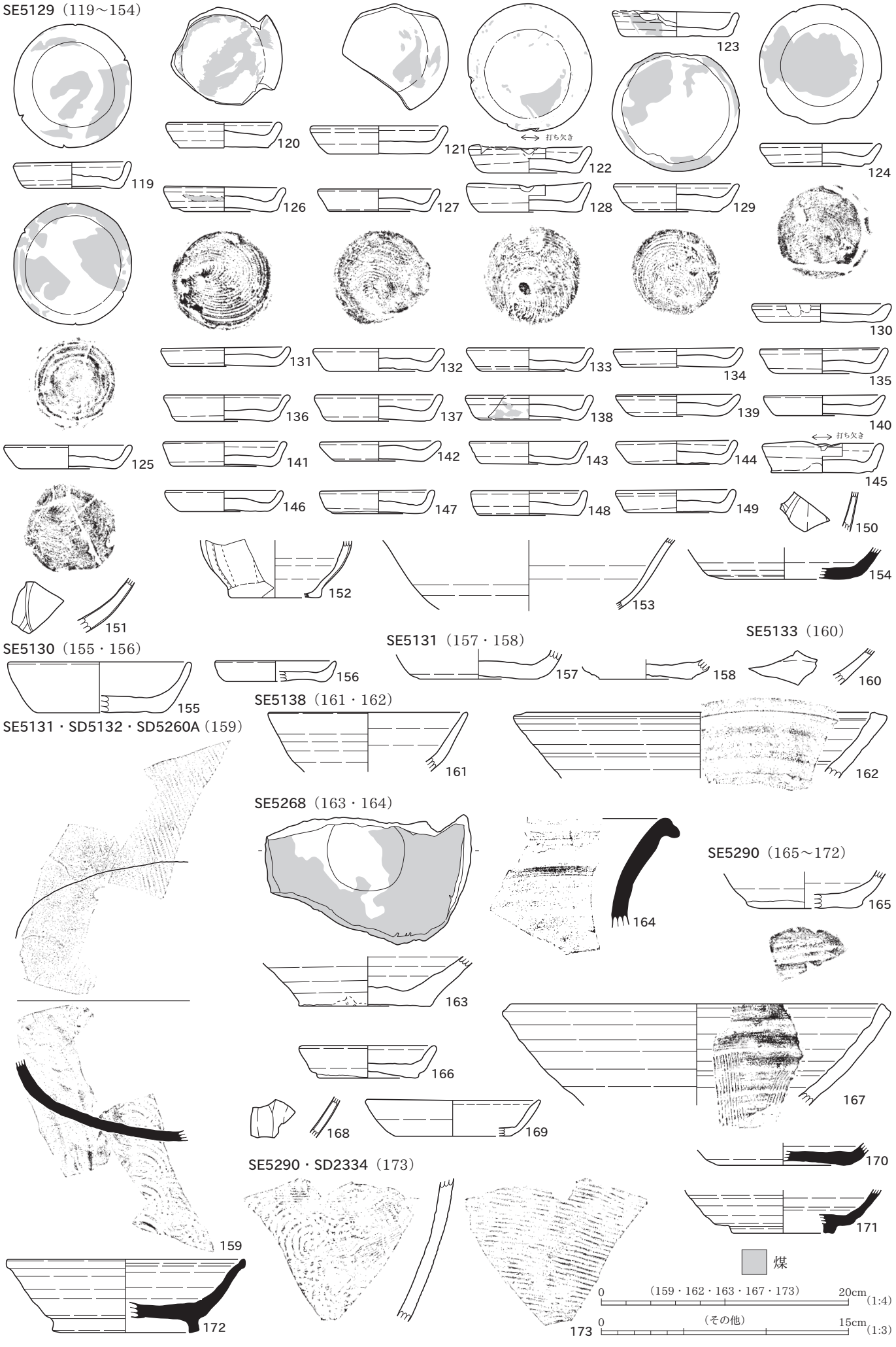
0　15cm（1:3）　煤

SE5129（63～95）

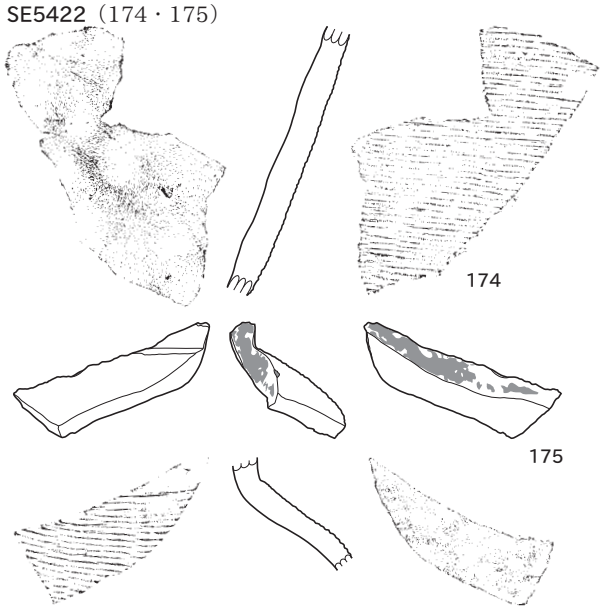

打ち欠き
63
64
65
66
67
68
69
70
71
72
73
74
75
76
77
78
79
80
81
82
83
84
85
86
87
88
89
90
91
92
93
94
95
煤
0
15cm
(1:3)

SE5129（96～118）



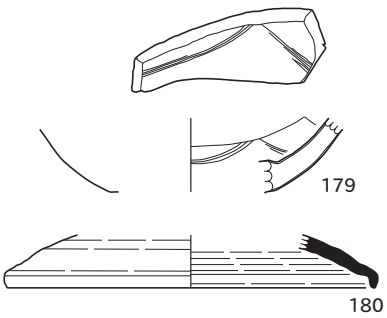

SE5129（119～154）
119
120
121
122
123
124
126
127
128
129
130
131
132
133
134
135
136
137
138
139
140
125
141
142
143
144
145
146
147
148
149
150
151
152
153
154
SE5130（155・156）
155
156
SE5131（157・158）
157
158
SE5133（160）
160
SE5138（161・162）
161
162
SE5131・SD5132・SD5260A（159）
159
SE5268（163・164）
163
164
166
168
169
SE5290（165～172）
165
167
170
171
172
SE5290・SD2334（173）
173
打ち欠き
煤
0
（159・162・163・167・173）
20cm
(1:4)
0
（その他）
15cm
(1:3)

SE5422（174・175）

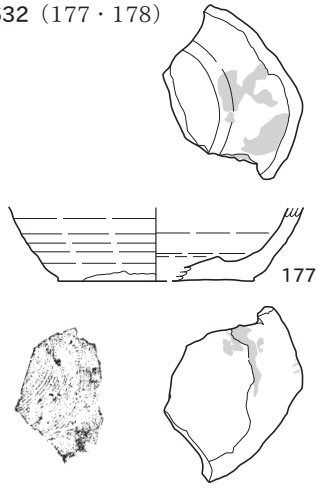


SE5631（176）

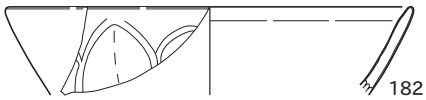
SE5716（179・180）



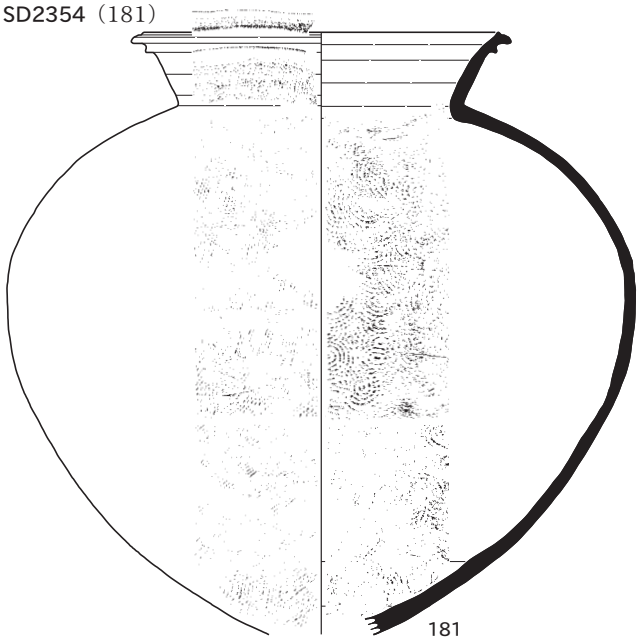
SE5632（177・178）



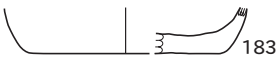
SK5284（182）



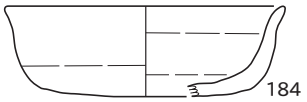
SK5201・SD2332・SD5209・SD5216・SD5219・SD5260A・SD2354（181）



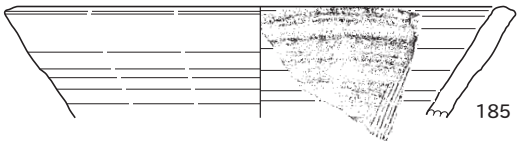
SK5368（183）



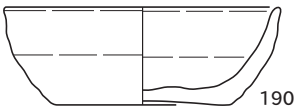
SK5630（184）



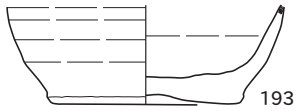
SK5267（185～187）



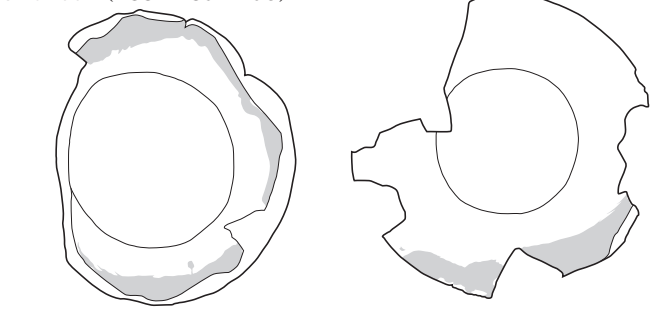
SD5260A・C（190）

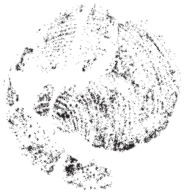


SD5260A・C（192・193）

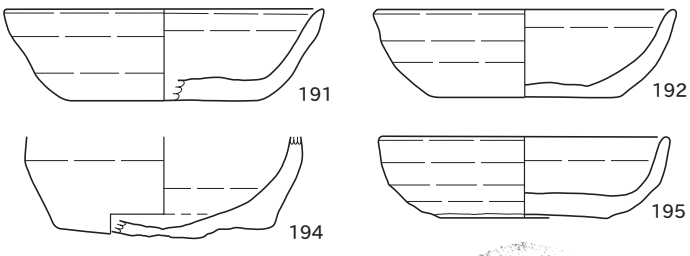


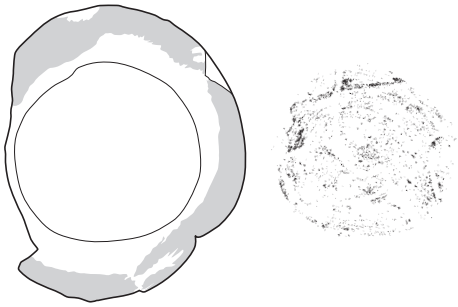
SD5260A（188・189・195）

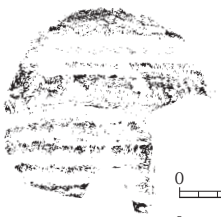


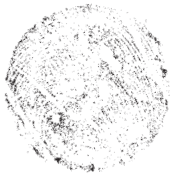


SD5260B（191・194）

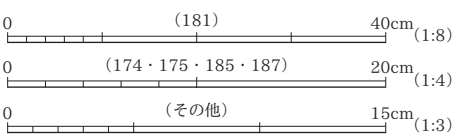




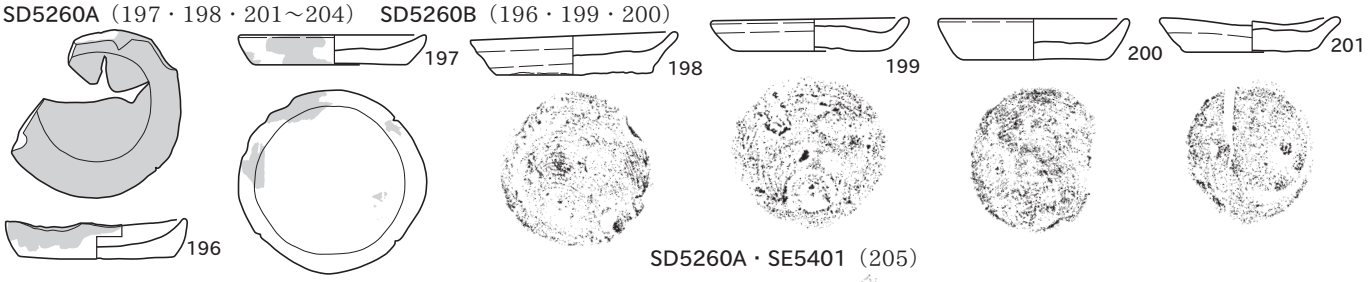




漆　煤

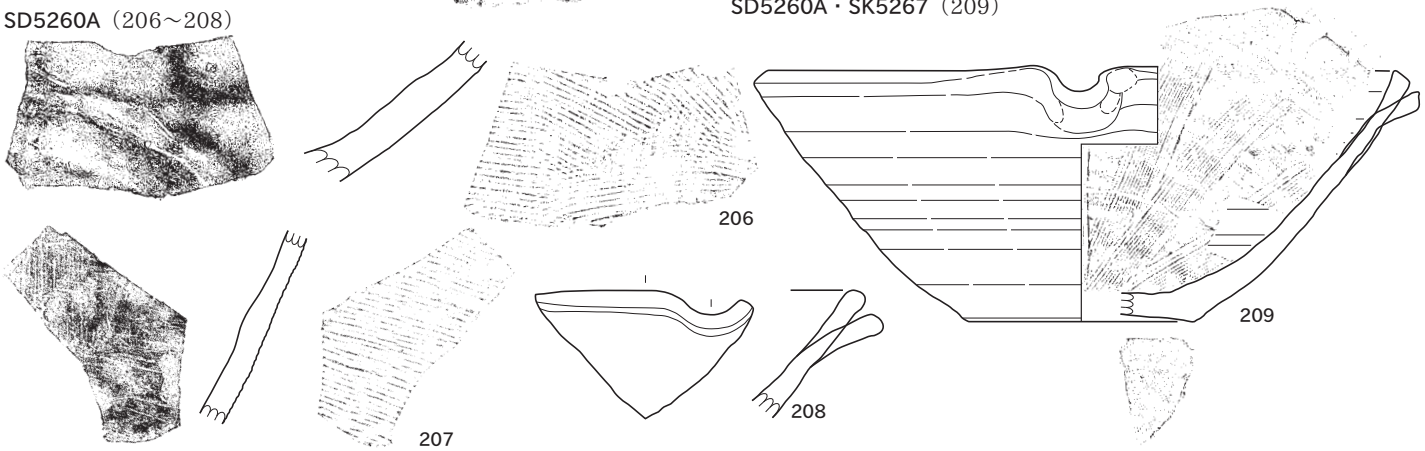


SD5260A（197・198・201～204）　SD5260B（196・199・200）

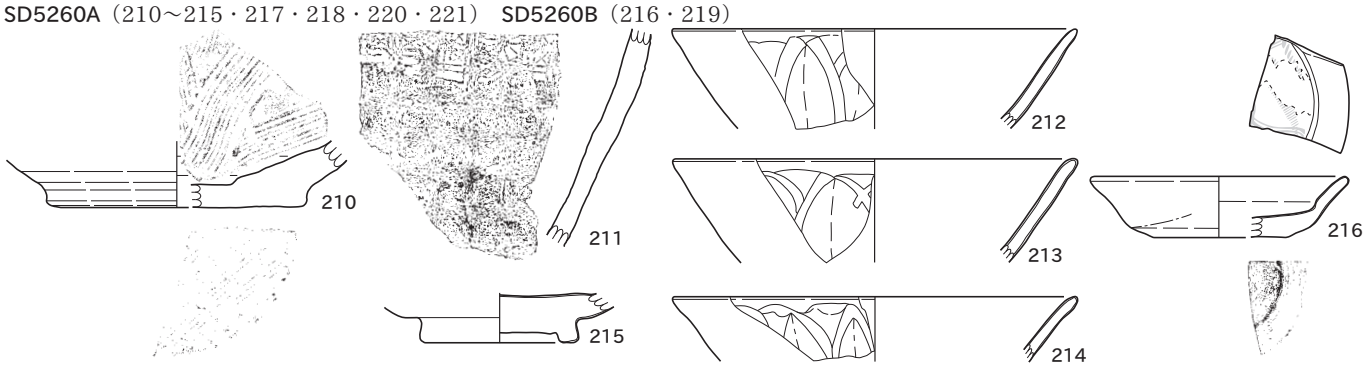


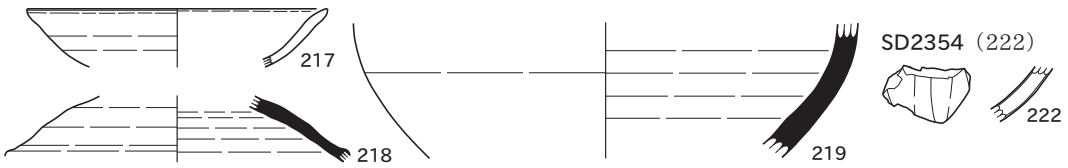
SD5260A・SE5401（205）

SD5260A（206～208）　SD5260A・SK5267（209）



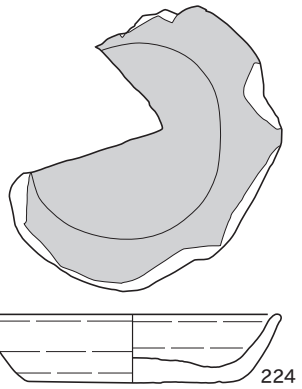
SD5260A（210～215・217・218・220・221）　SD5260B（216・219）



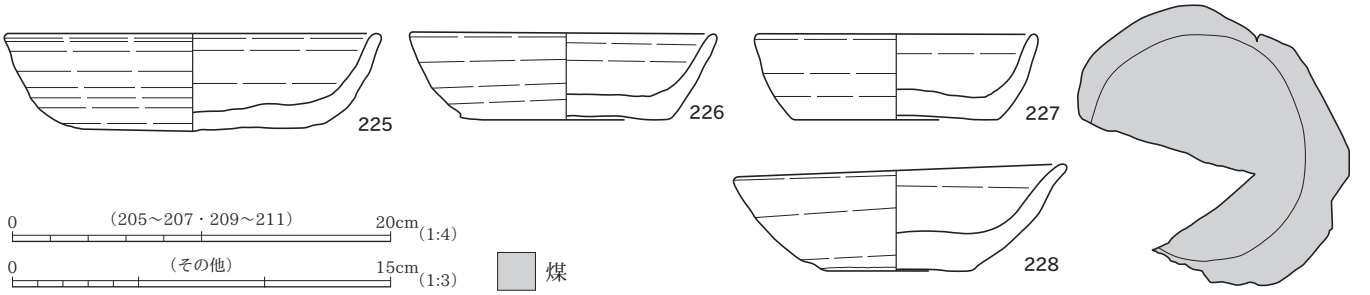


SD2354（222）

SD5132（224～228）



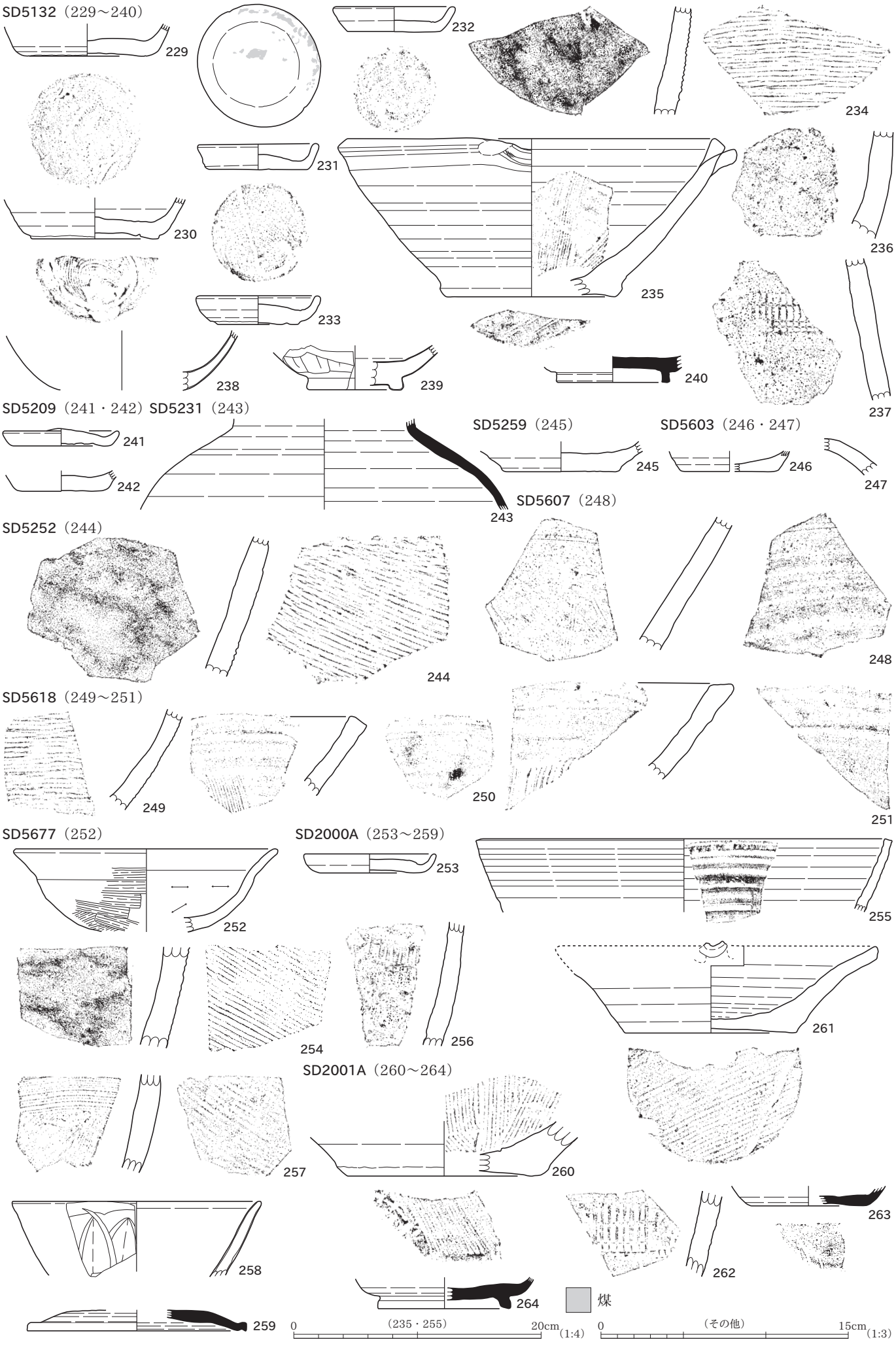
SD3072（223）

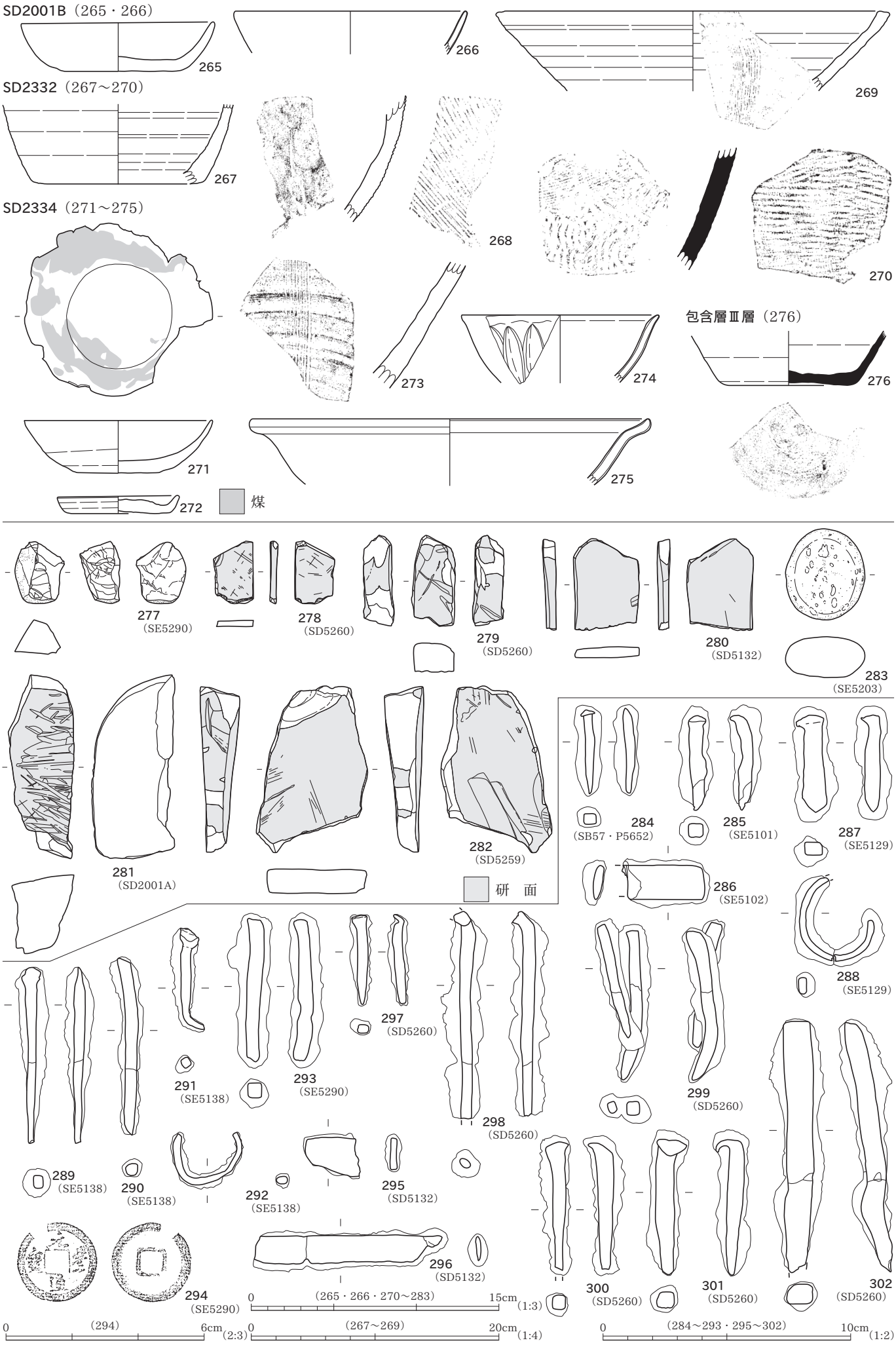


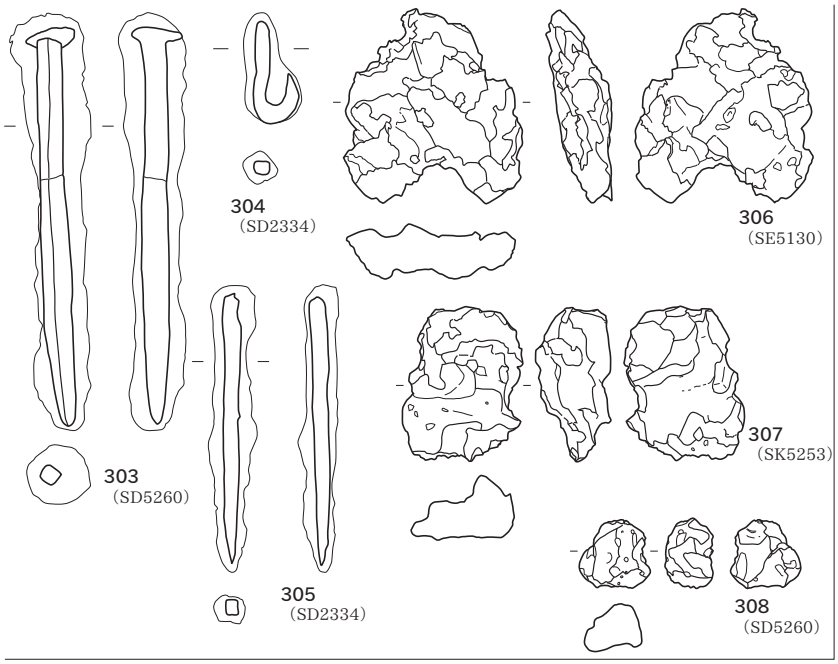
0　（205～207・209～211）　20cm（1:4）

0　（その他）　15cm（1:3）

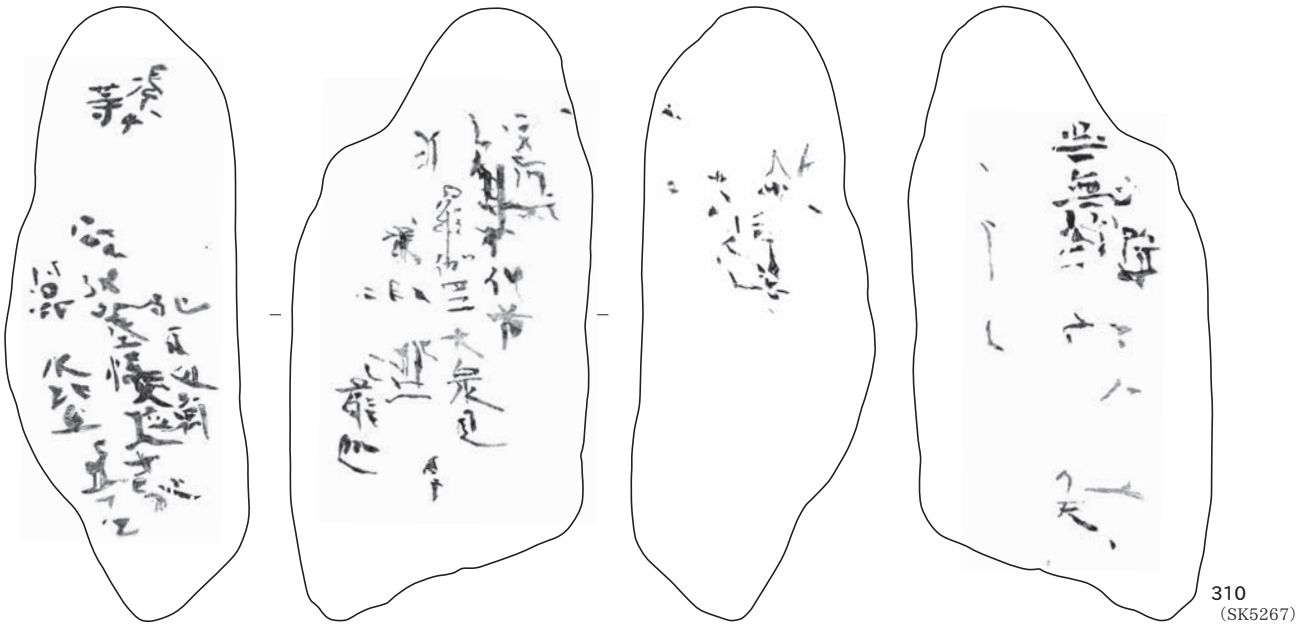
煤

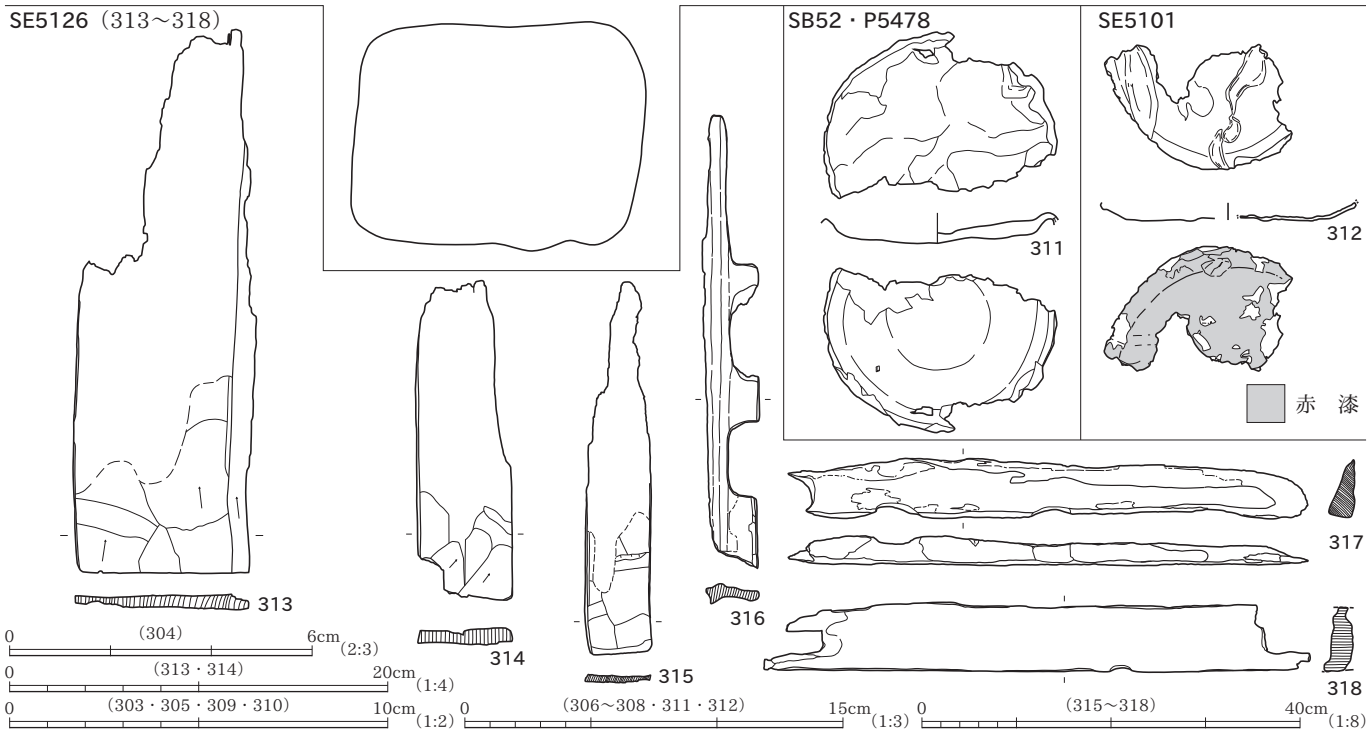

SD5132（229～240）
229
232
234
231
230
236
235
233
237
238
239
240
SD5209（241・242）
SD5231（243）
SD5259（245）
SD5603（246・247）
241
242
243
245
246
247
SD5607（248）
SD5252（244）
244
248
SD5618（249～251）
249
250
251
SD5677（252）
SD2000A（253～259）
252
253
255
254
256
261
SD2001A（260～264）
257
260
258
263
262
264
259
煤
0　（235・255）　20cm（1:4）
0　（その他）　15cm（1:3）


SD2001B（265・266）
265
266
269
SD2332（267～270）
267
268
270
SD2334（271～275）
273
274
包含層Ⅲ層（276）
276
271
275
272
煤
277
（SE5290）
278
（SD5260）
279
（SD5260）
280
（SD5132）
283
（SE5203）
281
（SD2001A）
282
（SD5259）
研　面
284
（SB57・P5652）
285
（SE5101）
287
（SE5129）
286
（SE5102）
288
（SE5129）
297
（SD5260）
291
（SE5138）
293
（SE5290）
298
（SD5260）
299
（SD5260）
289
（SE5138）
290
（SE5138）
292
（SE5138）
295
（SD5132）
296
（SD5132）
294
（SE5290）
300
（SD5260）
301
（SD5260）
302
（SD5260）
0　（294）　6cm（2:3）
0　（265・266・270～283）　15cm（1:3）
0　（267～269）　20cm（1:4）
0　（284～293・295～302）　10cm（1:2）

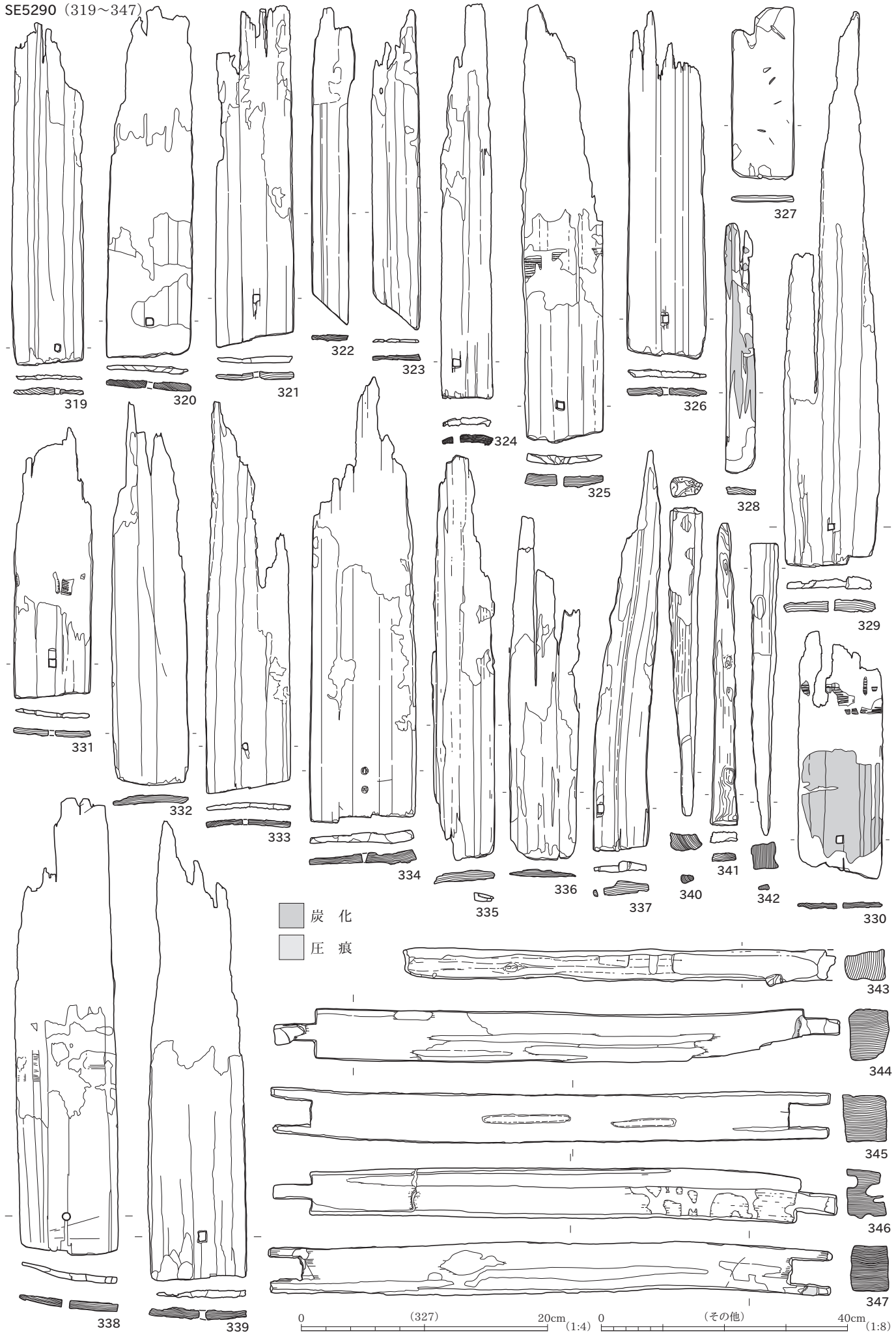

303
（SD5260）
304
（SD2334）
305
（SD2334）
306
（SE5130）
307
（SK5253）
308
（SD5260）

309
（SE5138）

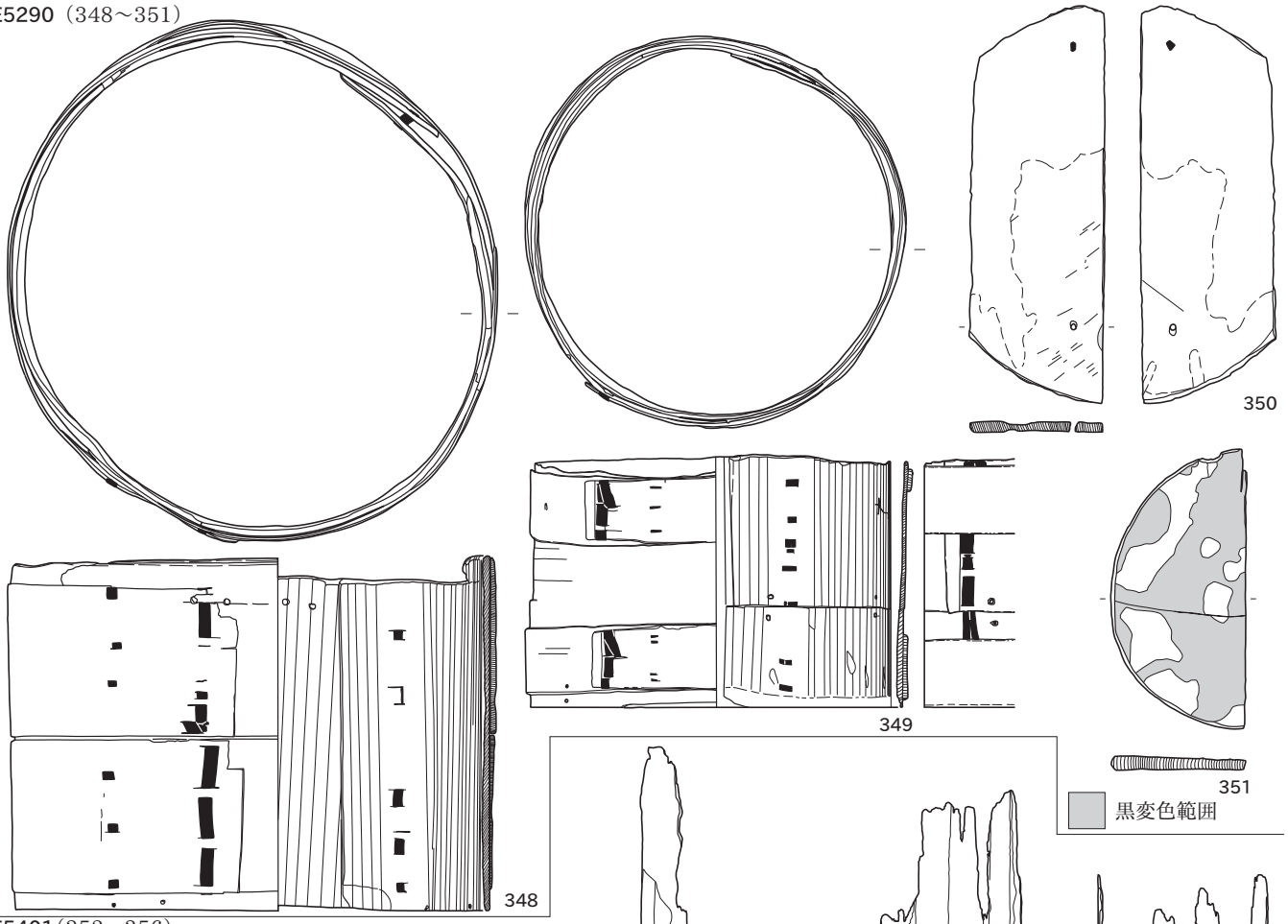

310
（SK5267）


SE5126（313～318）
313
314
315
316
SB52・P5478
311
SE5101
312
赤　漆
317
318
0　（304）　6cm　(2:3)
0　（313・314）　20cm　(1:4)
0　（303・305・309・310）　10cm　(1:2)
0　（306～308・311・312）　15cm　(1:3)
0　（315～318）　40cm　(1:8)

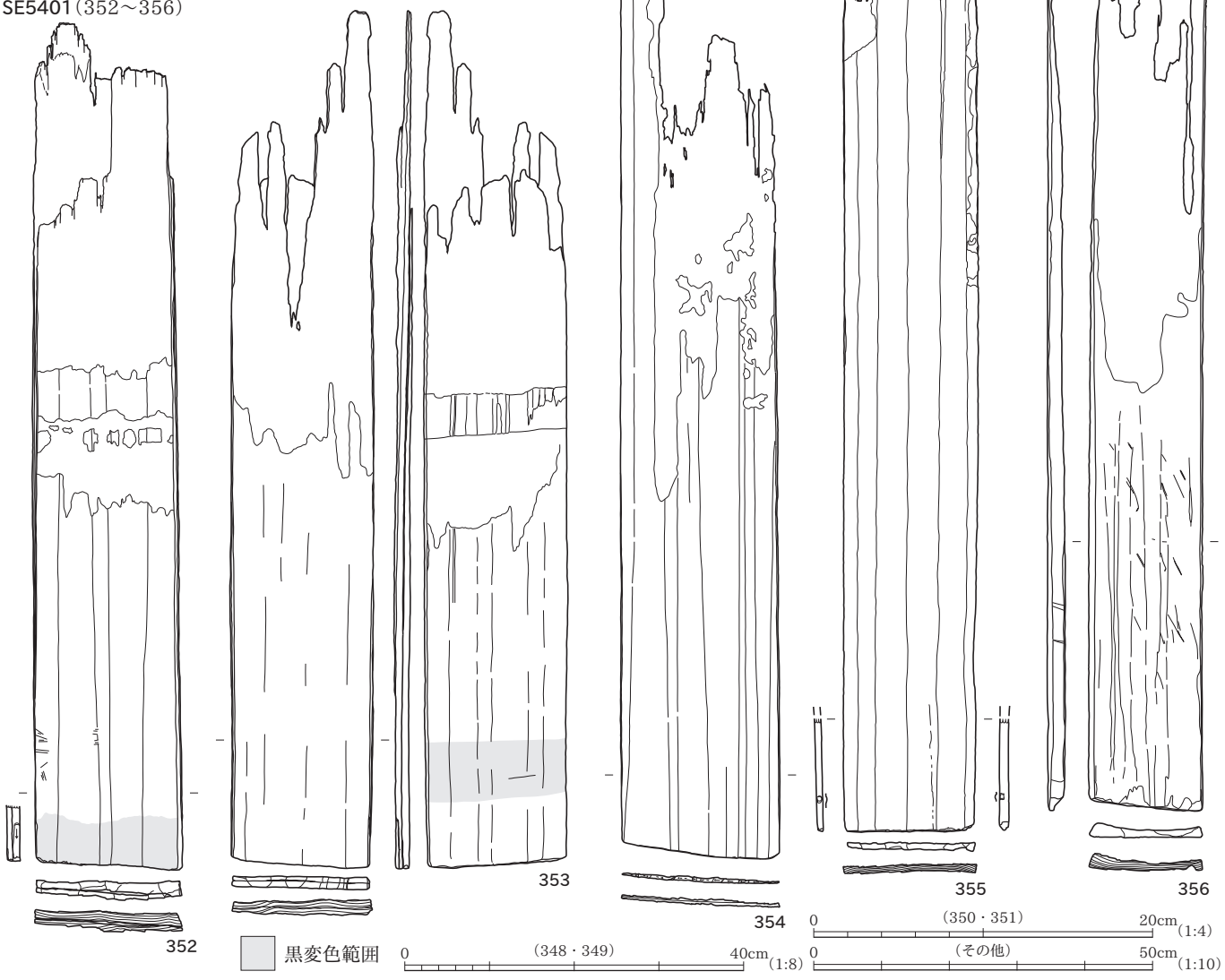
SE5290（319～347）



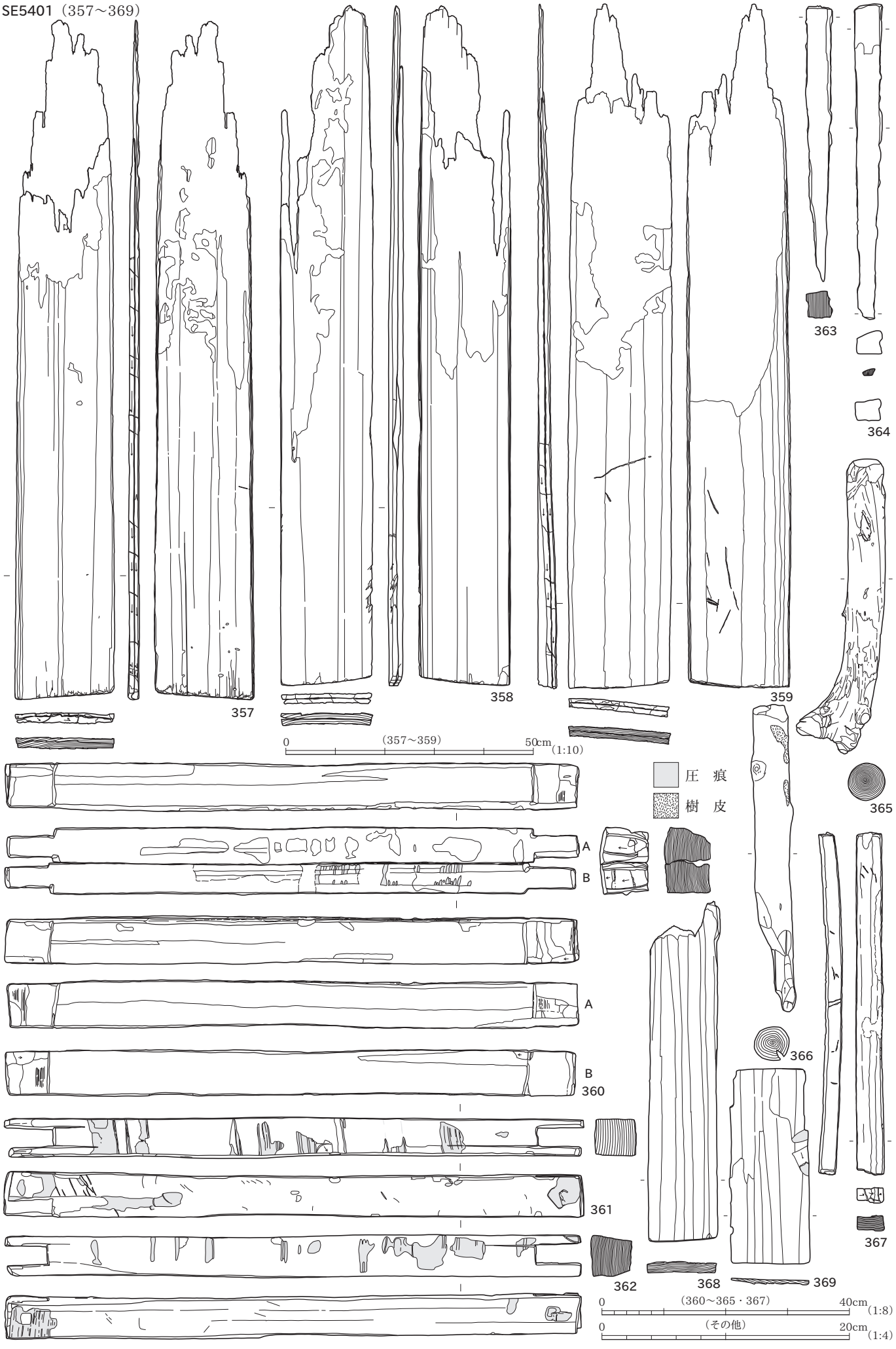
SE5290（348～351）



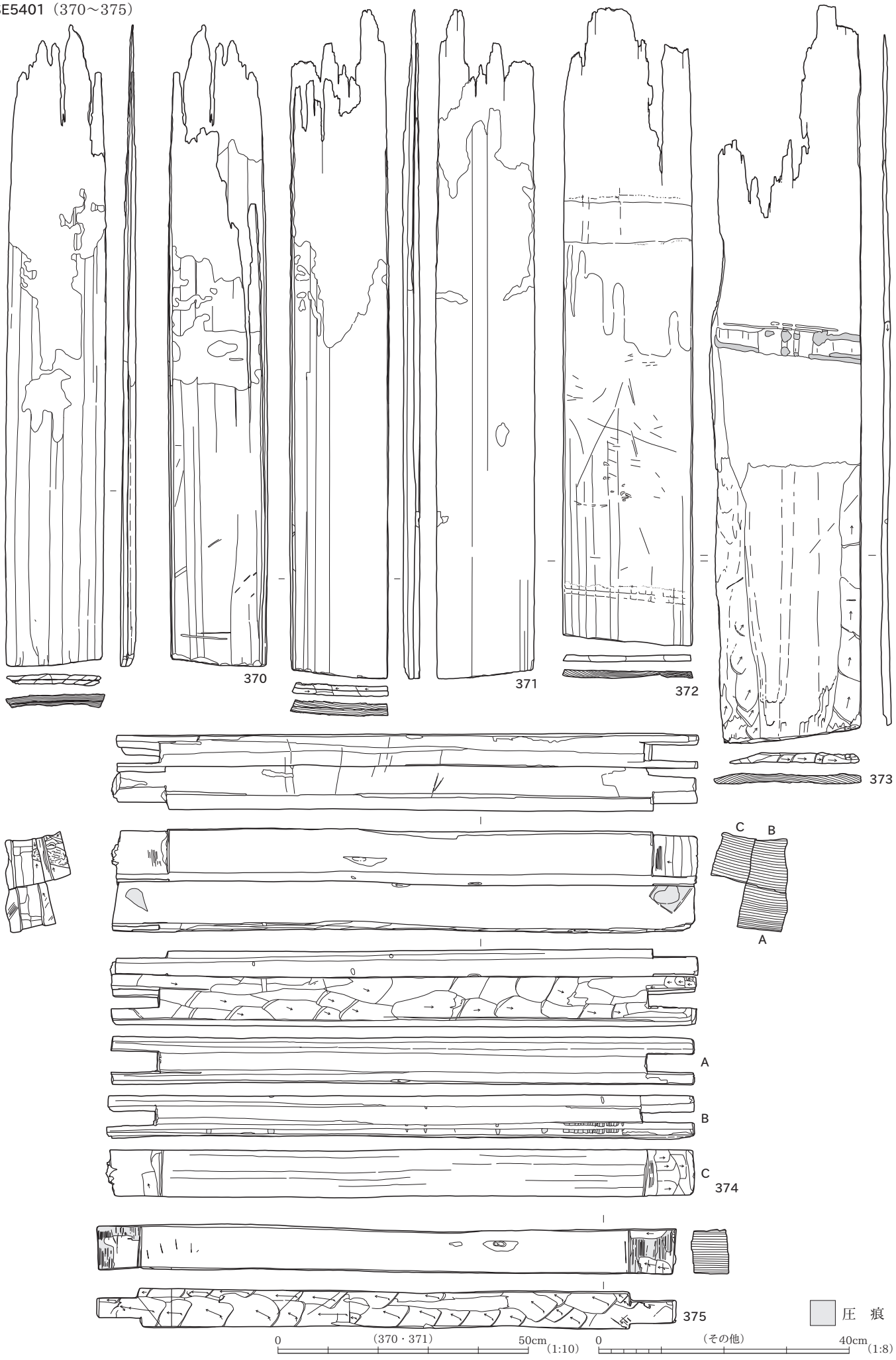
SE5401（352～356）



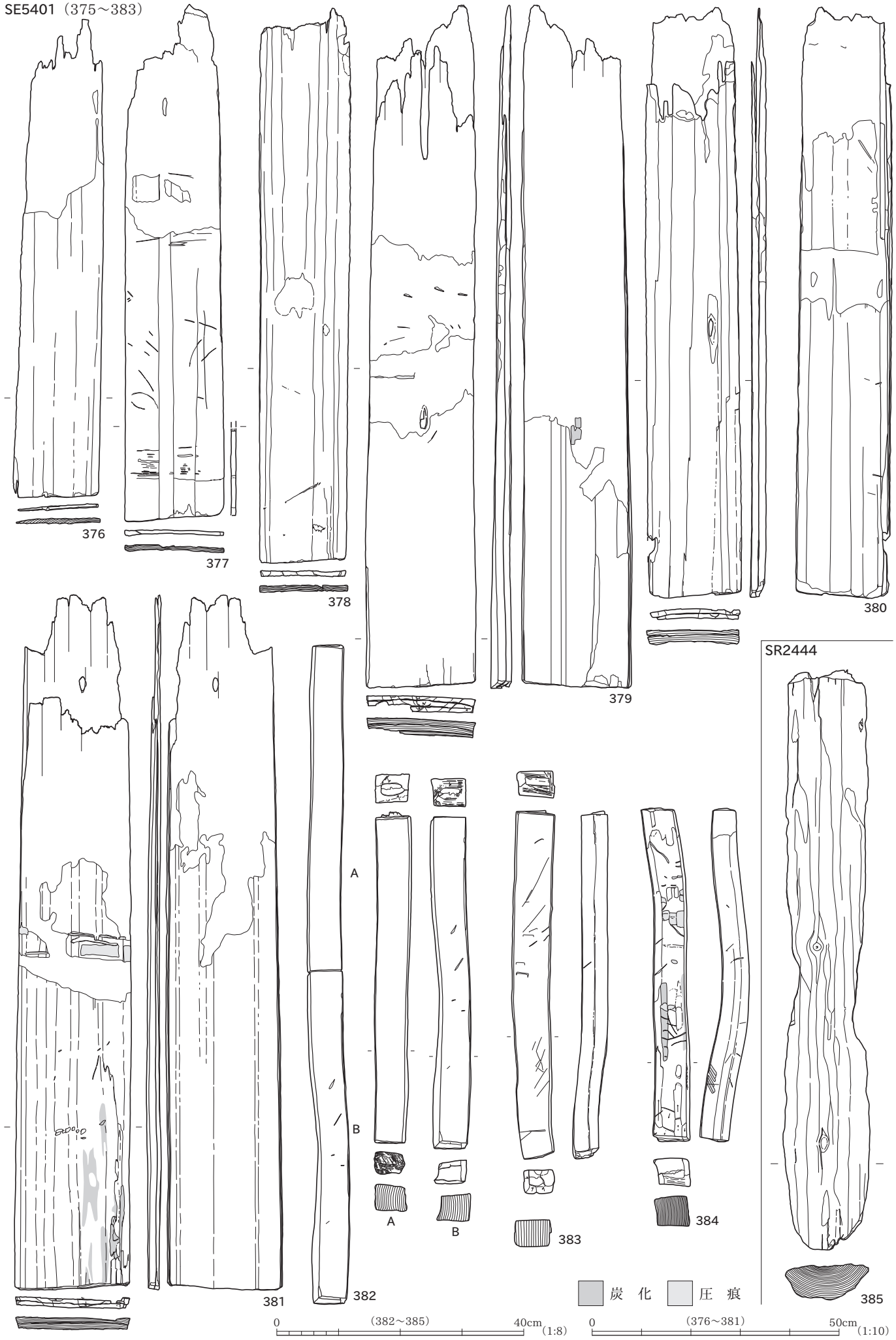
SE5401（357～369）



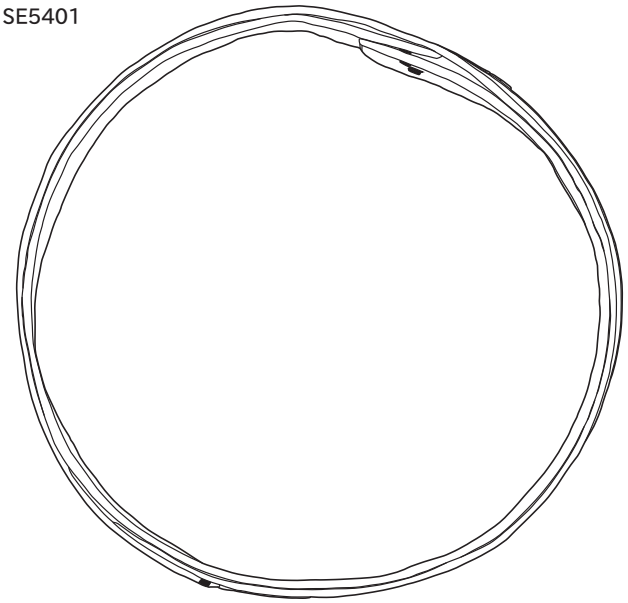
SE5401（370～375）



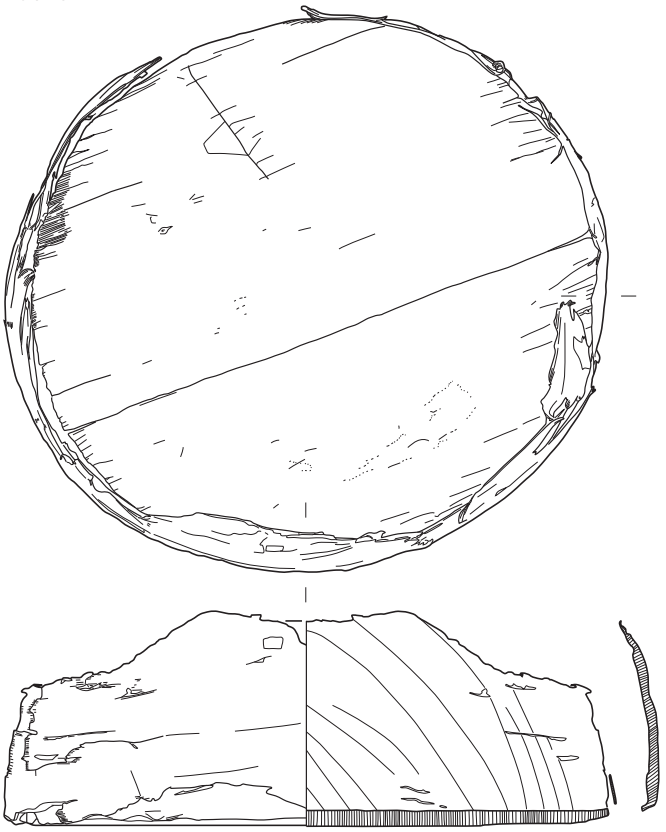
SE5401（375～383）

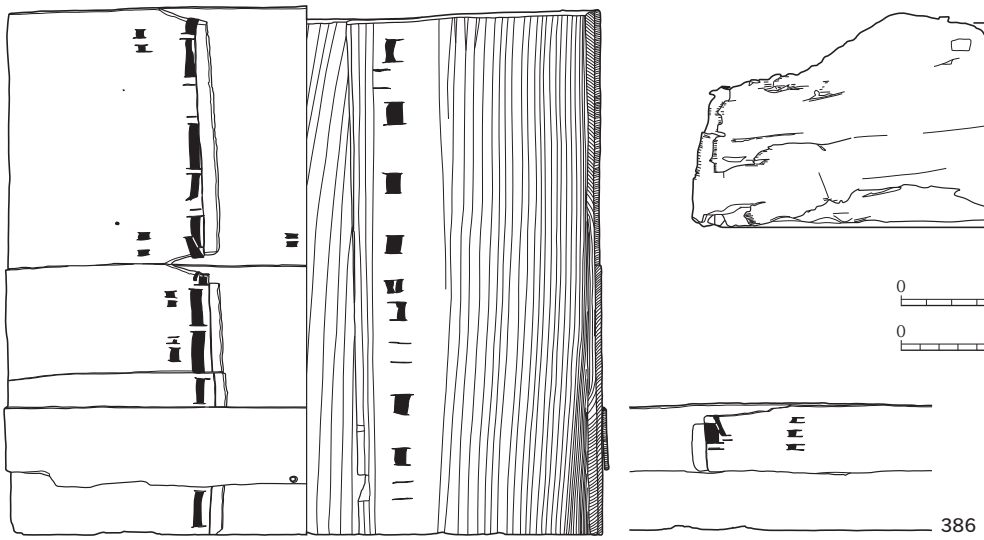


SE5401

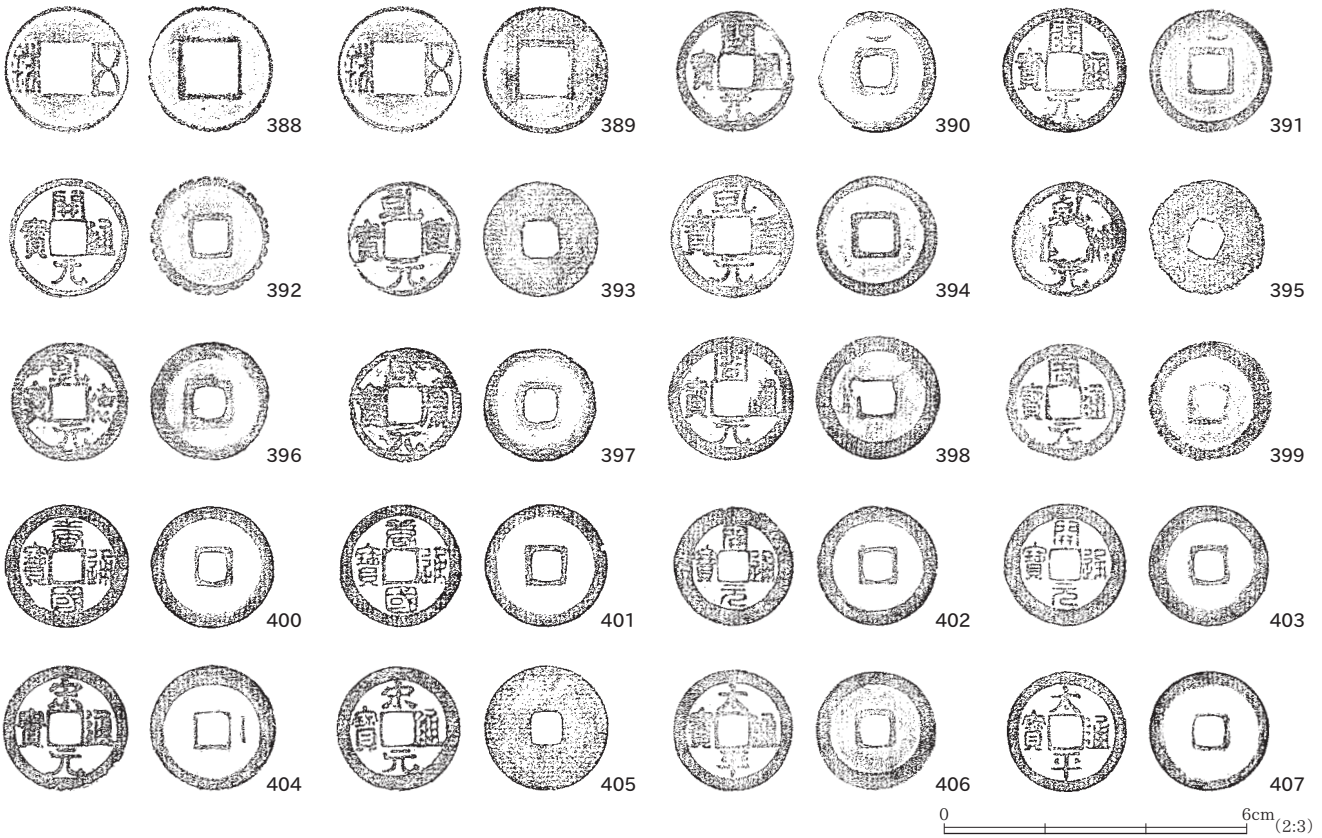


P5673

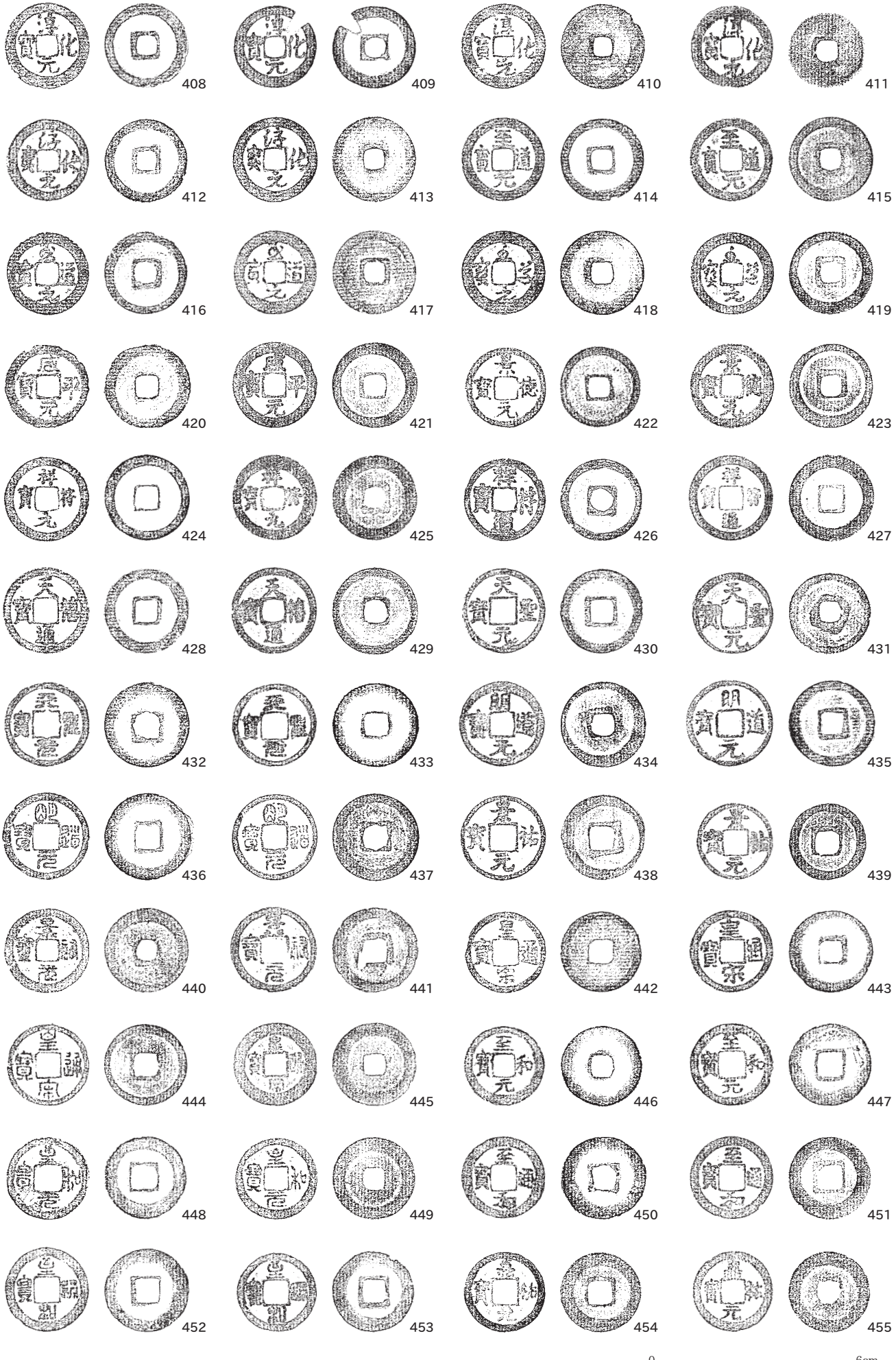




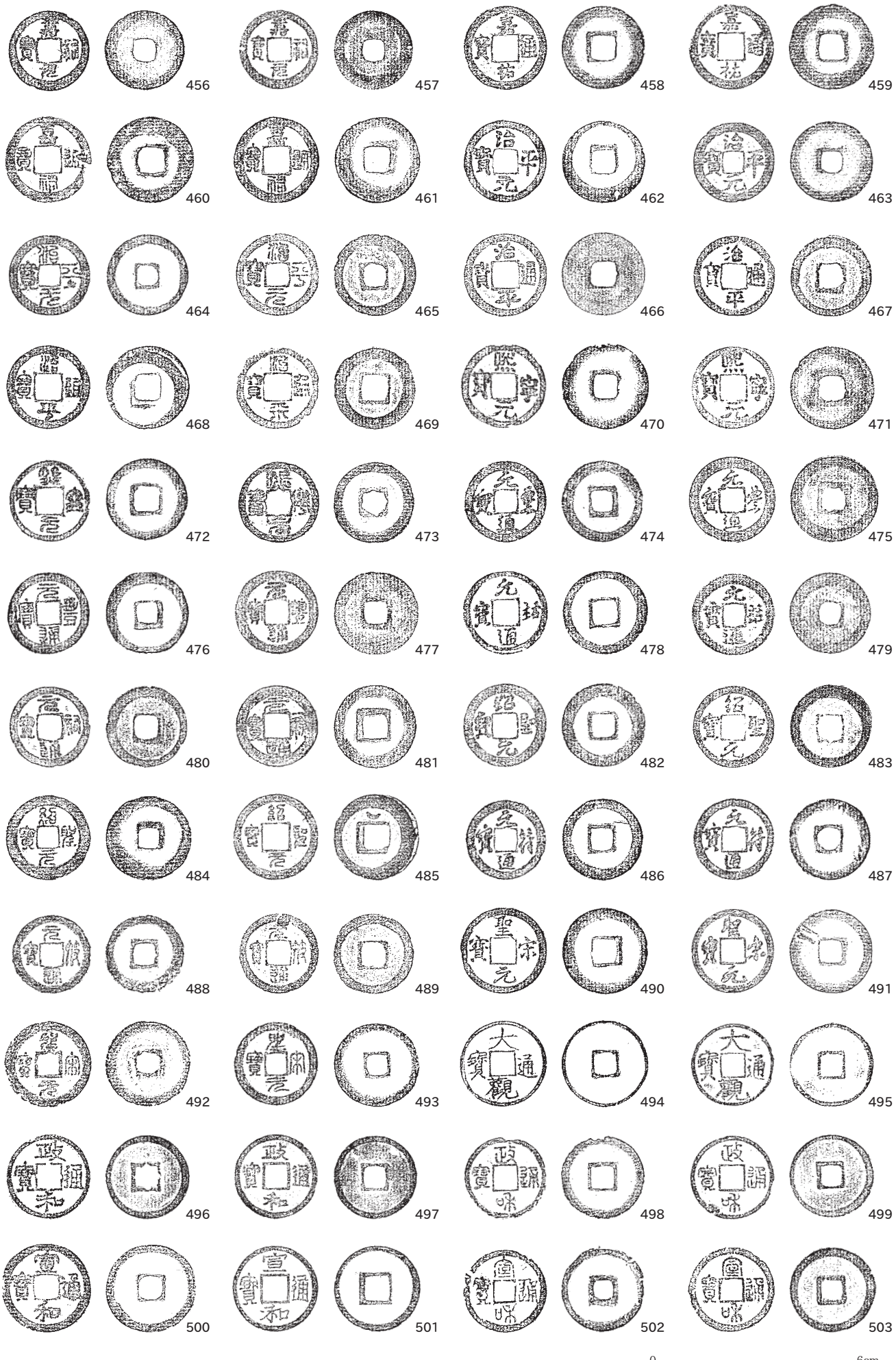
P5673（388～407）



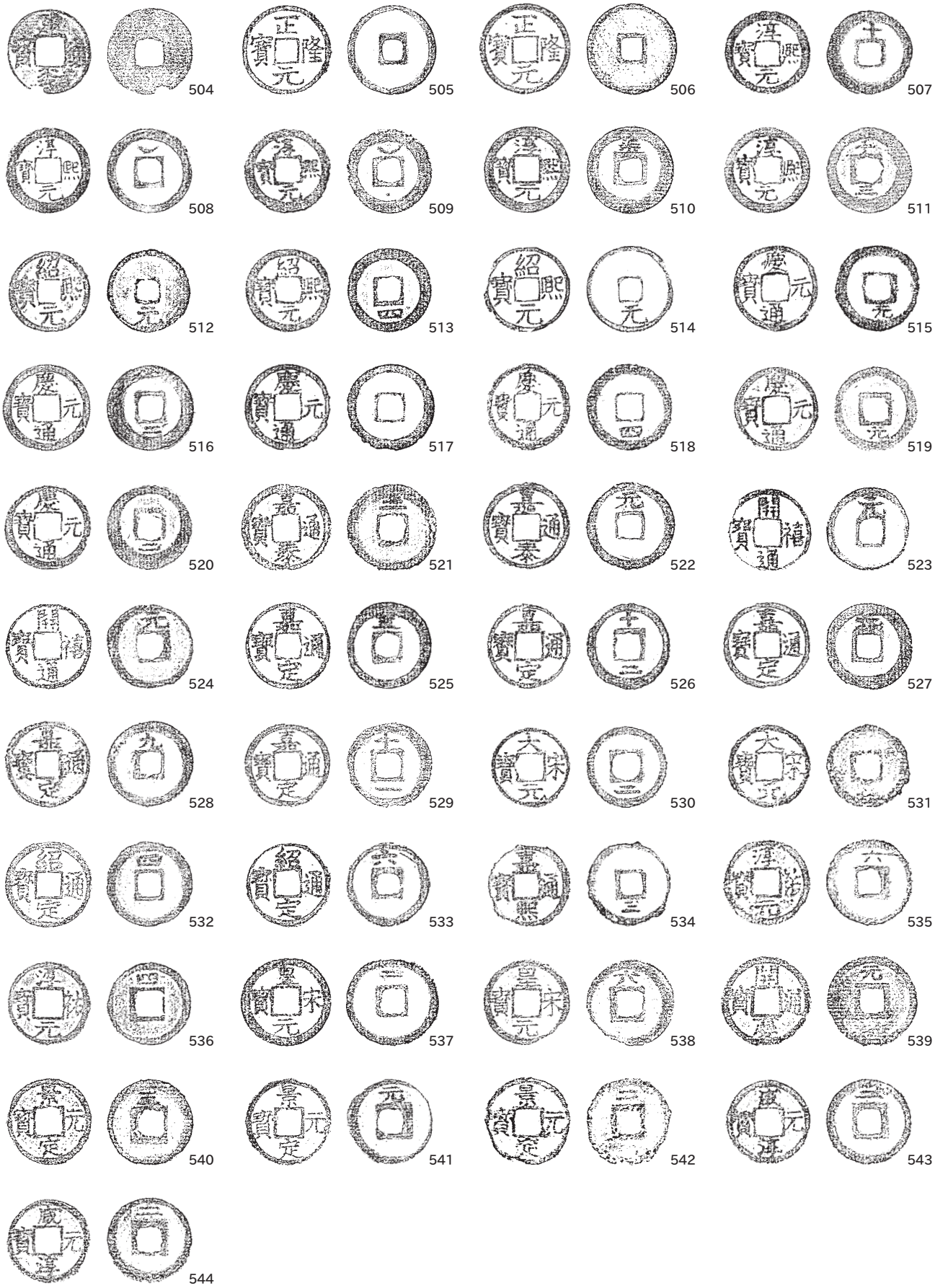
P5673（408～455）



P5673（456～503）

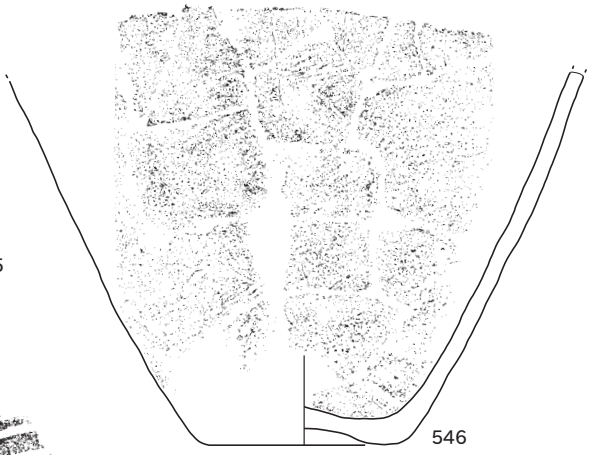


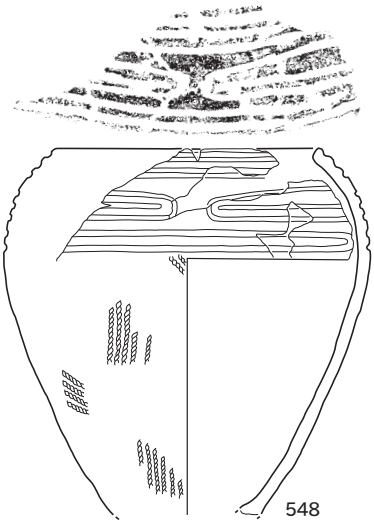
P5673（504～544）



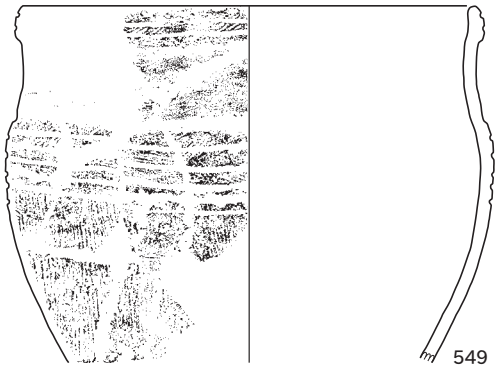
0　6cm（2:3）

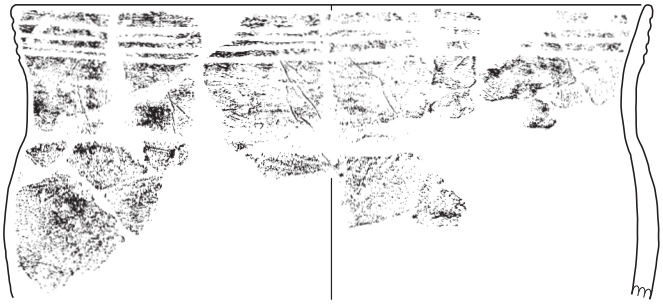
SR2444　3a層（545～548）

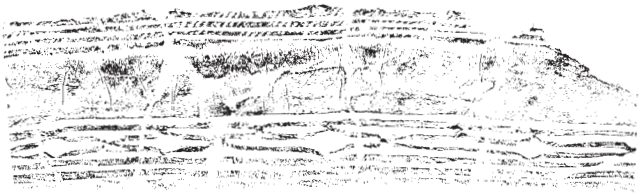


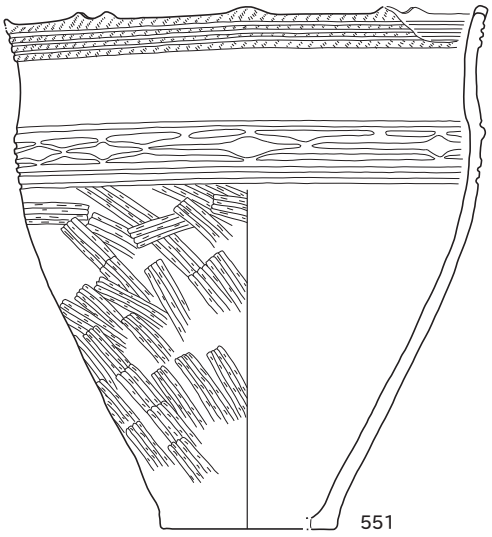


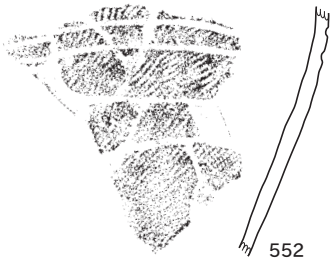
SR2444　3h層（549～552）

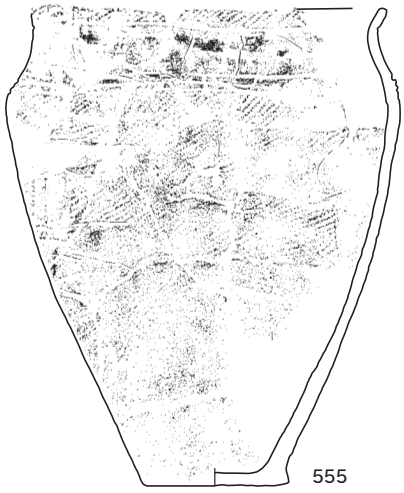




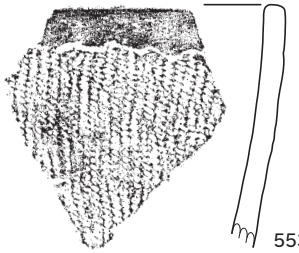






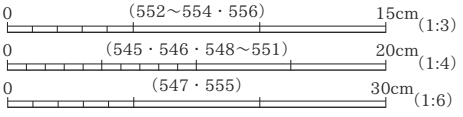


SR2444　5e層（553）

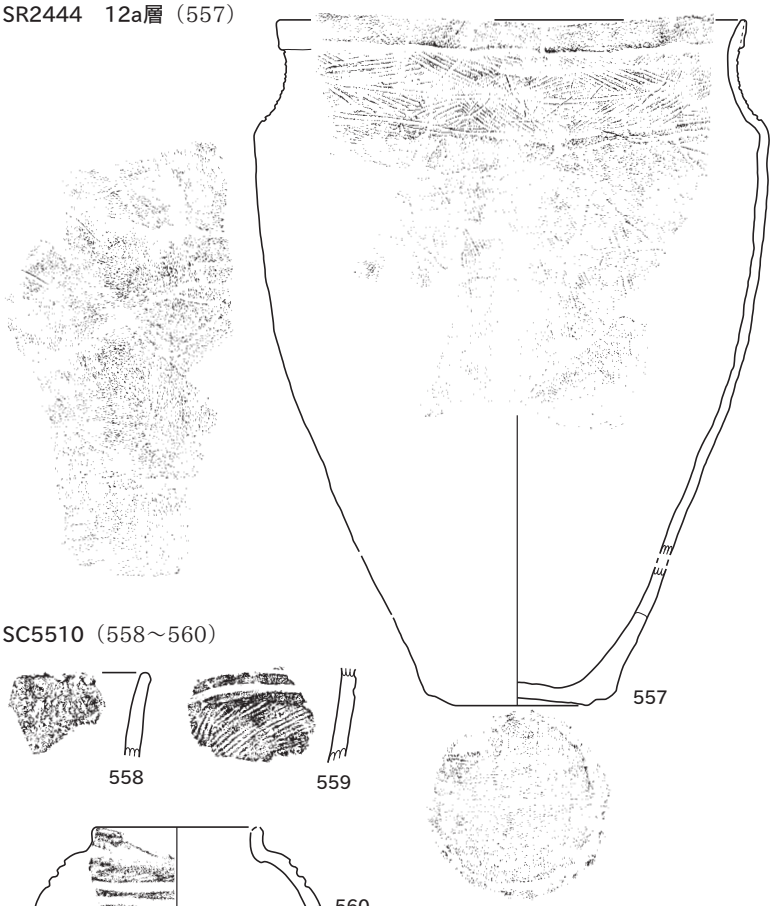


SR2444　6a層（554・555）

SR2444　8a層（556）

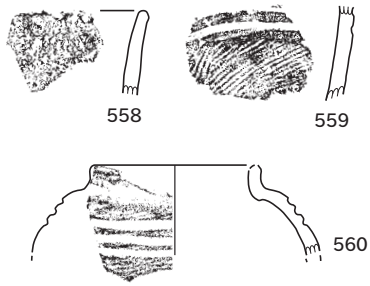


SR2444　12a層（557）



557

SC5510（558～560）

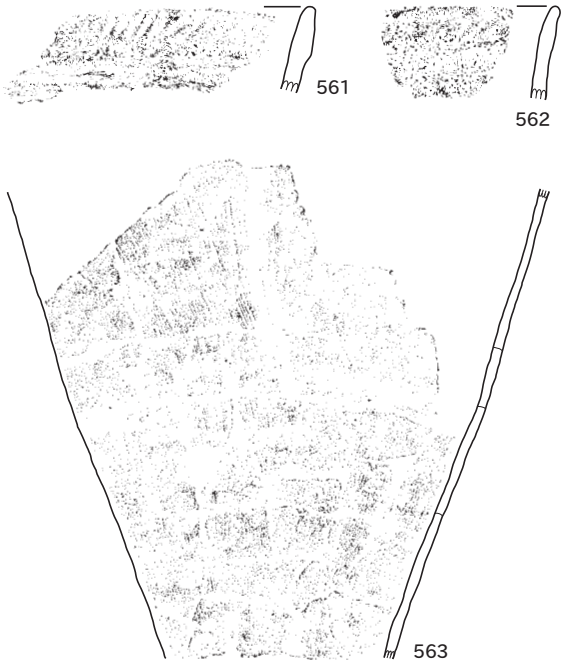


558

559

560

SC5535（561～563）

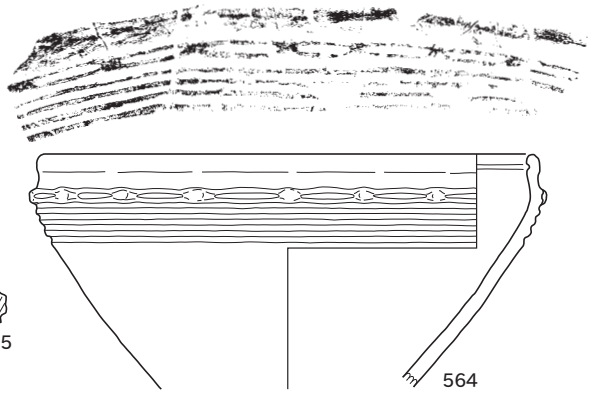


561

562

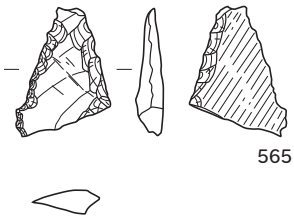
563

SK5743（564）

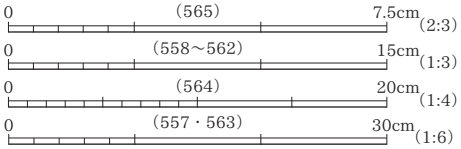


564

石器（565）



565



調査範囲全景（2012・2014・2015 年度写真及び阿賀野市教育委員会調査範囲を合成　真上から）

H 区古代・中世面遠景（北西から　手前は山口野中遺跡）

H 区古代・中世面遠景（北東から）

H 区古代・中世面近景（南東から）

SB57・58、道 1　近景（北西から）

SK5400　完掘（南西から）

SE5129　土器出土状況（南から）

SB51 ～ 56　完掘（南西から）

SB52-P5452　断面（南西から）

SK5400　断面（南西から）

SE5401　井戸側出土状況（北西から）

SE5129　土器出土状況（南から）

SE5138　礫出土状況（南から）

SD5260　断面（南東から）

SD5132　断面（南東から）

縄文面遠景（西から）

SR2444　完掘（北東から）

I・J区縄文面近景（南東から）

SI5794　完掘（南から）

SB61　完掘（南東から）

SK5743・P5749　遺物出土状況（北西から）

SK5771　断面（南から）

SR2444-3h 層　SC5520 ～ 5525　検出状況（東から）

SR2444-5e 層　炭化物集中範囲検出状況（南から）

SR2444-12b 層　SC5550・SC5552　検出状況（東から）

SR2444-3a 層　土器出土状況（547）（北から）

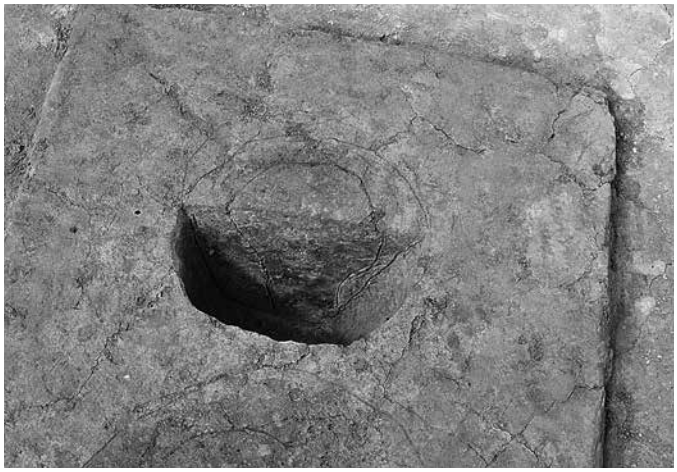
基本層序（8M　北東から）

SR-2444　断面（a-a'）（南西から）

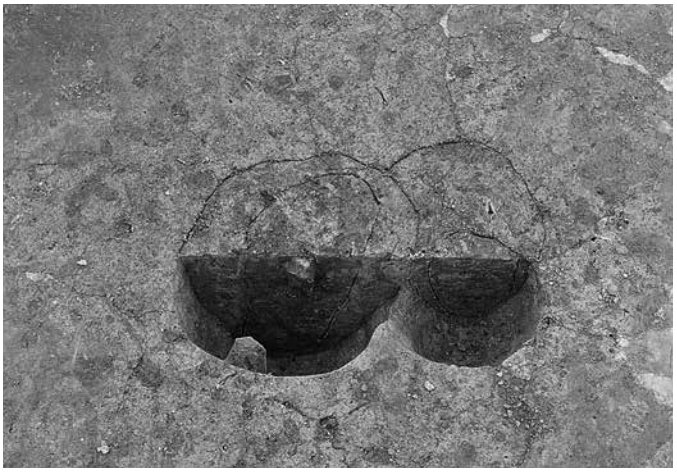
SR2444-12d 層　SC5553　断面（南東から）

SR2444　断面（f-f'）（北東から）

SB48 ～ 50　完掘（南西から）



SB49-P5165　断面（西から）

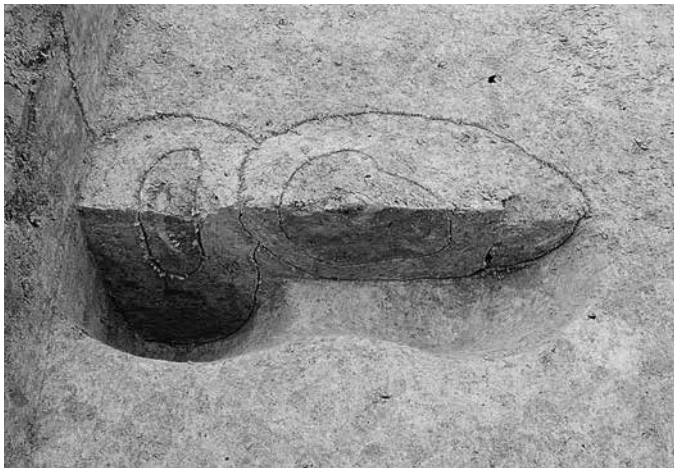


SB49-P5349（左）・P5171（右）　断面（南から）

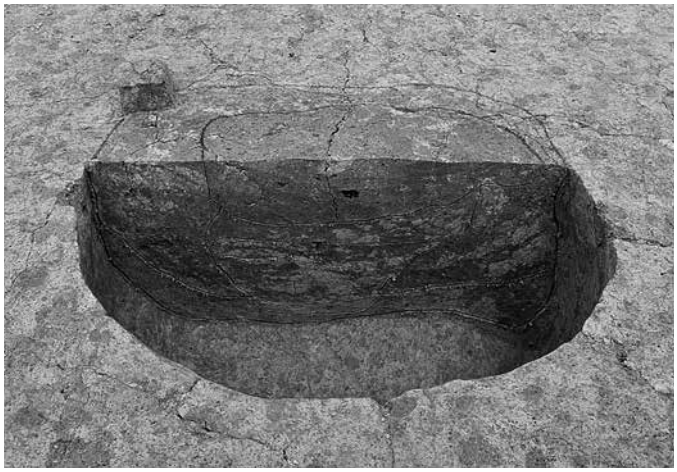
SB50-5282（左）・P5283（右）　断面（南東から）

SB50-P5320（右）・P5319（左）　断面（東から）

SB51 ～ 56　完掘（北東から）

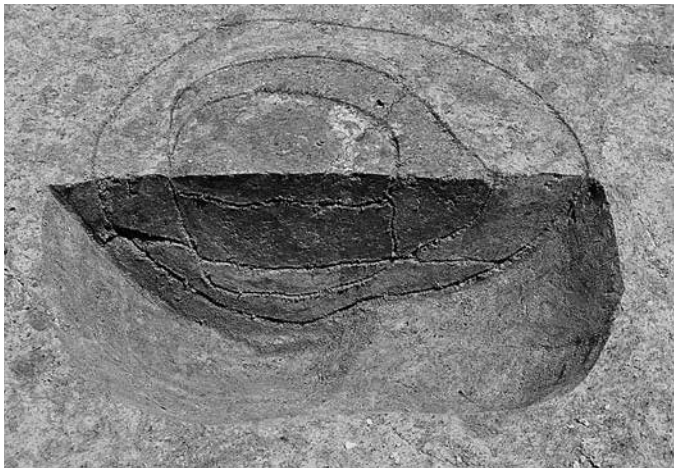


SB51-P5106（左）・P5105（右）　断面（南東から）



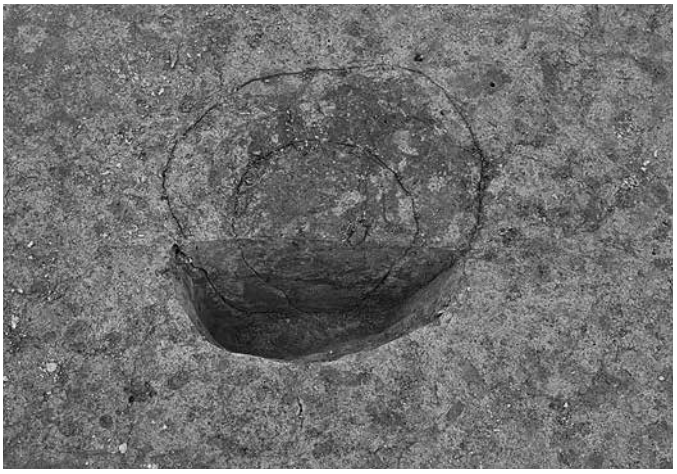
SB52-P5462　断面（南西から）

SB52-P5478　断面（南西から）



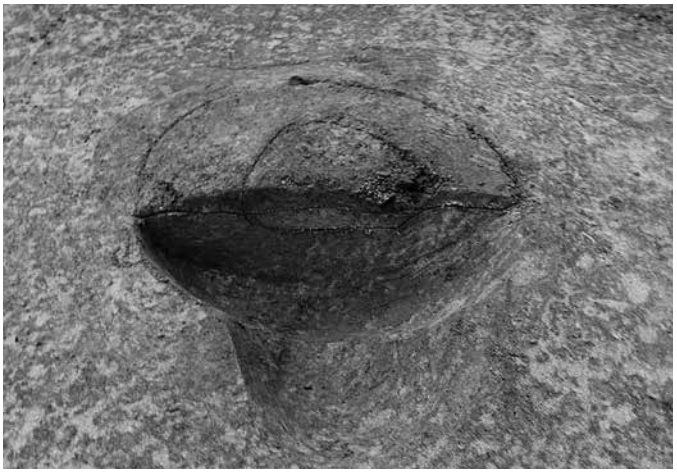
SB53-P5450　断面（南西から）

SB55-P5373　断面（北西から）



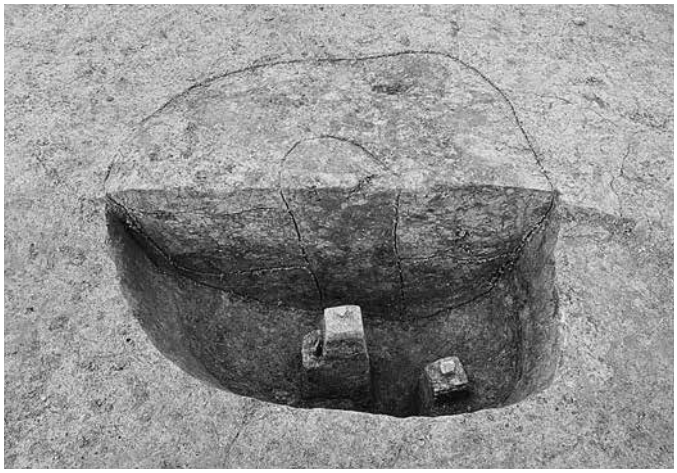
SB55-P5380　断面（南東から）

SB59　柱穴検出状況（南東から）

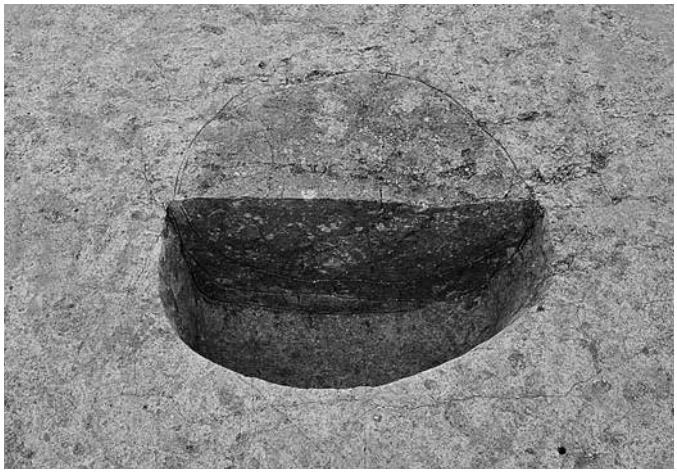


SB59-P5547　断面（南東から）

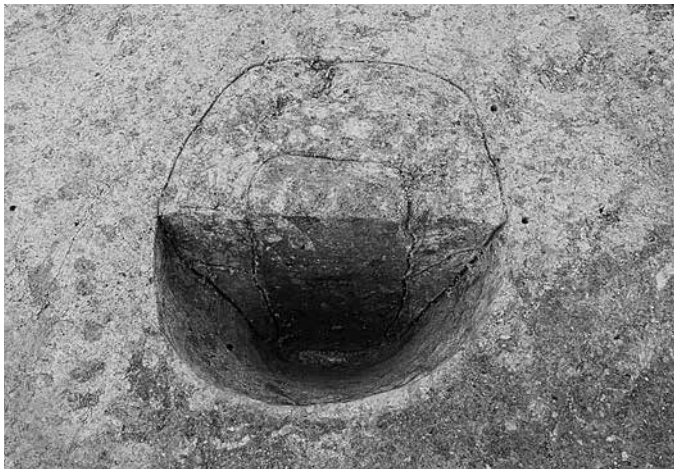
SB57・SB58　完掘（北西から）



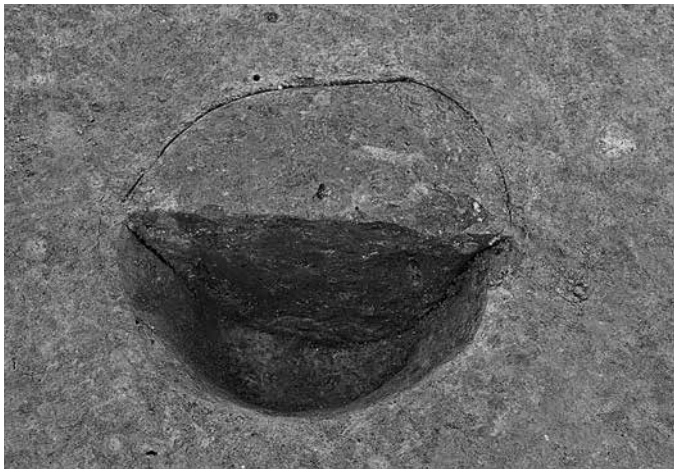
SB57-P5652　断面（南から）



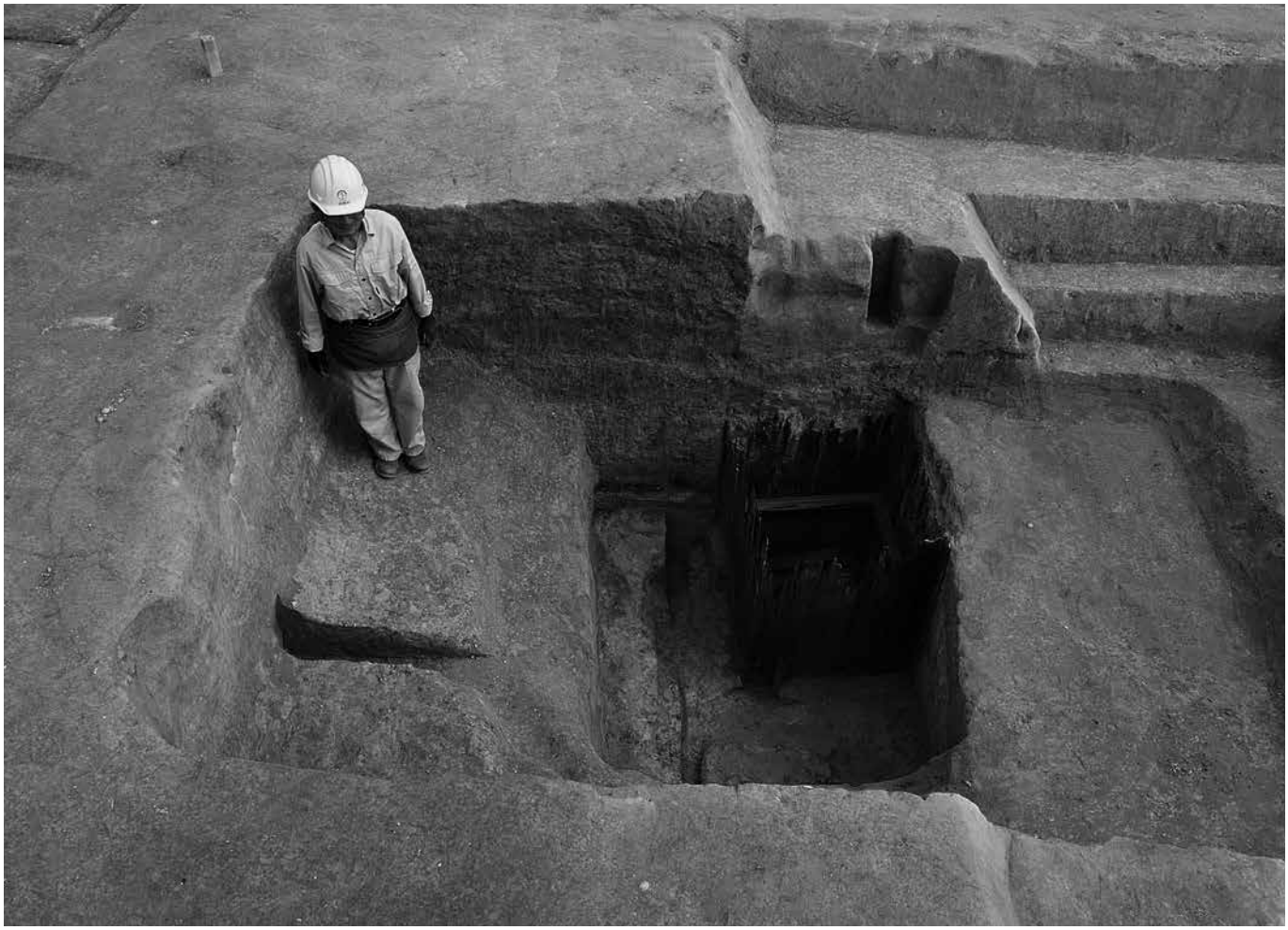
SB57-P5653　断面（南から）



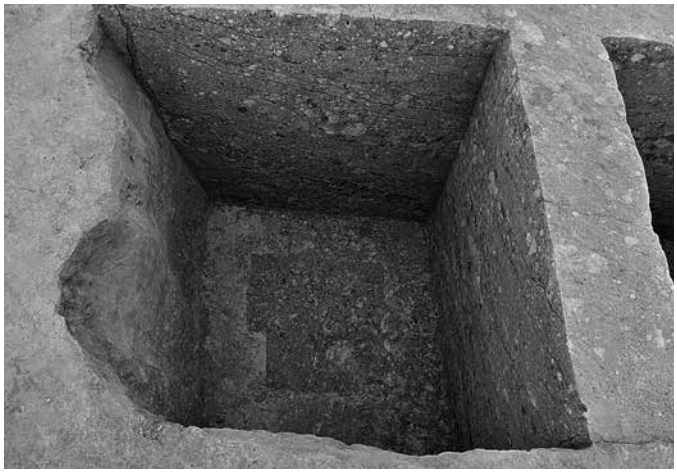
SB58-P5698　断面（南東から）



SB58-P5697　断面（南東から）



SE5401　井戸側検出状況（北西から）



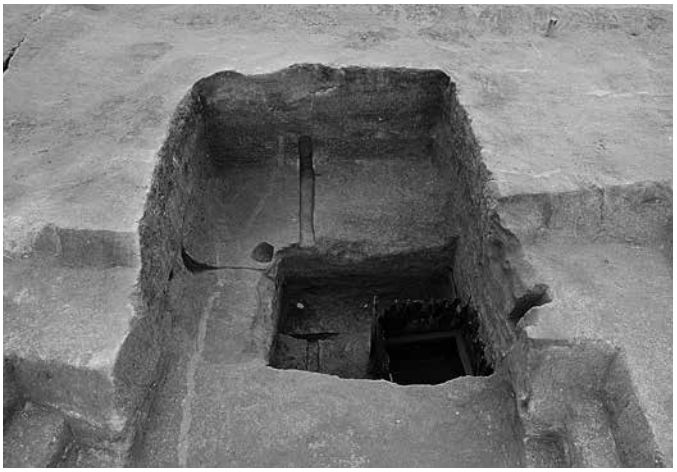
SK5400-P1 検出状況（北西から）

SK5400　下部断面（北西から）

SK5400　下部断面（南西から）

SK5400　下部断面（南西から）

SE5400-P1　断面（南西から）



SK5400　完掘（南西から）

SE5401　上部断面（南西から）

SE5401　井戸側出土状況（北西から）

SE5401　井戸側検出状況（北西から）

SE5401　曲物内木製品出土状況（北西から）

SE5401　井戸側・曲物出土状況（北西から）

SE5401　曲物出土状況（北西から）

SE5100　断面（北西から）

SE5101　断面（北から）

SE5102　断面（南西から）

SE5102　3 層遺物出土状況（南西から）

SE5126　断面（北東から）

SE5126　井戸側検出状況（北東から）

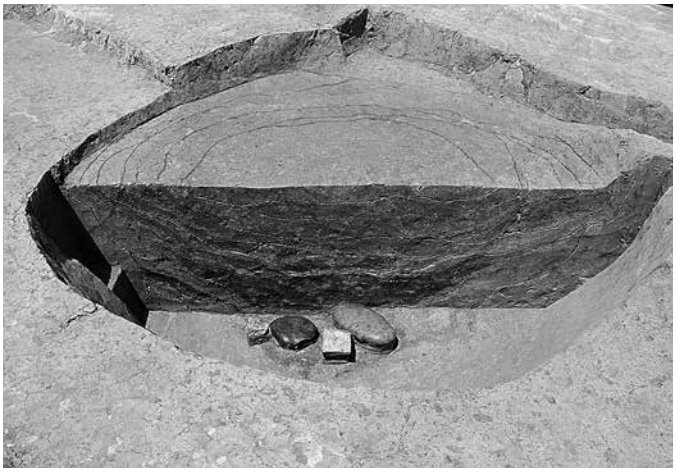
SE5129　上部断面（南西から）

SE5129　土器出土状況（東から）

SE5129　土器出土状況（南東から）

SE5129　土器出土状況（南から）

SE5129　下部断面（南西から）

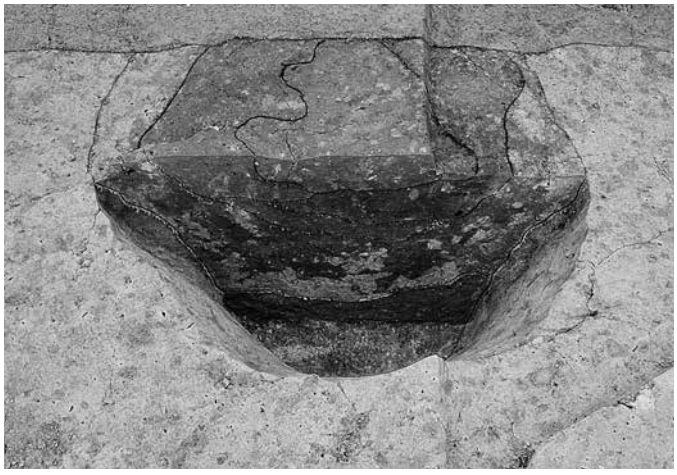


SE5130　断面（東から）

SE5131　断面（北東から）

SE5131　遺物出土状況（北東から）

SE5133　断面（南東から）



SE5134　断面（南東から）

SE5138　断面（南から）

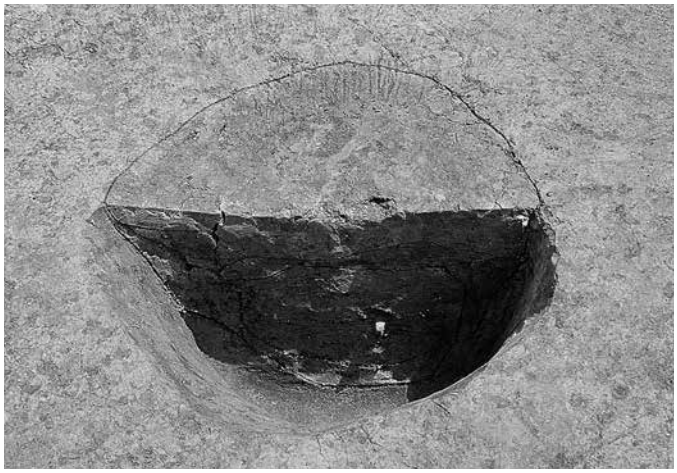
SE5138　礫出土状況（南から）

SE5138　上部断面（南から）

SE5138　完掘（南東から）

SE5146　断面（南東から）

SE5203　断面（南東から）



SE5204　断面（南西から）

SE5268　断面（南東から）

SE5290　上部断面（南東から）

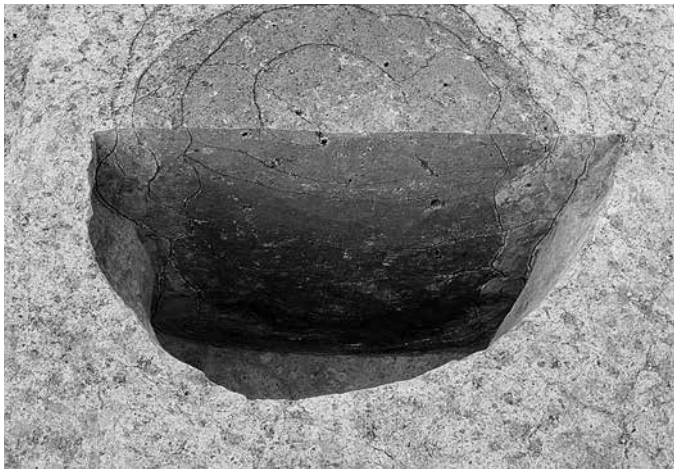
SE5290　井戸側検出状況（南東から）

SE5290　井戸側検出状況（南東から）

SE5290　井戸側出土状況（南東から）

SE5290　水溜検出状況（南東から）

SE5290　曲物出土状況（南東から）



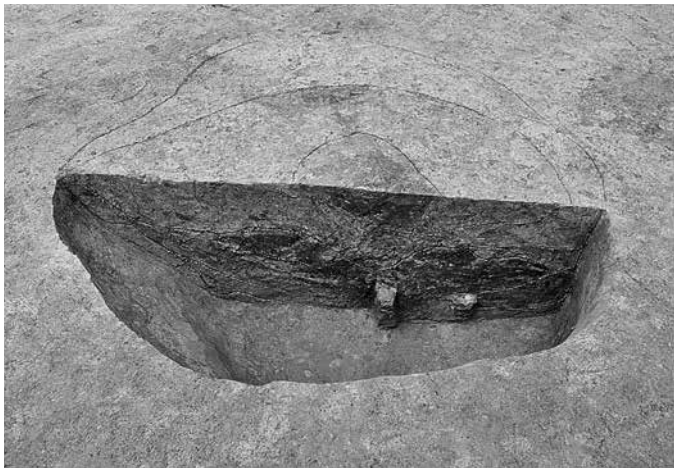
SE5353　断面（南西から）

SE5359　断面（南東から）

SE5366　断面（南西から）

SE5366　礫出土状況（南から）

SE5422　断面（南西から）

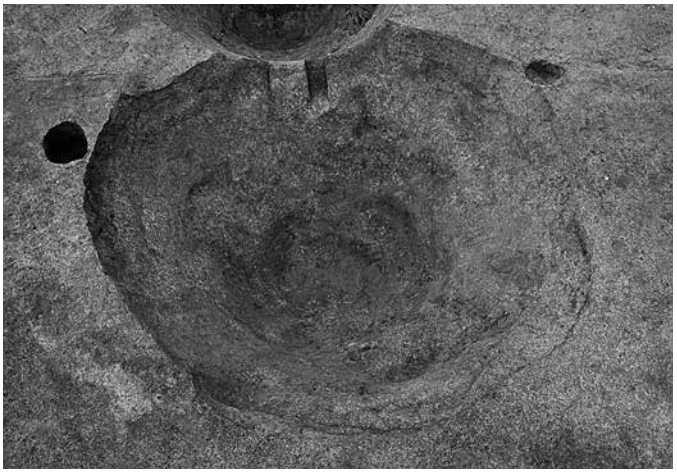


SE5631　断面（東から）

SE5632　断面（南から）

SE5632　完掘（北から）

SE5716（南東から）



SE5716　完掘（南東から）

方形周溝状遺構　近景（南西から）

SD5260　方形周溝状遺構　近景（南東から）

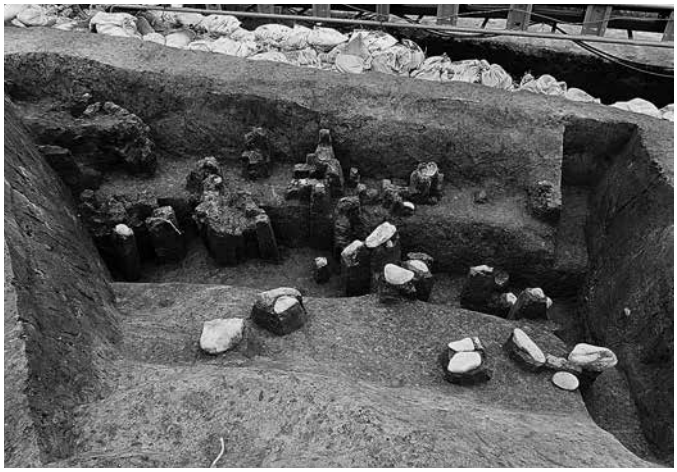
SD5260　断面（d-d'）（南西から）

SD5260　断面（f-f'）（南東から）

SD5260　断面（i-i'）（東から）

SD5260　遺物出土状況（7H7 周辺）（北から）

SD5260　遺物出土状況（6H4・5 周辺）（南東から）



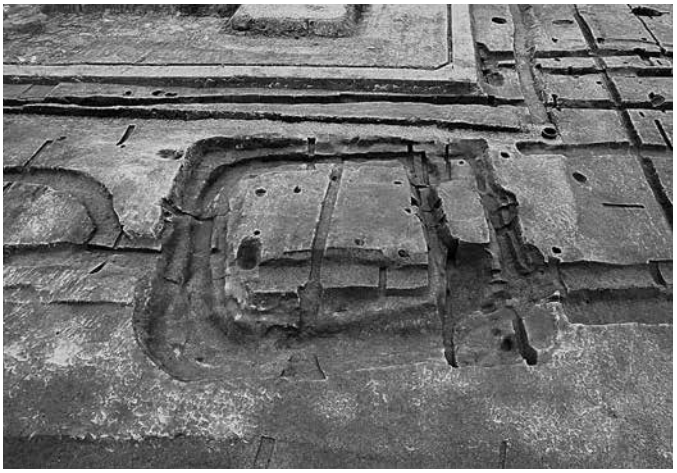
SD5260　遺物出土状況（7H6 周辺）（北から）

SD5261　断面（k-k'）（南西から）

SD5261　断面（I-I'）（南西から）

SD5261　完掘（北東から）

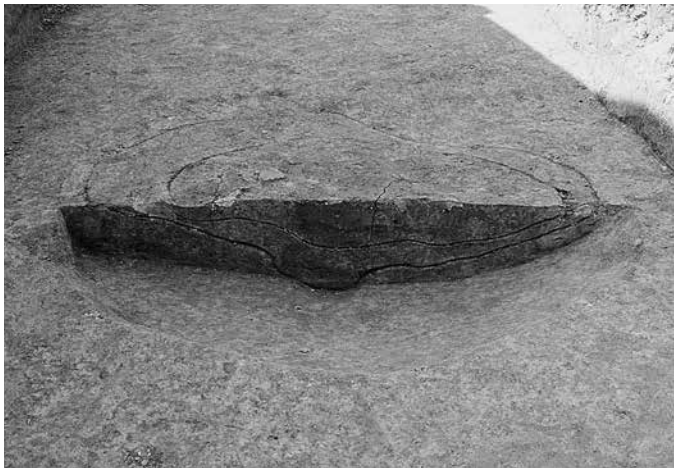
SD5261　完掘（南西から）



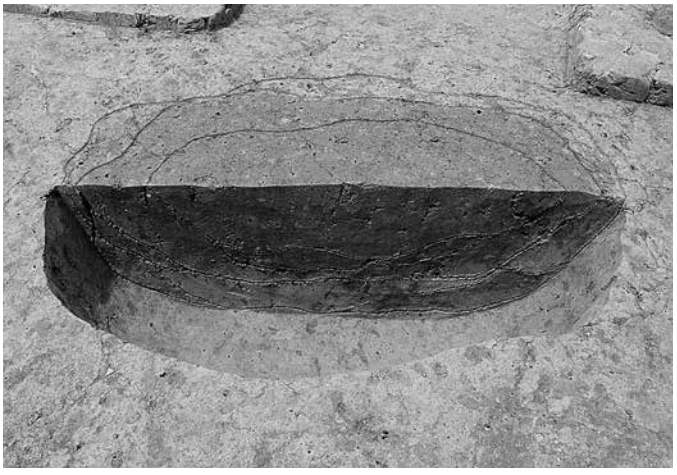
SD5261　完掘（北西から）

SK5253　断面（北東から）

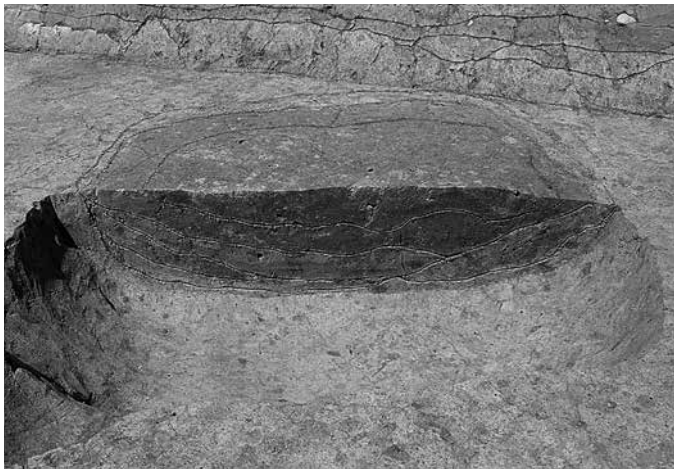
SK5267　断面（北東から）



SK5110　断面（南東から）



SK5135　断面（東から）



SK5137　断面（南西から）

SK5149　検出状況（西から）

SK5161　断面（東から）

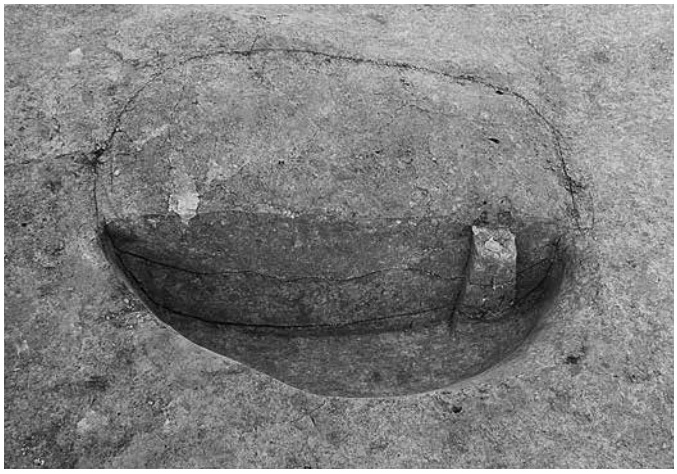
SK5201　土器出土状況（181）（南西から）

SK5208　断面（南西から）

SK5222（左）・SD2332（右）　断面（5G　南東から）

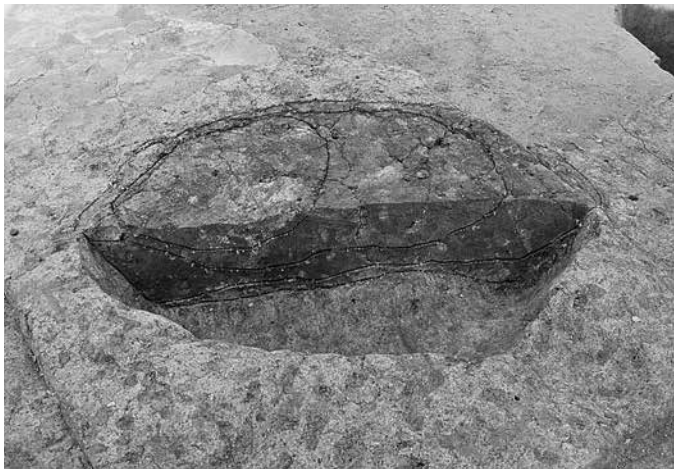
SK5225　断面（南東から）

SK5225　完掘（南東から）



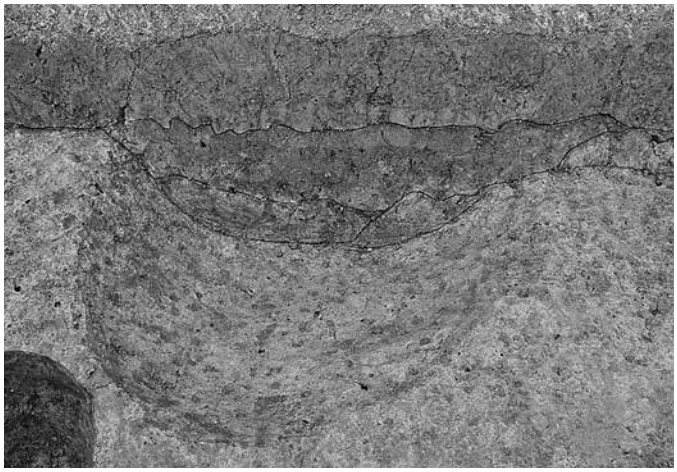
SK5227　断面（南西から）

SK5266　断面（南西から）



SK5301　断面（西から）

SK5325　断面（南から）



SK5360　断面（南東から）

SK5365　断面（南西から）

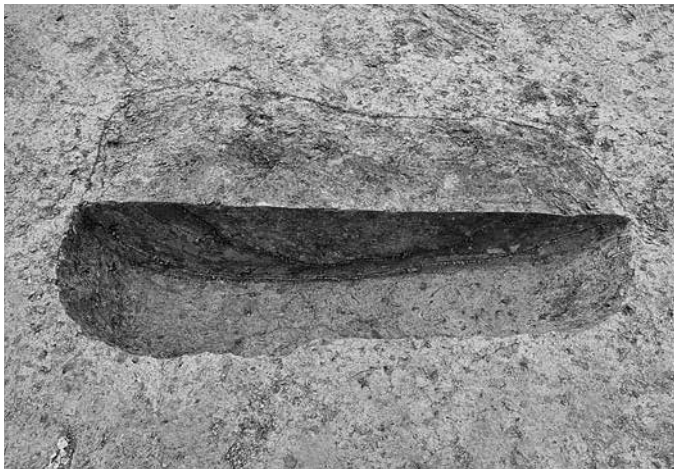
SK5367　断面（南東から）

SK5367　完掘（南東から）

SK5368　断面（南から）

SK5368　完掘（南から）

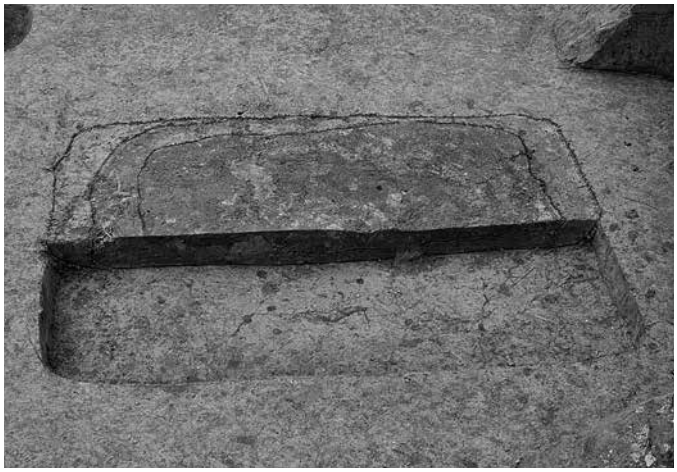
SK5415　断面（南東から）



SK5621　断面（北東から）

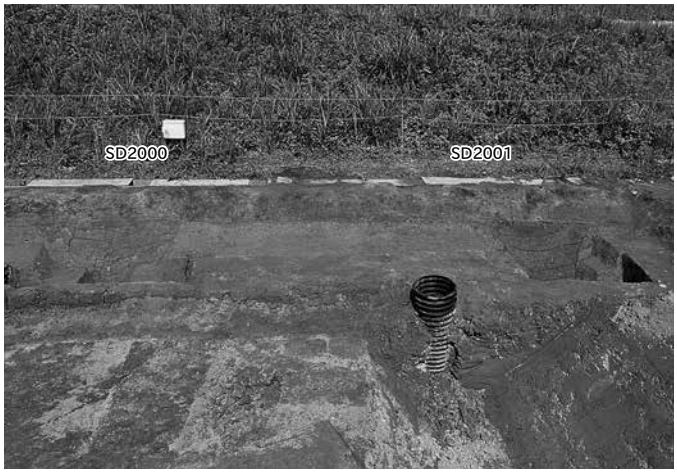
SK5622　断面（北東から）

SK5627　断面（南東から）

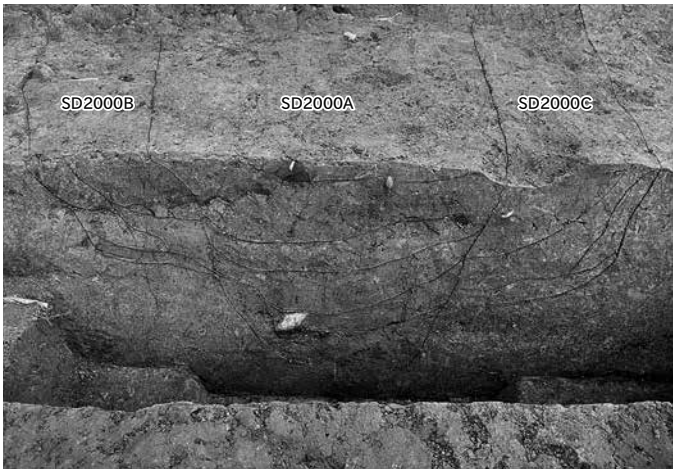


SK5630　断面（南西から）

SK5630　遺物出土状況（南西から）

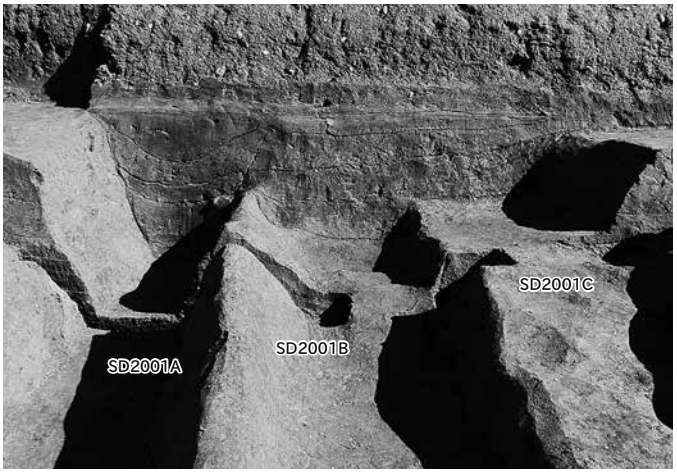


道１　断面（D 区）（南西から）



SD2000　断面（D-D'）（南西から）

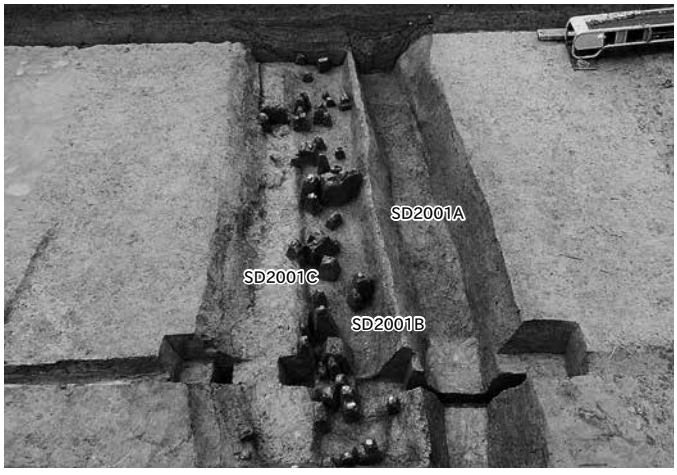
SD2000A　断面（B-B'）（南西から）



SD2001　断面（E-E'）（南西から）

SD2000A（右）・2001A　遺物出土状況（I 区）（北東から）

SD2001B　遺物出土状況（I 区）（北東から）



SD2001B・C　遺物出土状況（I 区）（北東から）

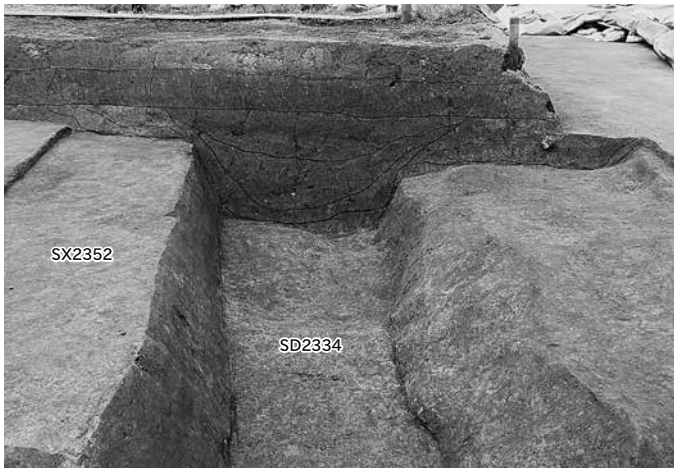
道１　完掘（I 区）（北東から）

SD2334（右）・SD5214（左）　断面（A-A'）（南東から）

SD2332　断面（A-A'）（南東から）

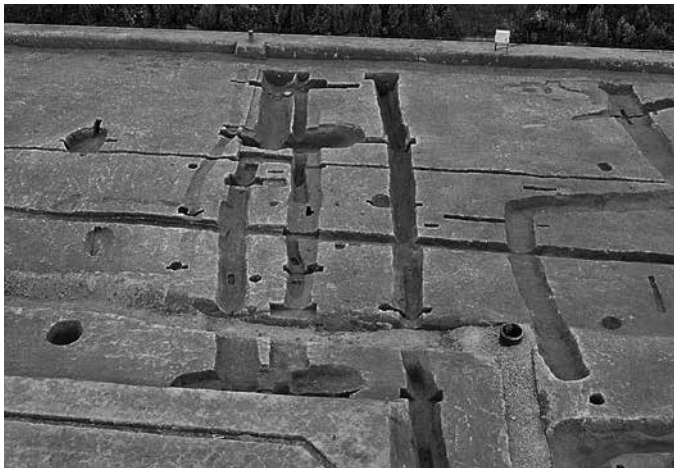
SD2334（右上）・SD5209（右下）・SD5214（左）　断面（B-B'）（南東から）

SD2334・SD5216・SD5219　断面（C-C'）（北西から）

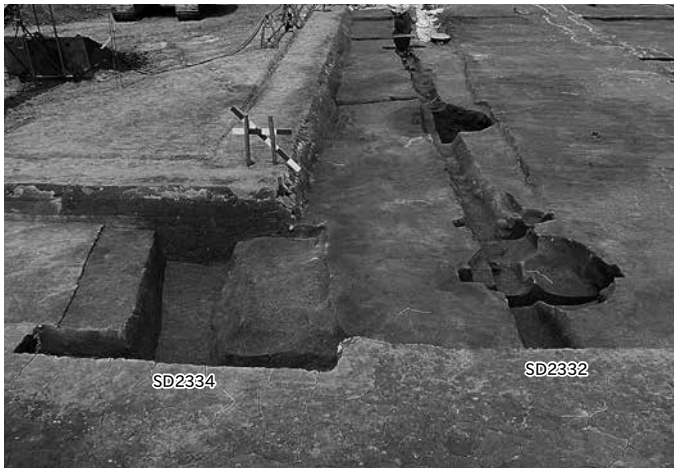


SD2334・SX2352　断面（南東から）

SD2334　遺物出土状況（8J14）（南東から）



道 2（SD2332・SD2334）　完掘（5G 周辺）（南東から）



道 2　完掘（9J 周辺）（南東から）

J区　完掘（南東から）

SD3071・SD3072　完掘（西から）

SD5600・SD5602・SD5603・SD5607　完掘（北西から）

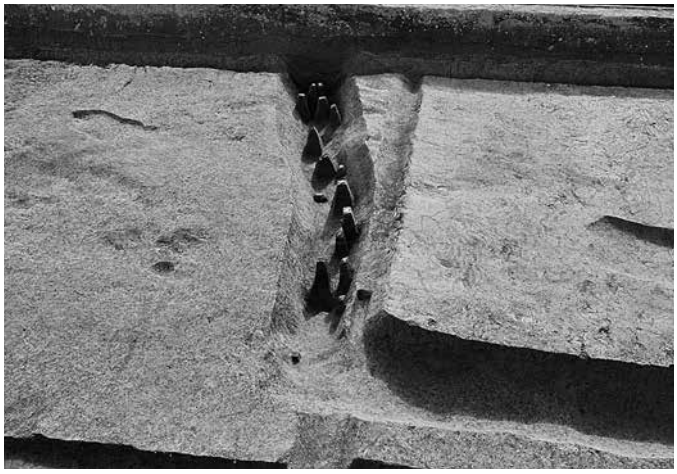
SD5602（右）・SD5607（左）　断面（南西から）

SD5607　完掘（北から）

SD5603　断面（南西から）

SD5618　完掘（南東から）

SD5618　完掘（北から）



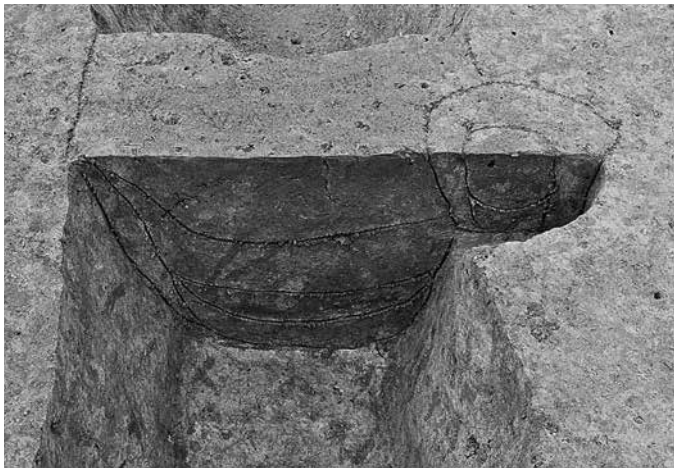
SD5618　遺物出土状況（北東から）

SD5618　断面（東から）

SD5620　断面（北東から）

SD5620　完掘（南から）

SD5202　完掘（北東から）



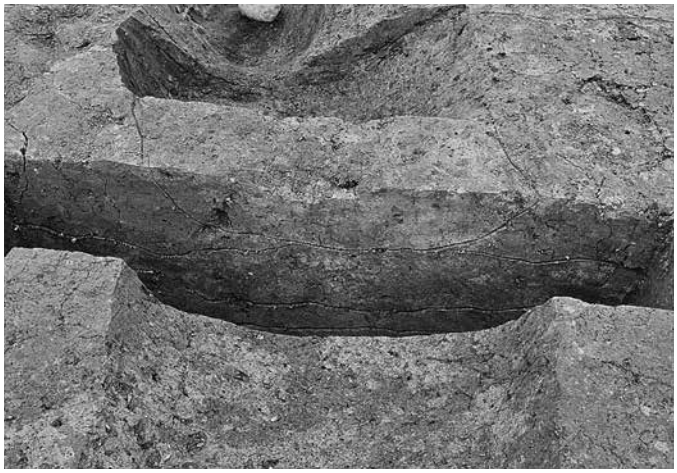
SD5202（左）・P5730（右）　断面（南東から）

SD5209　断面（南西から）

SD5219　完掘（南西から）

SD5215（左）・SD5216（右）　断面（南西から）

SD5215　完掘（南東から）

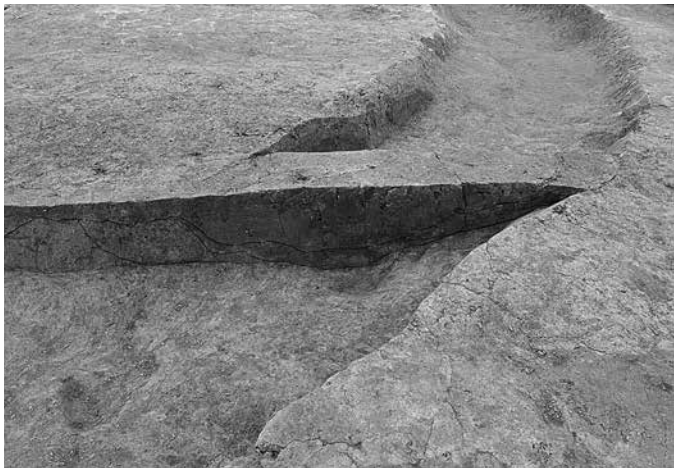


SD5252　断面（南から）

SD2354（左）・SD5259（右）　断面（北西から）

SD2354・SD5231　完掘（西から）

SD2354　断面（北から）



SD5231　断面（北から）

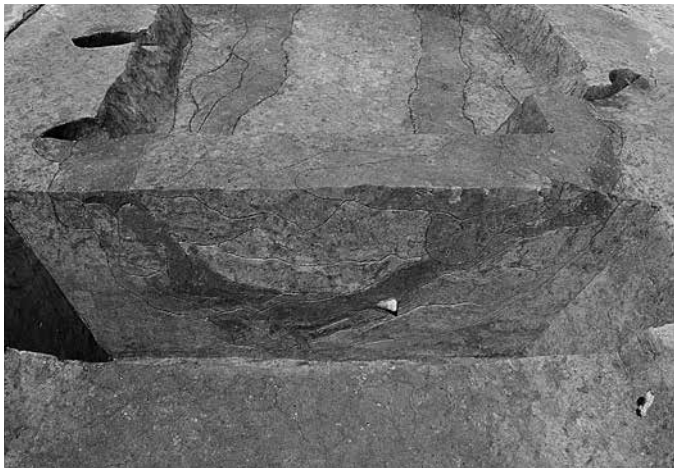
SD5107　断面（a-a'）（南から）

SD5132　完掘（南東から）

SD5132　完掘（南東から）

SD5132　断面（c-c'）（南東から）

SD5132　遺物出土状況（南から）



SD5132　断面（d-d'）（南東から）

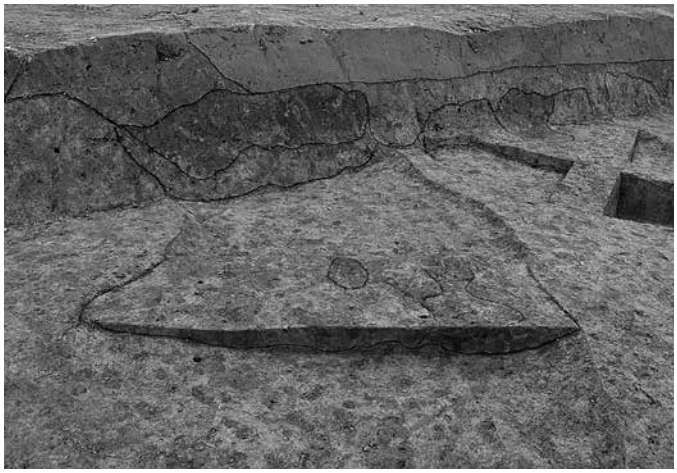
SD5132　断面（e-e'）（北西から）

SD5132　断面（f-f'）（南西から）

SD5132　断面（g-g'）（南西から）

SD5107　断面（北東から）

SD5370　断面（h-h'）（西から）



SD5411　断面（東から）

SD5286　断面（南西から）

K区・J区　完掘（東から）

K区　完掘（南東から）

SK5670　断面（北西から）

SK5671　断面（北東から）

SD5677　断面（南から）

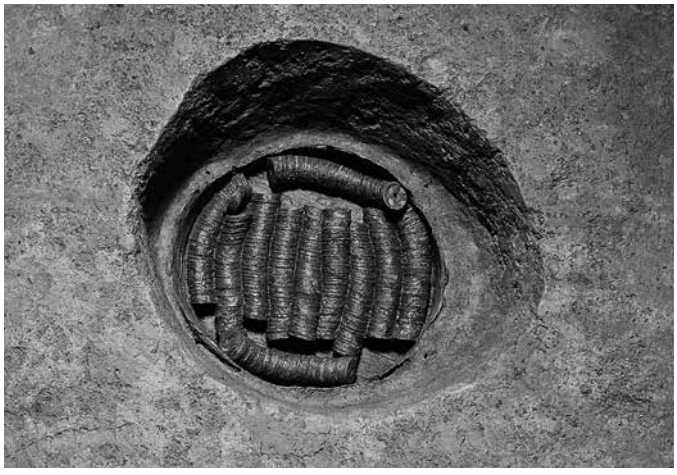
SD5677　遺物出土状況（北から）

SD5675　断面（南西から）

SD5678　断面（南から）

P5673　断面（北東から）

P5673　一括出土銭出土状況（南西から）



P5673　一括出土銭（4 段目）出土状況（南西から）

P5673　曲物（387）出土状況（北東から）

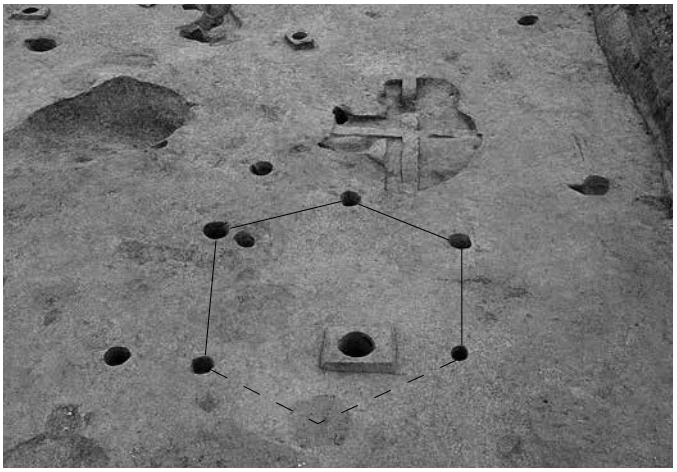
SI5794　断面（東から）

SI5794　断面（南から）

SI5794-P5795　断面（南から）

SI5794　遺物出土状況（南から）

ピット　完掘 6・7（南東から）



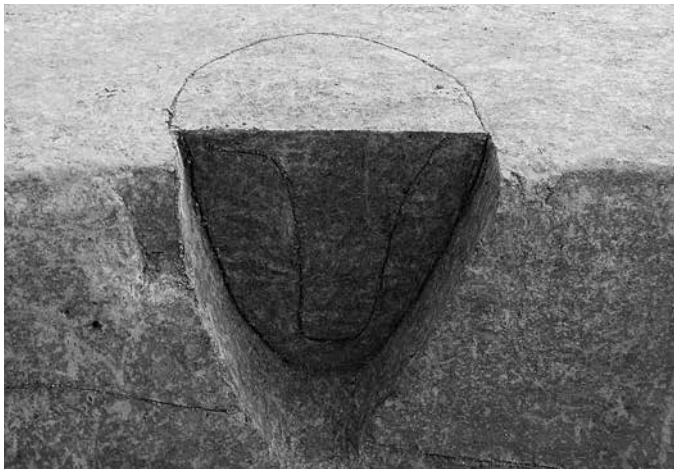
SB60　完掘（南東から）

SB60-P5576　断面（南西から）

SB61-P5569　断面（北から）

SB61-P5584　断面（南東から）

P5570　断面（南から）



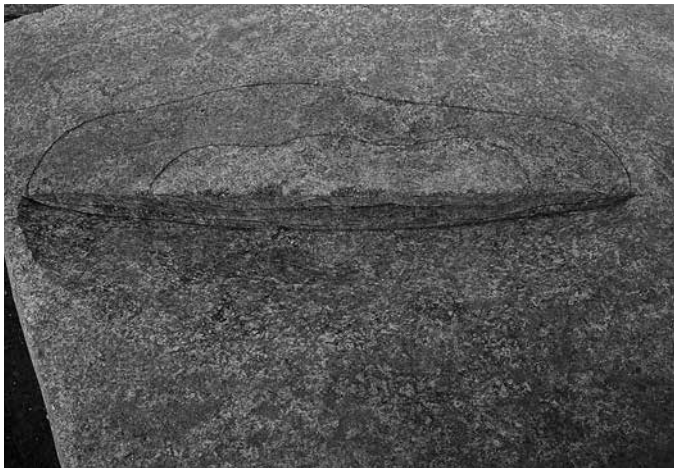
P5526　断面（11H　南西から）

P5526　完掘（南西から）

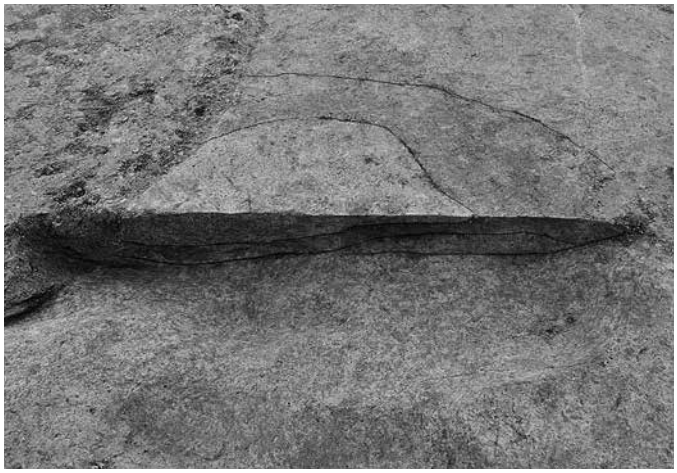
SK5743　断面（南西から）

SK5743　土器（564）出土状況（東から）

SK5562　断面（南西から）



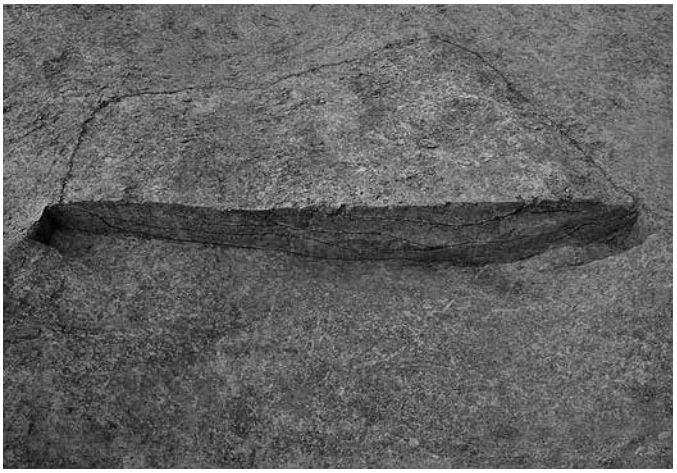
SK5751　断面（南東から）



SK5761　断面（南東から）

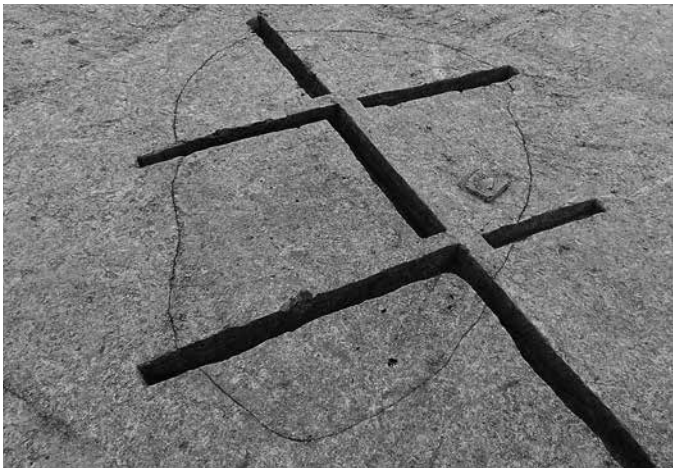
SK5762　断面（南東から）

SK5771　完掘（南西から）



SK5789　断面（南東から）

SR2444-3a 層　完掘（南西から）



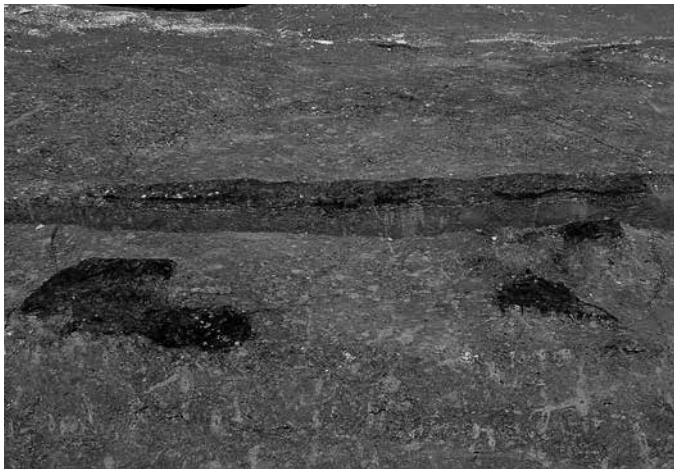
SC5504　検出状況（南西から）

SC5510　断面（南東から）

SC5514　検出状況（南西から）

SR2444-3h 層　遺構検出状況（南から）

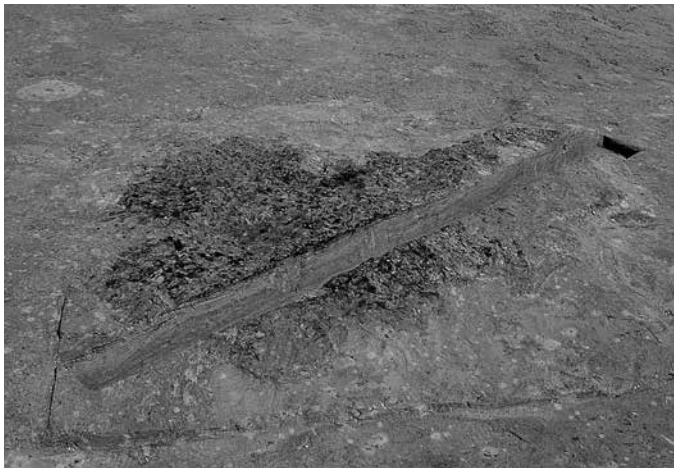
SR2444-3h 層　炭化物集中範囲検出状況（南東から）



SC5521　断面（南西から）

SC5522（右）・SC5523　検出状況（南西から）

SC5530　検出状況（南東から）



SC5531　検出状況（南西から）

SC5533（奥）・SC5534　検出状況（北東から）

SC5541　断面（北東から）

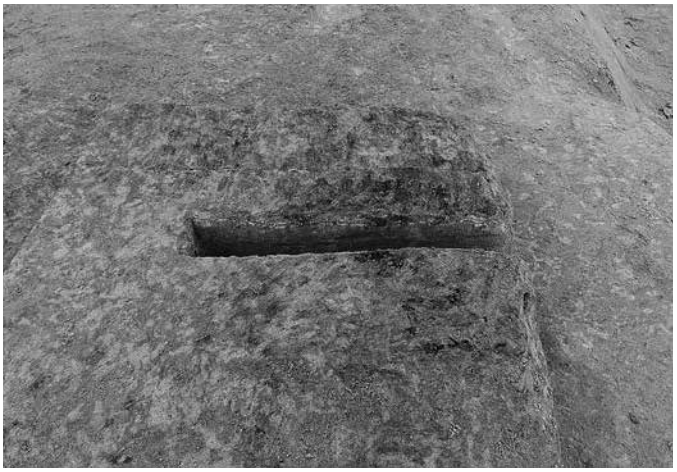
SC5535　検出状況（南東から）

SC5543　検出状況（南から）

SC5536　断面（北西から）

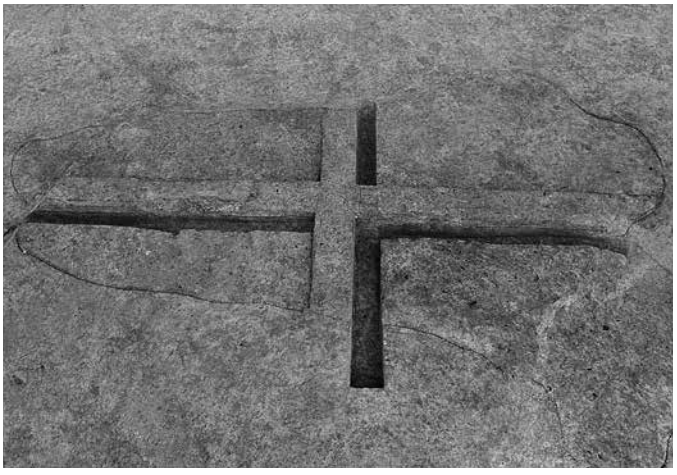
SC5537　検出状況（南西から）

SR2444　作業風景（北から）



SC5555　断面（南西から）

SC5556　検出状況（南東から）

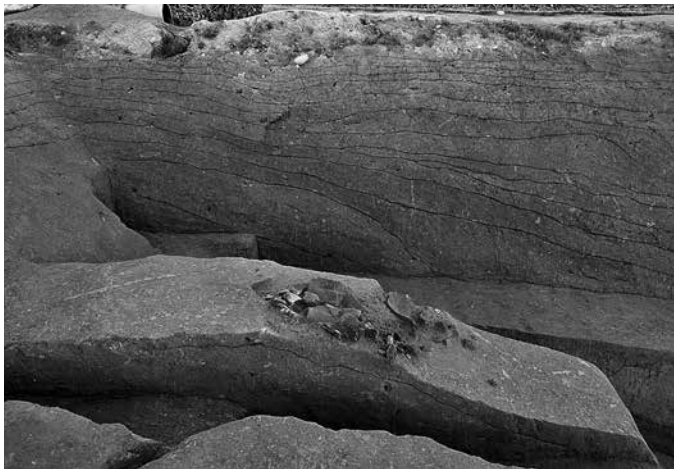


SC5770　断面（南から）

SR2444-3a 層　土器（545）出土状況（西から）

SR2444-3a 層　土器（546）出土状況（東から）

SR2444-3h 層　土器（551）出土状況（北西から）



SR2444-6a 層　土器（555）出土状況（南西から）

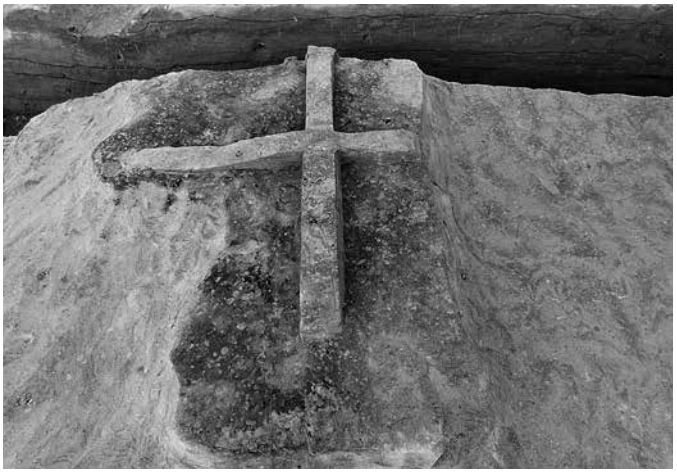
SR2444-7b 層　完掘（南西から）

SR2444-7b 層　流木出土状況（北東から）

SC5544　検出状況（南西から）

SC5551　検出状況（南西から）

SC5550　検出状況（南西から）



SC5552　検出状況（南東から）

SR2444-12d 層　遺構検出状況（南西から）

SC5553　検出状況（南東から）

SC5554　断面（南東から）

SR2444-7b 層　完掘（南から）

SR2444-12a 層　土器（557）出土状況（南西から）

SR2444-12a 層　土器（557）出土状況（南西から）

SR2444　流木出土状況（南西から）

SR2444　断面（a-a'）（南西から）

SR2444　断面（a-a'）（南西から）

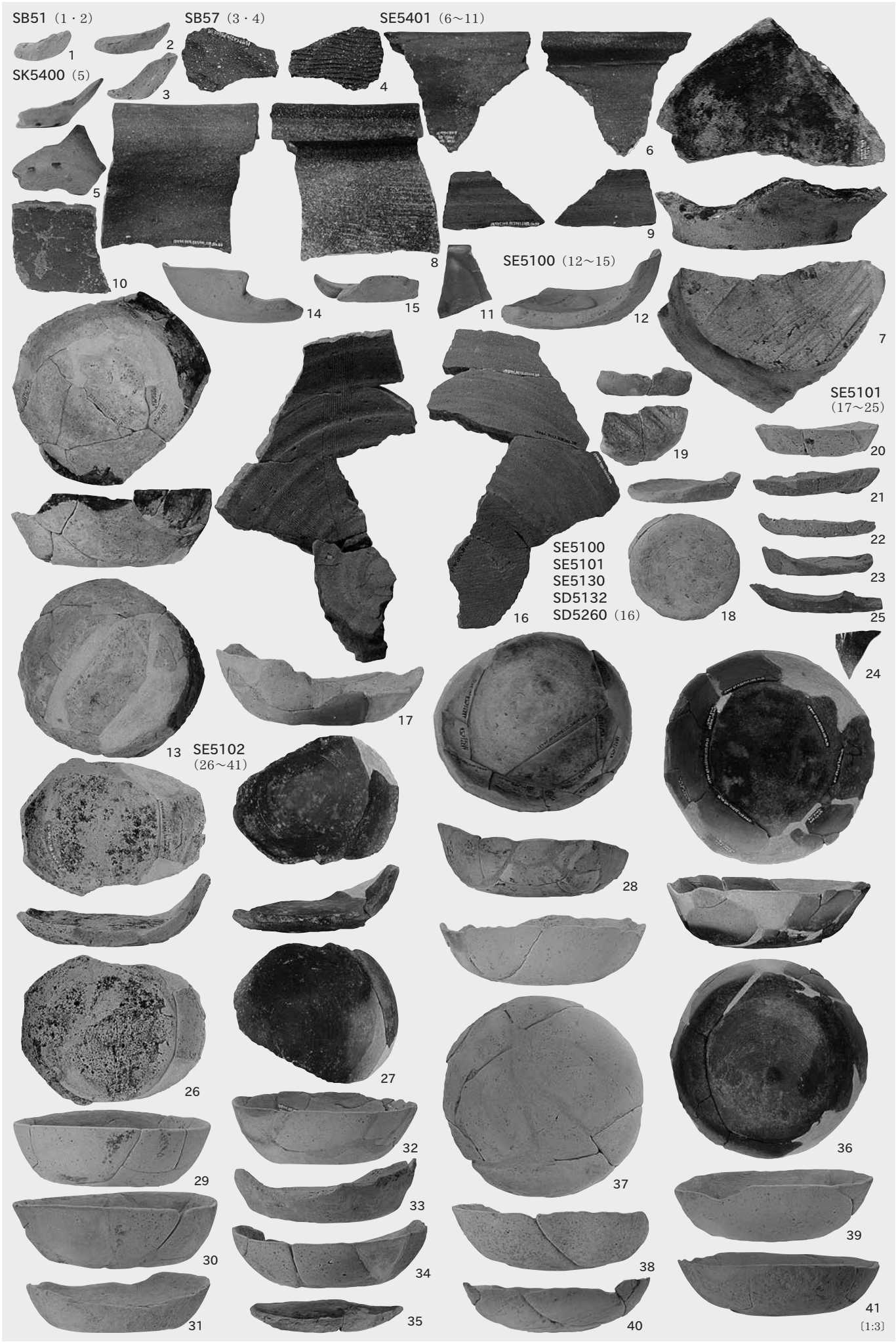
SR2444　断面（b-b'）（南西から）

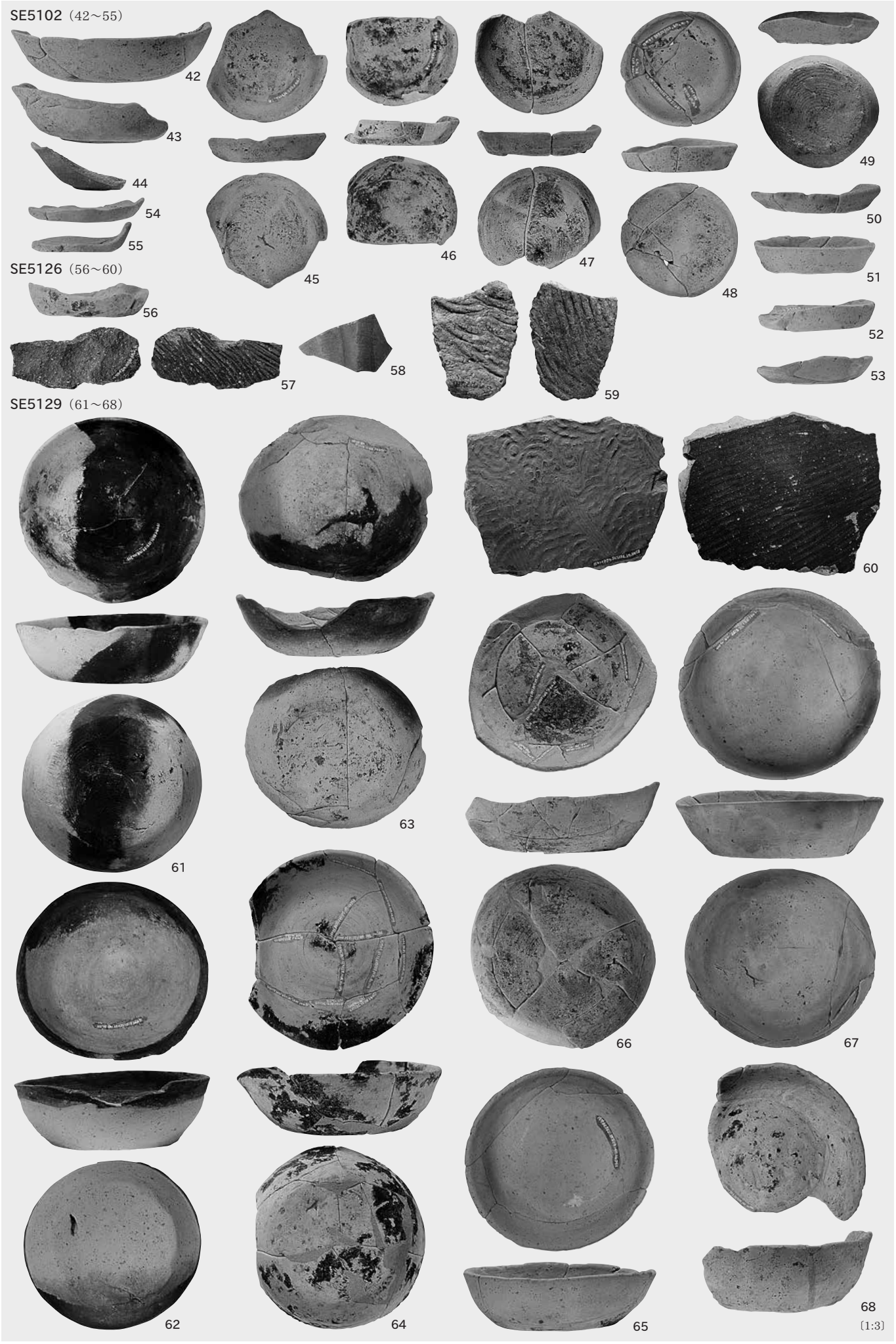
SR2444　断面（c-c'）（南西から）

SR2444　断面（d-d'）（南西から）

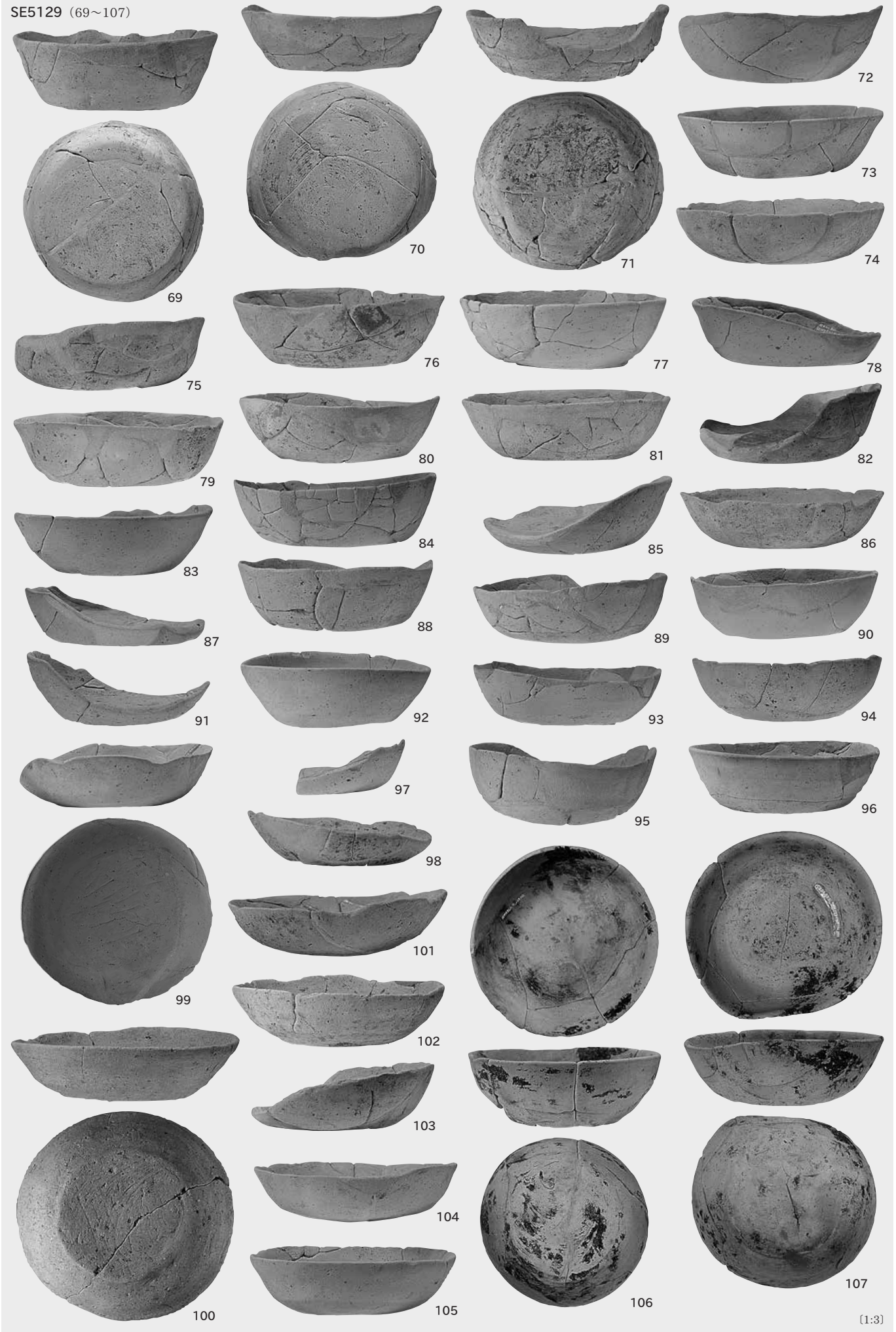
SR2444　北壁面　断面（南東から）

SR2444　南西壁面　断面（北東から）

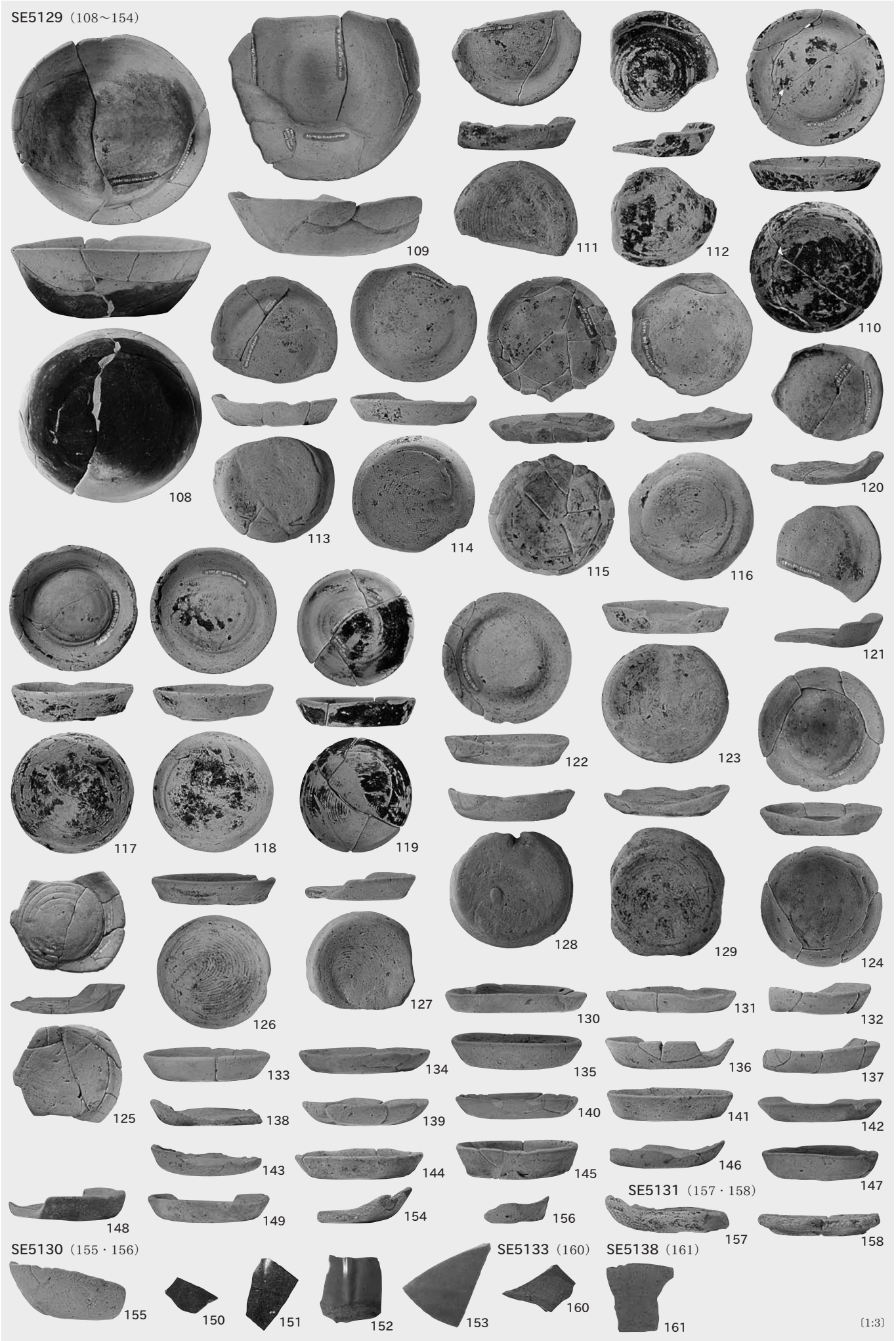

SB51（1・2）
SB57（3・4）
SE5401（6～11）
SK5400（5）
SE5100（12～15）
SE5101
（17～25）
SE5100
SE5101
SE5130
SD5132
SD5260（16）
SE5102
（26～41）
〔1:3〕

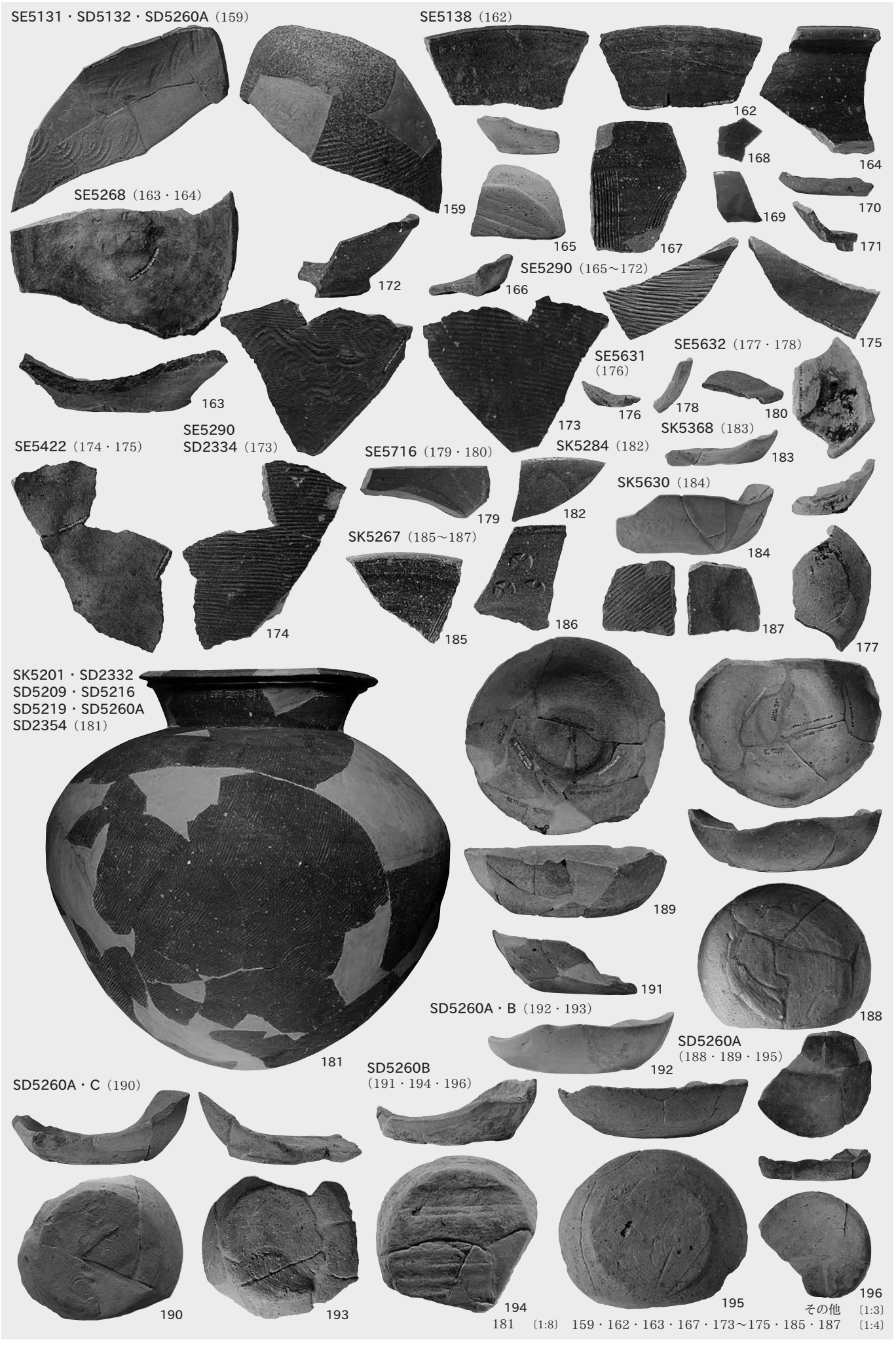

SE5102（42～55）
42
43
44
54
55
45
46
47
48
49
50
51
52
53
SE5126（56～60）
56
57
58
59
SE5129（61～68）
60
61
63
66
67
62
64
65
68
〔1:3〕

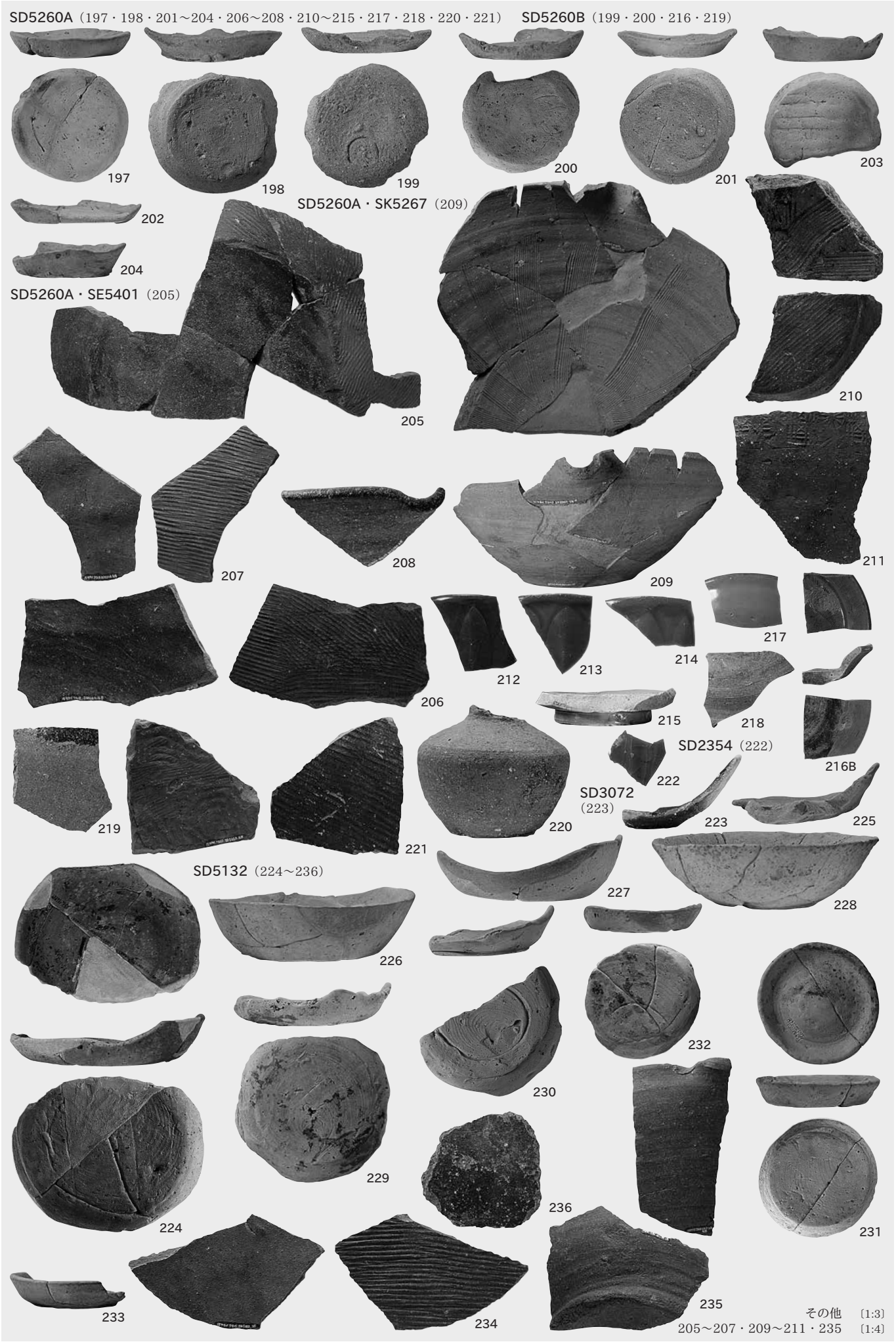
SE5129（69～107）

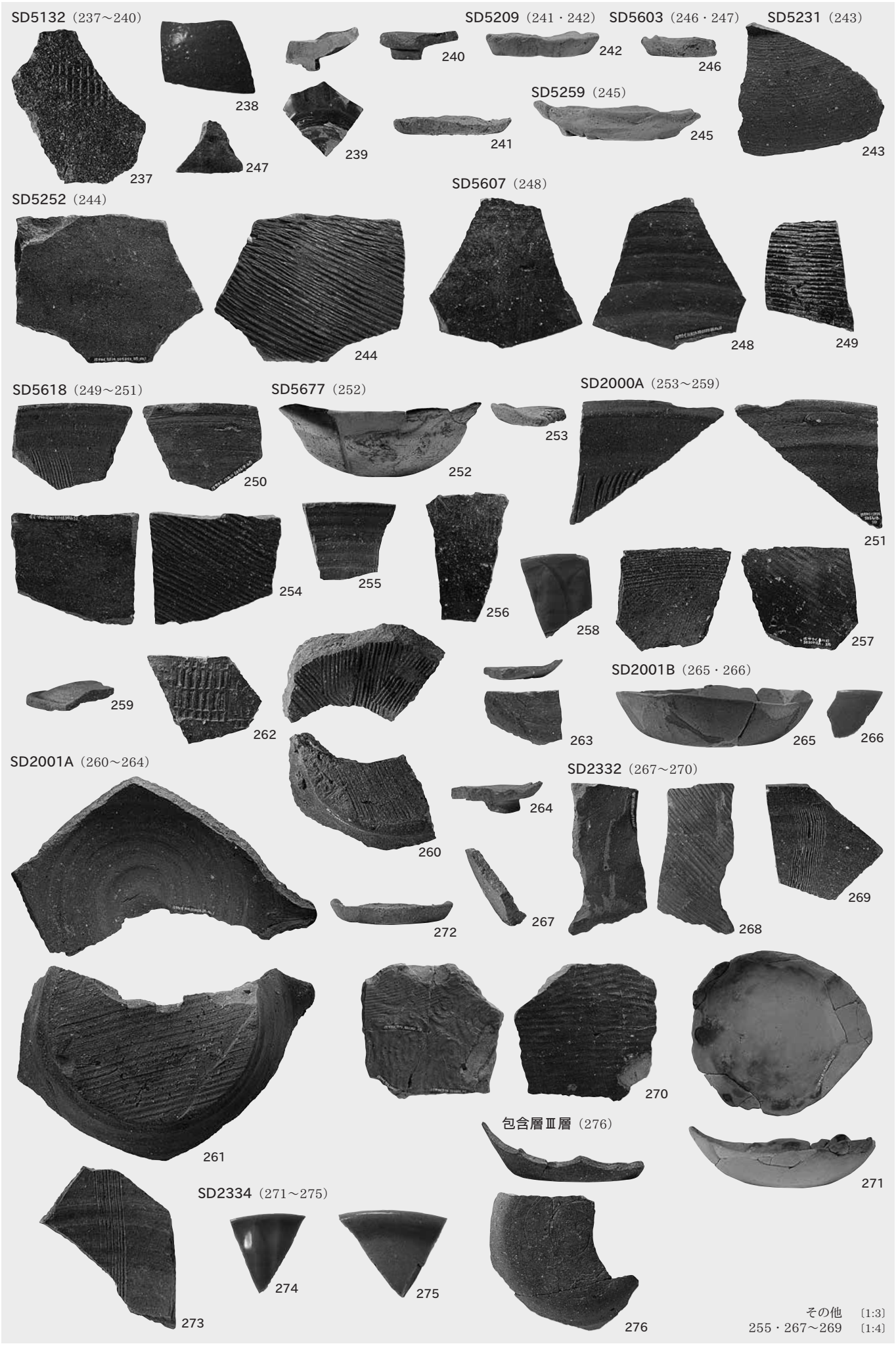


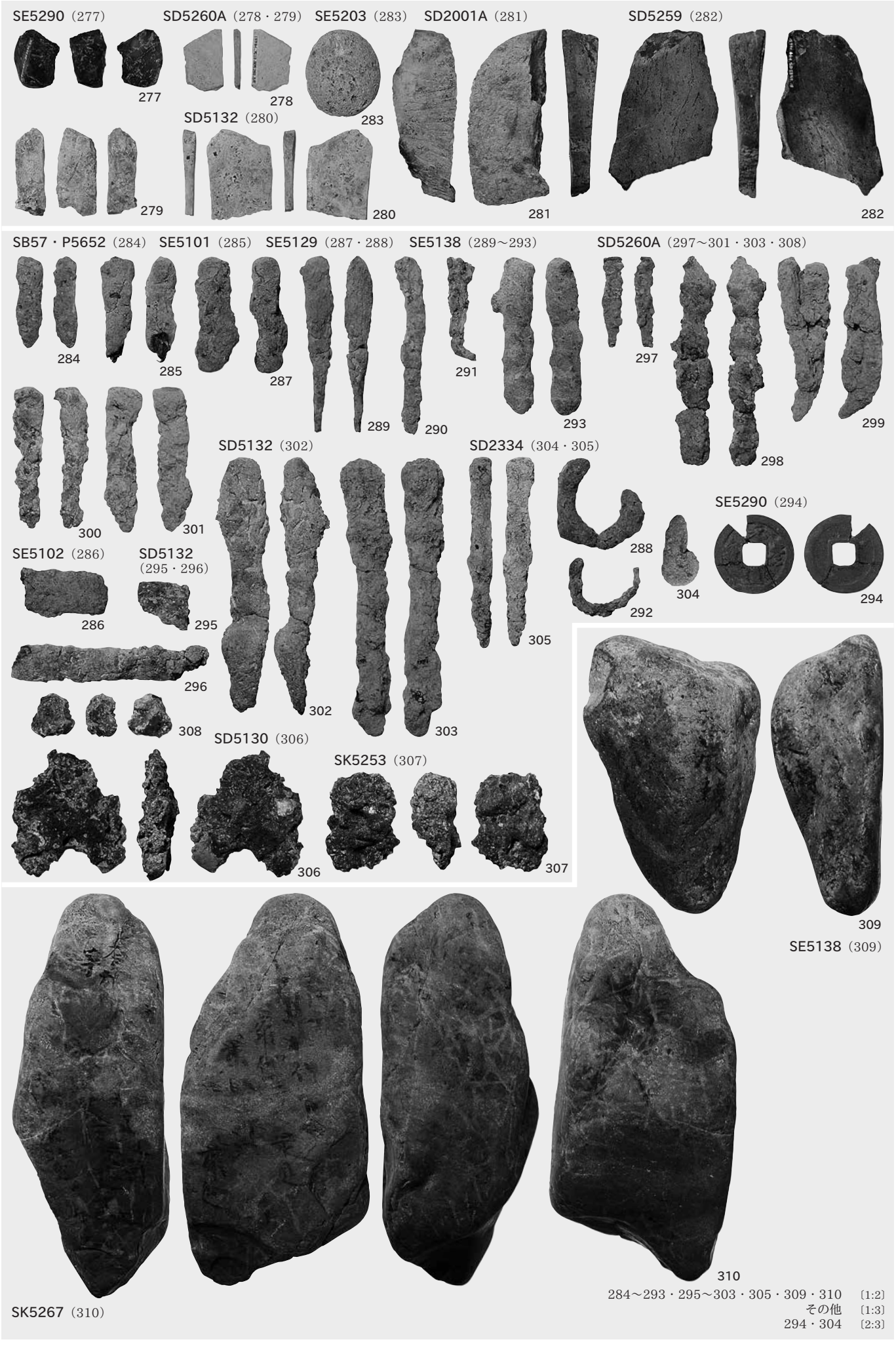
〔1:3〕


SE5129（108～154）
108
109
110
111
112
113
114
115
116
117
118
119
120
121
122
123
124
125
126
127
128
129
130
131
132
133
134
135
136
137
138
139
140
141
142
143
144
145
146
147
148
149
154
156
157
158
SE5131（157・158）
SE5130（155・156）
155
150
151
152
153
SE5133（160）
160
SE5138（161）
161
〔1:3〕


SE5131・SD5132・SD5260A（159）
159
SE5268（163・164）
163
SE5138（162）
162
164
168
165
167
169
170
171
SE5290（165～172）
172
166
SE5290
SD2334（173）
173
SE5631
（176）
176
SE5632（177・178）
178
180
175
SK5368（183）
183
SE5422（174・175）
174
SE5716（179・180）
179
SK5284（182）
182
SK5630（184）
184
SK5267（185～187）
185
186
187
177
SK5201・SD2332
SD5209・SD5216
SD5219・SD5260A
SD2354（181）
181
189
191
SD5260A・B（192・193）
192
188
SD5260A
（188・189・195）
SD5260A・C（190）
SD5260B
（191・194・196）
190
193
194
195
196
その他　〔1:3〕
181　〔1:8〕　159・162・163・167・173～175・185・187　〔1:4〕

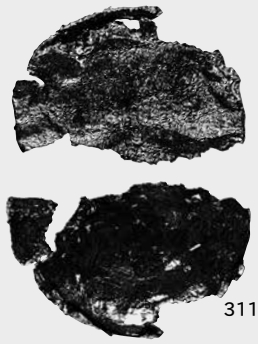

SD5260A（197・198・201～204・206～208・210～215・217・218・220・221）
SD5260B（199・200・216・219）
197
198
199
200
201
203
202
204
SD5260A・SK5267（209）
SD5260A・SE5401（205）
205
210
207
208
209
211
206
212
213
214
217
215
218
216B
SD2354（222）
222
SD3072
（223）
223
225
219
220
221
227
228
SD5132（224～236）
226
232
230
229
224
236
231
233
234
235
その他　〔1:3〕
205～207・209～211・235　〔1:4〕


SD5132（237～240）
237
238
239
240
247
SD5209（241・242）
241
242
SD5603（246・247）
246
SD5259（245）
245
SD5231（243）
243
SD5252（244）
244
SD5607（248）
248
249
SD5618（249～251）
250
SD5677（252）
252
253
SD2000A（253～259）
251
254
255
256
258
257
259
262
263
SD2001B（265・266）
265
266
SD2001A（260～264）
260
264
267
272
SD2332（267～270）
268
269
261
270
包含層Ⅲ層（276）
271
SD2334（271～275）
273
274
275
276
その他　〔1:3〕
255・267～269　〔1:4〕



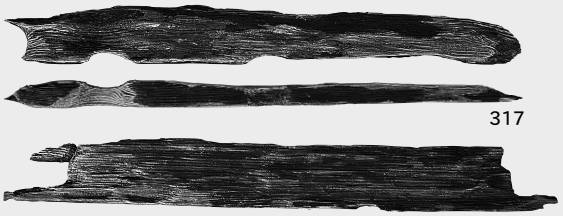
284～293・295～303・305・309・310　〔1:2〕
その他　〔1:3〕
294・304　〔2:3〕

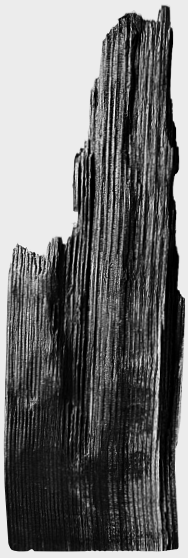
SB52・P5478（311）　SE5101（312）


311

312

SE5126（313～318）　SE5290（319～342）


317 318


313

314

315

316

327

328

319

320

321

322

323

324

325

326

330

331

332

329

333

334

335

336

337

338

339

340

341

342

311・312　〔1:3〕
313・314・327　〔1:4〕
その他　〔1:8〕

SE5290（343～351）

343

344

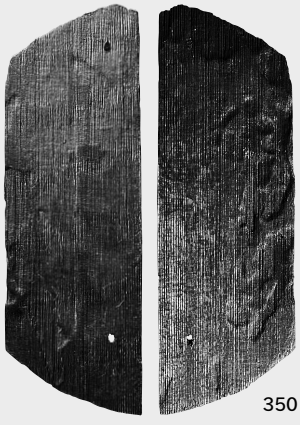
345

346

347

349

348


350

351

SE5401（353～355）

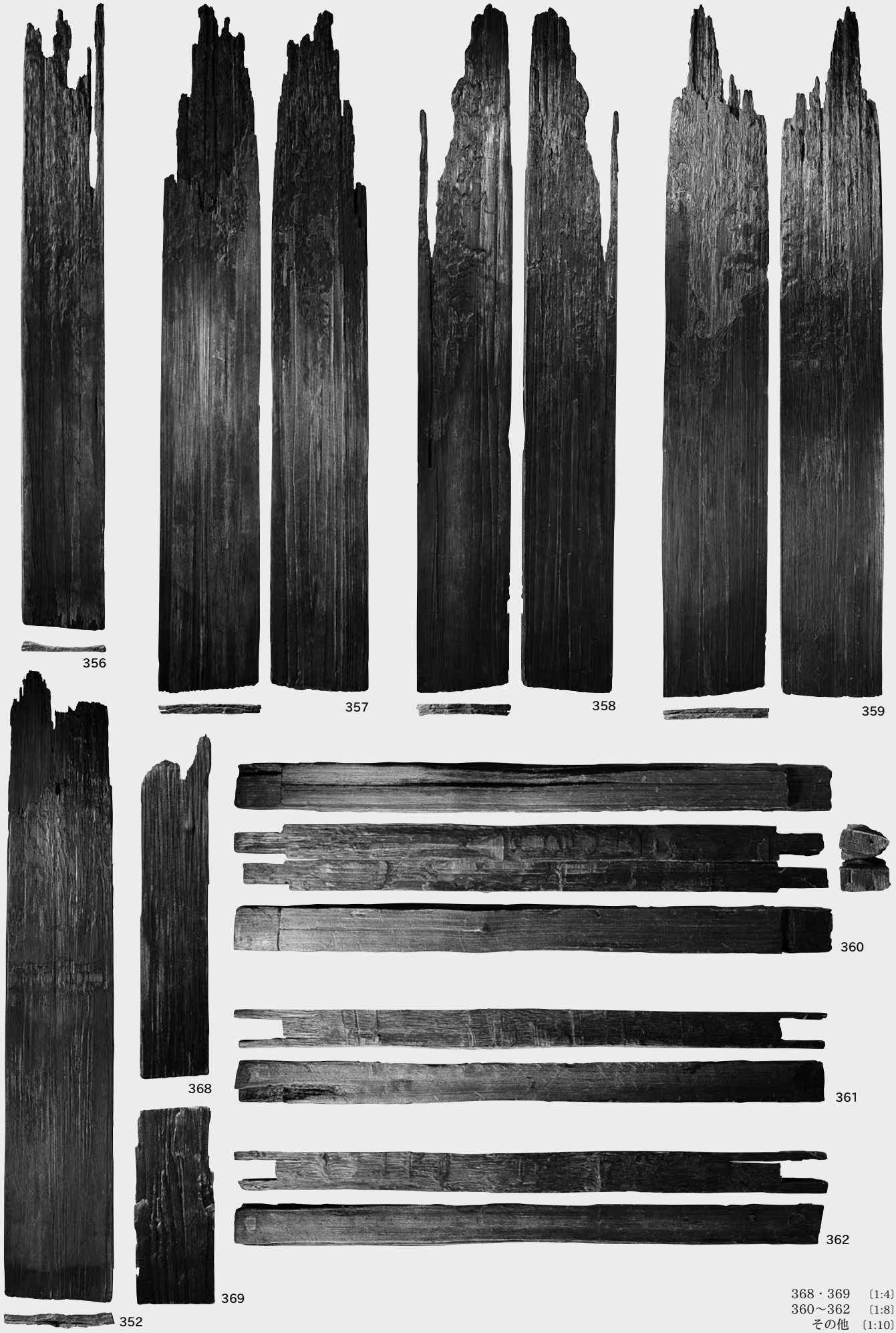
353

354

355

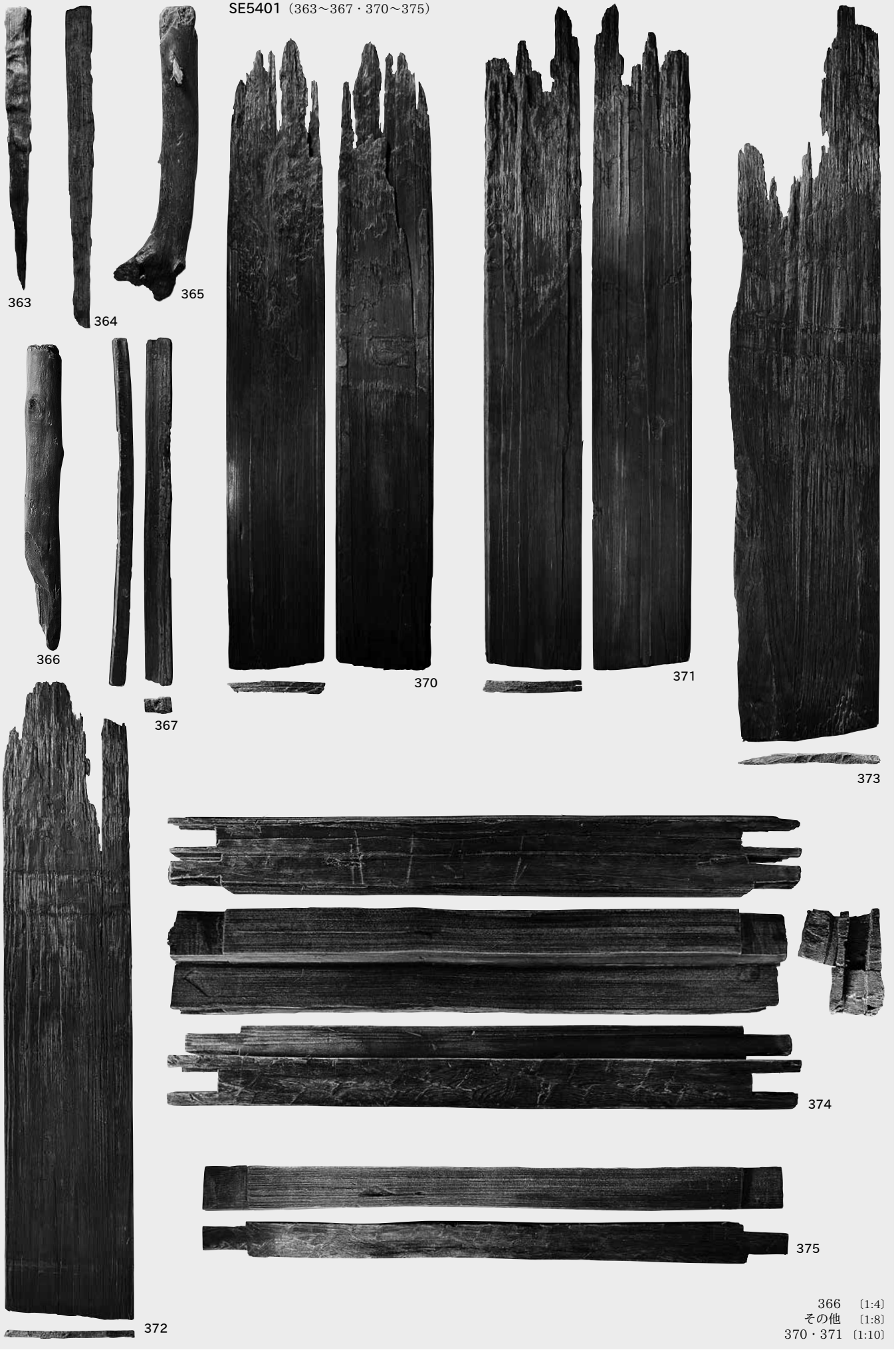
その他　〔1:8〕
350・351　〔1:4〕
353～355　〔1:10〕

SE5401（352・356～362・368・369）



368・369　〔1:4〕
360～362　〔1:8〕
その他　〔1:10〕

SE5401（363～367・370～375）



366　〔1:4〕
その他　〔1:8〕
370・371　〔1:10〕

SE5401（376～384）

376

377

378

379

380

381

382

383

384

SR2444（385）

385

382～385　〔1:8〕
その他　〔1:10〕

SE5401（386）

386

P5673（387～413）

387

388　389

390　391

392　393

394　395

396　397

398　399　400　401

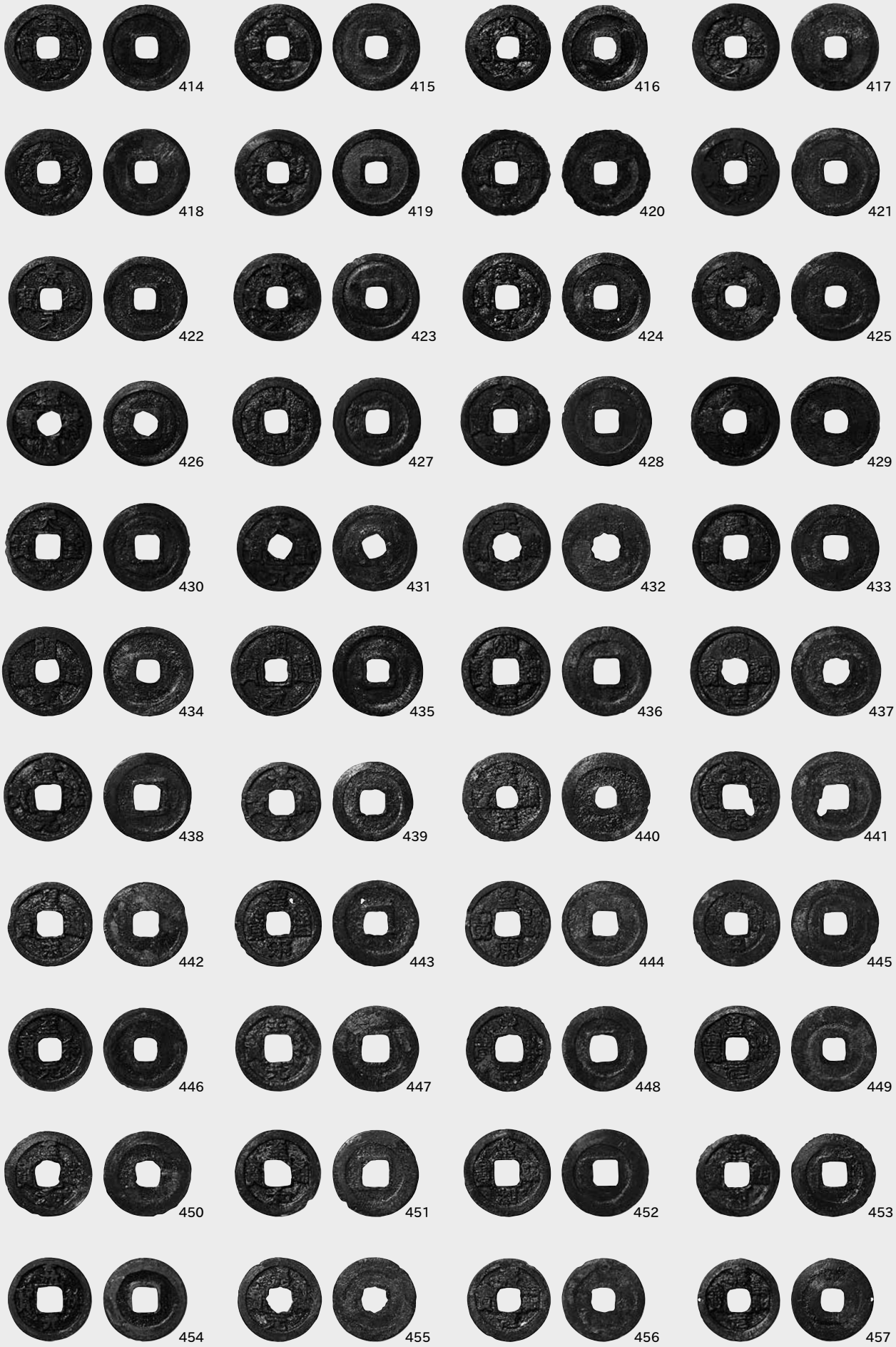
402　403　404　405

406　407　408　409

410　411　412　413

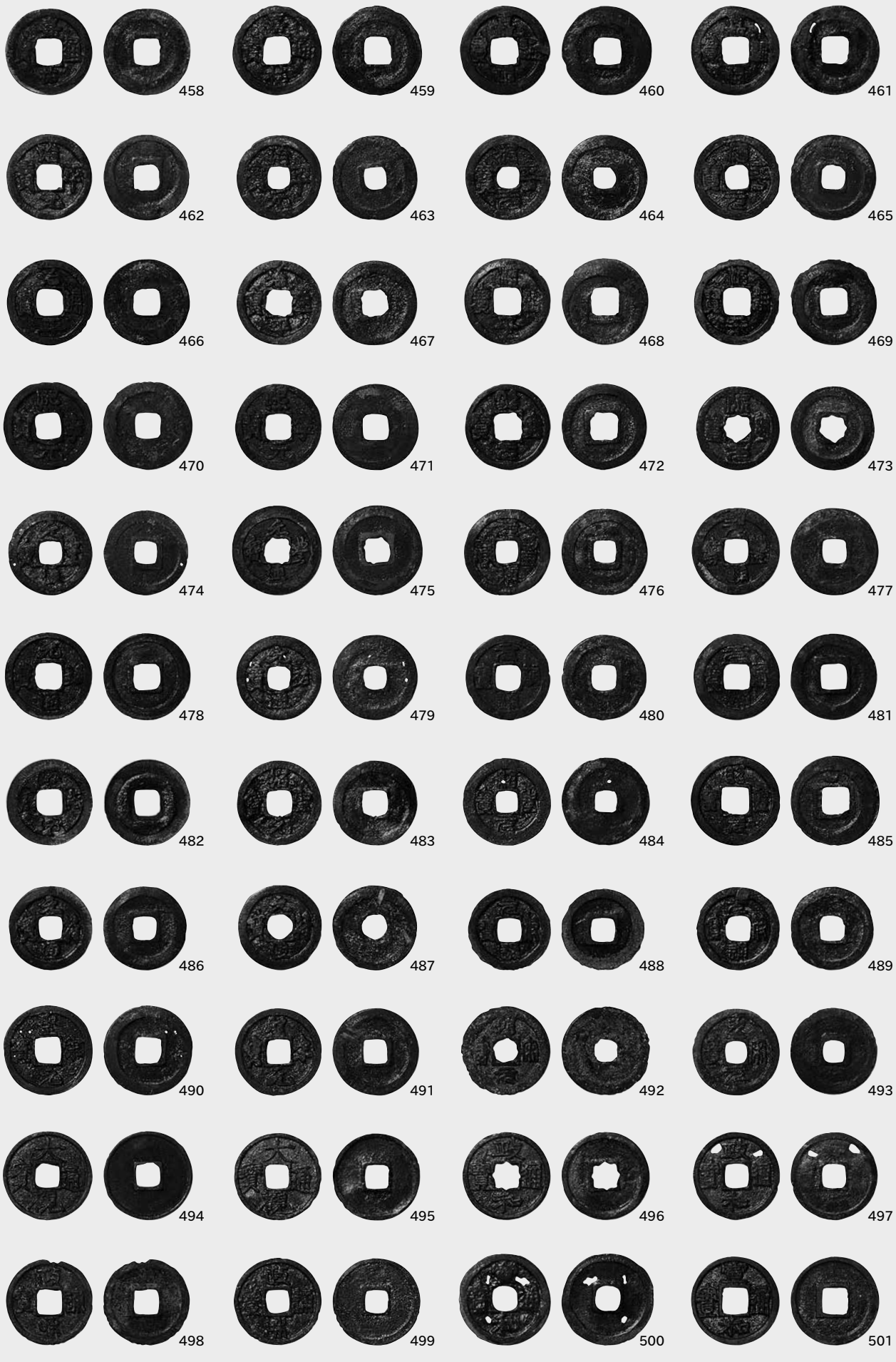
387　〔1:3〕
386　〔1:8〕
その他　〔2:3〕

P5673（414～457）



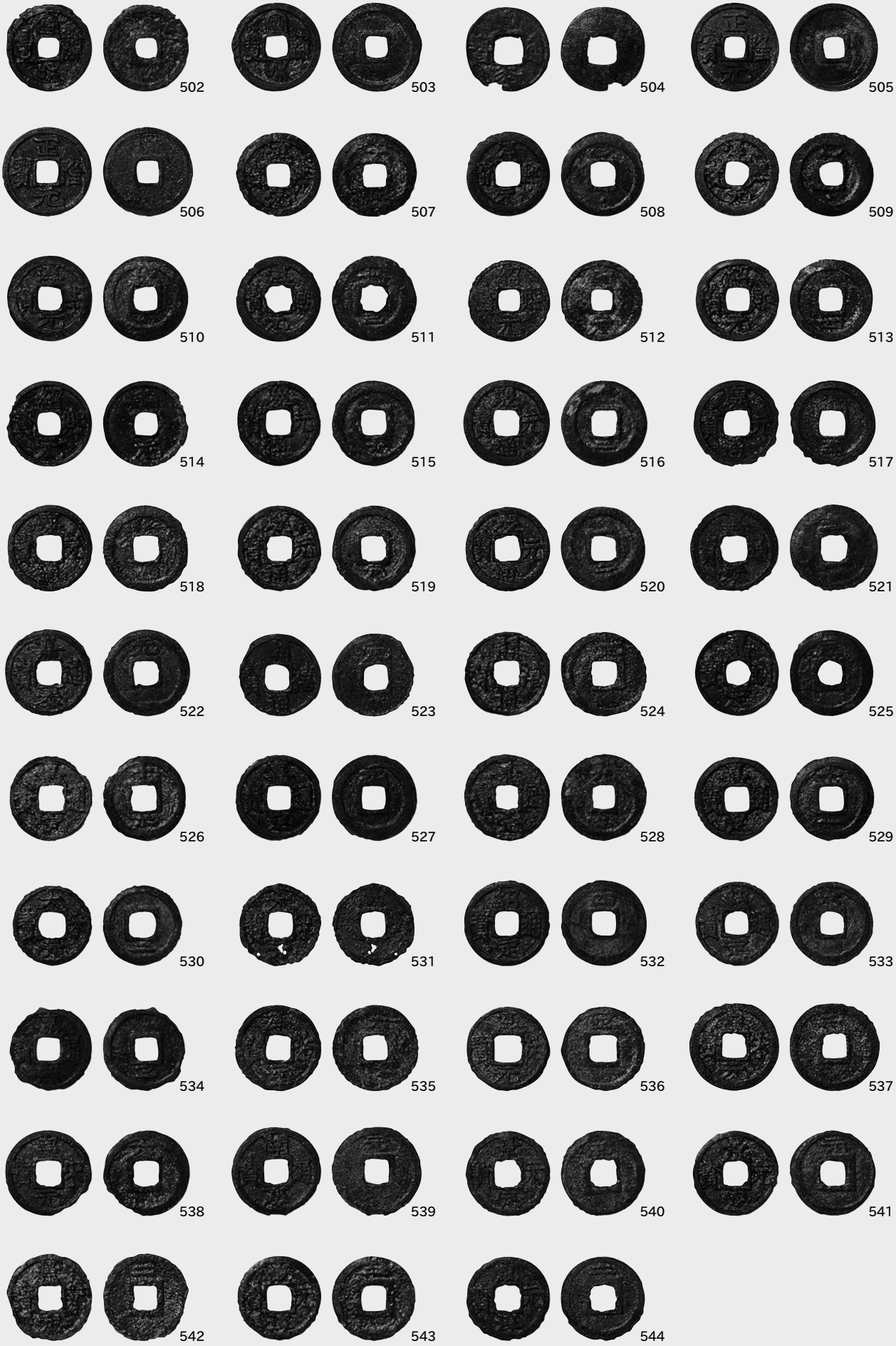
〔2:3〕

P5673（458～501）

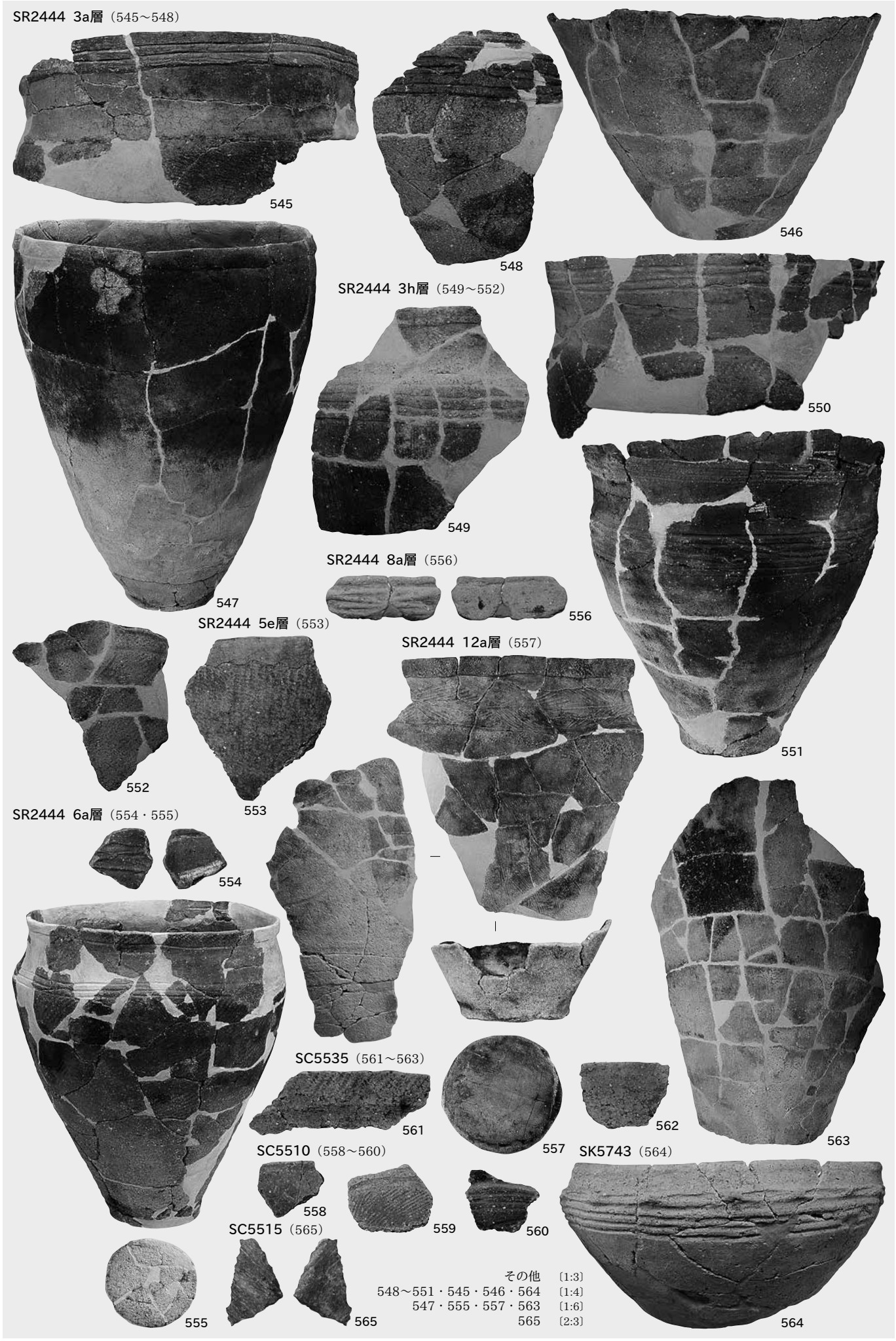


〔2:3〕

P5673（502～544）



〔2:3〕


SR2444 3a層（545～548）
545
548
546
SR2444 3h層（549～552）
550
549
547
SR2444 8a層（556）
556
SR2444 5e層（553）
SR2444 12a層（557）
551
552
553
SR2444 6a層（554・555）
554
563
SC5535（561～563）
561
562
557
SC5510（558～560）
SK5743（564）
558
559
560
SC5515（565）
555
565
564
その他　[1:3]
548～551・545・546・564　[1:4]
547・555・557・563　[1:6]
565　[2:3]

報 告 書 抄 録

ふりがな	さかいづかいせき　さん
書　　名	境塚遺跡Ⅲ
副 書 名	一般国道 49 号阿賀野バイパス関係発掘調査報告書
巻　　次	XIV
シリーズ名	新潟県埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第 278 集
編著者名	飯坂盛泰・荒川隆史（以上、埋文事業団）、金内　元・村端和樹（以上、株式会社ノガミ）、高橋　敦・田中義文・金井慎司（以上、パリノ・サーヴェイ株式会社）、吉川昌伸（古代の森研究舎）、木村勝彦・廣野友哉（以上、福島大学）、佐野雅規（早稲田大学）、李　貞・中塚　武（以上、総合地球環境学研究所）
編集機関	公益財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
所 在 地	〒 956－0845　新潟県新潟市秋葉区金津 93 番地 1　　TEL　0250（25）3981
発行年月日	2018（平成 30）年 3 月 30 日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所 在 地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
さかいづかいせき 境塚遺跡	にいがたけんあがのし 新潟県阿賀野市 つきざきあざむいかのさかい 月崎字六日野境 70 番地 1 ほか	15223	401	37°49′48″ ～ 37°49′42″	139°12′29″ ～ 139°12′35″	20150427 ～ 20151126	延べ 13,363㎡ （上層 5,714㎡ 下層 7,649㎡）	一般国道49号 阿賀野バイパス建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
境塚遺跡	集落	縄文時代晩期後葉	竪穴建物 1 棟、掘立柱建物 2 棟、土坑 9 基、炭化物集中範囲 61 か所、ピット 65 基	縄文土器・石器	
	遺物包含地	古墳時代前期	溝 1 条	土師器	
	遺物包含地	平安時代 （9 世紀前葉～中葉）	土坑 1 基	土師器・須恵器	
	集落	鎌倉・室町時代 （13 世紀後半～14 世紀前半）	掘立柱建物 12 棟、柵 1、方形竪穴遺構 1 基、井戸 23 基、土坑 35 基、方形周溝状遺構 1 基、溝 28 条、道 2 条、ピット 212 基	土師質土器、珠洲焼、瓷器系陶器、瀬戸・美濃焼、青白磁、青磁、白磁、石製品、多字一石経、金属製品、一括出土銭、木製品	宗教施設、曲物容器から 2,907 枚の一括出土銭

要　　約

阿賀野川右岸の標高約 7.5m の自然堤防上に所在し、現況は水田であった。調査の結果、縄文時代晩期、古墳時代前期、平安時代、鎌倉・室町時代の遺構・遺物を検出した。縄文時代晩期では、古阿賀野川と推定される河道の岸辺で小規模な生活活動が営まれていたことが明らかになった。鎌倉・室町時代では、道の西側で大型掘立柱建物、方形周溝状遺構、井戸を検出した。井戸からは大量の土師質土器皿・小皿が出土した。方形周溝状遺構は辻堂のような宗教施設と考えられる。また、旧河道を挟んだ対岸で検出したピットから 2,907 枚の渡来銭を曲物に納めた一括出土銭が見つかった。

新潟県埋蔵文化財調査報告書　第 278 集
一般国道 49 号阿賀野バイパス関係発掘調査報告書XIV

境 塚 遺 跡 Ⅲ

2018(平成30)年 3 月 29 日印刷
2018(平成30)年 3 月 30 日発行

編集・発行　新潟県教育委員会
〒 950－8570　新潟市中央区新光町 4 番地 1
電話　025（285）5511

公益財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団
〒 956－0845　新潟市秋葉区金津 93 番地 1
電話　0250（25）3981
FAX　0250（25）3986

印刷・製本　株式会社新潟印刷
〒 950－0134　新潟市江南区曙町 3 丁目 5 番 5 号
電話　025（383）3900

新潟県埋蔵文化財調査報告書　第278集『境塚遺跡Ⅲ』 正誤表追加　　2018年12月追加

頁	位置	誤	正
2	第２図キャプション	平成17年「新潟」	平成９年「新潟」

新潟県埋蔵文化財調査報告書 第278集『境塚遺跡Ⅲ』　正誤表

ページ	行など	誤	正
9	32行目	人口の河川である。	人工の河川である。
62	第8表中	建炎通宝	建炎通寶
109	30行目	新潟歴史博物館編	新潟県立歴史博物館編
109	40行目	「笹神村権兵衛沢窯址の調査」『水原郷』新潟県教育委員会	「越後華報寺中世墓址群の調査　『史苑』20-2
109	41行目	「越後華報寺中世墓址群の調査」『史苑』20-2	「笹神村権兵衛沢窯址の調査」『水原郷』 新潟県教育委員会
110	14行目	前田　敏	前嶋　敏
110	15行目	新潟歴史博物館編	新潟県立歴史博物館